2018年度

経済学部

履修要綱
講義ガイド【シラバス】

法政大学

２０１８（平成３０）年度　学 年 暦　（市ヶ谷・多摩・小金井地区）

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
学年開始	4月1日(日)		
入学式	4月3日(火)		
春学期授業期間	4月7日(土)～7月20日(金)	4月7日(土)～7月23日(月)	4月7日(土)～7月20日(金)
春学期補講日	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月 7日(土)，7月14日(土)	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月 7日(土)，7月14日(土) 補講日：7月21日 (土)	授業期間内補講日： 5月12日(土)，5月19日(土)， 5月26日(土)，6月30日(土)， 7月 7日(土)，7月14日(土)
	(授業期間内補講日は，原則として，市ヶ谷地区については5時限目以降，多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)		
春学期試験期間	7月21日(土)～7月31日(火)	7月24日(火)～7月31日(火)	7月21日(土)～7月31日(火)
夏季休業期間	8月1日(水)～9月20日(木)		
夏季集中特別授業期間	サマーセッション：8月1日(水)～8月7日(火) オータムセッション：9月14日(金)～9月20日(木)		
9月卒業学位記交付式 秋学期入学式	9月15日(土)		
秋学期授業期間（補講日含む）	9月21日(金)～12月24日(月) 1月8日(火)～1月21日(月)		
秋学期補講日	授業期間内補講日： 10月20日(土)，10月27日(土)， 11月10日(土) 補講日： 1月15日(火)，1月16日(水)	授業期間内補講日： 10月27日(土)， 11月10日(土) 補講日：10月19日(金)， 1月15日(火)～1月17日(木)	授業期間内補講日： 10月20日(土)，10月27日(土)， 11月10日(土) 補講日：1月15日(火)， 1月16日 (水)，1月19日(土)
	(授業期間内補講日は，原則として，市ヶ谷地区については5時限目以降，多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)		
冬季休業期間	12月25日(火)～1月7日(月)		
秋学期試験期間	1月22日(火)～2月2日(土)		
春季休業期間	2月3日(日)～3月31日(日)		
春季集中特別授業期間	スプリングセッション：3月9日(土)～3月22日(金)		
学位授与式	3月24日(日)		
学年終了	3月31日(日)		

〔市ヶ谷・多摩・小金井〕

- 4 月 10 日(火)創立記念日は 5 月 1 日(火)に振替
- 5 月 1 日(火)は創立記念日の振替により休講
- 5 月 2 日(水)はレクリエーションデーにより休講
- 7 月 16 日(月)海の日，9 月 24 日(月)秋分の日の振替休日，10 月 8 日(月)体育の日は授業実施
- 4 月 30 日(月)昭和の日の振替休日，5 月 3 日(木)憲法記念日，5 月 4 日(金)みどりの日，5 月 5 日(土)こどもの日，11 月 3 日(土)文化の日，11 月 23 日(金)勤労感謝の日，12 月 24 日(月)天皇誕生日の振替休日，1 月 14 日(月)成人の日は授業を実施しない
- 1 月 18 日(金)は大学入試センター試験準備により 3 時限以降を休講，1 月 19 日(土)は大学入試センター試験実施により休講（市ヶ谷のみ）
- 5 月 14 日(月)は多摩スポーツフェスティバルのため休講とし，7 月 23 日(月)に振替えて授業を実施（多摩のみ）
- 夏季及び春季集中特別授業期間中の 9 月 17 日(月)敬老の日，3 月 21 日(木)春分の日は，特別授業実施日とする。

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
春学期授業期間	15週6日	16週2日	15週6日
秋学期授業期間	15週4日		
春学期試験期間	1週4日	1週1日	1週4日
秋学期試験期間	1週5日		
夏季集中特別授業期間	2週0日		
春季集中特別授業期間	2週0日		
合　計	38週5日		

※左表の授業期間は
ガイダンス期間・補講期間を含む

2018年度
経済学部履修要綱・講義概要【シラバス】

本誌は前半に履修要綱、後半に講義概要（シラバス）が掲載されています。
履修要綱のページ番号は「ー 1 ー」、講義概要のページ番号は「1」のように表記されています。

履修要綱

2018年度学年暦、履修案内（学科別）
経済学部生共通事項（履修科目登録、授業、試験、成績、進級・卒業関係、学籍・学費関係等。詳細は目次にて確認のこと）

講義概要【シラバス】

授業の概要と目的（何を学ぶか）、到達目標、授業の進め方と方法、授業計画、授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）、テキスト（教科書）、参考書、成績評価の方法と基準、学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき

2018年度

経済学部履修要綱

全体像の説明と道案内のガイド
―投資を積み重ねて大きな成果を―

経済学部長　　鈴木豊

経済学部では、**経済現象や経済問題を中心に現代社会を体系的にとらえ、社会に対して有益な政策提言ができる人材の養成**を目標にかかげています。そして、卒業するまでに身に着けるべき資質・能力と、それを達成するための具体的な教育課程や学習成果の評価のあり方を定めています。大部となる本書「履修要綱・講義ガイド【シラバス】」は、**その詳細な実施計画書**です。

ところで、経済学の仮定する人間像に「合理的」というのがあります。ここでは、文章をきちんと理解し、最適な意思決定を行うことができるということですが、最近の経済学は、「合理性の限界」も色々な形で分析に取り入れています。つまり、人間の合理性には限界があり、最適な意思決定を行うことができるとは必ずしも限らないのです。ここでは、こんな大部の抽象的な本は完全には理解しきれないということが当たります。

そこで、やはり、**全体像の説明**と**道案内のガイド**が有効だと思います。まず経済学科では、経済学の理論と実証に重点を置き、特に論理的思考力を重視します。また、現実経済の動きを幅広い観点から的確に把握するために、教養教育（総合教育科目）も重視します。加えて、経済を実証的に分析するために、情報処理教育（コンピュータや統計科目）も充実させています。次に、国際経済学科では、経済学に加えて英語教育が重視され、世界の中の日本で活躍するためのスキル＝グローバルスタンダードを学びます。そのために多様な国際経済の科目群が用意されています。最後に、現代ビジネス学科では、「企業と経済」の関わりを重視し、企業の経営をよりよく理解するための科目群（会計、経営、ファイナンス）が充実しています。

さて、ここで問題となってくるのが、「**大学の学び**」の特徴でもある、**自分で履修科目を選んで**4年間の学びの経路をデザインしていくということです。経済学部でも、必修科目、選択必修科目、選択科目と分類し、要件を設けてはいますが、結局のところは、皆さん自身がどのような問題意識とモチベーションで科目を履修していくかです。

その際、**大学の教育は自分への投資だ**という考えをぜひ持ってください。つまり、コストをかけて、重要な科目を順序立てて体系的に履修し、自分の能力（価値）を高めていくのです。こうした**投資の積み重ね**によって、人的資本（自分の能力）を高めることができ、就職・卒業時、ひいては将来において、大きな満足を得ることができるでしょう。コストをかけず楽に単位が取れる科目ばかり取っていても、自分の身になりませんから、のちに「もっと勉強しておけばよかった」ということになってしまいます。我々も**「積み上げ」の効果を意識したカリキュラム**を設計していますので、ぜひ皆さんもよく考え、自分を律して、最適な履修をしていってほしいと思います。

目　　次

2018年度　学年暦 ····· **巻頭**
全体像の説明と道案内のガイド　―投資を積み重ねて大きな成果を―
経済学部長 鈴木 豊
理念・目的・教育目標 ····· **巻頭**

履修案内　（自分の所属する学科の部分を読むこと）
※詳細は学科ごとの目次を参照すること

経済学科カリキュラム適用者履修案内

2016年度以降入学/2015年度以前入学
Ⅰ．教育課程および単位制度 ····· 3/ 29
Ⅱ．卒業所要単位 ····· 4/ 30
Ⅲ．卒業再試験規程 ····· 6/ 31
Ⅳ．進級規程 ····· 7/ 32
Ⅴ．科目履修基準 ····· 9/ 36
Ⅵ．経済学科カリキュラム ····· 11/ 40

国際経済学科カリキュラム適用者履修案内

2016年度以降入学/2015年度以前入学
Ⅰ．教育課程および単位制度 ····· 55/ 79
Ⅱ．卒業所要単位 ····· 56/ 80
Ⅲ．卒業再試験規程 ····· 58/ 81
Ⅳ．進級規程 ····· 59/ 82
Ⅴ．進級再試験規程 ····· なし/ 82
Ⅵ．科目履修基準 ····· 61/ 86
Ⅶ．国際経済学科カリキュラム ····· 63/ 90

現代ビジネス学科カリキュラム適用者履修案内

2016年度以降入学/2015年度以前入学
Ⅰ．教育課程および単位制度 ····· 105/127
Ⅱ．卒業所要単位 ····· 106/128
Ⅲ．卒業再試験規程 ····· 108/129
Ⅳ．進級規程 ····· 109/130
Ⅴ．科目履修基準 ····· 111/134
Ⅵ．現代ビジネス学科カリキュラム ····· 113/138

経済学部生共通事項　（学科に関係なく全員読むこと）

Ⅰ．各学科カリキュラム共通事項 …… 151
Ⅱ．履修科目登録 …… 161
Ⅲ．授業 …… 166
Ⅳ．試験 …… 173
　１．定期試験　２．授業内試験　３．追試験　４．再試験 …… 173
　５．リポート提出上の留意事項 …… 174
　６．受験にあたっての注意事項 …… 175
　７．試験時における不正行為者の処分 …… 176
Ⅴ．成績評価および成績発表 …… 177
Ⅵ．進級・卒業発表および転・編入 …… 180
Ⅶ．修業・在学年限と学籍・学費に関する手続き …… 181
　１．修業年限および在学年限　２．学籍に関する諸手続き …… 181
　３．学費 …… 185
　４．学生の懲戒について …… 186
Ⅷ．就学上の各種事務手続き …… 188
　１．経済学部事務室の取扱い業務 …… 188
　２．各種証明書の申請・発行 …… 189
　３．学生証の更新　４．その他関連する事務部局等 …… 190
Ⅸ．諸留学制度 …… 203
　１．経済学部スタディ・アブロード・プログラム …… 203
　２．法政大学派遣留学制度 …… 204
　３．認定海外留学制度 …… 205
　４．休学期間中に海外の大学で行った学修の単位認定について …… 206
　５．交換留学生受入れプログラム（ESOP）の受講 …… 207
　６．ERP（English Reinforcement Program／英語強化プログラム） …… 207
　７．多摩Ｇラウンジ …… 211
　８．グローバル教育センター設置科目について …… 212
　９．グローバル・オープン科目について …… 215
Ⅹ．課外講座案内 …… 219
　１．高度会計人育成センター …… 219
　２．公務人材育成センター …… 220
　３．エクステンション・カレッジ …… 221
Ⅺ．将来の進路 …… 222
　１．大学院進学志望者へ …… 222
　２．教職および資格課程　３．国家試験 …… 224
■　教員紹介 …… 225
■　2018年度 オフィス・アワー実施曜日・時間・場所などについて(専任教員) … 258
■　経済学部専任教員研究室一覧 …… 260
■　多摩キャンパス各施設案内図 …… 261
■　グリーン・ユニバーシティをめざして …… 267
■　授業時間割および各施設利用時間 …… 268

経済学部

理念・目的

経済学の使命は，経済の仕組みや法則を解明し，さらに，公平や自由などの価値観を重視しながら，効率や厚生を高める方策を探求することにある。明治維新以降，急速に近代化する日本が大きな経済変動を経験する中で，経済学が社会の根幹をなす学問であるとの認識のもと，経済学の教育・研究を通じて社会貢献することを目的に，本学経済学部は1920年に創設された。その創設以来，日本，および，世界経済は様々な経験をし，今日に至っているが，本学経済学部も又，時代の変化に応じて，教育・研究の両面において，社会に大きく貢献してきた我が国有数の長い歴史を誇る。

今日の経済では，技術進歩とグローバル化の進展とともに，多種多様な文化や歴史を背景に，経済活動も複雑化し，次々と新しい問題が生まれている。経済学においても又，それを分析するための手法や用具が逐次，開発されており，本学部設置の理念・目的の価値が，益々，高まっている。

本学部は，本学部設置の理念・目的を果たすべく，経済学の研究，および，それに関連する周辺領域の研究に貢献し，その研究成果を社会に還元していく。そして，教育面では，経済学を基礎から応用まで学ぶことで，現代社会を全体的，かつ批判的・創造的にとらえ，社会の発展に貢献する社会のリーダーを養成，輩出していく。

教育目標

■　本学部が養成する人材像は，次の通りである。

1. 経済現象や経済問題を中心に現代社会を体系的にとらえることのできる人材
2. 社会において有益な政策提言ができる人材

その育成方針は，次の通りである。

1. 研究・教育両面における学際的拡張能力の涵養
2. 学生自身による問題解決を促進するための能力開発
3. 自立的キャリア形成能力の育成
4. 心技体の錬成

□ 経済学科が養成する人材像は，次の通りである。

1. 社会の第一線において活躍する人材
2. 経済学の知識と思考方法にもとづいて，現実の経済の動きを幅広い観点から的確に把握し，論理的な思考方法によって問題解決への道を模索できる人材

□ 国際経済学科が養成する人材像は，次の通りである。

1. 地球市民としての自覚を持つことのできる人材
2. 国際経済の担い手としてリーダーシップを発揮できる人材

□ 現代ビジネス学科が養成する人材像は，次の通りである。

1. マクロ経済の構造変化を踏まえて企業経営に意欲をもつことのできる人材
2. 企業分析などの専門知識を修得し，企業経営に積極的に貢献できる人材

2016年度以降入学生向け
経済学科　履修案内

経済学科履修案内　目次

Ⅰ. 教育課程および単位制度…… 3
Ⅱ. 卒業所要単位…… 4
Ⅲ. 卒業再試験規程…… 6
Ⅳ. 進級規程…… 7
Ⅴ. 科目履修基準…… 9
Ⅵ. 経済学科カリキュラム……11
　1. 基礎教育科目……11
　2. 外国語科目……11
　3. 保健体育科目……14
　4. 総合教育科目……16
　5. 専門教育科目……19

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度以降入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

経済学科の教育課程では、１年次に入門・基礎レベル、２年次に初中級レベル、３・４年次には、学生各々が自らの問題意識や研究テーマ、卒業後のキャリア形成を意識しながら、主専攻分野と副専攻分野を７つの研究分野より選び、応用・発展レベルの学習へと、段階的に積み上げながら学習していく。

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門教育科目（必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、より柔軟でかつ体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年に配当して授業を実施している。

その他、教育職員の免許状取得希望者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

経済学部では、さらに、大学院経済学部研究科と連携し、有望な学生の大学院進学を奨励する一環として、学部４年次での大学院修士課程１年次科目の履修を認めている。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であ

るとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

経済学科　２０１６年度以降入学生

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部経済学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して**、合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上）。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる**。

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝12単位
　第一外国語６単位＋第二外国語６単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目 ≧ 26 単位
(5) 専門教育科目の合計 ≧ 76 単位
(6) 専門教育科目のうち必修科目 ＝４単位
(7) 専門教育科目のうち１年次配当の選択必修科目 ≧ 12 単位
(8) 専門教育科目のうち２年次配当の選択必修科目 ≧ 12 単位
(9) 専門教育科目のうち３・４年次配当の自分野選択必修科目 ≧ ８単位
(10) 専門教育科目のうち選択必修科目の合計 ≧ 32 単位
(11) 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目 ≧ 60 単位
(12) 外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目 ≧ 120 単位

〔経済学科 2016年度以降入学生 卒業所要単位表〕

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>区　　分</td><td colspan="4">卒業に必要な単位</td></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入門ゼミ</td><td colspan="3">必　　修　　4単位</td><td>4
単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td colspan="3">必　　修　　6単位</td><td rowspan="14">120
単位
以上</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td colspan="3">必　　修　　6単位</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td colspan="3">自由選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="3">必　　修　　2単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="3">自由選択</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="3">選択必修　　26単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専門教育科目</td><td>必修科目</td><td colspan="2">4単位</td><td rowspan="7">60単位
以上</td><td rowspan="8">76単位
以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目
(1年次配当科目)</td><td>12単位以上</td><td rowspan="5">32単位
以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目
(2年次配当科目)</td><td>12単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目
(3・4年次配当自分野)</td><td>8単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目
(3・4年次配当他分野)</td><td></td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>自由科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="4">124単位以上</td></tr>
</table>

※外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目の単位数を合算しても116単位にしかならないことに注意。120単位を満たすためには、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目、専門教育科目の区分で最低単位数以上の履修が必要になる。

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定日に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、５頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（選択必修科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「Ｄ」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「Ｅ」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕経済学科においては進級再試験はいっさい行わない。

〔注５〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに専門教育科目のうち必修科目4単位と総合計50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝12単位）
　　・第一外国語　　６単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目 ≧22単位
　⑤ 専門教育科目のうち必修科目 ＝４単位
　⑥ 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目 ≧48単位
　⑦ 総合計単位数 ≧88単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した後の第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

経済学科　２０１６年度以降入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="9">１年次から２年次</td><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td colspan="2" rowspan="9">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td rowspan="9">２年次から３年次</td><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td rowspan="9">50
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>必修　４単位</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td rowspan="9">３年次から４年次</td><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td>必修　４単位</td><td rowspan="9">88
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必修　６単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必修　６単位</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">22単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>４単位</td><td rowspan="3">48単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td><td></td><td></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る（180～183頁参照）。

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	11～14ページ参照	スポーツ総合A/B	16ページ参照	入門ゼミA/B	経済学入門A/B	25ページ参照				
	８科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	４単位	12単位			10単位	

40単位制限内で登録

※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	11～14ページ参照								１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	４科目・４単位								加算８単位		

40単位制限内で登録　　加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生									１・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
									加算８単位		

40単位制限内で登録　　加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録								加算８単位		
	※4 64単位以内で登録										

※1　資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2　１年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3　４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4　４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は９頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。
ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトに発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計：40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計：80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし、留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅵ. 経済学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミＡ・Ｂ」は１年次生に設置している半期２単位、合計４単位の必修科目で、授業はすべて本学部専任教員が担当し少人数クラスにて実施される。

この科目では、大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。専門書の読み方や資料・統計類の取扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後のゼミナール選択や２年次の選択必修科目、さらには３・４年次の主専攻、副専攻を含めた専攻分野科目の履修を計画し、大学４年間の学習・研究活動を確実なものとして欲しい。

なお、３年次までに基礎教育科目「入門ゼミ」の単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

経済学科では、最近の急速な国際化に対応できるよう学生諸君の語学力を高めるため、下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・コリア語・日本語（外国人留学生対象）

なお、外国語や外国の文化・思想を理解するとともに、自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく、総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用されたい。

(2) 履修基準・配当年次・科目

〔2016 年度以降入学生〕

	必修科目		合計
	第一外国語：英語	第二外国語	
1 年次生	Reading and Interaction　A・B Listening and Presentation A・B の 4 科目計 4 単位	英語以外の外国語（a）（b）各 A・B の 4 科目計 4 単位	計 8 単位
2 年次生	Writing and Interaction　A・B の 2 科目計 2 単位	英語以外の外国語（c）各 A・B の 2 科目計 2 単位	計 4 単位
卒業所要単位　計 12 単位			

〔外国人留学生：2016 年度以降入学生〕

	必修科目		合計
	第一外国語：英語	第二外国語：日本語	
1 年次生	Reading and Interaction　A・B Listening and Presentation A・B の 4 科目計 4 単位	日本語（a）（b）各 A・B の 4 科目計 4 単位	計 8 単位
2 年次生	Writing and Interaction　A・B の 2 科目計 2 単位	日本語（c）各 A・B の 2 科目計 2 単位	計 4 単位
卒業所要単位　計 12 単位			

(3) 第一外国語（英語）の構成について

第一外国語（英語）は、必修科目と選択科目から構成される。

経済学科生は、卒業要件として 1・2 年次配当の英語必修科目 6 単位を 3 年次までに履修し、修得しなければならない。2〜4 年次配当の英語選択科目については、英語必修科目に振り替えることはできないが、卒業所要単位に含めることが出来る。

a．英語必修科目

必修科目は、英語コミュニケーションの能力育成のための基盤科目であることを考慮し、1・2 年次に配当している。各科目の概要としては、特定の単一の英語技能に偏ることなく、4 技能のバランスを重視した科目群を配置している。

※英語熟達度別クラスについて

2016 年度から経済学科では英語熟達度別クラスを導入している。英語熟達度クラスは TOEIC®-IP 試験のスコアをもとに決定される。

b．英語選択科目

英語選択科目は、学生の関心や就職、留学、研究などの将来の必要性などを十分に考慮し、下記の多様性ある科目群を、2〜4 年に配置している。(受講者数制限あり)

英語選択科目	実施時期	単位数
Academic Presentation and Interaction A・B	春・秋学期	各 1 単位
Academic Reading and Interaction A・B		
Academic Writing and Interaction A・B		
Academic Listening and Interaction A・B		
Modern Novel A・B		
TOEFL and IELTS Preparation A・B		
TOEIC Preparation A・B		
Media English A・B		

c．科目履修登録上の留意事項

英語圏などの文化・思想に関する基礎的な知識を理解するとともに、グローバル社会にも十分対応できるだけの高度な英語コミュニケーション能力を育成するためには、1・2年に配当されている英語必修科目だけではなく、できるだけ2〜4年に配当されている英語選択科目を、各自の興味、関心、必要性等に応じて積極的に履修していくことが望まれる。

(4) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検)、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について、各々下記のとおり英語(必修・選択科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

a．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大６単位まで認定・免除
(基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大２単位を追加できる)

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする。
注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。
注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。

注意４：TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。

ｂ．手続きの方法

当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なお、スポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合Ａ・Ｂ（必修）	各１	１年～	春・秋学期	授業時間割により、指定されたクラスで春・秋学期に履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合Ａ・Ｂ２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

ａ．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合Ａ・Ｂは１年次配当の半期１単位の必修科目で、スポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目である。Ａが春学期、Ｂが秋学期の科目である。後述のように、Ａ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

ｂ．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

ｃ．スポーツ総合Ａ・Ｂ（１年次生）について

授業内容については、各自シラバスをよく確認のうえ、履修すること。

ｄ．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、

通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

ｅ．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。学期途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。また、春学期中に退部をした場合は、秋学期の単位付与に関わるため、至急事務課に申し出ること。

ｆ．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

４．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2016年度以降入学生　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△English CommunicationⅠA・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△English CommunicationⅡA・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△English CommunicationⅢA・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠA・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーションⅡA・B (各2)
言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーションA・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)	自然科学特講 (2)		△資格をめざすフランス語A・B (各2)
○現代社会と宗教 A・B(各2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーションⅠA・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーションⅡA・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅠA・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅡA・B (各2)

←――――――――――　卒業所要単位（26単位以上）　――――――――――→

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ ４～９頁を参照のこと。

〔注２〕同名の科目を２つ以上履修することはできない。

例）半期科目（２単位）を履修する場合

→同名の半期科目を２つ履修することはできない。

春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中、△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、○印の科目は他学部主催科目である。

〔注５〕クラス授業の時間割上、１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。

〔注６〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

a. 人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には、現代社会における人間のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

b. 社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきているので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

c. 自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然に関する学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かという問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

d. 総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

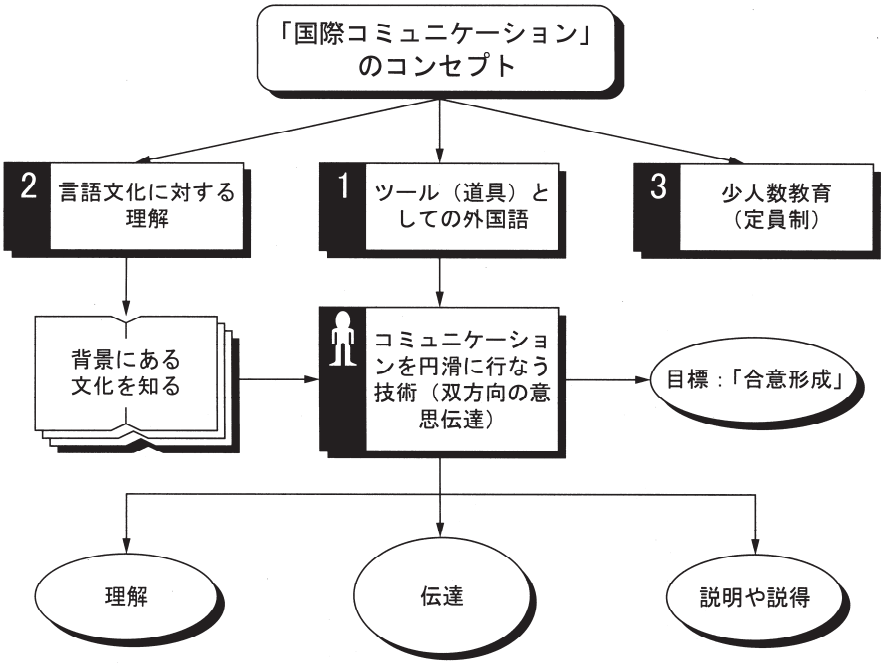
ｅ．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

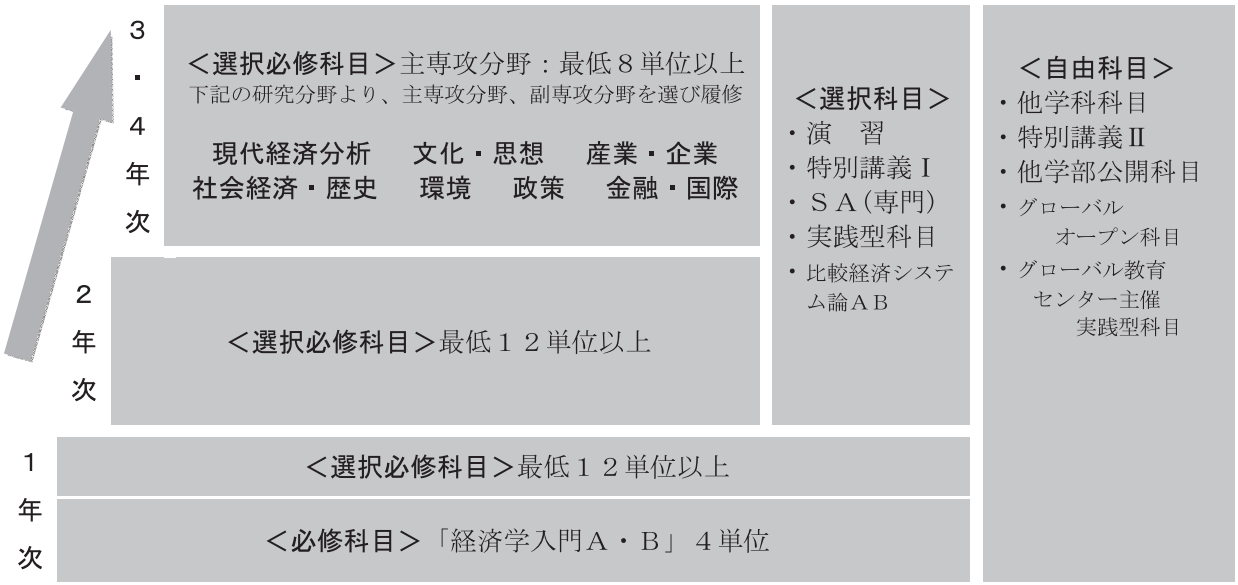
※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

経済学科の教育課程では、１年次に入門・基礎レベル、２年次に初中級レベル、３・４年次には、学生各々が自らの研究テーマや卒業後のキャリア形成を意識しながら、主専攻分野と副専攻分野の最低２つの研究分野を選び、応用・発展レベルの学習へと、段階的に積み上げながら学習していく。



・専門教育科目一覧表 ⇒ 25頁を参照

大学４年間を通じ、段階的な積み上げを必ず達成するよう、各学年に、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目として科目が配当されている。

ａ．必修科目「経済学入門Ａ・Ｂ」４単位

大学４年間での経済学の学びの中で、高等学校での「政治・経済」と、大学教育でのアカデミックな「経済学」の間の橋渡し、ブリッジ科目として、「経済学入門ＡＢ」を１年次に履修する。この科目は、経済学の様々な分野を大学４年間で学ぶ上で必須となる知識だけでなく、経済学的なものの考え方や見方も導入していく。この科目は、経済学科所属のすべての学生が履修しなければならない必修科目である。

なお、２年次までに必修科目「経済学入門Ａ・Ｂ」の単位を修得できない場合は３年次に進級できないので留意すること。

ｂ．１年次選択必修科目：１２単位以上

１年次には、上記の必修科目の他に、入門・初級レベルの選択必修科目を履修す

る。１年次の選択必修科目では、やや専門的な経済学らしい考え方や見方、２年次の選択必修科目を学ぶ上で必要となる専門的知識、分析能力のための基礎力を身につける。このため、１年次に１２単位修得しておくことが望ましい。なお、卒業所要単位としては、１年次選択必修科目から最低１２単位以上が必要である。

３・４年次で選択必修科目として最低８単位以上を必ず修得する研究分野である**主専攻分野（自分野）**と、最低８単位以上の修得を目指すもう一つの研究分野である**副専攻分野（他分野）**の候補も、１年次の段階で考えておくことが望ましい。特に、２年次から履修できる「演習（ゼミナール）」（ただし、必修科目でも選択必修科目でもない）の選抜は、１年次秋学期に行われるため、「演習（ゼミナール）」での研究テーマを１年次に決めることになる。「演習（ゼミナール）」での研究テーマと、３・４年次での主専攻分野、副専攻分野との関連性が強いほど、学習効果が高いので、３・４年次に選ぶ主専攻分野と副専攻分野を１年次の段階で考えることを推奨する。

ｃ．２年次選択必修科目：１２単位以上

２年次の選択必修科目は、１年次に学んだ入門・基礎レベルの経済学と、３・４年次に自らの研究テーマや卒業後のキャリアを意識して学ぶ研究分野、主専攻分野と副専攻分野との橋渡しとなる初・中級レベルの経済学を学習する。２年次に上がる段階、特に１年次秋学期に行わる「演習（ゼミナール）」選抜の段階で、３・４年次に選択する主専攻分野と副専攻分野を意識しておくことで、２年次で履修すべき選択必修科目の候補を絞り込むことができる。なお、卒業所要単位としては、２年次選択必修科目から最低１２単位以上が必要である。

ｄ．３・４年次選択必修科目：主専攻分野８単位以上

３・４年次選択必修科目は、大学４年間での経済学の段階的な積み上げの学びにおける最上段に位置付けられる。３・４年次選択必修科目では、学生各々の関心や研究テーマ、卒業後のキャリア形成などを意識しながら、次の研究分野より、主専攻分野と副専攻分野の最低２分野を選び、主専攻分野８単位以上の修得が必要である。

①現代経済分析　②社会経済・歴史　③文化・思想
④環境　⑤政策　⑥金融・国際　⑦産業・企業

ここでの「主専攻分野」とは、その分野に配当されている科目を卒業までに最低８単位以上、必ず修得しなければならない研究分野であり、「副専攻分野」とは、その分野に配当されている科目を、最低８単位以上、修得を目指す研究分野を指す。卒業所要単位としては、上記の７つ分野の内、最低１分野について最低８単位以上が必要になる。

各分野が対応可能な研究志向、研究テーマと、その履修科目のいくつかの例については、下記の「(2)研究分野」において詳述する。

ｅ．選択科目

「演習（ゼミナール)」や特別講義、経済学部が実施しているスタディアブロード（ＳＡ）プログラムに対する単位認定科目「ＳＡ（専門)」、「企業実務研究ＡＢ」といった実践型科目、外国人客員教員による授業科目である「比較経済システム論ＡＢ」は、選択科目である。選択科目に対しては、卒業所要単位として修得が必要になる単位数を設けていない。

「演習（ゼミナール)」は、選択科目であるが２年次から履修すべき科目である。２年次から４年次までの３年間、１人の専任教員の演習で学び、４年次には卒業論文として大学４年間での成果を残す。「演習（ゼミナール)」での研究テーマと、３・４年次選択必修科目として履修する主専攻分野と副専攻分野が、密接に関連し、双方での学習が互いに補完し合うことで、「演習（ゼミナール)」での研究が大きく促進される。

演習（ゼミナール）を履修するためには、事前に実施される「ゼミナール選抜」に合格しなければならない。ゼミナールの内容と選抜方法の詳細については、10月に発行される「ゼミナール紹介」を参照すること。

・ゼミナールの一覧・テーマ ⇒（153、154頁）を参照

ｆ．自由科目

経済学を学ぶ際（あるいは社会に出てから)、経済学の専門知識だけではなく、同時に総合的な思考力や判断力が求められる。こうした能力を養成するため、法律学など経済学に隣接した分野の諸科目を自由科目として配置している。各種国家試験等に必要な科目も設置しているので、各自の必要に応じて履修すると良い。

なお、他学科選択科目や他学部の公開科目、「グローバルオープン科目」、グローバル教育センター主催の実践型科目（「短期語学研修」「国際インターンシップ」「国際ボランティア」）も、自由科目である。

自由科目を必要以上に修得しても、進級・卒業所要単位外になるので、十分注意すること。

(2) 研究分野

３・４年次選択必修科目の履修では、学生各々の研究テーマ、関心に沿って、様々な分野から主専攻分野と副専攻分野を選んで学習していかなければならない。ここでは、各研究分野の内容を紹介し、いずれの研究分野が自らの主専攻分野、副専攻分野としてふさわしいのかの判断材料を提供する。

〈現代経済分析〉

「現代経済分析」分野は、ミクロ経済学やマクロ経済学といった現代経済学の中心的分析方法を軸に、様々な事象、現象、政策などへの応用を研究テーマとしてもつ。「経済学史」と「現代経済学応用」を中心とした現代経済学の理論追求型、「経済の数理」と「現代経済学応用」を組み合わせた数理経済学志向型、「数理統計学」と「現代経済学応用」を組み合わせたデータ分析志向型、「情報経済論」と「現代経済学応用」を組み合わせた応用ミクロ経済学志向型、「景気循環論」を中心とした応用マクロ経済学志向型など、様々な志向の研究テーマが想定される。他のいずれの分野にも応用が利く分野でもある。

履修推奨科目

１年次：「現代経済学基礎」「統計学」「ビジネス数学入門」「経済史」

２年次：「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「日本経済論」「財政学」「金融論」「データ解析入門」「計量経済学」など

〈社会経済・歴史〉

「社会経済・歴史」分野は、政治経済と歴史を中心に学ぶ研究分野である。「日本経済史」「世界経済史」といった経済史関連の研究テーマ、「国際政治論」「政治過程論」と「日本経済史」あるいは「世界経済史」を組み合わせた政治経済学関連などの研究テーマに合う。

履修推奨科目

１年次：「社会経済学基礎」「統計学」「経済史」など

２年次：「社会経済学応用」「社会経済思想史」「日本経済論」「財政学」「金融論」など

〈文化・思想〉

「文化・思想」分野は、文化と思想を中心に学ぶ研究分野である。「世界の文化と思想」「日本思想史」を中心とした思想関連の研究テーマ、「日本文化史」「日本文化論」「芸術と社会」、そして「世界の文化と思想」などの文化関連の研究テーマに合う。

履修推奨科目

１年次：「社会経済学基礎」「統計学」「経済史」など

２年次：「経済人類学」「社会経済思想史」「日本経済論」「外国語セミナー」など

〈環境〉

「環境」分野は、環境関連の研究テーマに特化した研究分野である。「環境政策論」「環境科学」「地球環境論」そして「農業経済論」のすべてを履修して完結させたい分野と言える。

履修推奨科目

１年次：「現代経済学基礎」「統計学」「ビジネス数学入門」「経済史」
２年次：「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「日本経済論」「財政学」「環境経済論」「経済地理」「経済人類学」など

〈政策〉

「政策」分野は、社会保障を中心とした経済政策に特化した研究分野である。経済政策に関連する研究テーマであれば「経済政策論」「地方財政論」「公共経済論」、社会保障関連の研究テーマであれば「社会政策論」「社会保障論」を履修すれば良いであろう。できれば、すべての科目を履修して完結させたい研究分野である。

履修推奨科目

１年次：「現代経済学基礎」「統計学」「ビジネス数学入門」「経済史」
２年次：「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「日本経済論」「財政学」「金融論」「環境経済論」「経済地理」など

〈金融・国際〉

「金融・国際」分野は、金融と国際の２つに大別可能な研究分野である。「企業金融論」「金融各論Ⅰ」「金融各論Ⅱ」を履修することで金融論を完結させることができ、「国際金融論」「国際貿易論」を履修すれば国際経済学を学ぶことができる。ただし、「国際金融論」は、金融論の知識も必要となるので、シラバスで確認して「企業金融論」「金融各論Ⅰ」「金融各論Ⅱ」からいくつかを履修することが推奨される。

履修推奨科目

１年次：「現代経済学基礎」「統計学」「ビジネス数学入門」「コンピューター入門」
２年次：「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「日本経済論」「国際経済論」「金融論」「経済地理」「ビジネスプログラミング入門」など

〈産業・企業〉

「産業・企業」分野は、情報や技術、産業組織などの視点から、産業、企業を分析する研究分野である。統計を中心に経済や産業を分析する研究テーマであれば「経済統計論」「現代社会と情報」を中心に履修すると良い。特定の産業、例えば、情報産業や情報技術を視野に入れたいのであれば「コンピューター科学」、スポーツ産業であれば「スポーツ経済論」を中心に履修したい。企業と市場の関わりで言えば「産業組織論」を、企業と労働の関わりで言えば「労働経済論」を中心に履修すると良い。

履修推奨科目

１年次：「現代経済学基礎」「統計学」「ビジネス数学入門」「コンピューター入門」
２年次：「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「日本経済論」「データ解析入門」「ビジネスプログラミング入門」「計量経済学」「経済地理」など

(3) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目の履修にあたっては、次頁の表のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

【設置科目】

科　　目　　名	履修対象	受　講　定　員
コンピューター入門Ａ・Ｂ	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×８クラス
データ解析入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×１クラス
コンピューター科学Ａ・Ｂ	３・４年次	48名×１クラス

(4) 外国語セミナー科目の履修

「Academic Research SeminarＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「ロシア語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、「スペイン語セミナーＡ・Ｂ」には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(5) その他

演習（ゼミナール＝２～４年次)、卒業論文（４年次)、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

2016年度以降入学生　経済学科　専門教育科目一覧表（※は2018年度未開講の科目）

【表の見方】
（）内は単位数
演習（8）は8単位で2時限連続授業

【履修上の注意】
必修科目は2年次終了までに単位を取得すること
3・4年次配当の選択必修科目は、卒業までに、最低1分野から8単位以上単位を取得すること

配当年次	必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目
1年次配当	経済学入門A・B（各2）	現代経済学基礎A・B（各2） 社会経済学基礎A・B（各2） 統計学A・B（各2） 経済史A・B（各2） コンピューター入門A・B（各2） ビジネス数学入門A・B（各2）		データで知る世界経済A・B（各2） Japan and the Global Economy A・B（各2） Practical Economics A・B（各2） 簿記ⅠA・B（各2） 企業経営入門A・B（各2）
2年次配当		ミクロ経済学A・B（各2） マクロ経済学A・B（各2） 社会経済学応用A・B（各2） 社会経済思想史A・B（各2） 経済人類学A・B（各2） 日本経済論A・B（各2） 財政学A・B（各2） 金融論A・B（各2） 環境経済論A・B（各2） 国際経済論A・B（各2） 経済地理A・B（各2） Academic Research Seminar A・B（各2） ドイツ語セミナーA・B（各2） フランス語セミナーA・B（各2） ロシア語セミナーA・B（各2） 中国語セミナーA・B（各2） スペイン語セミナーA・B（各2） データ解析入門A・B（各2） ビジネスプログラミング入門A・B（各2） 計量経済学A・B（各2） Demography A・B（各2）	演習（2年次）（8） 企業実務研究A・B（各2） Business Research Seminar A・B（各2） スタディ・アプロード（専門）Ⅰ～Ⅲ	開発経済入門A・B（各2） アメリカ経済論A・B（各2） ヨーロッパ経済論A・B（各2） 現代アジア経済論A・B（各2） 中国経済論A・B（各2） 国際ビジネス論A・B（各2） 現代ファイナンス入門A・B（各2） Business Communication IA・B（各2） 経済データ分析A・B（各2） 会計学入門A・B（各2） 原価計算A・B（各2） コーポレートガバナンス論A・B（各2） Principles of Economics A・B（各2） 簿記ⅡA・B（各2） 日本国憲法A・B（各2） 民法一部A・B（各2） 商法一部A・B（各2） ドイツ語中級A・B（各2）（注1）
3・4年次配当		現代経済分析　分野：経済学史A・B（各2） 経済の数理A・B（各2） 数理統計学A・B（各2） 現代経済学応用A・B（各2） 情報経済論A・B（各2） ※景気循環論（2） 社会経済・歴史　分野：日本経済史A・B（各2） 世界経済史A・B（各2） 国際政治論（2） 政治過程論（2） 文化・思想　分野：世界の文化と思想A・B（各2） 日本思想史（2） 日本文化史（2） 日本文化論（2） ※芸術と社会（2） 環境　分野：環境政策論A・B（各2） 環境科学A・B（各2） 地球環境論A・B（各2） 農業経済論A・B（各2） 政策　分野：経済政策論A・B（各2） 公共経済論A・B（各2） 地方財政論A・B（各2） 社会政策論A・B（各2） 社会保障論A・B（各2） 金融・国際　分野：企業金融論A・B（各2） 金融各論ⅠA・B（各2） 金融各論ⅡA・B（各2） 国際金融論A・B（各2） 国際貿易論A・B（各2） 産業・企業　分野：経済統計論A・B（各2） 現代社会と情報A・B（各2） コンピューター科学A・B（各2） 産業組織論A・B（各2） 労働経済論A・B（各2） スポーツ経済論（2）	演習（3年次）（8） 演習（4年次）（4） 比較経済システム論A・B（各2） 特別講義Ⅰ ［院］ミクロ経済学A・B（各2） ［院］マクロ経済学A・B（各2） ［院］計量経済学A・B（各2） ［院］社会経済学A・B（各2） ［院］経済史A・B（各2）	国際関係論A・B（各2） 開発経済論A・B（各2） ※国際投資論A・B（各2） 企業経済論A・B（各2） International Economics A・B（各2） Area Studies A・B（各2） 地域経済論A・B（各2） 財務諸表論A・B（各2） 管理会計A・B（各2） Business CommunicationⅡA・B（各2） 監査論A・B（各2） リスク・マネジメントA・B（各2） 企業経営史A・B（各2） 国際会計制度A・B（各2） 企業経営論A・B（各2） 経営学A・B（各2） 民法二部A・B（各2） 商法二部A・B（各2） 経済法A・B（各2） 労働法A・B（各2） ドイツ語上級ⅠA・B（各2）（注2） ドイツ語上級ⅡA・B（各2）（注2） 特別講義Ⅱ 他学部公開科目

（注1）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

（注1）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

2015年度以前入学生向け
経済学科　履修案内

経済学科履修案内　目次

Ⅰ. 教育課程および単位制度……29
Ⅱ. 卒業所要単位……30
Ⅲ. 卒業再試験規程……31
Ⅳ. 進級規程……32
Ⅴ. 科目履修基準……36
Ⅵ. 経済学科カリキュラム……40
　1. 基礎教育科目……40
　2. 外国語科目……40
　3. 保健体育科目……42
　4. 総合教育科目……44
　5. 専門教育科目……47

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度以降入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

経済学科にはコース制が設けられており、〈社会システム〉〈政策情報〉〈環境文化〉の３つのコースのうち、いずれかのコースに所属して学習する。

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門教育科目（基本科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、より柔軟でかつ体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年に配当して授業を実施している。

なお、専門教育科目のうち基本科目については、全コースに共通するものとコース別の基本科目から構成されている。また同じく専門教育科目の中に位置づけられる選択科目は、コース独自の選択科目と、他コースの基本科目から構成されている。

その他、教育職員の免許状を取得しようとする者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であるとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部経済学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して**、合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上）。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる。**

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝14単位
　第一外国語８単位＋第二外国語６単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目 ≧ 26 単位
(5) 専門教育科目のうち基本科目 ≧ 28 単位
(6) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目 ≧ 58 単位
(7) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目＋自由科目 ≧ 74 単位
(8) 保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目 ≧ 106 単位

〔卒業所要単位表〕

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>区　分</th><th colspan="2">卒業に必要な単位</th><th></th></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td>必　修</td><td>４単位</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必　修</td><td>８単位</td><td rowspan="2">14単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必　修</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必　修</td><td>２単位</td><td rowspan="5">106単位以上</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td>自由選択</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td>選択必修</td><td>26単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基　本　科　目</td><td rowspan="2">基本：28単位以上
基本＋選択：
58単位以上</td><td rowspan="3">74単位以上</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

〔注意〕　本規程は、経済学部経済学科生に適用する。

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定日に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、30頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（基本科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「Ｄ」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「Ｅ」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕以下の科目は、現在（授業開始前）、９月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。

①9月卒業再試験を行う科目
日本国憲法、中国語セミナーA、政治過程論、民法一部A、民法二部A、商法一部A、商法二部A、ロシア語セミナーA、日本思想史、日本文化史、経済史、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）A、国際会計制度A、国際経済論A（水田）、経済法、国際ビジネス論A

②9月卒業再試験を行わない科目
地域経済論A、西洋経済史A、国際貿易論A、現代経済学応用A、比較経済システム論A、Area Studies A、特別講義（グローバル資本主義論Ⅰ）、特別講義（グローバル資本主義論Ⅲ）、マクロ経済学A（檜野）、企業と経済・応用A、ビジネス英語初級A（G.ファーン、S.ハリス）、ビジネス英語中級A（G.ファーン）、会計学入門Ⅱ（原価計算）A、会計学応用（管理会計）A、ミクロ経済学A（細矢）、企業経営史A

〔注５〕以下の科目は、現在（授業開始前）、３月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。

①3月卒業再試験を行う科目
中国語セミナーB、民法一部B、民法二部B、商法一部B、商法二部B、ロシア語セミナーB、日本文化史、経済史（摂津）、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）B、国際会計制度B、国際経済論B（水田）、経済法、国際ビジネス論B

②3月卒業再試験を行わない科目
社会経済学基礎（大友）、地域経済論B、国際貿易論B、現代経済学応用B、国際政治論、比較経済システム論B、Area Studies B、特別講義（グローバル資本主義論Ⅱ）、ビジネス英語中級B（R.デレザ、G.ファーン）、日本文化論、マクロ経済学B（檜野）、企業と経済・応用B、ビジネス英語初級B（G.ファーン、S.ハリス）、会計学入門Ⅱ（原価計算）B、ミクロ経済学B（細矢）、企業経営史B

〔注６〕経済学科においては進級再試験はいっさい行わない。

〔注７〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝14単位）
　　・第一外国語　　８単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧22単位
　⑤ 専門教育科目のうち、全コース共通基本科目
　　＋コース基本科目＋コース選択科目≧46単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝14単位）
　・第一外国語　　８単位
　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧22単位
　⑤ 専門教育科目のうち、全コース共通基本科目
　　＋コース基本科目＋コース選択科目≧46単位
(3) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

２０１２年度～２０１５年度入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="8">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2" rowspan="8">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="8">２年次から３年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2" rowspan="8">50単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="8">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2">必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="2">必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">22単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td rowspan="2">基 本 科 目</td><td>全コース共通基本科目</td><td rowspan="3">46単位以上</td></tr>
<tr><td>コース基本科目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td><td>コース選択科目</td></tr>
<tr><td></td><td>自 由 科 目</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

２０１１年度以前入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="7">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2" rowspan="7">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td>２年次から３年次</td><td colspan="4">と　く　に　な　し</td></tr>
<tr><td rowspan="9">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2">必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="2">必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">22単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td rowspan="2">基 本 科 目</td><td>全コース共通基本科目</td><td rowspan="3">46単位以上</td></tr>
<tr><td>コース基本科目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td><td>コース選択科目</td></tr>
<tr><td></td><td>自 由 科 目</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

〔注１〕２年次から３年次への進級に関する規程はない。ただし、再履修単位に制限があり、また４年次への進級には各科目の制約があるため、２年次終了時までの修得単位が少ないとき、３年次に進級した時点で３年次留級が確定する場合がある。37頁以降の「科目履修基準」をよく理解し、計画的に履修すること。

〔注２〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。（180～183頁参照）

２０１２年度～２０１５年度入学生

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	〈第一外国語〉 英語(a)・(b) 〈第二外国語〉 英語以外の (a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	経済と社会 社会経済学基礎 現代経済学入門 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記入門 企業経営入門		
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			10単位	

40単位制限内で登録

※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	〈第一外国語〉 英語(c)Ａ・Ｂ (d)Ａ・Ｂ 〈第二外国語〉 英語以外の (c)Ａ・Ｂ							１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	６科目・６単位							加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生								１・2年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
								加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録							加算８単位		
	※464単位以内で登録									

※1　資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2　１年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3　４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4　４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。
※　2015年度入学の外国人留学生は、日本語を第一外国語として履修、第二外国語として日本語と母語以外の外国語を履修する（41頁参照）。

２０１１年度以前入学生

Ⅴ. 科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

2010年度以降入学生（１年次）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
1年次生	〈第一外国語〉英語(a)・(b) 〈第二外国語〉英語以外の(a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	経済と社会 社会経済学基礎 現代経済学入門 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記入門 企業経営入門	(a) 教職関係科目
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			

40単位制限内で登録　　※1 加算６単位

2009年度以前入学生（１年次）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
1年次生	〈第一外国語〉英語(a)・(b) 〈第二外国語〉英語以外の(a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	社会経済学基礎 現代経済学基礎 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記 企業経営入門	(a) 教職関係科目
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			

40単位制限内で登録　　※1 加算６単位

共通（２年次以降）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
2年次生	〈第一外国語〉英語(c)Ａ・B (d)Ａ・B 〈第二外国語〉英語以外の(c)Ａ・B							(a)再履修科目１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目
	６科目・６単位							

40単位制限内で登録　　※2 加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
3年次生								(a)再履修科目１・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目

40単位制限内で登録　　※2 加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
4年次生	※3 ４単位以上・40単位以内で登録							
	64単位以内で登録							

※1 １年次には教職関係科目を、最高履修単位に６単位まで加算して履修できる。
※2 ２・３年次の教職・資格関係科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、２・３年次の各最高履修単位に24単位を加算した範囲で履修することができる。
※3 ４年次では４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は36頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。
ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

● ２～４年次生で、〈再履修単位の合計が８単位を超える者〉は、その超過単位分について、年間通常履修単位（40単位）の中から、それを振替えて履修することができる。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトに発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計：40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計：80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし、留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は37頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職・資格関係科目を履修する学生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。
ただし、教職・資格関係科目の履修単位は、２・３年次においてはそれぞれ24単位を限度とする。

● ２・３年次生で、〈再履修単位の合計が24単位を超える者〉および〈資格関係科目を24単位以上履修する者〉は、その超過単位分について、年間通常履修単位（40単位）の中から、それを振替えて履修することができる。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトに発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 64単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし、留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅵ. 経済学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミ」は１年次生に設置している４単位の必修科目で、授業はすべて本学部専任教員が担当しクラス単位で実施される。

この科目では、大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。専門書の読み方や資料・統計類の取扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

学生諸君は、１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後の「ゼミナール選択」やコース別科目履修の準備をするとともに、４年間着実に学習を進めて欲しい。

なお、３年次までに当該単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

経済学科では、最近の急速な国際化に対応できるよう学生諸君の語学力を高めるため、下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・コリア語・日本語（外国人留学生対象）

なお、外国語や外国の文化・思想を理解するとともに、自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく、総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用してもらいたい。

(2) 履修基準・配当年次・科目

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	英語(a)(b)の２科目　計４単位	英語以外の外国語(a)(b)の２科目　計４単位	計８単位
２年次生	英語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	英語以外の外国語(c)A・Bの２科目　計２単位	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔外国人留学生：2014年度以前入学者〕

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	英語(a)(b)の２科目　計４単位	日本語(a)(b)の２科目　計４単位	計８単位
２年次生	英語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	日本語(c)A・Bの２科目　計２単位	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔外国人留学生：2015年度入学者〕

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	日本語(a)(b)の２科目　計４単位	経済学科で履修可能な日本語と母語以外の外国語(a)(b)の２科目(英語を含む)　計４単位 ※英語は必修科目を履修のこと	計８単位
２年次生	日本語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	経済学科で履修可能な日本語と母語以外の外国語(c)A・Bの２科目(英語を含む)　計２単位 ※英語は必修科目を履修のこと	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔注意〕外国語科目の授業はクラス単位で実施する。時間割により指定されたクラスで履修すること。

(3) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検)、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について、各々下記のとおり英語(必修科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

ａ．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大８単位まで認定・免除
(基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大４単位を追加できる)

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする
注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。
注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。
注意４：TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。
注意５：（2015年度入学者）外国人留学生は、第二外国語として英語を選択した場合のみ、単位認定を行う。

b．手続きの方法

当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なお、スポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合（必修）	2	１年～	年間	授業時間割により、指定されたクラスで年間を通して履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

a．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合は１年次配当の通年２単位必修科目である。またスポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目で、Ａが春学期、Ｂが秋学期の科目である。ただし、後述のように、Ａ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

b．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

c．スポーツ総合（１年次生）について

授業内容については、各自シラバスをよく確認のうえ、履修すること。

d．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授

業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

ｅ．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。

ｆ．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

４．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2010年度～2015年度入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△英語コミュニケーション初級A・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△英語コミュニケーション中級A・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語コミュニケーション上級A・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーション初級A・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーション中級A・B (各2)
言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーション初級A・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)	自然科学特講 (2)		△フランス語コミュニケーション中級A・B (各2)
○現代社会と宗教 A (2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーション初級A・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーション中級A・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション初級A・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション中級A・B (各2)

←――― 卒業所要単位（26単位以上） ―――→

2009年度以前入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学 (4)	数学 (4)	△キャリアデザイン論(2)	△英語コミュニケーションⅠ (4)
外国文学 (2)	地理学 (4)	物理学 (4)	△多摩地域形成論(2)	△英語コミュニケーションⅡ (4)
倫理学 (4)	文化人類学 (2)	地学 (2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語演習 (4)
芸術 (2)	日本史 (2)	化学 (2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠ (4)
△文章表現 (4)	外国史 (2)	生物学 (4)		△ドイツ語コミュニケーションⅡ (4)
言語学 (4)	法学 (4)	科学史 (2)		△フランス語コミュニケーションⅠ (4)
○現代史 (4)	社会学 (4)	自然科学特講 (2)		△フランス語コミュニケーションⅡ (4)
哲学 (4)	心理学 (4)			
論理学 (4)	○国際社会論 (2)			
民俗学 (4)				

←――― 卒業所要単位（26単位以上） ―――→

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ 30～35頁を参照のこと。

〔注２〕通年科目・半期科目ともに、同名の科目を２つ以上履修することはできない。

例）半期科目（２単位）を履修する場合

→同名の半期科目を２つ履修することはできない。

春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中、△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、○印の科目は他学部主催科目である。

〔注５〕クラス授業の時間割上、１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。
〔注６〕2014年度より法学、法学Ａ・Ｂには日本国憲法単位は含まれなくなった。教職課程を履修する学生は経済学部事務課に相談すること。
〔注７〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。
〔注８〕総合教育科目設置科目一覧表に記載のない「日本史Ⅰ・Ⅱ」、「外国史Ⅰ・Ⅱ」、「哲学Ⅰ・Ⅱ」、「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は教職科目であり、それらの修得単位は卒業所要単位に含まれないため注意すること(2014年度以前入学生のみ)。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

ａ．人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には、現代社会における人間のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

ｂ．社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきているので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

ｃ．自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然に関する学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かと

いう問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

ｄ．総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

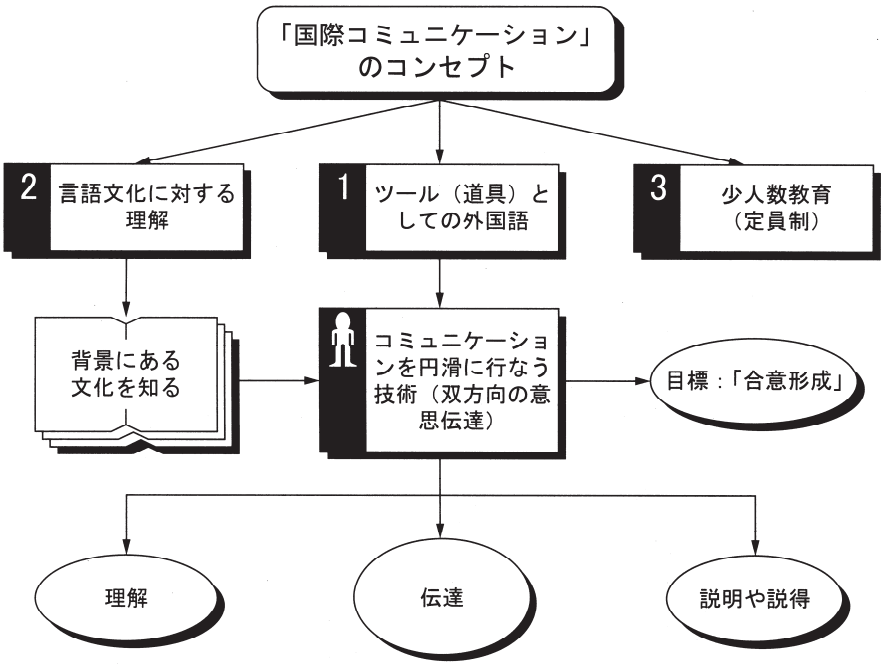
ｅ．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

経済学科の学生は、〈社会システムコース〉〈政策情報コース〉〈環境文化コース〉のいずれか一つのコースに所属して学習することになる。そして、専門科目は各コースのカリキュラム上の位置づけに応じて以下のとおり、基本科目、選択科目、自由科目の３つの科目の種類から編成されている。

・専門教育科目一覧表 ⇒ 51、52頁を参照



基本科目	選択科目	自由科目	
・全コース共通基本科目 ・所属コース基本科目	・所属コース選択科目 ・演　習 ・特別講義Ⅰ ・他コース基本科目	・法律関係科目 ・経営関係科目 ・他コース選択科目 ・特別講義Ⅱ	・他学科科目 ・他学部公開科目

ａ．基本科目

【全コース共通基本科目】

全てのコースに共通する基礎的な専門教育科目であり、経済学的なものの考え方や高学年での専門的な学習を行う際に必要な基礎的事項について学習する科目である。１・２年次に開設されており、なるべく開設年次に修得しておくことが望ましい。

【コース基本科目】

各コースの基本となる科目である。自分の所属するコースのコース基本科目については卒業までにできるだけ修得してもらいたい。

※自分が所属するコース以外（他コース）の基本科目を修得した場合は自コースの選択科目の所要単位としてカウントされる。

ｂ．選択科目

各コースを特徴づける科目として、３・４年次に開設されているのがこの選択科目である（企業実務研究Ａ・Ｂは２年次に開設）。それぞれのコースに所属する学生諸君が、各自の問題意識と関心に応じて専門的考え方を身につけることができるよう、各分野に関係する多様な科目が体系的に配置されている。また、所属コースの特別講義科目や他コースの基本科目を修得した場合は、選択科目として位置づけられる。演習（ゼミナール）は、選択科目であるが２年次から履修すべき科目である。４年次までの３年間、１人の専任教員の演習で学ぶ。

・ゼミナールの履修 ⇒（151、152頁）を参照　　・特別講義の履修 ⇒（155頁）を参照

ｃ．自由科目

経済学を学ぶ際（あるいは社会に出てから）、経済学の専門知識だけではなく、同時に総合的な思考力や判断力が求められる。こうした能力を養成するため、経営学や法律学など経済学に隣接した分野の諸科目を自由科目として配置している。各種国家試験等に必要な科目も設置しているので、各自の必要に応じて選択し履修されたい。

なお、他学科選択科目や他学部の公開科目の単位を修得した場合もこの自由科目の所要単位としてカウントする。

自由科目を必要以上に修得しても、進級・卒業所要単位外になるので、十分注意すること。

ｄ．履修に関する留意事項

- １年次生（2010年度以降入学生）では、８科目（基本科目６科目、自由科目２科目）を開設しているが、そのうち４科目まで履修できる。１年次で履修しない基本科目については２年次において履修し、修得することが望ましい。
- 学年の進行にしたがって順次配当されている科目を基本科目→選択科目→自由科目の順序で履修していくことが望ましい。
- ２年次以上に配当されている専門教育科目の多くは、同一名称の科目にＡ・Ｂが付され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。しかし科目Ｂを履修するためには、同一年度に科目Ａの修得を必要とするものが多いので、ＳＡ留学（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない限り、春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。
- 市ヶ谷開講の財政学A・B、経済政策論A・B、国際経済論A・Bについては、４年次のみ履修可。初回の授業に出席すること。

  既に同名称科目を修得済の場合、履修できない。また、同名称科目を同年度内に市ヶ谷地区と多摩地区では履修できない。

⑵ ３コースの位置づけと特徴

〈社会システムコース〉「現代化・システム分析＝制度研究」

本コースでは、システム分析を基礎に据えた幅広い歴史的かつ地理的な視野の下で経済と産業を理解することに重点が置かれている。経済の歴史と理論だけではなく、経済・産業の現状を制度に焦点をあてるとともに多角的に学べるように科目群を配置している。

経済的意思決定は、現実には政治的・政策的な調整選択の問題である。本コースを選択した学生は、それらを理解するために必要不可欠な理論的かつ歴史的・制度的分野の基礎概念と現代の世界と日本をめぐるup-to-dateな政治経済的選択をめぐる論点に対して幅広い視野を身につけてもらいたい。

〈政策情報コース〉「情報化・政策分析＝経済政策研究」

経済の高度情報化という現代社会の特徴的な事実を見据えながら、具体的な政策分析や産業分析といった経済学の応用領域に重点がおかれているのがこのコースの特徴である。

本コースでは、そのために不可欠な現代経済理論の基礎概念と分析の枠組みおよび情報処理や数量的なものの見方をベースに、財政・金融政策などの具体的なテーマについて、現実のデータに基づいて分析できる能力を身につけることができるように多様な科目群を配置している。

〈環境文化コース〉「総合化・学際的分析＝文化・環境研究」

現代経済が抱える問題には、異なる民族の文化や価値観の違いが背景となって起こることが少なくない。地球規模での環境問題や貧富の格差の問題も、各国の文化構造と深く結びついており、既存の学問体系では問題解決の糸口を見いだしにくくなっている。本コースでは、経済学を基礎としながらも既存経済学の枠にとらわれることなく、総合的・学際的な視点を重視し、環境のなかの経済、文化のなかの経済といった幅広い視点から「問題発見的」発想に重点をおいたカリキュラムを編成している。また、このコースでは、文化の多様性を理解するための外国語能力の向上にも力点をおいている。

(3) 所属コースの変更

入学後、所属コースの変更を希望する学生は**２年次に１度だけ**コース変更を行うことができる。なお休学中の学生はコース変更を申請することはできない。

旧所属コースで修得した科目・単位は新所属コースカリキュラムでの取扱いに読み替え認定する。

〔申請時期〕

１月中旬以降の期間で申請を受付ける（日程の詳細については12月頃に掲示連絡する）。

〔備　　考〕

１年次終了の時点ですでに所属コースの変更を予定している学生は、コース変更後の進級・卒業条件等を考慮した場合、２年次での履修登録の際、あらかじめ**変更するコース**の「コース基本科目」を選択しておくことが望ましい。

(4) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目７科目の履修にあたっては、次頁の表のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

なお、予備登録に際し「ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ」、「コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ」は政策情報コース所属の学生を優先する。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。
〔履修方法・その他詳細については、ガイダンス時に指示する〕。

【設置科目】

科　目　名	系　列	履修対象	受　講　定　員
コンピュータ入門	基本科目〈全コース共通〉	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	基本科目〈政策情報コース〉／他コースは選択科目	２～４年次	48名×８クラス
コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	基本科目〈政策情報コース〉／他コースは選択科目	２～４年次	48名×１クラス
コンピュータ科学Ａ・Ｂ（ネットワークを中心に）	選択科目〈政策情報コース〉／他コースは自由科目	３・４年次	48名×１クラス

(5) 外国語セミナー科目の履修

「英語セミナーＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「ロシア語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、「スペイン語セミナーＡ・Ｂ」には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(6) その他

演習（ゼミナール＝２～４年次）、卒業論文（４年次）、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

２０１０年度以降経済学科入学生

(13) 専門教育科目一覧表 （※は2018年度未開講の科目）

系列	基本科目				選択科目			自由科目		
コース	全コース共通	社会システムコース	政策情報コース	環境文化コース	社会システムコース	政策情報コース	環境文化コース	2016年度以降カリキュラム科目	他学科科目	全コース共通
1年次配当	社会経済学基礎 （4） 現代経済学入門 （4） 経済史 （4） 統計学 （4） コンピュータ入門 （4） ※経済と社会 （4）							ビジネス数学入門 A・B(各2) Japan and the Global Economy A・B(各2) Practical Economics A・B(各2)	企業経営入門 （4） 簿記入門 （4）	
2年次配当	社会経済学応用 A・B(各2) 財政学 A・B(各2) 金融論 A・B(各2) 国際経済論 A・B(各2) 環境経済論 A・B(各2) マクロ経済学 A・B(各2) ミクロ経済学 A・B(各2)	日本経済論 A・B(各2) 労働経済論 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 経済学史 A・B(各2) 経済地理 A・B(各2)	ビジネスプログラミング入門 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 公共経済論 A・B(各2) 経済の数理 A・B(各2) コンピュータによるデータ解析 A・B(各2)	経済人類学 A・B(各2) 経済地理 A・B(各2) 世界の文化と思想 A・B(各2) 環境科学 A・B(各2) 外国語セミナー A・B(各2) [英・独・仏・露・中・西]	＊他コース基本科目 企業実務研究 A・B(各2) 演習（2年次）(8)			開発経済入門 A・B(各2) Principles of Economics A・B(各2) 簿記Ⅱ A・B(各2) Demography A・B(各2)	国際ビジネス論 A・B(各2) ※貿易実務 A・B(各2) 開発経済論 A・B(各2) 国際関係論 A・B(各2) アメリカ経済論 A・B(各2) ヨーロッパ経済論 A・B(各2) 現代アジア経済論 A・B(各2) 中国経済論 A・B(各2) 現代ファイナンス入門 A・B(各2) ビジネス英語初級 A・B(各2) 経済データ分析 A・B(各2) 会計学入門Ⅰ（財務会計） A・B(各2) 会計学入門Ⅱ（原価計算） A・B(各2) コーポレートガバナンス論 A・B(各2) 商法一部 （4）	日本国憲法 （4） 民法一部 （4） ドイツ語中級（注1） A・B(各2)
3・4年次配当	【表の見方】 （ ）内は単位数 演習(8)は８単位で２時限連続授業 【履修上の注意】 A・B分割科目 ２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適用者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。 専門教育科目 自分の所属コース以外（他コース）の基本科目は選択科目として、選択科目は自由科目として履修することができる。また、他学科の選択科目を自由科目として履修することもできる。その際、自コース科目への読替えの系列を誤認すると卒業・進級に多大な影響を及ぼすので、特に注意すること。 学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外となることがあるので留意すること。				現代経済学応用 A・B(各2) ※景気循環論 （2） 比較経済システム論 A・B(各2) 日本経済史 A・B(各2) 社会経済思想史 A・B(各2) 農業経済論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 金融各論Ⅰ A・B(各2) 政治過程論 （2） 国際政治論 （2） 経済統計論 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) 特別講義Ⅰ （2） ＊他コース基本科目	現代経済学応用 A・B(各2) 金融各論Ⅰ A・B(各2) 金融各論Ⅱ A・B(各2) 企業金融論 A・B(各2) 国際金融論 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 計量経済学 A・B(各2) 数理統計学 A・B(各2) 経済統計論 A・B(各2) コンピュータ科学（ネットワークを中心に） A・B(各2) 現代社会と情報 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 政治過程論 （2） 比較経済システム論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) 演習（３年次）(8) 演習（４年次）(4) 特別講義Ⅰ （2） ＊他コース基本科目	現代経済学応用 A・B(各2) ※東洋経済史 A・B(各2) 日本経済史 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 日本思想史 （2） 比較経済システム論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 現代社会と情報 A・B(各2) 日本文化史 （2） 日本文化論 （2） ※芸術と社会 （2） 地球環境論 A・B(各2) 環境政策論 A・B(各2) 人間とスポーツ （2） 時事英語セミナー A・B(各2) 特別講義Ⅰ （2） ＊他コース基本科目	International Economics A・B(各2) Area Studies A・B(各2) 地域経済論 A・B(各2)	※国際マーケティング論 A・B(各2) ※現代ファイナンス応用 A・B(各2) 国際貿易論 A・B(各2) 企業経済論 A・B(各2) ※開発金融論 （2） ※国際協力論 （2） 会計学応用Ⅰ（財務会計） A・B(各2) 会計学応用Ⅱ（管理会計） A・B(各2) ビジネス英語中級 A・B(各2) 監査論 A・B(各2) リスク・マネジメント A・B(各2) 企業経営史 A・B(各2) ※ニュービジネス論 A・B(各2) 国際会計制度 A・B(各2) 企業経営論 A・B(各2) 商法二部 （4） 経済法 （4） 特別講義Ⅱ （2）	民法二部 （4） 労働法 （4） 経営学 （4） ＊他コース 選択科目 ドイツ語上級Ⅰ（注2） A・B(各2) ドイツ語上級Ⅱ（注2） A・B(各2) 他学部公開科目

（注1）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)」「ドイツ語(b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
（注2）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)」「ドイツ語(b)」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

２００９年度以降経済学科入学生

(13) 専門教育科目一覧表 (※は2018年度未開講の科目)

系列	基本科目				選択科目			自由科目		
コース	全コース共通	社会システムコース	政策情報コース	環境文化コース	社会システムコース	政策情報コース	環境文化コース	2016年度以降カリキュラム科目	他学科科目	全コース共通
1年次配当	社会経済学基礎 (4) 現代経済学基礎 (4) 経済史 (4) 統計学 (4) コンピュータ入門 (4) ※経済と社会 (4)							ビジネス数学入門 A・B(各2) Japan and the Global Economy A・B(各2) Practical Economics A・B(各2)	企業経営入門 (4)	簿記 (4)
2年次配当	社会経済学応用 A・B(各2) 現代経済学応用 A・B(各2) 国際経済論 A・B(各2)	日本経済論 A・B(各2) 産業労働論 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 財政学 A・B(各2) 金融論 A・B(各2) 経済学史 A・B(各2) 経済地理 A・B(各2)	ビジネスプログラミング入門 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 公共経済論 A・B(各2) 財政学 A・B(各2) 金融論 A・B(各2) 経済の数理 A・B(各2) コンピュータによるデータ解析 A・B(各2)	環境政策論 A・B(各2) 環境経済論 A・B(各2) 経済人類学 A・B(各2) 経済地理 A・B(各2) 外国の文化と思想 A・B(各2) 自然環境論 A・B(各2) 外国語セミナー A・B(各2) [英・独・仏・露・中・西]	＊他コース基本科目 企業実務研究 A・B(各2) 演習(2年次) (8)			開発経済入門 A・B(各2) Principles of Economics A・B(各2) 簿記Ⅱ A・B(各2) Demography A・B(各2)	国際ビジネス論 A・B(各2) ※貿易実務 A・B(各2) 開発経済論 A・B(各2) 国際関係論 A・B(各2) アメリカ経済論 A・B(各2) ヨーロッパ経済論 A・B(各2) 現代アジア経済論 A・B(各2) 中国経済論 A・B(各2) 現代ファイナンス入門 A・B(各2) 経済データ分析 A・B(各2) 原価計算 A・B(各2) コーポレートガバナンス論 A・B(各2) 商法一部 (4) 会計学 (4)	日本国憲法 (4) 民法一部 (4) ドイツ語中級(注1) A・B(各2)
3・4年次配当	【表の見方】 ( ) 内は単位数 演習(8)は８単位で２時限連続授業 【履修上の注意】 A・B分割科目 ２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適用者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。 専門教育科目 自分の所属コース以外（他コース）の基本科目は選択科目として、選択科目は自由科目として履修することができる。また、他学科の選択科目を自由科目として履修することもできる。その際、自コース科目への読替えの系列を誤認すると卒業・進級に多大な影響を及ぼすので、特に注意すること。 学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外となることがあるので留意すること。				世界システム論 (2) 比較経済システム論 A・B(各2) マクロ経済学 A・B(各2) ミクロ経済学 A・B(各2) 日本経済史 A・B(各2) 社会経済思想史 A・B(各2) 工業経済論 A・B(各2) 農業経済論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 労働経済論 A・B(各2) 金融各論Ⅰ A・B(各2) 政治過程論 (2) 国際政治論 (2) 経済統計論 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) 特別講義Ⅰ (2) ＊他コース基本科目	金融各論Ⅰ A・B(各2) 金融各論Ⅱ A・B(各2) 企業金融論 A・B(各2) 国際金融論 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 計量経済学 A・B(各2) 数理統計学 A・B(各2) 経済統計論 A・B(各2) コンピュータ科学(ネットワークを中心に) (2) 現代社会と情報 A・B(各2) マクロ経済学 A・B(各2) ミクロ経済学 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 政治過程論 (2) 比較経済システム論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) 演習（３年次）(8) 演習（４年次）(4) 特別講義Ⅰ (2) ＊他コース基本科目	※東洋経済史 A・B(各2) 日本経済史 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 日本思想史 (2) 比較経済システム論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 現代社会と情報 A・B(各2) 日本文化史 (2) 日本文化論 (2) ※芸術と社会 (2) 環境科学 A・B(各2) 人間とスポーツ (2) 時事英語セミナー A・B(各2) 時事独語セミナー A・B(各2) 時事仏語セミナー A・B(各2) 環境と技術 (2) 特別講義Ⅰ (2) ＊他コース基本科目	International Economics A・B(各2) Area Studies A・B(各2) 地域経済論 A・B(各2)	※国際マーケティング論 A・B(各2) ※現代ファイナンス論 A・B(各2) 国際貿易論 (2) 企業経済論 A・B(各2) ※開発金融論 (2) ※国際協力論 (2) 会計学応用Ⅰ(財務会計) A・B(各2) 会計学応用Ⅱ(管理会計) A・B(各2) 監査論 (2) 税務会計 (2) リスク・マネジメント A・B(各2) 企業経営史 A・B(各2) ※ニュービジネス論 A・B(各2) 国際会計制度 A・B(各2) 企業経営論 A・B(各2) 商法二部 (4) 経済法 (4) 特別講義Ⅱ (2)	民法二部 (4) 労働法 (4) 経営学 (4) ＊他コース 選択科目 ドイツ語上級Ⅰ(注2) A・B(各2) ドイツ語上級Ⅱ(注2) A・B(各2) 他学部公開科目

(注1)「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)」「ドイツ語(b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
(注2)「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)」「ドイツ語(b)」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

2016年度以降入学生向け
国際経済学科　履修案内

国際経済学科履修案内　目次

Ⅰ. 教育課程および単位制度……55
Ⅱ. 卒業所要単位……56
Ⅲ. 卒業再試験規程……58
Ⅳ. 進級規程……59
Ⅴ. 科目履修基準……61
Ⅵ. 国際経済学科カリキュラム……63
1. 基礎教育科目……63
2. 外国語科目……63
3. 保健体育科目……67
4. 総合教育科目……69
5. 専門教育科目……72

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度以降入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門科目（必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、特に国際経済についての理解が深まるよう、また、体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年に配当して授業を実施している。

なお、専門科目のうち、必修科目は、国際経済学科独自の科目であり、英語で経済学を学ぶための入門科目である。選択必修科目は、主に国際経済学科独自の科目からなり、国際経済を学ぶ上での基礎的な理論を学ぶ科目とともに、英語で専門科目を学ぶ科目から構成される。選択科目は、他学科と共通する基本的な科目を配置した共通科目群とともに、国際投資・開発科目群、地域経済研究科目群から構成されている。選択科目を構成する科目群のどれを選択するかは、学生の自主的判断に委ねられる。自由科目は、経済学部の他学科の科目の他、グローバル・オープン科目をはじめとする他学部の科目である。

その他、教育職員の免許状を取得しようとする者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

経済学部では、さらに、大学院経済学研究科と連携し、有望な学生の大学院進学を奨励する一環として、学部４年次での大学院修士課程１年次科目の履修を認めている。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であるとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

国際経済学科　２０１６年度入学生

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部国際経済学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して**、合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上）。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる**。

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝20単位
　第一外国語 12 単位＋第二外国語６単位＋選択必修科目 2 単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目　≧ 24 単位
(5) 専門教育科目の合計　≧ 70単位
(6) 専門教育科目のうち必修科目　＝４単位
(7) 専門教育科目のうち選択必修科目　≧ 20単位
(8) 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目　≧ 62単位
(9) 外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目　≧ 120単位

〔国際経済学科 2016年度以降入学生 卒業所要単位表〕

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>区　　分</th><th colspan="3">卒業に必要な単位</th><th></th></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td colspan="2">必　　修　　４単位</td><td></td><td>４
単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td colspan="2">必　　修　　12単位</td><td></td><td rowspan="8">120
単位
以上</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td colspan="2">必　　修　　６単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td colspan="2">選択必修　　２単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="2">必　　修　　２単位</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2">自由選択</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">選択必修　　24単位以上</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必修科目</td><td>４単位</td><td rowspan="4">62単位以上</td><td rowspan="4">70単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td></td></tr>
<tr><td>自由科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

※外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目の単位数を合算しても116単位にしかならないことに注意。120単位を満たすためには、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目、専門教育科目の区分で最低単位数以上の履修が必要になる。

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定日に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、57頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（選択必修科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「D」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「E」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに専門教育科目のうち必修科目4単位と総合計50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目のうち
　　・第一外国語　　12単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目 ≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち必修科目 ＝４単位
　⑥ 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目 ≧44単位
　⑦ 総合計単位数 ≧88単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

国際経済学科　２０１６年度以降入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="9">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td colspan="2" rowspan="9">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td rowspan="9">２年次から３年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td></td><td rowspan="9">50
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td></td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td></td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>必修　４単位</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td>必修　４単位</td><td rowspan="9">88
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必修　12単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必修　６単位</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>４単位</td><td rowspan="3">44単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td><td></td><td></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	63～67ページ参照	スポーツ総合A/B	69ページ参照	入門ゼミA/B	英語で学ぶ経済学入門A/B	75ページ参照				
	１０科目・１０単位	２　単　位	８　単　位	４　単　位	４単位	12単位			10単位	

40単位制限内で登録

※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	63～67ページ参照								１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	８科目・８単位								加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生	63～67ページ参照								１・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	２単位								加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録								加算８単位		
	※4 64単位以内で登録										

※1 資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2 １年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3 ４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4 ４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は61頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。

② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅵ. 国際経済学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミＡ・Ｂ」は１年次生に設置している半期２単位、合計４単位の必修科目である。授業はすべて本学部専任教員が担当し、クラス単位で実施される。なお、本年度の国際経済学科の入門ゼミは、20～30名単位の少人数演習形式で実施する。

「入門ゼミＡ（２単位）」では、大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。共通シラバスに基づき、専門書の読み方や資料・統計類の取り扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。

「入門ゼミＢ（２単位）」では、教材として英語の文献などを用いて、担当する専任教員の関心分野を中心に指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

学生の皆さんは、１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後の「ゼミナール選択」や科目履修の準備をするとともに、４年間、着実に学習を進めて欲しい。

なお、３年次までに当該単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

国際経済学科では、国際共通語となりつつある英語の能力を高めることを重視するとともに、それ以外の外国語も学ぶことによって、多様性を持つ国際社会の動向に対応できるよう下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・日本語（外国人留学生対象）

なお外国語や外国の文化・思想を理解するとともに、自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用されたい。

(2) 履修基準・配当年次・科目

〔2016年度以降入学生〕

	必修科目		選択必修科目	合計
	第一外国語：英語	第二外国語	英語（2017年度より開講）	
1年次生	Reading and Interaction 1 A・B Writing and Interaction 1 A・B Listening and Presentation 1 A・B の６科目計６単位	英語以外の外国語（a）（b）A・Bの４科目計４単位		計10単位
2年次生	Reading and Interaction 2 A・B Writing and Interaction 2 A・B Listening and Presentation 2 A・B の６科目計６単位	英語以外の外国語（c）A・Bの２科目計２単位		計８単位
2～4年次生			Academic Presentation and Interaction A・B Academic Reading and Interaction A・B Academic Writing and Interaction A・B Academic Listening and Interaction A・B Modern Novel A・B TOEFL and IELTS Preparation A・B TOEIC Preparation A・B Media English A・B のうちから２科目計２単位	計２単位
卒業所要単位　計20単位				

〔外国人留学生：2016年度以降入学生〕

	必修科目		選択必修科目	合計
	第一外国語：英語	第二外国語：日本語	英語（2017年度より開講）	
1年次生	Reading and Interaction 1 A・B Writing and Interaction 1 A・B Listening and Presentation 1 A・B の６科目計６単位	日本語（a）（b）A・Bの４科目計４単位		計10単位
2年次生	Reading and Interaction 2 A・B Writing and Interaction 2 A・B Listening and Presentation 2 A・B の６科目計６単位	日本語（c）A・Bの２科目計２単位		計８単位
2～4年次生			Academic Presentation and Interaction A・B Academic Reading and Interaction A・B Academic Writing and Interaction A・B Academic Listening and Interaction A・B Modern Novel A・B TOEFL and IELTS Preparation A・B TOEIC Preparation A・B Media English A・B のうちから２科目計２単位	計２単位
卒業所要単位　計20単位				

(3) 第一外国語（英語）の構成について

第一外国語（英語）は、必修科目と選択必修科目から構成される。

国際経済学科生は、卒業要件として1・2年次配当の英語必修科目12単位を3年次までに、2～4年次配当の英語選択必修科目2単位を卒業時までに履修し、修得しなければならない。

a．英語必修科目

必修科目は、英語コミュニケーションの能力育成のための基盤科目であることを考慮し、1・2年次に配当している。各科目の概要としては、特定の単一の英語技能に偏ることなく、４技能のバランスを重視した科目群を配置している。

※英語熟達度別クラスについて

2007年度から国際経済学科では英語熟達度別クラスを導入している。英語熟達度クラスはTOEIC®-IP試験のスコアをもとに決定される。

ｂ．英語選択必修科目

英語選択必修科目は、学生の関心や就職、留学、研究などの将来の必要性などを十分に考慮し、下記の多様性ある科目群を、2～4年に配置している。

英語選択必修科目については、出来るだけ、2年次に履修し、単位を修得しておくことを推奨する。受講者数制限があるので、担当教員の指示に従うこと。

英語選択必修科目	開講期間	単位数
Academic Presentation and Interaction A・B	春学期・秋学期	各1単位
Academic Reading and Interaction A・B		
Academic Writing and Interaction A・B		
Academic Listening and Interaction A・B		
Modern Novel A・B		
TOEFL and IELTS Preparation A・B		
TOEIC Preparation A・B		
Media English A・B		

ｃ．科目履修登録上の留意事項

英語圏などの文化・思想に関する基礎的な知識を理解するとともに、グローバル社会にも十分対応できるだけの高度な英語コミュニケーション能力を育成するためには、1・2年に配当されている英語必修科目だけではなく、2～4年に配当されている英語選択必修科目を、各自の興味、関心、必要性等に応じて積極的に履修し、3年次までに修得しておくことが望まれる。

(4) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検）、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について、各々下記のとおり英語(必修・選択必修科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

ａ．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大８単位まで認定・免除
(基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大４単位を追加できる)

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする。

注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。

注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位

（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。

注意４:TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。

ｂ．手続きの方法

<u>当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。</u>申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なおスポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合Ａ・Ｂ（必修）	各１	１年～	春・秋学期	授業時間割により、指定されたクラスで春・秋学期に履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合Ａ・Ｂ２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

ａ．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合Ａ・Ｂは１年次配当の半期１単位の必修科目で、スポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目である。Ａが春学

期、Ｂが秋学期の科目である。後述のように、Ａ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

ｂ．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

ｃ．スポーツ総合Ａ・Ｂ（１年次生）について

授業内容については、各自シラバスをよく確認のうえ、履修すること。

ｄ．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

ｅ．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。また、春学期中に退部をした場合は、秋学期の単位付与に関わるため、至急事務課に申し出ること。

ｆ．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

4．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2016年度以降入学生　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△English CommunicationⅠA・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△English CommunicationⅡA・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△English CommunicationⅢA・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠA・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーションⅡA・B (各2)
言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーションA・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)	自然科学特講 (2)		△資格をめざすフランス語A・B (各2)
○現代社会と宗教 A・B(各2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーションⅠA・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーションⅡA・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅠA・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅡA・B (各2)

←――――――――― 卒業所要単位（24単位以上） ―――――――――→

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ 56～60頁を参照のこと。

〔注２〕通年科目・半期科目ともに、同名の科目を２つ以上履修することはできない。
例）半期科目（２単位）を履修する場合
→同名の半期科目を２つ履修することはできない。
春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中、△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、○印の科目は他学部主催科目である。

〔注５〕クラス授業の時間割上、１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。

〔注６〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

ａ．人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には、現代社会における人間のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

ｂ．社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきていることもあるので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

ｃ．自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然科学を扱う学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かという問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

ｄ．総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

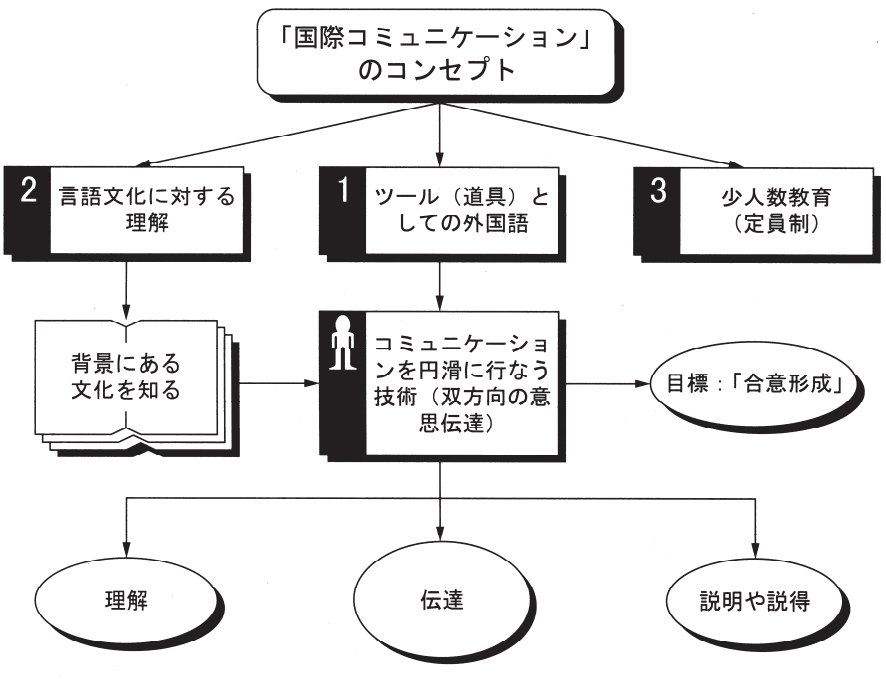
e．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

国際経済学科の専門教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目の４つの科目の種類から編成されている。さらに選択科目は、国際投資・開発科目群、地域経済研究科目群、共通科目群の３つのいずれかに位置づけられている。

・専門教育科目一覧表 ⇒（75頁）を参照

ａ．必修科目「英語で学ぶ経済学入門Ａ・Ｂ」４単位

国際経済学科独自の科目である「英語で学ぶ経済学入門Ａ・Ｂ」を1年次に配当している。この科目では、国際標準の英文テキスト(原書)を用い、今後の４年間、英語で経済学を学んでいく基本として、英文により経済学の基礎知識を身につけることを目標とする。テキストとなる原書テキストを国際経済学科生全員が、4年間身近に置き、より専門的な国際経済分野も英語で学べるようにすることが求められる。

なお、**２年次までに必修科目「英語で学ぶ経済学入門Ａ・Ｂ」の単位を修得できない場合は３年次に進級できないので留意すること。**

ｂ．選択必修科目

国際経済学科独自の科目を中心に、国際経済を学ぶ基礎理論とともに、英語により経済学や国際経済を学ぶ科目を１・２・３年次に配当している。国際経済を理解するために不可欠な科目が、年次ごとに段階を追って学習するように配置されている。なるべくその開設年次に修得しておくことが望ましい。

また、専門科目を英語で学ぶ科目が、1・2・3年次に、あわせて４科目配当され、これらの授業はすべて英語で行われる。

ｃ．選択科目

国際経済学科の選択科目は、国際投資・開発科目群、地域経済研究科目群、共通科目群の３つのいずれかに位置づけられている。学生は、これらの科目群の中から自由に科目を選択し、履修することになる。その際には、各自の問題意識と関心に応じて適宜選択されたい。国際経済学科では、多くの科目が２年次に配置されているため、履修単位数の制限上、３年次に履修を繰り延べるものも出てくる。なお、演習（ゼミナール）は２～４年の３年間を通した選択科目として位置づけられており、３年間を通じて１人の専任教員のもとで履修する。

・ゼミナールの履修 ⇒（151、152頁）を参照　　・特別講義の履修 ⇒（155頁）を参照

３つの科目群の位置づけと特徴

〈国際投資・開発科目群〉「グローバル・ビジネス分析、国際開発」

この科目群は、グローバル化する経済で活躍する企業や国際的な資金調達の問題などを扱う。さらに、グローバル化する世界の環境・政治・文化の側面か

ら、国際経済の理解を深める。

〈地域研究科目群〉「地域・比較分析」

日本と関係の深いアメリカ、ヨーロッパ、アジアという３地域を重視し、その経済実態を解明する。

〈共通科目群〉「普遍性・基礎分析、データ分析」

経済学部で学んだと言うためには、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学、社会経済学、経済史、金融、財政といった経済学を学ぶ上での基本科目の修得が必要となる。また、国際経済学科では、世界経済の実態を知るために、データ分析やコンピュータによる情報処理技術の取得を重視している。

ｄ．自由科目

国際経済を学ぶ上では、より広い経済やビジネスの知識が必要となることがあるため、現代ビジネス学科や経済学科の専門科目のうち、国際経済学科の選択科目に配置されていない科目が、自由科目として配置されている。

他学部で開設されている英語で学ぶ科目である、グローバル・オープン科目は、より英語力を高めようとする学生の履修が勧められる。また、経済学を学ぶ際に求められる、総合的な思考力や判断力を養成するため、経営学や法律学など経済学に隣接した分野の諸科目を自由科目として配置している。また各種国家試験等に必要な科目も設置しているので、必要に応じて選択し履修されたい。

ただし、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外になるので、十分注意すること。

(2) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目の履修にあたっては、次頁の表のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

【設置科目】

科　　目　　名	履修対象	受　講　定　員
コンピューター入門Ａ・Ｂ	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×８クラス
データ解析入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×１クラス
コンピューター科学Ａ・Ｂ	３・４年次	48名×１クラス

(3) 外国語セミナー科目の履修

選択科目・地域研究科目群である「Academic Research SeminarＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、「スペイン語セミナーＡ・Ｂ」には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(4) その他

演習（ゼミナール）、卒業論文（４年次）、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

2016年度以降入学生　国際経済学科　専門教育科目一覧表（※は2018年度未開講の科目）

【表の見方】
（）内は単位数
演習（8）は8単位で2時限連続授業

【履修上の注意】
必修科目は2年次終了までに単位を取得すること

配当年次	必修科目	選択必修科目	選択科目			自由科目
			共通科目	国際投資・開発	地域経済研究	
1年次配当	英語で学ぶ経済学入門A・B（各2）	データで知る世界経済A・B（各2） Japan and the Global Economy A・B（各2） ビジネス数学入門A・B（各2）	社会経済学基礎A・B（各2） 現代経済学基礎A・B（各2） 経済史A・B（各2） 統計学A・B（各2） コンピューター入門A・B（各2） Practical Economics A・B（各2）			簿記ⅠA・B（各2） 企業経営入門A・B（各2）
2年次配当		国際経済論A・B（各2） 開発経済入門A・B（各2） Principles of Economics A・B（各2） Demography A・B（各2）	ミクロ経済学A・B（各2） マクロ経済学A・B（各2） 社会経済学応用A・B（各2） 財政学A・B（各2） 金融論A・B（各2） 計量経済学A・B（各2） データ解析入門A・B（各2） 経済データ分析A・B（各2） 企業実務研究A・B（各2）	国際ビジネス論A・B（各2） 経済人類学A・B（各2） 環境経済論A・B（各2） ビジネスプログラミング入門A・B（各2） 現代ファイナンス入門A・B（各2） Business Communication IA・B（各2）	経済地理A・B（各2） 日本経済論A・B（各2） アメリカ経済論A・B（各2） ヨーロッパ経済論A・B（各2） 現代アジア経済論A・B（各2） 中国経済論A・B（各2） Academic Research Seminar A・B（各2） ドイツ語セミナーA・B（各2） フランス語セミナーA・B（各2） 中国語セミナーA・B（各2） スペイン語セミナーA・B（各2） Business Research Seminar A・B（各2）	会計学入門A・B（各2） 原価計算A・B（各2） コーポレートガバナンス論A・B（各2） 社会経済思想史A・B（各2） 簿記ⅡA・B（各2） 日本国憲法A・B（各2） 民法一部A・B（各2） 商法一部A・B（各2） ドイツ語中級A・B（各2）（注1）
			演習（2年次）（8） スタディ・アブロード（専門）Ⅰ～Ⅲ			
3・4年次配当		国際貿易論A・B（各2） 国際金融論A・B（各2） 開発経済論A・B（各2） International Economics A・B（各2） Area Studies A・B（各2）	現代経済学応用A・B（各2） コンピューター科学A・B（各2） 経済の数理A・B（各2） [院]ミクロ経済学A・B（各2） [院]マクロ経済学A・B（各2） [院]計量経済学A・B（各2） [院]社会経済学A・B（各2） [院]経済史A・B（各2）	※国際投資論A・B（各2） 国際関係論A・B（各2） 企業経済論A・B（各2） 産業組織論A・B（各2） 地球環境論A・B（各2） Business CommunicationIIA・B（各2）	地域経済論A・B（各2） 世界経済史A・B（各2）	労働経済論A・B（各2） 経済政策論A・B（各2） 公共経済論A・B（各2） 経済学史A・B（各2） 世界の文化と思想A・B（各2） 環境科学A・B（各2） ※景気循環論 日本経済史A・B（各2） 農業経済論A・B（各2） 社会政策論A・B（各2） 社会保障論A・B（各2） 金融各論ⅠA・B（各2） 政治過程論（2） 国際政治論（2） 経済統計論A・B（各2） 情報経済論A・B（各2） 地方財政論A・B（各2） 金融各論ⅡA・B（各2） 企業金融論A・B（各2） 数理統計学A・B（各2） 現代社会と情報A・B（各2） 日本思想史（2） 日本文化史（2） 日本文化論（2） 芸術と社会（2） 環境政策論A・B（各2） スポーツ経済論（2） 財務諸表論A・B（各2） 管理会計A・B（各2） 監査論A・B（各2） リスク・マネジメントA・B（各2） 企業経営史A・B（各2） 国際会計制度A・B（各2） 企業経営論A・B（各2） 経営学A・B（各2） 民法二部A・B（各2） 商法二部A・B（各2） 経済法A・B（各2） 労働法A・B（各2） ドイツ語上級ⅠA・B（各2）（注2） ドイツ語上級ⅡA・B（各2）（注2） 特別講義Ⅱ 他学部公開科目
			演習（3年次）（8） 演習（4年次）（4） 比較経済システム論A・B（各2） 寄付講座　証券市場論 特別講義Ⅰ			

（注1）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
（注2）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

2015年度以前入学生向け
国際経済学科　履修案内

国際経済学科履修案内　目次

Ⅰ. 教育課程および単位制度……79
Ⅱ. 卒業所要単位……80
Ⅲ. 卒業再試験規程……81
Ⅳ. 進級規程……82
Ⅴ. 進級再試験規程……82
Ⅵ. 科目履修基準……86
Ⅶ. 国際経済学科カリキュラム……90
　1. 基礎教育科目……90
　2. 外国語科目……90
　3. 保健体育科目……92
　4. 総合教育科目……94
　5. 専門教育科目……97

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度入学生で科目名称、
単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門科目（基本科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、特に国際経済についての理解が深まるよう、またより柔軟でかつ体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年に配当して授業を実施している。

なお、専門教育科目のうち基本科目については、他学科と共通するものと国際経済学科独自のものから構成されている。同じく専門教育科目の中に位置づけられる選択科目は、国際ビジネス科目群、国際協力科目群、地域研究科目群、共通科目群から構成されている。選択科目を構成する各科目群は、個別専門科目の位置づけを示しており、どれを選択するかは学生の自主的判断に委ねられる。

その他、教育職員の免許状を取得しようとする者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であるとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部国際経済学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して**、合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上）。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる**。

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝20単位
　　第一外国語 14 単位＋第二外国語６単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目 ≧ 24 単位
(5) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目 ≧ 58 単位
(6) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目＋自由科目 ≧ 70 単位
(7) 保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目 ≧ 100単位

〔卒業所要単位表〕

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>区　分</th><th colspan="2">卒業に必要な単位</th></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td>必　修　４単位</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必　修　14単位</td><td rowspan="2">20単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必　修　６単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必　修　２単位</td><td rowspan="5">100単位以上</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td>自由選択</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td>選択必修　24単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基　本　科　目</td><td rowspan="3">58単位以上
70単位以上</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="2">124単位以上</td></tr>
</table>

〔注意〕本規程は、経済学部国際経済学科生に適用する

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において､専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定期間内に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、80頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（基本科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「Ｄ」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「Ｅ」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕以下の科目は、現在（授業開始前)、９月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。
①9月卒業再試験を行う科目
日本国憲法、中国語セミナーA、政治過程論、民法一部A、民法二部A、商法一部A、商法二部A、ロシア語セミナーA、日本思想史、日本文化史、経済史、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）A、国際会計制度A、経済法、国際ビジネス論A
②9月卒業再試験を行わない科目
地域経済論A、西洋経済史A、国際貿易論A、現代経済学応用A、比較経済システム論A、Area Studies A、特別講義（グローバル資本主義論Ⅰ)、特別講義（グローバル資本主義論Ⅲ)、マクロ経済学A（檜野)、企業と経済・応用A、ビジネス英語初級A（G.ファーン、S.ハリス)、ビジネス英語中級A（G.ファーン)、会計学入門Ⅱ（原価計算）A、会計学応用（管理会計）A、ミクロ経済学A（細矢)、企業経営史A

〔注５〕以下の科目は、現在（授業開始前)、３月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。
①3月卒業再試験を行う科目
中国語セミナーB、民法一部B、民法二部B、商法一部B、商法二部B、ロシア語セミナーB、日本文化史、経済史（摂津)、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）B、国際会計制度B、経済法、国際ビジネス論B、簿記入門（丸岡）
②3月卒業再試験を行わない科目
社会経済学基礎（大友)、地域経済論B、国際貿易論B、現代経済学応用B、国際政治論、比較経済システム論B、Area Studies B、特別講義（グローバル資本主義論Ⅱ)、ビジネス英語中級B（R.デレザ、G.ファーン)、日本文化論、マクロ経済学B（檜野)、企業と経済・応用B、ビジネス英語初級B（G.ファーン、S.ハリス)、会計学入門Ⅱ（原価計算）B、ミクロ経済学B（細矢)、企業経営史B

〔注６〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝20単位）
　　・第一外国語　　14単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち、基本科目＋国際経済学科選択科目≧42単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注１〕本規程は、経済学部国際経済学科生にのみ適用される。
〔注２〕進級に関する再試験は、３年次に配当された英語を除いて実施しない。

Ⅴ. 進級再試験規程

国際経済学科生に限り４年次への進級時の進級判定において、３年次配当の英語(g)Ａ・Ｂの進級所要単位に不足がある者は、進級再試験を受けることができる。ただし、「Ｅ」評価の場合は対象外とする。
※１・２年次配当の英語については再試験対象外となるので注意すること。

〔注１〕この規程は、経済学部国際経済学科生に適用する。
〔注２〕２・３年次への進級時の進級再試験は行わない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝20単位）
　　・第一外国語　　14単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち、基本科目＋国際経済学科選択科目≧42単位
(3) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注１〕本規程は、経済学部国際経済学科生にのみ適用される。
〔注２〕進級に関する再試験は、３年次に配当された英語を除いて実施しない。

Ⅴ. 進級再試験規程

国際経済学科生に限り４年次への進級時の進級判定において、３年次配当の英語(g) A・Bの進級所要単位に不足がある者は、進級再試験を受けることができる。ただし、「E」評価の場合は対象外とする。
※１・２年次配当の英語については再試験対象外となるので注意すること。

〔注１〕この規程は、経済学部国際経済学科生に適用する。
〔注２〕２年次への進級時の進級再試験は行わない。

２０１２年度～２０１５年度入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="8">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td rowspan="8" colspan="2">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="8">２年次から３年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td rowspan="8" colspan="2">50単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="8">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2">必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="2">必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td><td></td><td rowspan="2">42単位以上</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td><td>国際経済学科選択科目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

２０１１年度以前入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="3">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="7">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2" rowspan="7">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td>２年次から３年次</td><td colspan="4">と　く　に　な　し</td></tr>
<tr><td rowspan="9">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td colspan="2">必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td colspan="2">卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="2">必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td><td></td><td rowspan="2">42単位以上</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td><td>国際経済学科選択科目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td><td></td><td></td></tr>
</table>

〔注１〕２年次から３年次への進級に関する規程はない。ただし、再履修単位に制限があり、また４年次への進級には各科目の制約があるため２年次終了時までの修得単位が少ないとき、３年次に進級した時点で３年次留級が確定する場合がある。次頁以降の「科目履修基準」をよく理解し、計画的に履修すること。

〔注２〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

２０１２年度～２０１５年度入学生

Ⅵ. 科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	〈第一外国語〉 英語(a)・(b)・(c) 〈第二外国語〉 英語以外の (a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	世界の経済 社会経済学基礎 現代経済学入門 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記入門 企業経営入門		
	５科目・10単位	２　単　位	８　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			10単位	

40単位制限内で登録　　※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	〈第一外国語〉 英語(d) A・B 英語(e) A・B 英語(f) A・B 〈第二外国語〉 英語以外の (c) A・B							１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	８科目・８単位							加算８単位		

40単位制限内で登録　　加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生	〈第一外国語〉 英語(g) A・B							１・2年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	２科目・２単位							加算８単位		

40単位制限内で登録　　加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録							加算８単位		
	※464単位以内で登録									

※1 資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2 １年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3 ４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4 ４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。

Ⅵ. 科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

2010年度以降入学生（１年次）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
1年次生	〈第一外国語〉 英語(a)・(b)・(c) 〈第二外国語〉 英語以外の (a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	世界の経済 社会経済学基礎 現代経済学入門 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記入門 企業経営入門	(a) 教職関係科目
	５科目・10単位	２　単　位	８　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			

40単位制限内で登録　　※1加算６単位

2009年度以前入学生（１年次）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
1年次生	〈第一外国語〉 英語(a)・(b)・(c) 〈第二外国語〉 英語以外の (a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	世界の経済 社会経済学基礎 現代経済学基礎 経済史 統計学 コンピュータ入門		簿記 企業経営入門	(a) 教職関係科目
	５科目・10単位	２　単　位	８　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			

40単位制限内で登録　　※1加算６単位

共通（２年次以降）

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
2年次生	〈第一外国語〉 英語(d)Ａ・Ｂ (e)Ａ・Ｂ (f)Ａ・Ｂ 〈第二外国語〉 英語以外の (c)Ａ・Ｂ							(a)再履修科目１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目
	８科目・８単位							

40単位制限内で登録　　※2加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
3年次生	〈第一外国語〉 英語(g)Ａ・Ｂ							(a)再履修科目１・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目
	２科目・２単位							

40単位制限内で登録　　※2加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録							
	64単位以内で登録							

※1 １年次には教職関係科目を、最高履修単位に６単位まで加算して履修できる。
※2 ２・３年次の教職・資格関係科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、２・３年次の各最高履修単位に24単位を加算した範囲で履修することができる。
※3 ４年次では４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は86頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。

② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は87頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。

② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職・資格関係科目を履修する学生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、教職・資格関係科目の履修単位は、２・３年次においてはそれぞれ24単位を限度とする。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位：40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
３年次生	（１・２年次配当単位：80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
４年次生	（１～３年次配当単位：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 64単位				

(3) 留級者の履修単位

ガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅶ. 国際経済学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミ」は１年次生に設置している４単位の必修科目である。授業はすべて本学部専任教員が担当し、クラス単位で実施される。なお、本年度の国際経済学科の入門ゼミは、20～30名単位の少人数形式で実施する。

「入門ゼミ」では大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。共通シラバスに基づき、専門書の読み方や資料・統計類の取り扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。また、教材として英語の文献などを用いて、担当する専任教員の関心分野を中心に指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

学生の皆さんは、１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後の「ゼミナール選択」や科目履修の準備をするとともに、４年間、着実に学習を進めて欲しい。

なお、３年次までに当該単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

国際経済学科では、国際共通語となりつつある英語の能力を高めることを重視するとともに、それ以外の外国語も学ぶことによって、多様性を持つ国際社会の動向に対応できるよう下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・日本語（外国人留学生対象）

なお外国語や外国の文化・思想を理解するとともに、自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用されたい。

※英語熟達度別クラスについて

2007年度１年次生から国際経済学科では英語熟達度別クラスを導入している。英語熟達度別クラスは上級、中級、基礎の３レベルに分かれ、TOEFL®-ITPレベル2 試験のスコア等をもとに決定される。

(2) 履修基準・配当年次・科目

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	英語(a)(b)(c)の３科目　計６単位	英語以外の外国語(a)(b)の２科目　計４単位	計10単位
２年次生	英語(d)A・B(e)A・B(f)A・Bの６科目　計６単位	英語以外の外国語(c)A・Bの２科目　計２単位	計８単位
３年次生	英語(g)A・Bの２科目　計２単位		計２単位
卒業所要単位　計 20 単位			

〔注意〕英語以外の外国語科目の授業はクラス単位で実施する。時間割により指定されたクラスで履修すること。

※英語（g）再履修について

英語（g）A・Bの２科目は、2018年度以降開講しない。従って、英語（g）A・Bの単位を未修得の15年度以前入学国際経済学科生は、履修登録期間前に必ず経済学部事務課まで相談に来ること。

(3) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検)、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について､各々下記のとおり英語(必修･選択必修科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

ａ．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大８単位まで認定・免除
(基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大４単位を追加できる)

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする。

注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。

注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。

注意４:TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。

ｂ．手続きの方法

当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なおスポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合（必修）	2	１年～	年間	授業時間割により、指定されたクラスで年間を通して履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

ａ．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合は１年次配当の通年２単位必修科目である。またスポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目で、Ａが春学期、Ｂが秋学期の科目である。ただし、後述のように、なるべくＡ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

ｂ．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

ｃ．スポーツ総合（１年次生）について

授業内容については、各自シラバスをよく確認のうえ、履修すること。

ｄ．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

ｅ．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。

ｆ．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

４．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2010年度～2015年度入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△英語コミュニケーション初級A・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△英語コミュニケーション中級A・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語コミュニケーション上級A・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーション初級A・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーション中級A・B (各2)
△言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーション初級A・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)			△フランス語コミュニケーション中級A・B (各2)
○現代社会と宗教 A (2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーション初級A・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーション中級A・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション初級A・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション中級A・B (各2)

←――― 卒業所要単位（24単位以上） ―――→

2009年度以前入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学 (4)	数学 (4)	△キャリアデザイン論 (2)	△英語コミュニケーションⅠ (4)
外国文学 (2)	地理学 (4)	物理学 (4)	△多摩地域形成論 (2)	△英語コミュニケーションⅡ (4)
倫理学 (4)	文化人類学 (2)	地学 (2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語演習 (4)
芸術 (2)	日本史 (2)	化学 (2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠ (4)
△文章表現 (4)	外国史 (2)	生物学 (4)		△ドイツ語コミュニケーションⅡ (4)
△言語学 (4)	法学 (4)	科学史 (2)		△フランス語コミュニケーションⅠ (4)
○現代史 (4)	社会学 (4)			△フランス語コミュニケーションⅡ (4)
哲学 (4)	心理学 (4)			
論理学 (4)	○国際社会論 (2)			
民俗学 (4)				

←――― 卒業所要単位（24単位以上） ―――→

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ 80～85頁を参照のこと。

〔注２〕通年科目・半期科目ともに、同名の科目を２つ以上履修することはできない。

例）半期科目（２単位）を履修する場合

→同名の半期科目を２つ履修することはできない。

春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中、△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、〇印の科目は他学部主催科目である。
〔注５〕クラス授業の時間割上、１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。
〔注６〕2014年度より法学、法学Ａ・Ｂには日本国憲法単位は含まれなくなった。教職課程を履修する学生は経済学部事務課に相談すること。
〔注７〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。
〔注８〕総合教育科目設置科目一覧表に記載のない「日本史Ⅰ・Ⅱ」、「外国史Ⅰ・Ⅱ」、「哲学Ⅰ・Ⅱ」、「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は教職科目であり、それらの修得単位は卒業所要単位に含まれないため注意すること(2014年度以前入学生のみ)。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

ａ．人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には、現代社会における人間のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

ｂ．社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきていることもあるので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

ｃ．自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然科学を扱う学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かと

いう問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

ｄ．総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

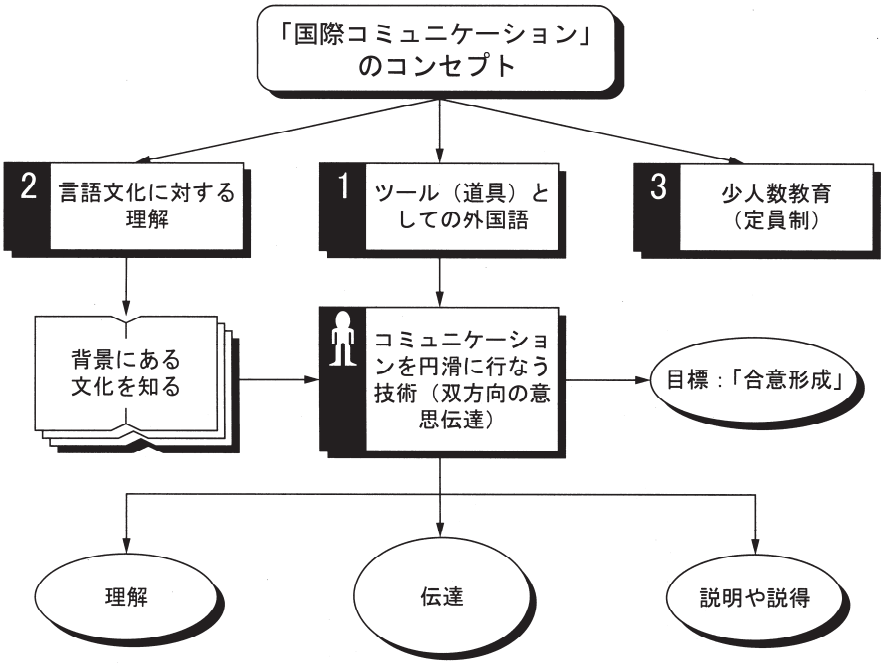
ｅ．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

国際経済学科の専門教育科目は、基本科目、選択科目、自由科目の３つの科目の種類から編成されている。さらに選択科目は、国際ビジネス科目群、国際協力科目群、地域研究科目群、共通科目群の４つのいずれかに位置づけられている。

・専門教育科目一覧表 ⇒（100、101頁）を参照

ａ．基本科目

他学科と共通する基礎的な専門教育科目を１・２年次に配当するとともに、国際経済学科独自の基本科目「世界の経済」を１年次に配当してある。これは世界経済の現状に対する関心を喚起するためのものである。

他学科と共通する科目も含めて、経済学的なものの考え方や、高学年での個別テーマに特化した専門的な学習を行う際に必要な基礎的事項について学習する科目である。なるべくその開設年次に修得しておくことが望ましい。

ｂ．選択科目

国際経済学科の選択科目は、国際ビジネス科目群、国際協力科目群、地域研究科目群、共通科目群の４つのいずれかに位置づけられている。学生は、これらの科目群の中から自由に科目を選択し、履修することになる。その際には、各自の問題意識と関心に応じて適宜選択されたい。２年次に配置されている科目であっても、履修単位数の制限上、３年次に履修を繰り延べるものも出てくる。なお、演習（ゼミナール）は２～４年の３年間を通した選択科目として位置づけられている。

・ゼミナールの履修 ⇒（151、152頁）を参照　　・特別講義の履修 ⇒（155頁）を参照

４つの科目群の位置づけと特徴

〈国際ビジネス科目群〉「グローバル化＝ビジネス分析」

この科目群は、21世紀型国際経済と、そこで活躍する企業や国際的な資金調達の問題などを扱う。

〈国際協力科目群〉「国際貢献・ネットワーク分析」

国際的ネットワークの中で先進国間の経済調整、発展途上国に対する経済協力、新しい国際経済秩序のあり方などを扱う。

〈地域研究科目群〉「地域・比較分析」

日本と関係の深いアメリカ、ヨーロッパ、アジアという３地域を重視し、その経済実態を解明する。

〈共通科目群〉「普遍性・基礎分析」

経済学部で学んだと言えるためには、基本科目や他の３つの選択科目群に配当されている科目だけでは不足気味になる。これを補うために配置されているのが共通科目群である。

ｃ．自由科目

経済学を学ぶ際（あるいは社会に出てから）、経済学の専門知識だけではなく、同時に総合的な思考力や判断力が求められる。こうした能力を養成するため、経営学や法律学など経済学に隣接した分野の諸科目を自由科目として配置している。各種国家試験等に必要な科目も設置しているので、必要に応じて選択し履修されたい。なお他学科の選択科目を修得した場合も、この自由科目の所要単位としてカウントする。自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外になるので、十分注意すること。

ｄ．履修に関する留意事項

・１年次生では、８科目（基本科目６科目、自由科目２科目）を開設しているが、そのうち４科目まで履修できる。１年次生で履修しない基本科目については２年次において履修し、修得することが望ましい。なお、「世界の経済」は１年次に修得しておくことが望ましい。
・学年の進行にしたがって順次配当されている科目を、基本科目→選択科目→自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。
・２年次以上に配当されている専門教育科目の多くは、同一名称の科目にＡ・Ｂが付され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。しかし科目Ｂを履修するためには、同一年度に科目Ａの修得を必要とするものが多いので、ＳＡ留学（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない限り、春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。
・市ヶ谷開講の財政学A・B、経済政策論A・B、国際経済論A・Bについては、４年次のみ履修可。初回の授業に出席すること。
既に同名称科目を修得済の場合、履修できない。また、同名称科目を同年度内に市ヶ谷地区と多摩地区では履修できない。

(2) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目７科目の履修にあたっては、次頁の表のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

なお、予備登録に際し「ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ」、「コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ」は経済学科政策情報コース所属の学生を優先する。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

〔履修方法・その他詳細については、ガイダンス時に指示する〕。

【設置科目】

科　目　名	系　列	履修対象	受　講　定　員
コンピュータ入門	基本科目	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	選択科目〈共通科目群〉	２～４年次	48名×８クラス
コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	選択科目〈共通科目群〉	２～４年次	48名×１クラス
コンピュータ科学Ａ・Ｂ （ネットワークを中心に）	選択科目〈共通科目群〉	３・４年次	48名×１クラス

(3) 外国語セミナー科目の履修

選択科目・地域研究科目群である「英語セミナーＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、「スペイン語セミナーＡ・Ｂ」には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(4) その他

演習（ゼミナール＝２～４年次）、卒業論文（４年次）、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

２０１０年以降度国際経済学科入学生

(11) 専門教育科目一覧表 （※は 2018 年度未開講の科目）

系列 / 科目群	基本科目	選択科目 国際ビジネス科目群	選択科目 国際協力科目群	選択科目 地域研究科目群	選択科目 共通科目群	自由科目 他学科科目	自由科目
１年次配当	世界の経済 (4) 社会経済学基礎 (4) 現代経済学入門 (4) 経済史 (4) 統計学 (4) コンピュータ入門 (4) Japan and the Global Economy A・B(各２) Practical Economics A・B(各２)					企業経営入門 (4)	簿記入門 (4) ビジネス数学入門 A・B(各２)
２年次配当	社会経済学応用 A・B(各２) 日本経済論 A・B(各２) 国際経済論 A・B(各２) ミクロ経済学 A・B(各２) マクロ経済学 A・B(各２) Principles of Economics A・B(各２)	国際ビジネス論 A・B(各２) ※貿易実務 A・B(各２) 現代ファイナンス入門 A・B(各２)	開発経済論 A・B(各２) 国際関係論 A・B(各２) 経済人類学 A・B(各２) 環境経済論 A・B(各２)	経済地理 A・B(各２) アメリカ経済論 A・B(各２) ヨーロッパ経済論 A・B(各２) 現代アジア経済論 A・B(各２) 中国経済論 A・B(各２) 外国語セミナー A・B(各２) [英・独・仏・中・西]	財政学 A・B(各２) 金融論 A・B(各２) 経済の数理 A・B(各２) ビジネスプログラミング入門 A・B(各２) コンピュータによるデータ解析 A・B(各２) 企業実務研究 A・B(各２)	労働経済論 A・B(各２) 経済政策論 A・B(各２) 経済学史 A・B(各２) 公共経済論 A・B(各２) 世界の文化と思想 A・B(各２) 環境科学 A・B(各２) ビジネス英語初級 A・B(各２) 経済データ分析 A・B(各２) 会計学入門Ⅰ（財務会計） A・B(各２) 会計学入門Ⅱ（原価計算） A・B(各２) コーポレートガバナンス論 A・B(各２) 商法一部 (4)	日本国憲法 (4) 民法一部 (4) 開発経済入門 A・B(各２) Demography A・B(各２) 簿記Ⅱ A・B(各２) ドイツ語中級（注1） A・B(各２)
		演習（２年次）(8)					
３・４年次配当	International Economics A・B(各２) Area Studies A・B(各２)	※国際マーケティング論A・B(各２) ※現代ファイナンス応用A・B(各２) 国際貿易論 A・B(各２) 国際金融論 A・B(各２) 企業経済論 A・B(各２)	※開発金融論 (2) ※国際協力論 (2) 地球環境論 A・B(各２)		現代経済学応用 A・B(各２) 計量経済学 A・B(各２) ※東洋経済史 A・B(各２) 西洋経済史 A・B(各２) 時事英語セミナー A・B(各２) コンピュータ科学(ネットワークを中心に) A・B(各２) 比較経済システム論 A・B(各２) 特別講義Ⅰ (2)	※景気循環論 (2) 日本経済史 A・B(各２) 社会経済思想史 A・B(各２) 農業経済論 A・B(各２) 社会政策論 A・B(各２) 金融各論Ⅰ A・B(各２) 政治過程論 (2) 国際政治論 (2) 経済統計論 A・B(各２) 情報経済論 A・B(各２) 地方財政論 A・B(各２) 社会保障論 A・B(各２) 産業組織論 A・B(各２) 金融各論Ⅱ A・B(各２) 企業金融論 A・B(各２) 数理統計学 A・B(各２) 現代社会と情報 A・B(各２) 日本思想史 (2) 日本文化史 (2) 日本文化論 (2) ※芸術と社会 (2) 環境政策論 A・B(各２) 人間とスポーツ (2) 商法二部 (4) 経済法 (4) 特別講義Ⅱ (2)	民法二部 (4) 労働法 (4) 経営学 (4) 地域経済論 A・B（各２） ドイツ語上級Ⅰ（注2） A・B(各２) ドイツ語上級Ⅱ（注2） A・B(各２) 他学部公開科目 会計学応用Ⅰ（財務会計） A・B(各２) 会計学応用Ⅱ（管理会計） A・B(各２) ビジネス英語中級 A・B(各２) 監査論 A・B(各２) リスク・マネジメント A・B(各２) 企業経営史 A・B(各２) ※ニュービジネス論 A・B(各２) 国際会計制度 A・B(各２) 企業経営論 A・B(各２)
		演習（３年次）(8) 演習（４年次）(4)					

【表の見方】
（ ）内は単位数
演習(8)は８単位で２時限連続授業

【履修上の注意】
A・B分割科目
２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適用者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。

専門教育科目
他学科の科目を自由科目として履修することができる。学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外

（注１）「ドイツ語中級Ａ・Ｂ」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

（注２）「ドイツ語上級ⅠＡ・Ｂ」「ドイツ語上級ⅡＡ・Ｂ」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」「ドイツ語（c）Ａ・Ｂ」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

２００９年度以前国際経済学科入学生

(11) 専門教育科目一覧表　（※は 2018 年度未開講の科目）

系列 / 科目群	基本科目	選択科目 国際ビジネス科目群	選択科目 国際協力科目群	選択科目 地域研究科目群	選択科目 共通科目群	自由科目 他学科科目	自由科目
1年次配当	世界の経済 (4) 社会経済学基礎 (4) 現代経済学基礎 (4) 経済史 (4) 統計学 (4) コンピュータ入門 (4) Japan and the Global Economy A・B(各2) Practical Economics A・B(各2)					企業経営入門 (4)	簿記 (4) ビジネス数学入門 A・B(各2)
2年次配当	社会経済学応用 A・B(各2) 現代経済学応用 A・B(各2) 日本経済論 A・B(各2) 国際経済論 A・B(各2) Principles of Economics A・B(各2)	国際ビジネス論 A・B(各2) ※貿易実務 A・B(各2)	開発経済論 A・B(各2) 国際関係論 A・B(各2) 経済人類学 A・B(各2) 環境経済論 A・B(各2)	経済地理 A・B(各2) アメリカ経済論 A・B(各2) ヨーロッパ経済論 A・B(各2) 現代アジア経済論 A・B(各2) 中国経済論 A・B(各2) 外国語セミナー A・B(各2) [英・独・仏・中・西]	財政学 A・B(各2) 金融論 A・B(各2) 経済の数理 A・B(各2) ビジネスプログラミング入門 A・B(各2) コンピュータによるデータ解析 A・B(各2) 企業実務研究 A・B(各2)	産業労働論 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 経済学史 A・B(各2) 公共経済論 A・B(各2) 環境政策論 A・B(各2) 外国の文化と思想 A・B(各2) 自然環境論 A・B(各2) 現代ファイナンス入門 A・B(各2) 経済データ分析 A・B(各2) 原価計算 A・B(各2) コーポレートガバナンス論A・B(各2) 商法一部 (4) 会計学 (4)	日本国憲法 (4) 民法一部 (4) Demography A・B(各2) 簿記Ⅱ A・B(各2) 開発経済入門 A・B(各2) ドイツ語中級（注1） A・B(各2)
		演習（２年次）(8)					
3・4年次配当	International Economics A・B(各2) Area Studies A・B(各2)	※国際マーケティング論A・B(各2) ※現代ファイナンス論 A・B(各2) 国際貿易論 (2) 国際金融論 A・B(各2) 企業経済論 A・B(各2)	※開発金融論 (2) ※国際協力論 (2)		ミクロ経済学 A・B(各2) マクロ経済学 A・B(各2) 計量経済学 A・B(各2) ※東洋経済史 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 時事英語セミナー A・B(各2) コンピュータ科学（ネットワークを中心に） (2) 比較経済システム論 A・B(各2)	世界システム論 (2) 日本経済史 A・B(各2) 社会経済思想史 A・B(各2) 工業経済論 A・B(各2) 農業経済論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 労働経済論 A・B(各2) 金融各論Ⅰ A・B(各2) 政治過程論 (2) 国際政治論 (2) 経済統計論 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) 金融各論Ⅱ A・B(各2) 企業金融論 A・B(各2) 数理統計学 A・B(各2) 現代社会と情報 A・B(各2) 日本思想史 (2) 日本文化史 (2) 日本文化論 (2) ※芸術と社会 (2) 環境科学 A・B(各2) 商法二部 (4) 経済法 (4) 特別講義Ⅱ (2)	民法二部 (4) 労働法 (4) 経営学 (4) ※地域経済論 A・B（各2） ドイツ語上級Ⅰ（注2） A・B(各2) ドイツ語上級Ⅱ（注2） A・B(各2) 他学部公開科目 会計学応用Ⅰ（財務会計） A・B(各2) 会計学応用Ⅱ（管理会計） A・B(各2) 監査論 (2) 税務会計 (2) リスク・マネジメント A・B(各2) 企業経営史 A・B(各2) ※ニュービジネス論 A・B(各2) 国際会計制度 A・B(各2) 企業経営論 A・B(各2) 人間とスポーツ (2) 時事独語セミナー A・B(各2) 時事仏語セミナー A・B(各2) 環境と技術 (2)
		演習（３年次）(8) 演習（４年次）(4)					

【表の見方】
（　）内は単位数
演習(8)は８単位で２時限連続授業

【履修上の注意】
A・B分割科目
２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適用者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。

専門教育科目
他学科の科目を自由科目として履修することができる。学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外となることがあるので留意すること。

（注１）「ドイツ語中級Ａ・Ｂ」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

（注２）「ドイツ語上級ⅠＡ・Ｂ」「ドイツ語上級ⅡＡ・Ｂ」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」「ドイツ語（c）Ａ・Ｂ」の単位を修得済みの方のみ履修可

2016年度以降入学生向け
現代ビジネス学科　履修案内

現代ビジネス学科履修案内　目次

Ⅰ．教育課程および単位制度……105
Ⅱ．卒業所要単位……106
Ⅲ．卒業再試験規程……108
Ⅳ．進級規程……109
Ⅴ．科目履修基準……111
Ⅵ．現代ビジネス学科カリキュラム……113
　１．基礎教育科目……113
　２．外国語科目……113
　３．保健体育科目……116
　４．総合教育科目……118
　５．専門教育科目……121

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度以降入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門科目（必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、特に現代のビジネス経済に関わる諸課題についての理解を深めるために、体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年にわたり配当している。専門教育科目のうち、必修科目と選択必修科目、選択科目は現代ビジネス学科独自の科目を中心に構成されているが、他学科と共通する科目も含まれる。

その他、教育職員の免許状取得希望者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

経済学部では、さらに、大学院経済学部研究科と連携し、有望な学生の大学院進学を奨励する一環として、学部４年次での大学院修士課程１年次科目の履修を認めている。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であるとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

現代ビジネス学科　２０１６年度以降入学生

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部現代ビジネス学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して、**合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上)。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる。**

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝12単位
　第一外国語６単位＋第二外国語６単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目　≧　22 単位
(5) 専門教育科目の合計　≧　80単位
(6) 専門教育科目のうち必修科目　＝４単位
(7) 専門教育科目のうち選択必修科目　≧　24単位
(8) 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目　≧　66単位
(9) 外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目　≧　120単位

〔現代ビジネス学科 2016年度以降入学生 卒業所要単位表〕

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>区　分</th><th colspan="3">卒業に必要な単位</th><th></th></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入門ゼミ</td><td colspan="3">必修　4単位</td><td>4
単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td colspan="3">必修　6単位</td><td rowspan="8">120
単位
以上</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td colspan="3">必修　6単位</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td colspan="3">必修　2単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="3">自由選択</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="3">選択必修　22単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必修科目</td><td>4単位</td><td rowspan="4">66単位以上</td><td rowspan="4">80単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>24単位以上</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td></td></tr>
<tr><td>自由科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

※外国語科目＋保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目の単位数を合算しても116単位にしかならないことに注意。120単位を満たすためには、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目、専門教育科目の区分で最低単位数以上の履修が必要になる。

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定日に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、107頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（選択必修科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「Ｄ」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「Ｅ」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕現代ビジネス学科においては進級再試験はいっさい行わない。

〔注５〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては､以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに専門教育科目のうち必修科目4単位と総合計50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝12単位）
　　・第一外国語　　６単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目 ≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち必修科目 ＝４単位
　⑥ 専門教育科目のうち必修科目＋選択必修科目＋選択科目 ≧50単位
　⑦ 総合計単位数 ≧88単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

現代ビジネス学科　２０１６年度以降入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="4">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="8">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td colspan="3" rowspan="8">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td></tr>
<tr><td rowspan="8">２年次から３年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td></td><td rowspan="8">50
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td></td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>必修　４単位</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入　門　ゼ　ミ</td><td>必修　４単位</td><td rowspan="8">88
単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必修　６単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必修　６単位</td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>４単位</td><td rowspan="3">50単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td></td></tr>
<tr><td>選　択　科　目</td><td></td></tr>
<tr><td>自　由　科　目</td><td></td><td></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	113～116ページ参照	スポーツ総合A/B	118ページ参照	入門ゼミA/B	企業と経済・基礎A/B	123ページ参照				
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	４単位	12単位			10単位	

40単位制限内で登録

※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	113～116ページ参照								１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	４科目・４単位								加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生									１・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
									加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目				再履修科目	教職・資格科目	
					必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録								加算８単位		
	※4 64単位以内で登録										

※1　資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2　１年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3　４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4　４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は111頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

● ２～４年次生で、〈再履修単位の合計が24単位を超える者〉は、その超過単位分について、年間通常履修単位（40単位）の中から、それを振替えて履修することができる。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

各年次のガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅵ. 現代ビジネス学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミＡ・Ｂ」は１年次生に設置している半期２単位、合計４単位の必修科目で、授業はすべて本学部専任教員が担当しクラス単位で実施される。

この科目では、大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。専門書の読み方や資料・統計類の取扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。

なお、本年度の現代ビジネス学科の入門ゼミは、20～30名単位の少人数演習形式で実施する。経済学部専任教員が授業を担当し、大学生として必要な上記学習と、現代ビジネス学科の主要科目の基礎知識の指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

学生の皆さんは、１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後の「ゼミナール選択」や科目履修の準備をするとともに、４年間着実に学習を進めて欲しい。

なお、３年次までに当該単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

現代ビジネス学科では、最近の日本の急速な国際化に対応できるよう学生諸君の語学力を高めるため、下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・日本語（外国人留学生対象）

なお、外国語や外国の文化・思想を理解するとともに自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用されたい。

(2)履修基準・配当年次・科目

〔2016年度以降入学生〕

	必修科目		合計
	第一外国語：英語	第二外国語	
1 年次生	Reading and Interaction A・B Listening and Presentation A・B の4科目計4単位	英語以外の外国語（a）（b）A・Bの4科目計4単位	計8単位
2 年次生	Writing and Interaction A・B の2科目計2単位	英語以外の外国語（c）A・B の2科目計2単位	計4単位
卒業所要単位　計12単位			

〔外国人留学生：2016年度以降入学生〕

	必修科目		合計
	第一外国語：英語	第二外国語	
1 年次生	Reading and Interaction A・B Listening and Presentation A・B の4科目計4単位	日本語（a）（b）A・B の4科目計4単位	計8単位
2 年次生	Writing and Interaction A・B の2科目計2単位	日本語（c）A・B の2科目計2単位	計4単位
卒業所要単位　計12単位			

（３）第一外国語（英語）の構成について

第一外国語（英語）は、必修科目と選択科目から構成される。

現代ビジネス学科生は、卒業要件として1・2年次配当の英語必修科目6単位を3年次までに履修し、修得しなければならない。

2～4年次配当の英語選択科目については、英語必修科目に振り替えることはできないが、卒業所要単位に含めることが出来る。

ａ．英語必修科目

必修科目は、英語コミュニケーションの能力育成のための基盤科目であることを考慮し、1・2年次に配当している。各科目の概要としては、特定の単一の英語技能に偏ることなく、４技能のバランスを重視した科目群を配置している。

※英語熟達度別クラスについて

2016年度から現代ビジネス学科では英語熟達度別クラスを導入している。

英語熟達度クラスはTOEIC®-IP試験のスコアをもとに決定される。

ｂ．英語選択科目（2017年度より開講）

英語選択科目は、学生の関心や就職、留学、研究などの将来の必要性などを十分に考慮し、多様性ある科目群を、2～4年に配置している。（受講者数制限あり）

英語選択科目	開講期間	単位数
Academic Presentation and Interaction A・B	春・秋学期	各1単位
Academic Reading and Interaction A・B		
Academic Writing and Interaction A・B		
Academic Listening and Interaction A・B		
Modern Novel A・B		
TOEFL and IELTS Preparation A・B		
TOEIC Preparation A・B		
Media English A・B		

ｃ．科目履修登録上の留意事項

英語圏などの文化・思想に関する基礎的な知識を理解するとともに、グローバル社会にも十分対応できるだけの高度な英語コミュニケーション能力を育成するためには、1・2年に配当されている英語必修科目だけではなく、できるだけ2～4年に配当されている英語選択科目を、各自の興味、関心、必要性等に応じて積極的に履修していくことが望まれる。

(4) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検）、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について、各々下記のとおり英語(必修・選択科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

ａ．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大６単位まで認定・免除
（基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大２単位を追加できる）

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする。

注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。

注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。

注意４:TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ないので注意。

ｂ．手続きの方法

当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なおスポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合Ａ・Ｂ（必修）	各１	１年～	春・秋学期	授業時間割により、指定されたクラスで春・秋学期に履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合Ａ・Ｂ２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

ａ．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合Ａ・Ｂは１年次配当の半期１単位必修科目で、スポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目である。Ａが春学

期、Ｂが秋学期の科目である。ただし、後述のように、なるべくＡ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

ｂ．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

ｃ．スポーツ総合Ａ・Ｂ（１年次生）について

授業内容については、各自「シラバス」をよく確認のうえ、履修すること。

ｄ．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

ｅ．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。また、春学期中に退部をした場合は、秋学期の単位付与に関わるため、至急事務課に申し出ること。

ｆ．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

４．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2016年度以降入学生　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△English CommunicationⅠA・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△English CommunicationⅡA・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△English CommunicationⅢA・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠA・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーションⅡA・B (各2)
言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーションA・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)	自然科学特講 (2)		△資格をめざすフランス語A・B (各2)
○現代社会と宗教 A・B(各2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーションⅠA・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーションⅡA・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅠA・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーションⅡA・B (各2)

← 卒業所要単位（22単位以上） →

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ 106～110頁を参照のこと。

〔注２〕通年科目・半期科目ともに、同名の科目を２つ以上履修することはできない。

例）半期科目（２単位）を履修する場合

→同名の半期科目を２つ履修することはできない。

春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、○印の科目は他学部主催科目である。

〔注５〕クラス授業の時間割上１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。

〔注６〕2014年度より法学、法学Ａ・Ｂには日本国憲法単位は含まれなくなった。教職課程を履修する学生は経済学部事務室に相談すること。

〔注７〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

ａ．人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には現代社会における人間の精神のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

ｂ．社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきていることもあるので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

ｃ．自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然科学を扱う学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かという問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

ｄ．総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

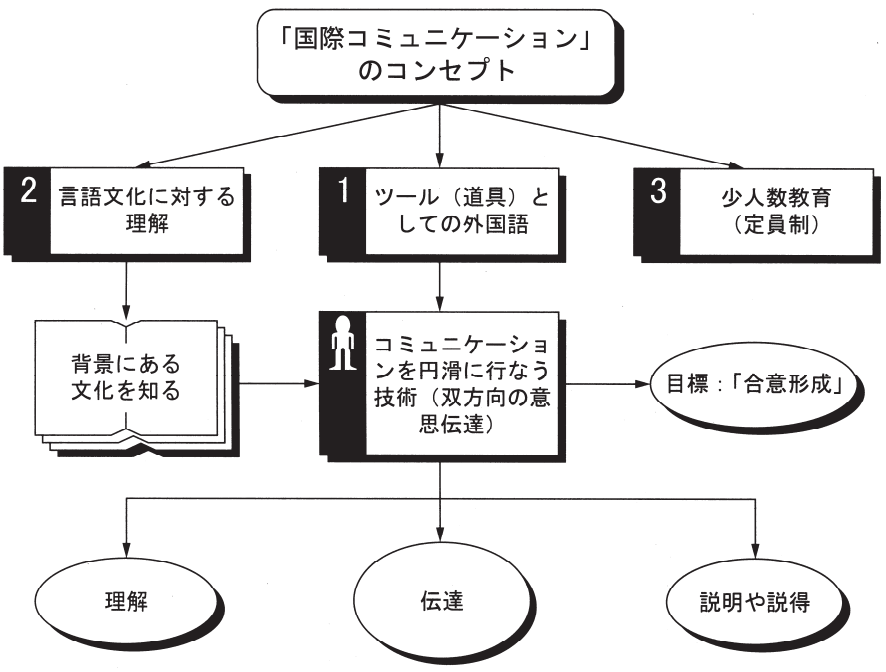
ｅ．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

現代ビジネス学科の専門教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目の４種類で編成されている。

・専門教育科目一覧表 ⇒（123頁）を参照

ａ．必修科目

経済学部で現代ビジネスを学ぶ基盤となる「企業と経済・基礎Ａ・Ｂ」を必修科目として１年次に配当している。卒業に必要となる科目であり、１年次に修得することが望ましい。なお、２年次までに必修科目「企業と経済・基礎Ａ・Ｂ」の単位を修得できない場合は、３年次に進級することができないので留意すること。

ｂ．選択必修科目

現代ビジネス学科固有の基礎的な科目、および経済学科、国際経済学科に共通する基礎的な科目を選択必修科目として１・２・３年の各年次に配当している。今日の経済学の基礎を学ぶ科目、現代のビジネス経済を理解するうえで不可欠な科目を、年次毎に段階を追って学習できるように配置している。学生諸君は、その開設年次に修得しておくことが望ましい。

ｃ．選択科目

企業経営、経営分析、会計制度など、現代ビジネスに関わる様々な分野のテーマを理解するための科目を、選択科目として開設している。多様な科目が体系的に配置されているが、学生諸君は、自らの問題意識に応じ、将来の進路の選択を考慮しつつ、自主的に選択することができる。演習（ゼミナール）は選択科目の一つであり、２年次から４年次までの３年間を通じて原則として１人の専任教員のもとで履修する。

・ゼミナールの履修 ⇒（151、152頁）を参照　　・特別講義の履修 ⇒（155頁）を参照

ｄ．自由科目

現代ビジネス関連の専門領域を学ぶためには、分野の枠を超えた総合的な思考力、判断力が求められる。こうした能力を養成するため、経済学の他分野の科目および法律学など隣接した領域の科目を、自由科目として配置している。

経済学科、国際経済学科の選択必修科目と選択科目は、現代ビジネス学科の選択必修科目、選択科目となっているものを除き、現代ビジネス学科の自由科目として位置づけられている。また、他学部の公開科目も同様に、現代ビジネス学科の自由科目となる。ただし、必要以上に修得した自由科目は、進級・卒業所要単位外となる。

(2) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目の履修にあたっては、下記のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

【設置科目】

科　　目　　名	履修対象	受　講　定　員
コンピューター入門Ａ・Ｂ	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×８クラス
データ解析入門Ａ・Ｂ	２～４年次	48名×１クラス
コンピューター科学Ａ・Ｂ	３・４年次	48名×１クラス

(3) 外国語セミナー科目の履修

「Academic Research SeminarＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(4) その他

演習（ゼミナール＝２～４年次)、卒業論文（４年次)、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

2016年度入学生　現代ビジネス学科　専門教育科目一覧表（※は2018年度未開講の科目）

【表の見方】
（）内は単位数
演習（8）は8単位で2時限連続授業

【履修上の注意】
必修科目は2年次終了までに単位を取得すること

配当年次	必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目
1年次配当	企業と経済・基礎A・B（各2）	簿記ⅠA・B（各2） コンピューター入門A・B（各2） 企業経営入門A・B（各2） ビジネス数学入門A・B（各2）	社会経済学基礎A・B（各2） 経済史A・B（各2） 統計学A・B（各2）	データで知る世界経済A・B（各2） Japan and the Global Economy A・B（各2） Practical Economics A・B（各2）
2年次配当		経済データ分析A・B（各2） 企業と経済・応用A・B（各2） 簿記ⅡA・B（各2） 会計学入門A・B（各2） 原価計算A・B（各2） 日本経済論A・B（各2） 現代ファイナンス入門A・B（各2） Business Communication IA・B（各2）	演習（2年次）（8） 金融論A・B（各2） 財政学A・B（各2） 産業集積論（2） 経済地理（2） 商法一部A・B（各2） ビジネスプログラミング入門A・B（各2） コーポレートガバナンス論A・B（各2） 国際ビジネス論A・B（各2） 企業実務研究A・B（各2） 計量経済学A・B（各2） Business Research Seminar　A・B（各2） スタディ・アブロード（専門）Ⅰ～Ⅲ	社会経済学応用A・B（各2） マクロ経済学A・B（各2） ミクロ経済学A・B（各2） 国際経済論A・B（各2） 環境経済論A・B（各2） 経済人類学A・B（各2） Academic Research Seminar A・B（各2） ドイツ語セミナーA・B（各2） フランス語セミナーA・B（各2） 中国語セミナーA・B（各2） Demography A・B（各2） 開発経済入門A・B（各2） データ解析入門A・B（各2） アメリカ経済論A・B（各2） ヨーロッパ経済論A・B（各2） 現代アジア経済論A・B（各2） 中国経済論A・B（各2） 社会経済思想史A・B（各2） 日本国憲法A・B（各2） 民法一部A・B（各2） Principles of Economics A・B（各2） ドイツ語中級A・B（各2）（注1）
3・4年次配当		企業金融論A・B（各2） 財務諸表論A・B（各2） 管理会計A・B（各2） Business CommunicationⅡA・B（各2）	演習（3年次）（8） 演習（4年次）（4） リスク・マネジメントA・B（各2） 企業経営史A・B（各2） 企業経営論A・B（各2） 監査論A・B（各2） 国際会計制度A・B（各2） 金融ビジネス論A・B（各2） 比較経済システム論A・B（各2） 産業組織論A・B（各2） 労働経済論A・B（各2） ※国際投資論A・B（各2） 情報経済論A・B（各2） 企業経済論A・B（各2） 商法二部A・B（各2） 経済法A・B（各2） 経営学A・B（各2） 寄付講座　証券市場論（2） 特別講義Ⅰ [院]ミクロ経済学A・B（各2） [院]マクロ経済学A・B（各2） [院]計量経済学A・B（各2） [院]社会経済学A・B（各2） [院]経済史A・B（各2）	国際関係論A・B（各2） 経済政策論A・B（各2） 公共経済論A・B（各2） 開発経済論A・B（各2） 経済学史A・B（各2） 経済の数理A・B（各2） 世界の文化と思想A・B（各2） 環境科学A・B（各2） ※景気循環論 日本経済史A・B（各2） 農業経済論A・B（各2） 社会政策論A・B（各2） 社会保障論A・B（各2） 金融各論ⅠA・B（各2） 政治過程論（2） 国際政治論（2） 経済統計論A・B（各2） 世界経済史A・B（各2） 地方財政論A・B（各2） 国際金融論A・B（各2） 数理統計学A・B（各2） コンピューター科学A・B（各2） 現代社会と情報A・B（各2） 日本思想史（2） 日本文化史（2） 日本文化論（2） 芸術と社会（2） 地球環境論A・B（各2） 環境政策論A・B（各2） スポーツ経済論（2） 国際貿易論A・B（各2） International Economics A・B（各2） Area Studies A・B（各2） 地域経済論A・B（各2） 民法二部A・B（各2） 労働法A・B（各2） ドイツ語上級ⅠA・B（各2）（注2） ドイツ語上級ⅡA・B（各2）（注2） 特別講義Ⅱ 他学部公開科目

（注1）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
（注1）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

1年生以降入学生はこちらをご参照ください

2015年度以前入学生向け
現代ビジネス学科　履修案内

現代ビジネス学科履修案内　目次

Ⅰ．教育課程および単位制度……127
Ⅱ．卒業所要単位……128
Ⅲ．卒業再試験規程……129
Ⅳ．進級規程……130
Ⅴ．科目履修基準……134
Ⅵ．現代ビジネス学科カリキュラム……138
　１．基礎教育科目……138
　２．外国語科目……138
　３．保健体育科目……140
　４．総合教育科目……142
　５．専門教育科目……145

注意

１．2016年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2015年度以前入学生と2016年度以降入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべき箇所が異なる場合があるので、各自注意すること。

２．2016年度入学生より進級要件および履修基準が変更となった。参照すべきページが異なるので、各自注意すること。

Ⅰ．教育課程および単位制度

１．教育課程

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目および専門科目（基本科目、選択科目、自由科目）から構成される。経済学をより広い学際的視野の中に相対的に位置づけるとともに、特に現代のビジネス経済に関わる諸課題についての理解を深めるために、体系的な学習が可能となるよう、これらの科目を４ヵ年にわたり配当している。専門教育科目のうち、基本科目と選択科目は現代ビジネス学科独自の科目を中心に構成されているが、他学科と共通する科目も含まれる。

その他、教育職員の免許状取得希望者および社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

経済学部では、さらに、大学院経済学研究科と連携し、有望な学生の大学院進学を奨励する一環として、学部４年次での大学院修士課程１年次科目の履修を認めている。

２．単位制度

本学における教育課程は、すべて単位制度を採用している。

単位制度とは、ある授業科目の一つについて、次の基準にしたがって履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはリポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について１年間（科目によっては春学期又は秋学期のみ）の授業を受け終えた場合をいい、履修の終了が単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、算定している（学則第23条）。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習が車の両輪の関係にあるといえる。教科書や参考書を読むなど授業に備えて自ら行う学習は、学生の本来的な義務であるとともに、授業進行の前提である。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することが望まれる。

Ⅱ．卒業所要単位

経済学部現代ビジネス学科を卒業して学士（経済学）の学位を得るためには、**４年以上（最長８年）在学し、下記に定めた各科目区分の単位数をすべて修得して、**合計124単位以上を修得しなければならない。なお、4年次は学期を問わず、４単位以上を修得する必要がある（留級した場合は通算して４単位以上）。

以上の条件を満たせるもので、**９月卒業を希望する場合は、４月末日までに申請が必要となる。**

(1) 基礎教育科目（入門ゼミ）＝４単位
(2) 外国語科目＝14単位
　第一外国語８単位＋第二外国語６単位
(3) 保健体育科目（スポーツ総合）＝２単位
(4) 総合教育科目 ≧ 22単位
(5) 専門教育科目のうち基本科目 ≧ 24単位
(6) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目 ≧ 66単位
(7) 専門教育科目のうち基本科目＋選択科目＋自由科目 ≧ 82単位
(8) 保健体育科目＋総合教育科目＋専門教育科目 ≧ 106単位

〔卒業所要単位表〕

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>区　分</th><th colspan="2">卒業に必要な単位</th><th></th></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td>入門ゼミ</td><td>必修</td><td>４単位</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第一外国語</td><td>必修</td><td>８単位</td><td rowspan="2">14単位</td></tr>
<tr><td>第二外国語</td><td>必修</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修</td><td>２単位</td><td rowspan="5">106単位以上</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td colspan="2">自由選択</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td colspan="2">選択必修　22単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基本科目</td><td rowspan="2">基本：24単位以上
基本＋選択：
66単位以上</td><td rowspan="3">82単位以上</td></tr>
<tr><td>選択科目</td></tr>
<tr><td>自由科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業所要単位合計</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

〔注意〕　本規程は、経済学部現代ビジネス学科生に適用する。

Ⅲ. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が２科目以内（１科目の単位数が２単位または４単位にかかわらず）の者は、指定日に申し出ることによって再試験を受けることができる。ただし、３月卒業再試験の対象科目より春学開講科目は除外される。

※不足が３科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

〔注１〕上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、128頁〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目（基本科目・選択科目・自由科目）部分の要件すべてを指す。

〔注２〕卒業再試験の対象となる科目は、当該学期（3月卒業再試の場合は秋学期、9月卒業再試の場合は春学期）の履修登録科目のうち、期末試験、リポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「Ｄ」の評価を受けた科目に限られる。

〔注３〕下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。
卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。
①「Ｅ」評価（＝未受験）の科目
②総合教育科目
③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

〔注４〕以下の科目は、現在（授業開始前）、９月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。
①9月卒業再試験を行う科目
日本国憲法、中国語セミナーA、政治過程論、民法一部A、民法二部A、商法一部A、商法二部A、ロシア語セミナーA、日本思想史、日本文化史、経済史、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）A、国際会計制度A、国際経済論A（水田）、経済法、国際ビジネス論A
②9月卒業再試験を行わない科目
地域経済論A、西洋経済史A、国際貿易論A、現代経済学応用A、比較経済システム論A、Area Studies A、特別講義（グローバル資本主義論Ⅰ）、特別講義（グローバル資本主義論Ⅲ）、マクロ経済学A（檜野）、企業と経済・応用A、ビジネス英語初級A（G.ファーン、S.ハリス）、ビジネス英語中級A（G.ファーン）、会計学入門Ⅱ（原価計算）A、会計学応用（管理会計）A、ミクロ経済学A（細矢）、企業経営史A

〔注５〕以下の科目は、現在（授業開始前）、３月卒業再試験の有無が決定されている。
下記以外の科目については授業中に担当教員より指示を受けること。
①3月卒業再試験を行う科目
中国語セミナーB、民法一部B、民法二部B、商法一部B、商法二部B、ロシア語セミナーB、日本文化史、経済史（摂津）、労働法、会計学入門Ⅰ（財務会計）B、国際会計制度B、国際経済論B（水田）、経済法、国際ビジネス論B、簿記入門（田中／積、福島）
②3月卒業再試験を行わない科目
社会経済学基礎（大友）、地域経済論B、国際貿易論B、現代経済学応用B、国際政治論、比較経済システム論B、Area Studies B、特別講義（グローバル資本主義論Ⅱ）、ビジネス英語中級B（R.デレザ、G.ファーン）、日本文化論、マクロ経済学B（檜野）、企業と経済・応用B、ビジネス英語初級B（G.ファーン、S.ハリス）、会計学入門Ⅱ（原価計算）B、ミクロ経済学B（細矢）、企業経営史B

〔注６〕現代ビジネス学科においては、進級再試験はいっさい行わない。

〔注７〕秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第２年次から第３年次へ進級する者は、第２年次修了までに50単位以上修得していなければならない。
(3) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝14単位）
　　・第一外国語　　８単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち、基本科目＋選択科目≧48単位
(4) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

Ⅳ. 進 級 規 程

各学年へ進級するに際しては､以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、１単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度始め（４月１日付）をもって行う。

進級に関する規程

(1) 第１年次から第２年次へ進級する者は、第１年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
(2) 第３年次から第４年次へ進級する者は、第３年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
　① 基礎教育科目の卒業所要単位（＝入門ゼミ４単位）
　② 外国語科目の卒業所要単位（＝14単位）
　　・第一外国語　　８単位
　　・第二外国語　　６単位
　③ 保健体育科目の卒業所要単位（＝スポーツ総合２単位）
　④ 総合教育科目≧20単位
　⑤ 専門教育科目のうち、基本科目＋選択科目≧48単位
(3) 単位不足で第３年次（４年度目以降）に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第４年次には４単位以上修得しなければならない。

〔注〕進級再試験は実施しない。

２０１２年度～２０１５年度入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="2">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="7">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td rowspan="7">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="7">２年次から３年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td rowspan="7">50単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td rowspan="9">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td>必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td>卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td>卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td><td rowspan="2">48単位以上</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td><td></td></tr>
</table>

〔注〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

２０１１年度以前入学生

〔進級所要単位表〕

<table>
<tr><th>学　年</th><th>系列科目</th><th colspan="2">進級に必要な単位</th></tr>
<tr><td rowspan="7">１年次から２年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td rowspan="7">20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td></tr>
<tr><td>保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td></tr>
<tr><td>２年次から３年次</td><td colspan="3">と　く　に　な　し</td></tr>
<tr><td rowspan="8">３年次から４年次</td><td>基礎教育科目</td><td>入 門 ゼ ミ</td><td>必修　４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外 国 語 科 目</td><td>第 一 外 国 語</td><td>卒業所要単位</td></tr>
<tr><td>第 二 外 国 語</td><td>卒業所要単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科目</td><td>スポーツ総合</td><td>必修　２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ種目</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td></td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>基 本 科 目</td><td rowspan="2">48単位以上</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目</td></tr>
<tr><td>自 由 科 目</td><td></td></tr>
</table>

〔注１〕２年次から３年次への進級に関する規程はない。ただし、再履修単位に制限があり、また４年次への進級には各科目の制約があるため２年次終了時までの修得単位が少ないとき、３年次に進級した時点で３年次留級が確定する場合がある。次頁以降の「科目履修基準」をよく理解し、計画的に履修すること。

〔注２〕休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め（４月）に限る。(180～183頁参照)

２０１２年度～２０１５年度入学生

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目	教職科目	※1資格科目
1年次生	〈第一外国語〉英語(a)・(b) 〈第二外国語〉英語以外の(a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	企業と経済・基礎 簿記入門 コンピュータ入門 企業経営入門	社会経済学基礎 経済史 統計学			
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			10単位	

40単位制限内で登録

※2加算10単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
2年次生	〈第一外国語〉英語(c)Ａ・B (d)Ａ・B 〈第二外国語〉英語以外の(c)Ａ・B							１年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
	６科目・６単位							加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
3年次生								１・2年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。		
								加算８単位		

40単位制限内で登録

加算24単位

64単位以内で登録

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修科目	教職・資格科目	
					基本科目	選択科目	自由科目		教職科目	※1資格科目
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録							加算８単位		
	※464単位以内で登録									

※1 資格科目は、各年次６４単位以内で履修できる。
※2 １年次には教職科目を最高履修単位に１０単位まで加算して履修できる。
※3 ４年次では卒業所要単位に含まれる単位を４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。
※4 ４年次の教職科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、４年次の最高履修単位に２４単位を加算した範囲で履修することができる。
※ 2015年度以降入学の外国人留学生は、日本語を第一外国語として履修、第二外国語として日本語と母語以外の外国語を履修する（139頁参照）。

２０１１年度以前入学生

Ⅴ．科目履修基準

１．各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			教職科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
1年次生	〈第一外国語〉 英語(a)・(b) 〈第二外国語〉 英語以外の (a)・(b)	スポーツ総合		入門ゼミ	企業と経済・基礎簿記入門 コンピュータ入門 企業経営入門	社会経済学基礎 経済史 統計学		(a) 教職関係科目
	４科目・８単位	２　単　位	10　単　位	４　単　位	上記のうち４科目・16単位			

40単位制限内で登録　　※1加算６単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
2年次生	〈第一外国語〉 英語(c)Ａ・Ｂ (d)Ａ・Ｂ 〈第二外国語〉 英語以外の (c)Ａ・Ｂ							(a)再履修科目 １年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目
	６科目・６単位							

40単位制限内で登録　　※2加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
3年次生								(a)再履修科目 １・２年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。 (b)教職関係科目 (c)資格関係科目

40単位制限内で登録　　※2加算24単位

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目			再履修・教職・資格科目
					基本科目	選択科目	自由科目	
4年次生	※3４単位以上・40単位以内で登録							
	64単位以内で登録							

※1 １年次には教職関係科目を、最高履修単位に６単位まで加算して履修できる。
※2 ２・３年次の教職・資格関係科目については、各々履修単位に上限を設けていないため、２・３年次の各最高履修単位に24単位を加算した範囲で履修することができる。
※3 ４年次では４単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して４単位以上）。

２０１２年度以降入学生

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は134頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職科目を履修する２・３年次生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、再履修については８単位、教職科目の履修単位は２４単位を限度とする。

● ２～４年次生で、〈再履修単位の合計が24単位を超える者〉は、その超過単位分について、年間通常履修単位（40単位）の中から、それを振替えて履修することができる。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 8単位				

(3) 留級者の履修単位

各年次のガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

２．年間最高履修単位

(1) 年間最高履修単位

① 各年次配当（通常年間最高履修単位）は135頁のとおり、１～４年次生とも40単位である。
② 再履修（各年次配当未修得単位）および教職・資格関係科目を履修する学生は、各年次配当単位に24単位を限度として加算した合計単位の枠内で履修できる。ただし、教職・資格関係科目の履修単位は、２・３年次においてはそれぞれ24単位を限度とする。

● ２・３年次生で、〈再履修単位の合計が24単位を超える者〉および〈資格関係科目を24単位以上履修する者〉は、その超過単位分について、年間通常履修単位（40単位）の中から、それを振替えて履修することができる。

(2) 再履修単位とその算出基準

再履修とは下級年次における配当単位（科目）のうち、①登録した科目を履修した結果、不合格（ＤおよびＥ評価）となった単位分　②通常年間最高履修単位数まで登録せず、未履修（未登録）となった単位分について、その不足単位数を補填するために履修することを意味する。

再履修するにあたっては、３月上旬に情報ポータルサイトで発表される「成績通知書」で各自不足単位数（科目）を確認のうえ、下記の基準により再履修単位を確認すること。

年　次	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	専門教育科目
２年次生	（１年次配当単位合計： 40単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
３年次生	（１・２年次配当単位合計： 80単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 24単位				
４年次生	（１～３年次配当単位合計：120単位）－（修得済卒業所要単位）≦ 64単位				

(3) 留級者の履修単位

各年次のガイダンス期間に配布する「Web履修登録要領」にて、再履修について各自で確認すること。１年次生のみ「留級生ガイダンス」を行うので、留級生は必ず出席のこと。

※単位不足で３年次に留級となった者は、所定の履修単位制限内で履修できる。ただし留年した３年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、４年次には４単位以上修得しなければならない。

Ⅵ. 現代ビジネス学科カリキュラム

１．基礎教育科目

入門ゼミについて

「入門ゼミ」は１年次生に設置している４単位の必修科目で、授業はすべて本学部専任教員が担当しクラス単位で実施される。

この科目では、大学での学習のために必要な基礎的能力（読解力、表現力）を養うことを目的とする。専門書の読み方や資料・統計類の取扱い方、レジュメ（要点要約）やリポートのまとめ方、さらには図書館の利用方法などについても指導を行う。

なお、本年度の現代ビジネス学科の入門ゼミは、20～30名単位の少人数演習形式で実施する。経済学部専任教員が授業を担当し、大学生として必要な上記学習と、現代ビジネス学科の主要科目の基礎知識の指導を行う。

またこの科目は、「大学入門」的性格も持っており、学生と教員との密接な関係を育てていく上でも大きな役割を果たすことになる。科目担当教員は、学習の仕方など、個々の相談に応じる。

学生諸君は、１年次におけるこの科目での学習を基礎に、今後の「ゼミナール選択」や科目履修の準備をするとともに、４年間着実に学習を進めて欲しい。

なお、３年次までに当該単位を修得できない場合は、４年次に進級できないので留意のこと。

２．外国語科目

(1) 外国語科目の構成

現代ビジネス学科では、最近の日本の急速な国際化に対応できるよう学生諸君の語学力を高めるため、下記の外国語科目を設置している。

【設置科目】英語・ドイツ語・フランス語・中国語・日本語（外国人留学生対象）

なお、外国語や外国の文化・思想を理解するとともに自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、１・２年次生に配置される必修科目としての外国語科目だけでなく総合教育科目に位置づけられる各国語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる各国語セミナーも活用されたい。

(2) 履修基準・配当年次・科目

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	英語(a)(b)の２科目　計４単位	英語以外の外国語(a)(b)の２科目　計４単位	計８単位
２年次生	英語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	英語以外の外国語(c)A・Bの２科目　計２単位	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔外国人留学生：2014年度以前入学者〕

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	英語(a)(b)の２科目　計４単位	日本語(a)(b)の２科目　計４単位	計８単位
２年次生	英語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	日本語(c)A・Bの２科目　計２単位	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔外国人留学生：2015年度以降入学者〕

	第一外国語	第二外国語	合計
１年次生	日本語(a)(b)の２科目　計４単位	現代ビジネス学科で履修可能な日本語と母語以外の外国語(a)(b)の２科目(英語を含む) 計４単位 ※英語は必修科目を履修のこと	計８単位
２年次生	日本語(c)A・B (d)A・Bの４科目　計４単位	現代ビジネス学科で履修可能な日本語と母語以外の外国語(c)A・Bの２科目(英語を含む) 計２単位 ※英語は必修科目を履修のこと	計６単位
卒業所要単位　計 14 単位			

〔注意〕外国語科目の授業はクラス単位で実施する。時間割により指定されたクラスで履修すること。

(3) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部では、実用英語技能検定試験（英検)、TOEFL®、TOEIC®、IELTSのいずれかを受験し、一定の成績を取得した学生（入学以前に取得したものでも可能）について、各々下記のとおり英語(必修科目)の卒業所要単位として認定し、認定された部分の授業を免除する。

ａ．認定基準

基準１　英検一級、TOEFL®iBT105点（PBT617点）以上、TOEIC®920点以上、IELTS 7.0以上のいずれかを取得した学生
⇒ 英語の卒業所要単位として、通算で最大８単位まで認定・免除
(基準２で既に４単位の認定を受けている場合は最大４単位を追加できる)

基準２　英検準一級、TOEFL®iBT89点（PBT573点）以上、TOEIC®800点以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得した学生
⇒英語の卒業所要単位として、通算で最大４単位まで認定・免除

注意１：TOEFL®、TOEIC®、IELTSについては受験日より2年以内、英検については3年以内の取得成績を有効とする。

注意２：同一基準内での認定は、一度限りとする。

注意３：教員免許取得を目指している学生は、上記の認定単位は教職の単位（施行規則66条の６に定める科目）として認められないため、最低２単位分は学部開講の必修科目を履修し、単位を修得すること。

注意４:TOEFL®ITPやTOEIC®IPなどの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ないので注意。

注意５:外国人留学生は､第二外国語として英語を選択した場合のみ単位認定を行う。

ｂ．手続きの方法

当該年度４月末日までに、該当する試験の証明書を添えて経済学部事務課まで届け出ること。申請は毎年度一回限りとする。

３．保健体育科目

(1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになっている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記のとおり科目を設置している。なおスポーツ種目Ａ・Ｂは自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法
スポーツ総合（必修）	2	１年～	年間	授業時間割により、指定されたクラスで年間を通して履修する。

科 目 名	単位	履修年次	実施時期	履 修 方 法 (2) dを参照すること。
スポーツ種目Ａ（種目名・基礎）	1	２年～	春学期	１種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のＢ（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目Ｂ（種目名・応用）	1	２年～	秋学期	春学期に選択した種目をＢとして秋学期に履修する。春学期には同種目のＡ（基礎）を履修していなければならない。
［卒業所要単位］スポーツ総合２単位必修。スポーツ種目は２単位まで履修でき、卒業所要単位に算入できる。（卒業所要単位表参照のこと）				

(2) 履修基準・要領

保健体育科目については、授業への出席が単位修得の絶対条件となる。

ａ．卒業所要単位と履修年次

スポーツ総合は１年次配当の通年２単位必修科目である。またスポーツ種目Ａ・Ｂは２年次配当（２年次以降履修可）の半期１単位の選択科目で、Ａが春学期、Ｂが秋学期の科目である。ただし、後述のように、なるべくＡ・Ｂ合わせて２単位履修すること。

b．進級単位

３年次終了時までに、スポーツ総合の卒業所要単位を修得していない場合は４年次への進級はできない。

c．スポーツ総合（１年次生）について

授業内容については、各自「シラバス」をよく確認のうえ、履修すること。

d．スポーツ種目Ａ・Ｂ（２年次生～）の登録について

スポーツ種目（サッカー・フットサル、バレーボール）を履修するためには、通常の科目登録以前に担当教員の許可を受ける必要がある。履修希望者は必ず第一回目の授業に出席し、指示に従うこと。定員に余裕のある場合は第二回目の授業まで受付ける。

また、社会学部で開講されているスポーツ種目（サッカー、ヨガ、バドミントン、ソフトボール、野球、太極拳、卓球、テニス：内容は社会学部のシラバスを参照すること。）の定員に余裕がある場合は経済学部生も履修できるが、経済学部主催の種目とは曜日が異なるので注意すること。初回授業に出席して受講許可を得ること。

スポーツ種目は、ＳＡ（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない場合は、同一年度内に通年で同一種目のＡ・Ｂを春学期・秋学期に継続して履修すること。スポーツ種目Ａ・Ｂそれぞれを２回（ＡとＡ、ＢとＢ）履修することはできない。

e．体育会所属者の登録について

体育会に所属する学生は、１年間の体育会活動および各体育会の部長による評価により１年次に２単位を与える。当該年度の4月末までに「体育会活動による体育単位修得申請書」を経済学部事務課へ提出すること。なお、体育会所属者の履修登録の詳細は、ガイダンス時に指示する。途中で体育会を辞めた場合は、単位が与えられないので注意すること。

f．スポーツ総合、スポーツ種目の受講に関する留意事項

・特別の指示がない限り、運動に適した服装で出席のこと。運動靴は体育館用とグラウンド用を担当教員の指示で用意のこと。
・体育館内の更衣室の利用に際しては学生証が必要となる。なお、更衣ロッカーの鍵を紛失した場合は実費弁済となる。
・健康診断、一般計測及び運動適性検査は指示により全員受けること。

４．総合教育科目

(1) 総合教育科目の構成

専門的な学習を行う場合、同時にそれをより広い視野に立って常に捉え直すことが求められる。経済学部における総合教育科目は下表のとおり５分野の科目群で構成され、専門教育科目と連携して履修できるよう全学年を通じて有機的に配列している。

学生が様々なメニューの中から自らの問題意識に基づいてどのジャンル〈分野〉からでも自由に選択履修できるよう設定した。

〔総合教育科目設置科目一覧表〕

2010年度～2015年度入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学A・B(各2)	数学A・B(各2)	△キャリアデザイン論 (2)	△英語コミュニケーション初級A・B (各2)
世界の文学 A・B(各2)	地理学A・B(各2)	物理学A・B(各2)	△多摩地域形成論 (2)	△英語コミュニケーション中級A・B (各2)
倫理学 A・B(各2)	文化人類学A・B(各2)	地学A・B(各2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語コミュニケーション上級A・B (各2)
芸術 (2)	日本史A・B(各2)	化学A・B(各2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーション初級A・B (各2)
△文章表現 A・B(各2)	世界史A・B(各2)	生物学A・B(各2)		△ドイツ語コミュニケーション中級A・B (各2)
言語学 A・B(各2)	法学A・B(各2)	科学史A・B(各2)		△フランス語コミュニケーション初級A・B (各2)
○現代史 A・B(各2)	社会学A・B(各2)			△フランス語コミュニケーション中級A・B (各2)
○現代社会と宗教 A (2)	心理学A・B(各2)			△中国語コミュニケーション初級A・B (各2)
哲学 A・B(各2)	○国際社会論 (2)			△中国語コミュニケーション中級A・B (各2)
論理学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション初級A・B (各2)
民俗学 A・B(各2)				△スペイン語コミュニケーション中級A・B (各2)

←――― 卒業所要単位（22単位以上） ―――→

2009年度以前入学生　　（　）内は単位数

人文分野	社会分野	自然分野	総合分野	国際コミュニケーション分野
日本文学 (2)	政治学 (4)	数学 (4)	△キャリアデザイン論 (2)	△英語コミュニケーションⅠ (4)
外国文学 (2)	地理学 (4)	物理学 (4)	△多摩地域形成論 (2)	△英語コミュニケーションⅡ (4)
倫理学 (4)	文化人類学 (2)	地学 (2)	総合講座Ⅰ (2)	△英語演習 (4)
芸術 (2)	日本史 (2)	化学 (2)	総合講座Ⅱ (2)	△ドイツ語コミュニケーションⅠ (4)
△文章表現 (4)	外国史 (2)	生物学 (4)		△ドイツ語コミュニケーションⅡ (4)
言語学 (4)	法学 (4)	科学史 (2)		△フランス語コミュニケーションⅠ (4)
○現代史 (4)	社会学 (4)			△フランス語コミュニケーションⅡ (4)
哲学 (4)	心理学 (4)			
論理学 (4)	○国際社会論 (2)			
民俗学 (4)				

←――― 卒業所要単位（22単位以上） ―――→

〔注１〕総合教育科目の進級単位と卒業所要単位 ⇒ 128～133頁を参照のこと。

〔注２〕通年科目・半期科目ともに、同名の科目を２つ以上履修することはできない。

例）半期科目（２単位）を履修する場合

→同名の半期科目を２つ履修することはできない。

春学期または秋学期のいずれか半期（２単位）のみを履修すること。

〔注３〕上記表中△印の科目は受講人員に定員がある。初回の授業に出席し、担当教員の指示を受けること。ただし、多摩地域形成論は初回授業前にWeb抽選を行うので注意すること。

〔注４〕上記表中、○印の科目は他学部主催科目である。
〔注５〕クラス授業の時間割上１年次で選択できない科目がある。その場合は上級年次において履修すること。
〔注６〕2014年度より法学、法学Ａ・Ｂには日本国憲法単位は含まれなくなった。教職課程を履修する学生は経済学部事務室に相談すること。
〔注７〕キャリアデザイン論は１・２年次生のみ受講ができるため、計画的に履修すること。
〔注８〕総合教育科目設置科目一覧表に記載のない「日本史Ⅰ・Ⅱ」、「外国史Ⅰ・Ⅱ」、「哲学Ⅰ・Ⅱ」、「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は教職科目であり、それらの修得単位は卒業所要単位に含まれないため注意すること(2014年度以前入学生のみ)。

(2) 各分野の位置づけ

総合教育科目の各分野の科目は、次の位置づけにより開設している。「シラバス」に各科目の授業計画、成績評価基準等が示されているので、科目選択の目安として活用されたい。

ａ．人文分野

ここでいう人文ないし人文科学とは、人間および言語や文芸などの人類文化に関する学問の総称である。常識的には、思想に直接関連する文化を研究する学問領域が人文科学であると理解すればよい。いいかえると、歴史的な蓄積としての人類文化を、自然科学のように純客観的な科学の対象として見るのではなく、人間の精神のあり方と関わらせて考察し、それを通じて究極的には現代社会における人間の精神のあり方を追究する学問分野といえる。広義の経済学に属する諸学問を基底の所で支えるのは人間精神である。それゆえ経済学を理解するためには、人間精神の深い理解が必要であるから、積極的に人文分野の科目を履修されたい。

ｂ．社会分野

社会とは、２人以上の個人がなんらかの関係を取り結ぶ状態を意味する。人間は通常、誕生とともに家族という社会の中に置かれるし、長ずるにつれて、直接接する社会の範囲は、学校、地域、企業、国家と広がっていく。しかも、人生のどの段階であれ、生活するためには直接見聞することのない遠方の社会との関わりが不可欠であることも認識するようになる。そしてどの社会であれ、独自の歴史を有している。こうしたさまざまな社会を理解することが、経済的な問題解決のために必要となる。経済学は、社会を扱うさまざまな学問との交流の中で発展してきていることもあるので、積極的に社会分野の科目を履修されたい。

ｃ．自然分野

経済学は社会に関する科学である。しかるに科学は自然科学と同等視されたり、自然科学を扱う学問が科学のモデルとされてきた。また近年の急速な技術の進歩は、自然科学の発展を基礎にしている。それゆえ、科学としての経済学を理解するためには、自然科学分野の諸学問を学ぶことが有意義となる。自然科学の基礎的な知識

を身につけ、自然科学的な「ものの見方」や「考え方」を理解し、科学とは何かという問題を考察することは、きわめて重要である。科学の共通言語としての役割を果たす数学や、さまざまな自然現象のしくみ、自然現象の不思議さ、さらには地球環境問題などを理解するためにも、積極的に自然分野の科目を履修されたい。

d．総合分野

人文・社会・自然等の各分野を多角的な視点から総合的に把え直し、その時々に応じた現代的なテーマを設定し追究していく。

また、キャリア形成科目をここに配置する。

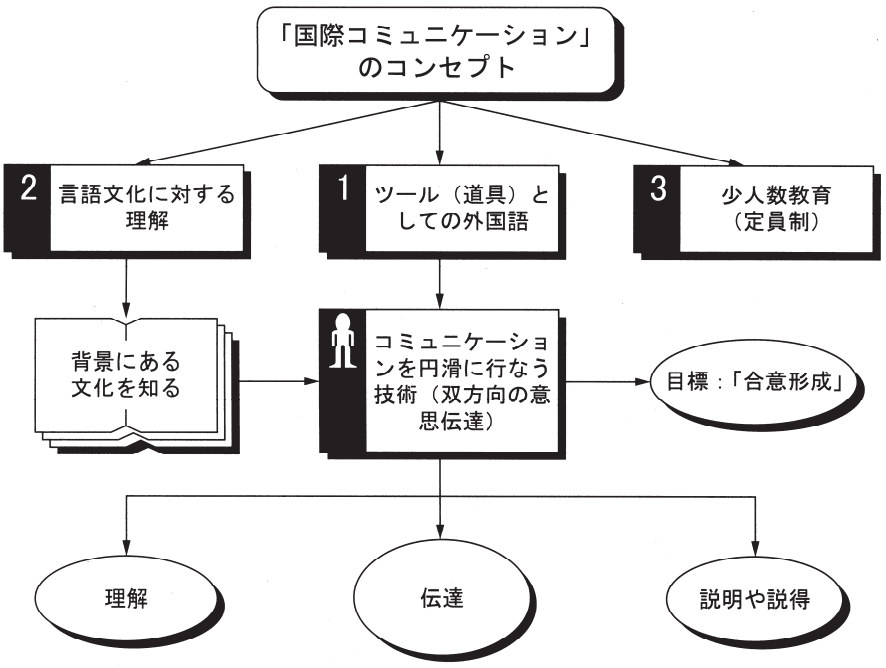
e．国際コミュニケーション分野

「国際コミュニケーション」では、世界各国の人々の間で交わすコミュニケーションのための**ツール（道具）**としての外国語をあつかう。コミュニケーションを円滑に行うためには、言語の習得が必要不可欠である。このことによって初めて、双方向の意思伝達と相互の合意形成が可能になる。

他方、言語技術の習得とは別に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うためには、その言語文化に対する理解も必要である。したがって、この科目はこのような観点から、言語とはどういうものか、背景にある文化一般についても学習していく。

いずれの科目も少人数（20名前後）で行う。専門教育科目に設置された外国語セミナーにつながる科目群である。

※受講制限があるため、履修希望者は初回の授業へ出席し、担当教員の指示に従うこと。



５．専門教育科目

(1) 専門教育科目の構成

現代ビジネス学科の専門教育科目は、基本科目、選択科目、自由科目の３つの科目の種類から編成されている。

・専門教育科目一覧表 ⇒（147、148頁）を参照

ａ．基本科目

現代ビジネス学科固有の科目、および経済学科、国際経済学科に共通する基礎的な科目を１・２・３年次に配当している。今日の経済学の基礎を学び、現代のビジネス経済を理解するうえで不可欠な科目であり、年次毎に段階を追って学習するように配置されている。学生諸君は、なるべくその開設年次に修得しておくことが望ましい。

ｂ．選択科目

企業経営、経営分析、会計制度など現代ビジネスに関わる様々な分野のテーマを理解するうえで専門的な科目を選択科目として開設している。多様な科目が体系的に配置されているが、学生諸君は自らの問題意識に応じ、将来の進路の選択を考慮しつつ、自主的に選択することができる。演習（ゼミナール）は選択科目の一つであるが、２年次から４年次までの３年間を通じて１人の専任教員のもとで履修する。

・ゼミナールの履修 ⇒（151、152頁）を参照　　・特別講義の履修 ⇒（155頁）を参照

ｃ．自由科目

現代ビジネス関連の専門領域の学習は、この分野の知識のみならず、総合的な思考力、判断力が求められる。こうした能力を養成するため、各国経済論、環境経済学など経済学の他分野、及び法律学など現代ビジネスに隣接した領域の諸科目を自由科目として配置している。

経済学科、国際経済学科の選択科目は、現代ビジネス学科の基本科目、選択科目となっているものを除き、現代ビジネス学科の自由科目として位置づけられている。また、他学部の公開科目も同様に、現代ビジネス学科の自由科目としてカウントされる。これらの自由科目は、必要以上に修得しても、進級・卒業所要単位外になるので、十分注意すること。

ｄ．履修に関する留意事項

- １年次生向けには、７科目（基本科目４科目、選択科目３科目）が開設されているが、１年次はそのうち４科目まで履修できる。１年次で履修しない基本科目については２年次において履修し、修得することが望ましい。
- 学年の進行にしたがって順次配当されている科目を、基本科目→選択科目→自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。
- ２年次以上に配当されている専門教育科目の多くは、同一名称の科目にＡ・Ｂ

が付され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。しかし科目Ｂを履修するためには、同一年度に科目Ａの修得を必要とするものが多いので、ＳＡ留学（２年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない限り、春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。

・市ヶ谷開講の財政学A・B、経済政策論A・B、国際経済論A・Bについては、４年次のみ履修可。初回の授業に出席すること。

既に同名称科目を修得済の場合、履修できない。また、同名称科目を同年度内に市ヶ谷地区と多摩地区では履修できない。

(2) 情報処理関係科目の履修

情報処理関係科目７科目の履修にあたっては、下記のとおり受講者数に制限があり、予備登録が必要である。また、Ａ・Ｂ併せての履修が必須となるため注意すること。

なお、予備登録に際し「ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ」、「コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ」は経済学科政策情報コース所属の学生を優先する。

実習を伴う情報処理関係の科目は、204教室（11号館２Ｆ）、または情報処理実習室１、２、３（総合棟３Ｆ）で行われる。各実習室では学生一人に対しパソコン一台が割り当てられる。

科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

〔履修方法・その他詳細については、ガイダンス時に指示する〕。

【設置科目】

科　目　名	系　列	履修対象	受　講　定　員
コンピュータ入門	基　本　科　目	１～４年次	48名×21クラス
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	選　択　科　目	２～４年次	48名×８クラス
コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	自　由　科　目	２～４年次	48名×１クラス
コンピュータ科学Ａ・Ｂ（ネットワークを中心に）	自　由　科　目	３・４年次	48名×１クラス

(3) 外国語セミナー科目の履修

「英語セミナーＡ・Ｂ」、「ドイツ語セミナーＡ・Ｂ」、「フランス語セミナーＡ・Ｂ」、「中国語セミナーＡ・Ｂ」、には、受講者数に制限がある。履修希望者は最初の授業に出席して、担当教員の許可を得ること。科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

(4) その他

演習（ゼミナール＝２～４年次）、卒業論文（４年次）、特別講義、キャリア支援推奨関連科目、成績優秀者の他学部科目履修制度、公開科目（他学部聴講制度）については151～160頁を参照のこと。

２０１０年度以降現代ビジネス学科入学生

専門教育科目一覧表　（※は 2018 年度未開講の科目）

系列	基本科目	選択科目	自由科目		
			他学科科目		
1年次配当	企業と経済・基礎 (4) 簿記入門 (4) コンピュータ入門 (4) 企業経営入門 (4)	社会経済学基礎 (4) 経済史 (4) 統計学 (4)	Japan and the Global Economy A・B(各2) Practical Economics A・B(各２)		ビジネス数学入門 A・B(各2)
2年次配当	経済データ分析 A・B(各2) 企業と経済・応用 A・B(各2) 会計学入門Ⅰ（財務会計） A・B(各2) 会計学入門Ⅱ（原価計算） A・B(各2) 日本経済論 A・B(各2) 現代ファイナンス入門 A・B(各2) ビジネス英語初級 A・B(各2)	金融論 A・B(各2) 財政学 A・B(各2) 産業集積論 (2) 経済地理 (2) 商法一部 (4) ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門 A・B(各2) ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ論 A・B(各2) 労働経済論 A・B(各2) 国際ビジネス論 A・B(各2) 企業実務研究 A・B(各2) 演習（２年次） (8)	社会経済学応用 A・B(各2) マクロ経済学 A・B(各2) ミクロ経済学 A・B(各2) 経済政策論 A・B(各2) 国際経済論 A・B(各2) 経済学史 A・B(各2) 公共経済論 A・B(各2) 経済の数理 A・B(各2) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀによるﾃﾞｰﾀ解析 A・B(各2) 環境経済論 A・B(各2) 経済人類学 A・B(各2)	世界の文化と思想 A・B(各2) 環境科学 A・B(各2) 外国語セミナー A・B(各2) [英・独・仏・中] ※貿易実務 A・B(各2) 開発経済論 A・B(各2) 国際関係論 A・B(各2) アメリカ経済論 A・B(各2) ヨーロッパ経済論 A・B(各2) 現代アジア経済論 A・B(各2) 中国経済論 A・B(各2)	日本国憲法 (4) 民法一部 (4) Demography A・B(各２) 開発経済入門 A・B(各２) 簿記Ⅱ A・B(各２) Principles of Economics A・B(各２) ドイツ語中級（注1） A・B(各２)
3・4年次配当	企業金融論 A・B(各2) ※現代ファイナンス応用 A・B(各2) 会計学応用Ⅰ（財務会計） A・B(各2) 会計学応用Ⅱ（管理会計） A・B(各2) ビジネス英語中級 A・B(各2)	リスク・マネジメント A・B(各2) 企業経営史 A・B(各2) ※ニュービジネス論 A・B(各2) 企業経営論 A・B(各2) 監査論 A・B(各2) 国際会計制度 A・B(各2) 金融ビジネス論 A・B(各2) 比較経済システム論 A・B(各2) 産業組織論 A・B(各2) ※国際マーケティング論 A・B(各2) 計量経済学 A・B(各2) 情報経済論 A・B(各2) 企業経済論 A・B(各2) 時事英語セミナー A・B(各2) 商法二部 (4) 経済法 (4) 演習（３年次） (8) 演習（４年次） (4) 特別講義Ⅰ (2)	※景気循環論 (2) 日本経済史 A・B(各2) 社会経済思想史 A・B(各2) 農業経済論 A・B(各2) 社会政策論 A・B(各2) 金融各論Ⅰ A・B(各2) 政治過程論 (2) 国際政治論 (2) 経済統計論 A・B(各2) 地方財政論 A・B(各2) 社会保障論 A・B(各2) 数理統計学 A・B(各2) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学(ﾈｯﾄﾜｰｸを中心に) A・B(各2) 現代社会と情報 A・B(各2)	※東洋経済史 A・B(各2) 西洋経済史 A・B(各2) 日本思想史 (2) 日本文化史 (2) 日本文化論 (2) ※芸術と社会 (2) 地球環境論 A・B(各2) 環境政策論 A・B(各2) 人間とスポーツ (2) 国際貿易論 A・B(各2) 国際金融論 A・B(各2) ※開発金融論 (2) ※国際協力論 (2) 特別講義Ⅱ (2)	民法二部 (4) 労働法 (4) 経営学 (4) International Economics A・B(各２) Area Studies A・B(各２) 地域経済論 A・B（各２） ドイツ語上級Ⅰ（注2） A・B(各２) ドイツ語上級Ⅱ（注2） A・B(各２) 他学部公開科目

【表の見方】
（　）内は単位数
演習(8)は８単位で２時限連続授業

【履修上の注意】
A・B分割科目
２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適月者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。

専門教育科目
他学科科目を自由科目として履修することができる。学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外となることがあるので留意すること。

（注１）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
（注２）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」「ドイツ語（c）A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

２００９年度以前現代ビジネス学科入学生

専門教育科目一覧表　（※は 2018 年度未開講の科目）

系　列	基　本　科　目	選　択　科　目	自　由　科　目	
			他学科科目	
１年次配当	企業と経済・基礎　(4) 簿記　(4) コンピュータ入門　(4) 企業経営入門　(4)	社会経済学基礎　(4) 経済史　(4) 統計学　(4)	Japan and the Global Economy A・B(各2) Practical Economics　A・B(各２	ビジネス数学入門　A・B(各２) Japan and the Global Economy A・B(各2) ※Practical Economics　A・B(各２)
２年次配当	企業と経済・応用　A・B(各２) 会計学入門　A・B(各２) 日本経済論　A・B(各２) 現代ファイナンス入門　A・B(各２) ビジネス英語Ⅰ　A・B(各２)	経済データ分析　A・B(各２) 金融論　A・B(各２) 財政学　A・B(各２) 産業集積論　(2) 経済地理　(2) 商法一部　(4) 原価計算　A・B(各２) ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門　A・B(各２) ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ論　A・B(各２) 国際ビジネス論　A・B(各２) 企業実務研究　A・B(各２) 演習（２年次）　(8)	社会経済学応用　A・B(各２) 産業労働論　A・B(各２) 経済政策論　A・B(各２) 国際経済論　A・B(各２) 経済学史　A・B(各２) 公共経済論　A・B(各２) 経済の数理　A・B(各２) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀによるﾃﾞｰﾀ解析　A・B(各２) 環境政策論　A・B(各２) 環境経済論　A・B(各２) 経済人類学　A・B(各２)	外国の文化と思想　A・B(各２) 自然環境論　A・B(各２) 外国語セミナー　A・B(各２) [英・独・仏・中] ※貿易実務　A・B(各２) 開発経済論　A・B(各２) 国際関係論　A・B(各２) アメリカ経済論　A・B(各２) ヨーロッパ経済論　A・B(各２) 現代アジア経済論　A・B(各２) 中国経済論　A・B(各２)	日本国憲法　(4) 民法一部　(4) Demography　A・B(各２) 開発経済入門　A・B(各２) 簿記Ⅱ　A・B(各２) Principles of Economics A・B(各２) ドイツ語中級（注1）　A・B(各２)
３・４年次配当	企業金融論　A・B(各２) ※現代ファイナンス論　A・B(各２) 会計学応用Ⅰ（財務会計）　A・B(各２) 会計学応用Ⅱ（管理会計）　A・B(各２) ビジネス英語Ⅱ　A・B(各２)	リスク・マネジメント　A・B(各２) 企業経営史　A・B(各２) ※ニュービジネス論　A・B(各２) 企業経営論　A・B(各２) 監査論　(2) 税務会計　(2) 国際会計制度　A・B(各２) 金融ビジネス論　A・B(各２) 比較経済システム論　A・B(各２) 産業組織論　A・B(各２) ※国際マーケティング論　A・B(各２) 計量経済学　A・B(各２) 情報経済論　A・B(各２) 企業経済論　A・B(各２) 労働経済論　A・B(各２) 時事英語セミナー　A・B(各２) 商法二部　(4) 経済法　(4) 演習（３年次）　(8) 演習（４年次）　(4) 特別講義Ⅰ　(2)	マクロ経済学　A・B(各２) ミクロ経済学　A・B(各２) 日本経済史　A・B(各２) 社会経済思想史　A・B(各２) 工業経済論　A・B(各２) 農業経済論　A・B(各２) 社会政策論　A・B(各２) 金融各論Ⅰ　A・B(各２) 政治過程論　(2) 国際政治論　(2) 経済統計論　A・B(各２) 地方財政論　A・B(各２) 社会保障論　A・B(各２) 数理統計学　A・B(各２) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学(ﾈｯﾄﾜｰｸを中心に)　(2) 現代社会と情報　A・B(各２)	※東洋経済史　A・B(各２) 西洋経済史　A・B(各２) 日本思想史　(2) 日本文化史　(2) 日本文化論　(2) ※芸術と社会　(2) 環境科学　A・B(各２) 人間とスポーツ　(2) 時事英語セミナー　A・B(各２) 時事独語セミナー　A・B(各２) 時事仏語セミナー　A・B(各２) 環境と技術　(2) 国際貿易論　(2) 国際金融論　A・B(各２) ※開発金融論　(2) ※国際協力論　(2) 特別講義Ⅱ　(2)	民法二部　(4) 労働法　(4) 経営学　(4) International Economics A・B(各２) Area Studies　A・B(各２) 地域経済論　A・B（各２） ドイツ語上級Ⅰ（注2）　A・B(各２) ドイツ語上級Ⅱ（注2）　A・B(各２) 他学部公開科目

【表の見方】
（　）内は単位数
演習(8)は８単位で２時限連続授業
【履修上の注意】
A・B分割科目
２年次以上に配当されている外国語・保健体育および専門教育科目の大部分は、通年授業を半期ずつA・Bに分割され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。これは、ＳＡ（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）適用者を見込んだものであり、それ以外の履修者は春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。
専門教育科目
他学科科目を自由科目として履修することができる。学年の進行にしたがって順次配当される科目を、基本科目⇨選択科目⇨自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。また、自由科目を必要以上に修得しても進級・卒業所要単位外となることがあるので留意すること。

（注１）「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。
（注２）「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語（a)」「ドイツ語（b)」「ドイツ語（c）A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

経済学部生共通事項

Ⅰ. 各学科カリキュラム共通事項……151
Ⅱ. 履修科目登録……161
Ⅲ. 授業……166
Ⅳ. 試験……173
Ⅴ. 成績評価および成績発表……177
Ⅵ. 進級・卒業発表および転・編入……180
Ⅶ. 修業・在学年限と学籍・学費に関する手続き……181
Ⅷ. 就学上の各種事務手続き……188
Ⅸ. 諸留学制度……203
Ⅹ. 課外講座案内……219
Ⅺ. 将来の進路……222

Ⅰ．各学科カリキュラム共通事項

１．演習（ゼミナール＝２～４年次）について

演習（ゼミナール）を履修するためには、事前に実施される「ゼミナール選抜」に合格しなければならない。ゼミナールの内容と選抜方法の詳細については、10月に発行される冊子「ゼミナール紹介」を参照すること。

・ゼミナールの一覧・テーマ ⇒（153、154頁）を参照

(1) 募集・選抜日程

【第１次募集及び第２次募集】

履修開始年次は２年次からであるが、その前年度の10月下旬～12月にかけて主に１年次生を対象として行う。

詳細については、募集の際に配布する「ゼミナール紹介」及びゼミナールに関する掲示の指示に従うこと。

【第３次募集】

前年度の第１次募集及び第２次募集の選抜に洩れた学生及び転・編入生も含む新規応募の学生を対象として、４月上旬～中旬に実施する。なお、第３次募集を実施するゼミは第２次募集を終わった段階で欠員のあるゼミ及び新規開講ゼミに限られる。

(2) 履修に関する留意事項

①演習は、２～４年次にわたり連続して履修することが原則である。従って、所属ゼミナールを変更することや、途中で辞めることは原則としてできない。
また、授業は担当教員の指導のもとで２～４年次生合同で行われる。

②演習は２時限連続で行われる。２・３年次においては２時限で８単位、４年次においては２時限で４単位の授業となる。
また、その修得単位はいずれのゼミナールに所属した場合でも選択科目の卒業所要単位としてカウントされる。

③ただし、４年次演習履修者は、演習担当教員の指導を受け、卒業論文を提出しなければ単位は習得できない。

④転・編入生でゼミナール履修を希望する者は、経済学部事務課へ相談のこと。

２．卒業論文（４年次）について

(1)　４年次演習履修者の卒業論文の提出義務

４年次の演習（４単位）履修者は、卒業論文を提出しなければならない。演習（４単位）の成績評価には、卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されない。

(2)　卒業論文指導教員

卒業論文の作成にあたっては、各自の演習担当教員がその指導にあたる。

(3)「卒業論文作成計画書」の提出

４年次生で、演習履修者は、この卒論作成計画書を提出しなければならない。これは論文作成にあたって担当教員の指導を計画的に受けるためのものである。４月末日までに、指導教員へ提出すること。

(4)　優秀卒業論文のWeb公開について

2010年度より優秀卒業論文をWeb上で公開している。2017年度優秀卒業論文の公開は9月を予定している。（**法政大学経済学部** http://www.hosei.ac.jp/keizai/index.html）

統合認証ログイン画面が表示されるので、ユーザ名とパスワードを入力する。

◇卒業論文の作成計画から提出までの流れ（概略）◇

卒業論文作成計画書配布	…■　経済学部事務室にて配布（４月末まで）
↓	
卒業論文作成計画書提出	…■　４月末までに担当教員へ提出
↓	
演　習　履　修　登　録	…■　４月下旬履修登録
↓	
卒業論文作成期間 担当教員による個別指導	…■　４月下旬～12月下旬 論文作成要領、その他について担当教員の指導を受けること。
↓	
卒　業　論　文　の　提　出	…■　2019年1月10日（木）・当日限り 経済学部事務課へ提出（午後５時まで・時間厳守のこと） ※指導教員へ直接提出することはできない。 ※表紙は指導教員へ確認したうえで、特に指定がなければ生協で販売している所定のものを使用すること。
↓	
卒　業　論　文　面　接 卒　業　論　文　の　返　却	…■　１月下旬以降 指導担当教員による卒業論文面接を実施する。また返却についても指導担当教員が行う。

経済学部　演習担当者・テーマ一覧表

（　）内は今年度代講教員

No.	担当教員名	テーマ
1	飯野　厚	異文化間コミュニケーションの実践による英語運用力の習得とその過程の研究
2	池上宗信	開発途上国の経済問題を経済学の理論、手法に基づいて考察する
3	梅津亮子 （飯塚陽介）	管理会計・原価計算の諸問題の研究
4	岡部雅史	環境問題の様々な側面を科学的に理解しよう（環境科学の発展的理解）
5	奥山利幸	ミクロ経済学・ゲーム理論の理論と様々な現実の経済問題への応用
6	小黒一正	マクロ経済学・公共経済学の理論とその応用分野（例：世代間を巡る問題）
7	小沢和浩	コンピュータによるデータ解析手法の習得
8	河村哲二	現代アメリカ経済とグローバル経済の転換
9	河村　真	経済、産業などの実証分析の実習
10	菊池道樹	中国経済など今日、直面する経済、社会の諸課題
11	岸　牧人	企業財務と公認会計士監査
12	後藤浩子	資本主義はどのように生成したのか：グローバル経済史の探究
13	小林克也	ミクロ経済学やマクロ経済学、ゲーム理論とその応用分野
14	近藤章夫	経済地理学の視点から産業・地域を考える
15	酒井　正	労働経済学、実証経済学
16	坂本憲昭	システム設計実習、情報処理
17	佐柄信純	経済の数理解析
18	佐藤良一	理論経済学(マクロ経済学)演習[来年度はミクロ経済学]、現代世界の諸問題を読み解く
19	篠原隆介	公共経済学とミクロ経済学・ゲーム理論を通した経済制度設計
20	芝田幸一郎	ラテンアメリカの文化・社会・歴史
21	胥　鵬	ビジネスのための企業金融と企業統治
22	進藤理香子	変動するヨーロッパ。戦争、国境、民族、移民問題を中心に
23	菅　富美枝	現代社会と法（民法、法社会学）
24	菅　幹雄	QGISを用いた鉄道沿線の産業構造分析、インバウンド観光の産業連関分析
25	菅原琢磨	社会保障政策・医療・介護政策
26	杉浦未樹 （窪寺　暁）	商品の誕生　流通と消費をめぐる世界経済史
27	杉本龍勇	スポーツの経済効果、スポーツビジネスのマーケティング戦略
28	鈴木　豊	企業、契約、組織の経済学。ミクロ経済学、ゲーム理論とその応用
29	ロバート・ストラウド	リーダーシップ・プロジェクトマネジメント・英語コミュニケーション
30	砂田　充	「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究
31	石　碩	中国研究（歴史・文化・文学）
32	ジェス・ダイヤモンド	投資（授業は日本語ですが英語の教科書を使います）
33	高橋秀朋	証券投資、企業金融
34	竹口圭輔	財務会計論、企業行動分析
35	武田浩一	経済学の考え方を応用して個人・組織の振る舞いや経済社会の動向を考える
36	竹田茂夫	学生による自由で自主的な研究

No.	担当教員名	テーマ
37	武智一貴 （檜野智子）	意思決定のメカニズムとその分析
38	田中優希 （秋：石田惣平）	企業分析、財務会計、ケーススタディ、企業の社会的責任
39	田村晶子 （水田岳志）	国際経済の理論と実証分析
40	田村理香	小説を読むー英語で、日本語で
41	張欣	中国文学、中国文化
42	寺内正典	心理言語学（一人一人に最適な英語の習得に関する科学的な方法を実証的に研究します）
43	冨永靖敬	実証政治学・国際関係論
44	永岡文庸	企業・産業の盛衰はなぜ起きるのか
45	中谷安男	国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップ
46	長原豊	現代資本主義論・経済理論
47	倪彬	国際経済、開発経済、データ分析
48	西澤栄一郎	現地調査による地域課題の発見・研究と、その解決策の提案を通じた地域づくりへの貢献
49	新田誠吾	物語論、文学・文化研究
50	朴倧玄 （宗苑瑞）	都市地理学、企業の地理学、海外地域調査
51	橋本到	文化、社会、文学にかかわること、フランスの事例などとの比較考察
52	馬場敏幸	アジア経済、開発経済、科学技術と経済
53	濱秋純哉	ミクロ経済学と計量経済学に基づく経済政策の実証分析
54	原伸子	福祉国家・市場・家族の政治経済学
55	平瀬友樹	マクロ経済理論形成史
56	廣川みどり	現代経済学の基礎と応用
57	ブー・トウン・カイ	経済学基礎、データ分析、国際金融、国際貿易
58	藤沢周 （浜崎洋介）	文学作品創作・芸術作品制作
59	藤田貢崇	科学ジャーナリズム、科学教育、宇宙物理学
60	古澤直人 （岩橋清美）	日本史研究、思想史研究、文化史研究
61	牧野文夫	グループワークを通じた調査分析と結果のプレゼンテーション、ディベートなど
62	松波淳也	環境経済学
63	松野響	実験心理学
64	宮﨑憲治	経済学の基礎とビジネススキル（プレゼン・ディベート・ライティング）
65	宮脇典彦	経営分析・データ解析・プログラミング
66	明城聡	統計学を利用した市場調査と経済データ分析
67	森田裕史	金融財政政策とマクロ経済学の理論と実証
68	山﨑達朗	ことばと文化
69	山﨑友紀	地球環境問題、子どもの理科教育、湧水や仕込み水の水質調査、地域交流
70	山田快	スポーツ心理学、スポーツコーチング学
71	山本真鳥	文化人類学、グローバリゼーションと文化
72	湯前祥二	金融リスクマネジメント
73	ジュリア・ヨング （秋：キム・ソヨン）	日本のビジネスと社会

３．特別講義について

各コース既設の選択科目の範囲でとりあげていない内容について、所属コースに関連するホットな問題や新しい研究テーマなどを中心に特別講義という形で開設する。なお、特別講義は原則として半期完結の２単位講義として各コース別に開講する。

〔履修年次〕３・４年次

〔単位換算〕所属学科・コースの特別講義（○印）　→「特別講義Ⅰ」（選択科目）

他学科・他コースの特別講義（○以外）　→「特別講義Ⅱ」（自由科目）

所属(コース・学科) 特別講義科目名	経　済　学　科			国際経済学科	現代ビジネス学科
	社会システム	政策情報	環境文化		
グローバル資本主義論Ⅰ(多摩)	○	○	○	○	○
グローバル資本主義論Ⅱ(多摩)	○	○	○	○	○
グローバル資本主義論Ⅲ(多摩)	○	○	○	○	○
Basic Economics A(多摩)	○	○	○	○	○
Basic Economics B(多摩)	○	○	○	○	○
寄付講座・証券市場論(多摩)	○	○	○	○	○

〔注意１〕各科目の内容については、「シラバス」を参照すること。

〔注意２〕既に同名称科目を修得済の場合、履修できない。また、同名称科目を同年度内に市ヶ谷地区と多摩地区では履修できない。

４．キャリア支援推奨関連科目

キャリアデザイン論が経済・社会・現代福祉学部共通科目として設置されているが、学部の科目にも学問の学び方や社会とどう関わり、どんな視点で職業を考えるかといったキャリアをデザインする上で役立つものは、ちょっとした問題意識を持てばたくさんある。しかし、それでは学生はとまどうことになるので、キャリア支援関連科目として、経済学部では『キャリアデザイン論』『企業実務研究A・B』『企業経営論A・B』を推奨する。他学部の推奨科目も公開されているので、公開科目の該当部分を参照すること。

５．成績優秀者の他学部科目履修制度について

2014年4月から成績優秀者に対して、特定の学部の授業を次項の他学部公開制度とは別に履修できる「成績優秀者の他学部科目履修制度」が導入された(2年次生以上対象)。成績優秀者の選定は各学年で前年度の成績(単年度ＧＰＡ)3.5以上でかつ修得単位が38単位以上の者を成績優秀者として教授会で決定する。ただし、対象者が上位5％を超える場合は、GPA順に上位5％までとする。

この制度による履修上限科目数は、年間4科目（かつ8単位）以内とするが、履修登録単位に関するキャップ制は免除となる。また、修得した単位は専門教育科目の自由科目の単位となる。詳細については、経済学部事務課より該当者に連絡する。

６．履修に関する留意事項

・１年次生向けには、７科目（基本科目４科目、選択科目３科目）が開設されているが、１年次はそのうち４科目まで履修できる。１年次で履修しない基本科目については２年次において履修し、修得することが望ましい。

・学年の進行にしたがって順次配当されている科目を、基本科目→選択科目→自由科目の順序で計画的に履修していくことが望ましい。

・２年次以上に配当されている専門教育科目の多くは、同一名称の科目にＡ・Ｂが付され、それぞれ春学期・秋学期ごとに成績評価がなされる。しかし科目Ｂを履修するためには、同一年度に科目Ａの修得を必要とするものが多いので、ＳＡ留学（３年次春学期に行われる半年間の留学制度）等の特別な理由がない限り、春学期・秋学期あわせて通年で履修することが望ましい。

・市ヶ谷開講の財政学A・B、経済政策論A・B、国際経済論A・Bについては、４年次のみ履修可。初回の授業に出席すること。

既に同名称科目を修得済の場合、履修できない。また、同名称科目を同年度内に市ヶ谷地区と多摩地区では履修できない。

・多摩開講科目と市ヶ谷開講科目を同一曜日に履修することはできない。

７．公開科目（他学部聴講制度）について

公開科目（他学部聴講制度）とは市ヶ谷を含む他学部の公開科目を卒業までに**16単位の範囲で履修できる**制度である。

〔履修年次〕　３・４年次

〔単位換算〕　修得した単位は自由科目の卒業所要単位としてカウントするが、16単位を超えて履修することはできない。

〔登録方法〕　他の専門教育科目と同様に登録すること。但し、**多摩の開講科目と市ヶ谷の開講科目を同じ曜日に登録し履修することはできない。**

※公開科目の履修に関する注意事項

①社会学部、現代福祉学部以外の各講義は、市ヶ谷キャンパスで行う。また、各講義内容、試験時間割を含む連絡事項等は、公開している学部の「シラバス」や掲示板で確認すること。

②ＧＩＳ科目は全て10～20名の少人数制を採用しており、定員をオーバーした場合、第１回目の授業で選抜を実施する可能性がある。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出来ない場合があるので、注意すること。詳細については、ＧＩＳの学部窓口まで確認すること。

③受講制限を設けている科目があるので、詳細については時間割で確認すること。

④４年次生へ…他学部公開科目は、**卒業再試験の対象外**である。

社会学部公開科目一覧表

科目	単位	担当者		科目	単位	担当者
産業社会学Ⅰ・Ⅱ	2	上林　千恵子		環境自治体論	2	田中　充
社会ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	2	宇野　斉		地域研究（中国）	2	大﨑　雄二
社会計画論Ⅰ・Ⅱ	2	湯浅　陽一		地域研究（イスラーム）	2	岡野内　正
社会保障法Ⅰ・Ⅱ	2	長沼　建一郎		南北問題	2	岡野内　正
環境経済学Ⅰ・Ⅱ	2	島本　美保子		環境倫理	2	島田　昭仁
金融システム論	2	田口　博雄		環境法	2	井上　秀典
メディアの歴史　※	2	小林　直毅				

※ 2017年度までに旧カリ科目「メディア史Ⅰ」を履修した場合は履修不可

現代福祉学部公開科目一覧表①

科目	単位	担当者		科目	単位	担当者
ホスピタリティ論	2	野口　洋平		政策評価論	2	牧瀬　稔
異文化心理学	2	奥山　今日子		福祉国家論	2	畠中　亨
社会学特講	2	左古　輝人		教育学	2	藤本　典裕
居住福祉論	2	大原　一興		地域ツーリズム	2	南　賢二
日本人の心理特性と文化	2	長山　恵一		コミュニティアート	2	吉野　裕之
老年学	2	新名　正弥		地域遺産マネジメント論	2	須田　英一
ソーシャルファイナンス論	2	雨宮　寛		ヘルスプロモーション	2	熊坂　隆行
ソーシャルマネジメント論	2	樋口　邦史		文化環境創造論	2	須田　英一
災害支援論	2	大島　隆代		福祉の思想と歴史	2	白川　耕一

現代福祉学部公開科目一覧表②

科目	単位	担当者	備考
地域経営論	2	松本　昭	旧科目名「地域経営」を修得した者は履修不可
ＮＰＯ論	2	松元　一明	旧科目名「非営利組織の運営」修得者は不可
ソーシャルイノベーション論	2	土肥　将敦	旧科目名「社会起業論」修得者は不可
都市住宅政策論	2	水野　雅男	旧科目名「都市住宅政策論Ⅰ」を修得した者は履修不可
地域文化政策論	2	須田　英一	旧科目名「地域文化政策」を修得した者は履修不可
国際支援論	2	佐野　竜平	旧科目名「国際福祉論」修得者は不可

他学部公開科目一覧表（市ヶ谷キャンパス）

学部	学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	学部	学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数
法	法律	経済法Ⅰ	平山　賢太郎	春学期	2	文	史	日本史特講Ⅳ	中山　学	秋学期	2
		経済法Ⅱ	平山　賢太郎	秋学期	2			東洋史特講Ⅲ	芦沢　知絵	秋学期	2
		法と遺伝学Ⅰ	上杉　奈々	春学期	2			西洋史特講Ⅴ	加納　格	秋学期	2
		法と遺伝学Ⅱ	上杉　奈々	秋学期	2			日本近世史	松本　剣志郎	秋学期	2
		法哲学Ⅰ	西村　清貴	春学期	2			日本史特講Ⅺ	石田　実洋	秋学期	2
		法哲学Ⅱ	西村　清貴	秋学期	2		地理	社会経済地理学（2）	伊藤　達也	春学期	2
		教育法Ⅰ	村元　宏行	春学期	2			生物・土壌地理学及び実験Ⅰ	小川　滋之	春学期	2
		教育法Ⅱ	村元　宏行	秋学期	2			海洋・陸水学及び実験Ⅰ	小寺　浩二	春学期	2
	政治	外国書講読（独語）Ⅰ	内田　俊一	春学期	2			文化地理学（1）	中俣　均	春学期	2
		外国書講読（独語）Ⅱ	内田　俊一	秋学期	2			地理情報システム（GIS）Ⅰ	中山　大地	春学期	2
		現代メディア論	萩谷　順	春学期	2			気候・気象学及び実験Ⅰ	山口　隆子	春学期	2
		コミュニティ論Ⅱ	名和田　是彦	秋学期	2			社会経済地理学（3）	片岡　義晴	秋学期	2
		公共哲学Ⅱ	名和田　是彦	春学期	2			社会経済地理学（4）（エコツーリズム）	呉羽　正昭	秋学期	2
		公共哲学Ⅰ	西村　清貴	春学期	2			生物・土壌地理学及び実験Ⅱ	小川　滋之	秋学期	2
		協同組合論	杉崎　和久	秋学期	2			社会経済地理学（1）	小原　丈明	秋学期	2
		日露関係論Ⅰ	クラフツェビチ　アンドレイ	春学期	2			海洋・陸水学及び実験Ⅱ	小寺　浩二	秋学期	2
		日露関係論Ⅱ	クラフツェビチ　アンドレイ	秋学期	2			文化地理学（2）	中俣　均	秋学期	2
		政治体制論Ⅰ	松尾　隆佑	春学期	2			地理情報システム（GIS）Ⅱ	中山　大地	秋学期	2
		政治体制論Ⅱ	松尾　隆佑	秋学期	2			気候・気象学及び実験Ⅱ	山口　隆子	秋学期	2
	国際政治	グローバル・ガバナンス	本多　美樹	春学期	2		心理	身体活動と健康	林　容市	春学期	2
		平和・軍事研究Ⅱ	権　鎬淵	秋学期	2			発達心理学	堀口　康太	春学期	2
		平和・軍事研究Ⅰ	権　鎬淵	春学期	2		共通	民俗学Ⅰ	山本　志乃	春学期	2
		Global Governance	弓削　昭子	春学期	2			イスラム世界論Ⅰ	大塚　修	春学期	2
		国際機構論Ⅰ	弓削　昭子	秋学期	2			歴史地理学（1）	米家　志乃布	春学期	2
		朝鮮半島の政治と社会Ⅰ	権　鎬淵	春学期	2			環境と倫理（1）	相原　博	春学期	2
		朝鮮半島の政治と社会Ⅱ	権　鎬淵	秋学期	2			民俗学Ⅱ	山本　志乃	秋学期	2
		国際協力講座	弓削　昭子	秋学期	2			イスラム世界論Ⅱ	大塚　修	秋学期	2
		オセアニアの政治と社会Ⅰ	今泉　裕美子	春学期	2			歴史地理学（2）	米家　志乃布	秋学期	2
		オセアニアの政治と社会Ⅱ	今泉　裕美子	秋学期	2			環境と倫理（2）	相原　博	秋学期	2
		国際協力論Ⅰ	志賀　裕朗	春学期	2			現代のコモンセンス	阿部　真弓	秋学期	2
		国際協力論Ⅱ	志賀　裕朗	秋学期	2	経営	経営	経営組織論Ⅰ	長岡　健	春学期	2
		アメリカ外交史	森　聡	春学期	2			経営組織論Ⅱ	長岡　健	秋学期	2
	哲	科学哲学1	中釜　浩一	春学期	2			組織マネジメント論Ⅰ	永山　晋	春学期	2
		現代思想2（フランスの思想）1	大池　惣太郎	春学期	2			組織マネジメント論Ⅱ	永山　晋	秋学期	2
		宗教学1（伝統宗教）1	杉本　隆司	春学期	2			経営社会学Ⅰ	佐野　哲	春学期	2
		ギリシア語1	白根　裕里枝	春学期	2			経営社会学Ⅱ	佐野　哲	春学期	2
		ラテン語1	棟尾　正敏	春学期	2			組織経済学Ⅰ	奥西　好夫	秋学期	2
		哲学特講（7）ー1	鵜澤　和彦	春学期	2			財務会計論Ⅰ	川島　健司	春学期	2
		科学哲学2	中釜　浩一	秋学期	2			財務会計論Ⅱ	川島　健司	秋学期	2
		宗教学1（伝統宗教）2	杉本　隆司	秋学期	2			キャリア・マネジメントⅠ	小川　憲彦	春学期	2
		現代思想2（フランスの思想）2	大池　惣太郎	秋学期	2			キャリア・マネジメントⅡ	小川　憲彦	秋学期	2
		ギリシア語2	白根　裕里枝	秋学期	2		経営戦略	戦略的意思決定論Ⅰ	福島　英史	春学期	2
		ラテン語2	棟尾　正敏	秋学期	2			戦略的意思決定論Ⅱ	福島　英史	秋学期	2
	日文	情報リテラシー実習Ⅱ	永保　敏伸	年間	4			日本経済論Ⅰ	平田　英明	春学期	2
		日本文芸批評史A	川鍋　義一	春学期	2			日本経済論Ⅱ	平田　英明	秋学期	2
		日本文芸研究特講（6）現代A	藤木　直実	春学期	2			国際経済論Ⅰ	高橋　理香	春学期	2
		音楽芸能史特殊研究A	野川　美穂子	春学期	2			国際経済論Ⅱ	高橋　理香	秋学期	2
		日本文芸研究特講（2）中古A	萩野　了子	春学期	2			経営分析Ⅰ	高橋　美穂子	春学期	2
		中国文芸史A	遠藤　星希	春学期	2			経営分析Ⅱ	高橋　美穂子	秋学期	2
		日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A	スティーヴン・ネルソン	春学期	2		市場経営	日本経営論Ⅰ	金　容度	春学期	2
		日本文芸研究特講（7）漢文A	遠藤　星希	春学期	2			日本経営論Ⅱ	金　容度	秋学期	2
		日本文芸研究特講（1）上代A	坂本　勝	春学期	2			応用経済学Ⅰ	宮澤　信二郎	春学期	2
		日本文芸研究特講（15）国際日本学A	スティーヴン・ネルソン	春学期	2			応用経済学Ⅱ	宮澤　信二郎	秋学期	2
		日本文芸研究特講（4）近世A	浅沼　博	春学期	2			企業財務論Ⅰ	金　瑨晋	春学期	2
		日本文芸研究特講（3）中世A	小秋元　段	春学期	2			企業財務論Ⅱ	金　瑨晋	秋学期	2
		日本文芸批評史B	川鍋　義一	秋学期	2			情報技術論Ⅰ	入戸野　健	春学期	2
		日本文芸研究特講（6）現代B	藤木　直実	秋学期	2			情報技術論Ⅱ	入戸野　健	秋学期	2
		日本文芸研究特講（2）中古B	萩野　了子	秋学期	2			ファイナンス論Ⅰ	山嵜　輝	春学期	2
		音楽芸能史特殊研究B	野川　美穂子	秋学期	2			ファイナンス論Ⅱ	山嵜　輝	秋学期	2
		中国文芸史B	遠藤　星希	秋学期	2		共通	経営学総論Ⅰ	岸　眞理子	春学期	2
		日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B	スティーヴン・ネルソン	秋学期	2			経営学総論Ⅱ	岸　眞理子	秋学期	2
		日本文芸研究特講（7）漢文B	遠藤　星希	秋学期	2			簿記入門Ⅰ	大下　勇二	春学期	2
		日本文芸研究特講（1）上代B	坂本　勝	秋学期	2			簿記入門Ⅱ	大下　勇二	秋学期	2
		日本文芸研究特講（15）国際日本学B	スティーヴン・ネルソン	秋学期	2			寄附講座・実践会社実務論	筒井　知彦	春学期	2
		日本文芸研究特講（4）近世B	小林　ふみ子	秋学期	2			寄附講座・日本の物流と企業経営	李　瑞雪	秋学期	2
		日本文芸研究特講（3）中世B	小秋元　段	秋学期	2			法廷会計	中島　真澄	秋学期	2
文	英文	米文学史A	宮川　雅	春学期	2	国際文化		ロシア・中央アジアの文化	アンドレイ　クラフツェビチ	春学期	2
		言語学講義ⅡA	伊藤　達也	春学期	2			カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）	ヴィラ・ラケル	春学期	2
		英語学講義A	大沢　ふよう	春学期	2			国際文化協力	田島樹里奈	春学期	2
		英米文化概論A	小島　尚人	春学期	2			英語アプリケーション	クレッグ　ジョンストン	春学期	2
		社会言語学	塩田　雄大	春学期	2			ロシア語アプリケーション①	佐藤千登勢	春学期	2
		英米文学特殊講義Ⅲ	結城　英雄	春学期	2			ロシア・東欧の文化	佐藤千登勢	春学期	2
		英語学概論A	片見　彰夫	春学期	2			英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）	齊藤　雄介	春学期	2
		言語学概論A	石井　創	春学期	2			ドイツ語アプリケーション①	林志津江	春学期	2
		比較文学A	山下　敦	春学期	2			カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）	ヴィラ・ラケル	春学期	2
		英語・言語学特殊講義A	片見　彰夫	春学期	2			英語アプリケーション	ウォルター　カズマー	春学期	2
		英米文学講義ⅠA	宮川　雅	春学期	2			中国語アプリケーション③	周重雷	春学期	2
		応用言語学	川﨑　貴子	春学期	2			英語アプリケーション	ウォルター　カズマー	春学期	2
		英米文学講義ⅡA	丹治　愛	春学期	2			朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）	神谷丹路	春学期	2
		言語学講義ⅠA	石川　潔	春学期	2			宗教と社会	佐々木一惠	春学期	2
		米文学史B	宮川　雅	秋学期	2			中国の文化Ⅶ（近代文学）	張　文菁	春学期	2
		言語学講義ⅡB	伊藤　達也	秋学期	2			宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）	江村裕文	春学期	2
		英語・言語学講義A	秋山　孝信	秋学期	2			中国の文化Ⅳ（中国語の構造）	渡辺昭太	春学期	2
		英語学講義B	大沢　ふよう	秋学期	2			中国の文化Ⅸ（中国俗文学）	岩田和子	春学期	2
		英米文化概論B	小島　尚人	秋学期	2			ジェンダー論	佐々木一惠	春学期	2
		英語学概論B	大沢　ふよう	秋学期	2			フランス語アプリケーション③	コンルール　ジュルジュ	春学期	2
		比較文化論（1）	小島　尚人	秋学期	2			朝鮮語アプリケーション①	ヤン　イエソン	春学期	2
		英語・言語学講義B	石川　潔	秋学期	2			日英翻訳論	リービ英雄	春学期	2
		英米文学特殊講義Ⅰ	宮川　雅	秋学期	2			ドイツ語アプリケーション②	辻　朋季	春学期	2
		英米文学特殊講義Ⅳ	結城　英雄	秋学期	2			フランス語アプリケーション①	ジョルディ　フィリップ	春学期	2
		比較文学B	山下　敦	秋学期	2			英語圏の文化Ⅰ（文化史）	宇治谷義英	春学期	2
		英語・言語学特殊講義B	片見　彰夫	秋学期	2			国際関係研究1	東智美	春学期	2
		英米文学特殊講義Ⅱ	小島　尚人	秋学期	2			英語アプリケーション	マーティン　ブラッドショウ	春学期	2
		英米文学講義ⅠB	宮川　雅	秋学期	2			中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）	野村英登	春学期	2
		言語学概論B	川﨑　貴子	秋学期	2			ドイツ語圏の文化Ⅰ	辻　朋季	春学期	2
		英米文学講義ⅡB	丹治　愛	秋学期	2			中国の文化Ⅰ（現代中国社会）	曽士才	春学期	2
		言語学講義ⅠB	石川　潔	秋学期	2			英語圏の文化Ⅲ（現代事情）	粟飯原文子	春学期	2
	史	日本史序説Ⅰ	川上　真理	春学期	2			英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）	齊藤　雄介	秋学期	2
		考古学概論	小倉　淳一	春学期	2			比較表象文化論	竹内晶子	秋学期	2
		西洋史序説	志内　一興	春学期	2			朝鮮語アプリケーション③	神谷丹路	秋学期	2
		東洋史序説	津田　資久	春学期	2			カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）	ヴィラ・ラケル	秋学期	2
		東洋史特講Ⅶ	久野　美樹	春学期	2			ロシア語アプリケーション②	上野理恵	秋学期	2
		東洋近現代史	芦沢　知絵	春学期	2			地域協力・統合	大中一彌	秋学期	2
		西洋史特講Ⅳ	加納　格	春学期	2			平和学	華井和代	秋学期	2
		日本史序説Ⅱ	柏木　一朗	秋学期	2			言語文化概論	衣笠正晃	秋学期	2
		日本考古学	小倉　淳一	秋学期	2			移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）	髙柳俊男	秋学期	2
		西洋史特講Ⅸ	大和久　悌一郎	秋学期	2			ドイツ語アプリケーション③	ウテ　シュミット	秋学期	2
		東洋史特講Ⅷ	北川　香子	秋学期	2			カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）	ヴィラ・ラケル	秋学期	2

◆上記科目の履修方法・講義内容などの詳細は、時間割・シラバス等を参照すること。
◆上記科目に変更がある場合は、掲示板にて知らせるので、各自確認すること。

学部	学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数
国際文化		中国語アプリケーション①	曽士才	秋学期	2
		英語アプリケーション	アンドリュー ジョーンズ	秋学期	2
		フランス語圏の文化Ⅲ（文学）	ジョルディ フィリップ	秋学期	2
		宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）	佐々木一惠	秋学期	2
		現代美術論	小澤慶介	秋学期	2
		英語アプリケーション	リービ英雄	秋学期	
		フランス語アプリケーション④	CORINNE VALLIENNE	秋学期	2
		中国の文化Ⅷ（現代文学）	張 文菁	秋学期	2
		映像と文学	林志津江	秋学期	2
		中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）	渡辺昭太	秋学期	2
		アジアの伝統芸能	岩田和子	秋学期	2
		朝鮮語アプリケーション②	ヤン イエソン	秋学期	2
		世界の中の日本語	リービ英雄	秋学期	2
		北米文化論（ケベック講座）	廣松勲	秋学期	2
		他者イメージ論	中島成久	秋学期	2
		フランス語アプリケーション②	ジョルディ フィリップ	秋学期	2
		中国語アプリケーション②	渡辺昭太	秋学期	2
		国際関係研究2	東智美	秋学期	2
		地域紛争とエスニシティ	中島成久	秋学期	2
		中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）	曽士才	秋学期	2
		英語アプリケーション	ラスカイル ハウザー	秋学期	2
		英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）	須藤祐二	秋学期	2
人間環境		国際法Ⅰ	岡松 暁子	春学期	2
		国際法Ⅱ	岡松 暁子	秋学期	2
		環境法Ⅰ	横内 恵	春学期	2
		環境法Ⅱ	永野 秀雄	秋学期	2
		環境法Ⅲ	横内 恵	秋学期	2
		国際環境法	岡松 暁子	秋学期	2
		環境経営論Ⅰ	金藤 正直	春学期	2
		環境経営論Ⅱ	金藤 正直	秋学期	2
		環境科学Ⅰ	藤倉 良	春学期	2
		環境科学Ⅱ	藤倉 良	秋学期	2
		環境科学Ⅲ	藤倉 良	春学期	2
		公害防止管理論Ⅰ	大岡 健三	春学期	2
		公害防止管理論Ⅱ	大野 香代	秋学期	2
		環境教育論	野田 恵	春学期	2
		ヨーロッパ環境史論Ⅰ	辻 英史	春学期	2
		ヨーロッパ環境史論Ⅱ	辻 英史	秋学期	2
		自然環境政策論Ⅰ	高田 雅之	春学期	2
		自然環境政策論Ⅱ	高田 雅之	秋学期	2
		キャリア入門	長峰 登記夫	春学期	2
		仏教思想	高堂 晃壽	秋学期	2
キャリアデザイン		職業選択論Ⅰ	中川 宗人	春学期	2
		学習の社会史A	別府 愛	秋学期	2
		学習の社会史B	寺崎 里水	春学期	2
		職業選択論Ⅱ	上西 充子	秋学期	2
		アントレプレナーシップ論Ⅰ	松本 真尚	春学期	2
		アントレプレナーシップ論Ⅱ	松本 真尚	秋学期	2
		シティズンシップ論	濱口 博史	春学期	2
		コミュニティ社会論Ⅰ	佐藤 恵	春学期	2
		コミュニティ社会論Ⅱ	佐藤 恵	秋学期	2
		アート・マネジメント論	荒川 裕子	春学期	2
		多文化社会論Ⅰ	小田 昌教	春学期	2
		就業機会とキャリア	酒井 理	秋学期	2
		日本語教育概説	木村 哲也	春学期	2
		多文化社会における日本語教育A	木村 哲也	秋学期	2
		多文化社会における日本語教育B	前田 理佳子	秋学期	2
		多文化社会における日本語教育C	富谷 玲子	春学期	2
		多文化社会における日本語教育D	木村 哲也	春学期	2
		多文化社会における日本語教育E	木村 哲也	秋学期	2
		就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-	梅崎 修・上西 充子	秋学期	2
		就業応用力養成Ⅰ	鈴木 美伸	春学期	2
		就業応用力養成Ⅱ	鈴木 美伸	秋学期	2
GIS		Topics in Contemporary Art	溝口 彰子	秋学期	2
G人材ERP＊		Special Topics I: Photography and Culture	Gary McLeod	春学期	2
		Special Topics I: Photography and Culture	Gary McLeod	秋学期	2
		General Topics I: Visual Communication Design	Gary McLeod	春学期	2
		General Topics I: Fine Arts	Gary McLeod	秋学期	2
デザインエ	共通	国際社会論	藤本 正徳	AB期（春学期）	2
		財務会計	境 新一	AB期（春学期）	2
		エコノミクス	多部田 直樹	AB期（春学期）	2
		建築フォーラム	渡邉 眞理 他	CD期（秋学期）	2
		マーケティング	林 奈生子	CD期（秋学期）	2
		サステイナブルデザイン	出口 清孝	D期（秋学期後半）	2
		都市デザイン	高見 公雄	D期（秋学期後半）	2
SSI		スポーツビジネス論Ⅰ	岩村 聡	春学期	2
		スポーツビジネス論Ⅱ	岩村 聡	秋学期	2
		スポーツメディア論	海老名 徳雪	春学期	2
		アスリートキャリア論	笠井 淳	春学期	2
		スポーツ方法論	笠井 淳	秋学期	2
		オリンピック・パラリンピックを考える	荒井 弘和、吉田 康伸	春学期	2
		スポーツメディア論	海老名 徳雪	秋学期	2
		リーダーシップ論Ⅰ	浅井 玲子	春学期	2
		リーダーシップ論Ⅱ	浅井 玲子	秋学期	2
		アスリートキャリア論	成田 道彦	春学期	2
		スポーツ方法論	竹内 洋輔	春学期	2
市ヶ谷リベラルアーツセンター	人文科学系	漢字・漢文学A	加納留美子	春学期	2
		漢字・漢文学B	加納留美子	秋学期	2
		文芸創作講座A	岩川ありさ	春学期	2
		文芸創作講座B	岩川ありさ	秋学期	2
		日本芸能論A	阿部真弓	春学期	2
		日本芸能論B	阿部真弓	秋学期	2
		身体表現論A	深谷公宣	春学期	2
		身体表現論B	深谷公宣	秋学期	2
		美術論A	小澤慶介	春学期	2
		美術論B	小澤慶介	秋学期	2
		芸術と人間A	岡村民夫	春学期	2
		芸術と人間B	岡村民夫	秋学期	2
		仏教思想論A	計良隆世	春学期	2
		仏教思想論B	計良隆世	秋学期	2
		行為の理論A	山口誠一	春学期	2
		行為の理論B	山口誠一	秋学期	2
		中国の民族と文化A	齋藤勝	春学期	2
		中国の民族と文化B	齋藤勝	秋学期	2
		ギリシャの文化と社会A	中村純	春学期	2
		ギリシャの文化と社会B	中村純	秋学期	2
		古代日本・中国の法と社会A	岡野浩二	春学期	2
		古代日本・中国の法と社会B	岡野浩二	秋学期	2

学部	学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数
市ヶ谷リベラルアーツセンター	人文科学系	アジア・太平洋島嶼国際関係史A	今泉裕美子	春学期	2
		アジア・太平洋島嶼国際関係史B	今泉裕美子	秋学期	2
		クィア・スタディーズA	岩川ありさ	春学期	2
		クィア・スタディーズB	岩川ありさ	秋学期	2
		キリスト教思想史A	酒井健	春学期	2
		キリスト教思想史B	酒井健	秋学期	2
		異文化コミュニケーション論A	山本そのこ	春学期	2
		異文化コミュニケーション論B	山本そのこ	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（文芸創作の実践A）	藤村耕治	春学期	2
		教養ゼミⅡ（文芸創作の実践B）	藤村耕治	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（現代思想A）	森村修	春学期	2
		教養ゼミⅡ（現代思想B）	森村修	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（在日朝鮮人の歴史A）	神谷丹路	春学期	2
		教養ゼミⅡ（在日朝鮮人の歴史B）	神谷丹路	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（アラブの言語と文化A）	江村裕文	春学期	2
		教養ゼミⅡ（アラブの言語と文化B）	江村裕文	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（アフロアジア入門）	江村裕文	春学期	2
		教養ゼミⅡ（アフロアジア入門）	江村裕文	秋学期	2
	社会科学系	法哲学A	内藤淳	春学期	2
		法哲学B	内藤淳	秋学期	2
		福祉社会論B	菅野摂子	秋学期	2
		人文地理学セミナーA	高木正	春学期	2
		人文地理学セミナーB	高木正	秋学期	2
		文化人類学方法論A	中島成久	春学期	2
		文化人類学方法論B	中島成久	秋学期	2
		政治思想A	福田名津子	春学期	2
		政治思想B	福田名津子	秋学期	2
		人間行動学A	海部紀行	春学期	2
		人間行動学B	海部紀行	秋学期	2
		沖縄を考えるA	中俣均	春学期	2
		沖縄を考えるB	中俣均	秋学期	2
		グローバル社会の地域研究A	片岡義晴	春学期	2
		グローバル社会の地域研究B	片岡義晴	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（囲碁で培う戦略的思考）	坂根徹	春学期	2
		教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）	坂根徹	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（グローバル経済の課題と展望A）	水野和夫	春学期	2
		教養ゼミⅡ（グローバル経済の課題と展望B）	水野和夫	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（心理的ウェルビーイングを考えるA）	浅川希洋志	春学期	2
		教養ゼミⅡ（心理的ウェルビーイングを考えるB）	浅川希洋志	秋学期	2
	自然科学系	自然環境のしくみとその変貌A	加藤 美雄	春学期	2
		自然環境のしくみとその変貌B	加藤 美雄	秋学期	2
		計算と言語のしくみ	倉田 俊彦	春学期	2
		コンピュータと数理の活用	倉田 俊彦	秋学期	2
		確率の世界A	池田 宏一郎	春学期	2
		確率の世界B	池田 宏一郎	秋学期	2
		集合論A	安東 祐希	春学期	2
		集合論B	安東 祐希	秋学期	2
		現代の錬金術A	石川 壮一	春学期	2
		現代の錬金術B	石川 壮一	秋学期	2
		生物哲学	月井 雄二	春学期	2
		生命情報科学	月井 雄二	秋学期	2
		イオンの科学A	向井 知大	春学期	2
		イオンの科学B	向井 知大	秋学期	2
		光と色の科学A	中島 弘一	春学期	2
		光と色の科学B	中島 弘一	秋学期	2
		ITリテラシー	児玉 靖司	春学期	2
		コンピュータ科学	児玉 靖司	秋学期	2
		人間と地球環境	宇野 真介	春学期	2
		Human Impact on the Global Environment	宇野 真介	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（自然史）	島野 智之	春学期	2
		教養ゼミⅡ（自然史）	島野 智之	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（バイオイメージング）	木原 章	春学期	2
		教養ゼミⅡ（バイオイメージング）	木原 章	秋学期	2
	諸外国語＝言語教育系	教養ゼミⅠ（Issues in Modern Japanese Society）	ジェームス・ラセガード	春学期	2
		教養ゼミⅡ（Issues in Modern Japanese Society）	ジェームス・ラセガード	秋学期	2
		第三外国語としてのドイツ語A	笠原賢介	春学期	2
		第三外国語としてのドイツ語B	笠原賢介	秋学期	2
		ドイツ語コミュニケーション中級A	シュミットウテ	春学期	2
		ドイツ語コミュニケーション中級B	シュミットウテ	秋学期	2
		留学ドイツ語A	平松英人	春学期	2
		留学ドイツ語B	平松英人	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（ドイツ語講読）	山下敦	春学期	2
		教養ゼミⅡ（ドイツ語講読）	山下敦	秋学期	2
		第三外国語としてのフランス語A	廣松勲	春学期	2
		第三外国語としてのフランス語B	廣松勲	秋学期	2
		上級フランス語A	柴崎秀穂	春学期	2
		上級フランス語B	柴崎秀穂	秋学期	2
		フランス語コミュニケーション（中・上級）A	ジョルディフィリップ	春学期	2
		フランス語コミュニケーション（中・上級）B	ジョルディフィリップ	秋学期	2
		検定フランス語（中・上級）A	杉村裕史	春学期	2
		検定フランス語（中・上級）B	杉村裕史	秋学期	2
		フランス語表現法A	廣松勲	春学期	2
		フランス語表現法B	廣松勲	秋学期	2
		フランス語講読A	野村訓子	春学期	2
		フランス語講読B	野村訓子	秋学期	2
		第三外国語としてのロシア語A	木部敬	春学期	2
		第三外国語としてのロシア語B	木部敬	秋学期	2
		第三外国語としてのロシア語中級A	三神エレーナ	春学期	2
		第三外国語としてのロシア語中級B	三神エレーナ	秋学期	2
		ロシア語コミュニケーションⅠ	三神エレーナ	春学期	2
		ロシア語コミュニケーションⅡ	三神エレーナ	秋学期	2
		ロシア語購読Ⅰ	土岐康子	春学期	2
		ロシア語購読Ⅱ	土岐康子	秋学期	2
		時事ロシア語Ⅰ	クラフツェビチアンドレイ	春学期	2
		時事ロシア語Ⅱ	クラフツェビチアンドレイ	秋学期	2
		第三外国語としての中国語A	廣野行雄	春学期	2
		第三外国語としての中国語B	廣野行雄	秋学期	2
		中国語視聴覚中級A	劉渇水	春学期	2
		中国語視聴覚中級B	劉渇水	秋学期	2
		中国語コミュニケーション中級A	耿函	春学期	2
		中国語コミュニケーション中級B	耿函	秋学期	2
		中国語講読A	岩田和子	春学期	2
		中国語講読B	岩田和子	秋学期	2
		資格中国語中級A	渡辺昭太	春学期	2
		資格中国語中級B	渡辺昭太	秋学期	2
		資格中国語上級A	康鴻音	春学期	2
		資格中国語上級B	康鴻音	秋学期	2
		中国語翻訳・通訳A	薬進	春学期	2

◆上記科目の履修方法・講義内容などの詳細は、時間割・シラバス等を参照すること。
◆上記科目に変更がある場合は、掲示板にて知らせるので、各自確認すること。

学部	学科	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数
市ヶ谷リベラルアーツセンター	諸外国語＝言語教育系	中国語翻訳・通訳B	薬進	秋学期	2
		中国語翻訳・通訳C	髙田裕子	春学期	2
		中国語翻訳・通訳D	髙田裕子	秋学期	2
		第三外国語としてのスペイン語A	杉下由紀子	春学期	2
		第三外国語としてのスペイン語B	杉下由紀子	秋学期	2
		スペイン語上級Ⅰ	田澤耕	春学期	2
		スペイン語上級Ⅱ	田澤耕	秋学期	2
		スペイン語コミュニケーションⅢ	瓜谷アウロラ	春学期	2
		スペイン語コミュニケーションⅣ	瓜谷アウロラ	秋学期	2
		第三外国語としての朝鮮語A	神谷丹路	春学期	2
		第三外国語としての朝鮮語B	神谷丹路	秋学期	2
		第三外国語としての朝鮮語中級	梁禮先	春学期	2
		日本語コミュニケーションA	江村裕文	春学期	2
		日本語コミュニケーションB	江村裕文	秋学期	2
	諸外国語言語文化・地域文化系	ドイツの思想Ⅰ	笠原賢介	春学期	2
		ドイツの思想Ⅱ	笠原賢介	秋学期	2
		ドイツ語圏の文学A	遠藤浩介	春学期	2
		ドイツ語圏の文学B	遠藤浩介	秋学期	2
		ドイツ語圏の芸術A	林志津江	春学期	2
		ドイツ語圏の芸術B	林志津江	秋学期	2
		比較文化Ⅰ	Dハイデンライヒ	春学期	2
		比較文化Ⅱ	Dハイデンライヒ	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（フランス語圏文化への招待①）	大中一彌	春学期	2
		教養ゼミⅡ（フランス語圏文化への招待①）	大中一彌	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（フランス語圏文化への招待②）	ジョルディフィリップ	春学期	2
		教養ゼミⅡ（フランス語圏文化への招待②）	ジョルディフィリップ	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（中国の生活文化）	岩田和子	春学期	2
		教養ゼミⅡ（中国の生活文化）	岩田和子	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（スペイン語圏の文化と社会を読み解く）	大西亮	春学期	2
		教養ゼミⅡ（スペイン語圏の文化と社会を読み解く）	大西亮	秋学期	2
	健康・スポーツ科学系	スポーツ科学A（スポーツレクリエーション）	西村一帆	春学期	2
		スポーツ科学B（スポーツレクリエーション）	西村一帆	秋学期	2
		スポーツ科学A（スポーツレクリエーション）	落合久夫	春学期	2
		スポーツ科学B（スポーツレクリエーション）	落合久夫	秋学期	2
		スポーツ科学A（スポーツレクリエーション）	小西真幸	春学期	2
		スポーツ科学B（スポーツレクリエーション）	小西真幸	秋学期	2
		スポーツ科学A（ウォーキング・ヨガストレッチ）	朝比奈茂	春学期	2
		スポーツ科学B（ウォーキング・ヨガストレッチ）	朝比奈茂	秋学期	2
		スポーツ科学A（バドミントン）	落合久夫	春学期	2
		スポーツ科学B（バドミントン）	落合久夫	秋学期	2
		スポーツ科学A（バレーボール）	吉田康伸	春学期	2
		スポーツ科学B（バレーボール）	吉田康伸	秋学期	2
		スポーツ科学A（バスケ）	小谷究	春学期	2
		スポーツ科学B（バスケ）	小谷究	秋学期	2
		スポーツ科学A（トレーニング）	中澤史	春学期	2
		スポーツ科学B（トレーニング）	中澤史	秋学期	2
		スポーツ科学A（スポーツレクリエーション）	笠井淳	春学期	2
		スポーツ科学B（スポーツレクリエーション）	笠井淳	秋学期	2
		スポーツ科学A（フィットネス）	笠井淳	春学期	2
		スポーツ科学B（フィットネス）	笠井淳	秋学期	2
		教養ゼミⅠ（身体づくり（Bodymake）のための理論と実践を学ぶ）	伊藤マモル	春学期	2
		教養ゼミⅡ（身体づくり（Bodymake）のための理論と実践を学ぶ）	伊藤マモル	秋学期	2

◆上記科目の履修方法・講義内容などの詳細は、時間割・シラバス等を参照すること。
◆上記科目に変更がある場合は、掲示板にて知らせるので、各自確認すること。

Ⅱ．履修科目登録

１．履修科目登録について

科目を履修し、その単位を修得するためには、学年の始めに科目の登録を行わなければならない。未登録のまま授業を受け、試験を受けてもその科目の単位修得はできない。従って、履修科目の登録にあたっては、履修要綱に示されている事項をよく理解し、ガイダンス・掲示等に注意のうえ、各年次で計画的に履修していくことが必要である。

「学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出て承認を得なければならない。」（学則第22条）**履修登録を最終期限までに行わない学生は当該年度の受講・受験資格が認められない。**

なお、履修登録は**春学期に一度行い、履修修正は秋学期に一度行うことができる。**経済学部では通年科目・半期科目・集中講義科目が開設されているので、計画的に春学期、秋学期の履修スケジュールを立て、登録すること。

通　年　科　目：１時限の講義で、春学期・秋学期を通して１年間の講義で履修が完了する科目

半　期　科　目：１時限の講義で、春学期または秋学期のいずれか半期の講義で履修が完了する科目

集中講義科目：２時限連続で講義を実施することにより、春学期または秋学期いずれかの半期の講義で履修が完了する科目

２．履修科目の選択

履修科目の決定の前に、卒業所要単位や進級条件、カリキュラムを正しく理解し、時間割やシラバスを読んで年間履修計画を立て、各自の責任において慎重に決定すること。また２年次以降は成績通知書で修得済みの科目を確認した上で決定すること。余裕のある履修計画が立てられるよう、各年次に定められている最高履修単位の枠を最大限に履修し、単位を修得することが望ましい。

３．履修登録上の注意

(1)　登録できる履修科目の単位数には上限がある。特に不合格科目の再履修には制限があるため、学科ごとの科目履修基準をよく読んでから登録すること。

(2)　同一時間（同一授業期間内の同一時限）に２科目以上を履修することはできない。

(3)　多摩キャンパスの開講科目と市ヶ谷キャンパスの公開科目を同じ曜日に履修することはできない。

(4)　上級年次に配当されている科目は履修できない。
(5)　一度単位を修得した科目を再び履修することはできない。
(6)　同一名の科目を履修することはできない。
〈例〉　環境科学Ａと環境科学Ｂ→別科目なので履修可
芸術（春学期）と芸術（秋学期）→同一科目なので履修不可
(7)　複数の同一科目が設置されており、クラス指定・学年指定等の条件がある場合は必ずこれらの指定に従って登録しなければならない（時間割を参照）。ただし、指定対象外の場合（２年次生が、１年次生のみクラスが指定されている社会経済学基礎を履修すること等）はいずれの科目を登録してもよい。
(8)　総合教育科目および専門教育科目、スポーツ種目科目については、同一年度に科目Ａ・Ｂを通年で履修することが望ましい。ただし、下記のいずれかに該当する場合は除く。
ａ．前年度までにＡ、もしくはＢのいずれかの単位を落としたために再履修する場合
ｂ．ＳＡ派遣者
ｃ．Ａ・Ｂの両方を履修すると、履修単位の上限を超えてしまう場合
(9)　外国語補講科目・スポーツ種目・演習科目・情報処理関係科目等を履修する場合は、この登録以前に予備登録又は抽選が必要となるので、特に注意のこと。

履修に制限のある科目（※は４年次のみ履修可能となる科目）

2016年度以降入学生

外国語補講	予備登録を行う(「３月・４月の学事日程」参照)。
スポーツ総合Ａ・Ｂ（新入生を除く）	繰入手続を行う（先着順）。
スポーツ種目Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
コンピューター入門Ａ・Ｂ	抽選で受講者を決定する。
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	
データ解析入門Ａ・Ｂ	
コンピューター科学Ａ・Ｂ	
多摩地域形成論	
外国語セミナー（英・独・仏・中・露・西）Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
Business Research Seminar　Ａ・Ｂ	
各外国語コミュニケーションＡ・Ｂ	
English CommunicationⅠ～ⅢＡ・Ｂ	
文章表現Ａ・Ｂ	
キャリアデザイン論　　☆１・２年次のみ履修可。	
財政学Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
経済政策Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
国際経済論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
Business CommunicationⅠ・ⅡＡ・Ｂ	初回の授業で選抜試験を行う。
Academic Presentation and Interaction	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
Academic Reading and Interaction	
Academic Writing and Interaction	

Academic Listening and Interaction	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
Modern Novel	
TOEFL and IELTS Preparation	
TOEIC Preparation	
Media English	

2010～2015年度入学生

外国語補講	予備登録を行う(「３月・４月の学事日程」参照)。
スポーツ総合（新入生を除く）	繰入手続を行う（先着順)。
スポーツ種目Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
コンピュータ入門	抽選で受講者を決定する。
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	
コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	
コンピュータ科学Ａ・Ｂ	
多摩地域形成論	
外国語セミナー（英・独・仏・中・露・西）Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
時事英語セミナーＡ・Ｂ	
外国語コミュニケーション初級Ａ・Ｂ、同中級Ａ・Ｂ	
英語コミュニケーション上級Ａ・Ｂ	
文章表現Ａ・Ｂ	
キャリアデザイン論　　☆１・２年次のみ履修可。	
財政学Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
経済政策Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
国際経済論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
ビジネス英語初級Ａ・Ｂ、同中級Ａ・Ｂ	初回の授業で選抜試験を行う。

2009年度以前入学生

外国語補講	予備登録を行う(「３月・４月の学事日程」参照)。
スポーツ総合（新入生を除く）	繰入手続を行う（先着順)。
スポーツ種目Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
コンピュータ入門	抽選で受講者を決定する。
ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	
コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	
コンピュータ科学	
多摩地域形成論	
外国語セミナー（英・独・仏・中・露・西）Ａ・Ｂ	初回の授業に出席し、担当教員の指示を受ける。
時事英語セミナーＡ・Ｂ	
外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（英・独・仏）	
英語演習	
文章表現	
キャリアデザイン論　☆１・２年次のみ履修可。	
財政学Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
経済政策Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
国際経済論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）※	
ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ　　☆現代ビジネス学科のみ	初回の授業で選抜試験を行う。

４．履修科目決定の手順

(1) 履修科目の決定（主に１年次）

a. まず必修科目（外国語科目・保健体育科目・基礎教育科目等）を全て履修する。クラス指定があるので必ず従うこと。これらの科目は第一回目の授業から出席すること。

b. 次に、各年次に配当されている専門教育科目から、a. の時間と重なっていないもので、興味のあるものを選ぶ。各年次配当、もしくは下の年次の配当科目の中からなるべく上限まで選ぶ（科目履修基準を参照）。学年・クラス等指定のある科目は、必ずそれに従うこと。

c. 総合教育科目をなるべく上限まで選ぶ（科目履修基準を参照）。

d. 受講制限のある科目の履修を希望する場合は、担当教員の許可を受ける（試験を行う場合もある）。

e. 抽選のある科目は、抽選方法に従うこと。詳しくは掲示等で確認すること。なお、抽選に通った場合は、必ず履修すること。

f. 希望する科目のシラバスを読み、授業に出席し、履修する科目を決定する。

※講義概要（シラバス）は、Web上で公開されている。『経済学部講義ガイド（シラバス）』は全ての科目が記載されていないため、Webシラバスを必ず確認すること。各授業の概要・授業計画・教科書・成績評価方法などを確認することができる。

Webシラバスは、法政大学情報システムの履修申請画面にあるリンクボタンから参照すること。また、履修登録期間外にシラバスを参照する方法については、別途経済学部Webサイト・掲示板にてURL等を知らせる。

g. 最後に、進級規程、卒業所要単位、単位数の上限など、履修登録した内容が合っているか確認する。

(2) 履修登録

法政大学情報システム（Web）上での履修登録となる。詳細は、別途配布する「Web履修登録要領」を確認し、必ず期日までに履修登録をすること。

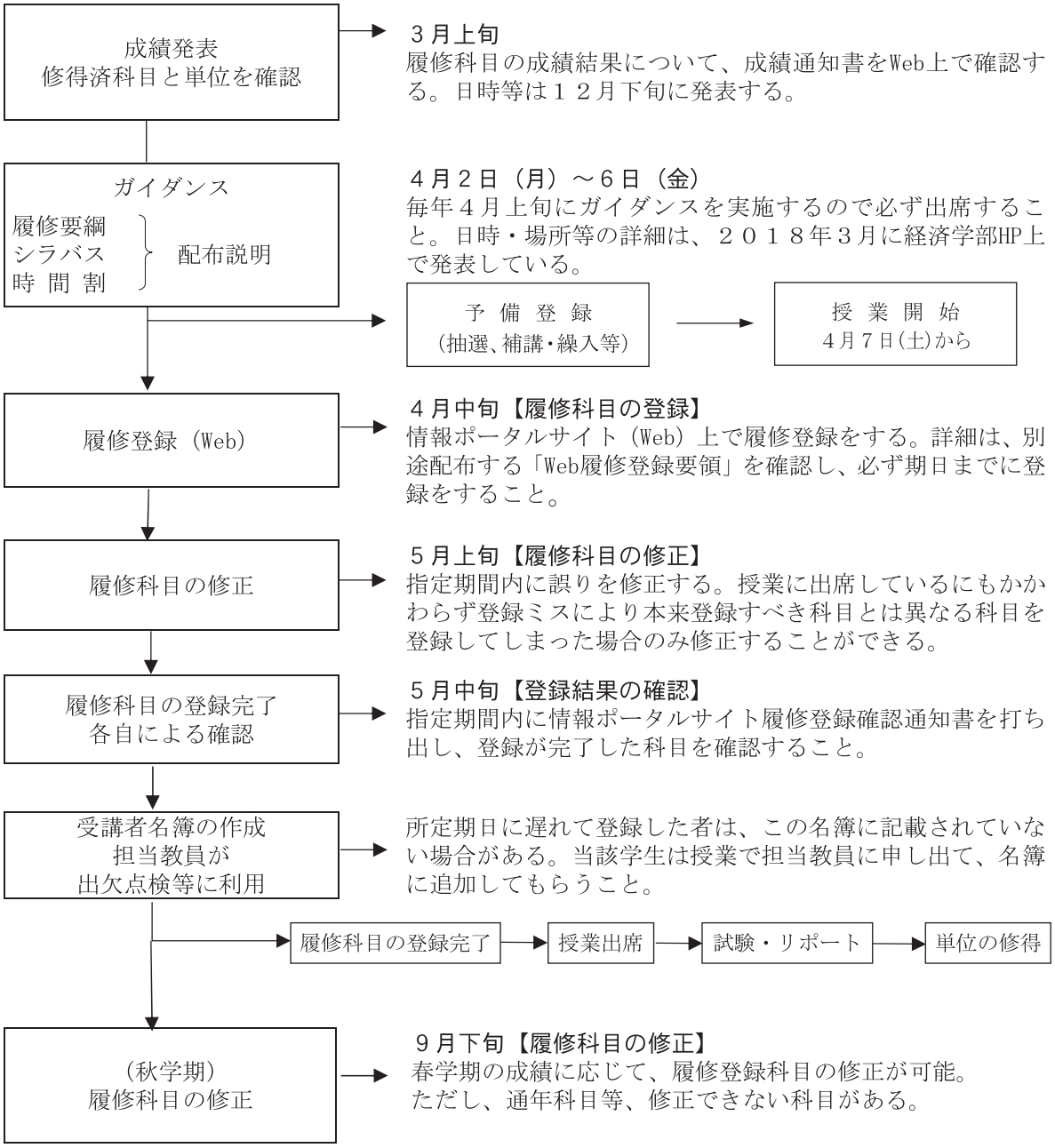
(3) 履修登録科目確認通知書

履修登録科目確認通知書は、学生が登録しようとする科目と実際に登録された科目とが一致しているか確認するためのものである。

指定期間内に法政大学情報システムから「履修登録科目確認通知書」を出力して必ず確認し、1年間大切に保管すること。正しく登録できていることが確認できれば登録は完了する。確認を怠り、自分の登録の誤りを見過ごし、結果的に単位を修得できない例が発生しているので注意すること。

５．登録手続きの方法

履修科目の登録から単位修得までの流れ



Ⅲ. 授　　業

1．授業

大学では一年間を春学期・秋学期の二学期に分けて授業・試験を行っている。各科目の授業教室は「経済学部時間割」を参照すること。受講人数や授業形式により教室変更している場合もあるので掲示板で確認すること。

2．補講

休講その他により実施できなかった授業を補うために､補講を行う場合がある。

授業期間や補講期間、試験期間等のスケジュールは表紙裏にある「学年暦」や各種掲示を参照すること。

3．授業時間

	市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
第１時限	9：00～10：40	9：25～11：05	9：00～10：40
第２時限	10：50～12：30	11：15～12：55	10：50～12：30
第３時限	13：10～14：50	13：45～15：25	13：20～15：00
第４時限	15：00～16：40	15：35～17：15	15：10～16：50
第５時限	16：50～18：30	17：25～19：05	17：00～18：40

4．授業の欠席

やむを得ず授業を欠席する場合、特に事務手続を行う必要は無い。忌引き以外の欠席の場合、原則として大学への「欠席届」はないので、必要な場合は各自で担当教員へ直接申し出ること。

忌引きによる欠席の場合、欠席の手続きについては下記の通りとする。

（１）手続き

忌引きによる授業欠席、レポート未提出、および未受験の取り扱いについては、以下の必要書類を経済学部事務課へ提出する。

ａ．「忌引届」（経済学部事務課にて配布）

ｂ．会葬礼状、またはこれに準ずるもの

（２）提出期限

ａ．忌引きによる授業欠席、レポート未提出、および未受験の取り扱いを受けようとする者は、指定された書類等を忌引きの期間最終日から7日以内に提出しなければならない。ただし提出期限最終日が窓口取扱い日ではない場合は、その翌日までとする。

ｂ．特例として、学部等が認めた場合は、その日を提出期限最終日とする。

（３）忌引の対象および日数

ａ．配偶者＝死亡日を含めて連続７日間

ｂ．１親等（本人・配偶者の父母、子）＝死亡日を含めて連続７日間

ｃ．２親等（本人・配偶者の祖父母、孫、本人の兄弟姉妹）＝死亡日を含めて連続３日間

５．休講

授業は、担当教員の病気や行事のために休講となることがあるので、学部の掲示板もしくは情報ポータルサイト（詳細は後述６．を参照）で確認すること。他学部公開科目の休講情報については、公開している学部の掲示板または情報ポータルサイトで確認すること。

なお不可抗力により教員が大学へ連絡できないこともあり、授業開始時間から30分経過しても担当教員が出講しないときは休講とする。ただし、その際は教室変更なども確認すること。

・補講などの詳細情報については学部掲示板にて確認すること。

・直前に連絡のあった休講情報はホームページ上に反映されない場合がある。

６．法政大学情報システム

ネットワークを介した学生サービスの一つとして、法政大学情報システムが稼働している。ＷＥＢ版・スマートフォン版（スマートフォンサービス）の２つのサービスがあり、推奨環境はそれぞれ以下の通り。個人の履修登録情報や成績情報が閲覧可能になるので、利用に当たっては、ユーザＩＤおよびパスワードを他人に知られることのないよう、各自で厳重に管理すること。

Web版	
OS	Windows 7, 8, 8.1, 10
ブラウザ	Internet Explorer 11, Microsoft Edge

スマートフォン版	
OS	iOS 9, 10
ブラウザ	Safari

（1）ＷＥＢ版　　主な機能は以下のとおり。

各機能の利用開始時期、および利用方法は、学部毎に異なるので、各学部事務担当からの指示に従うこと。

	サービス名	サービス内容
1	情報ポータル	情報システムにログインすると情報ポータルページに各種メニューが表示される。
2	お知らせ	大学からの個人／大学全体／学部・学科宛のお知らせを情報ポータル画面上で確認できるほか、お知らせを指定のアドレスで受信することができる。※2015年度以降の新入生は初期値で大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛にメール配信される設定になっているが、入学学期や入学経路により未設定の場合がある。 2014年度以前の入学生および2015年度以降の入学であってもメールが配信されない場合や希望する別アドレスに変更する場合は必要に応じて各自での配信設定をすること。
3	授業・時間割照会	自分が履修登録した授業時間割・定期試験日程を確認することができる。 ※授業時間割は所属の学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となる。 ※定期試験日程はWEB公開しない学部もある。所属学部・学科の掲示板、窓口で確認すること。
4	休講状況照会 補講状況照会	自分が履修登録した授業の休講情報、補講情報を確認することができる。（学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となる。）
5	抽選授業履修申請	Web上で抽選対象科目の申請、及び抽選結果の確認を行う。
6	履修申請	通常授業の履修登録や抽選授業の履修登録が申請できる。 ※学部3年生は履修登録(春学期)の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要（2年次に登録済みの場合不要)。詳細はキャリアセンターで確認すること。
7	履修取消	履修申請による科目登録が一旦確定した後、科目の取消ができる。※科目や学部により履修取消機能を利用しない場合がある。
8	成績通知書印刷	自分の成績通知書を出力することができる。 ※学部2年生は進路希望登録、学部4年生は進路決定報告を、成績発表（秋学期）までにキャリアセンターのシステムへ登録する必要がある。詳細はキャリアセンターで確認すること。
9	キャリア就職	各種支援行事への参加申請や、企業情報、求人情報の検索ができる。
１０	奨学金申請	各種奨学金の出願申請や、採用結果の確認ができる。

（2）スマートフォン版　　主な機能は以下のとおり

	サービス名		サービス内容
1	お知らせ	各種お知らせ	大学からの個人／大学全体／学部・学科宛のお知らせを確認することができる。
		メール配信設定画面	各種お知らせ及び自分が履修登録した授業の休講情報がメールで大学付与のメールアドレスに配信される（配信先メールアドレスを変更することも可能）。 ※2015 年度以降の新入生は初期値で大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛にメール配信される設定になっているが、入学学期や入学経路により未設定の場合がある。 2014年度以前の入学生および2015年度以降の入学であってもメールが配信されない場合や希望する別アドレスに変更する場合は必要に応じて各自で配信設定をすること。
2	履修	履修申請（春学期）	履修登録が申請できます。抽選授業の申請はPC版から行うこと。 ※学部3年生は履修登録（春学期）の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要。(2年次に登録済みの場合不要)。詳細はキャリアセンターで確認すること。
		履修申請（秋学期）	
		履修取消（春学期）	履修申請による科目登録が一旦確定した後、科目の取消ができる。 ※科目や学部により履修取消機能を利用しない場合がある。
		履修取消（秋学期）	
3	授業・時間割	授業・時間割照会	自分が履修登録した授業時間割を確認することができる。（学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となる。） ※授業時間割は学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となる。 ※定期試験日程はWEB公開しない所属もある。所属の掲示板、窓口で確認すること。
		授業・時間割照会（集中）	
		授業・時間割照会（定期試験）	
4	全学休講情報		全学の休講情報（アクセス日から1週間分）を確認することができる。

（3）利用方法について

a.　下記URLを入力。スマートフォン版はQRコードの読取りでも接続できる。

【ＷＥＢ版】　http://www.as.hosei.ac.jp/

【スマートフォン版】https://www.as.hosei.ac.jp/kyomu/smartphone/

ＱＲコード：

b.　統合認証ログイン画面が表示されるので、ユーザ名とパスワードを入力する。**統合認証用のユーザID/パスワード発行証は入学ガイダンスで全員に配付している。**このパスワードはキャッシュカードの暗証番号等と同等の扱いとし、絶対に他人に知られることのないよう厳重に管理すること。**初期パスワードは各自で必ず変更すること。**

（パスワードを忘れた場合は、学生証持参の上、総合棟3階 多摩情報センター窓口で再発行をすること。）

c. メニュー画面が表示されるので、利用する機能を選択する。

d. サービスの詳細やシステムメンテナンス情報、よくある問い合わせは情報システムユーザサポートサイトにて確認できる。

【サポートサイト】http://www.hosei.ac.jp/as/student/index.html

※授業支援システム（７．授業支援システム参照）と科目の履修登録は別個のものである。授業支援システムに登録をしたからといって科目の履修登録となるわけではない。履修科目の登録は、必ず情報システムで行うこと。

（4）メール配信設定機能（スマートフォン版）

各種お知らせおよび自分が履修登録した授業の休講情報が、登録したメールアドレス宛てに配信されるよう設定することができる（※２０１５年度入学生より、配信先メールアドレスの初期値は大学付与メールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）になっている）。

＜登録手順＞

※２０１５年度以降に入学した学生が配信先メールアドレスを変更する場合も下記の手順で変更可能。必要に応じて変更すること。

a. 携帯電話でQRコードを読み取るか登録用メールアドレス（info_entry@hosei.ac.jp）を直接入力し、空メールを送信する。

b. 数分以内に「【法政大学】メール配信設定仮登録のお知らせ」メールが送られてくるので、本文中に記載されているURLをクリックする。

c. 配信を希望する情報（休講情報，お知らせ他）を選択し、統合認証 ID・パスワードを入力する。

d. 認証完了後、送信元の携帯メールアドレスが自動で登録され、c.で選択した情報が配信されるようになる。

※登録手順の詳細等については、「情報システムユーザサポートサイト」にて確認すること。

ＱＲコード：

７．授業支援システム

授業支援システムは、授業で行われる資料の配布やディスカッションやレポートの提出等を、インターネットを通じて行えるようにしたWebベースのシステムである。学生は、インターネットに接続されたパソコンを用いていつでもどこでも、授業支援システムに教員がアップロードした授業資料をダウンロードしたり、レポート課題に対するレポートを提出したりすることができる。

詳細は、以下の大学ホームページ、または、『学習支援ハンドブック』を参照すること。学習支援ハンドブックはガイダンス等で配布している。

HOME＞在学生の方へ＞履修・成績＞授業支援システム＞「授業支援システム」
授業支援システム　https://hcms.hosei.ac.jp/
授業支援システムWEBガイド　http://cmsguide.hosei.ac.jp/

◆利用方法に関する問い合わせ先　TEL: 042-783-2211
キャンパスサテライト（小金井キャンパス西館地下1階メディア準備室）
オープン時間（授業期間中）:
4月・9月：月～金（9：00～12：20、12：50～17：50）
5月～7月、10月～1月：月～金（10：40～12：20、12：50～17：00）
TEL：042-387-7068
E-mail：hcms@ml.hosei.ac.jp

授業支援システムにログインする際には、統合認証IDとパスワードが必要である。統合認証IDは、大学から配布されるメール、休講情報を参照するときに利用するIDと同じもの。統合認証IDに関する質問や問い合わせがある場合は、多摩総合情報センター（総合棟　3階）に問い合わせること。

注)授業支援システムと情報ポータルサイトは別個のシステムで連動していない。

８．特別の休講措置について

法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。

（１）天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を次の通り周知します。

ａ．1・2時限の授業について、当日6:00までに大学公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。また、6:30頃までに大学公式ホームページに同内容を掲載します。

ｂ．3～5時限の授業について、当日10:00までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。

ｃ．6・7時限の授業について、当日15:00までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。

（２）事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を大学公式ホームページに掲載し、学生・教職員に周知をします。

（３）上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日 17:00 までに翌日の授業休講を決定し、大学公式ホームページに掲載することがあります。

［参考］ 大学公式ツイッター　URL：http://twitter.com/hosei_pr
大学公式ホームページ　URL：http://www.hosei.ac.jp/

Ⅳ. 試　　験

1．定期試験

今年度の定期試験は、下記の期間中に実施する。

- **春学期試験期間**　　２０１８年７月２４日（火）～７月３１日（火）
- **秋学期試験期間**　　２０１９年１月２２日（火）～２月２日（土）

2．授業内試験

定期試験の他に、授業時間内において随時「授業内試験」を実施する。この「授業内試験」を何回か実施することにより、定期試験期間内の試験を実施しない科目もある。その意味では、学生諸君の授業への出席が厳しく要求されることになる。

- **試験日の発表方法**……原則として、授業中に担当教員が指示する。また掲示によって発表する場合もある。

3．追試験

試験をやむを得ない事情により、欠席した場合の手続きは下記のとおりとする。

(1) 定期試験

ａ．出願資格

①　病気、事故、災害等不測の事態に見舞われた場合

②　就職試験と試験日が重なった場合

ｂ．出願手続

欠席届（所定用紙は窓口にある）に、医師の診断書、公的な証明書等を添付して経済学部事務課まで届け出ること（期限厳守のこと）。

ｃ．出願期間

定期試験期間中に掲示する。

(2) 授業内試験

授業を担当する教員へ直接届け出ること（電話による申し出はしないこと）。

4．再試験

経済学科 ……卒業再試験（詳細は６、31頁を確認すること）

国際経済学科……進級再試験※・卒業再試験（詳細は58、81、82頁を確認すること）

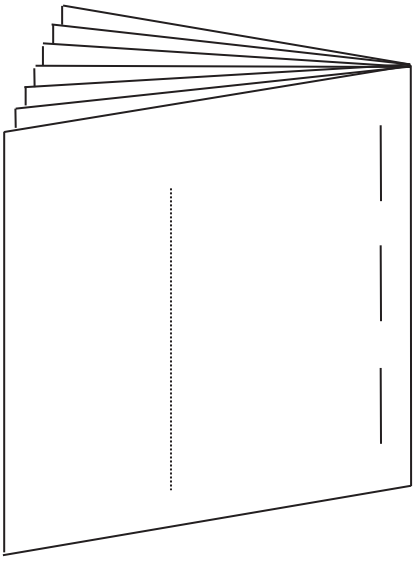
現代ビジネス学科 ……卒業再試験（詳細は108、129頁を確認すること）

※進級再試験は2015年度以前入学生のみ

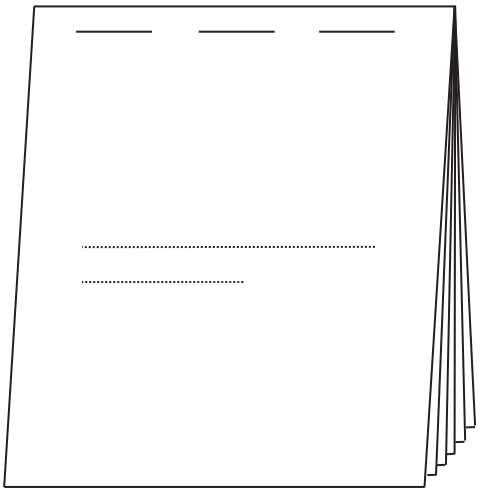
５．リポート提出上の留意事項

リポートは、成績評価にあたって筆記試験と同等に扱い、その提出は非常に重要なウエイトを占める。「リポート提出」にあたっては、以下の点に留意すること。

(1) リポート課題、指定用紙・規格、枚数、提出期限、提出場所等については、授業の中で直接担当教員が指示する。また、掲示による発表を行う場合もある。
(2) リポートは、なるべくボールペン等を使用のこと。
(3) リポートには必ず表紙をつけること。表紙には受講時限・曜日、科目名、担当教員名、テーマ、学部・学科・学年・クラス・学生証番号・氏名を明記すること。
(4) リポート提出場所が事務室の場合、締切時間を過ぎたものについては一切受け付けないので注意すること。
(5) リポートのとじ方



縦書き表紙
＜縦書き原稿用紙の場合＞



横書き表紙
＜リポート用紙の場合＞

なお、授業支援システム上からリポート課題等を提出する際は、必ずリポートの元データを提出後も保存しておくこと。

6．受験にあたっての注意事項

(1) 時間割

a.「試験時間割」は、通常授業の時間割と、実施曜日・時限および教室等が異なるので、間違いのないよう注意すること。
b.　授業内試験については、担当教員または掲示発表の指示に従うこと。

(2) 受験するにあたって

a.　登録した科目のみ受験すること。未登録科目を受験しても単位修得はできない。
b.　試験当日は必ず学生証・筆記用具を持参すること。

(3) 試験場では

a.　試験場へは、開始10分前までには入室しておくこと。
b.　試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。
c.　答案用紙及び試験中に渡される受験者名簿には、学部・学科・学年・クラス・学生証番号・氏名等の必要事項を全て記入すること（無記名の場合は無効とする）。
d.　学生証はケースから出して写真印刷面を上にして、通路側の机上におくこと。
e.　ノート・参考書等が参照可の場合は、各自で用意したものを使用すること。
f.　答案用紙は、原則として再配付しない。答案を提出しないで退室したり、答案を教室外に持ち出した場合は、不正行為と同様の扱いとなる場合がある。白紙の答案でも上記必要事項を記入して必ず提出すること。
g.　携帯品（ペンケース・ノート・参考書・その他）は、カバンなどに入れて自分の席の横に置くこと。携帯電話・スマートフォン・腕時計型電子端末等は必ず電源を切り、ポケットではなく、カバンにしまうこと。問題・解答用紙配布後に身につけていた場合または電源を切っていなかった場合、不正行為となる。
h.　解答が終了しても試験開始時より30分経過し、かつ監督者が指示するまでは退室できない。

(4) 試験時間に遅刻した場合

a.　試験開始後30分までは、監督者の許可を得て入室（受験）を認める。
b.　試験開始30分経過後は受験を認めない（市ヶ谷で公開科目等を受験する場合は、試験開始20分まで入室を認める）。
c.　交通機関の事故等により受験が不可能になった場合は、すみやかに経済学部事務室に申し出て指示を受けること。

(5) 試験時の不正行為について

授業内試験及び定期試験の受験に際し、不正行為を行うことのないよう厳重に注意されたい。不正行為者に対しては停学も含む厳しい処分をもってのぞむことを、教授会は確認している（次頁参照）。

７．試験時における不正行為者の処分

試験時に不正行為を行った学生は、次の基準に従って処分する。停学の期間中は試験を受けることができない。懲戒については184、185頁を参照のこと。

この基準は、2018年度春学期に全面改訂され、新しい基準に変わる。新しい基準は学部ガイダンスや学部掲示板等で知らせるので確認すること。

定期試験等における不正行為の処分基準

不正行為態様	処分内容
①　計画性の弱い、または偶発的な不正行為 例：ａ．他人の答案の覗き見 ｂ．問題・答案用紙配布後の話し合い ｃ．参照可の資料等の貸借 ｄ．不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない ｅ．答案の持ち帰り	○譴責または１カ月未満の停学 ○当該科目は無効（Ｅ評価）
②　計画性が強い、または意図的な不正行為 例：ａ．参照不可の試験でカンニングペーパー使用 ｂ．　〃　机上への書き込み ｃ．　〃　テキスト・ノート等の閲覧 ｄ．参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用 ｅ．答案用紙の交換（行為の態様により③の受験依頼に該当）	○停学１カ月以上３カ月未満 ○当該科目は無効（Ｅ評価） ○不正行為以後に行われる当該期の試験科目の受験を無効（Ｅ評価）
③　受験依頼（いわゆる替え玉受験） 例：ａ．依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用） ｂ．答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出	○停学３カ月以上６カ月未満または無期停学 ○当該期全履修科目の受験を無効（Ｅ評価）
④　再犯（不正行為を２回以上行った者）	○処分を加重する 上記①の不正行為を行った場合は ②と同じ処分 上記②の不正行為を行った場合は ③と同じ処分 上記③の不正行為を行った場合は 退学 および当該年度全履修科目を無効
⑤　定期試験外（授業内試験等）で不正行為を行った場合 例：ａ．定期試験に代替する授業内試験での不正行為 ｂ．定期試験に代替する論文試験（レポート含む）での剽窃（※）行為	○行為の態様または計画性の強弱等により上記 ①～④の処分を準用
◆停学処分の発効日	◇不正行為を行った日の翌日

※剽窃（ひょうせつ）…他人の作品・論文・文章などの字句または説を盗みとって、自分のものとして発表すること。

Ⅴ．成績評価および成績発表

１．成績評価

(1) 単位の修得は、授業内試験、リポートの提出、定期試験（春・秋学期試験）及び平素の学習状況または面接試験等により、総合的に考慮して判定する。

(2) 平素の学習状況という側面から、成績の評価にあたっては授業への出席状況も厳しく要求される。特に、「入門ゼミ」、「外国語科目」等のクラス授業科目、「保健体育科目」及び「演習」等については、授業への出席が単位修得の絶対的な前提条件となる。

(3) 成績の評価基準は次のとおりである。

	合　　格（単位修得）				不　　合　　格	
評　　価	A$^+$	A	B	C	D	E
評価基準	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	未受験者

※この基準は2008年度より適用。2007年度以前の成績に変更はない。

また、絶対水準による評価方法を補完するため、上記の他に下記の基準を設け、成績評価が科目ごとに著しく偏ることのないよう配慮されている。ただし、「保健体育科目」、「演習」および科目履修登録者数が 20 名以下の科目については除く。

評価	評価基準	相　対　基　準
A$^+$	100～90点	上位10%～上位20%の範囲を著しく超えない。
A	89～80点	特に定めない。
B	79～70点	特に定めない。
C	69～60点	特に定めない。
D	59点以下	下位５%～下位20%の範囲を著しく超えない。

成績評価は「A$^+$」・「A」・「B」・「C」・「D」・「E」で表示し、「A$^+$」・「A」・「B」・「C」の評価に対し所定の単位を与える。「D」は不合格。「E」は未受験やリポート未提出、欠席が多い場合などに表示する。

２．ＧＰＡ（Grade Point Average）制度について

上記の５段階の成績評価A$^+$、A、B、C、D、さらに未受験その他の場合の評価Eに、それぞれグレードポイント（grade point）がつく。５段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりである。

	合格（単位修得）				不合格	
成績評価	A$^+$	A	B	C	D	E
評価基準	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点	未受験・他
GP	4	3	2	1	0	0

(1) ＧＰＡ（Grade Point Average）について

履修した科目の成績評価としてA⁺からDまでの５段階評価がつくが、５段階評価を４～０までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛ける。これがその科目のポイント数になる。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出する。これがＧＰＡ（Grade Point Average）である。ＧＰＡの算出方法については次のとおり。計算値は小数点以下第３位を四捨五入して表記する。

$$ＧＰＡ=\frac{\text{〈履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数〉の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

なお、入学した年度に関わりなく、ＧＰＡには 2008 年度以後に履修登録した科目のみ算入され、2007 年度以前に登録した科目は合格、不合格いずれも算入されない。

(2)ＧＰＡを表示する書類について

・成績通知書：①各セメスターのＧＰＡ、②直近のセメスターまでの在学期間を通算したＧＰＡ

・成績証明書：①直近のセメスターまでの在学期間を通算したＧＰＡ

※成績証明書への科目ごとの成績評価の表示は、2007年度以前の修得科目がＡ～Ｃ、2008年度以後の修得科目がA⁺～Ｃで表示される。また、2008年度から制度変更があった旨も明記する。

(3)履修登録の修正について

未受験その他によるＥ評価の科目は、ＧＰＡ計算式において、ＧＰを０点として分子に算入し、単位数を分母に算入するので、Ｅ評価が多いほどＧＰＡが低下する。しっかりとシラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたうえで、科目登録すること。一度登録した科目は責任をもって履修すること。ただし、一定期間内に手続きを行なえば、登録を修正することができる。通年科目等の登録の修正が認められない科目もあるので、掲示板を確認すること。

(4)活用方法

ＧＰＡは成績を数値化し、客観的にみるための手段である。A⁺からＤまでの５段階評価がついた成績表では漠然としてイメージがわきにくいが、ＧＰＡはセメスターごとと通算の二つのデータが出される。１年次と２年次、あるいは３年次、４年次の成績を比較したり、推移を確認することで学習効果を自分で確認することができる。ＧＰＡが上がっていれば、さらなる学習の展望が拓けるだろう。また、下がっていれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられる。ＧＰＡ制度によって、自分の学習を自分で管理できるようになるため、この制度を活用し、大いに役立てていただきたい。

【ＦＡＱ】

Ｑ．ＧＰＡが何かに利用されることはあるか。

Ａ．ＧＰＡ制度は欧米の大学においても用いられている国際的な成績評価システムでもあるため、海外の大学院進学の際には提示を求められることもある。ＧＰＡが選抜基準の参考になる可能性があるということを知っておくと良いだろう。

Ｑ．ＧＰＡ算出の具体例を知りたい。

Ａ．評価がすべて「A^{+}」であれば、ＧＰＡは「４」となり、すべて「Ｄ」であれば「０」となる。具体的な例として下記“Ａさんの成績表”を参照すること。

【例】Ａさんの成績表

科目名称	評価	ＧＰ	単位数	ＧＰ×単位数
英語（ａ）	Ａ	３	２	６
英語（ｂ）	Ｃ	１	２	２
芸術	Ｂ	２	２	４
コンピュータ入門	Ｅ	０	４	０
社会経済学基礎	A^{+}	４	４	１６
ミクロ経済学Ａ	Ｄ	０	２	０
演習	Ａ	３	８	２４
合計			２４	５２

ＡさんのＧＰＡは、５２÷２４＝２．１７

※小数点第３位四捨五入

Ｑ．ＧＰＡの算出には不合格科目（Ｄ，Ｅ評価）も算入されるか。

Ａ．算入される。よって、不合格科目が多ければ多いほどＧＰＡは低下する。

Ｑ．修得単位認定（Ｒ評価）や留学による外国大学の修得単位認定（Ｓ評価）はどのように扱われるか。

Ａ．Ｒ評価やＳ評価についてはＧＰＡに算入されない。

Ｑ．ＧＰＡ算出には教職・資格科目など、卒業所要単位外で履修する科目も算入されるか。

Ａ．算入されない。

３．成績発表

(1) 成績は、「成績通知書」によって情報ポータルサイトにて発表する。春学期終了科目は９月中旬、通年および秋学期終了科目は３月上旬に発表する。詳細は掲示等で確認すること。

(2) 成績通知書は、新年度の履修登録の重要な資料となるので情報ポータルサイトにて各自必ず確認すること。指定期間外は閲覧できないので注意すること。

４．成績調査

受験したり、リポートを提出したにも拘わらず「Ｄ」（不合格）評価や「Ｅ」（未受験）評価になっている場合に限り、成績調査を行う。調査受付期間については掲示等で連絡するので確認すること。

Ⅵ. 進級・卒業発表および転・編入

１．進級発表（１～３年次）

(1) 進級発表は、「進級に関する規程」により審査し、各人に「成績通知書」により情報ポータルサイトで発表する（３月上旬）。
(2) 進級の可否・成績内容の確認等は本人が行うこと。
(3) 電話による問い合わせは、間違いの原因となるので一切応じない。
(4) その他詳細については、発表当日に指示する。
(5) 国際経済学科３年次生で進級再試験の権利を有しているにもかかわらず未手続の場合は、留級となる。

２．卒業発表（４年次）

(1) ３月上旬に「成績通知書」により情報ポータルサイトで各人に発表する。
(2) 卒業再試験該当者は経済学部事務課で受験手続を行うこと。卒業発表当日のみ受け付ける。なお、卒業再試験の権利を有しているにもかかわらず未手続の場合は、留級となる。
(3) 卒業の可否については本人が確認すること。
(4) 電話による問い合せは、間違いの原因となるので一切応じない。
(5) 卒業が決定した者は学位授与式に出席し、学生証と引換に学位記を受けとること。
(6) その他詳細については、発表当日に指示する。

３．転・編入学者の単位認定

(1) 他学部からの転部

旧籍学部で修得した一般教育・外国語・保健体育科目の全単位を認める。

専門教育科目については、経済学部に開設された科目の修得があればその科目に限り認定する。また旧籍学部で修得した公開科目はすべて認定する。

※転籍・転部・転科については184、185頁を参照のこと。

(2) 編入学者

旧籍の大学発行の成績証明書（受験用とは別）にもとづき単位認定審査を行い、単位認定書により結果を通知する。

Ⅶ. 修業・在学年限と学籍・学費に関する手続き

１．修業年限および在学年限

(1) 本大学の修業年限は、４ヵ年とする。但し、学生は休学期間を除き、本大学に８ヵ年を超えて在学することはできない。なお、春学期在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合の在学期間は0.5年とする。

(2) 転・編入学生および通信教育課程からの転籍者の在学年限は、当該修業年限の２倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

すなわち、２年次転・編入学生の在学年限は６ヵ年、３年次転・編入学生の在学年限は４ヵ年である。

２．学籍に関する諸手続き

長い学生生活の間には種々の事故や異動があり得る。その場合は経済学部事務室まで申し出の上、次のような手続きを行う。

(1) 退学願（届）

病気その他の事情によりやむを得ず退学しようとする者は、退学願（所定用紙）を提出し、許可を受けること。学費未納のまま退学願を提出すると除籍となる。

a. 退学願提出時には必ず学生証を返却すること。

b. 退学の日付は、退学希望日の属する納期の学費を支払い済みの場合、退学願が許可された日となる。未納者については、下表の届出期間内に願い出た場合のみ、下表の日付で退学が許可される。

学費納入区分	退学願届出期間	退　学　日
Ⅰ期分未納者	４月１日～５月３１日	前年度の３月３１日付
Ⅱ期分未納者	６月１日～１０月３１日	９月１５日付

〔注意〕前年度退学者および春学期末退学者で退学日翌日以降の学費等を納入済みであった者に対し、当該学費および諸会費（前年度退学者のみ）の返還を行う。

c. 春学期完了の授業科目を受験し、単位を修得した者が秋学期に退学した場合は当該受験科目の単位及び成績は認定する。

d. 秋学期退学者の春学期在学期間（0.5年）は、在学年限に加算される。

(2) 休学願（届）

病気その他止むを得ない事由により休学しようとする者は、保証人連署の上願い出て許可を受けなければならない。休学しようとする者は、休学願（所定用紙）を提出すること。なお、休学期間中は試験を受けることができない。休学期間は在学年限には加算されないが、連続して２年および通算して４年を超えて休学することはできない。

a. 所定用紙に休学理由を明記すること。

b. 届出期限・休学在籍料

種　類	休学願届出期間	休学在籍料
年間休学	５月３１日まで	100,000円
春学期休学	５月３１日まで	50,000円※
秋学期休学	１０月３１日まで	50,000円

〔注〕上記のとおり納入額が変わる。休学手続き完了後、新しい振込用紙を送付するので、４月上旬に届く振込用紙（正保証人に送付）は破棄すること。※春学期休学の際は、別途諸会費が必要。

ただし、新入生が入学直後に休学する場合、入学金および春学期の「授業料・実験実習料・教育充実費・諸会費」は全額徴収するものとする。その場合、春学期のみの休学者については休学在籍料は発生しないが、年間休学者については、秋学期に50,000円の休学在籍料が発生する。

c. 休学者としての取り扱いは、春学期休学の場合は4月1日から9月15日まで、秋学期休学の場合は9月16日から3月31日まで、年間休学の場合は4月1日から3月31日までとする。翌年度も引き続き休学する場合は、翌年度当初に改めて休学届を提出すること。

d. 休学は連続して2年を超えることはできない。また、休学期間は通算して4年を超えることはできない。なお、半期休学は0.5年として計算する。

e. 4年次での休学：4年次生が半期休学をする場合、以下全てを満たしていれば当該年度終了時に、本人の意思にかかわらず卒業となる。

・当該学年の在学年数が休学願申請時に4年以上である
・卒業所要単位を修得済みである（または休学年度において修得済みとなる）
・4年次で4単位以上修得している（留級した場合は通算して4単位以上）

f. これまで休学（半期休学含む）の場合、当該年度卒業及び翌年度の進級を認めていなかったが、2010年度より次のとおり改正する。また9月卒業について新たに認めるものとする。

(a) 学位授与の要件である「4カ年以上在学し」「卒業所要単位を修得」（学則第49条1項）には、半期在学者の在学期間（0.5年）及びこの期間に修得した単位の累積を含むものとする。

(b) 卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業及び翌年度の進級を認めるものとする。但し、進級の場合は、学生は各年次で通算して1年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならないものとする。なお進級時期は学年度始め（4月）に限る。

(c) 本人の申請により9月卒業を認めることができるものとする。この場合、事前に「9月卒業申請書」を提出した申請者についてのみ９月卒業判定を行う。但し、学位授与式は年１回（３月）のみ実施する。（2010年4月1日学則改正による）

具体的適用例

①卒業の場合（いずれも判定時に卒業所要単位は充たしているものとする）

a. 3.5年での卒業は認められない（通算在学年数は必ず4.0以上であること）

1年次		2年次		3年次		4年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝3.5年
							休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		

b. 4.0年以上の在学年数であれば、半期休学があっても卒業を認める（※注：当該年次については、授業料半額の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（2回目）※注		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝4.0年
							休学		休学	卒業可
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		3月卒業**（自動的に卒業）**

c. 3.5年の在学年数で卒業保留となり、5年目に「9月卒業申請」のある場合（※注：当該年次については、授業料半額の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（2回目）※注		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝4.0年
							休学			卒業可
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		9月卒業**（申請が必要）**

d. 4.0年の在学年数で3 → 4年に進級し、5年目に「9月卒業申請」のある場合

1年次		2年次		3年次		3年次（2回目）		4年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝4.5年
										卒業可
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		9月卒業**（申請が必要）**

②進級の場合（いずれも4月1日の時点で進級に必要な科目・単位数は充たしているものとする）

a. 累積で進級に必要な在学年数を充たしていれば進級は可

1年次		1年次（2回目）		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝1.0年
	休学		休学	1年次から2年次への進級可**（自動的に進級）**
0.5		0.5		

b. 累積で進級に必要な在学年数を充たしていても、進級は学年度始めに限る

1年次		1年次（2回目）		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	在学年数＝1.5年
	休学			2年目の春学期末に進級要件を充たしていても
0.5		0.5	0.5	1年次から2年次への進級は学年度始めに可**（自動的に進級）**

※９月卒業を希望する場合は当該年度の４月末日までに申請すること。

g. 休学者は復学願を提出する必要はない。

h. 秋学期休学者の春学期在学期間（0.5年）は、在学年限に加算される。

ｉ. 秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

(3) 学籍情報の変更・異動

次の事項に該当する変更、異動が生じた場合は、直ちに経済学部事務室へ届け出ること。

a. 住所変更届（本人及び保証人の住所・電話番号変更）

b. 保証人変更届（死亡等による保証人の変更）

c. 改姓・改名届（結婚その他の事由による変更）※住民票を添えること。

(4) 除　　籍

下記の事項の一つに該当する者は教授会の議を経て除籍となる。なお、除籍となった年度は、単位修得はできない。〔学則第39条〕ただし、春学期の科目を履修し、単位を修得した者が秋学期に除籍になった場合は、当該受験科目の単位及び成績を認定する。〔学則第25条第６項〕

a.　学費を所定の期日までに納入しない者
b.　在学年限（休学期間を除き８年）を超えた者
c.　休学期間（継続２年、通算４年）を超えた者
d.　新入生で指定された期限までに履修科目登録届を提出しない等、本大学において修学する意志がないと認められる者

(5) 復学願（届）

退学した者が復学を希望する場合は、復学願（所定用紙）と嘆願書を提出し、教授会の許可を受けなければならない。

a.　復学は、春学期の始め（４月１日）、もしくは秋学期の始め（９月１６日）に限る。
b.　復学を願い出る場合は、春学期始めの復学は前年度の２月中旬まで、秋学期始めの復学は７月上旬までに経済学部事務課に相談すること。
c.　秋学期の始めに復学した場合、当該年度の卒業および翌年度の進級はできない場合がある。
d.　病気回復による復学の場合は、必ず医師の診断書を添えること。
e.　上記願書により復学を許可されたときは、再入学金として10万円と当該年度の半期分の学費を納入しなければならない。

(6) 復　　籍

(4)除籍a.の事由により除籍となった者が、復籍を願い出る場合は、春学期始めの復籍は前年度の２月中旬まで、秋学期始めの復籍は７月上旬までに経済学部事務課に相談すること。復籍を希望する場合は復籍願（所定用紙）と嘆願書を提出し、教授会の許可を受けなければならない。

復籍を許可されたときは、再入学金として10万円と当該年度の半期分の学費を納入しなければならない。ただし、秋学期セメスターの始めに復籍した場合、当該年度の卒業および翌年度の進級はできない場合がある。

(7) 転籍・転部・転科

a.　転籍・転部・転科とは
　転籍……経済学部生が、学部の異同を問わず、通信教育部へ移ること。
　転部……経済学部生が、第１部の他学部へ移ること。
　転科……経済学部内の他学科へ移ること。
　転籍・転部・転科に際しては、試験を実施している場合がある。
b.　転籍・転部・転科について

転籍・転部・転科は、いずれも２年次または３年次に進級する場合に出願することができる。ただし、募集の有無は学部、学年によって異なる。詳細については、志望先の学部事務課に問い合わせること。

c. 通信教育部への転籍について

第１部経済学部生が、特定期間に、所定の出願手続きをすることにより、通信教育部へ転籍することができる（出願書類に基づき選考し、必要に応じて面接を行う場合もある）。詳細については、通信教育部事務課に問い合わせること。

(8) 早期卒業

以下の条件を満たす者は３年次終了時の学位授与（早期卒業）を認める。

・本学部に３年以上在学していること。（ただし、復学・復籍、転・編入学、転籍した学生は対象外とする。）
・本学部の定める卒業所要単位のうち、９割以上がＡ評価以上（ただし、Ｒ、Ｓ、Ｐ評価は含めない）であること。
・３年次終了時点の卒業所要単位対象履修科目におけるＧＰＡが3.0以上であること。
・本学大学院または専門職大学院に進学すること。

早期卒業を希望する者は窓口に申請書および2年次終了時までの成績通知書を提出すること（受付：6月1日から6月30日まで）。審査後、早期卒業見込みの認定を受けた者は9月に卒業要件を満たす履修登録を行うことができる。

申請者が3年次終了時に上記条件を満たす場合、早期卒業が認められる。

〔注1〕４年次に４単位以上修得するという卒業要件はなくなる。

〔注2〕早期卒業を認められない場合、４年次に４単位以上を修得しなければならない。

３．学　　費

学費納入書は、１年留級生および２～４年次生については正保証人宛に４月上旬に１年間分（春学期・秋学期分）をまとめて郵送する。また新入生の秋学期分については、正保証人宛に６月頃郵送する。

(1) 納入期限

春学期分　４月３０日まで	秋学期分　９月３０日まで

当日が金融機関の休業日に当る場合は、その前日までに納入すること。

1999年度より納入期限が厳格に適用されることになり、期限内に学費を納入できない場合は学費未納除籍となるので十分留意すること。期限までに学費の納入が難しいときは、前もって経済学部事務課へ相談に来ること。

学費の延納制度について

経済的事由等のやむを得ない事情で、学則の納入期限までに学費の納入が困難な場合の支援制度である。事前に申請することで学費納入期限を所定の期日まで延期できる。学費の延納を希望する場合は、各期の延納受付期間内に「学費延納申請書」を提出すること。

学則上の納入期限	延納申請受付期間	延納期限
Ⅰ期（春学期）４月３０日	４月～　５月末日まで	６月３０日
Ⅱ期（秋学期）９月３０日	９月～１０月末日まで	１１月３０日

a. 「学費延納申請書」およびその提出は、経済学部事務課または学生生活課で取り扱うので申し出ること。

b. 延納期限までに学費が納入されなかった場合は、除籍通知が発送される。

※学費延納制度は、2009年度までの学費分納制度に変わる制度となる。

(2) 留級者（前年度休学者を含む）の学費

授業料、実験実習料および教育充実費は、該当者の入学年度に定められたものを適用する。ただし、諸会費は、当該年次の額として定められたものとする。

(3) ４年次留級者の学費

４年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった者の授業料、実験実習料及び教育充実費は、該当者の入学年度に定められたものを適用する。ただし、授業料は年度初めの段階で、既に4年生として1年間以上通学し、未履修科目が24単位以内であれば授業料は、該当者の入学年度に定められた額の半額とする。また、上記条件を満たす者で、9月卒業申請者の授業料についても上記制度を同様に適用する。なお、教育充実費・諸会費は、当該年次の額として定められたものとする。

(4) 復学者、復籍者

退学して復学する者、除籍となって復籍する者の授業料、実験実習料および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。ただし、再入学金については、復学者・復籍者は10万円とする。諸会費は、当該年次の額として定められたものとする。

４．学生の懲戒について

(1) 法政大学 学則

第53条　学則、又は命令に背きその他学生の本分に悖ると認めた者は、教授会の議を経て総長がこれを懲戒する。

２　懲戒は、譴責、停学、退学の3種とする。

３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1)著しく性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

(3)大学の名誉を著しく毀損した者

第53条の２　前条の決定による懲戒に対し異義ある者は、総長に対し再審査を請求することができる。
２　前項の再審査を請求できる期間は、処分の決定告示後2週間以内とする。

(2)法政大学学則第53条及び第53条の２の規定による学生の懲戒のうち､停学処分に関して以下の通りとする。

1. 停学は６ヵ月以下の有期又は無期とする。
2. 停学期間は、在学年数には算入するが、修業年限には算入しない。但し、３ヵ月未満の停学に限り、修業年限に算入することができるものとする。
3. 停学期間が６ヵ月の停学又は無期停学の場合には、当該年度において進級及び卒業することを不可とする。
4. 停学期間中は、大学から指示がある場合を除き、授業及び試験等への出席を含めて、原則として大学への入構、および大学施設の利用を不可とする。また課外活動への参加も不可とする。
5. 停学期間中は、休学及び法政大学学則第35条の規定による留学(派遣留学、認定留学)は許可しない。

Ⅷ. 就学上の各種事務手続き

１．経済学部事務室の取扱い業務

(1) 取扱業務の主な内容

a. 授業実施上のこと
b. 履修科目単位修得上の指導
c. 試験の実施、成績の発表
d. 各種証明書、学割、通学証明書の発行
e. 学生証の再発行
f. 学籍の異動（休学・退学・復学・復籍等、住所変更、改姓、保証人変更等）
g. スタディ・アブロードに関すること
h. 学術団体に関すること
i. 教室貸与に関すること
j. 拾得物の受付
k. その他教務上のこと
l. セミナーハウスの予約受付

(2) 受付時間

- 月曜日～金曜日……9：00～17：30（11：30～12：30は閉室）
- 土曜日……9：00～12：00
- 夏季休暇中……9：00～16：00（11：30～12：30は閉室・土曜は休業）

(3) 公示・告示等について

学生諸君に対する公示・告示および授業に関する連絡事項は、すべて経済学部掲示板により発表する。**伝達ミス防止のため、電話による問い合わせには、一切応じない。**

授業や試験等の重要な事柄について見忘れ、見落し、見誤り等により不利益が生じないよう、各自登下校時には必ず掲示板を確認すること。

〔ゼミナール関係の掲示について〕

・各ゼミナールからの共通連絡事項……10号館１Ｆドーム内ゼミナール掲示板。
・ゼミナール内部の連絡事項……上記掲示板、または各ゼミ教室内の掲示板。

２．各種証明書の申請・発行

(1) 申請により、下記の証明書を発行する。

	証　明　書　の　種　類	手　数　料	発　行　方　法
発行機で発行される証明書	在学証明書 卒業見込証明書（４年生のみ） 成績卒業見込証明書（４年生のみ） 成績証明書 履修登録科目証明書 健康診断書（４年生のみ）	一通につき￥200	発行機で直接発行
	英文各種証明書	一通につき￥200	
	学生運賃割引証明書（原則として年間10枚）	無　料	
	卒業証明書予約票（４年生のみ） 成績卒業証明書予約票（４年生のみ）	一通につき￥200	卒業発表日（３月上旬）以降
窓口で発行される証明書	卒業証明書 成績卒業証明書 教員免許状取得見込証明書 学力に関する証明書 単位修得証明書 人物に関する証明書 その他の証明書	一通につき￥200	事務課で申請・発行
	調査書	一通につき￥600	
	学生証の再発行	一通につき￥2,000	
	実習用通学証明書	無　料	
	健康診断書（１・２・３年生）	一通につき￥200	多摩診療所にて発行

(2) 申請方法

a.　大部分の証明書は「証明書自動発行機」（経済学部は事務課の外に設置）で即日発行可能。但し特殊な証明書については事務課で発行されることになる。それぞれの証明書の発行手続き方法については上表を参照のこと。なお、多摩の他学部や他キャンパスの発行機でも利用できる。

b.　発行機で発行する場合には、学生証が必要になる。

c.　事務課で発行される証明書の場合、種類・申請時期によっては若干日数を必要とするので、早めに申請すること。

d.　健康診断書は、保健課で健康診断を受診した者に限り発行する。発行部局は診療所（総合棟１Ｆ）となるので注意のこと。なお、休学した場合、健康診断書は発行できない。（４年生は「証明書自動発行機」にて発行が可能）

(3) 学生割引証明書（学割証）の発行

学割証は、片道100kmを超えてＪＲ線に乗車船する時に使用することができ、運賃の割引率は２割となっている。有効期間は３ヵ月で、原則として１年間に１人10枚まで交付を受けることができる。

前項説明のとおり、「証明書自動発行機」で発行される。（他キャンパスでも発行が可能）

※　通学定期券購入証明書の発行

ＪＲ、各私鉄およびバスの通学定期券（自宅最寄り駅から多摩キャンパスまで）は、学生証を提示することにより購入することができる。

市ヶ谷・小金井キャンパスで開講される科目の履修者に対しては、他キャンパスへの通学証明を行う。通学証明希望者は「履修登録科目確認通知書」を経済学部事務課へ持参すること。

３．学生証の更新

(1) 更新方法

１年次留級生及び２～４年次生は、正保証人宛に学費納入書とともに４月上旬に学籍シールを郵送する。各自、学生証の裏側にある前年度のシールを必ずすべてはがし、送付された新年度のシールを貼付けること。それにより、新年度学生証として更新される。

(2) 注意

学生証は磁気ストライプカードとなっている。証明書自動発行機、図書館などの利用には学生証が必要となるので常に携帯すること。

なお、携帯電話やスピーカー、磁石留め具など強い磁気を発する物に近づけることで磁気が破損されることがあるので保管には十分注意すること。万一、磁気が破損されてしまった場合には再度、磁気データの書き込みを行うので、経済学部事務課に申し出ること。

４．その他関連する事務部局等

大学には、日常的に学生諸君と直接関係のあるさまざまな部局がある。
詳細については、入学時に配布している「学生手帳」に説明が記載されているので、ここでは主な部局の業務のみを紹介する。

学生諸君は、授業開始までに「学生手帳」の記載内容をよく理解し、また各部局の所在位置を予め確認しておくことが望まれる。

(1) フリーラボルーム・ＣＡＬＬ支援室（総合棟２Ｆ）

ＣＡＬＬ支援室では映画教材で外国語会話の自習ができるように外国映画約２，０００本のDVDを所蔵しているほか，英語検定、TOEIC®、TOEFL®、IELTS®の資格試験

用教材も所蔵している。英語以外にも、独語、仏語、中国語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、韓国語の各会話教材を揃えており、自習用教材（テキスト、CD等）は貸出（１週間）もしている。

フリーラボルームには語学支援用パソコンがあり、語学教材ソフトを使ってTOEIC®、中国語などの学習ができる。

◆ 開室時間　月～金曜日　9：00～16：30（11：30～12：30 を除く）

(2) 研究実験棟事務室（研究実験棟２Ｆ）

実験室関係の事務に関すること。

(3) 多摩学生生活課（ＥＧＧ　ＤＯＭＥ２階）042－783－2151

a. 奨学金

奨学金には、「法政大学独自の奨学金」「(独) 日本学生支援機構奨学金」「民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金」があります。経済的支援を目的とした奨学金の募集は主に４～５月に集中するので、掲示等で確認してください。また、家計急変に伴う奨学金や、不測の事態に対応する短期間の貸付等の制度があります。詳細は多摩学生生活課に問い合わせてください。

また、本学独自の制度として「開かれた法政２１」奨学・奨励金、Ｌ・Ｕ奨学金があります。これは学業・スポーツ・芸術・ボランティア活動などの各分野で優れた業績をあげた学生を奨励するために設けられた給付制度です。詳しくは多摩学生生活課に問い合わせて下さい。

学業、スポーツ、芸術、ボランティア活動など各分野で優秀な学生を奨励する制度

奨学金の名称		金額（年額）	2018年度採用予定者数	採用学年	応募・採用条件	応募先・時期
「開かれた法政21」奨学・奨励金	成績最優秀者奨学金	30万円	300名	2～4年生	各学部2～4年生の前年度成績上位者【指名制】学部ごとの採用数は学部定員比による。	指名制のため応募不要
	認定海外留学奨学金(※１)	当該年度の授業料半額相当額	15名以内	2～4年生	単位認定が受けられる本学の認定海外留学生採用者には、別途「後援会認定海外留学奨学金」10万円が支給されます。	多摩グローバル教育センター（5月・12月）
	スポーツ奨励金（※２）	当該年度の授業料半額相当額	応募・採用条件を満たす者	1～4年生	スポーツの分野において優秀な成績をおさめた者（体育会に所属していない学生も応募可）(注)すべてのスポーツが該当するとは限りません。また、法政大学学生特別表彰とは併給できません。	多摩学生生活課（12月）
	学術・文化奨励金	３０万円を上限	20名(団体)以内	1～4年生	学術・研究・ボランティア活動・文化・芸術・芸能等の分野で秀でた業績をあげた者または団体	多摩学生生活課（11月）
	指定試験合格者奨励金（※3）	当該年度の授業料相当額	応募・採用条件を満たす者	1～4年生	当該年度に，司法試験予備試験，公認会計士試験，国家公務員採用総合職試験，税理士試験（全科目合格），弁理士試験，司法書士試験に合格した者	多摩学生生活課（11月）

※１　認定海外留学奨学金は、２０１９年度より学部を問わず３０万円の支給に変更予定です。
※２　スポーツ奨励金は、２０１９年度より２０万円または４０万円の支給に変更予定です。
※３　指定試験合格者奨励金は、２０２１年度より４０万円の支給に変更予定です。

b.　学生教育研究災害傷害保険

本学では、正課・課外活動中や通学中などでの不慮の事故に備えて、学生教育研究災害傷害保険に加入しています。正課活動中の事故は学部事務課、体育実技・体育会活動中の事故は多摩体育課、課外活動中および通学中の事故は多摩学生生活課まで申し出てください。(病気はこの保険の適用外)。

なお、大学に届出のない団体の活動中のケガは保険適用外となる場合があります。新しい学生団体を設立する場合は速やかに「学生団体設立準備届」を提出してください。

c.　スポーツフェスティバル（２０１８年５月１４日（月）実施予定）

新入生歓迎の意をこめて、毎年春に実施しています。種目はフットサル、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ドッジボール、等（予定)。優勝チーム（者）には多摩キャンパス内でのみ使用できる「たまきゃんマネー」を贈呈します。(賞品は変更となる場合があります。)

d.　課外教養プログラム

正課授業だけでは補いきれない法大生の多様なニーズに応えるため、学生生活課で実施しているプログラムです。「スキルアップ」、「芸術鑑賞」、「見学・体験ツアー」など幅広いテーマで実施しており、いつもの授業とは一味違った体験ができます。

e.　EGG DOME の施設管理

バス停上に位置するEGG DOMEには、ピアノ練習室、多目的練習室、多目的ホール、会議室等、課外活動に利用できる施設があります。これらの施設は学生証と引き換えに、貸し出しを行います。

f.　地域にスマイルを届けよう活動助成金制度　（募集期間：４月～５月）

地域貢献となる活動で、優秀な企画と認められ、採用された場合は助成金を給付します（最大２０万円)。募集時期や詳細は掲示にてお知らせします。

g.　その他

アパート、アルバイトの紹介。遺失物の届け、その他サークル等の企画・催しに関する業務を行っています。

(4) 多摩学生相談室（総合棟２Ｆ）　TEL 042-783-2158

大学生活で直面するさまざまな問題について、一緒に考え解決の糸口を探したりと、よりよい一歩を踏み出すお手伝いをしています。「誰に相談したらよいかわからない」「ちょっと話を聞いてほしい」時など気軽にご利用ください。話すことで気持ちが楽になったり整理されたりします。臨床心理士の資格をもった心理カウンセラーが丁寧にお話を伺いますので、ひとりで悩む前にぜひお立ち寄りください。

＜例えばこんなときに＞
・人間関係がうまくいかない。
・じぶんが人と違う気がする。自分の性格を知りたい。
・大学になじめない、大学に行きたくない。
・気分が落ち込む、眠れない、不安が続く。
・自分の生き方や将来、就職などに不安がある。

◎秘密は守ります
相談内容はもちろん、来室していること自体も秘密は守られますので、安心して利用してください。
（来室者ご本人、または他者の生命、身体に危険がおよぶ可能性がある場合などは、例外的にご家族や関係者の方にお知らせすることがあります。）

◆開室時間
月～金曜日　９：３０～１６：３０（但し、１１：３０～１２：３０は昼休み）

(5) 多摩情報センター（総合棟３Ｆ） TEL 042-783-2143

多摩情報センターは、情報カフェテリア等の情報教育施設やネットワーク環境の整備などを通して皆さんの教育研究活動をサポートしています。

【学内でパソコンを使うには】
学生が利用できるパソコンは以下の場所に設置されています。
・情報実習室（総合棟、経済学部棟、現代福祉学部棟、スポーツ健康学部棟）
・情報カフェテリア（総合棟、経済学部棟、スポーツ健康学部棟）
・学習室、自習室（図書館棟、社会学部棟）
・貸出ノートパソコン（総合棟３階　多摩情報センター）

【学内でインターネットに接続するには】
キャンパスのほぼ全域に設置されている無線LANのアクセスポイントを経由してインターネットに接続することができます。
使用方法は法政大学全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト(http://netsys.hosei.ac.jp/)をご覧ください。教育研究活動に関係のない利用は控えてください。

【学内のパソコン、プリンタの利用や貸出機器についての詳細情報は】
総合棟３階 多摩情報センター事務室にて「多摩情報センター利用の手引き」を配布しています。多摩情報センターWebサイト(http://tedu.ws.hosei.ac.jp/)　でも、情報カフェテリアの利用時間や混雑状況、学内プリンタやパソコンの利用方法などを掲載しています。

(6) 多摩体育課（体育館１Ｆ） TEL 042-783-2732

- 正課体育に関すること。
- 体育会の活動に関すること。
- 多摩体育施設の利用に関すること。

◆ 体育施設

多摩の体育施設は屋外（野球場、テニスコート等）と屋内（総合体育館）があり、主に正課体育授業・体育会活動・サークル活動で利用されています。

◆ 施設利用時間 ＊ただし、工事・行事・大学休業期間他による閉鎖・使用制限等がある。

・授業期間中（補講日・定期試験期間を含む）

月曜日～金曜日 １５：３０～２１：００（２１：３０までに退構完了のこと）

土・日曜日 ８：３０～２０：００

・授業期間外

月曜日～日曜日 ８：３０～２０：００（２１：３０までに退構完了のこと）

◆ 手続き方法

体育施設の利用希望者（所定の団体登録必要）は、多摩体育課備付の所定用紙に記入のうえ、前月２５日までに提出。詳細については多摩体育課に問い合わせること。

窓口時間 月～金曜日 ９：００～１１：３０ １２：３０～１７：００

＊土曜日、日曜日、祝祭日は窓口受付を行わない。

(7) 保健課「多摩診療所」（総合棟１Ｆ） TEL 042-783-2161

◆ 学生・教職員の診療に関すること

・診療内容：主として内科

・診療時間（授業実施期間）：

月曜日～金曜日 １０：００～１１：３０ １２：３０～１６：００

（１１：３０～１２：３０を除く）

土曜日、日曜日 休診

・診療時間（夏季および春季休暇期間）：

月曜日～金曜日 １２：３０～１６：００

土曜日、日曜日 休診

＊ 受付時間は終了１５分前とします。

＊ 受診に際しては必ず「健康保険証」を持参してください。

◆ 学生の健康管理に関すること

病気の早期発見や予防などのため、毎年４月上旬に定期健康診断を実施して

います。この健康診断を実施しないと体育実技の登録に支障をきたすだけでなく、奨学金の申請や就職活動等に必要な「健康診断証明書」が発行できませんので十分注意してください。

◆　健康診断証明書に関すること

健康診断証明書は、大学の健康診断を受診した場合にのみ発行できます。実習に関する健康診断証明書の発行および学外指定用紙や追加検査項目がある場合は、学年に関わらず診療所の窓口に申請してください。

◆　発行および期間

・４年生：**5月10日**～　証明書自動発行機（３キャンパス共通）にて発行
（発行されない場合は診療所窓口に問い合わせてください）

・１年生～３年生：**5**月中旬～　多摩診療所窓口にて申請受付

＊　診療所窓口での受付は即日発行できませんので余裕をもって申請してください。

＊　就職のための健康診断証明書の発行対象は４年生で３年生には発行しません。

＊　郵送による申請は受け付けません。

＊　申請受付は**2019**年**3**月**22**日までです。

(8) 多摩図書館（図書館・研究所棟）　TEL 042-783-2274

学生のみなさんが図書館の資料を幅広く活用し、正しい引用方法で論文・レポートを書き上げ、社会人として巣立っていく！ーこれが図書館職員の願いです。多摩図書館はその実現に向けてみなさんの学習をサポートします。

多摩図書館では、文献検索やデータベースの使い方を案内する“実習型ガイダンス”を行っています。下記のように、１年生向け「基礎ガイダンス」と、２年生以上向け「専門ガイダンス」の２段階に分け、大学での学習・研究に役立つ資料収集スキルの習得をお手伝いします。

学年	ガイダンス名	内容
１年生	文献検索　基礎ガイダンス ※「基礎演習」のクラス単位で参加	図書館蔵書検索（OPAC）、基本データベースの紹介（辞書事典、新聞、雑誌記事・論文）、文献の引用方法、館内案内ツアーなど
２～４年生	文献検索　専門ガイダンス ※「専門演習」のゼミ単位で参加	データベースの紹介、論文入手方法、統計情報の調べ方、文献の引用方法、４階学術雑誌コーナー案内など ※「研究サポートエントリーシート」を提出した場合、各自の研究テーマに関する資料を、図書館が収集します。

図書館は資料を探すだけの場ではなく、様々な活用方法があります。

■〈３階〉ＰＣ利用可能エリア…電源プラグ完備の閲覧席全６０席。ノートＰＣ等を持ち込んで利用可能。

■〈３階〉学習室１〔オープンＰＣエリア〕…デスクトップＰＣ全１２７台。データベース利用可能。２・３階で利用可能なノートＰＣ貸出あり。

■〈３階〉学習室３…１０～３０人で利用可能。プロジェクター・ホワイトボードあり。要予約。

■〈３階〉グループ学習室１・２・３…４～１６人で利用可能。プロジェクター・ホワイトボードあり。要予約。

■〈３階〉ラーニングコモンズ…会話可能のオープンスペース。グループ学習に最適。予約不要。

■〈３階〉クリエイティブルーム…くつろぎながら学習したい方へ。カフェをイメージした開放的な学習室。

■〈２階〉視聴覚室〔ＡＶコーナー〕…１～２人でＤＶＤ・ＶＨＳ視聴可能。読書や勉強の息抜きに最適。

■〈１階〉思いやり部屋〔おとなしゾーン〕…より静かな環境で集中したい方へ。電子機器等が使用不可の学習室。

資料探しや学習サポートに関する相談窓口

図書館１階レファレンスカウンター　TEL:０４２－７８３－２２７４

フロアインフォメーション

４階	閲覧席、学術雑誌（和雑誌、洋雑誌、国内外政府刊行物、国際機関刊行物）	
３階	閲覧席、ＰＣ利用可能エリア（６０席）、学習室１〔オープンＰＣエリア〕（ＰＣ１２７台設置）、学習室２〔ガイダンスルーム〕、学習室３（３０席）、グループ学習室（３室各１６席）、ラーニングコモンズ（３０席）、クリエイティブルーム（５２席）	
２階	閲覧席、学習用図書、国内新聞、文庫・新書、レポート作成本、就職・資格本、教員著作本、教科書、語学辞書、学生選書、視聴覚室〔ＡＶコーナー〕（２０席）、英語多読図書	
１階	レファレンスカウンター、参考図書、ＣＤ－ＲＯＭ／オンラインデータベース専用ＰＣ、思いやり部屋〔おとなしゾーン〕（４６席）、マイクロ資料室、新着雑誌（６ヶ月～１年分）、外国新聞、政党新聞	
地下１・２階	研究用図書、大学紀要、個人文庫、多摩地域資料、雑誌創刊号、貴重書、準貴重書（修士論文）	
開館時間	月～金	９：００～２１：００
	土	９：００～１８：００
	日	１０：００～１７：００

＊　開館時間および休館日は図書館ホームページを参照してください。

＊　利用の詳細は「多摩図書館利用ガイド」（図書館発行）を参照してください。

＊　URL：http://www.hosei.ac.jp/library/

(9) 総務課（総合棟４Ｆ）　TEL 042-783-2091

校内循環バスの臨時運行・百周年記念館の利用案内と利用料金の収納事務、学費振込用紙の再発行を行っている。

受付時間…（月～金）9：15～16：00（11：30～12：30は昼休み）

(10) キャリアセンター（総合棟２Ｆ） TEL 042-783-2171

将来の職業を充実したもの、やりがいを感じられるものにできるかどうかは、学生の皆さん一人一人が１年生からの大学生活をどう過ごすかによって大きく左右されます。充実した大学生活を送った学生は、4年間の経験を通して大きく成長し、自信を持って社会への一歩を踏み出すことができるでしょう。逆に３年生になって就職活動だけをどんなに頑張ってみても、良い結果にたどり着くことは難しいでしょう。

キャリアセンターでは、将来社会人として活躍することになる皆さんを対象としたさまざまなプログラムを用意しています。学部での授業やエクステンション・カレッジでの学びと合わせて受講することで、大学生活を充実させるヒントをつかむことができるでしょう。特に新入生の皆さんは、低学年向け講座から段階的に受講することにより、就職活動開始までに自分のキャリアをデザインする力を身に付けることができるかも知れません。

どうぞキャリアセンターを積極的に活用して、充実した大学生活を送って下さい。

キャリアセンターが主催する低学年向け講座の紹介

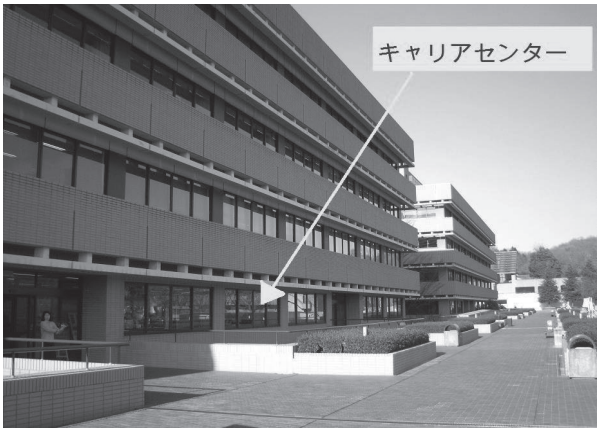
◆キャリアデザイン論（１・２年生向け正規授業科目、春学期１５回程度）
◆新入生キャリアガイダンス（１年生対象）
◆インターシップガイダンス（１～３年生対象）
◆マナー講座（１～３年生対象）
◆１年生からできるキャリアデザインシリーズ［自己分析編・適職編・グループディスカッション編］（１～３年生対象）
※キャリアデザイン論についてはシラバスを、その他の講座の詳細、３・４年生向け各種支援行事･対策講座については、キャリアセンターホームページ等を参照してください。

キャリアセンターでできること

◆キャリア・就職活動に関する個別相談
◆卒業生による就職活動体験記の閲覧（申請不要）
◆就職関連図書の閲覧・貸出
◆学生サポーターによる個別相談（秋学期）
◆インターンシップ情報の閲覧
◆卒業生個人情報の閲覧（申請必要）
◆パソコンの利用
◆求人情報の閲覧

キャリアセンター（キャリアカフェ）開室時間

◆月・水・木・金　９：００～１７：００
（相談受付は９：００～１１：００、
１２：３０～１６：３０）
火　１２：３０～１７：００
（相談受付は９：００～１１：３０）
※混雑時は、相談受付時間を繰り上げて終了することがあります。
※キャリアカフェでは、授業期間中の平日午後、コーヒーサービスを行っています。



◆土曜日（予約制）９：００～１２：００
（相談受付は９：００～１１：３０）
※土曜日は卒業生個人情報の閲覧申請を行っていません。
◆日曜日・祝日　閉室

(11) 多摩事務部学務課グローバル担当（総合棟地下１Ｆ） TEL 042-783-2130
時間：平日　９：００～１７：００（１１：３０～１２：３０を除く）（土曜閉室）
取扱業務：
a.　外国人留学生に関する業務
b.　海外留学一般（法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度を含む）に関する相談・情報提供
c.　その他国際交流に関する各種情報提供　など

＊　各種留学制度の詳細については、以下のURLを参照してください。
URL： http://www.global.hosei.ac.jp/

(12) ボランティアセンター（ＥＧＧ　ＤＯＭＥ２階多摩学生生活課内）

多摩ボランティアセンターでは、学生の地域でのボランティア活動を促進するため下記のような支援業務を行っています。これからボランティアを始めたい方も気軽にお立ち寄りください。

◆　ボランティア情報の発信

- ボランティア募集情報の掲示：大学に寄せられたボランティア情報は審査を経て、掲示板、ラック、ファイリングの形で公開しています。分野は保育園・幼稚園、小中学校、高齢者、障がい者、子ども、障がい者スポーツ、里山保全・環境、災害地、などの支援。
- ボランティア登録（メールマガジン配信）：窓口で登録するとキャンパス近郊で活動できるように、町田、八王子、相模原の各市の募集情報のうちから参加しやすい活動を案内しています。
- ボランティア関連図書の閲覧：他大学の報告書・パンフレット、地域のボランティアセンター発行紙などもありますので活動の参考にしてください。

◆　ボランティアのきっかけ作り・体験

ボランティアに参加するきっかけとなる活動先見学や体験型企画を学生スタッフが実施し、学生から学生へとボランティア経験の輪を広げています。スタッフは学生の視点で発案し、参加を呼びかけ、地域と連携し、学びながら学生同士で考え､伝え合う機会を作っています｡まずは一緒に参加してみましょう。

◆　ボランティア相談

募集情報でわからないこと、活動上の相談には、個人、ゼミ、グループ、団

体どなたでも担当職員が対応しています。また、映像等で活動の様子を紹介します。

◆ 開室時間：月曜日～金曜日　９：００～１１：３０、１２：３０～１７：００
　　土曜日　９：００～１２：００

TEL：０４２－７８３－２０７３
FAX：０４２－７８３－２０７４

(13) ＜多摩地域交流センター＞（総合棟２階）

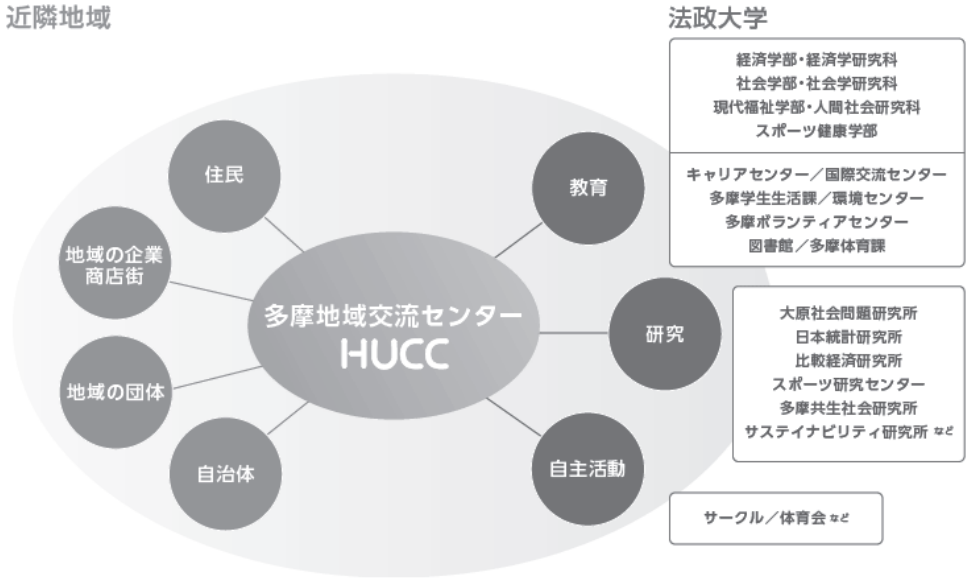
多摩地域交流センターは、「開かれた知と学び - 地域まるごとキャンパス」をテーマに、学生の皆さんの主体的な地域活動の取り組みを通じて、皆さんの成長やキャリア形成、さらには大学の社会貢献を図っています。
座学だけでない、実践を通した学びもしたいと思う皆さん、お気軽に総合棟2階の多摩地域交流センターを訪ねてください。

（当センターでできること）
・地域連携・地域活動参加についての相談
・学内の「地域で活動するサークル・団体」運営の相談
・具体的な活動・イベントの近隣地域への広報に関する相談
・地域活動に関する助成金への応募（４月～５月）と活動報告会での発表
　当センター独自の「多摩地域交流･連携プロジェクト助成金」もあります。
・地域で「何がしたいのか、どうすれば良いのか」わからない時の相談
※　なお、近隣地域の活動希望者（外部）からの相談も受け付けています。

（活動事例）　※終了分を含む。

・城山湖トレイルランニングのサポート	・城山湖周辺地域観光振興プロジェクト
・小学校での放課後活動のサポート	・児童養護施設での育ちの支援
・農業を通じた地域交流	・里山の茶畑再生･商品開発プロジェクト
・新商品のマーケティングプロジェクト	・商店街の振興プロジェクト
・地元の神輿（みこし）担ぎやお祭りの企画運営	
・地域交流センターの学生企画スタッフによる各種活動	
・団地内でのカフェ活動	・景観保全･ホタル再生プロジェクト
・高齢者支援センターと連携した見守り	・高齢者のためのサロン活動
・地域の魅力発見･つながりづくり	・団地のコミュニティ活性化プロジェクト

※活動の詳細は HP　www.hucc.hosei.ac.jp または当センターにおたずねください。



◆開室時間　月曜日～金曜日　９：００～１７：００（11：30～12：30 を除く）
◆連絡先　　（電話）042-783-3014　（E ﾒｰﾙ）chiiki-kouryu@ml.hosei.ac.jp

(14) 障がい学生支援室（多摩）（総合棟２Ｆ） TEL 042-783-4038

E-mail： tmshien@hosei.ac.jp

大学には、様々な障がいを持った学生さんが在籍しています。

健常者と同レベルで講義を受けられるよう支援すること（講義保障）を中心に、学生が社会へ出るための自立をサポートし、障がい学生と支援学生の双方が成長できるコミュニティ作りを目指しています。

活動は、学生ボランティア（障がい学生サポートスタッフ）によって支えられています。サポートスタッフは、ノートテイク講座など必要な講習（５～６月に実施）を受けて支援室登録し、サポートが必要な学生の講義へ派遣されています。なお、スタッフへは、活動に応じた謝礼が大学から支払われています。

◆支援室の主な活動

障がい学生との個別面談、各学生に合った講義保障の手配、定期試験や授業内試験時の配慮、教員への配慮事項の伝達、学生生活支援、進路・就職支援、各種講習会の実施など

◆開室時間

月～金　９：００～１７：００（１１：３０～１２：３０を除く）

(15) ハラスメント相談室

「法政大学はハラスメントを禁止しています」
専門相談員(臨床心理士)がお話を伺い、解決に向けてサポートします。ハラスメントを受けていると感じたら、一人で悩まずにご連絡ください。あなたの名誉やプライバシーに配慮しますのでどうぞ安心してご相談ください。

◆開室時間

月～金　９：３０～１１：３０、１２：３０～１６：３０（ただし、１１：３０～１２：３０は応相談）

※土日、祝日は閉室です。

◆場所

市ケ谷キャンパス(必要な場合は他キャンパスへの出張相談も可能です。)

※ハラスメント相談室では、６～１月（夏季、冬季休業期間を除く）の間、毎月１回、多摩キャンパスへの巡回相談を実施しています(要予約)。日程については掲示をご覧になるか、相談室までお問い合わせください。

◆相談方法

相談は面談を基本としています。事前予約の上お越しください。

◆連絡方法
電話：03-3264-4409
FAX　：03-3264-4410
E-mail：stopharass@hosei.ac.jp
※パソコンからの返信となりますので「@adm.hosei.ac.jp」ドメインからのメールを受信できるように設定してから送信してください。

◆公式webサイトURL
http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/index_1.html
※詳細は公式webサイトをご参照ください。

(16) ゼミ合宿補助について

ゼミ合宿で（株）エイチ・ユーが「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設を利用した場合に宿泊料補助を行っていますので，ぜひご利用ください。詳細は，以下の大学ＨＰにて掲載しています。
（HOME ＞ キャンパスライフ ＞ 学生生活サポート ＞ ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助）
http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/index.html

(17) 学部学会機関誌『経済志林』について

雑誌『経済志林』は、経済学部のスタッフで構成する経済学部学会の機関誌であり、年４回発行している。

大正14年（1925年）に創刊された『法政大学論集』が、学部の充実とともに昭和７年（1932年）に『経済志林』と改題され、今日に至っている。

戦前、高木友三郎、山村喬、美濃部亮吉、小野武夫、渡邊佐平、阿部勇、大塚久雄、岸本誠二郎などそうそうたる論客が論陣をはり、学界における本誌の名声を著しく高めた。戦後昭和24年（1949年）に復刊され、現在第80巻第2号におよんでいる。

本誌は、経済学に関する幾多の注目すべき労作を世に送り出し、ことに従来よりマルクス経済学の分野では、指導的、中心的な研究雑誌のひとつとして評価されてきている。さらに、今日ではわが国の現状をふまえ、国際的な諸分野に対する研究や、とりわけ若手を中心とする近代経済学諸分野における論作の充実も多くの注目を集めている。本誌は、本学図書館ホームページの学術機関リポジトリで閲覧可能である。

Ⅸ. 諸留学制度

1．経済学部スタディ・アブロード・プログラム

スタディ・アブロード・プログラム（ＳＡ）は、英語を集中的に学び、留学先の文化、社会、経済、ビジネス等の科目を英語を用いて学び、さらにホームステイ等による生活経験によって異文化理解を深めることを目指すプログラムである。国際経済人としての マナーとルールを身につけ、自立の精神を養い、グローバル化の著しい世界に向かって、日本の立場から説得力のあるメッセージを発信する能力を養うことが期待される。

(1)	Ｓ　Ａ	スタディ・アブロード・プログラム（Study Abroad Program）の略称をＳＡと呼ぶ。
(2)	留学時期	２年次春学期
(3)	留　学　先	シェフィールド大学（イギリス） カリフォルニア大学デイビス校（アメリカ） モナシュ大学（オーストラリア） ブロック大学（カナダ） ＳＡプログラムはこれらの大学附設の英語教育センターで行われる。
(4)	対象学生	１年次生でＳＡ留学を希望する者
(5)	派遣人数	60～100名程度。（国際経済学科40～60名、経済学科・現代ビジネス学科20～40名を目安とする。）
(6)	単位認定	ＳＡで履修し修得した科目（単位）は、経済学部の開設科目（単位）から16単位まで読み替えて、経済学部教授会が単位認定する。また、事前指導、事後指導としてそれぞれ１単位、計２単位を修得することができる。（2006年度留学者より適用）
(7)	授　　業	a. 授業は全て留学先の教員が担当し、英語で授業が実施される。 b. 定期的に実施する授業出席調査により、出席不良と判断される場合は注意を促し、改善が見られない場合は帰国させることがある。
(8)	留学先決定	１年次春学期に希望登録し、１年次秋学期に留学先決定。
(9)	留学資格	a. １年次に希望登録をしていること b. 健康である者 備考：春学期終了までに１年次配当必修科目（外国語・スポーツ総合・入門ゼミ）の単位を修得していないときは留学を取り消すことがある。
(10)	選抜方法	原則として、１年次春学期の履修成績を中心に選抜を行う。

⑾	ＳＡ事前指導（１単位）	留学先が決定した１年次生に対して、事前指導として留学準備講座やガイダンス等を実施する。これらへの参加は必須である。
⑿	ＳＡ事後指導（１単位）	留学から帰国した２年次生は、ＳＡ研究レポートの提出や帰国報告会、ＴＯＥＩＣ®-ＩＰの受験等が義務づけられる。
⒀	ＳＡ説明会	１年次4月にＳＡプログラムへ参加希望する学生のために説明会を行う。
⒁	ＳＡ奨学金	経済学部独自の奨学金制度。旅費総額（現地授業料、宿泊費含む）の30％程度（約30～50万円）を41名程度に支給する（2017年度実績：39名）。詳しくは経済学部事務課で確認すること。

２．法政大学派遣留学制度

本学では、国際交流の一環として、本学学生に奨学金を給付し、海外の協定大学に派遣しています。この制度による留学では、生活費の補助として、70～100万円の奨学金を支給※するほか、派遣先大学の授業料は全額免除（留学年度の本学への授業料は本人負担）となります。また、派遣先で取得した単位は、審査の上30単位を上限として帰国後本学の卒業所要単位に認定されます。募集概要は次のとおりですので、奮って応募してください。募集及び選考試験は、春学期入学（オーストラリア、韓国）は５～６月、秋学期入学（オーストラリア、韓国以外の全大学）は10月～11月に実施されます。なお、詳しい内容はグローバル教育センター国際交流課発行の募集要項または本学のＨＰ（http://www.global.hosei.ac.jp/）で確認して下さい。

※奨学金の一部（1年間：20万円、半期：10万円）は本学後援会から助成されています。

◆出願資格

a. 出願時に本学の２年次、または３年次に在籍している学部生および大学院生（留学時は３・４年次）。
b. 出願時直近のセメスターまでを通算した成績評価係数（GPA）が 2.30 以上であること。
c. 英語圏は IELTS 6.0 以上もしくは TOEFL®iBT 71 以上を条件とし、派遣先で異なる。
d. 英語圏以外は、各言語による正規課程の授業を受講するにふさわしい語学能力を有する者（言語圏により所定の資格・スコアが必要）。

◆派遣先授業料
全額免除（ただし、留学年度の本学への学費は本人負担）

◆単位認定
派遣先で修得した単位は、各教授会で審議の上、30単位を上限として帰国後、本学の卒業所要単位に認定される。

◆派遣留学先
派遣先については、募集要項（春学期派遣留学：毎年2月発行、秋学期派遣留学：毎年7月発行）とグローバル教育センターWebサイトにてご確認ください。

３．認定海外留学制度

希望する留学先大学（学位授与権を有する正規の４年制高等教育機関）から入学許可を得て本学に申請し、所属学部の審査を得て留学する制度です。認定海外留学を対象とした奨学金制度としては、「開かれた法政21・認定海外留学奨学金」（応募選考制）、「グローバルキャリア支援基金による海外留学支援奨励金」および「法政大学後援会認定海外留学奨学金」があります。詳しくは、グローバル教育センター国際交流課発行の募集要項またはホームページ(http://www.global.hosei.ac.jp/)で確認してください。

(1) 資格
a. 学業成績が優秀で留学目的及び計画が適切であること。
b. 申請時に、２・３・４年次に在籍している本学の学部学生。編入生は申請時、学位の取得を目的として本学に１年以上在籍している者。申請時に休学、あるいは留学年次に学部ＳＡプログラムに参加している場合は申請できない。
c. 留学希望大学からの入学許可書を得ている者、または得る見込みのある者。
d. 留学先大学における履修課程が下記のいずれかに該当する者。
（ａ）十分な語学力を有し、海外の大学における正規課程を履修できる者【正規課程入学】
（ｂ）留学先大学付置の語学プログラムを受講の上（当初の１学期目のみ）、正規課程を履修できる見込みがある者【条件付入学】

(2) 条件
a. 正規の高等機関で学位授与権のある大学において科目履修をすること。
b. 海外の大学において正規課程の授業を履修し、単位を修得することが目的であること。
c. 留学期間は１ヵ年か半期。半期の場合は、条件付き入学は不可。（留学期間は本学における修業年限に含まれる）

d. 留学年次の本学学費は所定期日までに納入すること。
e. 留学にかかる全ての経費は本人の負担となる。※４年次秋学期入学での留学の場合、５年目の本学学費も本人の負担となる。
f. 留学に関するすべての手続きは本人が行うこと。
※協定校であるボイシー州立大学とミネソタ州立大学マンケート校への認定海外留学については、国際交流課を通じて手続きを行います。

(3) 単位認定

留学先大学で取得した単位は、帰国後所属学部教授会で審査の上、30単位を上限に本学の単位として認定されます。

(4) 申請の提出期限

	春入学	秋入学
申請手続	留学前年度 12月中旬	留学年度 5月末

４．休学期間中に海外の大学で行った学修の単位認定について

2012年度までは休学期間中に海外の大学で修得をした単位について認定を実施していなかったが、留学を推進するため、2013年度より実施している。ただし、派遣留学および認定海外留学制度の対象者とならなかった場合に限定する。

留学の事前に、必ず申請を行い、対象となる大学かどうか精査を受けること。単位の認定数（上限）および方法については、派遣留学および認定海外留学制度に準ずるが、詳細については経済学部事務課まで問い合わせること。

５．交換留学生受入れプログラム（ESOP）の受講

本学の国際化の発展に向けて、これまでに交流を深めてきた海外の協定大学から広く交換留学生を受け入れるために開設されたプログラムで、日本の社会・経済・文化などについて全て英語によるゼミ形式で学びます。交換留学生とともに本学の学生も受講でき、多くの学部で単位認定もされます。語学能力を向上させ、国際的センスを磨くためにも有意義で、将来海外留学や海外勤務など国際化社会にはばたくことに役立つでしょう。交換留学生と切磋琢磨し、国際交流の輪を広げることを目的とする学生の積極的な参加を期待しています。単位認定を希望する方は、所属学部に確認後、グローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要ですので、必ず確認してください。申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。講座は全て市ヶ谷キャンパスで開講されます。

６．ERP（English Reinforcement Program／英語強化プログラム）

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環として、英語学習に対して高い意欲のある学生を対象にしたERP（英語強化プログラム）が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。

◇受講資格

受講申し込み時に、希望するレベルに応じたTOEFL®、TOEIC®、IELTS、または英検®CSE2.0の所定のスコアを提示できる者。（過去２年間内で取得したもの）
※新入生は、入学直後に行われるTOEIC®-IPのスコアを利用できます。

◇手続方法

a. 募集・受講許可：
　春学期、秋学期に分けて募集されます。詳細は各キャンパスＧラウンジまたはグローバル教育センターのウェブサイトhttp://www.global.hosei.ac.jpにて確認してください。受講希望者が定員を上回った場合、抽選となることがあります。
b. 費用：無料（教材費が別途かかります。）

◇受講にあたっての注意【重要】

a. 原則として受講決定後のキャンセルはできないので、無理のない受講計画を立て、毎回出席すること。
b. 体調不良などやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、必ず各キャンパス Ｇラウンジにメールまたは電話で連絡すること。
c. 複数回連続で無断欠席した場合は受講意思確認のため、Ｇ ラウンジから電話ま

たはメールで連絡することがあります。

d. 授業実施日は、学年歴の授業期間に準じます。各キャンパス G ラウンジで授業実施日を確認することができます。

e. 毎回出される課題に取り組んだうえで授業に出席すること。

◇単位認定について

当該年度に修得したERP科目について、経済学部主催の認定対象科目への振替による単位認定を秋学期末に一括して行います。ERP科目が1科目では、対象科目の単位数に不足する場合、複数のＥＲＰ科目を以て充当することができます。ただし、学期をまたがる複数のERP科目の単位を充当することはできません。また、修得済科目および当該年度に履修している科目に対する評価の認定は行いません。

a. 評価方法

ＥＲＰ科目の評価を基に「Ａ＋～Ｃ」評価を決定します。なお、評価については、ＧＰＡの算定に組み入れます。

b. 認定科目

学生の申請制とします。ただし、先取りは認めず、配当年次が申請時の学年以下の年次の科目を対象とします。春学期・秋学期のERP科目の受講許可を受けた後、経済学部事務課で認定申請期間中に所定の手続きを行うこと。ERP科目の単位を、異なる開講期の経済学部主催の認定対象科目へ認定する申請はできません。つまり、秋学期のERP科目の単位を以て、春学期の対象科目へ認定する申請はできません。なお、履修登録科目削除期間中に申し出ることにより、必修科目を含む認定対象科目の履修削除を認めます。認定科目の単位も年間履修上限単位数に含まれるため、上限単位数を超えてしまう場合も履修削除が必要となります。秋学期に春学期・通年開講科目を削除することはできません。

c. 認定対象科目

2016年度以降入学 経済学科・現代ビジネス学科

科目区分	科目名	配当年次	単位
外国語科目	Reading and Interaction A・B	1年次	各1単位
	Listening and Presentation A・B	1年次	各1単位
	Writing and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Presentation and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Reading and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Writing and Interaction A・B	2年次	各1単位

	Academic Listening and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Modern Novel A・B	2年次	各1単位
	TOEFL and IELTS Preparation A・B	2年次	各1単位
	TOEIC Preparation A・B	2年次	各1単位
	Media English A・B	2年次	各1単位
総合教育科目	English communication Ⅰ A・B	1年次	各2単位
	English communication Ⅱ A・B	1年次	各2単位
	English communication Ⅲ A・B	1年次	各2単位
専門教育科目	Academic Research Seminar A・B	2年次	各2単位
	Business Research Seminar A・B	2年次	各2単位
	Business Communication Ⅰ A・B	2年次	各2単位
	Business Communication Ⅱ A・B	3・4年次	各2単位

2016年度以降入学 国際経済学科

科目区分	科目名	配当年次	単位
外国語科目	Reading and Interaction 1 A・B	1年次	各1単位
	Listening and Presentation 1 A・B	1年次	各1単位
	Writing and Interaction 1 A・B	1年次	各1単位
	Reading and Interaction 2 A・B	1年次	各1単位
	Listening and Presentation 2 A・B	1年次	各1単位
	Writing and Interaction 2 A・B	1年次	各1単位
	Academic Presentation and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Reading and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Writing and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Academic Listening and Interaction A・B	2年次	各1単位
	Modern Novel A・B	2年次	各1単位
	TOEFL and IELTS Preparation A・B	2年次	各1単位
	TOEIC Preparation A・B	2年次	各1単位
	Media English A・B	2年次	各1単位
総合教育科目	English communication Ⅰ A・B	1年次	各2単位
	English communication Ⅱ A・B	1年次	各2単位
	English communication Ⅲ A・B	1年次	各2単位
専門教育科目	Academic Research Seminar A・B	2年次	各2単位
	Business Research Seminar A・B	2年次	各2単位
	Business Communication Ⅰ A・B	2年次	各2単位
	Business Communication Ⅱ A・B	3・4年次	各2単位

2015年度以前入学　経済学科・現代ビジネス学科

科目区分	科目名	配当年次	単位
外国語科目	英語（ａ）	1年次	2単位
	英語（ｂ）	1年次	2単位
	英語（ｃ）Ａ・Ｂ	2年次	各1単位
	英語（ｄ）Ａ・Ｂ	2年次	各1単位
総合教育科目	英語コミュニケーション初級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
	英語コミュニケーション中級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
	英語コミュニケーション上級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
専門教育科目	英語セミナーＡ・Ｂ	2年次	各2単位
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	2年次	各2単位
	ビジネス英語中級Ａ・Ｂ	3・4年次	各2単位
	時事英語セミナーＡ・Ｂ	3・4年次	各2単位

2015年度以前入学　国際経済学科

科目区分	科目名	配当年次	単位
外国語科目	英語（ａ）	1年次	2単位
	英語（ｂ）	1年次	2単位
	英語（ｃ）	1年次	2単位
	英語（ｄ）Ａ・Ｂ	2年次	各1単位
	英語（ｅ）Ａ・Ｂ	2年次	各1単位
	英語（ｆ）Ａ・Ｂ	2年次	各1単位
	英語（ｇ）Ａ・Ｂ	3年次	各1単位
総合教育科目	英語コミュニケーション初級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
	英語コミュニケーション中級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
	英語コミュニケーション上級Ａ・Ｂ	1年次	各2単位
専門教育科目	英語セミナーＡ・Ｂ	2年次	各2単位
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	2年次	各2単位
	ビジネス英語中級Ａ・Ｂ	3・4年次	各2単位
	時事英語セミナーＡ・Ｂ	3・4年次	各2単位

d. 注意点

・必修科目を認定対象科目とし、削除することで留級する可能性があります。
・C評価以上が付与されたERP科目についてのみ認定審査対象とします。
・英語（ｇ）Ａ・Ｂを認定対象科目として、削除した場合、進級再試を受験する資格を失います。
・単位認定申請を行う科目の単位についても、履修上限単位数に含まれます。

・単位認定については、経済学部教授会が決定します。ERP科目の成績とは異なる場合があります。
・ERP科目および単位認定された科目については、ともに成績調査の対象とはなりません。

７．多摩Ｇラウンジ

ERP（英語強化プログラム）や国際ボランティア・国際インターンシップの申込受付窓口です。正課授業実施日のうち月～金の１日３時間（１２：３０－１５：３０）、Ｇラウンジには英語ネイティブスピーカーである「英語学習アドバイザー」が在室しており、英語で話してみたい、英語の上達方法を教わりたい、海外の文化を知りたい、など学生の皆さんの様々な希望に対応しています。Ｇラウンジで行う様々な企画や活動については自由に参加ができます。各種企画についてはＧラウンジで確認してください。

◆場所

大教室Ａ棟２階（総合棟地下1階書籍購買部・タマえもん向かい）

◆開室時間

月曜日～金曜日　9:00～17:00（休憩11:30～12:30）

◆連絡方法

TEL: 042-783-3018
E-mail：tglounge@ml.hosei.ac.jp

◆ホームページ

http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/g_lounge/

8．グローバル教育センター設置科目について

(1) 短期語学研修

グローバル教育センターが主催している集中語学研修です。夏季休暇中と春季休暇中に、英語をはじめとした外国語の語学力の強化のため、2 週間から 4 週間程度の短期語学研修を実施しています。研修先は本学の海外協定校に付置された語学研修施設で、習熟度別にクラス編成がされるなど、初めて海外に行く方にもお勧めの研修制度です。

プログラム内容は各研修先によって異なりますが、週 20～25 時間の学習と文化体験などが含まれています。

詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

（参考：実施実績）

2017年度夏季（2017年8-9月）

派遣国	協定校	実施期間	研修言語
マレーシア	Asia Pacific University of Technology and Innovation	約4週間	英語
マレーシア	UCSI University	約4週間	英語
アメリカ	Portland State University	約3週間	英語
カナダ	University of Victoria	約3週間	英語
中国	北京語言大学	約4週間	中国語
台湾	淡江大学	約3週間	中国語
韓国	ソウル市立大学	約2週間	朝鮮語
フランス	サンテティエンヌ大学	約4週間	ﾌﾗﾝｽ語

（独）日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）奨学金の支給対象

2017年度春季（2018年2-3月）

派遣国	協定校	実施期間	研修言語
マレーシア	Asia Pacific University of Technology and Innovation	約4週間	英語
マレーシア	UCSI University	約4週間	英語
アメリカ	Portland State University	約4週間	英語
カナダ	University of Victoria	約4週間	英語
中国	北京語言大学	約4週間	中国語
韓国	建国大学	約2週間	朝鮮語
フランス	サンテティエンヌ大学	約4週間	ﾌﾗﾝｽ語

（独）日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）奨学金の支給対象

(2) 国際ボランティア

グローバル教育センターが主催している「国際ボランティア」プログラムです。夏季休暇と春季休暇中の 10 日間程度、国際ワークキャンプに参加し、それぞれの現場で必要としている活動支援を通じて、国際協力に対する理解を深めます。世界中のボランティアと一緒に働くことで、文化や言語の壁を越えた理解を深めながら、コミュニケーション能力を養い、海外で活躍する素地を育みます。プログラムにより、派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

＜2017年度　夏季：実施事例（海外プログラムのみ記載）＞

NICE（※）共催 国際ワークキャンプ

派遣国	プログラム	期間	共催団体	単位認定
ラオス	公民館の建設や現地若者に文化交流＆環境教育	2週間程度	NICE	対象
マレーシア	難民の子ども達への教育活動	2週間程度	NICE	対象
インドネシア	観光資源の発掘、子供への英語・環境教育	2週間程度	NICE	対象
スリランカ	有機農業訓練所を再建、農作業の手伝い	2週間程度	NICE	対象
タイ	伝統的な無農薬農業の手伝い	2週間程度	NICE	対象
インドネシア	子どもの居場所づくり、遊びプログラムを企画	2週間程度	NICE	対象
マレーシア	日本語を学ぶ現地学生たちに言語・文化紹介	10日間程度	NICE	対象
フィリピン	小学校の備品修理や子どもへ文化・環境教育	10日間程度	NICE	対象

（※）NICE：正式名称は、特定非営利活動法人日本国際ワークキャンプセンター

(3) 国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中の 2 週間～4 週間程度、海外企業や NGO 団体でのインターンシップを通じて、グローバル環境での働き方や企業文化の違いを学びます。将来的には、グローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげることを目的としています。プログラムにより、派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

＜2017年度夏季（2017年8～9月）実施事例＞

派遣国	プログラム	期間	共催団体	単位認定
フィリピン	国際協力NGOインターンシップ	約3週間	GLMi	対象
ルーマニア	公共・市民・民間セクターインターンシップ	約4週間	UBB	対象

＜2017年度春季（2018年2～3月）実施事例＞

派遣国	プログラム	期間	共催団体	単位認定
アメリカ合衆国	国際交流インターンシップ	約4週間	ベイラー大学	対象
東南アジア諸国	国際協力インターンシップ	約4週間	SVA	対象
ベトナム	ビジネスインターンシップ	約4週間	FPT大学	対象

(4) 単位認定について

各学部の定めにより、グローバル教育センター設置科目受講者に対しては単位が認定される場合があります。認定科目、認定単位数の詳細については各学部窓口ならびに、次頁の「共通認定科目の単位認定について」をご確認ください。なお、「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の単位認定は，プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）に行うこととなりますので、4 年生の最終学期については，単位認定ができません。また、国際ボランティア、インターンシップについては、すべてのプログラムが単位認定の対象とはなりませんので注意してください。

単位認定を希望する場合、プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、所属学部の担当窓口（事務課）にて履修登録の申請手続きを行ってください。Web での履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。

※経済学部での共通認定科目の単位認定一覧

内容	(1) 短期語学研修	(2) 国際ボランティア	(3) 国際インターンシップ
単位認定	○	○（例外有）	○（例外有）
単位数	2	1	1
卒業所要単位として認定する	経済学科　○	経済学科　○	経済学科　○
	国際経済学科　○	国際経済学科　○	国際経済学科　○
	現代ビジネス学科　○	現代ビジネス学科　○	現代ビジネス学科　○
認定先	経済学科　自由科目	経済学科　自由科目	経済学科　自由科目
	国際経済学科　選択科目	国際経済学科　選択科目	国際経済学科　選択科目
	現代ビジネス学科　自由科目	現代ビジネス学科　自由科目	現代ビジネス学科　自由科目
備考	「短期語学研修」配当年次は１年次、「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の配当年次は２年次		

9．グローバル・オープン科目について

法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために2016年度から全学で開講されている学部横断型の科目群です。

本プログラムは、文部科学省の「スーパーグローバル創成支援事業」の一環であり、その事業の教育目的である「持続可能な地球社会の構築に貢献できるグローバル人材を育成する」を具現化する教育プログラムの一つです。このプログラムでは、すべての科目は英語を教授言語としています。各学部で定められた科目履修要領に基づき、このグローバル・オープン科目を履修することにより、学部の専門性を超えたグローバルな視点での課題解決能力を修得することを目指します。

各科目は配当年次等によりレベル分けがなされており、各自の習熟度によって履修することができます。また、多くの科目が少人数で開講されるのが特長です。

(1) グローバル・オープン科目実施学部

すべての学部で実施。

(2) 履修年次

グローバル・オープン科目は、１年次から配当されていますが、科目により履修年次がそれぞれ設定されているため、履修時に十分に留意してください。

(3) 登録単位の上限と単位の扱い

グローバル・オープン科目の修得単位は多くの学部で卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます（下表参照）。単位認定に関する詳細や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

所属学部	認定先科目	履修単位数上限等
経済学部	自由科目	上限なし（但し認定される単位数の上限は、経済学科20単位以内、国際経済学科16単位（12単位）以内、現代ビジネス学科16単位（18単位以内） 注：（　）内は2016年度以降入学生

(4) 登録方法

下記（5）注意事項**（重要）**を読んで、各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で内容を必ず確認し、他の科目と同じように定められた期間内に履修登録してください。

(5) 注意事項（重要）

・開講校地は、原則として、各科目の主催学部等の所在地となります。

・初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。

・秋学期科目については、春学期に履修登録の意思を教員に表明し、履修許可を予め得る必要のある科目があります。春学期のうちに担当教員に申し出て、履修許可の有無を確認し

てください。なお、秋学期科目の履修許可を得ないで春学期に登録した場合、履修を取り消される場合がありますので、十分に留意してください。

・秋学期が最初のセメスターとなる秋季入学生や交換留学生は、秋学期開講時には、その年度の春学期に履修することが前提となる科目があるため、第一セメスターに履修できない場合があります。シラバスを丁寧に読み、誤って初回授業に出席することがないよう留意してください。

・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、開講学部の掲示板に掲示されますので、ご注意ください。

・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認すること。

・講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。初回授業前にシラバスを必ず読んで授業に臨んでください。

・国際文化学部およびグローバル教養学部(GIS)主催科目の履修については、一定の英語能力基準が必要です。詳しくはグローバル教育センターホームページでご確認ください。

(6) グローバル・オープン科目の領域と修了証について

「ビジネス＆マネジメント」「ビジネス＆エコノミクス」「国際関係」「社会と文化」「科学・技術」の５領域に加え、教授言語である英語運用能力を高める「実践英語」領域が用意されています。各領域を体系立てて学ぶことにより、所属学部の科目で修得した専門性を活かしながら、学問分野を超えた高度な知識とグローバルな視野から幅広い知識を身につけることが可能となります。また、6つある領域のうち１つの領域内で、12単位以上修了した方には、所定の申請により「修了証」が発行されます。

＜修了証の申請から受領までの流れ＞

春学期	秋学期	内容
５月	１２月	グローバル・オープン科目修了証発行申請案内の告知
６月	１月	修了見込の学生本人が所定手続きで申請
８月	３月	申請内容および最終成績の確認
８月末	３月末	グローバル教育センターから申請者への結果報告
９月	４月	修了証の発行・受領

＜６つの領域について＞

◆領域１：「ビジネス＆マネジメント」

グローバル化によって日本国内で完結するビジネスはないといっても過言ではありません。今日のビジネスを理解するには、経営戦略、人材・組織、マーケティング、会計、ファイナンスなど経営管理の基礎的知識のほかに、国際経営、イノベーション、グローバル・マーケティング、国際会計といった新しい分野を学ぶことが必要です。

この領域では、多様なグローバル・ビジネスの現状に触れ，社会に貢献してゆくための基盤能力を養い、海外進出やグローバル・ブランド構築を考察する機会を提供します。中級・上級科目を進むに従い、ビジネス・モデリングやビジネス実践に関するスキルも学べる、卒業後のキャリア形成に役立つ科目を用意しています。

◆領域２：「ビジネス＆エコノミクス」

リーマンショックから始まった世界金融危機は日本企業の活動にも大きな影響を与え、中国経済の減速懸念は今後の日本企業のビジネス戦略を変えようとしています。

この領域では、経済学のコンセプトを用いて、グローバルに展開する企業活動の現状や、国際競争力を持ったビジネスの可能性について考える力を身につけます。導入科目では、世界経済の中の日本について歴史的な視点も入れながら学ぶとともに、ビジネス・コミュニケーションの実践的な基礎を学びます。中級・上級科目では、経済学や国際経済の基礎理論とともに世界の地域研究について学び、また、さらに進んだビジネス・コミュニケーションのスキルを学ぶとともにビジネスの研究を深めていきます。

◆領域３：「国際関係」

グローバル化が進む今日の国際社会では、各国の政治、経済、文化、宗教的問題が国境・地域を越えて伝播することによって、武力紛争、テロ、経済危機、難民、大規模自然災害といった問題が世界各地で連鎖的に発生しています。

この領域では、こうした複雑化を増す国際社会の仕組みや諸問題に対する理解を深めるために、伝統的な国際政治学だけでなく、国際政治経済学や国際法学、外交政策論、政治学、社会学等、様々な視点から学際的研究を行います。将来、国際機関や国際NGO、その他グローバル企業での勤務を希望する方に推奨したい科目です。

◆領域４：「社会と文化」

グローバル社会の多様な課題を解決するためには、異文化理解、文学、歴史、思想、宗教、心理学、言語学などの学びを通して、文化や価値観の相違を認識することが重要であると考えられます。

この領域では、グローバル・オープン科目群の中で最も多くの科目数を集め、所属学部の専門分野以外にも目をむけ、グローバルリーダーとして活躍する人材に必要とされる知識をより広く学び、上記の認識を培う場を提供しています。

◆領域５：「実践英語」

ツールとしての英語を鍛え、様々な場面に応じて相手の発言に傾聴しながら自らの主張を伝え、理解を求められるような、英語運用能力をつけることはグローバル社会で活躍することを希望している学生にとって必須であることは言うまでもありません。
「実践英語」領域では、学部を越えて、より実践的な英語能力を磨くことのできる場を提供します。少人数で開講される授業を通じて、プレゼンテーションや語彙力の強化をはじめ、英語によるコミュニケーション能力をさらに身につけたい方にお勧めします。

＊「科学・技術」は、2017 年度から小金井キャンパスで開講予定の新領域です。

◆領域６：「科学・技術」

社会のグローバル化が急速に進むなか、特に科学・技術分野は日進月歩の急激な進展を示しています。本領域ではこのような変化の激しいグローバル化に対応し、理工系学部に在籍する学生が、世界を舞台に活躍できる基礎を築くための科目群を用意し、英語の講義受講によるグローバル体験とともに、横断的に専攻以外の理工学分野の概要を知り、幅広い知識の習得、問題解決能力を涵養することをめざします。また、金融工学、情報科学、生命・健康科学など、理工系分野を含む境界領域に興味を持つ文系学生にも履修可能な入門的科目を用意しました。

X. 課外講座案内

1. 高度会計人育成センター

高度会計人育成センターでは、公認会計士等の会計専門職をめざす学生を支援するため、キャンパス内で「会計専門職講座」（※）を開講しています（市ヶ谷・多摩）。
※学内では、HAPP（Hosei Accounting Profession Program：ハップ）の呼称を用いています

◆会計専門職講座

会計専門職講座は、公認会計士、税理士、日商簿記検定等の簿記・会計関係の試験合格者を養成することを目的として設置されています。発足は1967年に遡り、これまで公認会計士をはじめとする多くの職業会計人を輩出してきた、誇りと伝統ある講座です。毎年、両キャンパス合わせて約300名が学んでいます。

【特徴】

- 高い目標を持つ学生が、切磋琢磨しながら勉強に励んでいます。共に学ぶことで良い刺激を受け、一層勉強に身が入ります。
- まずは簿記を徹底的にマスターします。会計資格教育のプロフェショナル講師が、分かりやすい教材を使用しながらきめ細かく指導します。
- 大手専門学校で学ぶよりも費用が安く、大変経済的です。

＊講座の詳細は、ガイダンス、パンフレットでご確認ください。

◆高度会計人育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階 キャリアセンター内）
受付時間　月～金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）/土 9：00～12：00
TEL　03-3264-9330　E-mail　contact-a@ml.hosei.ac.jp
Facebook　https://www.facebook.com/happichigayatama

２．公務人材育成センター

公務人材育成センターでは、公務員を志望する学生を支援するため、キャンパス内で「公務員講座」を開講しています（市ヶ谷・多摩・小金井)。

◆公務員講座の特徴
①学年に応じた講座内容
②キャンパス内で講義を実施
③低価格の受講料
④講師による相談コーナー、Web 視聴による欠席・復習フォロー等、充実したバックアップ体制
⑤公務員として活躍している卒業生による協力（講演会、相談会等）

◆2018 年度開講講座

【公務員入門講座】(受講可能学年：1 年生／開講期：春期休暇中)
公務員試験の教養試験では、「数的処理」という特有の科目が出題されます。出題数も多く、教養試験における最重要科目となっています。
入門講座は、多くの受験者が苦手とするこの「数的処理」に早めに慣れることを目的として、春期休暇中、集中的に取り組みます。

【公務員基礎講座】(受講可能学年：2 年生／開講期：秋学期～春季休暇中)
基礎講座では、公務員試験の主要な教養科目（数的処理）および専門科目（憲法・民法・政治学・経済原論）について、基礎から体系的に学習します。2年次終了時点で、地方上級・国家一般職試験に対応可能なレベルまでの向上をめざします。

【国家・地方公務員上級職対策講座】(受講可能学年：3～4 年生／開講期：年間)
国家公務員試験・地方公務員上級職試験で出題される科目の知識を習得し、それを実践力に変えていきます。各試験における科目の重要度や時間配分、効率良く得点するための具体的な戦略・受験方法等についても解説します。
4年次の公務員試験受験まで支援し、人物試験（２次試験）対策として、模擬面接会、模擬集団討論を行います

※講座の詳細については、ガイダンス、パンフレットでご確認ください。

◆公務人材育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎２階　キャリアセンター内）
受付時間　月～金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）/土 9：00～12：00
TEL　03-3264-6285　　E-mail　koumujinzai@ml.hosei.ac.jp
URL　https://www.hosei.org/koumujinzai/

３．エクステンション・カレッジ

エクステンション・カレッジでは、学生の皆さんのキャリアアップを支援するため、各種専門学校での開講講座を特別割引価格で受講できるようにしています。(割引提携)

※開講講座の詳しい内容は、キャンパス内に設置のパンフレットでご確認ください。

◆エクステンション・カレッジ（市ヶ谷キャンパス外濠校舎２階　キャリアセンター内）
受付時間　月～金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）/土 9：00～12：00
TEL　03-3264-6243　　E-mail　help@hosei.ac.jp

XI. 将来の進路

１．大学院進学志望者へ

◆ 法政大学大学院（経済学研究科経済学専攻）

今日の経済学は多くの専門領域に分れて高度な研究が行われています。アカデミックな研究者を目指して専門的な学問分野として経済学を学ぶためには、少なくとも大学院修士課程以上の教育と訓練が不可欠となっています。
他方、民間企業や公的機関の調査研究部門はいうまでもなく、その他の社会の各分野でも、学部レベル以上の経済学の基礎知識と応用力をもった人材が求められています。

本研究科は、2014年度より、「修士（M．A.）プログラム」と「博士５年（Ｐｈ．Ｄ.）プログラム」の二本立てにすることで、より質の高い教育プログラムを用意しています。修士プログラムは、「応用エコノミスト」「高度職業人・教養人」として社会に貢献する力を身に着け、2年間での修士号取得を目指すものです。学部卒、留学生、社会人など幅広く募集しています。
博士５年プログラムは、5年間一貫教育を行うことで、確かな研究基礎力に加え先端的な研究の遂行力を培い、研究者としてグローバル社会で活躍できる人材を育成します。いずれも、講義や研究は、市ヶ谷と多摩2つのキャンパスを使用します。

2018 年度修士課程入学者のための入学試験は、以下 5 つの方式で行いました。いずれも入学は 4 月からですが､入学試験は年に 2 回実施しています(10 月と 2 月)。
・学部内入試　　（口述試験のみ）
・一般入試、外国人入試
　（いずれも秋季は筆記試験および口述試験、春季は口述試験のみ）
・社会人入試　　（口述試験のみ）
・社会人選抜入試（口述試験のみ）

入試概要・入試要項は「法政大学大学院 WEB サイト（http://www.hosei.ac.jp/gs/）」の「入試情報・資料請求ページ（http://www.hosei.ac.jp/gs/nyushi/index.html）」から参照できます。
※2019 年度入学者向け入試情報の公開は、2018 年 5 月以降を予定しています。

例年、6 月から 12 月まで市ヶ谷キャンパスにて「大学院進学相談会」も実施しています。進学相談会では各種資料の閲覧・配布だけでなく、教員との個別相談も可能です。

問い合わせ先：大学院事務部大学院課（市ヶ谷キャンパス大学院棟1階事務室）
TEL： 03-5228-0551　　E-mail： i.hgs@ml.hosei.ac.jp

◆経済学研究科・学部選抜：1年コース（MA）、[1＋3] 年コース（Ph.D.）

2017年度より、経済学部を卒業した優秀な学生にアカデミックな経済学を短期間で学べる環境を提供する、「経済学研究科・学部選抜：1年コース（MA）、[1＋3] 年コース（Ph.D.）」が設置されます。学部選抜の出願資格は、1年コース（MA）の場合は、経済学部在学中に大学院経済学研究科の科目を4科目（8単位）以上履修しGPAが3.0以上(見込み)のもの、[1＋3] 年コース（Ph.D.）の場合は、経済学部在学中にQE筆記試験科目（「社会経済学」、「経済史」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「計量経済学」）をABセットで2科目（8単位）以上を履修し、QE筆記試験2科目をGPA3.0以上で合格(見込み)した学生です。(QEとは、「博士論文研究基礎力審査」です。)

先取り履修制度により、取得単位のうち、10単位まで大学院の単位に読み替えが可能です。大学院進学希望者で、早期の学位取得を希望する場合は、大学院経済学研究科の授業（市ヶ谷で開講）の履修を勧めます。

詳細については、2019年度法政大学大学院入試要項（学部内入試）を、法政大学大学院ＨＰからダウンロードして、参照してください。

2019年度日程（予定）

ＱＥ筆記試験：2019年1月26日（土）
秋季試験：2018年10月7日（日）
秋季出願期間：2018年8月29日（水）～9月5日（水）
春季試験：2019年2月23日（土）
春季口述試験：2019年1月23日（土）～1月30日（水）

２．教職および資格課程

(1) 教職課程

教員免許状を取得するには、教育職員免許法に定められた単位を修得しなければならない。

教員免許状を取得しようとする者は、卒業に必要な単位の他に、教職に関する授業科目の単位を余分に修得しなければならない。従って１年次から計画的に履修しないと、卒業と同時に免許状を取得することは難しい。

履修希望者は、４月初めに行う教職課程ガイダンスに出席し、配布された教職・資格課程履修要綱を熟読し、正しく登録・履修すること。

(2) 資格課程

本学には次のような特別な資格を取得するための課程が設けられている。

・図書館司書　　・学校図書館司書教諭　　・社会教育主事　　・博物館学芸員

卒業後の進路によっては、これらの資格を取得しておいた方がよい場合があるが、就職先は非常に少ない。また教職課程同様、資格に関する授業科目の単位を余分に修得しなければならないので、履修希望者は学部の科目履修と合わせて十分検討のうえ、登録・履修すること。

履修希望者は、４月初めに行う資格課程ガイダンスに出席し、配布された教職・資格課程履修要綱を熟読し、正しく登録・履修すること。

３．国家試験

国家試験（資格試験）受験希望者は、試験日等の詳細について関連する諸官庁に問い合わせることをすすめる。またキャリアセンターに問い合わせるのもよい。受験資格が変更になっている場合もあるので、それぞれの問い合わせ先に照会をすること。

〔備考〕公務員志望の諸君には、公務員試験講座が開講されている。内容については、講座のガイダンスに出席し、不明な点があればキャリアセンターに指導を受けること。

教員紹介

目　　次

１．経済学部専任教員 …… 227

２．客員教授、兼担教授 …… 252

３．兼任講師 …… 253

※五十音順

１．経済学部専任教員

飯野（いいの）　厚（あつし）　教授

担当科目	英語、Academic Research Seminar A/B、演習
研究テーマ	応用言語学、第二言語習得論、コンピュータ利用の英語教育（CALL）
主要業績	①ウェブ会議を取り入れたタスクサイクルが英語スピーキング力に及ぼす影響」（2016年、中部地区英語教育学会紀要第 45号, pp. 37-44） ②Effects of task-based videoconferencing on speaking performance and overall proficiency.” In S, Papadima-Sophocleous, L., Bradley, and S., Thouësny (Eds.). (2016). CALL communities and culture – short papers from EUROCALL 2016. Research publishing. net. (pp. 196-200) ③高等学校英語検定教科書『My Way English Series　英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ』（全5巻、2013～2015年初版, 2016年～2018年改訂版）三省堂
学生へのメッセージ	英語が使えるようになると世界が広がります！が、英語だけできればグローバルというわけではありません！多言語の一つである英語の存在を認識し複言語主義、多文化共生を一緒に考え、学びましょう。

池上（いけがみ）　宗信（むねのぶ）　教授

担当科目	開発経済論A/B、開発経済入門A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
主要業績	①“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” *The Economics of Poverty Traps*, University of Chicago Press. Forthcoming. ②“Experimental Evidence on the Drivers of Index-Based Livestock Insurance Demand in Southern Ethiopia.” *World Development*, Vol. 78, pp. 324-340. 2016. ③“Looking forward: Theory-based measures of chronic poverty and vulnerability.” *Poverty Dynamics: Interdisciplinary Perspectives*, Oxford University Press, chapter 6. 2009.
学生へのメッセージ	あっという間の４年間です。色々なことに興味をもって、多くの知識を吸収していってください。

梅津（うめづ）　亮子（りょうこ）　教授

担当科目	本年度在外研究員のため担当科目なし
研究テーマ	コスト・マネジメント、非営利組織の会計、サービスの原価計算
主要業績	①「マネジメント・コントロールの法的構造」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、ワーキングペーパーシリーズ No. 135、2012年。 ②「サービスの原価と見えない価値」『非営利法人研究学会誌』第11巻、2009年。 ③『看護サービスの原価測定と評価』公益情報サービス、2003年。
学生へのメッセージ	あっという間の４年間です。色々なことに興味をもって、多くの知識を吸収していってください。

大平（おおひら）　佳男（よしお）　助教

担当科目	入門ゼミ
研究テーマ	環境経済学、エネルギーの経済学、再生可能エネルギー政策、地域のエネルギー問題
主要業績	①『日本の再生可能エネルギー政策の経済分析――福島の復興に向けて』八朔社、2016年 ②「第７章　岡山県・倉敷市における地域産業と再生可能エネルギーの連携」法政大学大原社会問題研究所、相田利雄編『サステイナブルな地域と経済の構想』御茶の水書房、pp.177-203、2016 ③Yoshio Ohira, “Renewable-energy policies and economic revitalization in Fukushima”, Mitsuo Yamakawa and Daisaku Yamamoto, Rebuilding Fukushima, Routledge, 2017
学生へのメッセージ	色々なことに疑問を持ち、自ら考え、調べてみてください。 また、いざというときでも冷静な判断と柔軟な発想を持てるよう、様々なことを学び、経験してください。

岡部（おかべ）　雅史（まさし）　教授

担当科目	環境科学Ａ/Ｂ、生物学Ａ/Ｂ、自然科学特講、総合講座Ⅱ、入門ゼミ、演習
研究テーマ	環境汚染物質および重金属類による中枢神経障害発現機序
主要業績	①Localization of the induced metallothionein and DNA damage in rat kidney after gold injection. 共著. *Journal of Histochemistry and Cytochemistry* 50, 1263-1271, 2002. ②A developed method of terminal deoxynucleotidyl transferase system for quantification of DNA damege caused by apoptosis. 共著. *Analytical Sciences* 17 Supple., i1547-i1550, 2001. ③Development of bulk separation method of neuronal and glial cells in the rat brain for trace element analysis. 共著. *Analytical Sciences* 17 Supple., i1527-i1530, 2001.
学生へのメッセージ	いま求められる人材は、いわゆる「お勉強だけがよくできる学生」ではない！　柔軟な思考で斬新なアイディアを提案・表現できる人材こそが求められている。そのような学生を育てたいと願っている。

奥山（おくやま）　利幸（としゆき）　教授

担当科目	演習
研究テーマ	経済成長と景気変動の源泉～競争の中での差別化，商品・技術開発戦略～
主要業績	①「競争市場 vs. 独占的競争 ： 非競合的技術進歩のマクロ的効果」『経済志林』80(3)，2013，229-258. ②「サッチャリズム：経済的自由の回復」曽村充利編『新自由主義は文学を変えたか』(法政大学出版局) 第一章、2008. ③“Taxes, Housing, and Capital Accumulation in a Two-Sector Growing Economy,” with S. J. Turnovsky, *Journal of Public Economics,* 1994, 53(2), 245-265.
学生へのメッセージ	大学生活は，気付いたら卒業式というスピードです。「良き師，良き友」を多く作り上げてください。

小黒　一正（おぐろ　かずまさ）　教授

担当科目	日本経済論A/B、社会保障論A/B、演習
研究テーマ	人口動態と財政・社会保障の経済分析、公共経済学（特に世代間を巡る課題）
主要業績	①“Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy,” Applied Economics, Volume 45, Issue 17, 2012 (with Takashi Oshio and Junichiro Takahata). ②“Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting”, Economic Modelling, Volume 44, 2015 (with Ryo Ishida, Junichiro Takahata) ③″An Endeavor to Estimate Seigniorage Before the End of and Immediately After the Pacific War″, Journal of The Japanese and International Economies, Volume 41, 2016 (with Takahiro Hattori)
学生へのメッセージ	経済学という分析ツールを使い、日本が抱える課題の解決策を一緒に考えよう！

小沢　和浩（おざわ　かずひろ）　教授

担当科目	コンピューター入門A/B、コンピューター科学A/B、演習
研究テーマ	データマイニングによるデータ分析手法、植物を指標とした環境に関する研究、電気自動車の普及に関する研究
主要業績	①T. Niimura, N. Sakamoto, K. Ozawa, Estimating hourly profiles of insolation based on weekly weather forecast, International Journal of Energy and Power Engineering（査読有）, Science Publishing, Volume 3, Issue 3, October, 2014 ②坂本憲昭、新村隆英、小沢和浩、高森寛、スライディングモード制御による電気自動車の普及インフラモデルにおける補助金施策、（査読有）、電気学会論文誌C、Vol.134、No. 12、2014 ③坂本憲昭、新村隆英、小沢和浩、高森寛、フィードバック制御による燃料電池自動車の政策に関する検討、計測自動制御学会論文集（査読有）、Vol.51、No.3、190-196、2014
学生へのメッセージ	青年日本の代表者たちよ！世界の将来は君たちにかかっている。

Kalenga Ngoy John（カレンガ　ゴイ　ジョン）　専任講師

担当科目	Basic Economics A／B、入門ゼミ
研究テーマ	アフリカにおけるエネルギーと鉱物資源の経済的研究
主要業績	①John Ngoy Kalenga, Christian Tulinabo Balyahamwabo, Tetsuhiko Takai,《Analyse de l’evolution des accidents de travail dans les mines de cuivre du Katanga》, *Revue Congo-Afrique*, May 2016, Vol.505, (56eme Annee), pp. 366-380. ②John Ngoy Kalenga, “Production of nonferrous metals in the Katanga region of the Democratic Republic of Congo: 1906 - 2012”, *International journal of economics and management sciences*, September 2014, Volume 3 Issue 2, pp.1-7. Doi: http://dx.doi.org/10.4172/2162-6359.1000181 ③John Ngoy Kalenga, “Economic and Toxicological aspects of the copper industry in Katanga, DR Congo”, *Japanese Journal of Veterinary Research*, February 2013, Vol.61, Supplement, pp.S23-S32.
学生へのメッセージ	法政大学経済学部の学生の皆さん。教員と学生の距離を近くし、互いに対等に学びあう機会を作るのが大切だと私は考えています。本授業は、社会で活躍する上で必要な基礎学力の向上やビジネスマナー等にも力を入れていきます。一人ひとりの学生の頑張りに応えられる授業です。社会経済学の基本的な理論を身につけながら、未来のリーダーを目指していける環境になりますので、意欲のある皆さんの参加をお待ちしております。

河村（かわむら）　哲二（てつじ）　教授

担当科目	アメリカ経済論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	現代アメリカ経済の変容とグローバル経済の転換
主要業績	①*Hybrid Factories in the United States under the Global Economy*（編著），Oxford University Press, 2011。 ②『現代アメリカ経済』有斐閣、2003年。 ③『パックス・アメリカーナの形成』東洋経済新報社、1995年。
学生へのメッセージ	グローバル化が進展するなか、日本と世界の社会・経済は大きく変貌し転換する時代を迎えています。グローバル経済の変容の中心を占めるアメリカ経済の変貌を学び、諸君が中心となって活躍するこれからの時代にむけて、そうした大きな変化を自らとらえる視点と総合的な知識を身につけるよう期待しています。

河村（かわむら）　真（まこと）　教授

担当科目	企業と経済基礎A、産業組織論A/B、演習
研究テーマ	公益事業、公共経済、産業の実証分析
主要業績	①「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻３号（1993） ②「公共投資と財政収支－高雇用余剰の実証分析－」『経済研究』45巻１号（竹内信仁氏、釜田公良氏、水野晶夫氏との共著（1994） ③“Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Rate Framework”, Empirical Economics, Vol.24, No.4, 1999（根本二郎氏、釜田公良氏との共著）
学生へのメッセージ	卒論では、データを用い、統計学を用いた分析を行うので、多くのデータを集めるガッツのある人や、統計学やミクロ経済学に興味を持った人に来てほしい。

菊池（きくち）　道樹（みちき）　教授

担当科目	中国経済論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	現代中国の経済成長の要因、中国の地域経済、日本と中国の経済関係
主要業績	①「建国60年からの一歩―国内経済」（『中国年鑑2010』） ②「中国経済の新たな局面－浙江現象をめぐる議論の紹介」（『経済志林』、2008年） ③「移行期中国における農村工業化の役割」（『近現代比較数量経済分析』、2004年）
学生へのメッセージ	先行き不透明な時代にこそ求められるのは、国際的に通用する豊かな学識を身に付けることだ。そうした意欲のある学生をしっかりと支援したい。

岸（きし）　牧人（まきと）　教授

担当科目	簿記ⅠA/B（経済学科）、簿記ⅡA/B、監査論A/B、演習
研究テーマ	監査保証論、監査証拠論
主要業績	①「監査証拠の信頼性評価におけるメタ証拠の評価と保証水準」『現代監査』第27号，日本監査研究学会，2017年。 ②「会計上の見積りに関する実態調査2017－繰延税金資産に関する項目別アンケート結果の分析と検討」『企業会計』2017年10月号。 ③『監査報告書の新展開』（分担執筆，井上善弘編著），同文舘出版、2014年。
学生へのメッセージ	常に本質を見ることを身につけて下さい。

後藤（ごとう）　浩子（ひろこ）　教授

担当科目	入門ゼミ、社会経済思想史A/B、演習
研究テーマ	18,19世紀ブリテン・アイルランド社会思想史
主要業績	①　J=F. ムロン著、米田昌平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』京都大学学術出版会、2015年。 ②「商業論の登場と政治観の変容」『経済論叢』186巻3号、2013年3月。 ③“Political Economy in the Late Eighteenth-Century British Radicalism: A Re-examination of the Analytical Categories” The Kyoto Economic Review, 80(1), 2011.
学生へのメッセージ	安全と安心を目指し、よりよく稼いで消費するためだけに大学で学ぶのではなく、そのような「家畜化」に個々人を差し向ける社会の機構を振り返るためにも学んでください。

小林（こばやし）　克也（かつや）　教授

担当科目	経済学入門A/B、財政学A/B、地方財政論A/B、演習
研究テーマ	地方財政、政治科学（Political Science）
主要業績	①“Research grants competitions: step-by-step group contests with group-specific pub-lic-good prizes,”日本経済学会2017年度秋季大会報告(青山学院大学)，2017. ②“Endogenous Party Structure,” with Hideo Konishi (Boston College), Economics of Governance 17 - 4, pp. 317 - 351, 2016. ③“Incentives for Improving the Public Budget Balance in Local Governments and Resident Migration”, Journal of International Economics Studies (法政大学比較経済研究所), No. 25, pp. 63 - 80, 2011. University), No. 25, pp. 63 - 80, 2011.
学生へのメッセージ	経済学は、私たちの生活に関わるあらゆるものを論理的に整理し、私たちがどう行動すべきかを提示してくれる学問です。当然と思われていることに「本当にそうなの？」と疑問をぶつけてみましょう。経済学は整理の仕方を示してくれます。ネットやマスコミなどで出てくる意見に「本当？」と投げかけられるようになれれば、経済学部の学生として十分といえます。

近藤（こんどう）　章夫（あきお）　教授

担当科目	経済地理A/B、経済地理、産業集積論、演習
研究テーマ	経済地理学、都市・地域経済論、地理情報システム論
主要業績	①共編著『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社、2015年. ②共著『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会、2012年. ③単著『立地戦略と空間的分業』古今書院、2007年.
学生へのメッセージ	好奇心をもっていろいろなことにチャレンジしてください。きっとそれ相応の見返りがきます。

酒井（さかい）　正（ただし）　教授

担当科目	経済学入門A/B、労働経済論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	社会保障制度と就業との関係についての実証分析
主要業績	①“Who values the family-friendly aspects of a job? Evidence from the Japanese labour market,” (with N. Miyazato) Japanese Economic Review 65(3): 397-413, 2014. ②“The Effects of Incidence of Care Needs in Households on Employment, Subjective Health, and Life Satisfaction among Middle-aged Family Members,” (with R.Fukahori & K. Sato) Scottish Journal of Political Economy 62(5): 518-545, 2015. ③“Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act,” (with L. Edwards & T. Hasebe) forthcoming in Journal of Human Capital
学生へのメッセージ	多くの情報が公開されているこの時代にあって大切なのは、それを読み解く力です。大学はその力を身に付けるのに最適な場所だと思います。

坂本（さかもと）　憲昭（のりあき）　教授

担当科目	ビジネスプログラミング入門A/B、現代社会と情報A、演習 ［教職科目］データベースと情報システム、情報メディアと画像処理
研究テーマ	システム制御、情報教育、情報処理
主要業績	①待ち行列理論によるテーマパークレストラン混雑状況の検討, 経済学部学会経済志林, 2017 ②事業所充実度の評価に関する検討ータウンページと経済センサスー, 日本OR学会, 2017年秋季研究発表会 ③A Method to Evaluate an Urban Area by Using the Model That Calculates Number of Facilities from an Area and a Population, Current Urban Studies, 2016
学生へのメッセージ	学生へのメッセージ。あなたがひとつ以上深く実践すれば，みんなとは違う大学生活になるはず。

佐柄（さがら） 信純（のぶすみ） 教授

担当科目	経済の数理A/B、数学A/B、演習
研究テーマ	無限次元の変分解析、一般均衡理論、数理マルクス経済学
主要業績	①“Fatou's lemma, Galerkin approximations and the existence of Walrasian equilibria in infinite dimensions”, (2017). Joint with M. Ali Khan, *Pure and Applied Functional Analysis* 2, 317-355. ②“Relaxed large economies with infinite-dimensional commodity spaces: The existence of Walrasian equilibria”, (2016). Joint with M. Ali Khan, *Journal of Mathematical Economics* 67, 95-107. ③“An indirect method of nonconvex variational problems in Asplund spaces: The case for saturated measure spaces”, (2015). *SIAM Journal on Control and Optimization* 53, 336-351.
学生へのメッセージ	経済理論の持つ真の美しさは、数学を通してしか表現できない性質のものです。

佐藤（さとう） 良一（よしかず） 教授

担当科目	社会経済学基礎A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	社会経済学、ラディカル派経済学の理論的展開過程
主要業績	①『市場経済の神話とその変革／〈社会的なこと〉の復権』（編著）法政大学出版局 ②『新版マクロ経済学』（共著）勁草書房 ③『不平等と再分配の新しい経済学』（共訳）大月書店
学生へのメッセージ	″Study hard, and keep on smiling!″ 〈複眼的思考〉を身につけよう！

篠原（しのはら） 隆介（りゅうすけ） 教授

担当科目	ミクロ経済学A/B、公共経済論A/B、演習
研究テーマ	公共経済学、ゲーム理論、ミクロ経済学
主要業績	①「役割分担の話-嫌な仕事は誰が引き受けるのか-」信州大学経済学部経済学科編『大学生が出会う経済・経営問題―お金の話から就職活動まで役立つ基礎知識―』創成社 pp. 68-79, 2012年 ②One-sided provision of a public good through bargaining under representative democracy, *Applied Economics Letters*, vol. 25, pp. 162-166, 2018. ③Coalition-proofness in a class of games with strategic substitutes, *International Journal of Game Theory*, vol. 44, pp. 785-813, 2015. (共著者: Federico Quartieri)
学生へのメッセージ	一片の悔いも残さない学生生活を。

芝田（しばた）　幸一郎（こういちろう）　准教授

担当科目	スペイン語、スペイン語セミナーA/B、総合講座Ⅰ、演習
研究テーマ	ペルー考古学・人類学、ペルー食文化、ラテンアメリカ研究
主要業績	① 「アンデス文明における神殿と社会の複雑化 - ワカ・パルティーダ壁画群の分析から」関雄二編『古代文明アンデスと西アジア - 神殿と権力の生成』朝日新聞出版, 2015年. ② Centros de "Reorganización Costeña" durante el Periodo Formativo Tardío: Un ensayo sobre la competencia faccional en el valle bajo de Nepeña, costa nor-central peruana. *Senri Ethnological Studies* 89, 2014. ③ El sitio de Cerro Blanco de Nepeña dentro de la dinámica interactiva del Periodo Formativo. *Boletín de Arqueología* PUCP 12, 2010.
学生へのメッセージ	私の専門地域は、広くはスペイン語圏ラテンアメリカですが、その中でもいま特に熱い、そして美食で知られるペルーが「ど真ん中」です。専門分野は考古学・人類学で、スペインに征服される前の時代（16世紀以前）について、様々な専門家と協力しながら、発掘、文献、各種分析を組み合わせて研究しています。ラテンアメリカの文化・社会・歴史に関心ある学生を歓迎します。

胥（しょ）　鵬（ほう）　教授

担当科目	コーポレートガバナンス論A/B、企業金融論A/B、演習
研究テーマ	株主総会、ＭＢＯおよび買収防衛策
主要業績	①　胥鵬(2015a)　「株式持合を打破し，攻めの経営へ」『ビジネス法務』Vol.15/No.11、p.1 ②　胥鵬(2015b)　「ブルドックは企業価値の番犬か」田中亘・中林真幸編『企業統治の法と経済～比較制度分析の視点で見るガバナンス～』，有斐閣, pp.241 - 260 ③　大野早苗・胥鵬(2013)　「国際的流動性の中国住宅価格高騰への影響：金融政策、住宅融資、海外資本流入の検証」　大野早苗・黒坂佳央編『過剰流動性とアジア経済』第5章所収" 日本評論社. 105-130
学生へのメッセージ	よく勉強よく遊び！自主と規律！

進藤（しんどう）　理香子（りかこ）　教授

担当科目	ヨーロッパ経済論A/B、世界経済史B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	ドイツ近現代史、東プロイセン史、ヨーロッパ社会経済史
主要業績	①Ostpreußen, Litauen und die Sowjetunion in der Zeit der Weimarer Republik. Wirtschaft und Politik im deutschen Osten, [Schriftenreihe Quellen und Forschungen zur brandenburgischen und preußischen Geschichte, hg. v. Frank-Lothar Kroll und Wolfgang Neugebauer, Bd. 45], Duncker & Humblot, Berlin 2013 ②Divergierende Kriegserinnerungen: Das Massaker von Nanking und die Rettung von Juden in Kaunas vor dem Hintergrund der aktuellen Debatte um das UNESCO-Projekt „ Memory of the World “, in: HISTORIE, Jahrbuch des Zentrums für Historische Forschung Berlin der Polnischen Akademie der Wissenschaften 10 (2016), S. 219–236 ③Das deutsch-litauische Binnenschiffahrtsabkommen 1923/24. Die deutsch-litauischen Versöhnungsversuche im Schatten der Memelkonventionsverhandlungen, in: Memel als Brücke zu den baltischen Ländern, hg. v. Bernhart Jähnig, Osnabrück 2011, S. 205- 225
学生へのメッセージ	自分の中に眠る素晴らしい可能性を信じましょう。

菅　富美枝（すが　ふみえ）　教授

担当科目	法学A/B、演習
研究テーマ	民法、消費者法、イギリス法
主要業績	①『新 消費者法研究』（成文堂、2018年） ②『イギリス成年後見制度にみる自律支援の法理』（ミネルヴァ書房、2010年） ③『法と支援型社会―他者指向的な自由主義へ』（武蔵野大学出版会、2006年）
学生へのメッセージ	現代社会をバランスよく見渡すために、経済学的な視点に加えて、法学的な視点も身につけて欲しいと思っています。様々な背景・文化・価値観を有するすべての人にとって住みやすい環境を、われわれはどのようにして築いていけばよいのか、「少数者」の意見や価値観に敏感な人になって欲しいと願っています。

菅　幹雄（すが　みきお）　教授

担当科目	統計学A、Demography A/B、経済統計論A/B、現代社会と情報B、演習
研究テーマ	物価指数、産業連関表、経済センサス、ビジネスレジスター
主要業績	①『物価指数の測定論』日本評論社（単著） ②『アメリカ経済センサス研究』慶應義塾大学出版（共著）
学生へのメッセージ	自分の潜在能力を信じて、がんばって勉強してください。

菅原　琢磨（すがはら　たくま）　教授

担当科目	経済学入門A/B、社会政策論A/B、演習
研究テーマ	社会政策、医療経済、福祉経済、社会保障論
主要業績	①“Significance and Issues of Measuring the Benefit of Community Medical Service System by Hedonic Price Method” *Journal of the National institute of Public Health*, Vol.59, No.1, p31-42, 2010. ②「地価情報を用いた地域医療システムの価値評価ーヘドニック法による地域社会の「安心」の測定ー」『医療経済研究』第21巻 第2号, p115-35, 2009. ③共著『介護保険制度の政策過程ー日本・ドイツ・ルクセンブルグ国際共同研究ー』東洋経済新報社, 2007.
学生へのメッセージ	わが国では既に人口は減少しており少子高齢化も急激に進行しています。これからの社会の変貌をしっかり視野に入れ、これから先の長い人生を実り多く豊かに生きていくために、何が必要でどう行動すべきか、じっくり考えてみて下さい。

杉浦（すぎうら）　未樹（みき）　教授

担当科目	本年度在外研究員のため担当科目なし
研究テーマ	布と衣のグローバルヒストリー。近世期のオランダと関連する地域の都市史、女性史
主要業績	①「布と衣の世界史構築 とグローバルヒストリー」 羽田正編 『グローバルヒストリーの可能性』、山川出版社、2017年 ②「近世ケープタウン女性の家財運用―財産目録とオークション記録の分析―」水井万里子、松井洋子、伏見隆、太田敦、杉浦未樹編、『女性から描く世界史』、勉誠出版,2016.
学生へのメッセージ	大学で、自分を、世界を、友達を、大いに発見してください。探れば探るほど、世界は面白さにあふれています。自分が何を大切にしていきたいのか、大学の場で、ヒントがみつかればよいとおもっています。

杉本（すぎもと）　龍勇（たつお）　教授

担当科目	スポーツ経済論、スポーツ総合A/B、演習
研究テーマ	スポーツ経済学、スポーツ経営学
主要業績	①大学生のスポーツ実施における消費行動に関する一考察　法政大学スポーツ研究センター紀要　2014年 ②体力に関する主観的評価がスポーツ実施に対する動機付けに及ぼす影響　法政大学スポーツ研究センター紀要　2015年 ③体力および健康に対する主観的評価がスポーツ実施行動に与える影響　法政大学スポーツ研究センター紀要　2017年
学生へのメッセージ	広い視野と多様な価値観を持てるように、様々なことに興味を持ち、学び、吸収してください。

鈴木（すずき）　豊（ゆたか）　教授

担当科目	情報経済論A/B、演習
研究テーマ	契約理論、理論的産業組織論、企業の理論、ゲーム理論の応用。
主要業績	①“An Incomplete Contract Approach to Eurozone Fiscal Governance” ― Commitment vs. Flexibility ― with Y. Tsuranuki, International Economic Journal 31(2) 297-309, 2017 May. ②「イノベーションマネジメント- 不完備契約分析」『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』（田村晶子編）法政大学比較経済研究所研究シリーズNo.32 日本評論社 2017年 ③『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』（鈴木豊編）法政大学比較経済研究所研究シリーズNo.25 法政大学出版局 2010年
学生へのメッセージ	これまでに得た研究成果や知見を、学部や大学院での教育・研究に生かして行けたらと思っています。

ROBERT STROUD（ロバート ストラウド） 准教授

担当科目	英語、English CommunicationⅠA/B、English CommunicationⅡA/B、総合講座Ⅰ、演習
研究テーマ	タスク中心教授法(TBLT)， エンゲージメント， コンピューター支援型語学学習(CALL)
主要業績	①Stroud, R. (2013). Increasing and Maintaining Student Engagement during TBL. Asian EFL Journal, 59, 28-57. ②Stroud, R. (2015). An Examination of Student Preferences for Pre-Discussion Planning. In P. Clements, A. Krause and H. Brown (Eds.), JALT 2014 Conference Proceedings. Tokyo JALT, 184-192. ③Stroud, R. (2017). The impact of task performance scoring and tracking on second language engagement, System, 69, 121-132.
学生へのメッセージ	If you think you can do a thing, or think you can't do a thing; you're right. （本人ができると思えばできる。できないと思えばできない。どちらにしてもその人が思ったことは正しい） - Henry Ford

砂田 充（すなだ みつる） 教授

担当科目	企業と経済・基礎B、企業経済論A/B、経営学A/B、演習
研究テーマ	産業組織論，企業経済学，応用ミクロ経済学
主要業績	①"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36, Number3, pp. 179-206, August 2012. ②"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi, Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada). ③"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.
学生へのメッセージ	日本が直面する複雑な社会・経済問題を理解するためのツールとしての「経済学」の重要性が高まっています。皆さんチャンスです。

石 碩（せき ますみ） 准教授

担当科目	中国語、世界の文学A/B、演習
研究テーマ	中国古典詩文、中国文化、中国語
主要業績	①『朱熹絶句全譯注』第五冊（共著、汲古書院、2015年） ②「『李白と謝朓』再考――『澄江浄如練』の受容と展開」（『日本中国学会報』第68集、2016年） ③「從李白到謝朓：當塗青山的文學地理景觀考察」（『新国学』第14集、2017年）
学生へのメッセージ	中国を理解するためには、歴史・地理・文化・社会・言語など、様々な方面からのアプローチが必要です。日本との共通点・相違点を念頭に置きながら、中国についてじっくり考えてみましょう。大学四年間で多くの疑問を抱き、徹底的に探求して欲しいと願っています。

JESS DIAMOND（ジェス ダイヤモンド） 准教授

担当科目	英語で学ぶ経済学入門A/B、Practical EconomicsA/B、 Principles of Economics A/B、演習
研究テーマ	マクロ経済学、ファイナンス、労働経済学
主要業績	①「コーポレート・ガバナンスと人事戦略」（星岳雄との共著）『日本企業のコーポレート・ガバナンスと人事戦略』（JILPT資料シリーズNo. 97）、2012年2月、労働政策研究・研修機構。 ②“Self-Employment in Japan: A Microanalysis of Personal Profiles,” with Ulrike Schaede, 2013. Social Science Japan Journal. ③“Employment Status Persistence in the Japanese Labor Market,” 2016. Forthcoming in The Japanese Economic Review.
学生へのメッセージ	グローバルに活躍できるように基礎から一緒に学んでいきましょう。

高橋（たかはし） 秀朋（ひでとも） 准教授

担当科目	金融論A/B、金融各論ⅠA/B、演習
研究テーマ	証券市場のマーケットマイクロストラクチャー
主要業績	①“Short-sale inflow and stock returns: Evidence from Japan,” 2010. Journal of Banking and Finance 34, 2403-2412. “ ②“The Effect of Bank-firm Relationships on Sell-side Research,” 2014. Journal of Financial Services Research 46, 195-213. ③“Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225,” with Peng Xu, 2016. forthcoming in Journal of Financial Markets.
学生へのメッセージ	大学での４年間、有意義な時間を過ごしてください。

竹口（たけぐち） 圭輔（けいすけ） 教授

担当科目	財務諸表論A/B、演習
研究テーマ	株式報酬会計と企業評価
主要業績	①「日本企業によるストック・オプションの費用計上と価値関連性」『會計』第186巻第2号、2014年8月 ②共著「子会社役員などへの親会社ストック・オプション付与と子会社関係」『日本経済研究』No.67、2012年7月 ③「株式報酬型ストック・オプションと株式市場の評価」、伊藤邦雄編著『企業会計研究のダイナミズム』中央経済社、2012年5月
学生へのメッセージ	何ごとにもビジョンとこだわりをもって取り組んでください。

武田（たけだ）　浩一（こういち）　教授

担当科目	金融論A/B、金融各論ⅡA/B、金融ビジネス論A/B、企業実務研究A/B、演習
研究テーマ	金融の応用ミクロ経済分析
主要業績	①“Preemptive Surrenders and Self-Fulfilling Life Insurance Crises,” Journal of International Economic Studies, 25, 49-62, 2011. ②「日本国債の安定市中消化の持続可能性：金融機関による大量保有と金利上昇リスク」『選好と国際マクロ経済学』宮崎憲治編著、法政大学出版局、133-147、2012年（共著）. ③「インフレ予想が個人投資家の株式保有比率に与える影響：インターネットアンケート調査より」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会、第54巻第10号、78-87、2016年（共著）
学生へのメッセージ	大学での「自由な四年間」は、人生においてとても貴重な時間です。よく遊びよく学んで、一生の財産となるような経験を在学中に一つでも多く積めるように心がけてください。

竹田（たけだ）　茂夫（しげお）　教授

担当科目	現代経済学基礎A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	経済理論
主要業績	①『信用と信頼の経済学』NHK出版、2001年 ②『思想としての経済学』青土社、2001年 ③『ゲーム理論を読みとく』ちくま新書、2004年
学生へのメッセージ	大学で経済学を勉強しても金儲けの役に立たない、世間で通用する資格もとれない、勉強の仕方によっては市場原理しか知らない偏狭な人間になる。それでは、なんのために勉強するのか。

武智（たけち）　一貴（かずたか）　教授

担当科目	本年度在外研究員のため担当科目なし
研究テーマ	直接投資、M&A、貿易コストの実証分析及び貿易政策の理論分析
主要業績	①Exaggerated death of distance: Revisiting distance effects on regional price dispersions (with Kano and Kano), Journal of International Economics 403-413, 90, 2013. ②What is driving the manufacturing FDI wave in Asia? Review of Development Economics15, 33-47, 2011. ③Firm Organizational Heterogeneity and Market Structure: Evidence from the Japanese Pesticide Market (with Keisaku Higashida), International Journal of Industrial Organization, 30, 193-203, 2012.
学生へのメッセージ	Find the torture you are comfortable with (Jerry Seinfeld)

田中（たなか）　優希（ゆうき）　准教授

担当科目	簿記ＩＡ、入門ゼミ、演習
研究テーマ	財務会計、環境会計、社会的責任投資、排出量取引制度、資産除去債務
主要業績	①「環境報告書継続開示と株主資本コストの関係について」『企業会計』、中央経済社、第 63 巻第 10 号、2011 年 10 月。 ②「温室効果ガス排出量の自発的開示と株主資本コスト」『一橋大学日本企業研究センター編　日本企業研究のフロンティア』、第8巻、2012年3月。
学生へのメッセージ	会計は、世界中で使われている「言語」です。知れば社会の仕組みを読み取ることができ、人生を通じた武器にもなれば、誰かを守る盾にもなります。是非身につけて卒業してください。

田村（たむら）　晶子（あきこ）　教授

担当科目	本年度国内研究員のため担当科目なし
研究テーマ	国際経済学、マクロ経済学、応用計量経済学
主要業績	①“Bilateralism and Regionalism in Japanese and U.S. Trade and Direct Foreign Investment Patterns,” with Jonathan Eaton, Journal of the Japanese and International Economies, 8: 478-510, 1994. ②「日本のビザ政策と旅行収支」（胥鵬との共著），武智一貴編『市場取引の多様性と制度の応用経済分析』，日本評論社，2013年 ③『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』（編著）日本評論社 2017年
学生へのメッセージ	SA留学や派遣留学により、海外で活きた国際経済を学んでくる学生が増えてきています。多くの学生が、自由な時間がある大学生の時期に海外の実際に触れて、将来、海外で活躍の場を見つけてくれると嬉しいです。

田村（たむら）　理香（りか）　教授

担当科目	英語、Modern novelA/B、演習
研究テーマ	アメリカ文学、アメリカ文化
主要業績	①　「人種問題に関するWilliam Faulknerの発言をめぐって」、『法政大学多摩論集』第31巻、2015年 ②　アメリカの名演説　リスニング・テキスト』、『アメリカの名演説　リーデング・テキスト』、研究社、2010年（共著） ③　デビッド・ヴァイス、マーク・マルシード著『Google誕生』、イースト・プレス、2006年　（翻訳）
学生へのメッセージ	“When I think about how I understand my role as citizen, setting aside being president, and the most important set of understandings that I bring to that position of citizen, the most important stuff I’ve learned I think I’ve learned from novels.”(Barak Obama) 頭の皺も心の襞もたくさん作ってください。

張（ちょう）　欣（きん）　教授

担当科目	中国語、中国語コミュニケーション中級A/B、総合講座Ⅰ、演習
研究テーマ	中国近現代文学、華人文学
主要業績	①「龍応台作品における離散とポストメモリー」、『越境する中国文学』所収、東方書店、2018年1月 ②「魯迅図書館与越南村」、『書城』第132期、2017年5月 ③「梅娘与満洲文壇」、『偽満洲国文学研究在日本』所収、北方文芸出版社、2017年1月
学生へのメッセージ	読万巻書、行万里路

寺内（てらうち）　正典（まさのり）　教授

担当科目	Academic Reading and InteractionA/B、Academic Research SeminarA/B、 言語学A/B、演習
研究テーマ	認知心理言語学、第２言語統語処理、第２言語談話処理、第２言語習得
主要業績	①『応用言語学事典』(2003) 編著 (研究社) ②『言語科学の百科事典』(2006) 編著 (丸善) ③『英語教育学の実証的研究入門』(2012) 編著 (研究社)
学生へのメッセージ	授業では、最新の認知科学や言語科学などの研究成果に基づき、学生個々人の学習者要因を考慮し、一人一人の英語運用能力の効率的で効果的な習得を丁寧に支援していきます。「白色、白光、青色、青光！」まず自分の持つ良さ、素晴らしさを探してみませんか。

冨永（とみなが）　靖敬（やすたか）　准教授

担当科目	国際関係論A/B、政治学A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	国際関係論、国際安全保障、計量政治
主要業績	①“Killing Two Birds with One Stone? Examining the Diffusion Effect of Militant Leadership Targeting,” forthcoming, International Studies Quarterly, 2018. ②“There’s no place like home! Examining the Diffusion of Suicide Attacks through Terrorist Group Locations,” online first, Applied Spatial Analysis and Policy, 2017. ③“Exploring the Economic Motivation of Maritime Piracy,” online first, Defence and Peace Economics, 2016.
学生へのメッセージ	政治・経済にかかわらず、単に知識を習得するだけでなく、現象のメカニズムを客観的に捉え、分析する科学的なプロセスを大事にしてほしいと思っています。

永岡（ながおか）　文庸（ふみよう）　教授

担当科目	企業経営入門A/B、企業経営論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	経営（マネジメント）の本質、知的財産権、経営者
主要業績	①「経営入門　28講」(俯瞰工学研究所　　2012年) ②『経営者は闘う』(日本経済新聞出版社、2004年) ③『ゼミナール現代企業入門』(共著、日本経済新聞社編、1995年)
学生へのメッセージ	「問題を解決しようとするな。どんな稚拙な手段でもいいから、乗り切れ」(ドラッカー)

中谷（なかたに）　安男（やすお）　教授

担当科目	英語、Business Research Seminar A/B、 Academic Writing and Interaction A/B、演習
研究テーマ	応用言語学、国際ビジネスコミュニケーション
主要業績	①Identifying strategies that facilitate EFL learners' oral communication: A classroom study using multiple data collection procedures. The Modern Language Journal,Vol.94, pp.116-136. Blackwell Publishers.(2010) ②『大学生のためのアカデミック英文ライティング』 大修館書店得(2016) ③Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan. Kinseido (2015)
学生へのメッセージ	大きな夢に向って励んでください。Be Ambitious！

長原（ながはら）　豊（ゆたか）　教授

担当科目	経済史A/B、日本経済史A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	経済史、経済史方法論、社会思想
主要業績	①「〈68年〉後に、政治経済学においてマルクス主義者であること－－あるいは「マルクス経済学」にとって唯一の真理とは、じつは何であったか」市田良彦・王寺賢太編『〈ポスト68年〉と私たち』(京都大学人文科学研究所　研究成果報告書) 平凡社、2017 ②「歴史という言説装置」『現代思想』45(11)、2017
学生へのメッセージ	ある一点をこえるともう戻る道はない。そのような点に到達すべきなのだ。(カフカ)

倪　彬（にい　びん）　准教授

担当科目	Japan and the Global Economy A/B、International Economics A/B、 入門ゼミ、演習
研究テーマ	国際貿易、外国直接投資、開発経済、環境経済
主要業績	①“The Origin of FDI and Domestic Firms' Productivity—Evidence from Vietnam.” Journal of Asian Economics. Vol. 52: 56-76. 2017年、共著 ②“How Effective Are Investment Promotion Agencies? Evidence from China.” The Japanese Economic Review. Vol. 68, No. 2: 232-243. 2017年、共著 ③“Are Investment Promotion Agencies Doing the Thing Right? Evidence from China.” Economics Bulletin. Vol. 36, No. 3: A131-143. 2016年、単著
学生へのメッセージ	現代社会をバランスよく見渡すために、経済学的な視点に加えて、論理的に物事を考える習慣を身につけて欲しいと思っています。また先入観を捨てて、様々な背景・文化・価値観を持っている方々と交流を深めてもらいたいです。Stay hungry, stay foolish。

西澤　栄一郎（にしざわ　えいいちろう）　教授

担当科目	環境政策論A/B、農業経済論A/B、演習
研究テーマ	欧米の環境政策、農業環境問題
主要業績	①『環境政策史―なぜいま歴史から問うのか―』（喜多川進と共編）ミネルヴァ書房, 2017. ②Agri-environmental Policies of Japan and Shiga Prefecture, Journal of International Economic Studies, Hosei University, No.29, 2015. ③『農業環境政策の経済分析』（法政大学比較経済研究所と共編）日本評論社, 2014.
学生へのメッセージ	“Hic Rhodus, hic saltus”「ここがロドスだ、ここで跳べ」（ヘーゲル『法の哲学』）

新田　誠吾（にった　せいご）　教授

担当科目	ドイツ語、ドイツ語セミナーA/B、演習
研究テーマ	19世紀末から20世紀初頭のドイツ文学、ドイツ語教育法
主要業績	① Manga-Boom in Deutschland – Ein Dialog mit der japanischen Popkultur? In: Transkulturalität: Identitäten in neuem Licht. Asiatische Germanistentagung Kanazawa 2008. Hrsg. von Ryozo Maeda, 2012, München (iudicium). ②「リヒャルト・デーメルの『女と世界』― イーダをめぐる恋愛」（『法政大学多摩論集』第34巻、2018年） ③『学習者中心の外国語教育をめざして』（共著、2004年、三修社）
学生へのメッセージ	ドイツ語圏への派遣留学を志望する人に助言や指導を行っています。

朴（ぱく）　倧玄（ちょんひょん）　教授

担当科目	本年度在外研究員のため担当科目なし
研究テーマ	韓国の大衆文化論と国際的都市システム論
主要業績	①『韓日企業のアジア進出からみたアジアの国際的都市システム』古今書院、2006 ②『東アジアの企業・都市ネットワーク』古今書院、2001 ③「貨物流通からみた九州地方の地域的都市システム」経済志林、2009
学生へのメッセージ	「大学は勉強する空間です」

橋本（はしもと）　到（いたる）　教授

担当科目	フランス語、フランス語セミナーA/B、世界の文化と思想A/B、演習
研究テーマ	フランス十八世紀文学、フランス語セミナー、思想
主要業績	①論文　サドの小説『ガンジュ侯爵夫人』が表象するもの、フランス語フランス文学研究第67号、日本フランス語フランス文学会、1995年 ②論文　浮かび上がる新たなサドの相貌–サド批評の動向と展望、季刊『文学』第５巻・第４号、岩波書店、1994年 ③『サド全集第六巻　恋の罪、壮烈悲惨物語』翻訳・解説、水声社、2011年
学生へのメッセージ	時流に流されず、物を見る的確な知力と感性を養い、かつ、地道な努力を重ねることの大切さをしっかり学んでください。卒業後も自らの生き方を切り開く際に、それは大きな助けになってくれるでしょう。

馬場（ばば）　敏幸（としゆき）　教授

担当科目	データで知る世界経済A/B、現代アジア経済論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	アジア経済、サポーティング産業、開発経済、技術移転、科学技術政策
主要業績	①『アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ』　ナカニシヤ出版, 2013 ②『アジアの裾野産業：調達構造と発展段階の定量化および技術移転の観点より』　白桃書房, 2005 ③「自動車産業とサポーティング産業」『現代インド･南アジア経済論』第8章,　ミネルヴァ書房, 2011
学生へのメッセージ	高校までと大学で何が変わるのだろう？答えはいくつもあるだろうけれど、あらかじめ定められた課題と答が与えられるスタイルから、自ら考え答なき問いを探求するスタイルへの転換も大きな変化です。国際経済の世界も問題はいくつもあって答が無い事ばかりです。自分なりの興味でいいので、是非何かテーマを見つけ探求してみてはどうでしょうか。

濱秋　純哉（はまあき　じゅんや）　准教授

担当科目	経済政策論A/B、演習
研究テーマ	家計行動のミクロ計量分析
主要業績	①上野綾子・濱秋純哉，2017年，「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金，労働時間，離職率に与えた影響」，『医療経済研究』，Vol.29，No.1，33－57頁。 ②Hamaaki，Junya，Masahiro Hori，Saeko Maeda，Keiko Murata，2013，“How does the first job matter for an individual's career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*，Vol. 29，pp.154-169. ③Hamaaki，Junya，Masahiro Hori，Saeko Maeda，Keiko Murata，2012，“Changes in the Japanese employment system in the two lost decades,” *Industrial and Labor Relations Review*，Vol. 65，No. 4，pp.810-846.
学生へのメッセージ	自分で将来の選択肢を狭めずに，やりたいことに思い切ってチャレンジできる強さを養いましょう。本気で取り組めば，将来の可能性は無限大に広がっています。

原　伸子（はら　のぶこ）　教授

担当科目	社会経済学応用A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	経済理論、経済学説史、ジェンダー経済学
主要業績	①単著『ジェンダーの政治経済学―福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。 ②共編著『現代社会と子どもの貧困―福祉と労働の視点より』大月書店、2015年。 ③共編著『福祉国家と家族』法政大学出版局，2012年。
学生へのメッセージ	社会の諸問題を批判的に分析する力を身につけてください。

平瀬　友樹（ひらせ　ともき）　准教授

担当科目	経済学史A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	マクロ経済理論形成史
主要業績	①「ヴィクセル的累積過程のモデル分析」　『経済論叢』（京都大学）第177巻　第5・6号　58ページ～70ページ　2006年 ②「ミュルダール「貨幣的均衡」分析」　『調査と研究』（京都大学）第28号　56ページ～72ページ　2004年
学生へのメッセージ	多摩キャンパス？「住めば都」ですよ。

廣川（ひろかわ） みどり 教授

担当科目	ビジネス数学入門A/B、財政学A/B、演習
研究テーマ	制度の形成についてのミクロ的基礎
主要業績	①"The Equivalence of the Cost Share Equilibrium and the Core of a Voting Game in a Public Goods Economy," *Social Choice and Welfare*, Vol.9, No.1, pp.63-72, 1992 ②「公共財供給の制度設計 － 多数決による決定」船木由喜彦・石川竜一郎（編）『制度と認識の経済学』第3章（pp.109-147）、NTT出版、2013年 ③「多数決による公共財費用分担の決定 －－－ 地方公共財の共同運営」船木由喜彦，中山幹夫，武藤滋夫（編）『ゲーム理論アプリケーションブック』第3章（pp.45-68）、東洋経済新報社、2013年
学生へのメッセージ	大学での勉強は、与えられたパッケージをこなすものではなく、自分で選んでいくものとなります。卒業後のなりたい自分をイメージし、自分の学生生活をデザインしてください。みなさんが「経済学に触れる瞬間」に立ち会いたいと思っています。

ブー・トウン・カイ 教授

担当科目	国際経済論A/B、国際金融論A/B、演習
研究テーマ	開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、東アジアの貿易構造と経済相互依存
主要業績	①"Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24、Issue 2, pp.38- 149, 2012 (with Etsuro Shioji). ②「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」，『アジア太平洋研究』第39巻，pp.149-162, 2014年. ③"Oil price fluctuations and the small open economies of Southeast Asia: An analysis using vector autoregression with block exogeneity," forthcoming in the Journal of Asian Economics (with Hayato Nakata).
学生へのメッセージ	大学の四年間を楽しく有意義に過ごしてください。

藤沢（ふじさわ） 周（しゅう） 教授

担当科目	本年度担当科目なし
研究テーマ	近・現代日本文学、現代小説創作
主要業績	①小説『ブエノスアイレス午前零時』（第119回芥川賞受賞・1998・河出書房新社） ②小説『武曲』（2012・文藝春秋） ③小説『サラバンド・サラバンダ』（2016・新潮社）
学生へのメッセージ	人間は遊びをせんとや生まれけん。ならば、世界の襞をさらにとらえる感受性と想像力が鍵となる。遊べ。学べ。悩め。読め。書け。

藤田（ふじた） 貢崇（みつたか） 教授

担当科目	物理学A/B、自然科学特講、総合講座Ⅰ、総合講座Ⅱ、演習
研究テーマ	科学ジャーナリズム、物理学教育
主要業績	①「徹底検証！福島原発事故　何が問題だったのか」　化学同人 ②「ウェブサイト“Nature Video”を用いた科学コミュニケーションの取り組み：ゼミナールでの活動報告」　法政大学多摩研究報告 31号 2016年 ③「137億光年の宇宙論」　朝日新聞出版
学生へのメッセージ	常に多面的に世界を見つめ、真実や真理を見極めるとともに、多様な考え方を身につけてください。

古澤（ふるさわ） 直人（なおと） 教授

担当科目	本年度国内研究員のため担当科目なし
研究テーマ	日本中世国家史、法制史、地域史
主要業績	①『鎌倉幕府と中世国家』（単著、校倉書房　1991年） ②「和田合戦と横山時兼」（『法政大学多摩論集』23号、2007年） ③「平治の乱における源義朝謀反の動機形成」『経済志林』80-3、2013年
学生へのメッセージ	混沌としたこの時代にこそ、我々の歴史をふり返り、バランスのとれた次の行動の指針としたい。歴史は面白いよ。

牧野（まきの） 文夫（ふみお） 教授

担当科目	日本経済論A/B、演習
研究テーマ	日本と中国の経済発展
主要業績	① Lewisian Turning Point in the Chinese Economy, Palgrave, 2014 (eds.)。 ②『アジア長期経済統計3　中国』東洋経済新報社、2014年（共編著）。 ③『中国経済入門』第4版、日本評論社、2016年（共編著）。
学生へのメッセージ	挑戦する精神する精神を失わないこと！

松波（まつなみ）　淳也（じゅんや）　教授

担当科目	環境経済論A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	環境経済学、理論経済学、循環資源の経済学
主要業績	①「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」,『経済志林』第72巻4号, 法政大学経済学部, 2005年. ②「国際的循環型社会形成の可能性」,『大原社会問題研究所雑誌』No.580, 法政大学大原社会問題研究所, 2007年３月号. ③（共著）『環境と資源の経済学』, 勁草書房, 2007年.
学生へのメッセージ	明日できることは今日するな。

松野（まつの）　響（とよみ）　准教授

担当科目	心理学A/B、演習
研究テーマ	ヒトやヒト以外の動物の視知覚認識
主要業績	①Color classification in chimpanzees (*Pan troglodytes*) in a matching-to-sample task , *Behavioural Brain Research*, 2004, vol.148, 157-165. ②霊長類の視知覚への比較認知科学的アプローチ, 動物心理学研究, 2008, vol. 58, 45 - 50. ③A comparative psychophysical approach to visual perception in primates. *Primates*, 2009, vol. 50, 121-130.
学生へのメッセージ	わかりやすい、ということを疑ってください。わかりやすい情報には必ず欺瞞があります。世界のわかりにくさを、深く学んでください。

宮﨑（みやざき）　憲治（けんじ）　教授

担当科目	計量経済学A/B、演習
研究テーマ	マクロ経済学、ファイナンス理論、計量経済学
主要業績	①Hiroshi Gunji and Kenji Miyazaki (2017) “Why do Japanese women work so much less than Japanese men? A business cycle accounting approach,” *Japan and the World Economy*, Vol. 42, pp. 45-55. ②Gunji, H., and K. Miyazaki (2011) Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. ③Miyazaki, K., K. Nishimura, and M. Saito (2009) “Incomplete Financial Markets, Irreversibility of Investment, and Fiscal and Monetary Policy Instruments,” *Japanese Economic Review*, Vol, 60(3), 271-301.
学生へのメッセージ	経済学は人々が幸せになるために制度や仕組みを考える, とても面白い学問です. 最初は大変かもしれませんが4年かけて是非学んでください.

宮脇（みやわき） 典彦（のりひこ） 教授

担当科目	統計学B、データ解析入門A/B、数理統計学A/B、演習
研究テーマ	経営統計学、データ解析、経営科学
主要業績	①『実践的コンピュータ入門 ── Windowsとインターネット（新版）』（共著）、有斐閣、2008年 ②『SASによるデータ解析の基礎』（1997年）、『Excelによるデータ解析の基礎（改訂版）』（2004年）、『SPSSによるデータ解析の基礎（改訂版）』（2011年）（すべて共著、培風館） ③『実践コンピューターリテラシー入門』（共著）、実教出版、2013年
学生へのメッセージ	もう30年以上も前になりますが、大学時代はあまり真面目に勉強しない学生でした。それでも研究室やサークルで共に活動したそのときの友人たちとは、今も親しく付き合っています。人生の幅を広げるために、有意義な学生生活を過ごしてください。

明城（みょうじょう） 聡（さとし） 准教授

担当科目	経済データ分析A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	実証産業組織論、応用統計学、計量経済学
主要業績	①“On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available,” International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012. ②“Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan,” Journal of the Japanese and International Economies, Vol.47, 2017. ③『八幡・富士製鐵の合併(1970)に対する定量的評価』, 東京大学経済学論集, 第76巻第1号, pp.75-107, 2010.
学生へのメッセージ	大学生の期間は人生の中で色々な新しい経験を積むことのできる貴重な時間です。目標に向かう道は1本でなく様々な経路があることを学んで下さい。

森田（もりた） 裕史（ひろし） 准教授

担当科目	英語で学ぶ経済学入門A/B、マクロ経済学A/B、演習
研究テーマ	日本のマクロ経済に関する経済分析（金融財政政策の効果、外的ショックと景気循環）
主要業績	① "An Equilibrium Foundation of the Soros Chart," (joint work with Takashi Kano) *Journal of the Japanese and International Economies *Vol.37 September, pp.21-42, 2015. ②- "Fiscal sustainability and regime shifts in Japan," (joint work with Jun-Hyung Ko) *Economic Modelling *Vol.46 April, pp.364-375, 2015. ③- "State-Dependent Effects of Fiscal Policy in Japan: Do Rule-of-thumb Households Increase the Effects of Fiscal Policy?" *Journal of Macroeconomics *Vol.43 March, pp.49-61, 2015.
学生へのメッセージ	4年あれば、どんなことでも出来るようになります。 しっかりと努力して、有意義な大学生活を送りましょう。

山崎（やまざき） 達朗（たつろう） 教授

担当科目	英語、Academic Research Seminar A/B、TOEIC Preparation A/B、演習
研究テーマ	英語学、社会言語学
主要業績	① NHK NEWSLINE (DVDなど23巻シリーズ), 金星堂, 1992－2018 ② “A Case for Teaching Latin Etymology with a Communicative Component,” in K. Bradford-Watts et. al. (Eds.) JALT 2005 Conference Proceedings. Tokyo: JALT(全国語学教育学会). 2006 ③ “Semantic Awareness of Loan Words and Language Transfer by Japanese L2 Learners of English,” in Chinese & Japanese Scholars on Foreign Language Teaching & Alien Culture Comprehension, 上海外語教育出版社, 2000.
学生へのメッセージ	授業以外にも積極的に英語を聞くこと。ELLLO のインタビューや NHK World のニュースはお薦め。何を選ぶかも大切だが継続することが更に重要。

山崎（やまさき） 友紀（ゆき） 教授

担当科目	地球環境論A/B、化学A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	水を用いた機能性材料の開発、環境問題、こどもの理科教育、多摩の地域活性
主要業績	①山﨑友紀『地球環境学入門 第２版』、講談社、平成27年 ②山﨑友紀ほか『きっと好きになる化学のクイズ37』、講談社、平成23年 ③山崎友紀ほか『教採問題から読み解く理科−粒子・エネルギー編−』、オーム社、平成26年
学生へのメッセージ	経済学部の学生でも「化学」や「環境問題」を学び、実験研究もできます！「化学」の知識は、私たちの身のまわりにあるものの根源や、そのまわりで起こるさまざまな現象を理解するために大変役立ちます。なぜ？何？といった好奇心を持って様斬な事象を観察し、適確な判断力を養っていきましょう。

山田（やまだ） 快（かい） 准教授

担当科目	スポーツ総合A/B、演習
研究テーマ	スポーツチームの凝集性（まとまり）
主要業績	① The Effect of Unity in Sport Teams on Athletes’ Mental Health: Investigating the Mediating Role of Resilience. International Journal of Sport and Health Science, 15: 55-64, 2017. ② スポーツチームの一体感と組織風土との関係性―コミュニケーションを起点とした一体感向上へのアプローチ方法の検討―. スポーツ産業学研究, 24 : 113-127, 2014. ③ A Study of the Unity of Sports Teams: Development of a Scale and Examination of Related Factors. Journal of Physical Education and Sport, 13: 489-497, 2013.
学生へのメッセージ	この大学、学部での生活を有意義なものにするのは、皆さんの意識と取り組みです。 勉学だけでなく、良き師・友と共に多くの成功、失敗経験を重ねていってください。

山本（やまもと）　真鳥（まとり）　教授

担当科目	経済人類学A/B、文化人類学A/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	人類学、オセアニア地域の交換論、トランスナショナリズム
主要業績	①編著"Art and Identity in the Pacific: Festival of Pacific Arts." Osaka: JCAS, the National Museum of Ethnology, 2006年 ②共著（＋小谷汪之・藤田進）『土地と人間』有志舎、2012年 ③共編著（＋山田亨）『ハワイを知るための60章』明石書店、2013年
学生へのメッセージ	大学入学までに、勉強とはつまらないもの、したくないけどしなくちゃいけないもの、という風な思いこみに染まってしまっているのは残念。楽しく学びながら、目からウロコの経験ができるといいなと思います。質問待ってます。

湯前（ゆまえ）　祥二（しょうじ）　教授

担当科目	現代ファイナンス入門A/B、リスク・マネジメントA/B、入門ゼミ、演習
研究テーマ	コンピュテーショナル・ファイナンス、リスク管理
主要業績	①湯前, 鈴木 (2000), 『モンテカルロ法の金融工学への応用』(シリーズ＜現代金融工学＞ 6), 朝倉書店. ②Iwaki, Yumae (2004), "An efficient frontier for participating Policies in a Continuous-time Economy," Insurance: Mathematics and Economics, 35(3), 611-625. ③Tezuka, Murata, Tanaka, Yumae (2005), "Monte Carlo grid for financial risk management," Future Generation Computer Systems, 21(5), 811-821.
学生へのメッセージ	最適資産配分のライフサイクルモデルによれば、年齢が若いほど大きなリスクがとれます。皆さん、これを活かしてください。

JULIA（ジュリア）　YONGUE（ヨング）　教授

担当科目	英語、Business Communication ⅡA、演習（本年度秋学期のみ在外研修員）
研究テーマ	国際関係企業史、薬・医療史
主要業績	①Exploring the Rise of Big Pharma: A French-Inspired Model for the Global Vaccine Industry, in Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders, Bram Bowens, Pierre-Yves Donzé, Takafumi Kurosawa,(eds) Routledge International Studies in Business History, 2017. ②A Distinctive Nation: Vaccine Policy and Production in Japan, in The Politics of Vaccination: A Global History, Christine Holmberg, Stuart Blume, Paul Greenaugh (eds), Manchester University Press, March 2017, 209-235. ③Manabu Akazawa, Ph.D.; Julia Yongue, Ph.D.; Shunya Ikeda, MD, Ph.D.; Toshihiko Satoh, MD, Ph.D., "Considering Economic Analyses in the Revision of the Preventive Vaccination Law: A New Direction for Health Policy-Making in Japan?" Health Policy, (Nov. 2014).
学生へのメッセージ	夢と自恃（＝自分自身をたのみとすること）の念をもって！ Education is not the learning of facts but the training of the mind to think. Albert Einstein It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change. Charles Darwin

２．客員教授、兼担教授、兼担講師

教員名	身分	担当科目
マーサ チャイクリン	客員教授	比較経済システム論Ａ／Ｂ、Area Studies Ａ／Ｂ、 特別講義（グローバル 資本主義論Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ）
藤本　茂	兼担教授	労働法

３．兼任講師

教員氏名	教員氏名カナ	担当科目
青山　慎一郎	ｱｵﾔﾏ ｼﾝｲﾁﾛｳ	体育
浅谷　眞弓	ｱｻﾔ ﾏﾕﾐ	フランス語
安部 義治	ｱﾍﾞ ﾖｼﾊﾙ	英語
荒木　友嗣	ｱﾗｷ ﾕｳｼﾞ	英語
エレナ･アンドウ		英語
安藤　富貴子	ｱﾝﾄﾞｳ ﾌｷｺ	情報科目
家山　也寿生	ｲｴﾔﾏ ﾔｽｵ	フランス語
池田　雅美	ｲｹﾀﾞ ﾏｻﾐ	英語
石田　惣平	ｲｼﾀﾞ ｿｳﾍｲ	演習
磯部　芳恵	ｲｿﾍﾞ ﾖｼｴ	英語
板井　美佐	ｲﾀｲ ﾐｻ	日本語
市原　英	ｲﾁﾊﾗ ｽｸﾞﾙ	体育
稲森　広朋	ｲﾅﾓﾘ ﾋﾛﾄﾓ	スペイン語
岩田　由美子	ｲﾜﾀ ﾕﾐｺ	英語
岩橋　清美	ｲﾜﾊｼ ｷﾖﾐ	日本史、演習
尹 東燦	ｲﾝ ﾄｳｻﾝ	中国語
植村　直己	ｳｴﾑﾗ ﾅｵﾐ	体育
榎 透	ｴﾉｷ ﾄｵﾙ	日本国憲法
エバノフ 惠智子	ｴﾊﾞﾉﾌ ｴﾁｺ	英語
リチャード　エバノフ		英語
大垣　周子	ｵｵｶﾞｷ ｼｭｳｺ	コリア語
太田　啓子	ｵｵﾀ ｹｲｺ	世界史
大友　敏明	ｵｵﾄﾓ ﾄｼｱｷ	社会経済学基礎
岡﨑　加奈子	ｵｶｻﾞｷｶﾅｺ	政治過程論
尾形　幸子	ｵｶﾞﾀ ｻﾁｺ	中国語
小田井　勝彦	ｵﾀﾞｲ ｶﾂﾋｺ	英語
小山田　豊	ｵﾔﾏﾀﾞ ﾕﾀｶ	ドイツ語
柿原　直美	ｶｷﾊﾗ ﾅｵﾐ	英語
郭　偉	ｶｸ ｲ	中国語コミュニケーション、演習

教員氏名	教員氏名カナ	担当科目
金谷　博之	ｶﾅﾔ ﾋﾛﾕｷ	英語
金子 聡	ｶﾈｺ ｻﾄﾙ	情報科目
鎌田　明子	ｶﾏﾀ ｱｷｺ	英語
川邊　安彦	ｶﾜﾍﾞ ﾔｽﾋｺ	地域経済論
岸山　睦	ｷｼﾔﾏ ﾑﾂﾐ	英語
北岡　幸代	ｷﾀｵｶ ﾕｷﾖ	ドイツ語
金　淑卿	ｷﾑ ｽｸｷｮﾝ	コリア語
キム　ソヨン		演習
権　敬殷	ｸｫﾝ ｷｮﾝｳﾝ	民法一部、民法二部
楠　陽子	ｸｽﾉｷ ﾖｳｺ	英語
工藤　裕子	ｸﾄﾞｳ ﾕｳｺ	世界経済史
國本　眞由子	ｸﾆﾓﾄ ﾏﾕｺ	体育
窪寺　暁	ｸﾎﾞﾃﾞﾗ ｻﾄﾙ	演習
マルクス　グラスミュック		ドイツ語
倉持　貴文	ｸﾗﾓﾁ ﾀｶﾌﾐ	中国語
栗原　史郎	ｸﾘﾊﾗ ﾌﾐｵ	哲学
フィル　ケニー		英語
河野　俊哉	ｺｳﾉ ﾄｼﾔ	科学史
小宮　修太郎	ｺﾐﾔ ｼｭｳﾀﾛｳ	日本語
小室　廉太	ｺﾑﾛ ﾚﾝﾀ	フランス語
近藤　恵介	ｺﾝﾄﾞｳ ｹｲｽｹ	国際貿易論
近藤　佐保子	ｺﾝﾄﾞｳ ｻﾎｺ	情報科目
齋藤　範	ｻｲﾄｳ ｽｽﾑ	倫理学、哲学
斉藤　典明	ｻｲﾄｳ ﾉﾘｱｷ	情報科目
齋藤 正樹	ｻｲﾄｳ ﾏｻｷ	ドイツ語
坂口　周輔	ｻｶｸﾞﾁ ｼｭｳｽｹ	芸術、フランス語
坂部　創一	ｻｶﾍﾞ ｿｳｲﾁ	情報科目
笹久保　徹	ｻｻｸﾎﾞ ﾄｵﾙ	商法一部、商法二部
佐藤　佐知	ｻﾄｳ ｻﾁ	スペイン語
佐藤　正和	ｻﾄｳ ﾏｻｶｽﾞ	フランス語

教員氏名	教員氏名カナ	担当科目
佐藤　裕子	ｻﾄｳ ﾕｳｺ	ロシア語セミナー
カルロ　ジェームス		英語
島澤　諭	ｼﾏｻﾜ ﾏﾅﾌﾞ	現代経済学応用
ピーター　ジョン		英語
クレッグ　ジョンストン		英語
神藤　理恵	ｼﾞﾝﾄﾞｳ ﾘｴ	英語
菅原　正子	ｽｶﾞﾊﾗ ﾏｻｺ	日本思想史、日本文化史、日本史
杉山　文宏	ｽｷﾞﾔﾏ ﾌﾐﾋﾛ	体育
鈴木　五郎	ｽｽﾞｷ ｺﾞﾛｳ	英語
鈴木　茂	ｽｽﾞｷ ｼｹﾞﾙ	世界史
鈴木　秀美	ｽｽﾞｷ ﾋﾃﾞﾐ	中国語
積　惟美	ｾｷ ｺﾚﾖｼ	簿記
関塚　正嗣	ｾｷﾂﾞｶ ｼｮｳｼﾞ	論理学
攝津　斉彦	ｾｯﾂ ﾄｷﾋｺ	経済史
曹　海石	ｿｳ ｶｲｾｷ	国際政治論
宋 苑瑞	ｿﾝ ｳｫﾝｿ	地理学、演習
高根　広大	ﾀｶﾈ ｺｳﾀﾞｲ	英語
高橋　哲郎	ﾀｶﾊｼ ﾃﾂﾛｳ	英語
高橋　徹	ﾀｶﾊｼ ﾄｵﾙ	社会学
高橋　朋一	ﾀｶﾊｼ ﾄﾓｶｽﾞ	情報科目
高橋　信行	ﾀｶﾊｼ ﾉﾌﾞﾕｷ	情報科目
滝沢　玄	ﾀｷｻﾞﾜ ｹﾞﾝ	英語
田口 清一	ﾀｸﾞﾁ ｾｲｲﾁ	英語
橘 千早	ﾀﾁﾊﾞﾅ ﾁﾊﾔ	中国語
千葉　陽子	ﾁﾊﾞ ﾖｳｺ	体育
趙 怡	ﾁｮｳ ｲ	中国語
塚野　壽一	ﾂｶﾉ ﾋｻｶｽﾞ	英語
坪田　建明	ﾂﾎﾞﾀ ｹﾝﾒｲ	国際経済論
S.E.ティーターズ		英語
ロバート　デレザ		英語

教員氏名	教員氏名カナ	担当科目
土岐　康子	ﾄｷ ﾔｽｺ	ロシア語
時任　まり子	ﾄｷﾄｳ ﾏﾘｺ	スペイン語
ドローレス　ドメネック		スペイン語
豊田　典子	ﾄﾖﾀﾞ ﾉﾘｺ	英語
中尾　真子	ﾅｶｵ ﾅｵｺ	英語
永田　美喜子	ﾅｶﾞﾀ ﾐｷｺ	英語
永田　喜文	ﾅｶﾞﾀ ﾖｼﾌﾐ	英語
中村　佳代子	ﾅｶﾑﾗ　ｶﾖｺ	英語
長屋　房夫	ﾅｶﾞﾔ ﾌｻｵ	ロシア語
新村　隆英	ﾆｲﾑﾗ ﾀｶﾋﾃﾞ	情報科目
西尾　洋子	ﾆｼｵ ﾖｳｺ	英語
西村　敏也	ﾆｼﾑﾗ ﾄｼﾔ	民俗学
布川　恭子	ﾇﾉｶﾜ ｷｮｳｺ	ドイツ語
アラン　バーグマン		英語
キャシー　バード		英語
長谷川　悦宏	ﾊｾｶﾞﾜ ｴﾂﾋﾛ	哲学
濱田 博之	ﾊﾏﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ	人文地理学、地誌
浜崎　洋介	ﾊﾏｻｷ ﾖｳｽｹ	日本文化論、日本文学、文章表現、演習
原　芳生	ﾊﾗ ﾖｼｵ	地学、人文地理学
針貝　真理子	ﾊﾘｶﾞｲ ﾏﾘｺ	ドイツ語
スティーブン　ハリス		英語
G.A.バン　クリーブ		英語
檜野　智子	ﾋﾉ ﾄﾓｺ	企業と経済・応用、マクロ経済学、演習
平野　ゆかり	ﾋﾗﾉ ﾕｶﾘ	英語
グレン　ファーン		英語
福島　一矩	ﾌｸｼﾏ ｶｽﾞﾉﾘ	簿記、原価計算、管理会計
保坂　昌光	ﾎｻｶ ﾏｻﾐﾂ	英語
細矢　祐誉	ﾎｿﾔ ﾕｳｷ	ミクロ経済学
デボラ･ボリンジャー		英語
マイケル　マーフィ		英語

教員氏名	教員氏名カナ	担当科目
前之園　春奈	ﾏｴﾉｿﾉ ﾊﾙﾅ	フランス語
将邑　剣平	ﾏｻﾑﾗ ｹﾝﾍﾟｲ	中国語
増山 隆	ﾏｽﾔﾏ ﾀｶｼ	英語
町田　成男	ﾏﾁﾀﾞ ｼｹﾞｵ	英語
松下　晴彦	ﾏﾂｼﾀ ﾊﾙﾋｺ	英語
松田　修三	ﾏﾂﾀﾞ ｼｭｳｿﾞｳ	情報科目
松永　和子	ﾏﾂﾅｶﾞ ｶｽﾞｺ	人文地理学、地誌
松本　力	ﾏﾂﾓﾄ ﾂﾄﾑ	論理学
松谷　明美	ﾏﾂﾔ ｱｹﾐ	英語
間中　和歌江	ﾏﾅｶ ﾜｶｴ	英語
真野　千佳子	ﾏﾉ ﾁｶｺ	英語
丸岡　恵梨子	ﾏﾙｵｶ ｴﾘｺ	会計学入門、簿記、国際会計制度
水田　岳志	ﾐｽﾞﾀ ﾀｹｼ	国際経済論、演習
水野　浩幸	ﾐｽﾞﾉ ﾋﾛﾕｷ	体育
宮下　信一	ﾐﾔｼﾀ ｼﾝｲﾁ	体育
宮本 典以子	ﾐﾔﾓﾄ ﾃｲｺ	日本語
村井 三千男	ﾑﾗｲ ﾐﾁｵ	英語
妻鹿　裕子	ﾒｶﾞ ﾕｳｺ	英語
飯塚　陽介	ﾒｼﾂｶ ﾖｳｽｹ	企業経営史、演習
山浦　康明	ﾔﾏｳﾗ ﾔｽｱｷ	経済法
山形　亜子	ﾔﾏｶﾞﾀ ｱｺ	英語
ステラ　山﨑	ﾔﾏｻﾞｷ ｽﾃﾗ ﾒﾝﾃﾙ	英語
山高　美和	ﾔﾏﾀｶ ﾐﾜ	英語
山本　功	ﾔﾏﾓﾄ ｲｻｵ	国際ビジネス論
山本　厚子	ﾔﾏﾓﾄ ｱﾂｺ	英語
山本　ミッシェール	ﾔﾏﾓﾄ ﾐｯｼｪｰﾙ	英語
余語　毅憲	ﾖｺﾞ ﾀｹﾉﾘ	フランス語
横川　壽彦	ﾖｺｶﾞﾜ ﾄｼﾋｺ	情報科目
吉田 晴美	ﾖｼﾀﾞ ﾊﾙﾐ	英語
李　維涛	ﾘ ｲﾄｳ	中国語
李　素楨	ﾘ ｿﾃｲ	中国語

2018年度　オフィス・アワー実施曜日・時間・場所などについて（専任教員）

経済学部では、授業実施日に「オフィス・アワー」という時間帯をもうけています。この時間に、先生方は研究室等で学生の質問や相談にあたることになっています。

学生のみなさんが、気軽に研究室を訪ねて先生方とお話しができますので、是非積極的にご活用ください。
また、兼任教員につきましては、授業の開始前または終了後に教室で質問・相談を受け付けます。
※「オフィス・アワー」の時間に教員が急用などで不在の場合、研究室入口に掲示されているか確認して、事務室にお問い合わせください。

※「オフィス・アワー」の設定は、授業がある日のみになりますので、ご注意ください。

No.	氏　名	曜日	時　間	場　所	電　話	メール	備　考
1	飯野　厚	木	12:00～14:00	316研究室		iino@hosei.ac.jp	
2	池上　宗信	火	11:15～12:15	415研究室		munenobuikegami@hosei.ac.jp	
3	梅津　亮子	＊＊＊＊＊	※2018年度在外研究員				
4	大平　佳男	火	13:45～15:25	411研究室	042-783-2541	yoshio.ohira.75@hosei.ac.jp	
5	岡部　雅史	月	13:00～13:30	12号館(実験・研究棟) 4F 岡部研究室		okabe@hosei.ac.jp	質問・相談内容によって資料などの準備が必要になったり、急用などで不在の場合もありますので、事前に相談内容・質問内容・来室時間などをメールにて連絡することが望ましい。
6	奥山　利幸	月	12:40～13:30	313研究室	042-783-2523	tokuyama@hosei.ac.jp	
7	小黒　一正	水	13:00～13:30	518研究室			
8	小沢　和浩	火	13:30～15:00	510研究室		kozawa@hosei.ac.jp	事前にメールで知らせてください。
9	カレンガ・ゴイ・ジョン	火	13:30～15:00	319研究室		kalenga.n.john.24@hosei.ac.jp	事前にメールで知らせてください。
10	河村　哲二	月	昼休み(12:55～13:45)	603研究室	042-783-2593	kawamuratetsuji@hosei.ac.jp	質問・相談内容によっては準備の必要がある場合があります。 事前にメールで内容について簡単に知らせていただくと助かります。
11	河村　　真	水	昼休み(12:55～13:45)	406研究室			
12	菊池　道樹	水	13:30～15:00	311研究室		mikiku@hosei.ac.jp	事前にメールで予約をとってください。
13	岸　牧人	月	13:00～13:30	606研究室	042-783-2596	makito.kishi@hosei.ac.jp	
14	後藤　浩子	水	13:45～15:25	315研究室		hgoto@hosei.ac.jp	準備等の関係上、質問内容等を事前に連絡してください。
15	小林　克也	火	11:15～12:15	609研究室		kobayashi_hosei@yahoo.co.jp	オフィスアワー以外でも来ていただいても構いませんが、 確実に会いたい場合はメールでアポイントメントを取って下さい。
16	近藤　章夫	火	11:10～13:00	613研究室		kondo@hosei.ac.jp	不在のときがありますので、メールで事前予約をしてもらうと確実です。
17	酒井　正	火	13:30～14:30	507研究室		t.sakai@hosei.ac.jp	なるべく事前にメールで連絡ください。
18	坂本　憲昭	木	13:30～15:00	505研究室			質問や相談内容は準備のために，または，他曜日・他時間帯の希望は調整のために，研究室扉に連絡方法が書いてありますので利用してください。
19	佐柄　信純	火・水	昼休み(12:55～13:45)	419研究室		nsagara@hosei.ac.jp	
20	佐藤　良一	水	昼休み(12:55～13:45)	308研究室		ysato@hosei.ac.jp	水曜日以外はby appointment
21	篠原　隆介	月	14:10～15:10	304研究室		ryusukes@hosei.ac.jp	質問・相談内容は、メールで事前にお知らせいただければ、効率的かつ効果的に面会できます。
22	芝田　幸一郎	木	13:00～13:40	608研究室		shibata@hosei.ac.jp	他の曜限でも対応可能な場合があります。いずれにせよメールで事前予約をお願いします。
23	進藤　理香子	火	昼休み(12:55～13:45)	403研究室		rikako.shindo@hosei.ac.jp	相談内容を明記の上、事前にメールで面接日時を予約のこと。事情よっては他の曜日に対応可能なこともある。
24	胥　　鵬	月	13:30～15:00	418研究室		pxu@hosei.ac.jp	質問・相談内容は事前にメールにて知らせるように
25	菅　富美枝	木	12:45～13:25	506研究室			
26	菅　　幹雄	水	11:15～12:55	413研究室			
27	菅原　琢磨	月	昼休み(12:55～13:45)	305研究室		takuma_sugahara@hosei.ac.jp	質問・相談内容によっては準備の必要がある場合があります。 事前にメールで内容について簡単に知らせていただくと助かります。
28	杉浦　未樹	＊＊＊＊＊	※2018年度在外研究員			msugiura@hosei.ac.jp	
29	杉本　龍勇	火	12:40分～13:30				
30	鈴木　　豊	火	11:00～12:00	515研究室		yutaka@hosei.ac.jp	
31	ロバート・ストラウド	火	13:00～13:00	306研究室		robertstroud@hosei.ac.jp	
32	砂田　充	木	13:30～14:30	416研究室			
33	石　碩	火	13:00～14:00	409研究室		seki_shishuo@hosei.ac.jp	質問・相談内容を明記の上、事前にメールで面接日時を予約してください。
34	ジェス・ダイヤモンド	水	14:00～15:30	312研究室	042-783-2522	diamond@hosei.ac.jp	予めメールで、アポを取ることが望ましい。アポを取れば、指定の日時以外でも対応は可能。
35	高橋　秀朋	木	12:40～15:00	512研究室		htak@hosei.ac.jp	
36	竹口　圭輔	水	昼休み(12:55～13:45)	404研究室		takeguchi@hosei.ac.jp	
37	武田　浩一	火	昼休み(12:55～13:45)	520研究室		ktakeda.office@gmail.com	準備のため事前にご相談内容をメールでお知らせください。
38	竹田　茂夫	木	昼休み(12:55～13:45)	602研究室			
39	武智　一貴	＊＊＊＊＊	※2018年度在外研究員				
40	田中　優希	木	11:15～15:25	508研究室	042-783-2578	y.tanaka@hosei.ac.jp	
41	田村　晶子	＊＊＊＊＊	※2018年度国内研究員	605研究室	042-783-2595	atamura@hosei.ac.jp	

	氏　名	曜日	時　　間	場　　所	電　　話	メ ー ル	備　　考
42	田村　理香	木	昼休み（12:55～13:30）	511研究室	042-783-2561	rtamura@hosei.ac.jp	事前にメールにて連絡をお願いいたします。
43	張　欣	火	昼休み(12:55～13:45)	612研究室	042－783-2582	zhangxin@hosei.ac.jp	準備のため、相談内容を事前にメールでお知らせください。
44	寺内　正典	火	15:10～16:40	303研究室		terauchi@hosei.ac.jp	左記の時間以外や事前準備が必要な質問や相談内容の場合は、 事前連絡をしていただいた方がより適切な助言が可能になります。
45	冨永　靖敬	水	15:35～17:15	401研究室		y-tominaga@hosei.ac.jp	左記の時間以外は事前予約により対応します。
46	永岡　文庸	水	昼休み(12:55～13:45)	502研究室			
47	中谷　安男	月・木	12:45～13:30	317研究室		nakatani@hosei.ac.jp	
48	長原　豊	火・木	12:45～13:30	経済学部棟の「中庭」や地下食堂			昼の時間帯などに「中庭」でぶらぶらしています。地下食堂にもいます。ともあれ、発見したら声をかけてください。
49	倪　彬	水	16:00～17:00	514研究室		bin@hosei.ac.jp	事前にメールにて連絡をお願いいたします。
50	西澤　栄一郎	火	11:10～13:00	503研究室		nishizaw@hosei.ac.jp	
51	新田　誠吾	月	昼休み(12:55～13:45)・ 13:45～14:45	309研究室		nitta@hosei.ac.jp	左記時間以外にもできるだけ対応します。事前にメールで連絡をお願いします。
52	朴　　倧玄	＊＊＊＊＊	※2018年度在外研究員				
53	橋本　　到	木	16:45～17:45	414研究室	042-783-2544	gec01773@hosei.ac.jp	なるべく事前に相談・質問内容を簡単にメールで知らせてください。
54	馬場　敏幸	火	昼休み(12:55～13:45)	604研究室		bahoseiuniv@gmail.com	事前に相談・質問内容を簡単にメールで知らせてください。
55	濱秋　純哉	水	昼休み(12:55～13:45)	611研究室		hamaaki@hosei.ac.jp	事前にメールで予約を入れてください。予めメールをもらえれば，他の時間帯でも質問にお答えすることが可能です。
56	原　　伸子	木	13:30～14:30	617研究室	042-783-2587		
57	平瀬　友樹	火	昼休み(12:55～13:45)	618研究室		hirase@hosei.ac.jp	準備が必要な場合もあるので、メールでの事前連絡を希望します。
58	廣川　みどり	水	13:00～14:00	307研究室	042-783-2537	mhiro@hosei.ac.jp	質問・相談内容について、簡単でよいので、事前にメールで知らせてください。
59	ブー・トゥン・カイ	木	13:30～14:30	314研究室		vu.tuankhai@hosei.ac.jp	簡単でいいですが、事前に「面談したい」というメールでお知らせください。
60	藤沢　　周	＊＊＊＊＊	本年度担当科目なし	619研究室		shu-fuji@hosei.ac.jp	
61	藤田　貢崇	月	13:30～15:10	12号棟(研究・実験棟) 物理学（1）研究室	042-783-2080	m.fujita@hosei.ac.jp	
62	古澤　直人	＊＊＊＊＊	※2018年度国内研究員			nfurusawa@hosei.ac.jp	質問・相談内容によっては回答する準備があるので、 その内容について、事前連絡があると助かります。
63	牧野　文夫	月	昼休み(12:55～13:45)	519研究室		makino.hosei.office@gmail.com	質問・相談内容について、事前にメールにて知らせてください。
64	松波　淳也	火	12:40～13:30	513研究室		jmatnami@hosei.ac.jp	
65	松野　響	水	13:15～14:15	12号棟(研究・実験棟)3階 心理学研究室		toyomi.matsuno@hosei.ac.jp	他の人との面談時間の調整のため、できる限りメールにて事前連絡をしてください（事前連絡のあった人との面談を優先します）。
66	宮崎　憲治	月	昼休み(12:55～13:45)	614研究室			
67	宮脇　典彦	火	昼休み(12:55～13:45)	601研究室	042-783-2584	miyawaki@hosei.ac.jp	事前にメールで予約をとってください。
68	明城　聡	水	13:30～15:00	412研究室		myojo@hosei.ac.jp	
69	森田　裕史	月	11:10～12:40	408研究室	042-783-2558	morita-h@hosei.ac.jp	予めメールで、アポを取ることが望ましい。アポを取れば、指定の日時以外でも対応は可能。
70	山崎　達朗	火	4時限目(15:35～17:15)	405研究室	042-783-2555	yamazaki@hosei.ac.jp	事前に相談内容をメールして下さい。
71	山崎　友紀	水	11:30～13:00	12号棟(研究・実験棟) 化学研究室	042-783-2642	yyuki@hosei.ac.jp	事前にメールにて相談内容を明記し、予約をとってください。
72	山田　快	月	昼休み(12:55～13:45)	14号館(総合体育館) 2階講師室	042-783-2743	k-yamada@hosei.ac.jp	確実に会いたい場合は、事前にアポイントメントを取って下さい。
73	山本　真鳥	火	13:00～14:30	402研究室	042-783-2552	matoriy@hosei.ac.jp	水曜日11:30～13:00もメールにてアポをとれば可。 水曜日もアポをとれば、同じ時間帯で可。
74	湯前　　祥二	木	13:30～15:00	302研究室		yumae@hosei.ac.jp	質問・相談内容によっては準備の必要がある場合があります。 事前にメールで内容について簡単に知らせていただくと助かります。
75	ジュリア・ヨング	月	9:25～11:05 （2018年度秋学期在外研究員）	509研究室	042-783-2579	jyongue@hosei.ac.jp	

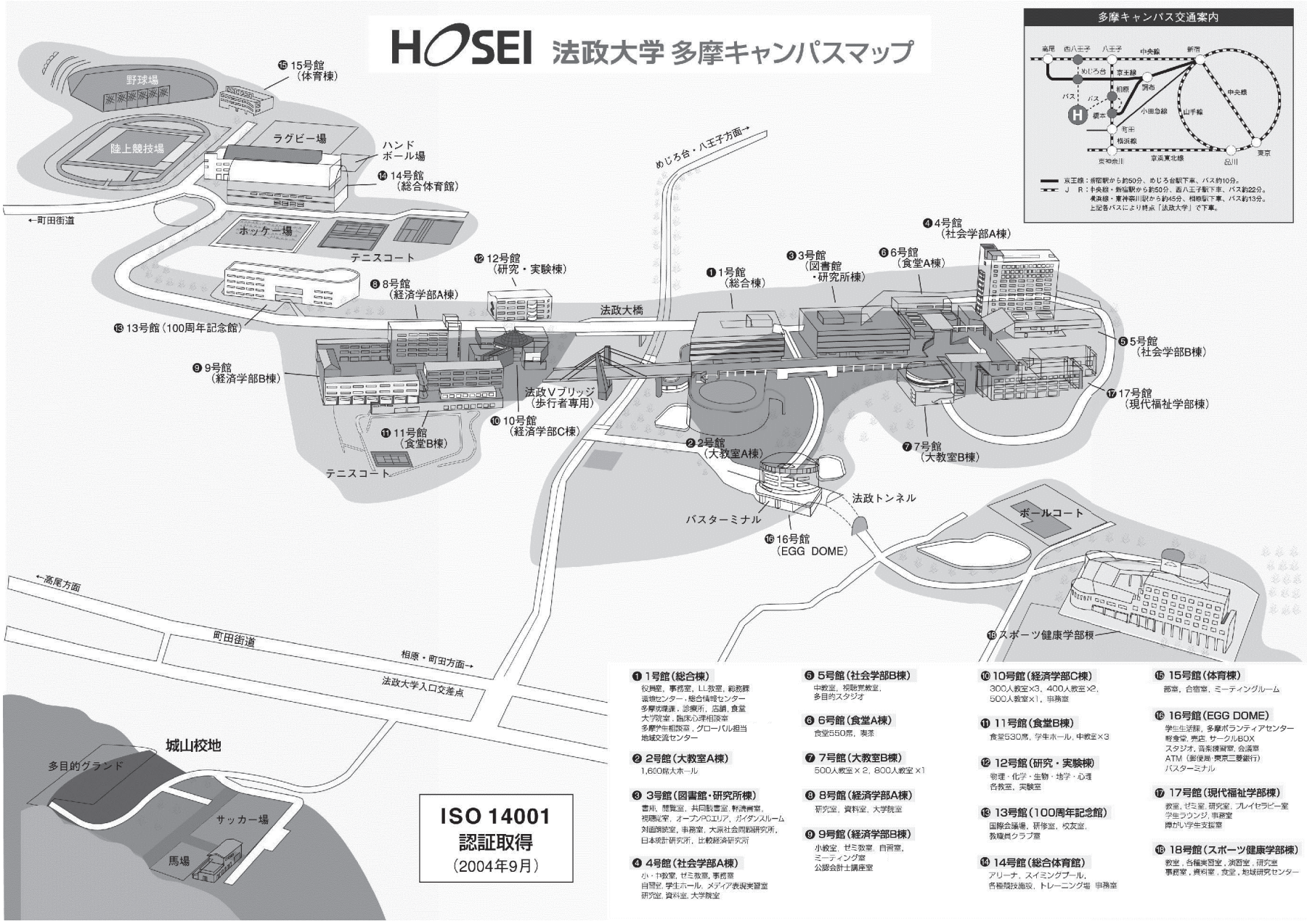
※「オフィス・アワー」の設定は、授業がある日のみになりますので、ご注意ください。

≪経済学部専任教員研究室一覧≫

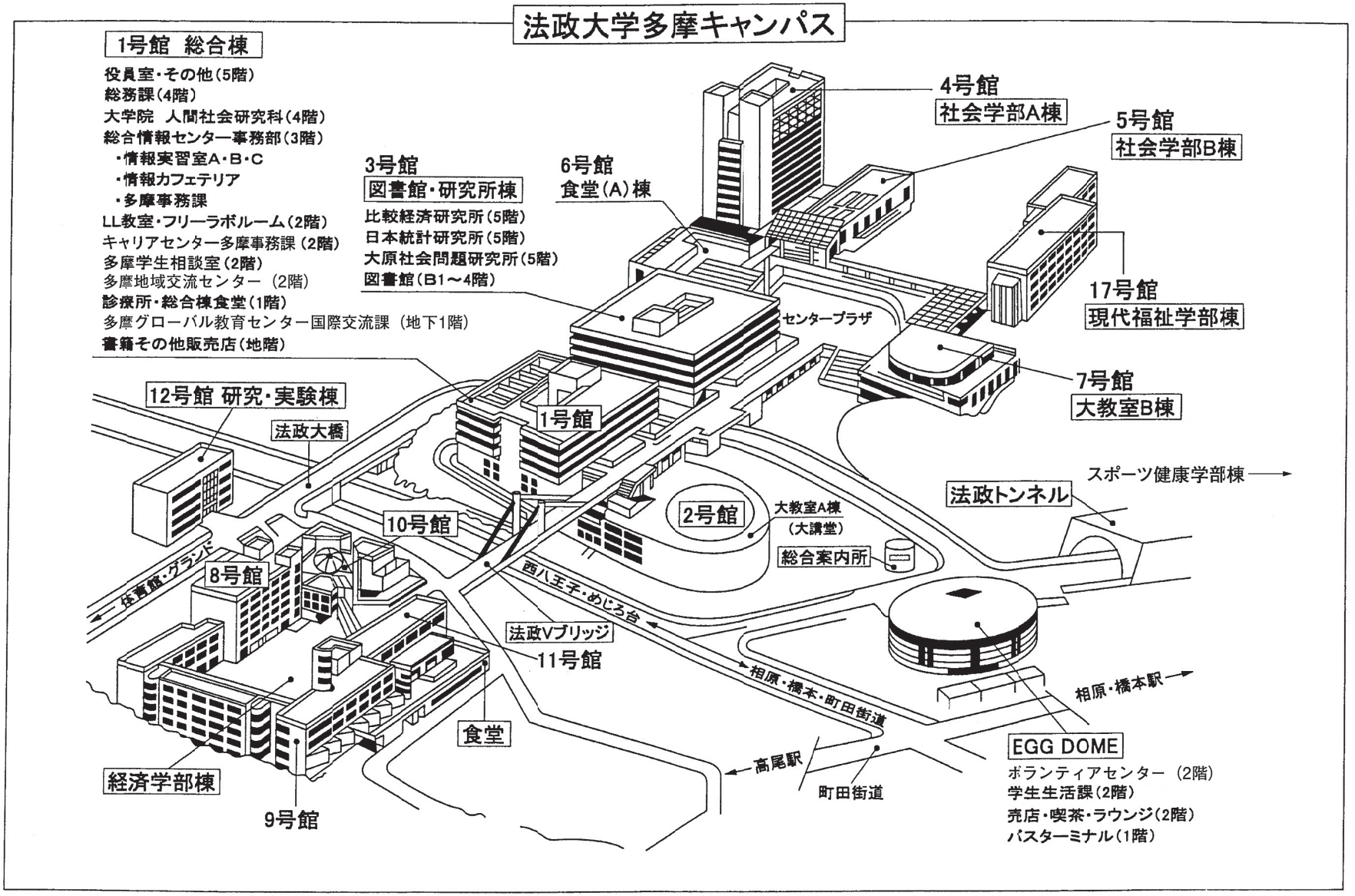
*名誉教授・兼担教員・兼任教員については、経済学部に研究室はありません。

	教員名	研究室
1	飯野　厚	616
2	池上　宗信	415
3	梅津　亮子	301
4	大平　佳男	411
5	岡部　雅史	実験棟4F 岡部研究室
6	奥山　利幸	313
7	小黒　一正	518
8	小沢　和浩	510
9	カレンガ・ゴイ・ジョン	319
10	河村　哲二	603
11	河村　真	406
12	菊池　道樹	311
13	岸　牧人	606
14	後藤　浩子	315
15	小林　克也	609
16	近藤　章夫	613
17	酒井　正	507
18	坂本　憲昭	505
19	佐柄　信純	419
20	佐藤　良一	308
21	篠原　隆介	304
22	芝田　幸一郎	608
23	胥　鵬	418
24	進藤　理香子	401
25	菅　富美枝	506
26	菅　幹雄	413
27	菅原　琢磨	305
28	杉浦　未樹	316
29	杉本　龍勇	517
30	鈴木　豊	515
31	ロバート・ストラウド	306
32	砂田　充	416
33	石　碩	409
34	ジェス・ダイヤモンド	312
35	高橋　秀朋	512
36	竹口　圭輔	404
37	武田　浩一	520
38	竹田　茂夫	602

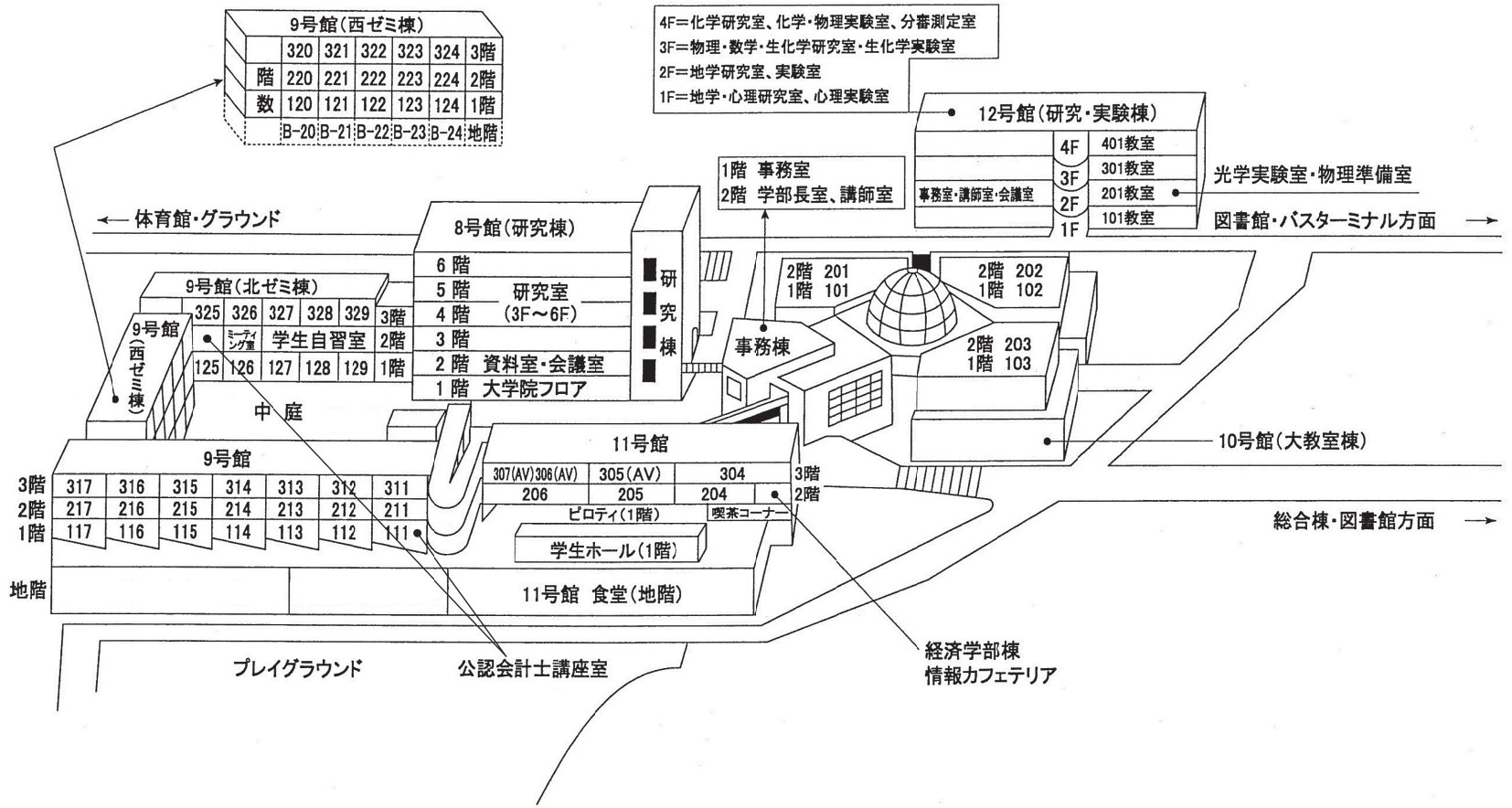
	教員名	研究室
39	武智　一貴	516
40	田中　優希	508
41	田村　晶子	605
42	田村　理香	511
43	張　欣	612
44	寺内　正典	303
45	冨永　靖敬	401
46	永岡　文庸	502
47	中谷　安男	317
48	長原　豊	610
49	倪　彬	514
50	西澤　栄一郎	503
51	新田　誠吾	309
52	朴　倧玄	504
53	橋本　到	414
54	馬場　敏幸	604
55	濱秋　純哉	611
56	原　伸子	617
57	平瀬　友樹	618
58	廣川　みどり	307
59	ブー・トウン・カイ	314
60	藤沢　周	619
61	藤田　貢崇	実験棟3F 藤田研究室
62	古澤　直人	501
63	牧野　文夫	519
64	松波　淳也	513
65	松野　響	実験棟2F 松野研究室
66	宮﨑　憲治	614
67	宮脇　典彦	601
68	明城　聡	412
69	森田　裕史	312
70	山﨑　達朗	405
71	山﨑　友紀	実験棟2F 山﨑研究室
72	山田　快	615
73	山本　真鳥	402
74	湯前　祥二	302
75	ジュリア・ヨング	509
76	マーサ・チャイクリン	410


HOSEI 法政大学 多摩キャンパスマップ
多摩キャンパス交通案内
高尾
西八王子
八王子
中央線
新宿
めじろ台
京王線
相原
渕布
バス
バス
中央線
小田急線
山手線
橋本
町田
横浜線
東神奈川
京浜東北線
品川
東京
京王線：新宿駅から約50分、めじろ台駅下車、バス約10分。
JR：中央線・新宿駅から約50分、西八王子駅下車、バス約22分。
横浜線・東神奈川駅から約45分、相原駅下車、バス約13分。
上記各バスにより終点「法政大学」で下車。
野球場
陸上競技場
⓯15号館（体育棟）
ラグビー場
ハンドボール場
⓮14号館（総合体育館）
←町田街道
ホッケー場
テニスコート
⓬12号館（研究・実験棟）
❸3号館（図書館・研究所棟）
❻6号館（食堂A棟）
❶1号館（総合棟）
❹4号館（社会学部A棟）
❽8号館（経済学部A棟）
⓭13号館（100周年記念館）
法政大橋
めじろ台・八王子方面→
❺5号館（社会学部B棟）
❾9号館（経済学部B棟）
法政Vブリッジ（歩行者専用）
⓱17号館（現代福祉学部棟）
⓫11号館（食堂B棟）
⓾10号館（経済学部C棟）
テニスコート
❷2号館（大教室A棟）
❼7号館（大教室B棟）
法政トンネル
バスターミナル
⓰16号館（EGG DOME）
ボールコート
⓲スポーツ健康学部棟
←高尾方面
町田街道
相原・町田方面→
法政大学入口交差点
城山校地
多目的グランド
サッカー場
馬場
ISO 14001
認証取得
（2004年9月）
❶1号館（総合棟）
役員室，事務室，LL教室，総務課
環境センター，総合情報センター
多摩地域課課，診療所，店舗，食堂
大学院室，臨床心理相談室
多摩学生相談室，グローバル担当
地域交流センター
❷2号館（大教室A棟）
1,600席大ホール
❸3号館（図書館・研究所棟）
書庫，閲覧室，共同調査室，軽読書室，
視聴覚室，オープンPCエリア，ガイダンスルーム
対面閲読室，事務室，大原社会問題研究所，
日本統計研究所，比較経済研究所
❹4号館（社会学部A棟）
小・中教室，ゼミ教室，事務室
自習室，学生ホール，メディア表現実習室
研究室，資料室，大学院室
❺5号館（社会学部B棟）
中教室，視聴覚教室，
多目的スタジオ
❻6号館（食堂A棟）
食堂550席，喫茶
❼7号館（大教室B棟）
500人教室×2，800人教室×1
❽8号館（経済学部A棟）
研究室，資料室，大学院室
❾9号館（経済学部B棟）
小教室，ゼミ教室，自習室，
ミーティング室
公認会計士講座室
❿10号館（経済学部C棟）
300人教室×3，400人教室×2，
500人教室×1，事務室
⓫11号館（食堂B棟）
食堂530席，学生ホール，中教室×3
⓬12号館（研究・実験棟）
物理・化学・生物・地学・心理
各教室，実験室
⓭13号館（100周年記念館）
国際会議場，研修室，校友室，
教職員クラブ室
⓮14号館（総合体育館）
アリーナ，スイミングプール，
各種競技施設，トレーニング場 事務室
⓯15号館（体育棟）
部室，合宿室，ミーティングルーム
⓰16号館（EGG DOME）
学生生活課，多摩ボランティアセンター
軽食堂，売店，サークルBOX
スタジオ，音楽練習室，会議室
ATM（郵便局・東京三菱銀行）
バスターミナル
⓱17号館（現代福祉学部棟）
教室，ゼミ室，研究室，プレイセラピー室
学生ラウンジ，事務室
障がい学生支援室
⓲18号館（スポーツ健康学部棟）
教室，各種実習室，測定室，研究室
事務室，資料室，食堂，地域研究センター

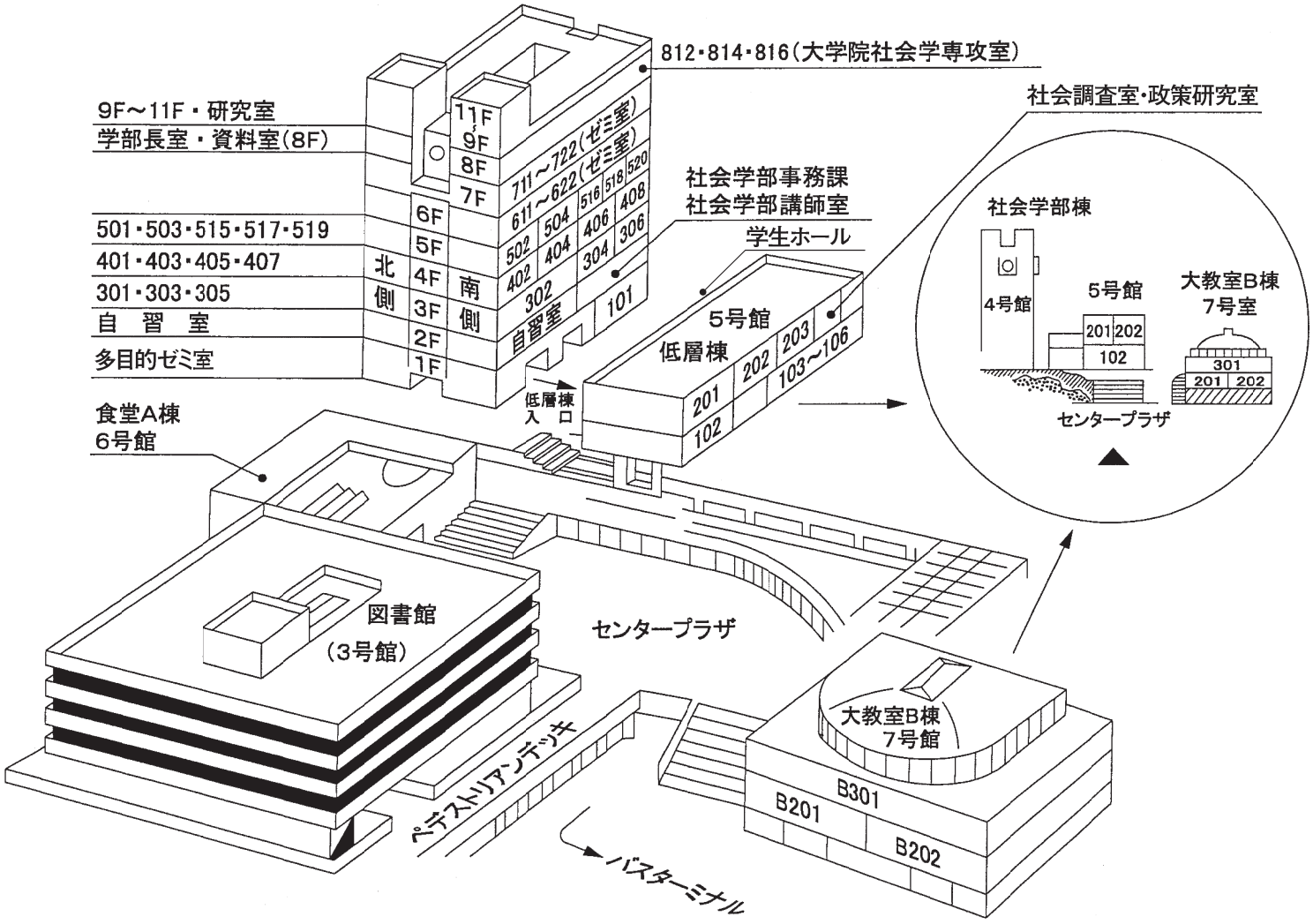
法政大学多摩キャンパス



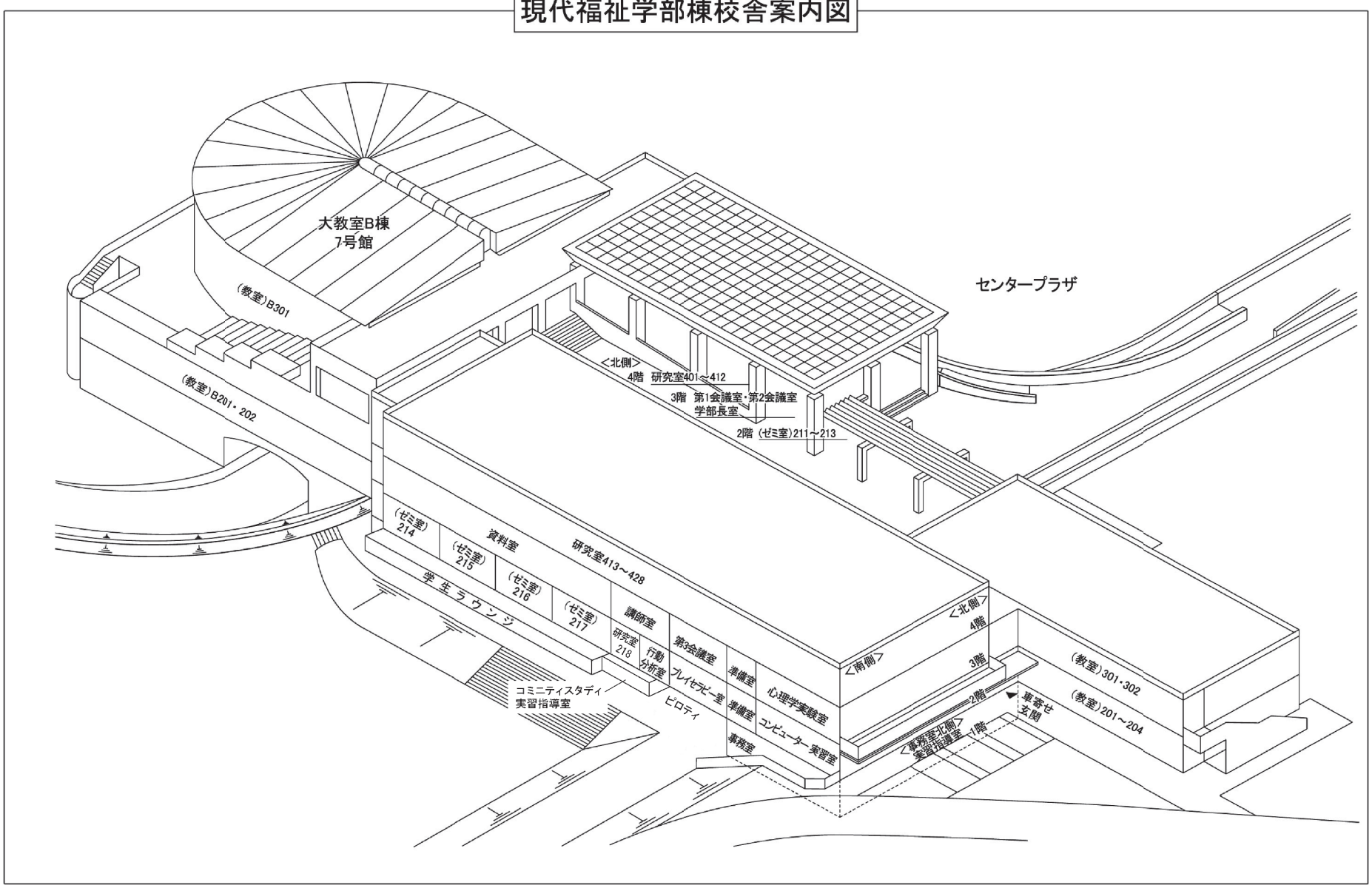
経済学部棟校舎案内図


9号館(西ゼミ棟)
320 321 322 323 324 3階
階 220 221 222 223 224 2階
数 120 121 122 123 124 1階
B-20 B-21 B-22 B-23 B-24 地階
4F=化学研究室、化学・物理実験室、分審測定室
3F=物理・数学・生化学研究室・生化学実験室
2F=地学研究室、実験室
1F=地学・心理研究室、心理実験室
12号館(研究・実験棟)
4F 401教室
3F 301教室
事務室・講師室・会議室
2F 201教室
1F 101教室
光学実験室・物理準備室
1階 事務室
2階 学部長室、講師室
図書館・バスターミナル方面
体育館・グラウンド
8号館(研究棟)
6 階
5 階
4 階 研究室 (3F～6F)
3 階
2 階 資料室・会議室
1 階 大学院フロア
研究棟
9号館(北ゼミ棟)
325 326 327 328 329 3階
ミーティング室 学生自習室 2階
125 126 127 128 129 1階
9号館(西ゼミ棟)
2階 201
1階 101
2階 202
1階 102
事務棟
2階 203
1階 103
中庭
10号館(大教室棟)
11号館
307(AV) 306(AV) 305(AV) 304 3階
206 205 204 2階
ピロティ(1階) 喫茶コーナー
9号館
3階 317 316 315 314 313 312 311
2階 217 216 215 214 213 212 211
1階 117 116 115 114 113 112 111
学生ホール(1階)
総合棟・図書館方面
地階
11号館 食堂(地階)
プレイグラウンド
公認会計士講座室
経済学部棟
情報カフェテリア

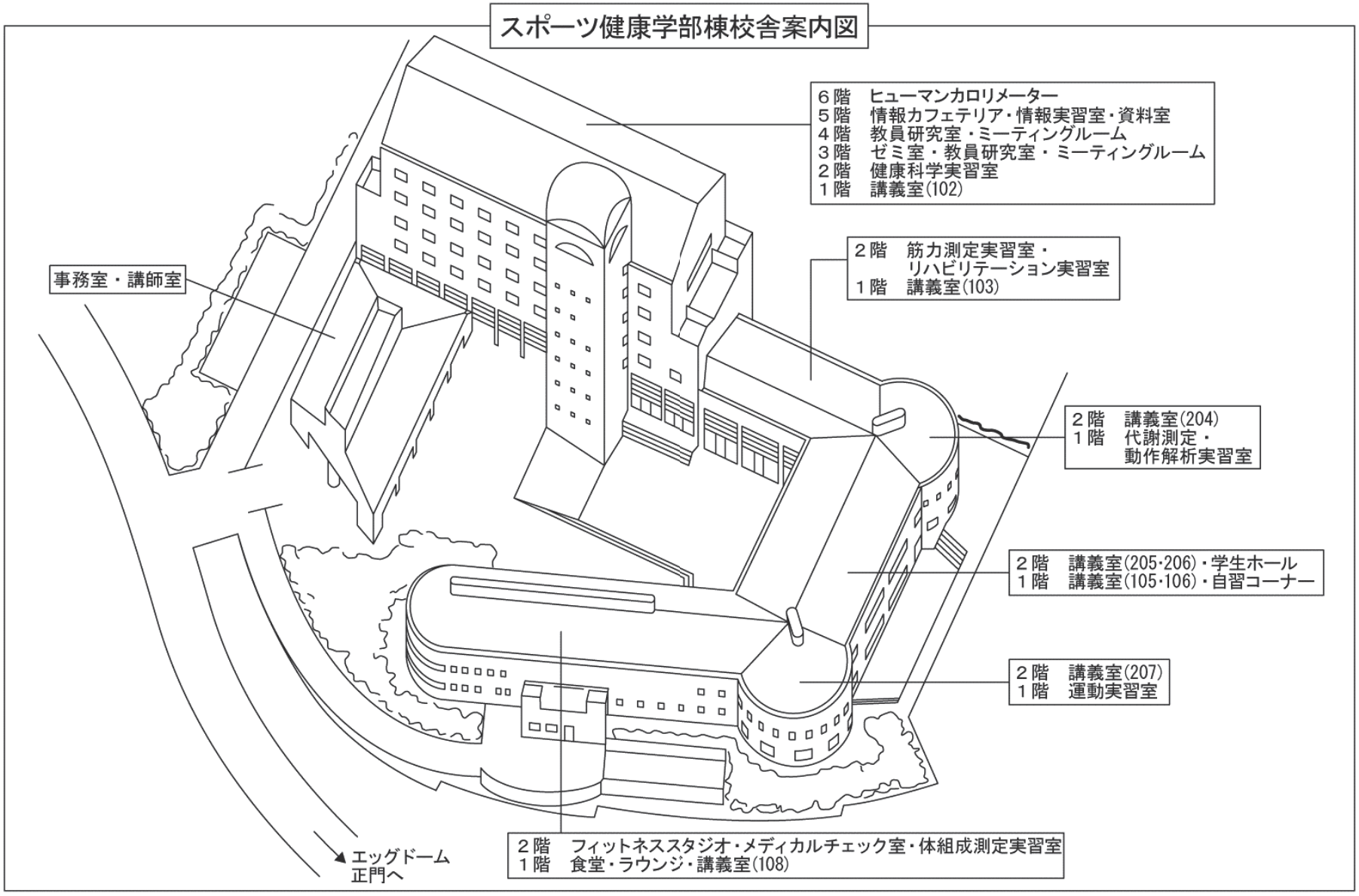
社会学部棟校舎案内図


812・814・816(大学院社会学専攻室)
社会調査室・政策研究室
9F～11F・研究室
学部長室・資料室(8F)
501・503・515・517・519
401・403・405・407
301・303・305
自　習　室
多目的ゼミ室
北側
南側
11F
9F
8F
7F
6F
5F
4F
3F
2F
1F
711～722(ゼミ室)
611～622(ゼミ室)
516
518
520
502
504
406
408
402
404
304
306
302
自習室
101
社会学部事務課
社会学部講師室
学生ホール
5号館
低層棟
201
202
203
103～106
102
低層棟入口
食堂A棟
6号館
図書館
(3号館)
センタープラザ
ペデストリアンデッキ
バスターミナル
大教室B棟
7号館
B301
B201
B202
社会学部棟
4号館
5号館
201
202
102
大教室B棟
7号室
301
201
202
センタープラザ

現代福祉学部棟校舎案内図



スポーツ健康学部棟校舎案内図



グリーン・ユニバーシティをめざして

法政大学環境センター

【学校法人 法政大学環境憲章】

学校法人法政大学は、「開かれた法政21」のヴィジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。

法政大学は環境改善への取り組みを進めています

本学は1999年大学院棟（市ヶ谷）においてISO14001の認証を取得、2001年には市ヶ谷キャンパス全体、2004年には多摩キャンパスへと認証範囲（サイト）を広げてきました。ＩＳＯ（アイ・エス・オー）とは、知的・技術的・経済的活動分野での国際間の協力を促進するため設けられた機関で、ISO14001は環境マネジメントシステム（ＥＭＳ）の仕組み作りに関する国際標準規格です。

多摩キャンパスでは多くの学生・教職員がさまざまな学習・教育・研究活動を行っています。当然、大量のモノやエネルギーを消費しゴミを排出しています。こうした環境負荷を低減するため、自分たちで具体的な目標を立て、着実に実行してゆくためにＥＭＳを導入しているのです。

本学はこれまでの経験を生かし、さらにステップアップした環境改善の取り組みを継続していきます。ご協力をお願いします。

環境について学ぼう

大学が環境改善に取り組む際、最も重要な責務は環境について学ぶ機会を学生の皆さんそして広く社会に提供することにあります。「環境」をテーマにした講演会やセミナー・シンポジウムなどを開催しています。また、「エコツアー（企業・自治体・地域でのさまざまな環境改善の取り組みを実地に見学するプログラム）」を企画し、実体験を通じて環境問題への理解を深める試みも行っています。

キャンパスライフをグリーンに

家庭や地域で、行政や企業でも環境改善をめざす動きが高まっています。キャンパス生活のなかでもできることが多くあります。あなたも環境改善活動に参加しませんか。

(1)省エネルギーを！

多摩キャンパスでは、電気・ガス・灯油など大量のエネルギーを消費しています。都心のヒートアイランド・温暖化防止のためにも省エネに心がけましょう。冷房温度は28℃、暖房温度は20℃に設定しています、教室を出るときは消灯をお願いします。

(2)ゴミを減らそう！

ゴミになるものをキャンパスに持ちこまないようにするのが一番です、廃棄してしまうモノを減らしていきましょう。大学では講義やゼミでコピーや資料印刷など大量の紙類を消費し、そのほとんどが使用後には捨てられています。両面コピーをしたり、再生紙を利用してムダをなくしましょう。

(3)ゴミ分別で再資源化を！

「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」「ビン・カン」「ペットボトル」「ミックスペーパー」の分別ゴミ箱を設置しています。再使用・再資源化へご協力ください。

(4)グリーンコンシューマーになろう！

「グリーンコンシューマー」とは、商品やサービスを購入する際に、価格や品質を考慮するだけでなく、環境負荷ができるだけ小さいものを優先する消費者のことです。文房具などを買うときもグリーン商品（環境配慮製品）に目を向けてください。

ちょっぴり生活を変えてみよう

環境の改善は現在の私たちのライフスタイルを変えることなしには実現できません。「便利で快適な生活」は、資源の大量採取・大量生産・大量消費・大量廃棄によって成り立っています。ライフスタイルを変えることは、私たち個人にとっては「少し手間で、ちょっと面倒なこと」ですが、キャンパスでの私たち一人ひとりの具体的行動が改善の決め手です。あなたも生活変えてみませんか？

法政大学環境センター（多摩）　TEL：042-783-2081
FAX：042-783-2043

授業時間割および各施設利用時間

１．授業時間割

第１時限	９：25～11：05
第２時限	11：15～12：55
	（昼休み）
第３時限	13：45～15：25
第４時限	15：35～17：15
第５時限	17：25～19：05

２．経済学部事務室受付時間

月曜日～金曜日	９：00～17：30
（11：30～12：30昼休みのため閉室、夏季休業期間は16：00まで）	
土曜日	９：00～12：00
	（夏季休業期間は休業）

３．図書館開館時間

月曜日～金曜日	９：00～21：00
土曜日	９：00～18：00
日曜日・休日	10：00～17：00

４．診療所受付時間

月曜日～金曜日	10：00～11：15　12:30～15:45
土曜日	休診

５．多摩情報センター学生情報カフェテリア利用時間

月曜日～金曜日	９：00～19：50〈授業期間〉
土曜日	９：00～11：50（経済学部棟は閉室）

※時期により変更があるので、各カフェテリア前の掲示板及び多摩情報センターWebページ（http://www.t.hosei.ac.jp/center/）を参照すること。

経済学部　講義ガイド

学科別開講科目・担当教員一覧表（目次）

専門教育科目

基本科目・選択科目・自由科目（2010年度以降～2015年度入学生）
必修科目・選択必修科目・選択科目・自由科目（2016年度以降入学生）　1

演習（選択科目）　133

社会学部
現代福祉学部　公開科目（自由科目）　135

総合教育科目　157

保健体育科目　207

科目名索引…… 210

重要

Internet 上でも Web シラバスを閲覧することができます。
Web シラバスにのみ掲載している情報もありますので、本シラバスは補足資料として、Web シラバスを必ず確認してください。
なお、2009 年度以前入学者は、Web シラバスで科目内容を確認してください。（講義ガイドには、2009 年度以前入学者の情報はありません。）

法政大学 Web シラバス　https://syllabus.hosei.ac.jp/

注意

2016 年度入学生よりカリキュラムが変更となった。
2016 年度以降入学生と 2010 年度以降～ 2015 年度入学生で科目名称、単位数、配当年次等に変更があり、参照すべきページが異なる可能性がある。カリキュラム年度により、シラバスのページが異なる場合は、各シラバス左上の年度表示を確認すること。

目　次

専　門　教　育　科　目
経　済　学　科

■2016年度以降入学生

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
必修科目	経済学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	小林　克也	2
	経済学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	酒井　正	2
	経済学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	菅原　琢磨	2
	経済学入門Ａ・Ｂ（補講）	各２	１～	菅原　琢磨	3
選択必修科目	社会経済学基礎Ａ・Ｂ	各２	１～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎Ａ・Ｂ	各２	１～	佐藤　良一	5
	現代経済学基礎Ａ・Ｂ	各２	１～	竹田　茂夫	6
	経済史Ａ・Ｂ	各２	１～	攝津　斉彦	7
	経済史Ａ・Ｂ	各２	１～	長原　豊	8
	統計学Ａ	２	１～	菅　幹雄	9
	統計学Ｂ	２	１～	宮脇　典彦	9
	コンピューター入門Ａ・Ｂ	各２	１～	新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明 小沢　和浩	10
	ビジネス数学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	廣川みどり	11
	社会経済学応用Ａ・Ｂ	各２	２～	原　伸子	24
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	森田　裕史	26
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	細矢　祐誉	28
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	小林　克也	29
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	廣川みどり	30
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	武田　浩一	31
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	高橋　秀朋	32
	国際経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	水田　岳志	33
	環境経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	松波　淳也	35
	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	小黒　一正	36
	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	牧野　文夫	37
	ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	各２	２～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　聡 横川　壽彦	38
	経済人類学Ａ・Ｂ	各２	２～	山本　真鳥	40
	Academic Research Seminar Ａ・Ｂ	各２	２～	飯野　厚	41
	Academic Research Seminar Ａ・Ｂ	各２	２～	山崎　達朗	43
	Academic Research Seminar Ａ・Ｂ	各２	２～	寺内　正典	42
	ドイツ語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	橋本　到	45
	ロシア語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	佐藤　裕子	46
	中国語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	経済学部教員	47
	スペイン語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	芝田幸一郎	48
	Demography Ａ・Ｂ	各２	２～	菅　幹雄	52
	経済地理Ａ・Ｂ	各２	２～	近藤　章夫	56
	データ解析入門Ａ・Ｂ	各２	２～	宮脇　典彦	58
	社会経済思想史Ａ・Ｂ	各２	２～	後藤　浩子	77
	計量経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	宮崎　憲治	92
	労働経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	酒井　正	49
	経済政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	濱秋　純哉	50
	公共経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	篠原　隆介	51
	経済学史Ａ・Ｂ	各２	３～	平瀬　友樹	55
	経済の数理Ａ・Ｂ	各２	３～	佐柄　信純	57

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
選択必修科目	世界の文化と思想Ａ・Ｂ	各２	３～	橋本　到	63
	環境科学Ａ・Ｂ	各２	３～	岡部　雅史	64
	現代経済学応用Ａ・Ｂ	各２	３～	島澤　諭	75
	日本経済史Ａ・Ｂ	各２	３～	長原　豊	76
	農業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	78
	社会政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅原　琢磨	79
	社会保障論Ａ・Ｂ	各２	３～	小黒　一正	80
	金融各論ⅠＡ・Ｂ	各２	３～	高橋　秀朋	81
	政治過程論	２	３～	岡崎加奈子	82
	国際政治論	２	３～	曹　海石	82
	経済統計論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅　幹雄	83
	情報経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	鈴木　豊	84
	世界経済史Ａ	２	３～	工藤　裕子	85
	世界経済史Ｂ	２	３～	進藤理香子	85
	地方財政論Ａ・Ｂ	各２	３～	小林　克也	86
	産業組織論Ａ・Ｂ	各２	３～	河村　真	87
	金融各論ⅡＡ・Ｂ	各２	３～	武田　浩一	88
	企業金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	胥　鵬	90
	国際金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	ブートウンカイ	91
	数理統計学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮脇　典彦	93
	コンピューター科学Ａ・Ｂ	各２	３～	小沢　和浩	94
	現代社会と情報Ａ	２	３～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報Ｂ	２	３～	菅　幹雄	95
	日本思想史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化論	２	３～	浜崎　洋介	99
	地球環境論Ａ・Ｂ	各２	３～	山崎　友紀	100
	環境政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	101
	スポーツ経済論	２	３～	杉本　龍勇	102
	国際貿易論Ａ・Ｂ	各２	３～	近藤　恵介	103
選択科目	企業実務研究Ａ・Ｂ	各２	２～	インターンシップ科目（武蔵野一）	74
	Business Research Seminar Ａ・Ｂ	各２	２～	中谷　安男	97
	比較経済システム論Ａ・Ｂ	各２	３～	マーサ チャイクリン	96
	演習	８	２・３年次	演習のページの扉を参照すること	
自由科目	データで知る世界経済Ａ・Ｂ	各２	１～	馬場　敏幸	14
	Japan and the Global Economy Ａ・Ｂ	各２	１～	倪　彬	15
	Practical Economics Ａ・Ｂ	各２	１～	ジェス ダイヤモンド	16
	簿記ⅠＡ・Ｂ	各２	１～	岸　牧人	19
	企業経営入門Ａ・Ｂ	各２	１～	永岡　文庸	22
	開発経済入門Ａ・Ｂ	各２	２～	池上　宗信	54
	アメリカ経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	馬場　敏幸	61
	中国経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	菊池　道樹	62
	国際ビジネス論Ａ・Ｂ	各２	２～	山本　功	65
	現代ファイナンス入門Ａ・Ｂ	各２	２～	湯前　祥二	66
	Business Communication ⅠＡ・Ｂ	各２	２～	グレン ファーン	68
	Business Communication ⅠＡ・Ｂ	各２	２～	スティーブン ハリス	67
	経済データ分析Ａ・Ｂ	各２	２～	明城　聡	69
	会計学入門Ａ・Ｂ	各２	２～	丸岡恵梨子	71
	原価計算Ａ・Ｂ	各２	２～	福島　一矩	72
	コーポレートガバナンス論Ａ・Ｂ	各２	２～	胥　鵬	73
	Principles of Economics Ａ・Ｂ	各２	２～	ジェス ダイヤモンド	105
	簿記ⅡＡ・Ｂ	各２	２～	岸　牧人	109
	日本国憲法Ａ・Ｂ	各２	２～	榎　透	119
	民法一部Ａ・Ｂ	各２	２～	権　敬殷	120

■2010年度以降～2015年度入学生

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
自由科目	商法一部Ａ・Ｂ	各２	２～	笹久保　徹	122
	国際関係論Ａ・Ｂ	各２	３～	冨永　靖敬	39
	開発経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	池上　宗信	53
	企業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	砂田　　充	104
	International Economics Ａ・Ｂ	各２	３～	倪　　彬	106
	Area Studies Ａ・Ｂ	各２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	107
	地域経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	川邊　安彦	108
	財務諸表論Ａ・Ｂ	各２	３～	竹口　圭輔	110
	管理会計Ａ・Ｂ	各２	３～	福島　一矩	111
	Business Communication Ⅱ Ａ	２	３～	ジュリア ヨング	112
	Business Communication Ⅱ Ｂ	２	３～	ロバート デレザ	112
	Business Communication Ⅱ Ａ・Ｂ	各２	３～	グレン ファーン	113
	監査論Ａ・Ｂ	各２	３～	岸　　牧人	114
	リスク・マネジメントＡ・Ｂ	各２	３～	湯前　祥二	115
	企業経営史Ａ・Ｂ	各２	３～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度Ａ・Ｂ	各２	３～	丸岡恵梨子	117
	企業経営論Ａ・Ｂ	各２	３～	永岡　文庸	118
	経営学Ａ・Ｂ	各２	３～	砂田　　充	126
	民法二部Ａ・Ｂ	各２	３～	権　　敬殷	121
	商法二部Ａ・Ｂ	各２	３～	笹久保　徹	123
	経済法Ａ・Ｂ	各２	３～	山浦　康明	124
	労働法Ａ・Ｂ	各２	３～	藤本　　茂	125
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	128
	Basic Economics Ａ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	Basic Economics Ｂ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	寄付講座・証券市場論	２	３～	大和証券(株)	128
公開科目	社会学部　公開科目	各２	３～		136
	現代福祉学部　公開科目	各２	３～		145

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
基本科目（全コース共通）	社会経済学基礎	4	1～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎	4	1～	佐藤　良一	5
	現代経済学入門	4	1～	竹田　茂夫	6
	経済史	4	1～	攝津　斉彦	7
	経済史	4	1～	長原　　豊	8
	統計学	4	1～	(春)菅幹夫 (秋)宮脇典彦	9
	コンピュータ入門	4	1～	小沢　和浩 新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明	10
	社会経済学応用Ａ・Ｂ	各２	２～	原　　伸子	24
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	森田　裕史	26
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	細矢　祐誉	28
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	小林　克也	29
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	廣川みどり	30
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	武田　浩一	31
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	高橋　秀朋	32
	国際経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	水田　岳志	33
	環境経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	松波　淳也	35
基本科目（他コースは選択科目）	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	小黒　一正	36
	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	牧野　文夫	37
	ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	各２	２～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　　聡 横川　壽彦	38
	経済人類学Ａ・Ｂ	各２	２～	山本　真鳥	40
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	寺内　正典	42
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	山崎　達朗	43
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	飯野　　厚	41
	ドイツ語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	橋本　　到	45
	ロシア語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	佐藤　裕子	46
	中国語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	経済学部教員	47
	スペイン語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	芝田幸一郎	48
	労働経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	酒井　　正	49
	経済政策論Ａ・Ｂ	各２	２～	濱秋　純哉	50
	公共経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	51
	経済学史Ａ・Ｂ	各２	２～	平瀬　友樹	55
	経済地理Ａ・Ｂ	各２	２～	近藤　章夫	56
	経済の数理Ａ・Ｂ	各２	２～	佐柄　信純	57
	コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	各２	２～	宮脇　典彦	58
	世界の文化と思想Ａ・Ｂ	各２	２～	橋本　　到	63
	環境科学Ａ・Ｂ	各２	２～	岡部　雅史	64
選択科目（他コースは自由科目）	企業実務研究Ａ・Ｂ	各２	２～	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ科目（武田語一）	74
	現代経済学応用Ａ・Ｂ	各２	３～	島澤　　諭	75
	日本経済史Ａ・Ｂ	各２	３～	長原　　豊	76
	社会経済思想史Ａ・Ｂ	各２	３～	後藤　浩子	77
	農業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	78
	社会政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅原　琢磨	79
	社会保障論Ａ・Ｂ	各２	３～	小黒　一正	80
	金融各論Ⅰ Ａ・Ｂ	各２	３～	高橋　秀朋	81

目　次

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
選択科目（他コースは自由科目）	政治過程論	2	3～	岡﨑加奈子	82
	国際政治論	2	3～	曹　海石	82
	経済統計論A・B	各2	3～	菅　幹雄	83
	情報経済論A・B	各2	3～	鈴木　豊	84
	西洋経済史A	2	3～	工藤　裕子	85
	西洋経済史B	2	3～	進藤理香子	85
	地方財政論A・B	各2	3～	小林　克也	86
	産業組織論A・B	各2	3～	河村　真	87
	金融各論ⅡA・B	各2	3～	武田　浩一	88
	企業金融論A・B	各2	3～	胥　鵬	90
	国際金融論A・B	各2	3～	ブートウンカイ	91
	計量経済学A・B	各2	3～	宮﨑　憲治	92
	数理統計学A・B	各2	3～	宮脇　典彦	93
	コンピュータ科学（ネットワークを中心に）A・B	各2	3～	小沢　和浩	94
	現代社会と情報A	2	3～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報B	2	3～	菅　幹雄	95
	比較経済システム論A・B	各2	3～	マーサ チャイクリン	96
	時事英語セミナーA・B	各2	3～	中谷　安男	97
	日本思想史	2	3～	菅原　正子	98
	日本文化史	2	3～	菅原　正子	98
	日本文化論	2	3～	浜崎　洋介	99
	地球環境論A・B	各2	3～	山﨑　友紀	100
	環境政策論A・B	各2	3～	西澤栄一郎	101
	人間とスポーツ	2	3～	杉本　龍勇	102
	演習	8	2･3年次	演習のページの扉を参照すること	
		4	4年次		
自由科目	ビジネス数学入門A・B	各2	1～	廣川みどり	11
	Japan and the Global Economy A・B	各2	1～	倪　彬	15
	Practical Economics A・B	各2	1～	ジェス ダイヤモンド	16
	簿記入門	4	1～	岸　牧人	19
	企業経営入門	4	1～	永岡　文庸	22
	国際関係論A・B	各2	2～	冨永　靖敬	39
	Demography A・B	各2	2～	菅　幹雄	52
	開発経済論A・B	各2	2～	池上　宗信	53
	開発経済入門A・B	各2	2～	池上　宗信	54
	アメリカ経済論A・B	各2	2～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論A・B	各2	2～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論A・B	各2	2～	馬場　敏幸	61
	中国経済論A・B	各2	2～	菊池　道樹	62
	国際ビジネス論A・B	各2	2～	山本　功	65
	現代ファイナンス入門A・B	各2	2～	湯前　祥二	66
	ビジネス英語初級A・B	各2	2～	グレン ファーン	68
	ビジネス英語初級A・B	各2	2～	スティーブン ハリス	67
	経済データ分析A・B	各2	2～	明城　聡	69
	会計学入門Ⅰ（財務会計）A・B	各2	2～	丸岡惠梨子	71
	会計学入門Ⅱ（原価計算）A・B	各2	2～	福島　一矩	72
	コーポレートガバナンス論A・B	各2	2～	胥　鵬	73
	Principles of Economics A・B	各2	2～	ジェス ダイヤモンド	105
	簿記ⅡA・B	各2	2～	岸　牧人	109
	International Economics A・B	各2	3～	倪　彬	106
	Area Studies A・B	各2	3～	マーサ チャイクリン	107
	地域経済論A・B	各2	3～	川邊　安彦	108
	国際貿易論A・B	各2	3～	近藤　恵介	103
	企業経済論A・B	各2	3～	砂田　充	104
	会計学応用Ⅰ（財務会計）A・B	各2	3～	竹口　圭輔	110
	会計学応用Ⅱ（管理会計）A・B	各2	3～	福島　一矩	111
	ビジネス英語中級A	2	3～	ジュリア ヨング	112

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
自由科目	ビジネス英語中級B	2	3～	ロバート デレザ	112
	ビジネス英語中級A・B	各2	3～	グレン ファーン	113
	監査論A・B	各2	3～	岸　牧人	114
	リスク・マネジメントA・B	各2	3～	湯前　祥二	115
	企業経営史A・B	各2	3～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度A・B	各2	3～	丸岡惠梨子	117
	企業経営論A・B	各2	3～	永岡　文庸	118
	日本国憲法	4	2～	榎　透	119
	民法一部	4	2～	権　敬殷	120
	民法二部	4	3～	権　敬殷	121
	商法一部	4	2～	笹久保　徹	122
	商法二部	4	3～	笹久保　徹	123
	経済法	4	3～	山浦　康明	124
	労働法	4	3～	藤本　茂	125
	経営学	4	3～	砂田　充	126
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	2	3～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	2	3～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	2	3～	マーサ チャイクリン	128
	Basic Economics A	2	3～	ジョン カレンガ	129
	Basic Economics B	2	3～	ジョン カレンガ	129
	寄付講座・証券市場論	2	3～	大和証券(株)	128
公開科目	財政学A・B（市ヶ谷開講）	各2	4	島澤　諭	130
	経済政策論A・B（市ヶ谷開講）	各2	4	濱秋　純哉	131
	国際経済論A・B（市ヶ谷開講）	各2	4	坪田　建明	132
	社会学部　公開科目	各2	3～		136
	現代福祉学部　公開科目	各2	3～		145

専 門 教 育 科 目

国際経済学科

■2016年度以降入学生

科目区分	科 目 名	単位数	履修年次	担 当 者	頁
必修科目	英語で学ぶ経済学入門A・B	各2	1～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	12
	英語で学ぶ経済学入門A・B	各2	1～	森田　裕史	13
選択必修科目	ビジネス数学入門A・B	各2	1～	廣川みどり	11
	データで知る世界経済A・B	各2	1～	馬場　敏幸	14
	Japan and the Global Economy A・B	各2	1～	倪　　彬	15
	国際経済論A・B	各2	2～	ﾌﾞｰﾄｳﾝｶｲ	34
	Demography A・B	各2	2～	菅　　幹雄	52
	開発経済入門A・B	各2	2～	池上　宗信	54
	Principles of Economics A・B	各2	2～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	105
	開発経済論A・B	各2	3～	池上　宗信	53
	国際金融論A・B	各2	3～	ﾌﾞｰﾄｳﾝｶｲ	91
	国際貿易論A・B	各2	3～	近藤　恵介	103
	International Economics A・B	各2	3～	倪　　彬	106
	Area Studies A・B	各2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	107
選択科目	社会経済学基礎A・B	各2	1～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎A・B	各2	1～	佐藤　良一	5
	現代経済学基礎A・B	各2	1～	竹田　茂夫	6
	経済史A・B	各2	1～	攝津　斉彦	7
	経済史A・B	各2	1～	長原　豊	8
	統計学A	2	1～	菅　　幹雄	9
	統計学B	2	1～	宮脇　典彦	9
	コンピューター入門A・B	各2	1～	小沢　和浩 新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明	10
	Practical Economics A・B	各2	1～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	16
	社会経済学応用A・B	各2	2～	原　　伸子	24
	マクロ経済学A・B	各2	2～	森田　裕史	26
	マクロ経済学A・B	各2	2～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学A・B	各2	2～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学A・B	各2	2～	細矢　祐誉	28
	財政学A・B	各2	2～	小林　克也	29
	財政学A・B	各2	2～	廣川みどり	30
	金融論A・B	各2	2～	武田　浩一	31
	金融論A・B	各2	2～	高橋　秀朋	32
	環境経済論A・B	各2	2～	松波　淳也	35
	日本経済論A・B	各2	2～	小黒　一正	36
	日本経済論A・B	各2	2～	牧野　文夫	37
	ビジネスプログラミング入門A・B	各2	2～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　　聡 横川　壽彦	38
	経済人類学A・B	各2	2～	山本　真鳥	40
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	飯野　　厚	41
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	山﨑　達朗	43
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	寺内　正典	42
	ドイツ語セミナーA・B	各2	2～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーA・B	各2	2～	橋本　　到	45
	中国語セミナーA・B	各2	2～	経済学部教員	47
	スペイン語セミナーA・B	各2	2～	芝田幸一郎	48
	経済地理A・B	各2	2～	近藤　章夫	56
	データ解析入門A・B	各2	2～	宮脇　典彦	58

科目区分	科 目 名	単位数	履修年次	担 当 者	頁
選択科目	アメリカ経済論A・B	各2	2～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論A・B	各2	2～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論A・B	各2	2～	馬場　敏幸	61
	中国経済論A・B	各2	2～	菊池　道樹	62
	国際ビジネス論A・B	各2	2～	山本　　功	65
	現代ファイナンス入門A・B	各2	2～	湯前　祥二	66
	Business Communication ⅠA・B	各2	2～	ｸﾞﾚﾝ ﾌｧｰﾝ	68
	Business Communication ⅠA・B	各2	2～	ｽﾃｨｰﾌﾞﾝ ﾊﾘｽ	67
	経済データ分析A・B	各2	2～	明城　　聡	69
	企業実務研究A・B	各2	2～	武田　浩一	74
	計量経済学A・B	各2	2～	宮崎　憲治	92
	Business Research Seminar A・B	各2	2～	中谷　安男	97
	国際関係論A・B	各2	3～	冨永　靖敬	39
	経済の数理A・B	各2	3～	佐柄　信純	57
	現代経済学応用A・B	各2	3～	島澤　　諭	75
	世界経済史A	2	3～	工藤　裕子	85
	世界経済史B	2	3～	進藤理香子	85
	産業組織論A・B	各2	3～	河村　　真	87
	コンピューター科学A・B	各2	3～	小沢　和浩	94
	比較経済システム論A・B	各2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	96
	地球環境論A・B	各2	3～	山﨑　友紀	100
	企業経済論A・B	各2	3～	砂田　　充	104
	地域経済論A・B	各2	3～	川邊　安彦	108
	Business Communication ⅡA	2	3～	ｼﾞｭﾘｱ ﾖﾝｸﾞ	112
	Business Communication ⅡB	2	3～	ﾛﾊﾞｰﾄ ﾃﾞﾚｻﾞ	112
	Business Communication ⅡA・B	各2	3～	ｸﾞﾚﾝ ﾌｧｰﾝ	113
	演習	8	2・3年次	演習のページの扉を参照すること	
自由科目	簿記ⅠA・B	各2	1～	丸岡惠梨子	18
	企業経営入門A・B	各2	1～	永岡　文庸	22
	会計学入門　A・B	各2	2～	丸岡惠梨子	71
	原価計算A・B	各2	2～	福島　一矩	72
	コーポレートガバナンス論A・B	各2	2～	胥　　鵬	73
	社会経済思想史A・B	各2	2～	後藤　浩子	77
	簿記ⅡA・B	各2	2～	岸　　牧人	109
	日本国憲法A・B	各2	2～	榎　　透	119
	民法一部A・B	各2	2～	権　　敬殷	120
	商法一部A・B	各2	2～	笹久保　徹	122
	労働経済論A・B	各2	3～	酒井　　正	49
	経済政策論A・B	各2	3～	濱秋　純哉	50
	公共経済論A・B	各2	3～	篠原　隆介	51
	経済学史A・B	各2	3～	平瀬　友樹	55
	世界の文化と思想A・B	各2	3～	橋本　　到	63
	環境科学A・B	各2	3～	岡部　雅史	64
	日本経済史A・B	各2	3～	長原　　豊	76
	農業経済論A・B	各2	3～	西澤栄一郎	78
	社会政策論A・B	各2	3～	菅原　琢磨	79
	社会保障論A・B	各2	3～	小黒　一正	80
	金融各論ⅠA・B	各2	3～	高橋　秀朋	81
	政治過程論	2	3～	岡﨑加奈子	82
	国際政治論	2	3～	曹　　海石	82
	経済統計論A・B	各2	3～	菅　　幹雄	83
	情報経済論A・B	各2	3～	鈴木　　豊	84
	地方財政論A・B	各2	3～	小林　克也	86
	金融各論ⅡA・B	各2	3～	武田　浩一	88
	企業金融論A・B	各2	3～	胥　　鵬	90
	数理統計学A・B	各2	3～	宮脇　典彦	93

目　次

■2010年度以降～2015年度入学生

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担 当 者	頁
自由科目	現代社会と情報Ａ	2	3～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報Ｂ	2	3～	菅　　幹雄	95
	日本思想史	2	3～	菅原　正子	98
	日本文化史	2	3～	菅原　正子	98
	日本文化論	2	3～	浜崎　洋介	99
	環境政策論Ａ・Ｂ	各2	3～	西澤栄一郎	101
	スポーツ経済論	2	3～	杉本　龍勇	102
	財務諸表論Ａ・Ｂ	各2	3～	竹口　圭輔	110
	管理会計Ａ・Ｂ	各2	3～	福島　一矩	111
	監査論Ａ・Ｂ	各2	3～	岸　　牧人	114
	リスク・マネジメントＡ・Ｂ	各2	3～	湯前　祥二	115
	企業経営史Ａ・Ｂ	各2	3～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度Ａ・Ｂ	各2	3～	丸岡恵梨子	117
	企業経営論Ａ・Ｂ	各2	3～	永岡　文庸	118
	経営学Ａ・Ｂ	各2	3～	砂田　　充	126
	民法二部Ａ・Ｂ	各2	3～	権　　敬殷	121
	商法二部Ａ・Ｂ	各2	3～	笹久保　徹	123
	経済法Ａ・Ｂ	各2	3～	山浦　康明	124
	労働法Ａ・Ｂ	各2	3～	藤本　　茂	125
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	128
	Basic Economics Ａ	2	3～	ジョン カレンガ	129
	Basic Economics Ｂ	2	3～	ジョン カレンガ	129
	寄付講座・証券市場論	2	3～	大和証券(株)	128
公開科目	社会学部　公開科目	各2	3～		136
	現代福祉学部　公開科目	各2	3～		145

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担 当 者	頁
基本科目	社会経済学基礎	4	1～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎	4	1～	佐藤　良一	5
	現代経済学入門	4	1～	竹田　茂夫	6
	経済史	4	1～	攝津　斉彦	7
	経済史	4	1～	長原　　豊	8
	統計学	4	1～	(春)菅幹大 (秋)宮脇典彦	9
	コンピュータ入門	4	1～	小沢　和浩 新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明	10
	Japan and the Global Economy Ａ・Ｂ	各2	1～	倪　　彬	15
	Practical Economics Ａ・Ｂ	各2	1～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	16
	世界の経済	4	1～	馬場　敏幸	14
	社会経済学応用Ａ・Ｂ	各2	2～	原　　伸子	24
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各2	2～	森田　裕史	26
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各2	2～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各2	2～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各2	2～	細矢　祐誉	28
	国際経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	ﾌﾞｰﾄｳﾝｶｲ	34
	日本経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	小黒　一正	36
	日本経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	牧野　文夫	37
	Principles of Economics Ａ・Ｂ	各2	2～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	105
	International Economics Ａ・Ｂ	各2	3～	倪　　彬	106
	Area Studies Ａ・Ｂ	各2	3～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	107
	財政学Ａ・Ｂ	各2	2～	小林　克也	29
	財政学Ａ・Ｂ	各2	2～	廣川みどり	30
	金融論Ａ・Ｂ	各2	2～	武田　浩一	31
	金融論Ａ・Ｂ	各2	2～	高橋　秀朋	32
選択科目	環境経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	松波　淳也	35
	ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	各2	2～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　　聡 横川　壽彦	38
	国際関係論Ａ・Ｂ	各2	2～	冨永　靖敬	39
	経済人類学Ａ・Ｂ	各2	2～	山本　真鳥	40
	英語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	寺内　正典	42
	英語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	山崎　達朗	43
	英語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	飯野　　厚	41
	ドイツ語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	橋本　　到	45
	中国語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	経済学部教員	47
	スペイン語セミナーＡ・Ｂ	各2	2～	芝田幸一郎	48
	開発経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	池上　宗信	53
	経済地理Ａ・Ｂ	各2	2～	近藤　章夫	56
	経済の数理Ａ・Ｂ	各2	2～	佐柄　信純	57
	コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	各2	2～	宮脇　典彦	58
	アメリカ経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	馬場　敏幸	61
	中国経済論Ａ・Ｂ	各2	2～	菊池　道樹	62
	国際ビジネス論Ａ・Ｂ	各2	2～	山本　　功	65
	現代ファイナンス入門Ａ・Ｂ	各2	2～	湯前　祥二	66
	企業実務研究Ａ・Ｂ	各2	2～	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ科目(武田塾一)	74

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
選択科目	現代経済学応用Ａ・Ｂ	各２	３～	島澤　諭	75
	西洋経済史Ａ	２	３～	工藤　裕子	85
	西洋経済史Ｂ	２	３～	進藤理香子	85
	国際金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	ブートウンカイ	91
	計量経済学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮﨑　憲治	92
	コンピュータ科学（ネットワークを中心に）Ａ・Ｂ	各２	３～	小沢　和浩	94
	時事英語セミナーＡ・Ｂ	各２	３～	中谷　安男	97
	地球環境論Ａ・Ｂ	各２	３～	山﨑　友紀	100
	国際貿易論Ａ・Ｂ	各２	３～	近藤　恵介	103
	企業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	砂田　充	104
	比較経済システム論Ａ・Ｂ	各２	３～	マーサ チャイクリン	96
	演習	８	２･３年次	演習のページの扉を参照すること	
		４	４年次		
自由科目	ビジネス数学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	廣川みどり	11
	簿記入門	４	１～	丸岡恵梨子	18
	企業経営入門	４	１～	永岡　文庸	22
	労働経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	酒井　正	49
	経済政策論Ａ・Ｂ	各２	２～	濱秋　純哉	50
	公共経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	51
	Demography Ａ・Ｂ	各２	２～	菅　幹雄	52
	開発経済入門Ａ・Ｂ	各２	２～	池上　宗信	54
	経済学史Ａ・Ｂ	各２	２～	平瀬　友樹	55
	世界の文化と思想Ａ・Ｂ	各２	２～	橋本　到	63
	環境科学Ａ・Ｂ	各２	２～	岡部　雅史	64
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	各２	２～	グレン ファーン	68
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	各２	２～	スティーブン ハリス	67
	経済データ分析Ａ・Ｂ	各２	２～	明城　聡	69
	会計学入門Ⅰ（財務会計）Ａ・Ｂ	各２	２～	丸岡恵梨子	71
	会計学入門Ⅱ（原価計算）Ａ・Ｂ	各２	２～	福島　一矩	72
	コーポレートガバナンス論Ａ・Ｂ	各２	２～	胥　鵬	73
	日本経済史Ａ・Ｂ	各２	３～	長原　豊	76
	社会経済思想史Ａ・Ｂ	各２	３～	後藤　浩子	77
	農業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	78
	社会政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅原　琢磨	79
	社会保障論Ａ・Ｂ	各２	３～	小黒　一正	80
	金融各論ⅠＡ・Ｂ	各２	３～	高橋　秀朋	81
	政治過程論	２	３～	岡﨑加奈子	82
	国際政治論	２	３～	曹　海石	82
	経済統計論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅　幹雄	83
	情報経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	鈴木　豊	84
	地方財政論Ａ・Ｂ	各２	３～	小林　克也	86
	産業組織論Ａ・Ｂ	各２	３～	河村　真	87
	金融各論ⅡＡ・Ｂ	各２	３～	武田　浩一	88
	企業金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	胥　鵬	90
	数理統計学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮脇　典彦	93
	現代社会と情報Ａ	２	３～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報Ｂ	２	３～	菅　幹雄	95
	日本思想史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化論	２	３～	浜崎　洋介	99
	環境政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	101
	人間とスポーツ	２	３～	杉本　龍勇	102
	会計学応用Ⅰ（財務会計）Ａ・Ｂ	各２	３～	竹口　圭輔	110
	会計学応用Ⅱ（管理会計）Ａ・Ｂ	各２	３～	福島　一矩	110
	ビジネス英語中級Ａ	２	３～	ジュリア ヨング	112
	ビジネス英語中級Ｂ	２	３～	ロバート デレザ	112
	ビジネス英語中級Ａ・Ｂ	各２	３～	グレン ファーン	113

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
自由科目	監査論Ａ・Ｂ	各２	３～	岸　牧人	114
	リスク・マネジメントＡ・Ｂ	各２	３～	湯前　祥二	115
	企業経営史Ａ・Ｂ	各２	３～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度Ａ・Ｂ	各２	３～	丸岡恵梨子	117
	企業経営論Ａ・Ｂ	各２	３～	永岡　文庸	118
	日本国憲法	４	２～	榎　透	119
	民法一部	４	２～	権　敬殷	120
	民法二部	４	３～	権　敬殷	121
	商法一部	４	２～	笹久保　徹	122
	商法二部	４	３～	笹久保　徹	123
	経済法	４	３～	山浦　康明	124
	労働法	４	３～	藤本　茂	125
	経営学	４	３～	砂田　充	126
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	２	３～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	２	３～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	２	３～	マーサ チャイクリン	128
	Basic Economics Ａ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	Basic Economics Ｂ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	寄付講座・証券市場論	２	３～	大和証券(株)	128
公開科目	財政学Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	４	島澤　諭	130
	経済政策論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	４	濱秋　純哉	131
	国際経済論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	４	坪田　建明	132
	社会学部　公開科目	各２	３～		136
	現代福祉学部　公開科目	各２	３～		145

目　次

専　門　教　育　科　目

現代ビジネス学科

■2016年度以降入学生

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
必修科目	企業と経済・基礎A	2	1～	河村　真	17
	企業と経済・基礎B	2	1～	砂田　充	17
選択必修科目	コンピューター入門A・B	各2	1～	小沢　和浩 新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明	10
	ビジネス数学入門A・B	2	1～	廣川みどり	11
	簿記ⅠA	2	1～	田中　優希	21
	簿記ⅠB	2	1～	積　惟美	21
	簿記ⅠA・B	各2	1～	福島　一矩	20
	企業経営入門A・B	各2	1～	永岡　文庸	22
	企業と経済・応用A・B	各2	2～	檜野　智子	23
	日本経済論A・B	各2	2～	小黒　一正	36
	日本経済論A・B	各2	2～	牧野　文夫	37
	現代ファイナンス入門A・B	各2	2～	湯前　祥二	66
	Business Communication Ⅰ	各2	2～	グレン ファーン	68
	Business Communication Ⅰ	各2	2～	スティーブン ハリス	67
	経済データ分析A・B	各2	2～	明城　聡	69
	会計学入門　A・B	各2	2～	丸岡惠梨子	71
	原価計算A・B	各2	2～	福島　一矩	72
	簿記ⅡA・B	各2	2～	岸　牧人	109
	企業金融論A・B	各2	3～	胥　鵬	90
	財務諸表論A・B	各2	3～	竹口　圭輔	110
	管理会計A・B	各2	3～	福島　一矩	111
	Business Communication ⅡA	2	3～	ジュリア ヨング	112
	Business Communication ⅡB	2	3～	ロバート デレザ	112
	Business Communication ⅡA・B	各2	3～	グレン ファーン	113
選択科目	社会経済学基礎A・B	各2	1～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎A・B	各2	1～	佐藤　良一	5
	経済史A・B	各2	1～	攝津　斉彦	7
	経済史A・B	各2	1～	長原　豊	8
	統計学A	2	1～	菅　幹雄	9
	統計学B	2	1～	宮脇　典彦	9
	財政学A・B	各2	2～	小林　克也	29
	財政学A・B	各2	2～	廣川みどり	30
	金融論A・B	各2	2～	武田　浩一	31
	金融論A・B	各2	2～	高橋　秀朋	32
	ビジネスプログラミング入門	各2	2～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　聡 横川　壽彦	38
	国際ビジネス論A・B	各2	2～	山本　功	65
	経済地理	2	2～	近藤　章夫	70
	産業集積論	2	2～	近藤　章夫	70
	コーポレートガバナンス論A・B	各2	2～	胥　鵬	73
	企業実務研究A・B	各2	2～	武田　浩一	74
	計量経済学A・B	各2	2～	宮崎　憲治	92
	Business Research Seminar	各2	2～	中谷　安男	97
	商法一部A・B	各2	2～	笹久保　徹	122
	労働経済論A・B	各2	3～	酒井　正	49
	比較経済システム論A・B	各2	3～	マーサ チャイクリン	96
	情報経済論A・B	各2	3～	鈴木　豊	84

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
選択科目	産業組織論A・B	各2	3～	河村　真	87
	金融ビジネス論A・B	各2	3～	武田　浩一	89
	企業経済論A・B	各2	3～	砂田　充	104
	監査論A・B	各2	3～	岸　牧人	114
	リスク・マネジメントA・B	各2	3～	湯前　祥二	115
	企業経営史A・B	各2	3～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度A・B	各2	3～	丸岡惠梨子	117
	企業経営論A・B	各2	3～	永岡　文庸	118
	経営学A・B	各2	3～	砂田　充	126
	商法二部A・B	各2	3～	笹久保　徹	123
	経済法A・B	各2	3～	山浦　康明	124
	演習	8	2･3年次		
自由科目	データで知る世界経済A・B	各2	1～	馬場　敏幸	14
	Japan and the Global Economy A・B	各2	1～	倪　彬	15
	Practical Economics A・B	各2	1～	ジェス ダイヤモンド	16
	マクロ経済学A・B	各2	2～	森田　裕史	26
	マクロ経済学A・B	各2	2～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学A・B	各2	2～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学A・B	各2	2～	細矢　祐誉	28
	国際経済論A・B	各2	2～	水田　岳志	33
	環境経済論A・B	各2	2～	松波　淳也	35
	経済人類学A・B	各2	2～	山本　真鳥	40
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	山崎　達朗	43
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	寺内　正典	42
	Academic Research Seminar A・B	各2	2～	飯野　厚	41
	ドイツ語セミナーA・B	各2	2～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーA・B	各2	2～	橋本　到	45
	中国語セミナーA・B	各2	2～	経済学部教員	47
	Demography A・B	各2	2～	菅　幹雄	52
	開発経済入門A・B	各2	2～	池上　宗信	54
	データ解析入門A・B	各2	2～	宮脇　典彦	58
	アメリカ経済論A・B	各2	2～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論A・B	各2	2～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論A・B	各2	2～	馬場　敏幸	61
	中国経済論A・B	各2	2～	菊池　道樹	62
	社会経済思想史A・B	各2	2～	後藤　浩子	77
	Principles of Economics A・B	各2	2～	ジェス ダイヤモンド	105
	日本国憲法A・B	各2	2～	榎　透	119
	民法一部A・B	各2	2～	権　敬殷	120
	国際関係論A・B	各2	3～	冨永　靖敬	39
	経済政策論A・B	各2	3～	濱秋　純哉	50
	公共経済論A・B	各2	3～	篠原　隆介	51
	開発経済論A・B	各2	3～	池上　宗信	53
	経済学史A・B	各2	3～	平瀬　友樹	55
	経済の数理A・B	各2	3～	佐柄　信純	57
	世界の文化と思想A・B	各2	3～	橋本　到	63
	環境科学A・B	各2	3～	岡部　雅史	64
	日本経済史A・B	各2	3～	長原　豊	76
	農業経済論A・B	各2	3～	西澤栄一郎	78
	社会政策論A・B	各2	3～	菅原　琢磨	79
	社会保障論A・B	各2	3～	小黒　一正	80
	金融各論ⅠA・B	各2	3～	高橋　秀朋	81
	政治過程論	2	3～	岡崎加奈子	82
	国際政治論	2	3～	曹　海石	82
	経済統計論A・B	各2	3～	菅　幹雄	83
	世界経済史A	2	3～	工藤　裕子	85
	世界経済史B	2	3～	進藤理香子	85

■2010年度以降～2015年度入学生

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
自由科目	地方財政論Ａ・Ｂ	各２	３～	小林　克也	86
	国際金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	ブートウンカイ	91
	数理統計学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮脇　典彦	93
	コンピューター科学Ａ・Ｂ	各２	３～	小沢　和浩	94
	現代社会と情報Ａ	２	３～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報Ｂ	２	３～	菅　幹雄	95
	日本思想史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化史	２	３～	菅原　正子	98
	日本文化論	２	３～	浜崎　洋介	99
	地球環境論Ａ・Ｂ	各２	３～	山﨑　友紀	100
	環境政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	101
	スポーツ経済論	２	３～	杉本　龍勇	102
	国際貿易論Ａ・Ｂ	各２	３～	近藤　恵介	103
	International Economics Ａ・Ｂ	各２	３～	倪　彬	106
	Area Studies Ａ・Ｂ	各２	３～	マーサ チャイクリン	107
	地域経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	川邊　安彦	108
	民法二部Ａ・Ｂ	各２	３～	権　敬殷	121
	労働法Ａ・Ｂ	各２	３～	藤本　茂	125
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	２	３～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	２	３～	マーサ チャイクリン	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	２	３～	マーサ チャイクリン	128
	Basic Economics Ａ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	Basic Economics Ｂ	２	３～	ジョン カレンガ	129
	寄付講座・証券市場論	２	３～	大和証券(株)	128
公開科目	社会学部　公開科目	各２	３～		136
	現代福祉学部　公開科目	各２	３～		145

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
基本科目	コンピュータ入門	４	１～	小沢　和浩 新村　隆英 安藤富貴子 松田　修三 坂部　創一 近藤佐保子 高橋　信行 斉藤　典明	10
	企業と経済・基礎	４	１～	(春)河村真 (秋)鈴木豊	17
	簿記入門	４	１～	(春)田中優希 (秋)嶺脇美	21
	簿記入門	４	１～	福島　一矩	20
	企業経営入門	４	１～	永岡　文庸	22
	企業と経済・応用Ａ・Ｂ	各２	２～	檜野　智子	23
	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	小黒　一正	36
	日本経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	牧野　文夫	37
	現代ファイナンス入門Ａ・Ｂ	各２	２～	湯前　祥二	66
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	各２	２～	グレン ファーン	68
	ビジネス英語初級Ａ・Ｂ	各２	２～	スティーブン ハリス	67
	経済データ分析Ａ・Ｂ	各２	２～	明城　聡	69
	会計学入門Ⅰ(財務会計)Ａ・Ｂ	各２	２～	丸岡恵梨子	71
	会計学入門Ⅱ(原価計算)Ａ・Ｂ	各２	２～	福島　一矩	72
	企業金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	胥　鵬	90
	会計学応用Ⅰ(財務会計)Ａ・Ｂ	各２	３～	竹口　圭輔	110
	会計学応用Ⅱ(管理会計)Ａ・Ｂ	各２	３～	福島　一矩	111
	ビジネス英語中級Ａ	２	３～	ジュリア ヨング	112
	ビジネス英語中級Ｂ	２	３～	ロバート デレザ	112
	ビジネス英語中級Ａ・Ｂ	各２	３～	グレン ファーン	113
選択科目	社会経済学基礎	４	１～	大友　敏明	4
	社会経済学基礎	４	１～	佐藤　良一	5
	経済史	４	１～	攝津　斉彦	7
	経済史	４	１～	長原　豊	8
	統計学	４	１～	(春)菅幹雄 (秋)宮脇典彦	9
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	小林　克也	29
	財政学Ａ・Ｂ	各２	２～	廣川みどり	30
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	武田　浩一	31
	金融論Ａ・Ｂ	各２	２～	高橋　秀朋	32
	ビジネスプログラミング入門Ａ・Ｂ	各２	２～	坂本　憲昭 高橋　朋一 金子　聡 横川　壽彦	38
	労働経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	酒井　正	49
	国際ビジネス論Ａ・Ｂ	各２	２～	山本　功	65
	経済地理	２	２～	近藤　章夫	70
	産業集積論	２	２～	近藤　章夫	70
	コーポレートガバナンス論Ａ・Ｂ	各２	２～	胥　鵬	73
	企業実務研究Ａ・Ｂ	各２	２～	インターンシップ科目(武田浩一)	74
	情報経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	鈴木　豊	84
	産業組織論Ａ・Ｂ	各２	３～	河村　真	87
	金融ビジネス論Ａ・Ｂ	各２	３～	武田　浩一	89
	計量経済学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮﨑　憲治	92
	時事英語セミナーＡ・Ｂ	各２	３～	中谷　安男	97
	企業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	砂田　充	104
	監査論Ａ・Ｂ	各２	３～	岸　牧人	114
	リスク・マネジメントＡ・Ｂ	各２	３～	湯前　祥二	115
	企業経営史Ａ・Ｂ	各２	３～	飯塚　陽介	116
	国際会計制度Ａ・Ｂ	各２	３～	丸岡恵梨子	117
	企業経営論Ａ・Ｂ	各２	３～	永岡　文庸	118

目　次

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
選択科目	比較経済システム論Ａ・Ｂ	各２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	96
	商法一部	4	２～	笹久保　徹	122
	商法二部	4	３～	笹久保　徹	123
	経済法	4	３～	山浦　康明	124
	演習	8	2･3年次	演習のページの扉を参照すること	
		4	4年次		
自由科目	ビジネス数学入門Ａ・Ｂ	各２	１～	廣川みどり	11
	Japan and the Global Economy Ａ・Ｂ	各２	１～	倪　　彬	15
	Practical Economics Ａ・Ｂ	各２	１～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	16
	社会経済学応用Ａ・Ｂ	各２	２～	原　　伸子	24
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	森田　裕史	26
	マクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	檜野　智子	25
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	27
	ミクロ経済学Ａ・Ｂ	各２	２～	細矢　祐誉	28
	国際経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	水田　岳志	33
	環境経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	松波　淳也	35
	国際関係論Ａ・Ｂ	各２	２～	冨永　靖敬	39
	経済人類学Ａ・Ｂ	各２	２～	山本　真鳥	40
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	寺内　正典	42
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	山﨑　達朗	43
	英語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	飯野　　厚	41
	ドイツ語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	新田　誠吾	44
	フランス語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	橋本　　到	45
	中国語セミナーＡ・Ｂ	各２	２～	経済学部教員	47
	経済政策論Ａ・Ｂ	各２	２～	濱秋　純哉	50
	公共経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	篠原　隆介	51
	Demography Ａ・Ｂ	各２	２～	菅　　幹雄	52
	開発経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	池上　宗信	53
	開発経済入門Ａ・Ｂ	各２	２～	池上　宗信	54
	経済学史Ａ・Ｂ	各２	２～	平瀬　友樹	55
	経済の数理Ａ・Ｂ	各２	２～	佐柄　信純	57
	コンピュータによるデータ解析Ａ・Ｂ	各２	２～	宮脇　典彦	58
	アメリカ経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	河村　哲二	59
	ヨーロッパ経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	進藤理香子	60
	現代アジア経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	馬場　敏幸	61
	中国経済論Ａ・Ｂ	各２	２～	菊池　道樹	62
	世界の文化と思想Ａ・Ｂ	各２	２～	橋本　　到	63
	環境科学Ａ・Ｂ	各２	２～	岡部　雅史	64
	Principles of Economics Ａ・Ｂ	各２	２～	ｼﾞｪｽ ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ	105
	International Economics Ａ・Ｂ	各２	３～	倪　　彬	106
	Area Studies Ａ・Ｂ	各２	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	107
	地域経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	川邊　安彦	108
	日本経済史Ａ・Ｂ	各２	３～	長原　　豊	76
	社会経済思想史Ａ・Ｂ	各２	３～	後藤　浩子	77
	農業経済論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	78
	社会政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅原　琢磨	79
	社会保障論Ａ・Ｂ	各２	３～	小黒　一正	80
	金融各論ⅠＡ・Ｂ	各２	３～	高橋　秀朋	81
	政治過程論	2	３～	岡崎加奈子	82
	国際政治論	2	３～	曹　　海石	82
	経済統計論Ａ・Ｂ	各２	３～	菅　　幹雄	83
	西洋経済史Ａ	2	３～	工藤　裕子	85
	西洋経済史Ｂ	2	３～	進藤理香子	85
	地方財政論Ａ・Ｂ	各２	３～	小林　克也	86
	国際金融論Ａ・Ｂ	各２	３～	ﾌﾞｰﾄｳﾝｶｲ	91
	数理統計学Ａ・Ｂ	各２	３～	宮脇　典彦	93
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学（ﾈｯﾄﾜｰｸを中心に）Ａ・Ｂ	各２	３～	小沢　和浩	94

科目区分	科　目　名	単位数	履修年次	担当者	頁
自由科目	現代社会と情報Ａ	2	３～	坂本　憲昭	95
	現代社会と情報Ｂ	2	３～	菅　　幹雄	95
	日本思想史	2	３～	菅原　正子	98
	日本文化史	2	３～	菅原　正子	98
	日本文化論	2	３～	浜崎　洋介	99
	地球環境論Ａ・Ｂ	各２	３～	山﨑　友紀	100
	環境政策論Ａ・Ｂ	各２	３～	西澤栄一郎	101
	人間とスポーツ	2	３～	杉本　龍勇	102
	国際貿易論Ａ・Ｂ	各２	３～	近藤　恵介	103
	日本国憲法	4	２～	榎　　透	119
	民法一部	4	２～	権　　敬殷	120
	民法二部	4	３～	権　　敬殷	121
	労働法	4	３～	藤本　　茂	125
	経営学	4	３～	砂田　　充	126
特別講義	グローバル資本主義論Ⅰ	2	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅱ	2	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	127
	グローバル資本主義論Ⅲ	2	３～	ﾏｰｻ ﾁｬｲｸﾘﾝ	128
	Basic Economics Ａ	2	３～	ｼﾞｮﾝ ｶﾚﾝｶﾞ	129
	Basic Economics Ｂ	2	３～	ｼﾞｮﾝ ｶﾚﾝｶﾞ	129
	寄付講座・証券市場論	2	３～	大和証券(株)	128
公開科目	財政学Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	4	島澤　　諭	130
	経済政策論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	4	濱秋　純哉	131
	国際経済論Ａ・Ｂ（市ヶ谷開講）	各２	4	坪田　建明	132
	社会学部　公開科目	各２	３～		136
	現代福祉学部　公開科目	各２	３～		145

総合教育科目・保健体育科目

■2016年度以降入学生

科目区分	科目名	単位数	履修年次	担当者	頁
総合教育科目	日本文学	2	1～	浜崎　洋介	158
	世界の文学A・B	各2	1～	石　　碩	159
	倫理学A・B	各2	1～	松本　　力	160
	倫理学A・B	各2	1～	齋藤　　範	161
	倫理学A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	齋藤　　範	162
	芸術	2	1～	坂口　周輔	158
	文章表現A・B	各2	1～	浜崎　洋介	163
	言語学A・B	各2	1～	寺内　正典	164
	現代社会と宗教A	2	1～	永井美紀子	165
	現代史A・B	各2	1～	愼　　蒼宇	166
	哲学A・B	各2	1～	長谷川悦宏	167
	哲学A・B	各2	1～	栗原　史郎	168
	哲学A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	齋藤　　範	169
	論理学A・B	各2	1～	関塚　正嗣	170
	民俗学A・B	各2	1～	西村　敏也	171
	政治学A・B	各2	1～	冨永　靖敬	172
	地理学A・B	各2	1～	宋　　苑瑞	173
	文化人類学A・B	各2	1～	山本　真鳥	174
	日本史A・B	各2	1～	菅原　正子	175
	日本史A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	岩橋　清美	176
	世界史A・B	各2	1～	太田　啓子	177
	世界史A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	鈴木　　茂	178
	法学A・B	各2	1～	菅　富美枝	179
	社会学A・B	各2	1～	高橋　　徹	180
	心理学A・B	各2	1～	松野　　響	181
	国際社会論	2	1～	吉村　真子	182
	数学A・B	各2	1～	佐柄　信純	183
	物理学A・B	各2	1～	藤田　貢崇	184
	地学A・B	各2	1～	原　　芳生	185
	化学A・B	各2	1～	山﨑　友紀	186
	生物学A・B	各2	1～	岡部　雅史	187
	科学史A・B	各2	1～	河野　俊哉	188
	自然科学特講	2	1～	岡部　雅史 藤田　貢崇	189
	English Communication Ⅰ A・B	各2	1～	ロバート ストラウド	190
				ステラ山﨑	192
				アラン バーグマン	191
				クレッグ ジョンストン	193
	English Communication Ⅱ A・B	各2	1～	ロバート ストラウド	195
				リチャード エバノフ	194
	English Communication Ⅲ A・B	各2	1～	リチャード エバノフ	196
	ドイツ語コミュニケーションⅠA・B	各2	1～	針貝真理子	197
	ドイツ語コミュニケーションⅡA・B	各2	1～	北岡　幸代	198
	フランス語コミュニケーションA・B	各2	1～	余語　毅憲	199
	資格をめざすフランス語A・B	各2	1～	小室　兼太	200
	中国語コミュニケーションⅠA・B	各2	1～	将邑　剣平	201
	中国語コミュニケーションⅡA・B	各2	1～	張　　欣	202
	スペイン語コミュニケーションⅠA・B	各2	1～	マリア ドローレス	203
	スペイン語コミュニケーションⅡA・B	各2	1～	時任まり子	204
	総合講座Ⅰ	2	1～	張　　欣 芝田幸一郎 ロバート ストラウド 藤田　貢崇	205
	総合講座Ⅱ	2	1～	岡部　雅史 藤田　貢崇	205
	キャリアデザイン論	2	1・2年次	加藤　寛之	206
	多摩地域形成論	2	1～	図司　直也	206
保健体育科目	スポーツ種目A・B（バレーボール）	各1	2～	市原　　英	208
	スポーツ種目A・B（サッカー）	各1	2～	水野　浩幸	209

■2010年度以降～2015年度入学生

科目区分	科目名	単位数	履修年次	担当者	頁
総合教育科目	日本文学	2	1～	浜崎　洋介	158
	世界の文学A・B	各2	1～	石　　碩	159
	倫理学A・B	各2	1～	松本　　力	160
	倫理学A・B	各2	1～	齋藤　　範	161
	倫理学A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	齋藤　　範	162
	芸術	2	1～	坂口　周輔	158
	文章表現A・B	各2	1～	浜崎　洋介	163
	言語学A・B	各2	1～	寺内　正典	164
	現代社会と宗教A	2	1～	永井美紀子	165
	現代史A・B	各2	1～	愼　　蒼宇	166
	哲学A・B	各2	1～	長谷川悦宏	167
	哲学A・B	各2	1～	栗原　史郎	168
	哲学A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	齋藤　　範	169
	論理学A・B	各2	1～	関塚　正嗣	170
	民俗学A・B	各2	1～	西村　敏也	171
	政治学A・B	各2	1～	冨永　靖敬	172
	地理学A・B	各2	1～	宋　　苑瑞	173
	文化人類学A・B	各2	1～	山本　真鳥	174
	日本史A・B	各2	1～	菅原　正子	175
	日本史A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	岩橋　清美	176
	世界史A・B	各2	1～	太田　啓子	177
	世界史A・B（教職・2015年度以降入学生）	各2	1～	鈴木　　茂	178
	法学A・B	各2	1～	菅　富美枝	179
	社会学A・B	各2	1～	高橋　　徹	180
	心理学A・B	各2	1～	松野　　響	181
	国際社会論	2	1～	吉村　真子	182
	数学A・B	各2	1～	佐柄　信純	183
	物理学A・B	各2	1～	藤田　貢崇	184
	地学A・B	各2	1～	原　　芳生	185
	化学A・B	各2	1～	山﨑　友紀	186
	生物学A・B	各2	1～	岡部　雅史	187
	科学史A・B	各2	1～	河野　俊哉	188
	自然科学特講	2	1～	岡部　雅史 藤田　貢崇	189
	英語コミュニケーション初級A・B	各2	1～	ロバート ストラウド	190
				ステラ山﨑	192
				アラン バーグマン	191
				クレッグ ジョンストン	193
	英語コミュニケーション中級A・B	各2	1～	ロバート ストラウド	195
				リチャード エバノフ	194
	英語コミュニケーション上級A・B	各2	1～	リチャード エバノフ	196
	ドイツ語コミュニケーション初級A・B	各2	1～	針貝真理子	197
	ドイツ語コミュニケーション中級A・B	各2	1～	北岡　幸代	198
	フランス語コミュニケーション初級A・B	各2	1～	余語　毅憲	199
	フランス語コミュニケーション中級A・B	各2	1～	小室　兼太	200
	中国語コミュニケーション初級A・B	各2	1～	将邑　剣平	201
	中国語コミュニケーション中級A・B	各2	1～	張　　欣	202
	スペイン語コミュニケーション初級A・B	各2	1～	マリア ドローレス	203
	スペイン語コミュニケーション中級A・B	各2	1～	時任まり子	204
	総合講座Ⅰ	2	1～	張　　欣 芝田幸一郎 ロバート ストラウド 藤田　貢崇	205
	総合講座Ⅱ	2	1～	岡部　雅史 藤田　貢崇	205
	キャリアデザイン論	2	1・2年次	加藤　寛之	206
	多摩地域形成論	2	1～	図司　直也	206
保健体育科目	スポーツ種目A・B（バレーボール）	各1	2～	市原　　英	208
	スポーツ種目A・B（サッカー）	各1	2～	水野　浩幸	209

専門教育科目

基本科目・選択科目・自由科目

（2010年度以降～2015年度入学生）

必修科目・選択必修科目・選択科目・自由科目

（2016年度以降入学生）

経済学入門A

小林　克也・酒井　正・菅原　琢磨

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に１次と２次の関数の計算とグラフ、１次と２次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

経済学入門B

小林　克也・酒井　正・菅原　琢磨

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS － LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS － LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS － LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD － AS 分析①	IS － LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD － AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に１次と２次の関数の計算とグラフ、１次と２次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

経済学入門Ａ（補講）

菅原　琢磨

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【補講授業】2017 年度入学者 2 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（50 %）と平常点（50 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

経済学入門Ｂ（補講）

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【補講授業】2017 年度入学者 2 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS － LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS － LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS － LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD － AS 分析①	IS － LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD － AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（50 %）と平常点（50 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

社会経済学基礎A（2016年度以降入学生、2単位）
社会経済学基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

大友　敏明

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題をひきおこす原因を考察します。

【到達目標】
学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度や株式会社などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【授業の進め方と方法】
現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配付します。基礎的な用語は繰り返し説明し、また時々質問します。リアクションペーパーによる質疑応答も行ないます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について。
第 2 回	労働価値論	価値とは何か。
第 3 回	労働の二重性	私たちの労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何か。
第 5 回	貨幣論 1 －価値尺度機能と価格の度量標準機能	価値尺度機能とは何か。
第 6 回	貨幣論 2 －流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何か。
第 7 回	貨幣論 3 －インフレーション	インフレーションの本質について。
第 8 回	貨幣論 4 －蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何か。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1 －絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのか。
第 11 回	剰余価値の生産 2 －相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態。
第 12 回	賃金の本質	賃金はどのように決まるのか。
第 13 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 14 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回配付されるレジュメを必ず復習すること。
2. 授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認すること。
3. 毎日、新聞を読み、社会でおきている現象に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期に行なう小テスト 30 %および期末試験 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

社会経済学基礎B（2016年度以降入学生、2単位）
社会経済学基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

大友　敏明

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題をひきおこす原因を考察します。

【到達目標】
学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度や株式会社などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【授業の進め方と方法】
現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配付します。基礎的な用語は繰り返し説明し、また時々質問します。リアクションペーパーによる質疑応答も行ないます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	再生産とは何かーアダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 2 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行なわれる場合の条件を学びます。
第 3 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行なわれる場合の条件を深く考察します。
第 4 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとでの均衡条件を学びます。
第 5 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとでの均衡条件を深く学びます。
第 6 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について。
第 7 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について。
第 8 回	銀行信用 1	手形割引の意義について。
第 9 回	銀行信用 2	銀行券について。
第 10 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 11 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割。
第 12 回	信用制度と株式会社	株式会社の本質。
第 13 回	擬制資本論	擬制資本とは何か。
第 14 回	金本位制と管理通貨制度	金本位制とは何かについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回配付されるレジュメを必ず復習すること。
2. 授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認すること。
3. 毎日、新聞を読み、社会でおきている現象に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
秋学期に行なう小テスト 30 %および期末試験 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

社会経済学基礎A（2016年度以降入学生、2単位）
社会経済学基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

佐藤　良一

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境問題、金融危機、格差の拡大等、憂慮すべき問題は多い、現状を認識するためには、広い視野に立って主体的に考察する力をつけねばならない。経済学にもさまざまな理論がある。この講義では「複眼的」に現象をとらえるための基本的知識を身につけることが目標である。資本主義経済の仕組みを分析的に理解することがテーマとなる

【到達目標】
「社会経済学基礎 A」では資本主義システムを分析する際の基本概念(労働生産性、再生産、剰余、利潤) を学ぶ。

【授業の進め方と方法】
毎回「今日のトピックス」のコーナーを設け、時事的問題をとりあげる。可能な限り、それらと関連づけながら〈資本主義システムの仕組み〉を検討する。講義、Q&A、ディスカッション、小論を書くというように授業を進める。高校までの「社会」科を大学の「経済学」へブリッジする参加型の楽しめる講義を目指したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現在の社会的問題は何か	オリエンテーション
第 2 回	社会経済学への誘い	社会経済学の基本的考え方
第 3 回	資本主義は powerful	資本主義の歴史的成果はなにか
第 4 回	〈働く〉ということ	〈ワーキングプア〉という存在から労働の意味を考える
第 5 回	社会経済学の理論的源泉	社会経済学を形成した経済学者は誰か
第 6 回	資本主義を理解するためのアプローチ (#1)	新古典派経済学の考え方
第 7 回	資本主義を理解するためのアプローチ (#2)	社会経済学の考え方
第 8 回	〈労働生産性〉を測るということ	人間と自然の関係の捉え方
第 9 回	社会が〈再生産〉されるということ (#1)	人と人との関係の再生産
第 10 回	社会が〈再生産〉されるということ (#2)	人と人との関係の再生産
第 11 回	〈剰余〉が生み出されるということ	剰余が生み出される条件は何か
第 12 回	〈お金=貨幣〉とはなんだろうか	貨幣の性質は何か
第 13 回	〈儲け=利潤〉はどこから生まれるか	利潤が生み出される条件は何か
第 14 回	生産物は誰のものになるのか	〈所有する〉ということを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・雑誌等の社会経済問題にかかわる記事に目配りしておくこと。さまざまな分野の図書を読む。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
宇仁宏幸他『入門社会経済学:資本主義を理解する』ナカニシア出版。

【成績評価の方法と基準】
期末試験・授業内レポートの成績を総合して (試験 70%、レポート 30%) 評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との interaction を重視した授業運営を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

社会経済学基礎B（2016年度以降入学生、2単位）
社会経済学基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

佐藤　良一

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境問題、金融危機、格差の拡大等、憂慮すべき問題は多い、現状を認識するためには、広い視野に立って主体的に考察する力をつけねばならない。経済学にもさまざまな理論がある。この講義では「複眼的」に現象をとらえるための基本的知識を身につけることが目標である。資本主義経済の仕組みを分析的に理解することがテーマとなる。

【到達目標】
「社会経済学基礎 B」では「社会経済学基礎 A」で学んだ基本的概念の理解のうえで、資本主義の特徴である〈変化〉に焦点を絞って、システムのより深い理解を目指す。

【授業の進め方と方法】
毎回「今日のトピックス」のコーナーを設け、時事的問題をとりあげる。可能な限り、それらと関連づけながら〈資本主義システムの仕組み〉を検討する。講義、Q&A、ディスカッション、小論を書くというように授業を進める。高校までの「社会」科を大学の「経済学」へブリッジする参加型の楽しめる講義を目指したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	〈生活賃金〉を考える	秋学期オリエンテーション
第 2 回	賃金はどのようにして決まるのか (#1)	賃金が決まる市場はどこか
第 3 回	賃金はどのようにして決まるのか (#2)	賃金の一時的決定
第 4 回	賃金はどのようにして決まるのか (#3)	賃金を変化させる要因とは
第 5 回	なぜ失業してしまうのか (#1)	どれだけの人が失業しているのか
第 6 回	なぜ失業してしまうのか (#2)	なにが失業を生み出すのか
第 7 回	時間的変化の捉え方 (#1)	変化を数学的にどう捉えるか
第 8 回	時間的変化の捉え方 (#2)	価格の変動を例に考える
第 9 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#1)	歴史的にどのように変動してきたか
第 10 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#2)	変動を生み出す要因はなんだろうか
第 11 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#3)	安定化させるメカニズムはなにか
第 12 回	〈市場〉経済と〈資本主義〉経済	経済システムの特徴付けの違い
第 13 回	市場経済は効率的だろうか	効率性という尺度を捉え直す
第 14 回	〈資本主義〉とは?	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・雑誌等に触れ、経済社会問題に日々目配りしておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験・授業内レポートの成績を総合して (試験 70%、レポート 30%) 評価する

【学生の意見等からの気づき】
学生との interaction を重視した授業運営を目指す。

現代経済学基礎A（2016年度以降入学生、2単位）
現代経済学入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

竹田　茂夫

開講時期：**春学期**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民所得などに関する基礎的諸概念を出発点に、国民経済計算や有効需要論の基本的理解を踏まえ、現実の日本経済や欧米の経済に関する歴史的・統計的資料を用いつつ、市場原理と政府の経済活動を中心とした現代の経済システム全般に関して講義する。講義では、内外の経済成長や金融システムに関する理論と実際の歴史的経験（高度成長、成熟経済、バブルの生成と崩壊、自由貿易、国際経済システムの発展と波乱、等）をデータを交えて比較しつつ理解を深める。

【到達目標】
広い視野に立って現代の経済システムの基本について主体的に、批判的に考察することができる知識と分析力を養うことが授業の目標である。特に、市場経済の原理を理解するための基礎的概念や基礎的理論が主要テーマとなる。

【授業の進め方と方法】
教科書は使わない。教科書のかわりに、ほぼ毎回、講義の概要（レジュメ）や文献・資料などを配布する。講義は時事問題、歴史上のエピソード、人物紹介など多くの題材を扱う。
以下のスケジュールの順序を入れ替えたり、省略・追加もある。その場合には適宜指示する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	市場経済
2	国民経済計算（1）	マクロ経済学の起源と目的、集計量、経済政策
3	国民経済計算（2）	経済成長、物価水準
4	国民経済計算（3）	帰属計算、家事労働、フェミニスト経済学、国民総福祉
5	有効需要（1）	有効需要の原理、乗数効果、財政政策
6	有効需要（2）	公共事業の問題点、リカード等価性
7	大きな政府と小さな政府	ケインズ、ケインズ経済学と批判者
8	金融システム	通貨の定義、流動性、直接金融と間接金融
9	金融政策	貨幣乗数、トランスミッション・メカニズム、マネタリズム
10	中央銀行（1）	制度の起源、役割
11	中央銀行（2）	流動性の罠、非伝統的金融政策
12	インフレ	第一次大戦後ドイツの超インフレ
13	デフレ	日本の失われた 10 年、欧米の債務の 10 年
14	バブル	バブルの歴史と理論、日本の経験、米国の経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の復習、レポート作成の準備

【テキスト（教科書）】
使わない。必要な資料や文献はなるべく配布する予定である。

【参考書】
内閣府『経済財政白書』（各年度版）、総務省統計局『日本の統計』（各年度版）。その他の参考文献や参考資料は授業の中で適宜指示ずる。

【成績評価の方法と基準】
暫定的に次のように採点配分するが、講義の進捗具合で変更することがありえることに予め十分注意する。
マークシート方式の定期試験（60 %）、授業内小テスト（10 %）、参加自由のレポート（30 %）を総合的に勘案して成績評価基準とする。
ただし、講義の進捗状況によって授業内小テストを行わない場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
高校で学ばなかった項目が講義の中で説明されなかった場合には、必ず質問して、疑問を解消しておくことが必要。

現代経済学基礎B（2016年度以降入学生、2単位）
現代経済学入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

竹田　茂夫

開講時期：**秋学期**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民所得論や有効需要論や金融システムに関する基本的理解を前提にして、市場経済に関するより進んだテーマを講義する。フロー経済に比べた場合の資産市場の特質を理解した上で、デフレやバブルの理論と実際の歴史的経験を講義する。経済理論は IS・LM の基本モデルと流動性の罠などへの応用が中心テーマとなる。実際の市場経済の経験については、バブル崩壊に伴う金融危機と財政危機、非伝統的金融政策、世界的な低成長などのテーマを選んで解説する。授業では、バブルやデフレの理論と歴史と人々の実際の経験を織り交ぜつつ、市場経済に関する総合的理解を目指す。

【到達目標】
広い視野に立って現代の経済システムの基本について主体的に、批判的に考察することができる知識と分析力を養うことが授業の目標である。特に、市場経済の基礎的な概念や理論を前提にして、人々の経験や社会の変化に関する理解を深めることが主要テーマである。

【授業の進め方と方法】
教科書は使わない。教科書のかわりに、ほぼ毎回、講義の概要（レジュメ）や文献・資料などを配布する。講義は時事問題、歴史上のエピソード、人物紹介など多くの題材を扱う。
以下のスケジュールの順序を入れ替えたり、省略・追加もある。その場合には適宜指示する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	市場経済の特質、インフレ、デフレ、バブル
2	資産市場（1）	割引現在価値、効率的市場仮説
3	資産市場（2）	バブルの生成、美人投票の理論、合理的バブル、ポンチスキーム
4	資産市場（3）	金融危機、コンテ―ジョン
5	バブルの経験	歴史上のバブル、20 世紀のバブル、最近の欧米住宅バブル
6	金融危機と財政危機。	リーマンショック、国家債務の問題
7	金融と実体経済	ISLM モデルの基礎
8	不況と流動性の罠	ISLM モデルの応用
9	日本経済（1）	高度成長と金融システムの特色
10	日本経済（2）	日本のバブルの生成と崩壊、金融危機、不況、デフレ
11	欧米の経済（1）	欧州の福祉国家、税と社会保障
12	欧米の経済（2）	「小さな政府」、サッチャリズムとレーガノミクス
13	グローバル化	貿易と金融のグローバル化、移民と労働力
14	経済の中の人物像	経営者と企業家の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の復習、レポート作成の準備。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。毎回配布する授業レジュメ、統計資料、その他の資料を参照する。

【参考書】
内閣府『経済財政白書』（各年度版）、総務省統計局『世界の統計』（各年度版）。その他の参考文献や参考資料は授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
暫定的に次のように採点配分するが、講義の進捗具合で変更することがありえることに予め十分注意する。
マークシート方式の定期試験（60 %）、授業内小テスト（10 %）、参加自由のレポート（30 %）を総合的に勘案して成績評価基準とする。
ただし、講義の進捗状況によって授業内小テストを行わない場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
高校で学ばなかった項目が講義の中で説明されなかった場合には、必ず質問して、疑問を解消しておくことが必要。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
なし。

経済史A（2016年度以降入学生、2単位）
経済史（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

攝津　斉彦

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マッシモ リヴィ-バッチ（2014）『人口の世界史』東洋経済新報社をテキストに、人類の長期的な経済発展の道のりを、人口という「ものさし」を使って理解する。

【到達目標】
・経済成長と人口変動の基本的なメカニズムおよび相互関係を理解する。
・その相互関係が、国や時代によってどのように異なるのかを理解するとともに、そのような差異が生じた要因を考察する。
・発展途上国の人口問題や少子高齢化が進む現代の日本社会について、これまでの人類の経験に基づいた議論ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
講義形式

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	導入	経済成長や人口変動に関する基礎的な概念の説明
第２回	第 1 章 人口成長の空間と戦略（1）	第 1 節から第 4 節まで
第３回	第 1 章 人口成長の空間と戦略（2）	第 5 節から第 7 節まで
第４回	第 2 章 人口成長：選択と制約の間で（1）	第 1 節から第 4 節まで
第５回	第 2 章 人口成長：選択と制約の間で（2）	第 5 節から第 8 節まで
第６回	第 3 章 土地・労働・人口（1）	第 1 節から第 4 節まで
第７回	第 3 章 土地・労働・人口（2）	第 5 節から第 7 節まで
第８回	第 4 章 秩序と効率をめざして：近現代ヨーロッパと先進国の人口学（1）	第 1 節から第 4 節まで
第９回	第 4 章 秩序と効率をめざして：近現代ヨーロッパと先進国の人口学（2）	第 5 節から第 7 節まで
第 10 回	第 5 章 貧困国の人口（1）	第 1 節から第 4 節まで
第 11 回	第 5 章 貧困国の人口（2）	第 5 節から第 7 節まで
第 12 回	第 6 章 将来展望（1）	第 1 節から第 3 節まで
第 13 回	第 6 章 将来展望（2）	第 4 節から第 6 節まで
第 14 回	第 6 章 将来展望（3）	第 7 節から第 9 節まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にテキストの当該部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
マッシモ リヴィ-バッチ（2014）『人口の世界史』東洋経済新報社 2800 円+税

【参考書】
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
和田光平（2006）『Excel で学ぶ人口統計学』オーム社
鬼頭宏（2000）『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験の結果を 100 %の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
なし

経済史B（2016年度以降入学生、2単位）
経済史（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

攝津　斉彦

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロバート C アレン（2012）『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版をテキストに、現代の世界経済の特徴を歴史的視点もしくは経済史的視点から理解する。

【到達目標】
・経済成長のメカニズムを理解する。
・なぜ世界には豊かな国と貧しい国が存在するのかを、各国の歴史的経験の多様性をふまえつつ理解する。
・最初の工業化国であるイギリスに、日本を含めた他の後発国がどのように追いついていったのかを理解した上で、今日の発展途上国が先進国にキャッチアップしていくためにはどうすれば良いのかを考える。

【授業の進め方と方法】
講義形式

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	経済成長モデルにかんする簡単な説明
第 2 回	第 1 章 大いなる分岐	経済成長の国際比較
第 3 回	第 2 章 西洋の勃興	15 世紀に始まる第 1 次グローバル化の意義
第 4 回	第 3 章 産業革命	産業革命はなぜイギリスで始まったのか
第 5 回	第 4 章 工業化の標準モデル	アメリカとドイツがどのようにイギリスにキャッチアップしたのか
第 6 回	第 5 章 偉大なる帝国	インドの工業化はなぜ失敗したのか
第 7 回	第 6 章 南北アメリカ（1）	南北アメリカの経験
第 8 回	第 6 章 南北アメリカ（2）	南北格差の要因
第 9 回	第 7 章 アフリカ（1）	アフリカ諸国の経験
第 10 回	第 7 章 アフリカ（2）	なぜアフリカは貧しいのか
第 11 回	第 8 章 後発工業国と標準モデル（1）	帝政ロシアとラテンアメリカの経験
第 12 回	第 8 章 後発工業国と標準モデル（2）	戦前期日本の経験
第 13 回	第 9 章 ビッグプッシュ型工業化（1）	ソ連と日本の経済成長
第 14 回	第 9 章 ビッグプッシュ型工業化（2）	東アジアの奇跡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
ロバート C アレン（2012）『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版 1900 円+税

【参考書】
猪木武徳（2009）『戦後世界経済史』中公新書
大塚啓二郎（2014）『なぜ貧しい国はなくならないのか』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験の結果を 100 %の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
なし

経済史A（2016年度以降入学生、2単位）
経済史（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

長原　豊

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大摑みにできるようになること。
(2) またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【授業の進め方と方法】
1 大テーマ毎に「レジュメ」を配布する。
2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	歴史（学）と経済史	経済史が歴史をどのように「切り取る」かを伝える。
2	経済史と経済学	経済学が経済史をどのように「切り取る」かを伝える。
3	史実と理論	「史実」と「理論」がどのように「結託」するかを議論する。
4	大航海時代の意義 (1)	世界市場の「形成」の大枠を説明する。
5	大航海時代の意義 (2)	世界市場の「変化」の大枠を説明する。
6	西欧と「その残余」としての「東洋」	世界市場が捉えた「その他」の世界としての「東洋」の意味を総括的に整理する。
7	世界市場と「商人」資本	第 6 回までの講義を「商人」という視点から総括する。
8	出発点としての中世西欧の経済構造	共同体という経済的仕組みとその解体の過程を跡づける。
9	転換点としての「オランダ」	「オランダ」の破壊力を商業− 流通と金融の 2 点から整理する。
10	「オランダ的なもの」と「イングランド的なもの」	産業社会の担い手として、ミ商人資本から産業資本への移行過程をモデル的理解を深化させる。
11	「イングランド的なもの」の理論的解明	第 10 回の講義の理論的「意義」を整理する。
12	「産業」資本は、歴史的には、何を意味するのか？	「イングランド」の「特殊性」と「普遍性」を資本という観点から説明する。
13	「産業」資本の世界システムとは何か：経済史Bのために	経済史Bの冒頭で講義される「自由主義世界」を「予習」する。
14	総括と質問日	講義の総括を行い、不明な点のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書のタイトルに「経済史」という文字が入っている書籍を少なくとも 1 冊は読みとおし、経済史へのそれぞれのイメージを作る。

【テキスト（教科書）】
毎回授業でレジュメを配布する。

【参考書】
金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（記述方式）によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
前回担当していない。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

経済史B（2016年度以降入学生、2単位）
経済史（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

長原　豊

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大摑みにできるようになる。
(2) またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
1 大テーマ毎に「レジュメ」を配布する。
2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自由主義世界の経済史的構造 (1)	1820 年代以降の世界の構造を整理する。
2	自由主義世界の経済史的構造 (2)	自由主義世界における「イングランド」の「意味」を確認する。
3	自由主義世界の経済史的構造 (3)	自由主義世界の基軸である「金本位制」の定着について整理する。
4	産業構造の基本 (1)	「先発国」イングランドにおける「典型」性と「特殊」性を整理する。
5	産業構造の基本 (2)	第 4 回講義で定義した「先発国」という視点から「後発国」の意味を整理する。
6	近代における景気循環 (1)	1825 年恐慌以降の景気循環と成長を統計的に整理する。
7	近代における景気循環 (2)	景気循環の「世界性」を統計的に整理する。
8	近代における景気循環 (3)	景気循環の「変質」を統計的に整理する。
9	資本制「近代」とは	近代「世界」の構造の図式的理解の確認。
10	自由主義世界の転換 (1)	19 世紀末大不況と景気循環の変質について整理する。
11	自由主義世界の転換 (2)	世界市場の構造変化と国民経済について整理する。
12	「長い 20 世紀」	第 1 次世界大戦への過程を遡及的に整理し、「20 世紀」を定義する。
13	21 世紀を準備したモーメント	Pax Britannica から Pax Americana への以降を把握する。
14	経済史 B の総括と質問日	総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書のタイトルに「現代世界経済」という文字が入っている書籍を少なくとも 1 冊は読みとおし、現代世界の経済史へのそれぞれのイメージを作る。

【テキスト（教科書）】
毎回授業でレジュメを配布する。

【参考書】
金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（記述方式）によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
前回担当していない。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

統計学A（2016年度以降入学生、2単位）
統計学（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

菅　幹雄

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済統計、記述統計について講義を行う。

【到達目標】
経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニークを学習する。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。講義はテキストに沿って行う。第１～８回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第１回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第２～４回は産業ベースの統計、第５～７回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第８回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第９～１３回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニークを学ぶ。そして第１４回に記述統計から推測統計（統計学 B）への橋渡しを行う。レポートを３回行う。試験はマークシート方式で、教科書・ノート・電卓は持ち込み可である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）	経済センサス
3	経済統計（3）	ビジネスサーベイ
4	経済統計（4）	産業連関表
5	経済統計（5）	国勢調査
6	経済統計（6）	家計調査
7	経済統計（7）	消費者物価指数
8	経済統計（8）	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム
10	記述統計（2）	平均
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計（6）	記述統計から推測統計へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では統計学の説明に数学を用いるが、数学が苦手な学生は、高校の数学の教科書をよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8 回）3564 円

【参考書】
福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9 回目以降）2592 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の板書が見にくいという指摘があり、PowerPoint を用いた講義を行なう。

統計学B（2016年度以降入学生、2単位）
統計学（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

宮脇　典彦

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
偶然変動を伴う経済データの分析を行うときに，枝葉の部分は捨象して本質的な関係だけをとりだした「統計モデル」を作成し，このモデルを通じて経済の動きをみる，という手法が頻繁に用いられます。
本講義では，「統計学A」で学んだ記述統計の内容を発展させ，データを解析していく上で不可欠であり，統計モデルによる分析の支えとなる確率論と統計学の基本的な考え方について解説していきます。

【到達目標】
確率論と統計学の基礎知識を身につけ，実際に統計データを用いた分析ができるようになること。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進めます。内容の理解を深めるため，リアクションペーパー等の提出を求めることがあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	確率論と統計学への招待
第 2 回	確率（1）	確率の概念，標本空間と確率
第 3 回	確率（2）	条件付き確率と独立性
第 4 回	確率変数とその分布（1）	確率変数と確率分布
第 5 回	確率変数とその分布（2）	確率分布の特性値（期待値と分散，標準偏差）
第 6 回	確率変数とその分布（3）	多次元の確率変数と特性値
第 7 回	離散的な確率分布	ベルヌーイ分布と二項分布，ポアソン分布
第 8 回	連続的な確率分布	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理，母集団と標本	中心極限定理と正規近似，母集団からの標本抽出
第 10 回	正規母集団からの標本分布	カイ２乗分布と t 分布
第 11 回	推定（1）	正規母集団における母平均の推定
第 12 回	推定（2）	二項母集団における母集団比率の推定
第 13 回	検定（1）	検定の手続と正規母集団における母平均の検定
第 14 回	検定（2）	二項母集団における母集団比率の検定・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の内容はいずれも完結したものとなっていますが，それぞれは連続した積み上げ方式で体系化された内容となっています。そのため，欠席するとそれ以降の内容についていけなくなりますので，受講者はくれぐれも欠席しないようにしてください。
また、予習、復習をきちんと行い、各授業項目の流れをきちんとフォローするようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】
田中勝人著「基礎コース 統計学　第 2 版」，新世社（2010 年）

【参考書】
豊田利久他著「基本統計学 第３版」，東洋経済新報社（2015 年）
森棟公男他著「改訂版 統計学」，有斐閣（2015 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（100%) によって評価します。
なお、リアクションペーパー等はあくまでも受講者の理解を確認するために行うものであり、その結果は直接評価の対象とはしません。

【学生の意見等からの気づき】
数学的に難解にならないよう，例えば微分は傾き，積分は面積に置き換えて説明するようにしています。また，必要に応じて Excel を用いることで，実践的な授業になるよう努めます。

コンピューター入門A（2016年度以降入学生、2単位）
コンピュータ入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

小沢和浩、新村隆英、安藤富貴子、松田修三、坂部創一、近藤佐保子、高橋信行、斉藤典明

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
③ データの作成や検索方法等を習得する。
④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【授業の進め方と方法】
講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、イ ンターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。
以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	システムの概要	オペレーティングシステムとファイル操作を理解する。
第 2 回	文書作成ソフトの使い方	文書作成ソフトの利用法を理解する。
第 3 回	定型文書の作成 (1)	定型文書の作成と画像データの利用と加工。
第 4 回	定型文書の作成 (2)	ビジネス文書や英文の文書の作成。
第 5 回	定型文書の作成 (3)	はがきサイズの文書及びレポート形式の文書の作成。
第 6 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成と HTML 言語。
第 7 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション資料作成システムの利用と資料作成用方法。
第 8 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種種の機能とその利用法。
第 9 回	データの読込みと簡単な計算	テキストデータの利用と整形法。
第 10 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法。
第 11 回	ヒストグラムとグラフ	ヒストグラムの作成と複合グラフ・積上げ棒グラフ等の作成。
第 12 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順。
第 13 回	サンプルデータからの情報抽出	サンプルデータからの各種統計量の抽出。
第 14 回	春学期最終課題	春学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成

【テキスト（教科書）】
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、￥1,900 ＋税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】
必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】
基本的には学期末に実技を伴う試験、あるいはそれに相当するレポートを課す (50%)。また、ほぼ毎回の課題（または宿題）の提出 (50%) が重視される。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【その他の重要事項】
セキュリティ上，学生自身の情報機器を演習室内で使うことは不可

コンピューター入門B（2016年度以降入学生、2単位）
コンピュータ入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

小沢和浩、新村隆英、安藤富貴子、松田修三、坂部創一、近藤佐保子、高橋信行、斉藤典明

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】
① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
③ データの作成や検索方法等を習得する。
④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【授業の進め方と方法】
講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に，アプリケーションソフトの 開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法，及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成

【テキスト（教科書）】
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、￥1,900 ＋税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】
必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】
基本的には学期末に実技を伴う試験、あるいはそれに相当するレポートを課す (50%)。また、ほぼ毎回の課題（または宿題）の提出 (50%) が重視される。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
セキュリティ上，学生自身の情報機器を演習室内で使うことは不可

ビジネス数学入門A

廣川　みどり

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経ていない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人にはビジネス数学としての使い方の修得をめざす。

【到達目標】
経済学部の講義を受講するにあたって基本的な数学の知識と考え方を習得し、簡単な練習問題が解けるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済・社会を数学を用いて考えることの意味、モデルという発想、いまさら聞けないことの確認、動機づけ。
2	関数入門（数と数との関係を考える）	変数と定数、直線の式とグラフ、切片、傾きの意味、軸の見方、増加関数、減少関数。
3	関数を使ってみる（ものの値段の決まり方）	ふたつの関数の交点を求める、需要／供給曲線、売上額をグラフで見る、値段を高くしたら売上は上がるか下がるか？
4	集団を代表する数	和、平均値、加重平均、期待値、最頻値、中央値、GDP、日経平均など。
5	比率によってものごとをとらえる	失業率、利子率、インフレ率（おまけ：食塩水の濃度問題）
6	直線的でない関係	反比例、べき乗、平方根に対応する関数、ピタゴラスの定理、2 次関数、2 次関数の解の公式。
7	中間のまとめと復習	第 2 回～第 6 回の内容のふりかえりと演習。応用問題。
8	逆関数	因果関係、みかけの関係、逆関数の考え方
9	お金を銀行に預けたら (1)	単利と複利の考え方、経済成長、割引現在価値、指数関数
10	お金を銀行に預けたら (2)	1 万円を貯金、何年で 2 万円になる？ 対数関数の考え方
11	かけ算と足し算、割り算と引き算	指数法則、対数法則
12	お金を銀行に預けたら (3)	（等比）数列の考え方：預けたお金は、1 年後、2 年後、3 年後・・・、どれだけ増えていく？
13	お金を銀行に預けたら (4)	級数（等比数列の和、無限等比級数の和）の考え方：毎年積み立てたお金は 10 年後にはどれだけになる？
14	まとめと復習	全回（主に第 8 回～第 13 回）の内容のふりかえりと演習、応用問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の数学の教科書を読み返すこと。また、中学・高校で数学が不得意だった人は、下に紹介する参考書などの練習問題を解いて復習すること。数学にも、スポーツ同様、訓練が必要となる。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
白石俊輔『経済学で出る数学　ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）・平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】
前半部の内容は比較的易しめだが、気を抜いて、指数関数、対数関数でつまづく学生が一定割合見受けられる。こちらでも気をつけておくが、履修者も気を引き締めて臨んでほしい。

ビジネス数学入門B

廣川　みどり

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経ていない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人にはビジネス数学としての使い方の修得をめざす。

【到達目標】
数学的な論理、微分や確率の知識がどのように経済学やビジネスに応用されているか説明できるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「ビジネス数学入門 A」の復習と動機づけ。
2	限界と平均	変化をとらえる「限界」の考え方、限界と平均との関係。
3	微分の考え方	一次関数の復習、曲がったモノでも直線と見なしてしまおう、限界＝微分＝傾き。
4	簡単な微分	べき関数の復習、べき関数の微分、微分の線型性。
5	最大値と最小値	2 次関数の復習、微分係数と傾きの関係、増減表の作成、独占企業の利潤最大化問題を解く。
6	もっと微分	合成関数の考え方と微分、積の微分、代表的な関数の微分。
7	さらに微分	効用と消費者の行動。
8	中間のまとめと復習	第 2 回～第 7 回の内容のふりかえりと演習。応用問題。
9	集合・論理入門	数の集まりをひとくくりで考えてみる (偶数、3 の倍数など)、ベン図の作成、対偶の考え方。
10	確率の考え方	簡単な確率の求め方。
11	期待値の考え方	宝くじはいくら儲かる?
12	期待値と期待効用	サンクトペテルブルクのパラドックス：人は期待値で行動を選択する？
13	リスクについての考え方	保険会社の保険料/保険金の設定。
14	まとめと復習	全体（主に第 9 回～第 13 回）の復習、応用問題、この講義の先にあるもの。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の数学の教科書を読み返すこと。また、中学・高校で数学が不得意だった人は、下に紹介する参考書などの練習問題を解いて復習すること。数学にも、スポーツ同様、訓練が必要となる。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
白石俊輔『経済学で出る数学　ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年。また、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）・平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

英語で学ぶ経済学入門 A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter1、Chapter4、Chapter5、Chapter6、Chapter7 を取り上げます。

【到達目標】
経済学がどのような事象を分析する学問であるかを理解する。経済学的な考え方に基づいて、需要曲線と供給曲線を導出できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	The Scope of Economics
2	The Principles and Practice of Economics	The Principles of Economics
3	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Buyers Behave?
4	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Sellers Behave?
5	Demand, Supply, and Equilibrium	Supply and Demand in Equilibrium
6	Consumers and Incentives	Representing Preferences with Indifference Curves
7	Consumers and Incentives	Price Changes and Income Changes
8	Consumers and Incentives	Demand Curve and Consumer Surplus
9	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
10	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
11	Sellers and Incentives	Supply Curve and Producer Surplus
12	Sellers and Incentives	From the Short Run to the Long Run
13	Sellers and Incentives	Long-Run Competitive Equilibrium
14	Perfect Competition and the Invisible Hand	Perfect Competition and Efficiency

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストやスライドを勉強して復習を行う。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

英語で学ぶ経済学入門 B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter8、Chapter9、Chapter10、Chapter11 を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、貿易や公共財、租税と規制が現実経済に与える影響を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Trade	Comparative Advantage
2	Trade	Trade Between Countries
3	Trade	Arguments Against Free Trade
4	Externalities and Public Goods	Externalities
5	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
6	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities
7	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Regulation
8	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Government Failures
9	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Equity versus Efficiency
10	Markets for Factors of Production	The Competitive Labor Market
11	Markets for Factors of ProductionMarkets for Factors of Production	The Supply of Labor
12	Markets for Factors of Production	Wage Inequality
13	Monopoly	Introducing a New Market Structure
14	Monopoly	The Monopolist's Problem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストやスライドを勉強して復習を行う。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

英語で学ぶ経済学入門 A

森田　裕史

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解する。
本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter1、Chapter4、Chapter5、Chapter6、Chapter7 を取り上げます。

【到達目標】
経済学がどのような事象を分析する学問であるかを理解する。
経済学的な考え方に基づいて、需要曲線と供給曲線を導出できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	The Scope of Economics
2	The Principles and Practice of Economics	The Principles of Economics
3	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Buyers Behave?
4	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Sellers Behave?
5	Demand, Supply, and Equilibrium	Supply and Demand in Equilibrium
6	Consumers and Incentives	Representing Preferences with Indifference Curves
7	Consumers and Incentives	Price Changes and Income Changes
8	Consumers and Incentives	Demand Curve and Consumer Surplus
9	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
10	Sellers and Incentives	The Sellers's Problem
11	Sellers and Incentives	Supply Curve and Producer Surplus
12	Sellers and Incentives	From the Short Run to the Long Run
13	Sellers and Incentives	Long-Run Competitive Equilibrium
14	Perfect Competition and the Invisible Hand	Perfect Competition and Efficiency

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 次関数のグラフの描き方、連立方程式の解法といった最低限の数学的な知識を身につけて、本講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と期末試験の点数 (70%) に基づいて、成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

英語で学ぶ経済学入門 B

森田　裕史

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。
本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter8、Chapter9、Chapter10、Chapter11、Chapter12 を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、貿易や公共財、租税と規制が現実経済に与える影響を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Trade	Comparative Advantage
2	Trade	Trade Between Countries
3	Trade	Arguments Against Free Trade
4	Externalities and Public Goods	Externalities
5	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
6	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities
7	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Regulation
8	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Government Failures
9	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Equity versus Efficiency
10	Markets for Factor of Production	The Competitive Labor Market
11	Markets for Factor of Production	The Supply of Labor
12	Markets for Factor of Production	Wage Inequality
13	Monopoly	Introducing a New Market Structure
14	Monopoly	The Monopolist's Problem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 次関数のグラフの描き方、連立方程式の解法といった最低限の数学的な知識を身につけて、本講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と期末試験の点数 (70%) に基づいて、成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

データで知る世界経済A（2016年度以降入学生、2単位）
世界の経済（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

馬場　敏幸

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経済学科の入門講義として、「世界経済」の現状をオンラインデータベースの最新のデータによって理解を深めることを目的とする。本講義で使用するデータ検索・抽出は、主に世銀データベースを利用するが、必要に応じて様々なデータベースを紹介する。

【到達目標】
世界の現状について、様々なデータベースからデータを抽出することを目指す。さらに得られたデータをもとに世界の国々の現状を比較検討し、分析を行えるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
各講義で以下の流れで講義を行う。１．基本用語や概念の説明 → ２．使用するデータベースの説明 → ３．データ検索 → ４．得られたデータを用いて考察。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方、様々なオンラインデータベースの紹介
第２回	所得と経済成長１	一人あたり GDP、 Income Group
第３回	所得と経済成長２	健康、環境、開発
第４回	人口・面積	人口、人口構成、首都人口、面積
第５回	経済構造	農業、製造業、サービス業
第６回	グローバル化１	直接投資
第７回	グローバル化２	HS コードと国連商品貿易統計データベースの使い方
第８回	グローバル化３	国際競争力分析
第９回	グローバル化４	移民と海外送金
第10回	科学技術	研究者、研究費、技術貿易
第11回	国際収支・金融・財政	国際収支、外貨準備高、マネーストック、財政収支
第12回	世界経済の見通し	世界経済の見通し
第13回	講義のまとめ	講義のまとめ
第14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースの取り扱いに慣れるため、学習したデータベースを用いて様々な検索をすることを薦める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義中に使用する主なオンラインデータベースなどは以下。世界銀行オープンデータ、IMF World Economic Outlook Databases 2017, 国連データ、国連商品貿易統計データベース 、OECD stat、ILO stat、世界の統計、外務省各国情報、JETRO 各国情報。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語が集中力の妨げるとの意見が多い。私語は注意して自粛してもらうようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。このため PC 持参を強く推奨する。

【その他の重要事項】
本講義は A,B より構成される。A はデータベースの取り扱いとデータ検索に慣れ親しむことに主眼を置く。B はデータベースの取り扱いにある程度習熟していることを前提として講義を進める。そのため、A,B ともに履修することを推奨する。

データで知る世界経済B（2016年度以降入学生、2単位）
世界の経済（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経済学科の入門講義として、「世界経済」の現状をオンラインデータベースの最新のデータによって理解を深めることを目的とする。本講義で使用するデータ検索・抽出は、主に世銀データベースを利用するが、必要に応じて様々なデータベースを紹介する。

【到達目標】
世界の現状について、様々なデータベースからデータを抽出することを目指す。さらに得られたデータをもとに世界の国々の現状を比較検討し、分析を行えるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
各講義で以下の流れで講義を行う。１．基本用語や概念の説明 → ２．使用するデータベースの説明 → ３．データ検索 → ４．得られたデータを用いて考察。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方、政府開発援助、ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標
第２回	貧困	一人あたり GDP、貧困ライン、貧困率・ギャップ、ジニ係数
第３回	飢餓	企栄養、飢餓率、発育、食料生産
第４回	保健	平均寿命、出生率、妊婦死亡率、栄養失調割合、HIV 感染率
第５回	教育	教育、教員、識字率
第６回	ジェンダー	平均余命、就学率、失業率、労働、平等率
第７回	水と衛生	世界の水利用、衛生
第８回	エネルギー	電力アクセス、電力利用
第９回	雇用・労働	雇用、失業、雇用創出
第10回	安全	犯罪、汚職
第11回	インフラ・運輸	インフラ、輸送、通信
第12回	環境・気候変動	二酸化炭素排出量、森林面積
第13回	講義のまとめ	講義のまとめ
第14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースの取り扱いに慣れるため、学習したデータベースを用いて様々な検索をすることを薦める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
A と同様

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
私語は注意して自粛してもらうようにする。

【学生が準備すべき機器他】
PC 持参を強く推奨する。

【その他の重要事項】
本講義は A,B より構成される。A はデータベースの取り扱いとデータ検索に慣れ親しむことに主眼を置く。B はデータベースの取り扱いにある程度習熟していることを前提として講義を進める。そのため、A,B ともに履修することを推奨する。

Japan and the Global Economy A

倪　彬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Japan's economy witnessed a fast growth after world war II. But ever since 1989, Japan's imploding stock bubble threw the country into a deep financial crisis, resulting in the famous "lost decades". And the stagnation continues especially after the world economic crisis hit in 2008. This will be one-year course. In the 1st semester, we will mainly take a macroeconomic perspective, and look at the reality and problems of Japanese economy from 1980s in a big picture, such as economic growth, financial and monetary policies, "the lost decade" and Abenomics.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	The general introduction of this course
2	GDP, demand and supply, and other basic concepts	To understand the definition of GDP, equilibrium and other basic economic terms
3	Rise of Japanese economy after World War 2	How Japanese economy developed after the war
4	The growth engine and Japan's "economic miracle"	To explain the Japan's fast economic growth using growth theory
5	National savings and economic growth in Japan	How Japan's economic growth can be explained by national savings
6	Japan's financial policy	To introduce the basic fiscal policies of Japan, from the perspective of investment and savings (taxation, government expenditure)
7	Japan's monetary policy	To introduce the basic monetary policies of Japan (interest rate, money supply)
8	The lost decade (1)	How the bubble in Japan was formed?
9	The lost decade (2)	The burst of the bubble and the stagnation of the economy in Japan
10	Subprime loan and world financial crisis	How the world financial crisis was triggered by subprime loan problem (in comparison to Japan's bubble economy)
11	From inflation to deflation: does Abenomics work?	How deflation hurt Japan and three arrows of Abenomics
12	Appreciation of yen and balance of payment & Japanese economy	Introduction of exchange rate and how that affects the Japanese economy
13	Japan's labor market	Introduction of the history and trend from lifetime to "irregular" employment, from a macro perspective
14	Japan's energy economy and sustainable development	How Japan's energy economy and sustainable development have developed

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out these teaching materials before each class.

【参考書】
Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】
(1)participation 20%
(2)homework 20% (two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the first time for me to teach this class.

Japan and the Global Economy B

倪　彬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will start by investigating how Japan's international trade and foreign direct investment evolve with the development of globalization, followed by discussion on some of the latest topics concerning Japan's integration with the world economy.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the contents to be covered in the second semester
2	Japan's trade with	Other countries Why Japan promoted export and the benefit of trade liberalization
3	Japanese trade policies and the impact on world economy	The export and import policies that Japan adopted and its impact on world economy: the case of TPP
4	Firm structure and recruiting system in Japan	What does a firm consist of ? What's the recruiting system in Japan like compared to other countries? The case of Toyota multinational firms
5	The basics of FDI and Japanese	To introduce the types of FDI and other basic knowledge of FDI
6	"Hollowing out" of Japan' s manufacturing sector through oversea FDI	Japan's outward FDI and its connection with "hollowing out" impact: the case of Manga industry
7	Doing business in Japan	To introduce the benefits and difficulties of doing business in Japan: the case study of TripAdvisor
8	Japan's recent economic stagnation	The declining economic growth is thought to be caused by insufficient domestic consumption: what to do
9	Shrinking population and immigration policy	How Japan can increase its working force, e.g. by using the immigration policy: the case of Germany
10	Ageing problem in Japan	The problem lies in the unbalanced pension system: how Japan can learn from other developed economies
11	ICT and innovation	How ICT promotes trade and FDI through the channel of innovation: case study (by JETRO report)
12	Structural reform of Japan	Structural reforms are vital for Japan, especially for agricultural farmers small and medium-sized firms
13	Sharing economy in Japan	The development and prosperity of sharing economy in Japan, in comparison to China
14	EU, ASEAN and Japan's economic integration	How Japan can learn from EU and ASEAN to be integrated into global economy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out the teaching materials before each class.

【参考書】
Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】
(1)participation 20%
(2)homework 20% (two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the first time for me teach this course.

Practical Economics A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter1 から Chapter12 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Is Facebook free?
2	Economic Methods and Economic Questions	How much more do workers with a college education earn?
3	Economic Methods and Economic Questions	How much do wages increase when an individual is compelled by law to get an extra year of schooling?
4	Optimization: Doing the Best You Can	How does location affect the rental cost of housing?
5	Demand, Supply and Equilibrium	How much more gasoline would people buy if its price were lower?
6	Consumers and Incentives	Would a smoker quit the habit for $100 per month?
7	Sellers and Incentives	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?
8	Perfect Competition and the Invisible Hand	Can markets composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?
9	Trade	Will free trade cause you to lose your job?
10	Externalities and Public Goods	How can the queen of England lower her commute time to Wembley Stadium?
11	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	What is the optimal size of government?
12	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	The Efficiency of Government Versus Privately Run Expeditions
13	Markets for Factors of Production	Do Wages Really Go Down if Labor Supply Increases?
14	Markets for Factors of Production	Is there discrimination in the labor market?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読みます。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

Practical Economics B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter13 から Chapter27 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Monopoly	Can a Monopoly Ever Be Good for Society
2	Game Theory and Strategic Play	Is there value in putting yourself into someone else's shoes?
3	Oligopoly and Monopolistic Competition	How many firms are necessary to make a market competitive?
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Airline Price Wars Collusion: One Way to Keep Prices High
5	Auctions and Bargaining	Who determines how the household spends its money?
6	Trade-Offs Involving Time and Risk	Time and Risk
7	Basic Finance	The Basics of Business and Finance Part 1
8	Basic Finance	The Basics of Business and Finance Part 2
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What is the total market value of annual economic production?
10	Aggregate Incomes	Inequality
11	Economic Growth	Japan's Post-World War II Economic Growth
12	The Monetary System	Hyperinflation
13	Short-Run Fluctuations	What Caused the Recession of 2007-2009?
14	Countercyclical Economic Policy	How Much Does Government Expenditure Stimulate GDP?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読みます。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

企業と経済・基礎A（2016年度以降入学生、2単位）
企業と経済・基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

河村　真

開講時期：**春学期**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は、企業、消費者、政府を含めた経済全体の仕組みを、マクロ的に分析する体系化された学問であるが、この講義は、特に「現代ビジネス学科」1年生向けに、企業とビジネス活動という切り口を中心として、理論と実際の両面から、経済学入門を提供するものである。

【到達目標】
受講生は、講義を通じてマクロの基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対しての問題意識を持つようになることが期待される。なお，2016 年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため，2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【授業の進め方と方法】
教室での講義授業の形態で進める。春学期は、「マクロ経済学」入門を講義し、特に企業と日本経済（マクロ経済）の関係を明らかにすることを目的とする

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅰ	GDP、実質 GDP および産業別生産額
第 2 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅱ	物価統計と物価指数の作成例
第 3 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅲ	国民所得の分配の内訳としての分配勘定
第 4 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅳ	消費、投資などを項目として含む支出勘定
第 5 回	消費の水準の変化は何が原因か？　Ⅰ	GDP と消費の相関、限界消費性向
第 6 回	消費の水準の変化は何が原因か？　Ⅱ	金利、物価水準などの消費への効果
第 7 回	投資の水準の変化は何が原因か？　Ⅰ	GDP の成長の投資への効果：加速度原理、利潤原理
第 8 回	投資の水準の変化は何が原因か？　Ⅱ	機会費用としての金利の投資への効果：投資関数
第 9 回	GDP 決定の理論Ⅰ	「45 度線」分析の紹介
第 10 回	GDP 決定の理論Ⅱ	投資および政府支出の乗数効果、なぜこれらは 1 より大きい？
第 11 回	政府支出増加と減税	政府支出乗数と租税乗数
第 12 回	需要- 供給曲線を用いた GDP および物価水準同時決定の理論	需要・供給曲線を用いて決める GDP 及び物価の均衡水準
第 13 回	財政政策、金融政策の GDP および物価水準への効果	需要- 供給曲線を用いた政策の GDP 及び物価の水準の変化の予測
第 14 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅴ	金利および失業率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度、および復習を通じて行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】
講義内で適宜紹介したいと思う。要望があれば、基本的な経済学入門の教科書を数冊、講義の際に持参するので、手にとって確かめることができるようにしたいと思う。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績に従って、評価をつけることにする。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
大学 1 年次の基本科目ということもあり、授業内容を丁寧に、そして適切に講義し、到達目標の達成につなげていきたい。また大教室授業ということもあり、教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

企業と経済・基礎B（2016年度以降入学生、2単位）
企業と経済・基礎（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

砂田　充

開講時期：**秋学期**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期 A の講義に続いて，秋学期 B の講義では，「現代ビジネス学科」1 年生が企業のビジネス活動と社会との関わりという切り口で理論と実際の両面から「ミクロ経済学」の基礎的な考え方や分析手法を学習する。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への橋渡しを行い，今後，経済学を体系的に学ぶために最低限必要となる知識を習得する。

【到達目標】
受講生は，講義を通じてミクロ経済学やゲーム理論の基礎理論を理解し，同時に現実の様々な経済・社会活動に対して経済学的な視点からの問題意識を持つことが期待される。なお，2016 年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため，2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【授業の進め方と方法】
教室での講義授業の形態で進める。パワーポイント及び黒板を使っての講義が主になる。受講生は内容をノートに取り，しっかりと復習することが望まれる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学とは？
2	経済学のための数学基礎	関数，グラフ，微分
3	需要と供給	需要曲線と供給曲線，均衡価格・数量
4	弾力性	需要の価格弾力性と所得弾力性，供給の価格弾力性
5	意思決定	選択と最適化，トレード・オフ，機会費用とサンク・コスト
6	消費者理論①	予算制約
7	消費者理論②	選好と効用
8	消費者理論③	最適消費量の決定，需要関数の導出
9	生産者理論①	生産関数と費用最小化
10	生産者理論②	企業の費用構造
11	生産者理論③	費用関数と利潤最大化，供給曲線の導出
12	市場均衡と経済厚生	消費者余剰，生産者余剰，総余剰，余剰分析
13	不完全競争	独占と寡占，市場支配力
14	ゲーム理論	囚人のジレンマ，戦略形ゲーム，ナッシュ均衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ノートおよび配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。配布資料は「授業支援システム」にアップされるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』（有斐閣，2013 年），クルーグマン・ウェルス（大山他訳）『クルーグマン　ミクロ経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2017 年），マンキュー（足立他訳）『マンキュー経済学Ⅰ：ミクロ編』（東洋経済新報社，2013 年），レヴィット・グールズビー・サイヴァーソン（安田他訳）『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』（東洋経済新報社，2017 年）他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
1 年次の経済学の基本科目であるので、授業内容を丁寧に、適切に講義し、目標達成につなげていきたい。教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

簿記ＩA（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2010年度以降～2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

丸岡　惠梨子

開講時期：**春学期**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記は、企業が行う経済活動を記録するしくみです。本講義では、複式簿記の基本を学んでいきます。
会計や簿記の知識は、必要不可欠なビジネス・ツールであるといわれています。財務諸表を読み解き、活用する知識が重要となっている現代において、会計の基本的な考え方、複式簿記の基本的なしくみを理解しておくことが重要です。

【到達目標】
・複式簿記の基本を理解する。
・簿記一巡の手続きを理解する。
これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	簿記の目的と種類
第 2 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の基礎/貸借対照表
第 3 回	簿記の意義としくみ (2)	損益計算書/貸借対照表と損益計算書の関係
第 4 回	勘定と取引 仕訳と転記 (1)	勘定/取引の意義と種類/取引の 8 要素と結合関係 仕訳のルール
第 5 回	仕訳と転記 (2)	勘定への転記
第 6 回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類/仕訳帳への記入/仕訳帳から総勘定元帳への転記
第 7 回	試算表の作成	試算表の目的/試算表の種類
第 8 回	決算 (1)	決算の意義/決算の手続き一巡
第 9 回	決算 (2)	帳簿の締切り/繰越試算表の作成/財務諸表の作成
第 10 回	決算 (3)	精算表の意義/6 桁精算表の作成
第 11 回	現金・現金過不足	現金の意義と現金勘定/現金出納帳/現金過不足の意義と仕訳
第 12 回	当座預金・当座借越	当座預金と当座借越の処理/当座預金出納帳
第 13 回	小口現金	小口現金の処理/小口現金出納帳
第 14 回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当箇所を読んできてください。
ワークブックの演習問題を利用して、復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定簿記講義/3 級商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を用います。
渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック/3 級商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を用います。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験　80%
演習問題の提出　20%
※簿記資格の保有に対する優遇措置は取りません。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に問題演習の時間を取り，適宜，質問にも対応します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参してください。

簿記ＩB（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2010年度以降～2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

丸岡　惠梨子

開講時期：**秋学期**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記は、企業が行う経済活動を記録するしくみです。本講義では、複式簿記の基本を学んでいきます。
会計や簿記の知識は、必要不可欠なビジネス・ツールであるといわれています。財務諸表を読み解き、活用する知識が重要となっている現代において、会計の基本的な考え方、複式簿記の基本的なしくみを理解しておくことが重要です。

【到達目標】
・複式簿記の基本を理解する。
・簿記一巡の手続きを理解する。
これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	商品売買 (1)	3 分法のあらまし/諸掛・値引・返品
第 2 回	商品売買 (2)	仕入帳と売上帳
第 3 回	商品売買 (3)	商品有高帳の作成
第 4 回	売掛金と買掛金	売掛金と買掛金の意義/売掛金元帳と買掛金元帳/前払金・前受金
第 5 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金/未収入金・未払金/立替金・預り金/仮払金・仮受金/商品券・他店商品券
第 6 回	受取手形と支払手形 有価証券	手形の種類/約束手形/手形の裏書譲渡と割引/手形記入帳/金融手形 有価証券の取得と売却/利息と配当金
第 7 回	固定資産	有形固定資産の取得と売却/減価償却
第 8 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れと貸倒損失/貸倒れの見積もりと貸倒引当金の設定
第 9 回	資本金と引出金 税金	資本金が増加する取引/資本金が減少する取引/引出金/租税公課
第 10 回	収益と費用	収益および費用の見越し・繰延べ/消耗品費の処理
第 11 回	伝票	仕訳帳と伝票/3 伝票制/伝票の集計
第 12 回	財務諸表 (1)	決算と決算手続/試算表の作成/棚卸表の作成と決算整理事項
第 13 回	財務諸表 (2)	精算表の作成/財務諸表の作成
第 14 回	秋学期講義のまとめ	これまで学んだことの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当箇所を読んできてください。
ワークブックの演習問題を利用して、復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定簿記講義/3 級商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を用います。
渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック/3 級商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を用います。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験　80%
演習問題の提出　20%
※簿記資格の保有に対する優遇措置は取りません。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に問題演習の時間を取り，適宜，質問にも対応します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参してください。

簿記ＩA（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2010年度以降～2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

岸　牧人

開講時期：**春学期**

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記（複式簿記）は企業等が行う経済活動によって生じる経済価値の変動を二面的にとらえ，これを一定のルールに従って記録し，集計し，決算書を作成する一連のプロセスである。本講義では，決算書を作成するための技術を学ぶことを通じて，企業会計の特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
経済価値の変動を二面的にとらえる能力を身につけるとともに，決算書の作成過程を理解し，個々の取引を累積することによって実際に簡単な決算書を作成する技術を修得する。

【授業の進め方と方法】
各テーマごとに，講義に連動した書き込み式のプリントによって講義を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	複式簿記の意義と役割	複式簿記の基本的な意義について学習し，簡単な決算書を実際に作成してみる。
第 2 回	経済活動の二面性と仕訳	経済活動の二面性を見出す練習を行い，仕訳の法則について学習する。
第 3 回	仕訳と勘定記入	仕訳から総勘定元帳への転記方法について学習する。
第 4 回	決算手続	試算表の作成，決算振替仕訳，および各勘定の締め切りについて学習する。
第 5 回	精算表と貸借対照表，損益計算書の作成	6 桁式精算表の作成方法と貸借対照表および損益計算書の作成方法について学習する。
第 6 回	簿記一巡の手続	第 1 回から第 5 回までの学習内容について，練習問題を解くことによって簿記一巡の手続の理解を深める。
第 7 回	中間試験	第 6 回までの内容について中間試験を実施する。
第 8 回	商品売買取引（1）	分記法，総記法，三分法の特徴，長所，短所について学習する。
第 9 回	三分法における売上原価の算定方法	繰越商品勘定，仕入勘定，売上勘定の連携と，仕入勘定による売上原価の算定方法について学習する。
第 10 回	三分法を前提とした決算手続	三分法を前提とした商品売買取引の決算整理仕訳，決算振替仕訳，8 桁式精算表の作成方法について学習する。
第 11 回	商品売買取引（2）	商品の値引きと返品，仕入諸掛・売上諸掛の処理，および仕入帳と売上帳の記入方法について学習する。
第 12 回	商品売買取引（3）	商品有高帳の記帳方法について，先入先出法および移動平均法による記帳方法およびそれぞれの特徴について学習する。
第 13 回	現金預金取引	簿記上の「現金」と現金出納帳の記帳方法，および小口現金取引について学習する。
第 14 回	当座預金取引	当座預金取引について，小切手の処理方法，および当座預金出納帳の記帳方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級』（2018 年 4 月時点での最新版）

【参考書】
特に指定しないが，追加の練習問題を適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（3 回，30%），中間試験（30%），期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】
従来はプリントの授業支援システムへのアップを講義後に行っていたが，講義前にアップする。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁），プリントを綴じ込むためのファイル

【その他の重要事項】
経済学科の学生のみ受講可。

簿記ＩB（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2010年度以降～2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

岸　牧人

開講時期：**秋学期**

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各種取引の仕訳と勘定記入について学習します。資産，負債，純資産，収益，費用の変動を関連づけて捉えることを目的とします。

【到達目標】
日本商工会議所が主催する簿記検定試験 3 級合格レベルの能力を習得することを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義と演習問題の繰り返しによって進めます。講義では書き込み式のレジュメを配付します。また，適宜小テストを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現金過不足	現金過不足の処理方法について学習します。
第 2 回	手形取引（1）	約束手形の振出しと受取りに関する会計処理，手形記入帳の記入方法について学習します。
第 3 回	手形取引（2）	手形の裏書と割引に関する会計処理について学習します。
第 4 回	有価証券取引（1）	有価証券の種類，取得時の処理方法について学習します。
第 5 回	有価証券取引（2）	有価証券の売却，期末評価に関する会計処理について学習します。
第 6 回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得と減価償却に関する会計処理について学習します。
第 7 回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の売却に関する会計処理，期中取得や取得日の異なる固定資産の減価償却について学習します。
第 8 回	中間試験	第 1 回～第 7 回までの内容について中間試験を実施します。
第 9 回	債権の貸倒れと貸倒引当金	債権の貸倒時の会計処理，貸倒引当金の設定について学習します。
第 10 回	その他の債権債務取引	未払金と未収金，前払金と前受金，立替金と預り金，商品券と他店商品券の処理方法について学習します。
第 11 回	収益・費用の見越し・繰り延べ，消耗品の処理	前払費用，前受収益，未払費用，未収収益の処理方法，及び消耗品の処理方法について学習します。
第 12 回	租税公課，資本金と引出金	租税公課，資本金と引出金の処理方法について学習します。
第 13 回	8 桁式精算表の作成	決算整理仕訳と 8 桁式精算表の作成方法について学習します。
第 14 回	伝票会計	伝票から仕訳を行う方法について学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級』（2018 年 4 月時点での最新のバージョン）

【参考書】
特に指定しないが，追加の演習問題を適宜配付する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（3 回，30%），中間試験（30%），期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】
従来はプリントの授業支援システムへのアップを講義後に行っていたが，講義前にアップする。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁），プリントを綴じ込むためのファイル

【その他の重要事項】
経済学科の学生のみ受講可。

簿記ＩA（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

福島　一矩

開講時期：**春学期**

※現代ビジネス学科生Ｉ・Ｋ・Ｌクラスのみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営状態を把握するうえで重要な情報源のひとつに会計情報があります。その会計情報がもつ意味を理解していくためには，その前提として会計情報がいかに作られるのかという簿記の知識をもっておくことが有用です。この授業では，簿記，とくに複式簿記の基本的な構造，手続きについて学びます。

【到達目標】
複式簿記の構造ならびに簿記一巡の手続きを理解することを目標とします。難易度としては，日商簿記３級程度を想定しています。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	簿記の目的・意義，簿記の種類
第２回	簿記の基礎（1）	記帳のルール
第３回	簿記の基礎（2）	簿記一巡の手続き
第４回	商品売買（1）	商品売買取引，記帳方法
第５回	商品売買（2）	現金による売買，掛けによる売買，返品・値引き
第６回	商品売買（3）	当座取引，手形，送料
第７回	帳簿組織（1）	主要簿，補助簿
第８回	帳簿組織（2）	さまざまな帳簿の記入
第９回	その他の取引（1）	現金預金，貸付け・借入れ
第10回	その他の取引（2）	商品券，給料
第11回	その他の取引（3）	固定資産，有価証券
第12回	その他の取引（4）	資本金，元入れ，資本の引き出し
第13回	その他の取引（5）	訂正仕訳
第14回	まとめ	問題演習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簿記は積み重ねの内容が多いため，毎回の内容をしっかりと理解していくことが重要です。授業では，時間の関係上，基本的な内容の説明と若干の問題演習しかできません。受講生は，必ず各自で参考書などを用いて復習，問題演習をしっかり行い，ひとつひとつ確実に理解できるようにすることが心がけてください。

【テキスト（教科書）】
１．TAC 株式会社（簿記検定講座）『合格テキスト　日商簿記３級〔Ver.9.0〕』TAC 出版
２．TAC 株式会社（簿記検定講座）『合格トレーニング　日商簿記３級〔ver.9.0〕』TAC 出版

【参考書】
適宜，授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
現代ビジネス学科Ｉ・Ｋ・Ｌクラスのみ履修可。

簿記ＩB（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

福島　一矩

開講時期：**秋学期**

※現代ビジネス学科生Ｉ・Ｋ・Ｌクラスのみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営状態を把握するうえで重要な情報源のひとつに会計情報があります。その会計情報がもつ意味を理解していくためには，その前提として会計情報がいかに作られるのかという簿記の知識をもっておくことが有用です。この授業では，簿記，とくに複式簿記の基本的な構造，手続きについて学びます。

【到達目標】
複式簿記の構造ならびに簿記一巡の手続きを理解することを目標とします。難易度としては，日商簿記３級程度を想定しています。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	試算表（1）	試算表とは何か
第２回	試算表（2）	試算表の作成
第３回	決算	決算の手続き
第４回	決算整理（1）	現金過不足，消耗品
第５回	決算整理（2）	売上原価，貸倒れ
第６回	決算整理（3）	減価償却
第７回	決算整理（4）	繰延べ，見越し
第８回	精算表（1）	精算表とは何か
第９回	精算表（2）	精算表の作成
第10回	精算表（3）	帳簿の締め切り
第11回	財務諸表（1）	貸借対照表
第12回	財務諸表（2）	損益計算書
第13回	伝票	伝票会計
第14回	まとめ	問題演習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簿記は積み重ねの内容が多いため，毎回の内容をしっかりと理解していくことが重要です。授業では，時間の関係上，基本的な内容の説明と若干の問題演習しかできません。受講生は，必ず各自で参考書などを用いて復習，問題演習をしっかり行い，ひとつひとつ確実に理解できるようにすることが心がけてください。

【テキスト（教科書）】
１．TAC 株式会社（簿記検定講座）『合格テキスト　日商簿記３級〔Ver.9.0〕』TAC 出版
２．TAC 株式会社（簿記検定講座）『合格トレーニング　日商簿記３級〔Ver.9.0〕』TAC 出版

【参考書】
適宜，授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
現代ビジネス学科Ｉ・Ｋ・Ｌクラスのみ履修可。

簿記ＩA（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

田中　優希

開講時期：**春学期**

※現代ビジネス学科生Ｈ・Ｊ・Ｍクラスのみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。
会計学系列科目の履修における基礎であると同時に、
簿記を学ぶことは企業行動の理解にもつながるため、是非履修してほしい。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。
日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。
初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

【授業の進め方と方法】
講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を持参すること。
講義後、出席票には理解度と、質問や感想を書くこと。質問については時間の許す範囲で次回の講義時に対応する。
パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的と内容、受講生の関心の確認、簿記に関する簡単なイントロダクションを行う。
第 2 回	簿記の意義と財務諸表	単式簿記と複式簿記／簿記の基本原理
第 3 回	収益・費用の概念、損益計算書	基本財務諸表の構成
第 4 回	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表	基本財務諸表の構成
第 5 回	勘定と取引	簿記上の取引／取引要素と取引の二重性／貸借平均の原理
第 6 回	仕訳と転記	仕訳のルール／元帳への転記
第 7 回	試算表の作成	試算表の意義／合計試算表／残高試算表／合計残高試算表
第 8 回	決算 (1)	決算の意義／決算手続きの一巡
第 9 回	決算 (2)	費用収益の損益振替／資本金勘定への振替／帳簿の締め切り
第 10 回	現金預金取引 (1)	現金・預金取引／現金過不足
第 11 回	現金預金取引 (2)	当座預金／当座借越／小口現金
第 12 回	決算 (1)	元帳の締切り／損益振替仕訳
第 13 回	決算 (2)	決算の意義／決算手続きの一巡
第 14 回	決算 (3)	繰越試算表／損益計算書、貸借対照表の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで講義資料を公開するので、講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。
初学者が簿記を学ぶとき、初めて目にする用語が多く戸惑うこともあると思う。しかし、簿記・会計関連の用語は各種メディアで普段から見聞きしているものである。
講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義は授業支援システムで公開する講義資料に基づいて進める。

【参考書】
滝澤ななみ『簿記の教科書 日商 3 級 商業簿記 第 3 版』TAC 出版

【成績評価の方法と基準】
講義中に配布する質問票・演習問題の提出（20%）
春学期の定期試験（80%）
簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。
講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
現代ビジネス学科Ｈ・Ｊ・Ｍクラスのみ履修可。
関連資格：日商簿記検定 3 級
科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎です。1 年次の履修を推奨します。
持参すべきもの：電卓、赤ペン
オフィスアワー：月曜 4 限　研究室まで

簿記ＩB（2016年度以降入学生、2単位）
簿記入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

積　惟美

開講時期：**秋学期**

※現代ビジネス学科生Ｈ・Ｊ・Ｍクラスのみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。
会計学系列科目の履修における基礎であると同時に、
簿記を学ぶと企業行動の理解も深まるため、是非履修してほしい。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。
日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。
初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

【授業の進め方と方法】
講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を持参すること。
講義後、出席票には理解度と、質問や感想を書くこと。質問については時間の許す範囲で次回の講義時に対応する。
パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期復習	春学期の学習内容の復習と問題演習
第 2 回	商品売買 (1)	商品売買取引（三分法、分記法）／掛取引／売上・仕入諸掛
第 3 回	商品売買 (2)	仕入帳・売上帳／売掛金元帳・買掛金元帳
第 4 回	商品売買 (3)	商品有高帳の記帳方法／売上原価の計算
第 5 回	手形取引	手形取引の意味／約束手形／手形の裏書き／手形の割引き／手形の更改
第 6 回	そのほかの債権と債務 (1)	貸付金・借入金／未収金・未払金／立替金・預り金
第 7 回	そのほかの債権と債務 (2)	前払金・前受金／仮払金・仮受金／他店商品券・商品券
第 8 回	有価証券	有価証券の取得・売却・評価
第 9 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・減価償却・売却
第 10 回	資本金と引出金 税金の処理	資本の増加取引／資本の減少取引 租税公課
第 11 回	精算表の作成	6 桁精算表の仕組みと作成／ 8 桁精算票の仕組み
第 12 回	決算整理事項 (1)	売上原価計算／貸倒引当金の設定
第 13 回	決算整理事項 (2)	費用収益の繰延・見越／消耗品
第 14 回	決算整理事項 (3) 総合復習問題	有形固定資産の減価償却 総合復習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで講義資料を公開するので、講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。
初学者が簿記を学ぶとき、初めて目にする用語が多く戸惑うこともあると思う。しかし、簿記・会計関連の用語は各種メディアで普段から見聞きしているものである。
講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義内で指定する。

【参考書】
滝澤ななみ『簿記の教科書 日商 3 級 商業簿記 第 3 版』TAC 出版

【成績評価の方法と基準】
講義中に配布する質問票・演習問題の提出（20%）
秋学期の定期試験（80%）
簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
現代ビジネス学科Ｈ・Ｊ・Ｍクラスのみ履修可。
関連資格：日商簿記検定 3 級
科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎です。1 年次の履修を推奨します。
持参すべきもの：電卓、赤ペン
オフィスアワー：月曜 4 限　研究室まで

企業経営入門A（2016年度以降入学生、2単位）
企業経営入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

永岡　文庸

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営（マネジメント）、人を活用して組織の目的を果たすこと。
企業を事例として、なぜ経営が必要なのか。経営者、株式会社、株式市場となにか。また企業の合併買収はなぜおきるのか。こうした企業経営の基本を学ぶ。

【到達目標】
現代の企業活動を通して、経済、社会の仕組みや変化を理解する。経営には唯一絶対の回答はない。学生自身が企業行動をどう評価するか。自分自身で考える、それなりの意見を述べるようにするのが、到達目標。

【授業の進め方と方法】
講義では、ファーストリテイリング、トヨタ自動車、アップルなどの歴史や最新の行動をパワーポイントで解説します。現実の企業、経済用語（トレードオフ、機会費用）、経営用語（企業統治、買収防衛策）が数多く出てきます。事前に教科書「経営入門２８講」（俯瞰工学研究所）で予習することが不可欠。授業中に２０分間、質問や意見を求めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	どんな組織にも経営力は欠かせない。	米大リーグ、英プレミアムサッカーの改革の成功と日本のプロスポーツの失速
②	企業経営と国民経済	経営学と経済学と現実の企業経営の違い
③	経営学は選択の学問	ＱＢハウス、米球団アスレチックスの経営
④	「株式会社」は資本主義最大の発明	英国東インド会社の見る会社（株式会社）の原点
⑤	株式会社と株式市場	ライブドアの堀江貴文氏は３０万円で創業、１０年後には一兆円の時価総額企業に。
⑥	株式上場は錬金術か	ライブドアとフジテレビの買収騒動
⑦	株式会社は誰のものか	フェイスブック、サントリー食品の上場と資本と経営の分離
⑧	企業家こそ資本主義の主役－１	孫正義、柳井正など日本の企業家３０人
⑨	企業家こそ資本主義の主役－２	ソニー、本田、ヤマト運輸の創業者こそ日本経済成長の星
⑩	現代の名経営者	日産自動車を再建したカルロス・ゴーン社長の手腕
⑪	日本企業の９７％は同族企業	西武鉄道グループに見る同族企業の争い。 「資本と経営の分離」
⑫	現代の企業合併と買収	ソフトバンクの買収による成長戦略
⑬	世界的な大買収時代	ＥＵ統合やネット産業の急成長で大合併時代。日本企業も主役に。
⑭	敵対的な買収	経営者対買収ファンドの闘い。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習で理解が３倍深まる。教科書で講義の流れをつかみ、ネットで判らない経済、経営用語をしらべる。
新聞、テレビ、ネットで企業、経済ニュースを継続的に読む。

【テキスト（教科書）】
「経営入門２８講」（永岡　文庸著　俯瞰工学研究所、１９００円、生協で販売）。講義録でこのテキストの入門編の順番にしたがって進めます。興味をもった学生は本書後半の応用編を読むとより専門知識が得られます。

【参考書】
「日経業界地図 2018 年版」。日経以外の業界地図本でも構いません。講義には直接使用しませんが、企業名、業界、産業界の理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
①学期末試験　７０％
②論文提出　　３０％
２、３回の課題論文をＡＢＣ評価します。
その他に講義中の質疑・応答で優れた者に３～５点の加算をします。

【学生の意見等からの気づき】
授業スピードが速い。重要テーマについては２、３回に分け、詳しくした。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
◎私語厳禁。２回目に注意した学生は退出処分にします。
◎論文の代行提出、他人のコピーなどは不正とみて減点対象。
◎講義中のスマホ、携帯、パソコン使用は禁止。

企業経営入門B（2016年度以降入学生、2単位）
企業経営入門（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

永岡　文庸

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は組織最適運営術だ。そして組織に経営（者）の意思や魂をいれるのが経営戦略だ。どうライバルと戦うのか。あるいは避けるのか。独自路線で行くのか、提携やライバルと合併するのか。その判断の根底にあるのが経営の文法と言われる戦略論。ソニーはなぜアップルに負けたのかなど個別事例で学ぶ。

【到達目標】
戦略的思考を学ぶ。自社の立ち位置を知るポジショニングマップ。戦略策定の基本となるスウォット（ＳＷＯＴ）分析。マーケティングの基本となる４Ｐ戦略など経営学の基本的なフレームワーク（分析ツール）を使いこなせるように成るのが到達目標。

【授業の進め方と方法】
春学期同様に教科書の入門編にしたがって進めます。
パワーポイントでの講義で、授業内での質疑応答にも２０分割く予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	経営戦略となにか	ファーストリテイリング（ユニクロ）が事例。
②	戦略と企業戦略 ＳＷＯＴ分析	孫子の兵法からポーターの競争優位論。
③	戦略作成の方法	「選択と集中」 米巨大企業ＧＥ（ジェネラル・エレクトリック）の大リストラ
④	業界魅力度分析 ファイブフォー（５Ｆ）分析	ユニクロ、アパレル業界の５Ｆ分析
⑤	マーケティング戦略	アサヒビールの「スーパードライ」。戦後最大の逆転劇、
⑥	戦略策定	法政大学の成長戦略。
⑦	競争優位の戦略	日本の自動車業界はなぜ世界１を維持できたか。
⑧	日本の製造業の明暗	もの作りの伝統と限界。
⑨	世紀の大逆転の１ スマイルカーブ理論	ソニー、パナソニックはなぜサムソンに敗北したのか。
⑩	世紀の大逆転の２ スマホの衝撃	アップルのオープン＆クローズ戦略。
⑪	知的財産戦略	発明した元社員に２００億円の支払い判決。
⑫	技術優位で勝てない日本企業	イノベーションのジレンマ。ソニー、シャープの人材流出。
⑬	世界標準化戦争の１	「ルールを作ったものが市場を支配」 三菱重工の航空戦略の挫折。米国パワー。
⑭	世界標準化戦争の２	国際規格づくりで孤立する日本企業。 コンドーム、携帯電話。欧州パワー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、ネットでの予習が不可欠。企業名、経営・経済用語、技術用語は一応説明しますが、事前に予習すると理解が深まります。
期中に課題論文の提出が２～３回あります。８００字＋図表です。

【テキスト（教科書）】
「経営入門　２８講」（永岡　文庸著　俯瞰工学研究所、生協で販売）。

【参考書】
日経業界地図 2018 年版。日経以外の業界地図でも構いません。

【成績評価の方法と基準】
①期末テスト　７０％
②課題論文　　３０％
授業中の質疑応答について優れた者には３～５点を加点します。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントが多すぎて、書き写せない。ついていけない。
授業を２回ないし３回に分け詳しく説明することで対応。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
◎私語厳禁。２回目の注意者は退室処分。
◎課題論文のコピーは減点対象。同じ論文の場合は全員評価対象外にします。
◎スマホ、携帯、パソコンなど電子機器は収納し、授業に集中して下さい。

企業と経済・応用Ａ

檜野　智子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を比較することにより、望ましい金融システムが備えるべき要件を学び、望ましい金融システムとは何かを考察する。この講義を受講することにより、金融システム全体の機能や役割について理解でき、個々の金融機関（銀行・証券・損保など）が金融市場の中でどのような役割を担っているのか理解することができる。

【到達目標】
・ファイナンス理論の基礎を習得する。
・金融取引を阻害する要因とその解決策を理解する。
・「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を理解する。

【授業の進め方と方法】
・パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融とは	金融が経済で果たす役割
2	金融取引の阻害要因	情報の非対称性、逆選択、モラルハザード
3	金融取引の阻害要因	情報開示、情報生産、担保、資金調達手段の選択
4	金融取引の阻害要因	契約の不完備性、コントロール権の配分と所有権の取引
5	金融取引の阻害要因	企業統治の構造、企業買収の仕組み（レバレッジド・バイアウト）
6	金融取引の阻害要因	企業統治における負債契約の活用、事後的な競争の創出
7	金融市場と金融機関	一次市場と二次市場、流動性、証券会社、投資銀行、格付け機関
8	金融市場と金融機関	保険会社、年金基金、銀行、金融システムの型
9	銀行中心のシステム	委託された「モニター・交渉者・保険提供者」としての銀行
10	銀行中心のシステム	流動性創出者としての銀行
11	銀行中心のシステム	「銀行中心のシステム」の特徴と課題
12	市場中心のシステム	情報開示制度、投資家保護、コントロール権市場の活性化
13	市場中心のシステム	証券価格の「情報集計・伝達」機能、分散投資とデリバティブ
14	市場中心のシステム	市場の流動性、市場中心のシステムの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
「金融論 第２版」村瀬英彰、日本評論社、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
・講義前に、授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
・秋学期の「企業と経済・応用Ｂ」を履修する場合、春学期に「企業と経済・応用Ａ」を履修することが望ましい。

企業と経済・応用Ｂ

檜野　智子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、従来型の銀行を中心とした金融システム（銀行中心のシステム）から、市場メカニズムをより効果的に機能させる資本市場を中心とした金融システム（市場中心のシステム）への移行が進んでいる。この授業では、市場中心のシステムの中で、金融に関わるプレーヤーがどのような影響を受け、どのように金融システムに関わっていくのかを中心に、望ましい金融システム改革を考察する。

【到達目標】
・金融システム改革が必要な理由を理解する。
・金融システムが変化する中で、金融機関の果たす役割を理解する。
・株価の変動が経営者の意思決定に与える影響を理解する。
・資産運用と金融システムの関係を理解する。

【授業の進め方と方法】
・パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融システムの改革	投資機会の質的変化
2	金融機関と市場	証券化
3	金融機関と市場	資金調達手段の多様化
4	企業経営と市場	評価指標としての株価
5	企業経営と市場	市場との対話
6	資産運用と市場	戦略的代替性・補完性
7	資産運用と市場	依頼人・代理人問題
8	バブル	サブプライム・ローン問題とバブル
9	バブル	バブルの生成原因
10	バブル	バブルが実体経済にもたらす影響
11	バブル	バブルに依存しない金融の構築
12	ルールの多様性と内生性	法と金融
13	ルールの多様性と内生性	投資家保護
14	システム改革をめざして	市場の公正化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。
・「企業と経済・応用Ａ」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は「金融論 第２版」の１章から６章を授業開始前に自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「金融論 第２版」村瀬英彰、日本評論社、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
・「企業と経済・応用Ａ」を履修済みであることが望ましい。

社会経済学応用 A

原　伸子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
　社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】
この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に着けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD) を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観。現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度、指示する参考文献などは積極的に読むこと。3. 自分の問題関心 (テーマ）を設定して、深く思索する。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。授業の進展に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学［新版]』有斐閣，2007 年。
・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
・レーニン『帝国主義』岩波文庫。
・ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

社会経済学応用 B

原　伸子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】
この講義では、現代資本主義の諸問題をとりあげて、それを理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題を取り上げる視点	国家、市場、家族の関係について
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション（1）	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション（2）	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容（1）	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容（2）	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容（1）	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向（2）	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学（1）	「新家庭経済学」、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー
第 11 回	家族の経済学 (2)	ケアの経済学。保育と介護の社会化。アンペイドワーク評価
第 12 回	労働と生活の調和（1）	ワークライフバランスをめぐる論争
第 13 回	労働と生活の調和（2）	各国のワークライフバランスの比較と論理
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは用いない。

【参考書】
増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済［新版]』有斐閣，2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学ー福祉国家・市場・家族』有斐閣，2016 年。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の講義を目指す。

マクロ経済学Ａ

檜野　智子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では初級レベルのマクロ経済学を学ぶ。

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック
7	設備投資と在庫投資 (3)	新古典派の投資理論、ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

マクロ経済学Ｂ

檜野　智子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では初級レベルのマクロ経済学を学ぶ。

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム、非伝統的金融政策
3	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
4	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
5	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ディマンドプル・インフレ
6	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト
7	インフレとデフレ (3)	ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動
10	失業 (3)	日本の失業率
11	経済成長理論 (1)	経済成長理論、成長会計
12	経済成長理論 (2)	収束の概念、内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。
・「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は、授業開始前にテキストで自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

マクロ経済学Ａ

森田　裕史

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、IS-LM モデル・AD-AS モデルといった短期・中期のモデルを取り上げる。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】
１：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
２：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済学とは
第 2 回	国民経済計算（1）	GDP とは
第 3 回	国民経済計算（2）	支出面から見た GDP
第 4 回	国民経済計算（3）	GDP デフレーター
第 5 回	消費者物価指数（1）	CPI の求め方
第 6 回	消費者物価指数（2）	最適な消費点の求め方
第 7 回	消費者物価指数（3）	CPI の上方バイアス
第 8 回	短期分析（1）	ケインジアンの交差図
第 9 回	短期分析（2）	乗数効果
第 10 回	短期分析（3）	IS-LM 曲線の導出
第 11 回	短期分析（4）	IS-LM 分析
第 12 回	短期分析（5）	期待インフレ率と IS-LM モデル
第 13 回	中期分析（1）	AD-AS 曲線の導出
第 14 回	中期分析（2）	金融財政政策の中期効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】
1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久 『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G. 『マンキューマクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

マクロ経済学Ｂ

森田　裕史

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、長期モデルである経済成長モデルを取り上げる。また、最近のマクロ経済分析で主流になっているミクロ的基礎付けを持つマクロ経済モデルに関しても、その導入部分について解説を行う。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】
１：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
２：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済モデルとは
第 2 回	流動性の罠（1）	流動性の罠とは
第 3 回	流動性の罠（2）	流動性の罠の下での LM 曲線
第 4 回	流動性の罠（3）	流動性の罠の下での金融政策
第 5 回	経済成長モデル（1）	イントロダクション
第 6 回	経済成長モデル（2）	定常状態
第 7 回	経済成長モデル（3）	資本の黄金律水準
第 8 回	経済成長モデル（4）	人口成長と技術進歩
第 9 回	経済成長モデル（5）	定常状態での経済成長
第 10 回	消費の最適化問題（1）	消費者理論の復習
第 11 回	消費の最適化問題（2）	異時点間の消費選択
第 12 回	消費の最適化問題（3）	消費と労働の選択
第 13 回	消費の最適化問題（4）	労働供給曲線
第 14 回	消費の最適化問題（5）	リカードの等価命題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】
1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久 『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G. 『マンキューマクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）に基づいて、成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

ミクロ経済学 A

篠原　隆介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代社会の問題を、複数の主体間の相互依存関係でとらえるゲーム理論を学習する。特に、ミクロ経済学 A では、ゲーム理論の基本概念である完備情報ゲーム理論の学習と応用を行う。まず、戦略形ゲームとナッシュ均衡の概念を学習した上で、寡占市場の分析に応用し、不完全競争の弊害を理解する。次に、展開型ゲームと部分ゲーム完全均衡を学習し、時間を通じた企業の意思決定問題に応用する。最後に、繰り返しゲームにおけるフォーク定理を学習し、現代社会や国際社会の諸問題が、長期的な視点を持つプレイヤーの自発的な協調行動により、解決されることを理解する。

【到達目標】
本講義では、現代の社会における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、主体的かつ客観的に考察できる力を身に付けることを到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは	我々の経済社会とゲーム理論、ゲーム理論の歴史について
2	選択と意思決定	リスクと期待効用、不確実性と主観確率、確率論の基本知識について
3	戦略形ゲーム	戦略形ゲームとは、純粋戦略と混合戦略について
4	ナッシュ均衡	最適反応とナッシュ均衡、合理的均衡と集団均衡、均衡の計算について
5	同時手番の寡占市場分析(応用)	クールノー寡占市場とナッシュ均衡の導出について
6	その他の均衡概念	支配戦略均衡、ゼロサムゲームのマックスミニ戦略について
7	利害対立と協力	囚人のジレンマにおける個人合理性と集団合理性について
8	パレート最適性を用いた経済厚生分析	クールノー寡占市場と公共財供給への応用
9	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について
10	展開型ゲーム	情報集合と情報構造、部分ゲーム完全均衡について
11	逐次手番の寡占市場	時間を通じた企業の意思決定とシュタッケルベルグ競争について
12	繰り返しゲーム	完全情報の繰り返しゲーム、繰り返し囚人のジレンマについて
13	フォーク定理	個人合理的利得のベクトル、トリガー戦略、しっぺ返し戦略について
14	復習と練習問題演習	春学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。
[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年
[b] 武藤滋夫「ゲーム理論で身につける戦略思考」超教養講座 No.31、WAO コーポレーション (http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032)

【テキスト（教科書）】
岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために　新版』有斐閣、2014 年

【参考書】
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】
①「現代経済学入門 (基礎)」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

ミクロ経済学 B

篠原　隆介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ミクロ経済学 A での学習内容を発展させ、不完備情報ゲーム理論、交渉理論、協力ゲーム理論、進化ゲーム理論について学習する。不完備情報ゲーム理論では、完全ベイジアン均衡を学習し、情報の不完備性が引き起こす逆選択やモラルハザード等の問題の解決策を考察する。交渉理論では、公理的アプローチと戦略的アプローチの 2 つの伝統的なアプローチの相互関係を学習する。協力ゲーム理論では、複数の経済主体の協調行動がもたらす帰結とその厚生経済学的視点からの望ましさについて学習する。進化ゲーム理論では、基本概念である進化的安定性を学習し、企業の規格競争の分析へ応用する。

【到達目標】
ミクロ経済学 A に引き続き、現代の社会における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学 A の講義内容を前提として、講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義内容の紹介と、春学期と秋学期の対応関係について
2	不完備情報ゲーム入門	情報の非対称性、プレイヤーの信念とベイズの定理について
3	完全ベイジアン均衡	分離均衡と一括均衡について
4	逆選択とシグナリング	情報の非対称性による問題、シグナリングゲームについて
5	モラルハザード	モラルハザードとは、プリンシパル・エージェント問題について
6	オークション	様々なオークション様式の紹介、収入同値定理について
7	繰り返しゲームへの応用	価格競争における談合と裏切りのシグナルについて
8	交渉理論	交渉問題とは、公理的アプローチとナッシュ交渉解について
9	交互提案交渉	戦略的アプローチとルービンシュタイン交渉ゲームについて
10	グループ形成と利得分配	提携とは、協力ゲームとは、パレート最適と個人合理性とは
11	協力ゲームのコア	コアの導出方法、コアの厚生評価 (パレート最適性) について
12	協力ゲームのシャープレイ値	限界貢献度とシャープレイ値、導出方法について
13	進化ゲーム	進化的安定性とナッシュ均衡、企業の規格競争の分析への応用について
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。
[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年
[b] 武藤滋夫「ゲーム理論で身につける戦略思考」超教養講座 No.31、WAO コーポレーション (http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032)

【テキスト（教科書）】
岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために　新版』有斐閣、2014 年

【参考書】
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】
①「現代経済学入門 (基礎)」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

ミクロ経済学A

細矢　祐誉

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代の経済学で基幹となる理論分析の一分野である、ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学には伝統的な市場理論と、新しい分析手法であるゲームの理論の二つがあるが、本講義では両方を統合した視点を得られることを目的としている。ただしそのためには、秋学期のBまで含めて総合的に学ぶことが望ましい。Aの方では、いわゆる企業の理論を最初に学びはじめ、独占や寡占から競争状態までの理論的なつながりについて学ぶ。この過程で、ゲームの理論と、その帰結についての考え方を学ぶことになる。そして、理論の背後にある消費者行動がどこから生じてくるかについて触れ、価格の決定プロセスと、その効率性を学ぶ。

【到達目標】
ゲームの理論、市場理論を問わず、ミクロ経済学の大枠についての展望的な視点を得ることを目標とする。ただし、本講義では数学的な知識を補充する時間がないため、なるべく直観的な、グラフでわかる範囲での議論を理解するにとどめる。受講者諸君が本講義を通じて最終的に身につけるスキルは、理論の内部における細かい計算の仕方ではなく、大きな経済の捉え方である。

【授業の進め方と方法】
講義によって進める。復習用の講義ノートを作る予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	シラバスに基づいた講義内容の説明	シラバスに基づいた講義内容の説明。特に、経済学が理論的に語られるようになった理由など。
2	ゲームの理論（1）	あるカードゲームの話から始める。理論的に最高の状況がどうしても達成できないこと、出し抜く方法、知識の構造、等々を理解する。
3	クールノーの寡占ゲーム	企業数が少ない場合の市場行動を表現するクールノーの寡占モデルに触れ、前回のカードゲームで議論された内容がそれぞれコア、ナッシュ均衡、シュタッケルベルク解と呼ばれるものと対応していることを理解する。また、その現実的な意味に触れる。
4	プライス・メーカーと独占、ベルトランの寡占ゲーム	企業数が少ない場合の市場行動を表現するもうひとつのモデルに触れ、クールノーゲームとの違いを理解する。また、企業数が一企業だった場合の例外について学ぶ。
5	プライス・テイカーと競争	企業数が極度に多い場合の近似として、企業が価格を決定する権利がない場合に触れ、またそれとクールノー・ゲームの関係に触れる。
6	ゲームの理論（2）	一般的なナッシュ均衡の話に触れ、また、支配戦略均衡にも触れる。その応用として、プライス・テイカー的な行動がどうやって出てくるかを見る。
7	余剰分析	独占と競争を比較し、どちらがよいかについて議論する。そして、総余剰と死荷重について触れる。
8	ゲームの理論（3）	時間を通じたゲームの構造について触れ、その解である、部分ゲーム完全均衡に触れる。そして、シュタッケルベルク解の意味を理解する。
9	参入阻止行動	企業の参入阻止行動について触れ、評判がゲーム内でのプレイヤーに与える効果について理解する。
10	消費者の行動分析	一市場における消費者の需要決定について学び、支払い用意と限界効用の関係などを学ぶ。
11	部分均衡と安定性（1）	いわゆる部分均衡について触れ、クールノー競争との関係を理解する。また、総余剰の経済における意味に触れる。
12	生産者の費用の一般化	ここまで扱ってきたクールノーゲーム的な生産者の費用構造を一般化し、その場合の利潤最大化行動について触れる。
13	部分均衡と安定性（2）	費用構造を一般化した部分均衡について触れ、その安定性について述べる。また、総余剰の意味が変わらないことを確認し、競争状態の効率性を理解する。
14	まとめとBへのつなぎ	全体的な内容をまとめ、Bにどうつながっていくかについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（事前準備）教科書や参考書でシラバスのテーマについて予習すること。
（事後学習）もう一度教科書の対応箇所を読み直すこと。また、配布する講義ノートの内容を学習すること。

【テキスト（教科書）】
武藤滋夫 (2001)『ゲーム理論入門』日経文庫

【参考書】
梶井厚志、松井彰彦 (2000)『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
林貴志 (2013)『ミクロ経済学 [増補版]』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
100% 試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義担当者が新規採用なので特になし。

【その他の重要事項】
本講義では数学的な内容はなるべく少なくとどめるが、しかし、それでもミクロ経済学という科目の特性上、どうしても数式やグラフを使わなければならない箇所が出てくる。受講者諸君には、たとえば x という文字が出てきたり、あるいはグラフが出てきたりしたときに、それに拒絶反応を示さず、根気よく付き合うことを求めたい。幸いにも、本講義で必要な数学知識の大半は、高校数学の範囲で収まるレベルであり、少なくとも単位を取るためにそれ以上が求められることはない。しかし、まったく触れずに済むというわけではないことは、覚悟して受講してもらいたい。
なお、本科目は単体での受講よりも、AB 揃った受講が望ましい。春学期ではいわゆる部分均衡と呼ばれるものしか扱わない上、市場の失敗と呼ばれるものもまったく扱わないため、ミクロ経済学の知識を得たとするには不十分になってしまうからである。

ミクロ経済学B

細矢　祐誉

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代の経済学で基幹となる理論分析の一分野である、ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学には伝統的な市場理論と、新しい分析手法であるゲームの理論の二つがあるが、本講義では両方を統合した視点を得られることを目的としている。ただし、本講義ではAをすでに習得したことを前提に講義を行う。本講義では、一般的な競争理論の話を開始し、まず消費者の行動理論を学ぶ。次に、いわゆる純粋交換市場における価格決定のプロセスについて学ぶ。次に相対取引の極限としてのコアの概念に触れ、人数が多い場合に両者が一致することを学ぶ。生産を入れた一般均衡についても軽く触れる。その後、市場の失敗と呼ばれる、これまで議論してきた前提が成り立たない場合に市場がうまく行かない状態にいくつか触れ、制度設計の諸問題について触れる。

【到達目標】
ゲームの理論、市場理論を問わず、ミクロ経済学の大枠についての展望的な視点を得ることを目標とする。ただし、本講義では数学的な知識を補充する時間がないため、なるべく直観的な、グラフでわかる範囲での議論を理解するにとどめる。受講者諸君が本講義を通じて最終的に身につけるスキルは、理論の内部における細かい計算の仕方ではなく、大きな経済の捉え方である。

【授業の進め方と方法】
講義によって進める。復習用の講義ノートを作る予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aとの接続、シラバスに基づいた講義内容の説明	Aとの接続について述べ、シラバスに基づいて講義の計画を説明する。
2	一般均衡における消費者の行動分析（1）	価格を与件とした消費者の効用最大化に触れる。また、無差別曲線、限界代替率といった概念について触れる。
3	一般均衡における消費者の行動分析（2）	いわゆる序数的・基数的論争について触れ、その結果として起きた代替・補完という概念の変遷について理解する。また、ギッフェン財について軽く触れる。
4	ゲームの理論・続論（1）	ベルトランゲームに交渉を入れたいわゆる左右の靴ゲームを通じて、コアの概念に触れる。
5	純粋交換経済における均衡とコア、エッジワースのボックス図	純粋交換経済の定義に触れ、その均衡とコアについて理解する。また、二人の場合を図示したエッジワースのボックス図に触れる。
6	コアの極限定理	均衡が市場取引の極限であり、コアが相対取引の極限であるということを理解し、両者の差を理解する。併せて、人数が増えていくと両者に差異がなくなるという、いわゆるコアの極限定理に軽く触れる。
7	厚生経済学の基本定理	部分均衡における効率性に対応する、厚生経済学の第一基本定理に触れる。また、第二基本定理にも軽く触れる。併せて、パレート最適という概念を理解する。
8	市場の失敗（1）	外部経済や外部不経済について触れ、それが厚生経済学の基本定理を破壊することを見る。また、解決策について議論する。
9	市場の失敗（2）	公共財の供給問題に触れ、それが厚生経済学の基本定理を破壊することを見る。また、解決策について議論する。
10	ゲームの理論・続論（2）	ベイズ完全均衡に触れ、応用としてオークションの設計問題に触れる。
11	機構設計問題（1）	公共財の供給問題に限定して、いくつかの供給機構の設計方法に触れる。また、その限界についても触れる。
12	機構設計問題（2）	一般的な機構設計問題について触れ、弱支配誘導が不可能であるということを理解する。併せて、公共財の供給問題やオークションの問題との関連に触れる。
13	ゲームの理論・続論（3）	倫理的な分配方法である仁の概念に触れ、タルムードの遺産相続問題との関係について解説する。
14	まとめ	全体的な内容をまとめ、これからの学習の指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（事前準備）教科書や参考書でシラバスのテーマについて予習すること。
（事後学習）もう一度教科書の対応箇所を読み直すこと。また、配布する講義ノートの内容を学習すること。

【テキスト（教科書）】
武藤滋夫 (2001)『ゲーム理論入門』日経文庫

【参考書】
梶井厚志、松井彰彦 (2000)『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
林貴志 (2013)『ミクロ経済学 [増補版]』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
100% 試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義担当者が新規採用なので特になし。

【その他の重要事項】
本講義では数学的な内容はなるべく少なくとどめるが、しかし、それでもミクロ経済学という科目の特性上、どうしても数式やグラフを使わなければならない箇所が出てくる。受講者諸君には、たとえば x という文字が出てきたり、あるいはグラフが出てきたりしたときに、それに拒絶反応を示さず、根気よく付き合うことを求めたい。幸いにも、本講義で必要な数学知識の大半は、高校数学の範囲で収まるレベルであり、少なくとも単位を取るためにそれ以上が求められることはない。しかし、まったく触れずに済むというわけではないことは、覚悟して受講してもらいたい。
なお、本科目は単体での受講よりも、AB 揃った受講が望ましい。秋学期だけ受講する場合には、Aの講義ノートを参考資料として公開するので、自習することが求められる。

財政学 A

小林　克也

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を取り上げる。前半部では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのか（あるいは必要でないのか）について、厚生経済学の基本定理、市場の失敗および財政の持つ機能から考える。後半部では、現在の日本の財政制度とその規模（政府活動の比重と内訳、他国との比較等の統計資料）を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する、とともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1) ：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2) ：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
11	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
12	財政投融資	財政投融資の仕組みと規模
13	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「現代経済学基礎」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習をして欲しい。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義で扱う内容を十分に復習して欲しい。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

財政学 B

小林　克也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロの理論に基づく考え方を概説する。主には、税の捉え方、公債の考え方、公共投資増大の考え方である。この講義は、財政学Aの履修を前提とする。

【到達目標】
身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
2	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
3	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
4	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
5	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
6	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
7	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
8	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
9	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
10	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
11	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
12	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
13	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「財政学 A」および「現代経済学基礎」または「企業と経済・基礎」(または「企業と経済・基礎」) の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習を行うことが求められる。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義内容の復習を十分に行うこと。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

財政学 A

廣川　みどり

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を取り上げる。前半部では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのか（あるいは必要でないのか）について、厚生経済学の基本定理、市場の失敗および財政の持つ機能から考える。後半部では、現在の日本の財政制度とその規模（政府活動の比重と内訳、他国との比較等の統計資料）を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する、とともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1) ：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2) ：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融資	財政投融資の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「現代経済学基礎」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習をして欲しい。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義で扱う内容を十分に復習して欲しい。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

財政学 B

廣川　みどり

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロの理論に基づく考え方を概説する。主には、税の捉え方、公債の考え方、公共投資増大の考え方である。

【到達目標】
身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「財政学 A」および「現代経済学基礎」（または「企業と経済・基礎」）の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習を行うことが求められる。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義内容の復習を十分に行うこと。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

金融論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，初めて金融を学ぶ人を対象として，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて，まず金融に興味を持ってもらい，さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【授業の進め方と方法】
この講義では，「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように，日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて，少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において，今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように，金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには，それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。
講義はプロジェクターを使って行ないます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第 2 回	金融取引とリスク	金融取引に伴うリスク
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第 5 回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第 6 回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第 7 回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第 8 回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第 9 回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第 10 回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第 11 回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第 12 回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第 13 回	マネーストック	マネーストックとは何か
第 14 回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011 年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

金融論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを紹介し，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生に，まず金融の面白さに触れてもらい，さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【授業の進め方と方法】
金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。
講義はプロジェクターを使って行ないます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第 2 回	金融市場	短期金融市場について
第 3 回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場について
第 5 回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第 6 回	資産証券化	資産証券化とは何か
第 7 回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第 8 回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第 9 回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第 10 回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第 11 回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第 12 回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第 13 回	企業金融	企業の資金調達について
第 14 回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011 年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

金融論 A

高橋　秀朋

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】
本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【授業の進め方と方法】
本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示しいく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では電卓を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、電卓もしくはスマホの電卓機能を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験 100 %として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義の最後に行われる問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン

金融論 B

高橋　秀朋

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】
本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【授業の進め方と方法】
本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示しいく。本講義で扱うテーマが金融論 A に比べて複雑になるため、電卓等を利用する頻度は下がる。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融の機能	金融市場概要
2	金融仲介機関	金融仲介の機能
3	不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習 1	情報の非対称性
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	問題演習 2	契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
村瀬英彰『新エコノミクス　金融論』（日本評論社、2006 年）
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験 100 %として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義中の問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン。

国際経済論 A

水田　岳志

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。実際の貿易データにより、理論の現実への妥当性を推論できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【授業の進め方と方法】
世界的に定評のあるテキストの内容にほぼ従って、パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	資源の大きさと財の生産の関係
第 7 回	資源と貿易③	貿易による利益と実証研究
第 8 回	貿易政策の基礎理論①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策の基礎理論②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策の基礎理論③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済学	自由な貿易をめぐる議論
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の経済効果	ＦＴＡが域内国、域外国に与える影響
第 14 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の終了後に授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。授業の各トピックに対応した参考文献を授業前に読んで準備学習をし、授業後はパワーポイント配付資料をもとに復習をする。

【テキスト（教科書）】
なし（内容は Krugman, Obstfeld and Melitz(2014）にほぼ従っています。）

【参考書】
Krugman, Obstfeld, and Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th edition, Global Edition, Pearson, 2014
（翻訳：クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年）
浦田秀次郎著『国際経済学入門（第 2 版）』日本経済新聞社、2009 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
大教室での講義授業になりますが、学生が理解しているかを確認しながら、パワーポイント進度などを気をつけて、授業を進めるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、授業支援システムを利用します。

国際経済論 B

水田　岳志

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際金融論では為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際マクロ経済学では、国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、資本収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準について説明でき、現実の為替レート水準について議論できる。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【授業の進め方と方法】
基礎理論の部分は、世界的に定評のあるテキストの内容にほぼ従って、パワーポイントを用いて講義を行います。また、日本独自の背景があるものは、実際の日本の資料を用います。毎回の授業では、キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらい、理解を深めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	為替とマクロ経済	マクロ経済政策の効果
第 13 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 14 回	通貨危機のモデル	第 1 世代、第 2 世代モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義終了後に授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。授業の各トピックに対応した参考文献を授業前に読んで準備学習を行い、授業後に配付資料の基づき復習をして、授業の理解を深める。

【テキスト（教科書）】
なし（内容は Krugman, Obstfeld, and Melitz（2014）、または、高木（2011）にほぼ従っています。）

【参考書】
Krugman, Obstfeld, and Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th edition, Global Edition, Pearson, 2014
（翻訳：クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕下:金融編』丸善出版、2017 年）
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
大教室での講義ですが、学生の理解度に気を配りながら、パワーポイントの進度などに気をつけます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントと授業支援システムを利用します。

国際経済論 A

ブー・トウン・カイ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の講義である国際経済論Aは国際貿易論の基本を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果、国際間の労働や資本移動、国際貿易のルールと貿易交渉などについて理解し、それらに関する問題を分析できることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際経済学という分野の紹介
2	比較優位	比較優位と分業の利益、国際貿易
3	部分均衡分析	貿易利益、比較優位の決定要因
4	産業内貿易と規模の経済	産業間貿易と産業内貿易、規模の経済, 製品差別化とフラグメンテーション
5	貿易政策（1）	関税・輸入割当、保護貿易を擁護する主張
6	貿易政策（2）	戦略的貿易政策、動学的規模の経済のもとでの貿易政策
7	貿易政策（3）	アンチダンピングとセーフガード
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	貿易政策の政治経済学	政治活動と貿易政策の決定
10	国際貿易のルールと貿易交渉	GATT と WTO の歴史、現状、制度
11	サービス貿易と IT	サービス貿易の定義と現状、IT と貿易
12	地域貿易協定	地域貿易協定の現状と制度、地域貿易協定の経済学
13	国際要素移動	多国籍企業と直接投資、労働の国際移動と外国人の受け入れ問題
14	貿易と環境	貿易政策から環境への影響、環境政策から貿易への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
石川 城太, 椋 寛, 菊地 徹 著、『国際経済学をつかむ』第2版、有斐閣　2013 年.

【参考書】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

国際経済論 B

ブー・トウン・カイ

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の講義である国際経済論Bは国際金融論の基本を学習する。

【到達目標】
国際金融論を通じて、対外取引の統計の読み方、為替市場の仕組み、為替レートの決定、開放経済における財政・金融政策の仕組みと効果などについて分析できる事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野の紹介
2	国際金融取引の基礎	グローバル化するもの・お金の動き、国際収支表の見方
3	外国為替の基礎（1）	外国為替のしくみ、為替レートをみる
4	外国為替の基礎（2）	円高・円安と貿易収支、外国為替の基礎：世界の通貨制度
5	為替レートの決定（1）	購買力平価
6	為替レートの決定（2）	金利平価
7	為替レートの決定（3）	為替リスクの考慮、為替レートの予想とニュース
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	為替介入	為替介入の方法と効果
10	開放経済の分析フレームワーク	マンデル=フレミング・モデル
11	経済政策の効果	開放経済における財政政策や金融政策の効果
12	通貨危機	通貨危機の歴史、発生メカニズム
13	国際通貨制度の考え方	国際通貨制度、国際通貨としての米ドル、円の国際化
14	通貨統合の考え方	ユーロの誕生、通貨統合の便益と費用、国際金融の新しい課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年.
2.『国際金融論をつかむ 』橋本優子, 小川英治, 熊本方雄（著）, 有斐閣 2007 年.

【参考書】
1. 高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年.
2. Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第 2 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 3 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 4 回	外部性②	課税政策。
第 5 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第 6 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 7 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 8 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 9 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？　環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】
ターナー・ピアス・ベイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

環境経済論 B

松波　淳也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクルⅠ - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクルⅡ - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクルⅢ - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	3 R ＋適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策，中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担Ⅰ - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担Ⅱ - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR Ⅱ- E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法.PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第 2 版』東洋経済新報社.

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

日本経済論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1)　基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2)　拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3)　貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1)　所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2)　IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3)　IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】
マンキュー『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

日本経済論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	租税の理論、物品税の帰着
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	公債の負担
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
配布資料

【参考書】
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

日本経済論 A

牧野　文夫

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

【到達目標】
日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
作成した PPT 資料に基づき、講義形式ですすめる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、アベノミクス	講義の枠組み、これまでのアベノミクスの評価について
2	東日本大震災、ユーロ危機と日本経済	東日本大震災とユーロ圏の債務危機が日本経済に及ぼした影響と意味について
3	グローバル化の進展とリーマンショック	中国、インドなど新興経済の発展、リーマンショックの日本経済への影響について
4	不良債権処理と小泉構造改革	金融機関の不良債権処理と小泉内閣時の構造改革について
5	デフレと失われた 20 年	1990 年代後半から 2000 年代半ばへ平成不況について
6	バブル崩壊と不良債権問題	不良債権問題の発生とその処理、労働市場の需給悪化について
7	バブル経済下の日本経済	1980 年代後半の資産バブルについて
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970 年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960 年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	戦時統制経済	戦後の経済的枠組みを決定したともいわれる 1940 年代の統制経済について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること。
授業で使う資料に必ず目を通す。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】
①南亮進『日本の経済発展（第 3 版）』東洋経済新報社。
②深尾・中村・中林編『講座　日本経済の歴史』第 5、6 巻、岩波書店。
③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の最後に質問用紙を配布し、相互対話を深めたい。

【その他の重要事項】
現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

日本経済論 B

牧野　文夫

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

【到達目標】
個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
授業支援システムにアップロードした PPT 資料を使用して、講義形式ですすめる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造（1）	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造（2）	農業の経営構造と規模拡大政策、補助政策について
3	産業構造（3）	製造業、IT 産業、研究開発について
4	金融システム（1）	部門別資金バランス、家計貯蓄
5	金融システム（2）	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
6	財政（1）	増大する政府債務、歳入・歳出構造、税制について
7	財政（2）	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、社会保障について
8	労働市場（1）	最近の雇用問題、非正規労働の増大について
9	労働市場（2）	賃金水準、賃金格差について
10	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
11	対外経済関係（1）	貿易構造の変化について
12	対外経済関係（2）	対外投資、国際収支、TPP/FTA について
13	所得分配、社会階層と教育	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	地域格差問題	大都市と地方の格差について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが広いのでできる限り経済に関する毎日の新聞記事、ニュースなどを読んだり、聞いたりすること。
講義資料は事前に目を通す。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】
関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】
定期試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の後に質問用紙を配布し、相互対話の機会を増やしたい。

ビジネスプログラミング入門A

坂本　憲昭、高橋　朋一、金子　聡、横川　壽彦

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマを実践するために，オフィスソフトを用いて実習します。具体的には，テキスト文書による情報発信の実習，その際に個人情報保護などや，ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により，問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を実践的に身に付けます。

【到達目標】
情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて，実習を通して，必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し，受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し，ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【授業の進め方と方法】
「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者，または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので，基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので，ガイダンスに出席して詳細を理解してください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス，社会人基礎力について	授業の進め方など，ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法，メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示, 関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え, フィルタ, テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計, ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験，MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外にも課題等に取り組みます。準備学習として，タイピングソフト等により，キー入力に慣れておきます。Windows におけるファイルのコピー，移動，名前の変更方法を復習しておきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】
マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集，日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集，ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】
中間に 2 回おこなう試験各 40%，プレゼンテーション課題 20%を 100 点満点にして成績を評価します。60 点以上が合格になります。詳細を授業 1 回目のガイダンスで必ず確認してください。もしもやむを得ない事情でガイダンスを欠席した場合にはあなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが，能力別クラス編成ではないので，実習問題で吸収するようにします。授業内容が，コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習ととらえてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】
マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使いたい場合にはご自身で準備してください。

【その他の重要事項】
質問等があれば，担当教員坂本まで問い合わせしてください。

ビジネスプログラミング入門B

坂本　憲昭、高橋　朋一、金子　聡、横川　壽彦

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラム言語の役割とその仕組み，アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により，(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し，その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して，モデル化について，シミュレーションの意味，社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】
アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し，実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して，(1) アルゴリズムの基礎，(2) プログラミングの基礎，(3) 数値計算，(4) データの型と構造，(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【授業の進め方と方法】
目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に，それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが，到達目標，アルゴリズムの考え方，使用するプログラミング言語，使用する基本命令は共通です。ガイダンスで詳細を必ず理解してください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備，プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて，バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数，四則演算，乱数	変数，四則演算，乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令，繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習では Excel を使用するため，起動，終了，名前を付けて保存などの基本的操作を復習しておきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】
Excel/VBA の解説書籍（操作方法のほかに，命令の辞書的な書籍が役立ちます）：石田・宮崎，アルゴリズム図鑑絵で見てわかる 26 のアルゴリズム，翔泳社，2017，：森・まつむら，楽しく学ぶアルゴリズムとプログラミングの図鑑，マイナビ出版，2016

【成績評価の方法と基準】
試験（60%），課題（40%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は，複数の教員が曜日に分かれて担当しますので，ガイダンスは必ず出席し，その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には，あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には，授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】
ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合には，自分で準備してください。

【その他の重要事項】
授業内容について質問があれば，担当教員坂本まで問い合わせてください。

国際関係論 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【授業の進め方と方法】
講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション
第 4 回	伝統的国際政治学の視点	リアリズム/勢力均衡論、リベラリズム/国際制度と国際協調
第 5 回	紛争と強調 I	利益（Interests）・相互作用（Interactions）・制度（Institutions）
第 6 回	紛争と強調 II	なぜ戦争は発生するのか、交渉の失敗としての戦争
第 7 回	第一次湾岸戦争	私的情報、情報の非対称性
第 8 回	核拡散問題	抑止理論、弱小国の論理、核不拡散条約 (NPT)
第 9 回	同盟・集団安全保障体制	同盟とは、同盟の種類、同盟と戦争
第 10 回	国際機関	国際連合の形成、発展、機能
第 11 回	民主的平和論	観衆費用、情報伝達の効率性（意図・能力）
第 12 回	独裁政治	陽動理論、政治システムと政治的コスト
第 13 回	日本の安全保障	東アジアの国際政治環境、伝統的安全保障枠組みの遺産
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は、授業支援システムを通して配布する。

国際関係論 B

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に国際貿易・金融・通貨といった国際経済をめぐる国家間関係に加え、冷戦後に頻発する内戦やテロリズムといった非国家主体をめぐる国際関係まで幅広く学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係論を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【授業の進め方と方法】
講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第 2 回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第 3 回	国際貿易	自由貿易（比較優位）、貿易制限、国際制度（WTO・GATT・RTA）
第 4 回	国際金融	海外直接投資、国際金融制度（IMF）
第 5 回	国際通貨	為替レート（変動相場制・固定相場制）、通貨をめぐる政府間レジーム
第 6 回	国内紛争 I	内戦（民族・イデオロギー・宗教）、統計資料でみる内戦
第 7 回	国内紛争 II	テロリズム、統計資料でみるテロ、テロの歴史的発展
第 8 回	国連 PKO	国連 PKO の形成・発展、PKO の効果
第 9 回	貧困と開発	資源の呪い（統計資料でみる天然資源）、国連の持続可能な開発
第 10 回	人権	人権規定、国家による人権の蹂躙、人権をめぐる国際合意
第 11 回	国際規範	国際規範の生成と伝播、非国家主体の影響
第 12 回	環境問題	環境破壊、自然災害、環境問題をめぐる国際制度
第 13 回	国際関係論の未来	大国の対立、グローバル化、グローバル・ガバナンス
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は、授業支援システムを通して配布する。

【その他の重要事項】
本講義は、「国際関係論 A」を履修していることを前提としています。

経済人類学 A

山本　真鳥

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貨幣や市場が未発達な社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 A では、3 つのサブシステンス社会の暮らし方とその経済のあり方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】
1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の基礎概念を用いて社会事象を説明できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の考え方	貨幣と市場のない経済
第 2 回	サブシステンス経済①	採集狩猟民の技術と食料獲得
第 3 回	サブシステンス経済②	焼畑農耕民の技術と食料生産
第 4 回	サブシステンス経済③	牧畜民の技術と食料生産
第 5 回	労働と生産組織	サブシステンスのかたちに応じて異なる生産組織
第 6 回	ジェンダー役割分担	もっとも古い家族内分業のひとつ
第 7 回	生産財の所有と相続	土地制度と社会制度
第 8 回	贈与	贈り物の社会＝経済学
第 9 回	互酬性	お互い様で作る社会関係、経済関係
第 10 回	経済システムと社会構造	互酬性、再分配、市場交換
第 11 回	未開人は合理的か？	経済人モデルの普遍性を問う
第 12 回	農民社会の経済	コモンズ、労働交換、つきあい等々を検討
第 13 回	モラル・エコノミー	友愛の経済活動
第 14 回	経済人類学の基礎	基礎概念の理解と持続的発展のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの教材箇所にアップした教科書の関連部分を読む。それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで、予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材の教科書の箇所にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

経済人類学 B

山本　真鳥

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貨幣や市場が未発達な社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 B では、前半は歴史上の社会も含めて非市場経済の経済現象を春学期で学んだ基礎概念を用いて分析する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】
1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて、非市場社会や現代社会の事象を説明できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	儀礼交換の諸形態①	西太平洋のクラ交換の VTR
第 2 回	儀礼交換の諸形態②	経済的に意味のない交換はなぜ？
第 3 回	再分配と首長制／王権	トンガ王国の構造
第 4 回	貨幣と交換財①	特定目的貨幣・全目的貨幣
第 5 回	貨幣と交換財②	タバコと貝貨の資本主義
第 6 回	市場（いちば）の経済人類学	バザール経済論
第 7 回	長距離交易	市場交換の原初形態
第 8 回	植民地主義と開発	辺境社会の開発とその障がい
第 9 回	開発とジェンダー	貧困の女性化と女性の開発参加
第 10 回	資本主義経済と文化	企業文化と労働の組み立て
第 11 回	地域通貨と疑似通貨	コミュニティと通貨
第 12 回	移民コミュニティの経済①	アメリカ合衆国のエスニック集団形成史
第 13 回	移民コミュニティの経済②	エスニック・ビジネス
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの教材の箇所に教科書と各回に対応する予習復習資料をアップしてあるので、これらを用いて予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

Academic Research Seminar A (2016年度以降入学生)
英語セミナー A (2015年度以前入学生)

飯野　厚

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to practice spoken data analysis and begin to write a research paper in English, based on SLA [Second Language Acquisition] theories.
第 2 言語習得論にもとづいて、自ら産出した英語の分析を実践し、それを生かした英語研究論文を執筆するための準備を行う

【到達目標】
Through the course, the students will be able to raise the ability to speak and write in English, to analyze spoken data, and to learn initial stage of writing a research paper.

【授業の進め方と方法】
English Accent Coach 15 min
Presentation of assigned paper 25 min
Speaking Task/ Chat（英検準 1 級、TOEFL、IELTS speaking tests）25 min
Transcribing and analysis 35 min

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Organization of a research paper	Briefing of the course Speaking assessment, Listening assessment
2	Spoken data production and analysis in SLA	CAF measures, Negotiation of Meaning, Listener Judgement
3	Breakdown fluency	Hesitation markers, repetition in Analysis of Speech Units (AS Units)
4	Speed fluency:	Words per minute (WPM) and pruned syllable per minute (PSPU)
5	Complexity: AS unit & cluase	Words per AS unit, syllable per AS unit, clause and T-unit
6	Complexity in vocabulary use	Type token ratio and range of vocabulary
7	Accuracy:	Number of clauses and ratio of erro free clauses
8	Accuracy	Syntactic errors Lexical errors, and morphological errors
9	Listeners' judgement	Comprehensibility (pronunciation) and intelligibility
10	Negotiation of Meaning:Clarification requests confirmation and comprehension checks	Modified input and output
11	Collaborative Dialoge	Language Related Episodes
12	Designing research	Organization of research paper and research questions
13	Literature review	How to make notes term end proficiency tests on speaking and writing
14	Presentation of research fundamentals and Term final output assessment	List of literature and sample data analysis.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Writing essays with basic rhetorical structures, collecting relevant research papers and read them

【テキスト（教科書）】
"In my opinion" 金星堂 (2018)
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】
Ellis and Barkhuizen (2005). Analysing Learner Language.Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
50% In-class activities and data submission: a variety of tasks, analysis
50% Documents submitted : Essays, summaries, e-learning records, etc.

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【学生が準備すべき機器他】
Since we use online transcriber, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer every time.

Academic Research Seminar B (2016年度以降入学生)
英語セミナー B (2015年度以前入学生)

飯野　厚

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to do the research and write a paper in English
英語研究論文を書くための分析手法と先行研究に精通したうえで、本格的な論文を執筆する

【到達目標】
Through the course, the students will be able to write a research paper based on analyzed data in previous semester.

【授業の進め方と方法】
Briefing the steps of writing a paper 30 min
Write a section of a paper 40 min
Individual based feedback and sharing common mistakes 30 min

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Speaking tests
2	Introduction 1:	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Introduction 2:	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Review of literature in paragraph writing:	How to cite previous studies
5	Organized review of literature:	How to connect with research questions
6	Method 1:	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Method 2:	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary
9	Results 2:	Qualitative data summary and its citation
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and its results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and Data tables
14	Presentation of reserach	To be individually done in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep on writing

【テキスト（教科書）】
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】
『APA 論文作成マニュアル　第 2 版』医学書院（2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】
50% In-class activities and data submission: a variety of tasks, analysis
50% Documents submitted : Essays, summaries, e-learning records, etc.

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【学生が準備すべき機器他】
Since we use Microsoft Word 2013+, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer with the software installed every time.

Academic Research Seminar A (2016年度以降入学生)
英語セミナー A (2015年度以前入学生)

寺内　正典

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の第２言語習得に関する言語科学研究の成果を踏まえ、発展的な英語リーディング能力と英語コミュニケーション能力の育成を目指す。

【到達目標】
(1) 英語論説文のパラグラフの構成型・パラグラフの展開型の基礎に習熟するとともに様々英語の論説文や論文などを正確に読み，英文の概要を捉え，内容を批判的に検討する能力を習得する。
(2) 特定のトピックに関して自分の意見を説得力を持って英語で論理的にプレゼンできる能力を段階的に習得する。
(3)2 年生は TOEIC700 点、3 年生は TOEIC800 点を到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
(1) 参加者は担当箇所を予習し，特にパラグラフ構成型・展開型を正確に捉え、パラグラフ構成に基づき、英文の要約を作成する。
(2) 参加者はグループあるいはペアごとに自分たちの発表課題を選択し，課題を要約し，関連する先行研究を調べた情報を加え，レジュメを作成し，英語で発表する。
(3) 発表内容に関する問題を参加者が全員で英語で議論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明・自己紹介	(1) 授業の目的、授業の方法、評価方法、研究課題、テストなどの説明
2	英会話上達法のビデオ視聴と議論	第２言語習得の視点から「英会話上達法」のビデオを検討する。
3	認知から見た言語習得	第２言語言語習得に関する認知的なアプローチを検討する。
4	脳と言語習得	第２言語習得に関する脳科学的なアプローチの成果を検討する。
5	社会言語学的視点による第二言語習得	第２言語習得に関する社会言語学的アプローチの研究成果を検討する。
6	バイリンガルの言語習得	第２言語習得におけるバイリンガリズムの抱える諸問題を検討する。
7	教室第二言語習得研究と外国語教育	第２言語習得研究と外国語教育の関連性を検討する。
8	語彙の習得	語彙の習得の諸問題と研究成果を考察する。
9	リスニング	リスニングの習得の諸問題と研究成果を考察する。
10	スピーキング	スピーキングの習得の諸問題と研究成果を考察する。
11	リーディング	リーディングの習得の諸問題と研究成果について考察する。
12	ライティング	ライティングの習得に関する諸問題と研究成果を考察する。
13	早期英語教育と小学校英語教育	早期英語教育に関して諸外国の導入状況や制度の差異と比較・検討する。
14	言語テストと評価	言語テストと評価に関して望ましいテスト作成のあり方を考察し、実際にテストを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。
発表者が発表のハンドアウトを準備し、発表し、参加者と問題点に関して議論する。
研究課題に関して研究レポートを完成させる。

【テキスト（教科書）】
(1)Second Language Acquisition (1998)(OUP) Rod Ellis
(2)Phoneix from the Flames(2015) (CENGAGE Learning) Masanori Terauchi,et al
(3)『英文法難問 500』寺内正典（2016）（秀和システム）

【参考書】
(1)『言語科学の百科事典』（2006）(丸善) 鈴木良次，畠山雄二，岡ノ谷一夫，萩野綱男，金子敬一，寺内正典，藤巻則夫，森山卓郎編著
(2)『第二言語習得研究の現在』（2004）（大修館書店）小池生夫，寺内正典，木下耕児，成田真澄　編著

【成績評価の方法と基準】
(1)「研究発表」[40 %]　(2)「レポート A4 版」：40 行 ×40 字 ×3 枚 × 最低 2 回 [30 %]　(3)「テスト」[30 %]

【学生の意見等からの気づき】
受講者個々人の英語力の差異とニーズを十分に考慮しながら、授業内容に関する PDCA 的考察を踏まえ、授業内容を常に改善していく視点が重要であることを再認識した。

【学生が準備すべき機器他】
発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参などが必要になる。

Academic Research Seminar B (2016年度以降入学生)
英語セミナー B (2015年度以前入学生)

寺内　正典

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習者自身の英語の習得を効率的に高めるに役立つ第 2 言語習得論の基礎的な知識を習得し、それらの理解や方法論を基に、高度な英語コミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
学習者個々人が各自、英語の到達目標を決め、それらの目標の達成を目指して課題解決学習を行う。英語の専門書から得た知識を踏まえ、英語学習や第 2 言語習得に関する諸問題を批判的に検討し，発展的に英語で議論する能力を育成する。各自が選択した課題に関して統計的処理を用いた実証的研究法の基礎を習得する。

【授業の進め方と方法】
(1) 参加者は、グループごとに自分たちの発表課題を選択し，課題を理解、要約し、自分たちで調べた関連情報を加え，レジュメを作成し，英語でグループ発表を行う。次に発表内容や発表方法の是非に関して参加者全員で議論し、改善策を考察する。
(2) 参加者は担当箇所を予習し，発表する。担当箇所に関してパラグラフ構成型・展開型なども正確に捉え、英文を作成し、発表する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明・自己紹介	授業方法、予習方法、発表方法、課題、学習法などの説明を行う。
2	異文化理解に関するビデオ視聴と議論	異文化間コミュニケーションに関するビデオ視聴して問題点に関して議論する。
3	第２言語習得に関する実証的研究の方法 (1)	第２言語習得研究の主要な研究方法の概要を理解する。
4	第２言語習得に関する実証的研究の方法 (2)	アンケート調査方法
5	第２言語習得に関する実証的研究の方法 (3)	データ収集の方法
6	第２言語習得に関する実証的研究の方法 (4)	統計処理の方法（t 検定）
7	文処理研究 (a)	文処理研究の基礎を理解する。
8	文処理研究 (b)	文処理研究に関する諸問題を検討する。
9	談話処理研究 (a)	談話処理研究の基礎を理解する。
10	談話処理研究 (b)	文処理研究と談話処理研究の関連性を検討する。
11	心理言語学 (a)	第２言語処理のメカニズムを検討する。
12	心理言語学 (b)	言語処理研究のプロセスとストラテジーを検討する。
13	早期英語教育 (a)	諸外国の早期英語教育の実態と成果を検討する。
14	早期英語教育 (b)	早期英語教育の諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 研究論文や専門書の該当の章を読み、ハンドアウトにまとめる。
(2) 原書は該当箇所を全員が毎回予習する。
(3) 課題に関してグループごとにハンドアウトとプレゼン資料を作成する。
(4)Advanced1000 を課題自習し、習得する。

【テキスト（教科書）】
(1)Second Language Acquistion (1998)(OUP) Ellis,Rod
(2)Phoenix from the Flames (2015)(CENGABE Learning) Masanori,Terauchi,et al
(3)『英文法難問 500』寺内正典（2016）秀和システム

【参考書】
(1)『第二言語習得研究の現在』(2004)(大修館書店) 小池生夫、寺内正典、木下耕児、成田真澄 編著
(2)『言語科学の百著科事典』(2006)(丸善) 鈴木良次，畠山雄二，岡ノ谷一夫，萩野綱男，金子敬一，寺内正典，藤巻則夫，森山卓郎　編著
(3)『英語教育学の実証的研究入門』(2013) 寺内正典、中谷安男編著（研究社）

【成績評価の方法と基準】
(1)「研究発表・プレゼン」[40 %]　(2)「レポート A4 版」：40 行 ×40 字 ×3 枚 ×2 回 [30 %]　(3)「テスト」[30 %]

【学生の意見等からの気づき】
学習者個々人の英語力、適性、ニーズを的確に理解するとともに個々人の学習者要因に応じて英語力を向上させていくために授業における発問を適宜変えていくことの重要性を再認識している。

【学生が準備すべき機器他】
DVD, PC,

Academic Research Seminar A (2016年度以降入学生)
英語セミナー A (2015年度以前入学生)

山﨑　達朗

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的な話題を通して，英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検 2 級以上の能力があり，積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ，聴解力や読解力を伸ばす。さらに，簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】
時事的なテキストでリスニングを中心に行うが，ニュース内容の包括的把握ができ，メディア英語の構成を理解し語彙力をつけることができる。さらに新聞記事やビジネス文書などの読解も行い，短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので積極的に参加して，自分の意見を発表するように期待される。

【授業の進め方と方法】
授業は英語と日本語で行うので，英語で話し合う機会がある。少人数であれば，学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明, 英語記事の内容・意見の発表）。
☞ 受講希望者 15 名以上の場合，初回授業時に選抜試験実施予定。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	テキスト問題演習 1	* U1 TEA FOR YOU ("Before You Watch," "Watch the News," "Understand the News")
3	テキスト問題演習 2	* U1 TEA FOR YOU("Discussion Questions < =DQs > "等) * 資格試験 (TOEIC 等)
4	テキスト問題演習 3	* U2 SMALL IS BEAUTIFUL（"Watch the News"等） * 新聞記事
5	テキスト問題演習 4	* U2 SMALL IS BEAUTIFUL("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
6	テキスト問題演習 5	* U3 YOUTH TRIP（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 1
7	テキスト問題演習 6	* U3 YOUTH TRIP ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） * プレゼン 2
8	テキスト問題演習 7	* U4 BUILDING A LANGUAGE（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 3
9	テキスト問題演習 8	* U4 BUILDING A LANGUAGE ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）、プレゼン 4
10	テキスト問題演習 9	* U5 SIZZLE & THE CITY（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 5
11	テキスト問題演習 10	* U5 SIZZLE & THE CITY("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） *プレゼン 6
12	テキスト問題演習 11	* U6 SUMMER SPOOKS（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 7
13	テキスト問題演習 12	* U6 SUMMER SPOOKS ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆テキストの予・復習（= Online 映像 plus+Media の視聴，script の理解）。

【テキスト（教科書）】
◆ NHK NEWS LINE (金星堂)，2018，￥2,300+税.（初回必ず出席し，履修が可能だとわかってから購入すること）

【参考書】
◆ VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座（テレビ・ラジオ)。

【成績評価の方法と基準】
◆定期試験 = 70%, 授業積極参加（=解答発表・意見発表など）= 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
◆ 全員が参加できる授業を目指す。

Academic Research Seminar B (2016年度以降入学生)
英語セミナー B (2015年度以前入学生)

山﨑　達朗

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的な話題を通して，英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検 2 級以上の能力があり，積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ，聴解力や読解力を伸ばす。さらに，簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】
時事的なテキストでリスニングを中心に行うが，ニュース内容の包括的把握ができ，メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書などの読解も行い，短時間にポイントを要領よく理解する力をつけることができる。授業では英語での話し合いもあるので積極的に参加して，自分の意見を発表することが期待される。

【授業の進め方と方法】
授業は英語と日本語で行うので，英語で話し合う機会がある。少人数であれば，学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明, 英語記事の内容・意見の発表）。
☞ 受講希望者が 15 名以上の場合，初回授業時に選抜試験実施。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	テキスト問題演習 1	* U7 HITMAKER "Before You Watch," "Understand the News" 等
3	テキスト問題演習 2	* U7 HITMAKER ("Discussion Questions"等) * 資格試験（TOEIC 等）
4	テキスト問題演習 3	* U8 DAUGHTERS OF THE SOIL ("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 1
5	テキスト問題演習 4	* U8 DAUGHTERS OF THE SOIL ("DQs"等) * 資格試験（TOEIC 等）、プレゼン 2
6	テキスト問題演習 5	* U9 ENGAGING YOUTH IN POLITICS（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 3
7	テキスト問題演習 6	* U9 ENGAGING YOUTH IN POLITICS ("DQs"等） * 資格試験（TOEIC 等）、プレゼン 4
8	テキスト問題演習 7	* U10 MAGIC IN MOONLIGHTING ("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 5
9	テキスト問題演習 8	* U10 MAGIC IN MOONLIGHTING ("DQs"等） * 資格試験（TOEIC 等）、プレゼン 6
10	テキスト問題演習 9	* U11 ON YOUR BIKE("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 7
11	テキスト問題演習 10	* U11 ON YOUR BIKE("DQs"等） * 資格試験（TOEIC 等）
12	テキスト問題演習 11	* U12 DESIGNING NATIONS ("Watch the News"等） * 新聞記事
13	テキスト問題演習 12	* U12 DESIGNING NATIONS ("DQs"等） * 資格試験（TOEIC 等）
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験（既習範囲、配布資料、応用問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆テキストの予習・復習（= Online 映像 plus+Media の視聴，script の理解）。

【テキスト（教科書）】
◆ NHK NEWSLINE (金星堂)，2018，￥2,300+税.

【参考書】
◆ VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座（テレビ・ラジオ)

【成績評価の方法と基準】
◆定期試験 =70%, プレゼンテーション + 授業参加（= 発言）= 30%。なお、受験資格条件は初回時に話すので出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
◆全員が参加できる授業を目指す。

ドイツ語セミナーA

新田　誠吾

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語既修者を対象に，ドイツ語で日常生活の基本的な意思疎通ができることを目ざします。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し，理解を深めます。
今年度はフィールドワークとして，希望者と 19 年 2 月末から 3 月上旬にドイツのライン河畔の都市を巡り，カーニバルを視察する予定です。（自由参加で実費負担。教員同行。フィールドワークは評価に含めない）

【到達目標】
1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して，ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について，簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化，社会の特定の話題について人に説明できる。

【授業の進め方と方法】
授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で，映像も取り入れて，100 分間楽しく学べるようにします。授業の最後には，毎回リアクションペーパーの提出があります。受講は，初回の授業を受けてから決めてもかまいません。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
	Stellen Sie sich vor.	ドイツ語で自己紹介
		イースター (Ostern)
2	Beruf und Arbeit (1)	職業と仕事 (1)
		自分の職業と職業訓練
3	Beruf und Arbeit (2)	職業と仕事 (2)
		EU の職業選択と労働環境
4	Ämter und Behörden (1)	役所と行政当局 (1)
		müssen を使った表現，du に対する命令形
5	Ämter und Behörden (2)	役所と行政当局 (2)
		dürfen を使った表現
		「質問していいですか」
6	Ämter und Behörden (3)	役所と行政当局 (3)
		ドイツ入国に必要な書類
7	Gesundheit und Krankheit (1)	健康と病気 (1)
		身体の痛みを訴える「お腹が痛い」
8	Gesundheit und Krankheit (2)	健康と病気 (2)
		sollen を使った表現「痛み止めを飲むよう言われました」
9	Gesundheit und Krankheit (3)	健康と病気 (3)
		医者の予約を取る
10	In der Stadt unterwegs (1)	街の中を移動する (1)
		行き方をたずねる
11	In der Stadt unterwegs (2)	街の中を移動する (2)
		場所の言い方と聞き方
12	In der Stadt unterwegs (3)	街の中を移動する (3)
		駅で電車の発着を聞く
13	総復習	春学期の表現の復習
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学習得には予習・復習が重要なため，毎回課題があります。勉強の手順がわかるように，授業で説明します。

【テキスト（教科書）】
Schritte Plus Neu 2 (A1.2), Hueber

【参考書】
参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20 %)，口頭試験 (30 %)，筆記試験 (50 %）で，60 %以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は，原則単位を認定しません。なお，遅刻は 30 分を 1 単位として，3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当するため，気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン，タブレットがあると，教科書の映像を見ることができます。なくても，履修に支障はありません。

【その他の重要事項】
原則，ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目ですが，受講希望者が多数の場合，経済学部生を優先することがあります。

ドイツ語セミナーB

新田　誠吾

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語既修者を対象に，ドイツ語で日常生活の意思疎通ができることを目ざします。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し，理解を深めます。
今年度はフィールドワークとして，希望者と 19 年 2 月末から 3 月上旬にドイツのライン河畔の都市を巡り，カーニバルを視察する予定です。（自由参加で実費負担。教員同行。フィールドワークは評価に含めない）

【到達目標】
1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して，ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について，簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化，社会の特定の話題について人に説明できる。

【授業の進め方と方法】
授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で，映像も取り入れて，100 分間楽しく学べるようにします。授業の最後には，毎回リアクションペーパーの提出があります。なるべく春学期の授業も履修するようにしてください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
	Kundenservice (1)	カスタマーサービス (1)
		買った商品の苦情を言う
2	Kundenservice (2)	カスタマーサービス (2)
		丁寧な依頼をする
3	Kundenservice (3)	カスタマーサービス (3)
		期間や「いつから」をたずねる
4	Kundenservice (4)	カスタマーサービス (4)
		復習
5	Neue Kleider (1)	新しい服 (1)
		服を購入するときの表現
6	Neue Kleider (2)	新しい服 (2)
		比較級と最上級
7	Neue Kleider (3)	新しい服 (3)
		相手に感想を求める
		「この服をどう思う？」
8	Neue Kleider (4)	新しい服 (4)
		復習
9	Feste (1)	お祝い (1)
		祝辞の言い方
		「誕生日おめでとう」
10	Feste (2)	お祝い (2)
		理由を述べる (denn)
11	Feste (3)	お祝い (3)
		人を招待する
		おもな年中行事
12	Feste (4)	お祝い (4)
		復習
13	総復習	秋学期の表現の復習
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学習得には予習・復習が重要なため，毎回課題があります。勉強の手順がわかるように，授業で説明します。

【テキスト（教科書）】
Schritte Plus Neu 2 (A1.2), Hueber

【参考書】
参考書は必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20 %)，口頭試験 (30 %)，筆記試験 (50 %）で，60 %以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は，原則単位を認定しません。なお，遅刻は 30 分を 1 単位として，3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当するため，気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン，タブレットがあると，教科書の映像を見ることができます。なくても，履修に支障はありません。

【その他の重要事項】
原則，ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目ですが，受講希望者が多数の場合，経済学部生を優先することがあります。

フランス語セミナーA

橋本　到

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】
・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。一冊以上のフランスに関係する書籍について、レポートをまとめ学期末までに提出する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パン屋と買い物表現	店舗（パン屋）での商品の求め方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、マルシェと数量表現。	前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習。
第 4 回	カフェ（店）と、注文の表現	カフェでの注文の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 5 回	第 4 回の復習、駅とチケット予約の表現	前回の復習／駅での予約の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 7 回	衣料品（店）と、商品選択の表現	衣料品店での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 8 回	第 7 回の復習、靴屋、商品非購入の表現	前回の復習／靴屋での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 10 回	診療所と診察申し込みの表現	医者の予約について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 11 回	第 10 回の復習、歯医者と予約変更	前回の復習／歯医者の予約（の変更）について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 13 回	地下鉄、問い合わせの仕方	地下鉄での問い合わせ、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 14 回	第 13 回の復習、学期末まとめ試験 A	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
・場所、状況など学習内容に関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。
【復習】
・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue は読み方の練習。

【テキスト（教科書）】
Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN:978-209-038132-0

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　67 %、平常点（含むレポート）33 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし（昨年度より担当）

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

フランス語セミナーB

橋本　到

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】
・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【授業の進め方と方法】
・日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。一冊以上のフランスに関係する書籍について、レポートをまとめ学期末までに提出する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	道路、道筋のやりとり	田舎で迷って道を尋ねる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、落とし物、探し物	落とし物をした場合の会話、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の復習、話に条件を交える（〜だったら、なら）	前回の復習／条件を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 4 回	第 3 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 5 回	挨拶、紹介するとき	挨拶・紹介する、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の復習、赦す、弁解するとき	前回の復習／赦す・詫びる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 7 回	第 6 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 8 回	招待したり、受けたり、断るとき	招待をする／受ける／断る、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の復習、体調について述べ、薬を買い求める	前回の復習／（薬局で）健康状態について。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 10 回	第 9 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 11 回	意見を尋ねたり、述べる	意見を尋ねる、意見を述べる、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の復習、慰めたり、励ます	前回の復習／慰める、励ます。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 13 回	第 12 回の練習の復習	前回の継続ならびに復習
第 14 回	第 13 回の練習と復習、学期末まとめ試験 B	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
・場所、状況など習う関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。
【復習】
・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue は読み方の練習。

【テキスト（教科書）】
Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN:978-209-038132-0

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　67 %　平常点　33 %、

【学生の意見等からの気づき】
特になし（昨年度より担当）

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

ロシア語セミナーA

佐藤　裕子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。ロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】
　基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引き訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定３級試験過去門など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年 5 月と 10 月に実施されるロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。

【授業の進め方と方法】
　春学期はロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させる。対策過去問などを解く。また，生きたロシア語を身近なものとするために，CD や DVD でロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第 2 回	ロシア語能力検定試験対策（４級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第 3 回	ロシア語能力検定試験対策（４級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第 4 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第 5 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第 6 回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第 7 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 8 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第 9 回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第 10 回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第 11 回	ロシア語能力検定試験対策（３級）1	関係代名詞
第 12 回	ロシア語能力検定試験対策（３級）2	数詞（数詞と名詞の変化）
第 13 回	テキスト読解と視聴覚教材でのリスニング練習	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第 14 回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】
・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2017 年
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー３級・４級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、￥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
・その他のテキストは，適時プリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404

【成績評価の方法と基準】
原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70 %、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが 30 %で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点 50 %、ミニテスト等 20 %、学期末試験が 30 %の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

ロシア語セミナーB

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・10 月のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。
・試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】
・10 月のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。
・さらに中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目標す。

【授業の進め方と方法】
秋学期の初めは 10 月開催のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト，雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 2 回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第 3 回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳 (検定試験過去問、想定問題等)
第 4 回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第 5 回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第 6 回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞１），会話練習
第 7 回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞２），会話練習
第 8 回	ニュースのリスニングと和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第 9 回	テキスト読解と和文露訳 1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化，旅行）とそのロシア語作文
第 10 回	テキスト読解と和文露訳 2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣，手紙（ビジネスレターを含む））
第 11 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（ロシア文学作品；チェーホフ）、映像資料のリスニング
第 12 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキン）、映像資料（映画）のリスニング
第 13 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング
第 14 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（ロシア文学作品トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。

【テキスト（教科書）】
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー３級・４級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、￥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291 が望ましい）
・その他のテキストは，適時プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404

【成績評価の方法と基準】
原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70 %、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが 30 %で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点 50 %、ミニテスト等 20 %、学期末試験が 30 %の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

中国語セミナーA

経済学部教員

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の能力の向上と異文化理解

【到達目標】
1、2年生で学習した口語表現とはやや異なる“時事中国語（＝書面語）”に触れることにより、中国語の表現の豊かさと奥深さを体得する。まずは文章の一字一句も疎かにせず精読し完全に理解したうえで、特定のテーマに応じて口語で説明、言い換え、質問、回答等ができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
まずは教科書がとりあげる時事的な話題について完全に理解する。中国語を正確にとらえ、正しい日本語に訳す。さらにそこから話題を深化、発展させるための土台として、担当者が自分の調べてきたことを発表する（1回の授業につき1人から2人）。発表者は発表から質疑応答までの流れを自らリードしまとめるように努める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、イントロダクション、ウオーミングアップ	授業案内、自己紹介、クイズ、テスト、アンケート
第 2 回	第 1 課 海のシルクロード	読解、発表、会話、練習
第 3 回	第 2 課 又吉直樹、友好の火花	読解、発表、会話、練習
第 4 回	1、2課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 5 回	第 3 課「普通話」発祥地	読解、発表、会話、練習
第 6 回	第 4 課 高速鉄道で料理を予約	読解、発表、会話、練習
第 7 回	3、4課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 8 回	第 5 課　九寨溝、震災に哭く	読解、発表、会話、練習
第 9 回	第6課 2人の女性が外出を変えた	読解、発表、会話、練習
第 10 回	5、6課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 11 回	第7課　故郷を離れた大学生活	読解、発表、会話、練習
第 12 回	第8課　考古学、驚きの発見	読解、発表、会話、練習
第 13 回	7、8課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 14 回	前期の総復習、まとめ、発展学習、試験	読解、発表、会話、練習、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書の部分ごとに訳の担当を決める。担当箇所の日本語訳を作成したうえで授業に臨むこと（予習時間の目安は 30 分～1 時間）。その場でアドリブ的に単語ごとに訳していくのではなく、完全な文章に仕上げること。訳註や語註をそのまま使うのではなく（※註は“日本語訳”ではなく、あくまでも“意味”“解説”である）、不明な言葉や表現については辞典／事典を調べてくること。
テーマ発表は予め原稿を作って何度も練習すること（予習時間の目安は2～3時間）。また、資料の典拠を明らかにすること。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2018 年度版』朝日出版社、2018 年、1900 円

【参考書】
『Why？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他、同学社、1996 年、2500 円

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %（担当訳および担当発表）、授業内に行う筆記試験（複数回実施予定）50 %

【学生の意見等からの気づき】
担当発表の放棄（準備不足や無断欠席を含む）には厳重なペナルティが課せられる。忘れ物や私語は厳禁。

【その他の重要事項】
2年間中国語を学習した人が対象。初学者は履修不可。
また内容が易しすぎる（中国の小学校高学年程度）ため、ネイティヴや準ネイティヴの履修は推奨しないが、しかるべき理由があれば可。

中国語セミナーB

経済学部教員

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の能力の向上と異文化理解

【到達目標】
1、2年生で学習した口語表現とはやや異なる“時事中国語（＝書面語）”に触れることにより、中国語の表現の豊かさと奥深さを体得する。まずは文章の一字一句も疎かにせず精読し完全に理解したうえで、特定のテーマに応じて口語で説明、言い換え、質問、回答等ができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
まずは教科書がとりあげる時事的な話題について完全に理解する。中国語を正確にとらえ、正しい日本語に訳す。さらにそこから話題を深化、発展させるための土台として、担当者が自分の調べてきたことを発表する（1回の授業につき1人から2人）。発表者は発表から質疑応答までの流れを自らリードしまとめるように努める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期をふりかえる。後期授業のガイダンス、ディスカッション等	授業案内、自己紹介、クイズ、テスト、アンケート
第 2 回	第 9 課 中国版深夜食堂	読解、発表、会話、練習
第 3 回	第 10 課 海外旅行、爆買いから深化	読解、発表、会話、練習
第 4 回	9、10 課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 5 回	第 11 課 ヒトとゾウ、共存へ	読解、発表、会話、練習
第 6 回	第 12 課 どうなる？ 中国の子供	読解、発表、会話、練習
第 7 回	11、12課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 8 回	第13課　糖尿病大国にどう取り組む？	読解、発表、会話、練習
第 9 回	第14課 台湾、働く女性たち	読解、発表、会話、練習
第 10 回	第15課　千年の大計、雄安新区	読解、発表、会話、練習
第 11 回	13、14、15課のまとめ、発展学習	読解、発表、会話、練習
第 12 回	関連する補習教材を使用してこれまでの学習をさらに深める	読解、発表、会話、練習
第 13 回	関連する補習教材を使用してこれまでの学習をさらに深める	読解、発表、会話、練習
第 14 回	後期の総復習、まとめ、発展学習、試験	読解、発表、会話、練習、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書の部分ごとに訳の担当を決める。担当箇所の日本語訳を作成したうえで授業に臨むこと（予習時間の目安は 30 分～1 時間）。その場でアドリブ的に単語ごとに訳していくのではなく、完全な文章に仕上げること。訳註や語註をそのまま使うのではなく（※註は“日本語訳”ではなく、あくまでも“意味”“解説”である）、不明な言葉や表現については辞典／事典を調べてくること。
テーマ発表は予め原稿を作って何度も練習すること（予習時間の目安は2～3時間）。また、資料の典拠を明らかにすること。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2018 年度版』朝日出版社、2018 年、1900 円

【参考書】
『Why？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他、同学社、1996 年、2500 円

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %（担当訳および担当発表）、授業内に行う筆記試験（複数回実施予定）50 %

【学生の意見等からの気づき】
担当発表の放棄（準備不足や無断欠席を含む）には厳重なペナルティが課せられる。忘れ物や私語は厳禁。

【その他の重要事項】
2年間中国語を学習した人が対象。初学者は履修不可。
また内容が易しすぎる（中国の小学校高学年程度）ため、ネイティヴや準ネイティヴの履修は推奨しないが、しかるべき理由があれば可。

スペイン語セミナーA

芝田　幸一郎

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自の関心からテーマを選び、調べ、（可能な限りスペイン語で）発表し、質疑応答する。一学期をかけてその歴史・社会・文化・政治・経済など多角的に学ぶことになる。こうして一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる（細かいミスを突き詰めていくことより、スペイン語に慣れて使えるようになることが重視される）。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【授業の進め方と方法】
発表担当グループ（履修学生総数によって人数は変動する）は、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義も適宜実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーについての概説講義①。
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーについての概説講義②。
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨、復習②	グループ発表と質疑応答⑨、口頭試験の準備
第 14 回	期末試験	期末試験（口頭試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習 1：該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～ 1 ページ程度）
準備学習 2：発表準備（リサーチ、パワーポイント資料作成、必要に応じてスペイン語作文等）

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー（ARC レポート）-経済・貿易・産業報告書』ARC 国別情勢研究会（2013）
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）.
ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）
その他の参考資料は授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
和訳と発表 50%、平常点 40 %、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。
教員による概説的講義を増やした。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリー

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと。
様々なスペイン語レベルの学生に対応したいので、履修者のスペイン語能力分布に応じて発表等で使用するスペイン語と日本語の割合を変える。
紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

スペイン語セミナーB

芝田　幸一郎

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自の関心からテーマを選び、調べ、（可能な限りスペイン語で）発表し、質疑応答する。一学期をかけてその歴史・社会・文化・政治・経済など多角的に学ぶことになる。こうして一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【授業の進め方と方法】
発表担当グループ（履修学生総数によって人数は変動する）は、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等（春学期より難易度の高いものを含む）から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義を適宜実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識	ラテンアメリカとペルーに関する概説的講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習②	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験	期末試験（口頭試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習 1：該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～数ページ程度）
準備学習 2：発表準備（リサーチ、パワーポイント資料作成、スペイン語作文）

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー（ARC レポート）-経済・貿易・産業報告書』ARC 国別情勢研究会（2013）
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）.
ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）
エル・コメルシオ紙（http://elcomercio.pe/）
その他の参考資料は授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
和訳と発表 50%、平常点 40 %、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。
教員による概説的講義を増やした。

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと。
様々なスペイン語レベルの学生に対応したいので、履修者のスペイン語能力分布に応じて発表等で使用するスペイン語と日本語の割合を変える。
紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

労働経済論 A

酒井　正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く．「人手不足」，「外国人労働力」，「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する．

【到達目標】
まず，基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する．更に，統計分析の考え方を学んだうえで，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける．

【授業の進め方と方法】
プロジェクター資料と板書を組み合わせて講義を進める．理解を助けるため小問題の演習等を行う．プロジェクター資料については，要約版のみを配布する．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル 等
7	市場均衡	競争均衡，買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特段の予習は必要ないが，復習は行うこと．特に，授業内で行う小問題は必ず復習すること．
講義は下記の参考書に沿って行う予定なので，参照することを推奨する．
（受講者はミクロ経済学や統計学の最低限の知識を有することが望ましいが，講義内で用いる数学は最小限に留める予定である．）

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
川口大司『労働経済学　理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（90%）＋授業内演習（10%）．

【学生の意見等からの気づき】
・コメント・ペーパー等によって，受講者の考えを把握するように心掛ける．
・試験問題は，選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する．

労働経済論 B

酒井　正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済論 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童」等）

【到達目標】
働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする．

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクター資料を用いた講義形式によって進める．講義内容の理解を確認するため，演習問題を行うことがある．プロジェクター資料については，要約版のみを配布する．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題，その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で利用した資料をよく復習すること．授業内で提示する参考文献も理解の助けとなる．また，新聞等を読み，政策に関する議論を追うように心掛けてほしい．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
川口大司編『日本の労働市場　経済学者の視点』（有斐閣，2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（90%）＋授業内演習（10%）で評価．

【学生の意見等からの気づき】
・コメント・ペーパーによって，授業で扱うトピックに関する受講者の考えを聞きたい．
・試験問題は，選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する．

経済政策論 A

濱秋　純哉

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府は，ダムや道路の建設，教育サービスの提供，及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で，このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して，ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，ミクロ経済学の考え方に基づき，外部性の問題，望ましい公共財の供給，及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考えることの意味とは？
2	市場の働き	完全競争市場における需要曲線と供給曲線。
3	市場の働き	消費者余剰と生産者余剰の概念。社会的余剰と市場の効率性。
4	市場の働き	弾力性の概念。需要・供給の価格弾力性と所得弾力性。
5	企業行動と生産者余剰	企業の総収入と総費用。総費用，限界費用，平均費用。
6	企業行動と生産者余剰	企業の利潤最大化行動と供給曲線の関係。
7	企業行動と生産者余剰	総収入と可変費用の差としての生産者余剰。
8	外部性	外部性の概念。外部性の存在と市場の効率性。
9	外部性	規制，ピグー税，及び排出権市場による外部性の問題の解決。
10	外部性	交渉による外部性の問題の解決（コースの定理）。
11	公共財	排除可能性と消費の競合性。公共財の供給とフリーライダー問題。
12	公共財	非競合財の価格設定。公共財の投資基準。共有地の悲劇の解決策。
13	税制の設計	課税の死荷重。売り手への課税と買い手への課税。
14	税制の設計	効率性と公平性から望ましい税制とは？ 税の帰着。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
八田達夫，2008，『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー，2013，『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】
小川光・西森晃，2015，『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

経済政策論 B

濱秋　純哉

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また，GDP，物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター），失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活。
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法。
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法。
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法。
5	雇用問題	摩擦的失業への政策的対処。最低賃金引き上げの影響とは？
6	雇用問題	日本の失業の特徴。労働保蔵と求職意欲の喪失。
7	雇用問題	若年者の雇用問題。「世代効果」への政策的対処。
8	IS-LM モデルの構築	古典派とケインジアン。
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図。IS 曲線の導出。乗数効果。
10	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定。貨幣量のコントロール。LM 曲線の導出。
11	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果。クラウディング・アウト。
12	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果。
13	IS-LM モデルの応用	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果。
14	IS-LM モデルの応用	非伝統的金融政策。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また，授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー，2017，『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】
福田慎一・照山博司，2016，『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義，2015，『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

公共経済論 A

篠原　隆介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生の観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

【到達目標】
本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【授業の進め方と方法】
完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念 (総費用、可変費用、限界費用、平均費用) について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と衡平性について。
13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通した市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、公共経済論を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。公共経済論を概観したい場合、参考書欄②もしくは③を見ると良い。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。担当教員作成の資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】
① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】
①ミクロ経済学を「現代経済学入門 (基礎)」や「ミクロ経済学」などで学習済みであると、本講義の理解は容易になる。
②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。
③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

公共経済論 B

篠原　隆介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、市場の欠点 (失敗) を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し、その応用として、国際環境問題における、国際社会の協調の難しさについて理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用した、分割不可能財の配分問題や公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

【到達目標】
公共経済論 A に引き続き、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係を、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出権取引の役割について。
6	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
7	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
8	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について。
9	公共財 (応用)	国際環境問題への国際社会の取り組みと公共財供給理論について。
10	経済制度設計 (1)	市場の失敗の解消のためのメカニズムの設計について。
11	経済制度設計 (2)	分割不可能財の配分問題とソロモン王のジレンマについて。
12	経済制度設計 (3)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム。
13	経済制度設計 (4)	グローブズ・メカニズムとパレート効率な公共財供給について。
14	講義総括と問題演習	秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、公共経済論を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。公共経済論を概観したい場合、公共経済論 A シラバス参考書欄に挙げた②もしくは③を見ると良い。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。担当教員作成の資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】
公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①～③に加えて、次の文献は、本講義と関連する。
④アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】
①ミクロ経済学を「現代経済学入門 (基礎)」や「ミクロ経済学」などで学習済みであると、本講義の理解は容易になる。
②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。
③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

DemographyA

菅　幹雄

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】
1.Understand basic concepts and measures
2.Understand age-specific rates and probabilities
3.Understand and be able to compile life table

【授業の進め方と方法】
Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of “Population”
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
14	Summary	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Visit homepages of Bureau of Statistics and look at demographic statistics.

【テキスト（教科書）】
Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,4432 JPY

【参考書】
Nicolas Bacaër,A Short History of Mathematical Population Dynamics,Springer, 5050 JPY

【成績評価の方法と基準】
Worksheets 50%, Term paper about life table 50%

【学生の意見等からの気づき】
This lecture course started last academic year so that no feedbacks from students yet.

DemographyB

菅　幹雄

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】
1.Understand fertility rate
2.Understand and be able to conduct population projection
3.Understand stable population model

【授業の進め方と方法】
Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility,Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
10	The Stable Population Model(2)	Lotka’s Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Intrinsic Growth Rate
12	The Stable Population Model(4)	Momentum of Population Growth
13	Model Age Patterns of Mortality	Model Age Patterns of Mortality, Gompertz
14	Summary	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Visit homepages of Bureau of Statistics and look at demographic statistics.

【テキスト（教科書）】
Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,4432 JPY

【参考書】
Nicolas Bacaër,A Short History of Mathematical Population Dynamics,Springer, 5050 JPY

【成績評価の方法と基準】
Worksheets 50%, Term paper about population projection 50%

【学生の意見等からの気づき】
This lecture course started last academic year so that no feedbacks from students yet.

開発経済論 A

池上　宗信

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の前半では、貧困削減政策の効果を測定する手法、家計の人的資本投資などを、統計資料などを見ながら学びます。この授業の後半では、途上国の労働市場、マイクロファイナンスなどを概説します。

【到達目標】
我が国では少子化が問題になっていますが、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々では人口増加、失業が問題になっています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、毎回、いくつかの質問、ディスカッションポイントを設け、発言、議論を促したいと思っています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インパクト評価	反事実と自己選択。観察可能な変数による自己選択。
第 2 回	インパクト評価	操作変数。無作為実験。
第 3 回	貧困と不平等	不平等の貧困に与える影響。
第 4 回	貧困の罠	理論と実証研究の結果。
第 5 回	大家族	出産・育児の選択と貧困の関係。
第 6 回	教育	貧困家計の就学選択。
第 7 回	健康	貧困と身体的健康の関係。
第 8 回	貧困と鬱	貧困の心理的健康に与える影響。
第 9 回	零細自営業者や小農の経済学	途上国における家計モデル。
第 10 回	低賃金	効率賃金仮説。
第 11 回	共同体	相互扶助。リスクシェアリング。
第 12 回	貯蓄	貧困家計の投資・貯蓄の選択。
第 13 回	マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果。
第 14 回	復習と試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。復習は必要ありませんが、講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
黒崎卓、山形辰史（2017）『開発経済学 貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
試験（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

開発経済論 B

池上　宗信

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済論 B では、開発経済論 A で扱った途上国における家計行動の理論を下に、マイクロ保険や卒業プログラムなどの貧困削減政策を概説します。

【到達目標】
途上国では貧困削減政策としてマイクロ保険や卒業プログラムなどが実施されています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、毎回、いくつかの質問、ディスカッションポイントを設け、発言、議論を促したいと思っています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金銭供与	貧困削減政策としての金銭供与の効果。
第 2 回	マイクロ保険	理論と実証研究の結果。
第 3 回	インデックス型農業保険	伝統的な保険との違い、普及率、効果。
第 4 回	乾燥地と遊牧型畜産	家畜の重要性、旱魃の影響、対策。
第 5 回	資産供与	金銭供与との比較。
第 6 回	技術革新・普及とその制度	普及を妨げる要因、対策。
第 7 回	技術供与	貧困削減効果。
第 8 回	卒業プログラム	金銭もしくは資産供与と技術供与の補完性。
第 9 回	起業	貧困者のビジネス。
第 10 回	社会企業家	途上国における事例。
第 11 回	フェアトレード	運動の理念、課題は何でしょうか？
第 12 回	汚職	貧困削減への影響、対策。
第 13 回	貧困削減	貧困削減のためにすべきこと、すべきでないこと。
第 14 回	復習と試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。復習は必要ありませんが、講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
黒崎卓・山形辰史（2017）『開発経済学 貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
試験（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

開発経済入門A

池上　宗信

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の前半では、経済成長、貧困、不平等などの指標を学び、統計資料などを見ながら、我が国とを開発途上国の違いを概説します。この授業の後半では、伝統的な農業から工業化までの経済発展のプロセスを概説します。

【到達目標】
なぜ我が国では食があふれているのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々ではたびたび飢餓が起きるのでしょうか？ このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、毎回、いくつかの質問、ディスカッションポイントを設け、発言、議論を促したいと思っています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。経済成長の指標	国民総生産、購買力平価。
第 2 回	経済成長のパターン	各国の経済成長のパターンの違いを比較します。
第 3 回	経済成長の理論	ソローモデルを概観し、各国の経済成長のパターンと比較します。
第 4 回	投資と貯蓄	各国における経済成長と投資、貯蓄の関連を考察します。
第 5 回	財政政策	途上国は大きな政府を目指すべきでしょうか？
第 6 回	貧困は減っているのか	貧困の概念と計測の方法。
第 7 回	経済成長と不平等	クズネッツの逆U字仮説。ジニ係数。ローレンツ・カーブ。
第 8 回	世界の人口と食料	人口と食料は各国ごとでどれだけ異なるのでしょうか？ 旱魃と飢餓。
第 9 回	経済発展と農業	農業部門の縮小、エンゲルの法則を数か国を事例に考察します。
第 10 回	農業の近代化	慣習的農業と近代農業の比較、各国の分布を概観します。
第 11 回	農村信用市場	インフォーマル金融。マイクロファイナンス。
第 12 回	労働移動	アーサー・ルイスの二重経済モデル、ハリス＝トダロ・モデル。
第 13 回	工業化	ビッグ・プッシュ。
第 14 回	復習と試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。復習は必要ありませんが、講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
黒崎卓、山形辰史（2017）『開発経済学 貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
試験（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

開発経済入門B

池上　宗信

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済入門 B では、開発経済入門 A で扱った経済成長の指標、プロセスの理論を下に、教育や貿易などの経済成長の要因を概説します。その後、対外債務、開発援助、持続可能な発展など、経済成長に伴う問題について概説します。

【到達目標】
なぜ我が国を含む東アジアの国々は急速に経済発展したのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々は急速に経済発展しなかったのか？ このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、毎回、いくつかの質問、ディスカッションポイントを設け、発言、議論を促したいと思っています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	高校地歴の教育における本授業の意味。人口増加と経済成長	中国はなぜ一人っ子政策を採用したのでしょうか？
第２回	健康と経済成長	途上国は健康の向上のためにどれだけ投資すべきでしょうか？
第３回	教育と経済成長	日本が経済成長できたのは高い教育水準が原因でしょうか？
第４回	貿易と経済成長	技術移転、貿易の利益。東アジアの奇跡。オランダ病。
第５回	労働力の国際移動	海外送金。頭脳流出。
第６回	開発金融	海外直接投資。金融発展とインフレーション。金融政策の役割。
第７回	対外債務と金融危機	過大な対外債務から金融危機に陥った事例を学びます。
第８回	開発援助	ＯＤＡと経済成長。日本はどのようにＯＤＡを活用しているのでしょうか？
第９回	ＩＭＦ・世界銀行の構造調整プログラム	理論と結果。
第１０回	食糧援助	どれだけの食糧援助が行われているのでしょうか？ 続けるべきでしょうか？
第１１回	汚職	途上国における汚職の現状、要因、経済効果について概観します。
第１２回	政治体制	各国の過去、現在の政治体制と経済成長との関連を考察します。
第１３回	持続可能な発展	経済成長の及ぼす環境への影響。持続可能な発展とは何か、可能か。
第１４回	復習と試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。復習は必要ありませんが、講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
黒崎卓、山形辰史（2017）『開発経済学 貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
試験（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

経済学史 A

平瀬　友樹

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては，ケインズ以前の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】
経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、社会経済学と新古典派経済学の成立過程について解説を行う。そもそも、『国富論』によって経済学が成立するはるか以前より、保護主義的思想と自由主義的思想の対立が続いてきた。したがって、価値論を中心に据えながら、社会経済学と現代経済学の対立および論点について学ぶことは、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であると言えよう。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【授業の進め方と方法】
講義は，①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う，②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする，という２つの観点から構成されている。これは，その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも，いくつかの思考の「繰り返し」として表現されうるためである。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	アダム・スミス以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第 3 回	アダム・スミスの経済理論について	2 つの価値論の誕生・現代経済学と社会経済学の違い
第 4 回	リカードの経済理論について	穀物法論争と差額地代論・現代にも通じる論争と政策決定
第 5 回	リカードの経済理論の成立	比較生産費説について・理論で考えるということ
第 6 回	J.S. ミルの経済理論について	古典派経済学の限界・資本主義をどうとらえるべきか
第 7 回	マルクスの短期的経済分析	搾取とは何か・貧富の格差と投下労働価値説
第 8 回	マルクスの長期的経済分析	利潤率低下の法則とは何か
第 9 回	マルクス経済学の評価について	転化問題を中心に・マルクスの現代的意義について
第 10 回	限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第 11 回	限界革命の立役者たち	ワルラスを中心に
第 12 回	新古典派経済学の成立	マーシャルの経済学・需給による価格決定分析の成立
第 13 回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識がなければ単位の習得は困難であると思われる。

【テキスト（教科書）】
追って指示する。

【参考書】
井上義朗『コア・テキスト　経済学史』新世社
その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
数学的問題を含む定期試験 (70 %) および平常点（30 %）によって評価する。ただし、平常点は A 以上の成績をつける場合にのみ参照するものとする。なお、「単位が足りずに卒業できない」等個人的事情は一切考慮しないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
声が聞き取りづらいという指摘があったため、前列に着席することにご協力いただきたい。

【その他の重要事項】
本講義は、経済学を勉強したい学生向けの講義である。そのため、私語は厳禁とし、見つけ次第厳しく指導する。

経済学史 B

平瀬　友樹

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Bにおいては，主にケインズ以降の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】
経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、IS-LM 分析を中心とする旧マクロ経済学とルーカス批判以降の新マクロ経済学の成立過程について解説を行う。旧マクロ経済学と新マクロ経済学の対立および論点について学ぶことは、経済学史 A と同様に、単なる理論的知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義である。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【授業の進め方と方法】
講義は，①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う，②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする，という２つの観点から構成されている。これは，その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも，いくつかの思考の「繰り返し」として表現されうるためである。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	貨幣数量説と市場に対する評価
第 3 回	ケインズ革命によって失われたマクロ経済分析	ヴィクセルによる累積過程の分析
第 4 回	ケインズ革命	ケインズ自身の理論について・科学革命の実際
第 5 回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS − LM 分析・その功績と功罪について
第 6 回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第 7 回	戦後の経済理論の発展について	ケインジアンによる経済成長論
第 8 回	経済成長論の誕生	新古典派による経済成長論
第 9 回	新古典派総合の誕生	理論と政策の関係性について
第 10 回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第 11 回	新しいマクロ経済学の誕生	ルーカス批判とは何か　新自由主義との関連について
第 12 回	計量経済学の誕生	IS-LM 分析ベースの定量的分析の紹介
第 13 回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBC を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識がなければ単位の習得は困難であると思われる。

【テキスト（教科書）】
追って指示する。

【参考書】
井上義朗『コア・テキスト　経済学史』新世社
その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
数学的問題を含む定期試験 (70 %) および平常点（30 %）によって評価する。ただし、平常点は B 以上の成績をつける場合にのみ参照するものとする。なお、「単位が足りずに卒業できない」等個人的事情は一切考慮しないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
声が聞き取りづらいという指摘があったので、前列に着席することにご協力いただきたい。

【その他の重要事項】
本講義は、経済学を勉強したい学生向けの講義である。そのため、私語は厳禁とし、見つけ次第厳しく指導する。

経済地理Ａ

近藤　章夫

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	経済成長と人口構造①	世界経済の地理と歴史
第 3 回	経済成長と人口構造②	人口構造と経済成長論
第 4 回	経済成長と人口構造③	都市化と人口問題
第 5 回	立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第 6 回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第 7 回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第 8 回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第 9 回	グローバル化とローカル化①	企業の分業システムとグローカルネットワーク
第 10 回	グローバル化とローカル化②	産業発展のダイナミズムと比較制度分析
第 11 回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第 12 回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
富田和暁（2006）『地域と産業―経済地理学の基礎―』原書房
山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（70%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（20%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

経済地理Ｂ

近藤　章夫

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	経済学と集積①	集積の利益とは何か
第 3 回	経済学と集積②	経済成長と集積の関係
第 4 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
第 5 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第 6 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、経済理論の発展
第 7 回	現代の集積論②	クラスター論と空間経済学
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第 10 回	自動車産業の集積①	JIT 生産システムと近接性
第 11 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第 12 回	ハイテク産業の集積①	シリコンバレーモデルと産学連携
第 13 回	ハイテク産業の集積②	知識経済とイノベーション
第 14 回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2008）『立地ウォーズ』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（70%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（20%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

経済の数理 A

佐柄　信純

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済理論や統計学をより深く理解するために必要な線型代数を題材を厳選して講義します．ベクトル，行列，掃き出し法，行列式，線形空間，固有値，非負行列の理論を丁寧に解説します．特に線型微分方程式，重回帰分析，産業連関分析への応用を念頭に置いて講義を行います．数値解析ソフトで行う計算の意味を正しく理解できるよう，連立一次方程式の解法，および逆行列や固有値の計算アルゴリズムの背後にある数学理論を系統的に学習します．

【到達目標】
計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です．受講者に求められるのは，自分の頭で考え，論理を粘り強く追って行く根気です．線型空間の公理のみで生み出される豊かな内容を通して「(数学の）本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに，「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います．

【授業の進め方と方法】
数学は「積み重ね」の学問です．それまでに導入した概念に基づき，新たな概念を構築する形で講義は進むので，欠席が続くと講義を理解するのは困難になるでしょう．動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例 → 計算という流れに沿い，テキスト通りに授業を進めます．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	平面および空間のベクトル (1)	平面および空間のベクトル
第 2 回	平面および空間のベクトル (2)	直線と平面
第 3 回	平面および空間のベクトル (3)	平面の回転と行列，線型変換
第 4 回	平面および空間のベクトル (4)	三次行列と V^3 の線型変換
第 5 回	平面および空間のベクトル (5)	行列式およびベクトル積
第 6 回	行列 (1)	行列の定義と演算
第 7 回	行列 (2)	正方行列とくに正則行列
第 8 回	行列 (3)	行列と線型写像
第 9 回	行列 (4)	行列の基本変形
第 10 回	行列 (5)	階数，一次方程式系
第 11 回	行列 (6)	内積とユニタリ行列・直交行列，合同変換
第 12 回	行列式 (1)	置換
第 13 回	行列式 (2)	行列式
第 14 回	行列式 (3)	行列式の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜，宿題を課します．1 回の講義に対して，1 時間の予習と復習が必要になります．

【テキスト（教科書）】
齋藤正彦『線型代数入門』（東京大学出版会，1966 年）

【参考書】
[1] 小山昭雄『線型代数の基礎（上・下）』（新装版 経済数学教室 1，岩波書店，2010 年）
[2] 齋藤正彦『線型代数演習』（東京大学出版会，1985 年）
[3] 佐武一郎『線型代数学』（裳華房，1974 年）
[4] 二階堂副包『経済のための線型数学』（培風館，1961 年）
[5] 古屋 茂『行列と行列式』（培風館，1959 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．振り替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

経済の数理 B

佐柄　信純

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済理論や統計学をより深く理解するために必要な線型代数を題材を厳選して講義します．ベクトル，行列，掃き出し法，行列式，線形空間，固有値，非負行列の理論を丁寧に解説します．特に線型微分方程式，重回帰分析，産業連関分析への応用を念頭に置いて講義を行います．数値解析ソフトで行う計算の意味を正しく理解できるよう，連立一次方程式の解法，および逆行列や固有値の計算アルゴリズムの背後にある数学理論を系統的に学習します．

【到達目標】
計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です．受講者に求められるのは，自分の頭で考え，論理を粘り強く追って行く根気です．線型空間の公理のみで生み出される豊かな内容を通して「(数学の）本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに，「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います．

【授業の進め方と方法】
数学は「積み重ね」の学問です．それまでに導入した概念に基づき，新たな概念を構築する形で講義は進むので，欠席が続くと講義を理解するのは困難になるでしょう．動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例 → 計算という流れに沿い，テキスト通りに授業を進めます．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	線型空間 (1)	集合と写像
第 2 回	線型空間 (2)	線型空間
第 3 回	線型空間 (3)	基底および次元，線型部分空間
第 4 回	線型空間 (4)	線型写像とくに線型変換
第 5 回	線型空間 (5)	計量線型空間
第 6 回	固有値と固有ベクトル (1)	固有値と特性根
第 7 回	固有値と固有ベクトル (2)	ユニタリ空間の正規変換
第 8 回	固有値と固有ベクトル (3)	実計量空間の対称変換
第 9 回	固有値と固有ベクトル (4)	二次形式
第 10 回	固有値と固有ベクトル (5)	二次曲線および二次曲面，直行変換とくに三次元空間の回転
第 11 回	線型変換の標準形 (1)	対角線型変換
第 12 回	線型変換の標準形 (2)	微分方程式と回帰数列
第 13 回	線型変換の標準形 (3)	ジョルダン標準形
第 14 回	線型変換の標準形 (4)	ジョルダン分解，最小多項式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜，宿題を課します．1 回の講義に対して，1 時間の予習と復習が必要になります．

【テキスト（教科書）】
齋藤正彦『線型代数入門』（東京大学出版会，1966 年）

【参考書】
[1] 岩田暁一『経済分析のための統計的方法（第 2 版）』（東洋経済新報社，1983 年）
[2] スメール，ハーシュ『力学系入門』（田村一郎他訳，岩波書店，1976 年）
[3] 吉原直毅『労働搾取の厚生理論序説』（岩波書店，2008 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．振替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

データ解析入門 A（2016年度以降入学生）
コンピュータによるデータ解析 A（2015年度以前入学生）

宮脇　典彦

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データ解析の基礎的な解析手法の習得
（本講義を履修するだけでは，データ解析の技術を取得する段階に止まってしまうので，秋学期の「データ解析入門Ｂ」を同一年度内に必ず履修してください。）

【到達目標】
数値データおよびカテゴリーデータの基礎的な解析手法を学習し，実際にアンケート調査を実施することで応用力を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業は実習形式で行います。与えられる課題は，各人が自主的に行うことになります。Windows 上で “SPSS” という統計解析用のソフトウェア用いてデータの集計・作表や解析を行いますので，Windows の操作ができることが履修の前提となります。
データ解析の基本的な手法を解説した後，４～５人のグループを作り，ある団体から依頼されたというシナリオの下に，アンケート調査を企画・実施します。
この科目はいわゆる “講義” ではなく，むしろ理系の “実験・演習” に近いものと理解してください。次々と新しい分析ツールを学んでいくため，授業への毎回の出席は不可欠です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	データ解析と統計ソフトの概説
第 2 回	尺度構造と入力	変数の尺度構造・データの入力方法
第 3 回	データの加工	新しい変数の作成，ソーティング
第 4 回	数値データの解析（1）	入力とグラフ化
第 5 回	数値データの解析（2）	基本統計量（平均，分散など）とその意味
第 6 回	数値データの解析（3）	基本統計量（平均，分散など）を求める
第 7 回	数値データの解析（4）	２つの変数の関係
第 8 回	カテゴリーデータの解析（1）	入力と加工
第 9 回	カテゴリーデータの解析（2）	集計とグラフ化
第 10 回	カテゴリーデータの解析（3）	２つの変数の関係
第 11 回	カテゴリーデータの解析（4）	多重回答データの処理
第 12 回	アンケート調査（1）	基本設計
第 13 回	アンケート調査（2）	詳細設計
第 14 回	小テスト・アンケート調査（3）	パイロットサンプルによる最終設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキストを事前に予習し，毎回の授業の後復習を行う。
②数回の課題に取り組む。
③グループごとにアンケート調査を計画する。

【テキスト（教科書）】
宮脇・和田・阪井著 『SPSS によるデータ解析の基礎（改訂版）』 培風館，2011 年

【参考書】
テキストに必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）
レポートとアンケート調査設計（30 %）
小テスト（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎回新しい手法を学ぶので大変だという声が多いので，必ず前の週の復習を２０分ほどかけて行っています。

【学生が準備すべき機器他】
実習室に設置されたパソコンを使用します。

データ解析入門 B（2016年度以降入学生）
コンピュータによるデータ解析 B（2015年度以前入学生）

宮脇　典彦

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
① アンケート調査に基づくレポート作成とプレゼンテーション
② 回帰分析
（「データ解析入門Ａ」をその年度に履修していることが，本科目履修の前提となります。）

【到達目標】
アンケート調査の分析結果をまとめ，プレゼンテーションを行うことにより，データ解析の手法を経験的に体得する。
回帰分析の手法を応用し，実際のデータを用いてモデルを作成する能力を身につける。

【授業の進め方と方法】
前半には，春学期に行ったアンケート調査の解析を進め，グループ毎に結果を発表してもらいます
次に「回帰分析」とよばれる手法を解説し，実際のデータを用いて各自がオリジナルな回帰モデルを構築するという体験を通じて，データ解析を行う上でさらに高度な知識を身に付けていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アンケート調査の解析（1）	データの入力
第 2 回	アンケート調査の解析（2）	単純集計
第 3 回	アンケート調査の解析（3）	クロス集計
第 4 回	アンケート調査の解析（4）	総合的な分析１
第 5 回	アンケート調査の解析（5）	総合的な分析２
第 6 回	アンケート調査の発表（1）	前半のグループのプレゼンテーション
第 7 回	アンケート調査の発表（2）	後半のグループのプレゼンテーション
第 8 回	回帰分析の基礎	相関と回帰・最小２乗法の考え方
第 9 回	単回帰分析（1）	回帰係数の推定
第 10 回	単回帰分析（2）	決定係数、回帰係数の検定
第 11 回	重回帰分析（1）	回帰係数の推定，決定係数と F 検定
第 12 回	重回帰分析（2）	各回帰係数の検定・変数選択法
第 13 回	回帰モデルの作成（1）	実際のデータを用いた回帰モデルの作成
第 14 回	回帰モデルの作成（2）	作成した回帰モデルの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①グループごとにアンケート調査を実施・解析し，報告書を提出し，授業内で解析結果を発表する。
②テキストを事前に予習し，毎回の授業の後復習を行う。
③各人が自分独自の回帰モデルを作成する。

【テキスト（教科書）】
宮脇・和田・阪井著 『SPSS によるデータ解析の基礎（改訂版）』 培風館，2011 年

【参考書】
教科書に必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）
アンケート調査報告書・プレゼンテーション（30 %）
回帰モデルレポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
「回帰分析が難しい」というコメントが多いので，できる限り平易に説明するよう心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
実習室に設置されたパソコンを使用します。

アメリカ経済論 A

河村　哲二

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，A，B を通して，パックス・アメリカーナの盛衰という長期的視点に立って，第二次大戦後，世界経済をリードしたアメリカ経済の発展構造の特質と問題点を解明し、そうした長期的・総合的な視点にたって、2000 年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機、さらに最近の「トランプ現象」など、日本経済・世界経済の動向の理解に不可欠なアメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】
アメリカ経済論 A では，アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970 年代を境にした戦後パックス・アメリカーナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することを目指す。

【授業の進め方と方法】
講義は，スライドを掲示し、テキスト『現代アメリカ経済』と『アメリカ経済入門』を随時使用して進める。受講生は WEB 公開される講義スライド・その他の資料をダウンロードし、テキスト・参考書とともに、講義中および予習・復習に利用して学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	序論　アメリカの社会経済的特質と歴史過程	歴史的発展過程にみるアメリカ的特質。
第 3 回	第 1 章　第一次大戦前の経済発展プロセスとその特徴 1. 初期の経済発展	植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴。
第 4 回	2. 国民経済の発展	南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）。
第 5 回	3. アメリカ経済発展と「ビッグビジネス」の登場	南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグ・ビジネス」の登場。
第 6 回	第 2 章　戦間期 1. 第一次大戦と 1920 年代	戦間期前半期の経済発展 (「永遠の繁栄」) と「大恐慌」。
第 7 回	2. 株式ブームの発展と世界経済的不均衡	耐久消費財ブームの限界・「株式ブーム」の発展と崩壊。
第 8 回	3. 世界大恐慌とニュー・ディール (1) ニュー・ディール	世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場。
第 9 回	(2) ニュー・ディールの限界と 1937 年恐慌	ニューディール政策の限界。
第 10 回	第３章　戦後パックス・アメリカーナの形成	第二次大戦戦時経済と戦後パックス・アメリカーナの形成。
第 11 回	1．第二次大戦期戦時経済 (1) 戦時経済システム	戦時経済システムの概要とその特徴。
第 12 回	(2) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換	戦時経済下の制度構造・システム転換。
第 13 回	2．戦後パックス・アメリカーナシステムの登場 (1)「持続的成長」の国内システムの登場（企業と政府）	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成 (国内体制)。
第 14 回	(2)「持続的成長」の世界政治経済システムの形成 講義内容のまとめ	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成 (パックス・アメリカーナの世界政治経済体制)。 戦後パックス・アメリカーナの確立の歴史的意義。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所の予習・復習をする。そのなかでテキスト『現代アメリカ経済』の章末練習問題の解答を作成する。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献一覧から適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化が、大きく理解を助けるとして好評なため、引き続き拡充を図る。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

アメリカ経済論 B

河村　哲二

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後パックス・アメリカーナの衰退・転換とアメリカ経済の「グローバル資本主義化」という視角から、1980 年代以降のアメリカ経済の現状と問題点を解明し，アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題、さらに「トランプ現象」と関連したパックス・アメリカーナの変容の行方を展望する。

【到達目標】
春学期のアメリカ経済論 A の講義を受けて，1970 年代を境にグローバル化をを通じた「グローバル成長連関」の出現によって新しい経済発展の構造が登場したアメリカ経済が、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機によってさらに大きな変貌を遂げようとしていることを、歴史的な背景とともに学び、アメリカおよび世界経済の現状と今後の行方を展望することを目指す。

【授業の進め方と方法】
講義は、講義計画にそって、スライドを提示しながら進める。受講生は、アップロードされたスライド講義資料とその他参考文献を講義中および予習・復習に利用して学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論　戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換と経済グローバル化の意義。
第 2 回	第１章　戦後パックス・アメリカーナ １．戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	戦後パックス・アメリカーナの「持続的成長」のシステムの特徴：戦後企業体制と政府機能／世界編成。
第 3 回	(2) 戦後世界の政治経済システム	国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み。
第 4 回	２．戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	内在的問題の発展と衰退。
第 5 回	(1)「レーガノミックス」	1980 年代以降のアメリカ経済の変貌と「レーガノミックス」。
第 6 回	(2) 金融の変貌	金融革新・「ファイナンシャリゼーション」の展開。
第 7 回	(3) 企業体制・労使関係の転換	戦後企業体制の転換とグローバル化。
第 8 回	３．「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティ」の重層的発展。
第 9 回	(2)「新帝国循環」と金融的発展	アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴。
第 10 回	４．1990 年代の長期好況 (1)IT 革命とニューエコノミー	1990 年代長期好況・「IT ブーム」とその限界。
第 11 回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ①「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブーム」のメカニズムと「サブプライム問題」の発展。
第 12 回	②グローバル金融危機の展開	グローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響。
第 13 回	③緊急景気対策	緊急景気対策の特徴と限界。
第 14 回	５．経済回復過程の特徴と問題点 まとめと展望	アメリカ経済の回復過程の現状。 講義の総括とパックス・アメリカーナの行方の展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所を用い、参考文献・Web 検索なども活用して予習・復習をする。課題レポートで中間的なまとめを行う。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）／河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
『現代経済の解読（第 3 版）』（御茶の水書房、2017 年）、および、テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献・その他から講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料における各種画像資料の提示や図式化を引き続き拡充する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

ヨーロッパ経済論 A

進藤　理香子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二次大戦の敗戦、東西分断の困難のもと復興を遂げたドイツは 1990 年再統一を経て今日欧州トップの経済大国へと成長した。20 世紀ヨーロッパ国際秩序再編は正にドイツ問題を軸に展開したと言っても過言ではない。本講は欧州経済統合の礎となる 1945 年から 80 年代半までのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及びその国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】
第二次大戦後の世界情勢、とりわけ米ソ冷戦体制とヨーロッパ経済統合の歴史的プロセスを理解する。また今日の欧州連合に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を学習する。

【授業の進め方と方法】
・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代欧州社会におけるドイツの位置	ドイツ問題を中心に戦後ヨーロッパの発展を学ぶ意義について。
第 2 回	第二次大戦終結と連合国占領政策	連合国によるドイツ四か国分割統治と占領政策（非軍事化、賠償、国境問題、ニュルンベルク裁判）を学ぶ。
第 3 回	マーシャルプランと西ヨーロッパの経済復興	アメリカ主導の復興支援、トルーマン・ドクトリンと東西陣営形成を見る。
第 4 回	通貨改革と東西ドイツ	東西占領地区相異なる通貨改革によるドイツの政治的、経済的分断の過程を見る。
第 5 回	ドイツ連邦共和国アデナウアー政権と冷戦体制	西ドイツ国際社会への復帰と安全保障問題、米ソ冷戦構造を把握する。
第 6 回	西ドイツ社会的市場経済と経済相エアハルト	社会的市場経済、その理論的背景と西ドイツにおける実践に関し学ぶ。
第 7 回	西ドイツ経済の奇跡	高度経済成長、大衆消費社会と生活水準の向上について見る。
第 8 回	石炭・鉄鋼問題と西ヨーロッパの協調	フランスとドイツの歩み寄り、欧州石炭鉄鋼共同体の結成について学ぶ。
第 9 回	ヨーロッパ市場統合の模索	独仏主導の欧州経済共同体と、英国・北欧諸国主導の欧州自由貿易連合について見る。
第 10 回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツを例に欧州福祉国家概念を学ぶ。
第 11 回	ドイツ民主共和国とベルリンの壁	ソ連・東欧社会主義体制、東ドイツを考察する。
第 12 回	西ドイツ・ブラント首相の東方政策	欧州東西対立における転機となった西ドイツ新東方外交、全欧安全保障協力会議への道を見る。
第 13 回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	高度経済成長の終焉、70 年代世界経済の停滞と西欧、東欧の状況を見る。
第 14 回	ケインズ主義から新自由主義へ	英国サッチャー政権の小さな政府に代表される 80 年代新自由主義的政策の潮流を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・数回に一回、レポートの提出を求める。
・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、戦後ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。必要に応じて講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】
・W.・アーベルスハウザー著、酒井昌美訳『現代ドイツ経済論 ： 一九四五－八〇年代にいたる経済史的構造分析』朝日出版社、1994 年
・猪木武徳『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社、2009 年
・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、増補版、2014 年
・戸原四郎、加藤栄一編『現代のドイツ経済：統一への経済過程』有斐閣、1992 年
・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会、2007 年

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視しています。

ヨーロッパ経済論 B

進藤　理香子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化が急速に進行する 1980 年代、ソ連型計画経済システムはその限界を露呈し、民主化と自由化を求める大衆の抗議運動は東欧全土へ拡大、社会主義体制はここに崩壊した。第二次大戦後最大の世界史的転機となった 1989 年東欧革命は東西ドイツを再統一へ導き、なお形成途上にあった欧州単一市場プロジェクトの旧社会主義諸国への拡大を不可避とさせる。本講は 1980 年代から現在に至るヨーロッパ連合の形成を冷戦の終焉、ドイツ再統一から EU 統合、東方拡大の流れにおいて展望し、今日なお変容し続ける EU の政策と実践について考察することを目的とする。

【到達目標】
ヨーロッパ連合成立における冷戦終焉とソ連・東欧社会主義体制崩壊の意義を理解する。欧州単一市場形成・通貨統合、EU 独自のガバナンスを学ぶ。EU 諸国の均一性と多様性を把握し、域内のみならず域外に対し今後 EU が担うべき課題を考える。

【授業の進め方と方法】
・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会主義体制、停滞から改革へ	ソ連ゴルバチョフ共産党書記長、グラスノスチとペレストロイカ。ブレジネフ政権の停滞、アフガニスタン侵攻、チェルノブイリ原発事故と東欧被災から体制への不信が高まる過程を見る。
第 2 回	1989 年東欧革命	東欧社会主義諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコスロバキア、バルト三国他）の民主化運動から冷戦終結までを見る。
第 3 回	東ドイツ平和革命	ベルリンの壁崩壊をもたらした東ドイツ民主化運動と社会状況について。
第 4 回	ドイツ再統一と国際関係	統一の前提条件となった連合国及び周辺国による承認問題（ドイツ最終規定条約、占領終結、東部国境）を見る。
第 5 回	ドイツ東西経済格差と統一の負担	移行期の負担、旧東独の政治的清算など統一に伴う諸問題を考察する。
第 6 回	ヨーロッパ諸共同体からヨーロッパ連合へ	単一市場形成、単一欧州議定書、マーストリヒト条約に関し学ぶ。
第 7 回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入までの過程を学ぶ。
第 8 回	ヨーロッパ連合の機構と運営	欧州理事会、欧州議会など根幹となる組織と EU 独自のガバナンスを学ぶ。
第 9 回	ヨーロッパ連合の東方拡大	東欧旧社会主義諸国の移行経済と EU 加盟条件をめぐる議論に関し見る。
第 10 回	ヨーロッパ連合加盟諸国の経済・社会構造	EU 各国の特色、経済力格差、社会の均一性と多様性について考える。
第 11 回	ヨーロッパ連合の通商と農業問題	共通通商政策（関税同盟）、共通農業政策（補助金政策）について見る。
第 12 回	ヨーロッパ連合のエネルギー・環境問題	EU エネルギー市場統合の模索を通商産業、環境政策との関連で見る。
第 13 回	ヨーロッパ連合の共通外交、安全保障問題	国際紛争への対応、国連及び NATO との協調に関して見る。
第 14 回	ヨーロッパ連合の労働市場と難民問題	労働者移動と域外からの流入、難民受入れ大国ドイツの社会問題等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・数回に一回、レポートの提出を求める。
・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、現代ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。必要に応じて講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】
・遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016 年
・小川和男『東欧：再生への模索』岩波書店、1995 年
・庄司克宏『欧州連合：統治の論理とゆくえ』岩波書店、2007 年
・庄司克宏『はじめての EU 法』有斐閣、2015 年
・戸原四郎、加藤榮一、工藤章編『ドイツ経済：統一後の 10 年』有斐閣、2003 年
・羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦』中央公論新社、2014 年
・羽場久美子、溝端佐登史『ロシア・拡大 EU』、ミネルヴァ書房、2011 年
・『NHK スペシャル社会主義の 20 世紀』日本放送出版協会、全 6 巻、1990/91 年

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視しています。

現代アジア経済論 A

馬場　敏幸

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎の理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジア NIEs の成立	アジア NIES の国（地域）の成立の概略　（年表資料）
3	データで見るアジア NIEs 1	面積、人口、GDP、人口構成などのデータの意味とデータ取得方法（統計資料１）
4	データで見るアジア NIEs 2	面積、人口、GDP、人口構成の視点からの考察（統計資料２）
5	データで見るアジア NIEs 3	宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
6	経済発展と諸産業１	産業発展とその諸段階　概要　産業構造と情報化
7	経済発展と諸産業２	電気電子産業、自動車産業
8	経済発展と諸産業３	サポーティング産業
9	経済発展と諸産業４	工業化戦略、WTO
10	経済発展と諸産業５	貿易構造の変遷、貿易協定
11	経済・産業発展史１	1970 年代まで
12	経済・産業発展史２	1980～90 年代
13	経済・産業発展史３	2000 年代～現代
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。また参考にあげた URL の使い方に習熟しておくとアジアの様々な情勢のデータ収集に大いに役立つ。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html）、JETRO アジア（https://www.jetro.go.jp/world/asia/）世界銀行オープンデータ（https://data.worldbank.org/）、国連データ (http://data.un.org/)、国連商品貿易統計データベース (https://comtrade.un.org/)、HS コード（輸出統計品目標 2018 ： http://www.customs.go.jp/yusyutu/2018/index.htm）、世界の統計 2017（http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.htm）

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 80%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語が集中力の妨げるとの意見が多い。私語は注意して自粛してもらうようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】
本講義とともに現代アジア経済論Ｂ（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、Ａ・Ｂ双方での履修を望む。

現代アジア経済論 B

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に講義を進めたい。各国の個別事情（経済・政治・歴史・文化など）を講義した後、第二次世界大戦後から現在における各国経済・産業の発展経路について講義を進めたい。その上で、アジアの経済発展に重要な電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資についての理解を目指す。

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではアジアの状況に大きな影響を与えたポイントとなる出来事を学ぶ。中盤では ASEAN 諸国の成立と現状を学ぶ。後半は第二次世界大戦後の ASEAN の発展史を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、 地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジアの三角貿易構造	アジアの三角貿易構造、貿易摩擦、プラザ合意
3	アジア経済通貨危機	中国の経済発展と台頭、アジア経済通貨危機
4	世界同時不況	サブプライムローン危機から世界同時不況
5	東日本大震災と東電原発事故	東日本大震災、東電原発事故、日本とアジアの貿易構造の変化
6	ASEAN 諸国１	講義対象国の成立の概略　（年表資料）
7	ASEAN 諸国２	面積、人口、GDP、人口構成などのデータの意味とデータ取得方法（統計資料１）
8	ASEAN 諸国３	面積、人口、GDP、人口構成の視点からの考察（統計資料２）
9	ASEAN 諸国４	宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
10	ASEAN 経済・産業発展史１	1970 年代まで
11	ASEAN 経済・産業発展史２	1980～90 年代
12	ASEAN 経済・産業発展史３	2000 年代
13	ASEAN 経済・産業発展史４	現代
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。また参考にあげた URL の使い方に習熟しておくとアジアの様々な情勢のデータ収集に大いに役立つ。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html）、JETRO アジア（https://www.jetro.go.jp/world/asia/）世界銀行オープンデータ（https://data.worldbank.org/）、国連データ (http://data.un.org/)、国連商品貿易統計データベース (https://comtrade.un.org/)、HS コード（輸出統計品目標 2018 ： http://www.customs.go.jp/yusyutu/2018/index.htm）、世界の統計 2017（http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.htm）

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 80%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語が集中力の妨げるとの意見が多い。私語は注意して自粛してもらうようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】
本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため，A・B 双方での履修を望む。

中国経済論 A

菊池　道樹

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　現代中国におけるマクロ経済の成長動向とその要因を理解したうえで、高度成長をもたらしてきた要因を、歴史、制度、政策の面から、日本や欧米諸国との比較において検討する
　中国が計画経済体制から市場経済体制への移行を開始してから今年は３８年目を迎える。この間，中国の GDP は年平均実質で 9 %を上回る高成長率を維持し、２０１０年には日本を抜き世界第 2 位の規模に達した。今や世界経済の動向は中国をぬきにして語ることはできないと言っても過言ではない。こうした中国経済のマクロの動向、成長要因の分析と今後の課題を検討することが本講義の課題である。

【到達目標】
１９７８年に市場経済体制への転換が開始されて以降の、中国におけるマクロ経済の動向と現状を正確に把握し、今後の中国経済の見通しについて、各自自らの見解を他の人々に説明ができることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
毎回、パワーポイントを用いて各回ごとの要点を説明する。数回にわたり主なテーマについてレポートを提出してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界のなかの中国経済	現代中国の経済、社会の現状と今後のみどころを紹介。
第 2 回	国際比較の観点からみた中国経済	日本やアジア諸国の経済成長との比較。
第 3 回	中国経済史の再検討-高成長との連続性の観点から	「中国停滞論」の見直し。マディソン仮説の意義を検討。
第 4 回	社会主義経済体制の形成、展開、挫折	毛沢東の目指した社会主義体制とは？国営企業と人民公社の実態と破綻の分析。
第 5 回	市場経済体制への移行のプロセスと現状	中国が選択した漸進主義、社会主義市場経済体制とは？
第 6 回	投資・輸出主導型成長の軌跡、特徴、問題点	３０年余にわたる成長要因について、高投資が可能となった背景、輸出拡大のプロセスに焦点をあてて分析。
第 7 回	「世界の工場　中国」の形成と展開	中国型２部門間モデルから「世界の工場」へ。
第 8 回	「世界の工場」から「工業強国」へ	産業集積の発展。 政府主導のイノベーションの動向、国際競争力の進展。
第 9 回	労働市場の変化-「過剰労働の世界」から「労働不足の世界」へ	経済体制改革に伴う都市、農村における労働市場の変化特に「労働不足」と大卒の就職難というミスマッチについて分析。
第 10 回	成長と格差　（1）	地域格差、都市・農村間の格差の実態ーその背景と問題点。
第 11 回	成長と格差　（2）	所得格差、貧困問題を国際比較から検討。
第 12 回	成長モデルの転換-「中所得国の罠」の不安	中所得国の多くが共通して直面している、経済の停滞状況に陥らずに成長の持続が可能か否かを検討。
第 13 回	経済成長と政治体制（1）-「北京コンセンサス」をめぐって	中国型開発独裁体制の分析、「中国モデル」よばれるシステムについて議論を整理したうえでその普遍性について検討。
第 14 回	経済成長と政治体制（2）-　民主主義体制の可能性	体制に批判的な様々な動きを紹介し、今後の展望を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌、テレビの中国関連の報道（例えば、「NHK スペシャル」）にふれ、重要と思われる記事などはメモをとっておくことが望ましい。
第3、5、１１、１４回の終了時にレポート提出を、またそれ以外の回においては、授業の感想文を提出してもらう予定。

【テキスト（教科書）】
市販の書物を教科書として指定しない。毎回パワーポイントで編集したレジメ、統計・資料を配布し、これをもとに授業を進める。

【参考書】
ドナルド・コース、王寧、『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）

【成績評価の方法と基準】
定期試験　　80 %
課題の提出　　20 %

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイント、配布資料には要点をすべて書き込むのではなく、適当に空欄を設け、講義を聴きながら書き込むような工夫をしたい。

中国経済論 B

菊池　道樹

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の高度経済成長のミクロ要因としての企業組織の改革、および今後の成長に影響を及ぼす、人口・労働、食糧、農業・農村、環境問題などについて具体的なデータを用いて明らかにし、今後の問題点を検討する。

【到達目標】
中国企業の組織上の特徴、人口・労働市場の動向、食糧と農業、環境問題について、経済学の基礎知識をもとに正確に理解したうえで、今後の見通しを自分なりの見解を述べることができることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
中国経済が高成長を持続させる、ミクロ的要因としての新たな企業組織の展開について検討したうえで、今後の成長を左右すると思われる課題としての、人口労働、食糧・農業、環境・資源、政治体制などのトピックスをとりあげる。全体を通じて、今後の世界経済のなかで中国が果たす役割を見通す手がかりを得ることをめざす。
　数回にわたり、主なテーマについてレポートを提出してもらう。
パワーポイントを使用するほか、講義に関連する映像や写真を利用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業改革のプロセスと企業組織多様化の現状	経済制度改革に伴う、企業改革の動向と多様な企業組織の実情。
第 2 回	国有企業の成長の事例-「ハイアール企業集団」	国際的知名度が高い「ハイアール企業集団」をとりあげ、大規模企業における組織上の特徴を日本的経営と比較。
第 3 回	民間企業の成長の事例-「正泰企業集団」	代表的な民間企業、「正泰企業集団」を中心に, 中国独特の家族経営の組織上の特徴を検討。
第 4 回	対外開放政策の展開	１９７９年以降の中国政府による外資導入、貿易拡大政策を検討。
第 5 回	貿易の拡大の動向と現状	品目、相手国別に貿易の動向を概観したうえで、経済成長に及ぼした影響と現状について検討。
第 6 回	海外企業による投資の展開と現状	分野毎に投資額の推移の概観、経済成長に及ぼした影響と最近の実情も検討。
第 7 回	人口問題（1）-「一人っ子政策」の背景	「一人っ子政策」をとるにいたった事情を人口動態、毛沢東など指導者の考えについて考察。
第 8 回	人口問題（2）-「一人っ子政策」の展開と転換	「一人っ子政策」が経済成長に及ぼしてきた影響、政策の転換を実行する背景について検討。
第 9 回	「人口ボーナス（紅利）」の終焉	経済成長を促進する要因であった生産年齢人口の減少傾向を論証したうえで、日本など他国との比較において今後の見通しについて検討。
第 10 回	「未富先老」（豊かになる前に老いる）時代の到来？	医療や年金など社会保障制度について検討。
第 11 回	農業問題（1）-農業生産の動向と農業政策	農業生産動向と問題点を概観。農業の産業化という新たな動向にも注目。
第 12 回	農業問題（2）-食糧問題の推移と現状	レスター・ブラウンの問題提起、中国の新たな食糧問題。
第 13 回	農業問題（3）-「三農」問題と中国農業の行方	農民の貧困、農業の低迷、農村と都市の間の格差問題を分析。
第 14 回	経済成長と環境-環境汚染と政府の対応	経済成長に伴う環境問題の発生と推移、政府の対応、政策の変遷について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第3、6、１０、１３回の講義が終了後にレポートを、それ以外の回終了後には感想を提出。「中国経済論 A」同様、中国の企業や農業、政治動向などに関する新聞、テレビの報道に接しておくこと。

【テキスト（教科書）】
市販の書物をテキストとしては使わず、毎回、パワーポイントで編集したレジメ、資料を配布し、それに沿って授業を進める。

【参考書】
「海爾（ハイアール）集団」（王曙光、東洋経済新報社)、「中国低層訪談録」（廖亦武、中国書店)、「中国で環境問題にとりくむ」（定方正毅、岩波新書）など興味深い本がたくさんあるので親しんでほしい。また、ドナルド・コース、王寧『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）にはぜひ挑戦してほしい。

【成績評価の方法と基準】
定期試験　　80 %
課題の提出　　20 %

【学生の意見等からの気づき】
「中国経済論 A」同様、パワーポイント、配布資料は工夫をしたい。また、双方向的な授業の進め方を取り入れる。

世界の文化と思想 A

橋本　到

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の文化と思想を理解するために、地域としてフランスを選び、文化と思想に関連する代表的な複数のテーマについて、それぞれ概観したのち、様々な研究蓄積、諸資料を踏まえて考察を加えることにより、当該地域の歴史や社会について、我が国と関連付けて広い視野に立ち、公正に理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】
文化・思想に関連するテーマのうち、文学、言語、芸術（ジャポニズム）に焦点を当て、次の三点についてその概要と文化的意義を解説する。文学においては、近現代（18 世紀から 19 世紀）の人間の理解の変遷を文学のなかに見る。言語については、国際関係のなかで言語（フランス語）が国家形成に関わり、また、今後、国際関係の中でどのような意味を持つか、そして、芸術においては、自国の文化の再生に国外から異質なものを取り入れることの意義を理解する。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。映像資料の視聴、また、二回のレポートの提出を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文学（1）	フランス文学の展開と重要な概念、人間理解にかかわる変遷などの概説
第 2 回	文学（2）	18 世紀文学に見る、人間理解の深化について
第 3 回	文学（3）	19 世紀文学に見る、人間理解の方向性（経済的存在としての人間）
第 4 回	映像資料（1）	上記（第 1 回から第 3 回）にかかわる実例（社会的上昇への欲望、手段としての金銭など）
第 5 回	言語と言語政策（1）	フランスの地方と統合の歴史、フランス語の歴史
第 6 回	言語と言語政策（2）	フランスの古典期から現代にかけての言語政策
第 7 回	言語と言語政策（3）	複言語主義（英語と対峙するフランス語）
第 8 回	言語と言語政策（4）	フランスの国内言語への政策
第 9 回	言語と言語政策（5）	外国語教育の実情と課題
第 10 回	ジャポニズム（1）	フランスから見た日本、幕末までの日仏関係、1890 年以前のフランス・ジャポニズム
第 11 回	ジャポニズム（2）	1890 年以降のフランス・ジャポニズム
第 12 回	ジャポニズム（3）	アニメ輸出、日仏の交流
第 13 回	映像資料（2）	上記（第 10 回から第 13 回）にかかわる実例
第 14 回	復習と進度の調整	これまでの講義をどれだけ理解したか復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノート、配布物は適宜ふりかえり、講義の理解が円滑になるよう努力する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
・『新版フランス文学史』白水社（1992）。
・カルヴェ『言語政策とは何か』白水社（2000）。
・ジャポニズム学会『ジャポニズム入門』（2000）思文閣。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %、二回のレポート各 10 %として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
初年度講義につきなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを、各自、利用できるようにしておくこと。

世界の文化と思想 B

橋本　到

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の文化と思想を理解するために、地域としてフランスを選び、文化と思想に関連する代表的な複数のテーマについて概観したのち、様々な研究蓄積、諸資料を踏まえて考察を加えることにより、当該地域の歴史や社会について、我が国と関連付けて広い視野に立ち、公正に理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】
文化・思想に関連するテーマのうち、植民地問題、移民問題をめぐる考え、構造主義哲学に焦点を当て、次の三点についてその概要といくつかの視点を解説する。植民地問題においては、概説に続けてアルジェリアをめぐる知識人の苦悩、移民問題については、移民・受け入れ側双方のアイデンティティー、また、構造主義については、様々な矛盾の果に近代あるいはヨーロッパに向き合った知性の軌跡として構造主義が生まれたことを理解する。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。映像資料の視聴、また、二回のレポートの提出を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アルジェリア・植民地問題（1）	フランスの植民地問題の概説
第 2 回	アルジェリア・植民地問題（2）	アルジェリア問題への知識人の対応
第 3 回	アルジェリア・植民地問題（3）	ド・ゴールによる解決とそれが残したもの
第 4 回	映像資料（1）	上記（第 1 回から第 3 回）にかかわる実例（知識人の態度）
第 5 回	移民問題（1）	フランスにおける移民問題の概説
第 6 回	移民問題（2）	フランスとヨーロッパの状況
第 7 回	移民問題（3）	アルジェリア系移民の教育問題
第 8 回	映像資料（2）	上記（第 5 回から第 7 回）に関連する映像
第 9 回	思想（1）	構造主義に達するまでの道のり。
第 10 回	思想（2）	ソシュール、フーコーの考え。
第 11 回	思想（3）	バルト、レヴィ=ストロースの考え。
第 12 回	思想（4）	ラカンの考え
第 13 回	思想（5）	リセにおける哲学教育
第 14 回	復習と進度の調整	これまでの講義を必要に応じてふりかえり、どれだけ理解したか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノート、配布物は適宜ふりかえり、授業の理解が円滑になるよう努力する。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。

【参考書】
・ペルヴィエ『アルジェリア戦争 ― フランスの植民地支配と民族の解放』白水社、クセジュ文庫。
・バンセル『植民地共和国フランス』（2011）岩波書店。
・久米博『現代フランス哲学』（1998）、新曜社。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %、二回のレポートを各 10 %として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
初年度講義につきなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを、各自、利用できるようにしておくこと。

環境科学 A

岡部　雅史

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，環境とはなにか？　私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 －環境を構成する要因，2 －環境の変動，3 －テクノロジーの進歩と環境に対する影響，4 －環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と，その将来。以上の 4 つのサブテーマから構成され，前半では環境の概念の理解，後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

環境科学 B

岡部　雅史

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？そのメカニズムと，現在の環境汚染の現状，さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【授業の進め方と方法】
講義全体としては、1 －自然環境を構成する因子、2 －環境汚染の変遷、3 －現在の環境汚染、4 －環境負荷低減テクノロジーの展開と，その将来等　以上の 4 つのサブテーマから構成され，前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解，後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し，環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第 3 回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第 4 回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第 5 回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 6 回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第 9 回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 10 回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 11 回	環境・エコビジネス A：	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第 12 回	環境・エコビジネス B：	ESCO 事業 2（適用実例）
第 13 回	環境・エコビジネス C：	エコファンド・土地関連ビジネス
第 14 回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

国際ビジネス論 A

山本　功

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスに関わる限り、国際的な関わりを避けることはできない。本講義は国際的ビジネスに関わる際に重要と考えられるテーマを取り上げて概括する。その際、思考の 3 原則（本質的に考える、総合的に考える、長期的に考える）を念頭に置く。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は、デジタリアル経済時代におけるビジネスに関わる際に有用な思考の枠組みとスキルを身に着けることができる。

【授業の進め方と方法】
授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。現実の動きとして、各授業の冒頭で、日経新聞の記事を取り上げ、コメントしたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ビジネス思考	ロジカル思考、PDCA などビジネスにおける分析・意思決定アプローチを概観する。
2	ビジネスの本質	ビジネスとは何か。ビジネスを担う主体である企業の本質とは何かを概観する。
3	株式会社の歴史① 概観	株式会社の成立と変貌の歴史を概観する。
4	株式会社の歴史② 企業金融イノベーション	企業金融上のイノベーションの歴史的展開を概観する。
5	株式会社の歴史③ 株式会社の未来	株式会社の未来を考える。
6	マネーの歴史① バビロンからイタリア	国際金融の歴史を概観する。イタリアを中心とする国際金融市場までの展開を扱う。
7	マネーの歴史② 金融資本主義の台頭以降	17 世紀以降の金融資本主義の台頭から金本位制崩壊までの歴史的展開を扱う。
8	マネーの歴史③ マネーの本質を考える	金本位性離脱以降の国際金融の展開を扱う。ブロックチェーンやビットコインの台頭が示唆するマネーの本質の変質を考える。
9	企業分析① 戦略分析概観	事業戦略、企業戦略を考えるための分析ツールを概観する。
10	企業分析② 財務諸表の基本	財務諸表の基本を概観する。
11	企業分析③ 財務分析ツール概観	財務分析ツールを概観する。特に、ビジネスモデルとの関連を考える。
12	企業分析④ 企業価値分析	資本コスト、企業価値を理解する。
13	産業経済の歴史① 第 5 期までの展開	産業のイノベーションの歴史的展開を概観する。
14	産業経済の歴史② フロンティア企業の台頭	Google Amazon Apple Facebook などの台頭が意味することを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】
PDF を提供する。

【参考書】
渡部亮「アングロサクソン・モデルの本質」
授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）、期中レポート（30 %）、期末試験（60 %）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度初めて非常勤講師として授業担当するため、特にコメント等はない。

国際ビジネス論 B

山本　功

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本スタンスは国際ビジネス論 A と同じだが、本講義は、資本主義を社会のガバナンス・システムとして捉え、現在を多様な資本主義が誕生しつつある時期と位置付ける。資本主義というガバナンス・システムのコアであるコーポレート・ガバナンスを中心に、日本型資本主義のあり方を考える。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は、近年注目されているコーポレート・ガバナンスに関する理解を深め、日本企業・日本経済の再生戦略、資産運用戦略などを考えるための基本的知識を獲得できる。

【授業の進め方と方法】
授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。授業の進捗状況及び受講生の要望により強調するテーマを適宜変更する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資本主義とは①概論	社会ガバナンス・システムとしての資本主義を議論する。
2	資本主義とは②ガバナンス形態比較	資本主義以外のガバナンス形態との比較をしながら、資本主義の歴史を概観する。
3	資本主義とは③資本主義の功罪	資本主義の功罪を整理する。所得格差、資産格差問題に言及する。
4	コーポレート・ガバナンス①概観	企業ガバナンスの変遷を概観する。
5	コーポレート・ガバナンス②株式会社のガバナンス設計	株式会社のガバナンスに関する基本的論点を整理する。
6	コーポレート・ガバナンス③株主重視主義	投資家・株主によるガバナンスに関する主要論点を整理する。
7	コーポレート・ガバナンス④日本の状況	日本の株式会社ガバナンスと投資家の関係を考える。
8	日本の企業経済を考える①基本的課題	日本企業のパフォーマンスをレビューし、基本的課題を整理する。
9	日本の企業経済を考える②不正問題	不正が続出している近年の動向が示唆することを考える。
10	日本の企業経済を考える③低収益性問題	日本企業の収益性の低さの背景を探り、その対応策を考える。
11	日本の企業経済を考える④投資家ガバナンス	投資理論の基本を概観し、投資家ガバナンスを考える。
12	日本の企業経済を考える⑤再活性化策	日本の企業経済の再活性化に重要な論点を整理する。
13	いい会社とは	いい会社とは。それを判断するために何を見るか。
14	国際的ビジネスに携わるとは？	Anything can happen. ということを念頭に多様なバイアスを認識する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】
PDF を提供する。

【参考書】
加護野忠男ほか「コーポレート・ガバナンスの経営学」
授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）、期中レポート（30 %）、期末試験（60 %）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度初めて非常勤講師として授業担当するため、特にコメント等はない。

現代ファイナンス入門A

湯前　祥二

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
株式会社について理解し，株式の理論価格を計算することができる．

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
春学期は，株式の理論価格を題材にして，リターンを中心に学びます．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第 3 回	事業循環	材料仕入れ，製造，販売，決算
第 4 回	財務諸表・事業計画	損益計算書，貸借対照表，改善ポイント
第 5 回	財務諸表分析	有価証券報告書
第 6 回	収益性の分析	資本利益率
第 7 回	安定性の分析	株主資本比率
第 8 回	デュポン・システム	株価と財務比率
第 9 回	株価の分解	EPS と PER
第 10 回	配当利回り	株価と DPS
第 11 回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第 12 回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第 13 回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第 14 回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社．
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社．
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

現代ファイナンス入門B

湯前　祥二

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
リターンとリスクについて理解し，両者を計算で求め，投資判断に用いることができる．

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
秋学期はリスクを扱います．リスク管理に必要な，リスク指標の計算方法や，リスク分散を学びます．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第 2 回	インデクス運用	市場ポートフォリオ
第 3 回	アクティブ運用	成功の条件
第 4 回	複利	最初の数字の賭け，割り算距離
第 5 回	複利計算の頻度	半年複利，連続複利
第 6 回	確定利付証券	元本，クーポン
第 7 回	金利期間構造	期間構造仮説
第 8 回	リスク管理	金融工学の機能
第 9 回	分布	離散型と連続型
第 10 回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第 11 回	標準偏差と VaR	正規分布
第 12 回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第 13 回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第 14 回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

Business Communication Ⅰ A (2016年度以降入学生)
ビジネス英語初級 A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

スティーブン　ハリス

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
As most people know, Japanese business will become more competitive and global in the following years. This course is designed to help students prepare for this new and challenging environment.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.
*This class is limited to 20 students. Those who wish to take the course should attend the first lesson.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements.
2	Discussion skills	Introduce discussion skills to be used through out the course.
3	Nikkei Article	Discussion part 1
4	Nikkei Article	Discussion part 2
5	Arranging Schedules	Telephone correspondence
6	Nikkei Article 2	Discussion part 1
7	Nikkei Article 2	Discussion part 2
8	Small Talk skills	Developing small talk skills for socializing in business context.
9	Nikkei Article 3	Discussion part 1
10	Nikkei Article 3	Discussion part 2
11	Getting Ahead	Common job interview questions
12	Resume construction	Developing knowledge to write resumes for foreign companies
13	Understanding the power of "why" in business	Describing the process of finding motivation.
14	Review	Summary and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep a vocabulary notebook
Prepare for each class
Homework

【テキスト（教科書）】
No text book

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
40% - Participation - Overall attitude, effort, taking part in class discussions, coming to class prepared, homework.
35% - Quiz/Assignments - periodic quizzes and assignments will be given
25% - In class assignments

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Good dictionary
Paper and pencils

Business Communication Ⅰ B (2016年度以降入学生)
ビジネス英語初級 B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

スティーブン　ハリス

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
As most people know, Japanese business will become more competitive and global in the following years. This course is designed to help students prepare for this new and challenging environment.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.
*This class is limited to 20 students. Those who wish to take the course should attend the first lesson.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements.
2	Future Technologies Debate	Power Related Technologies
3	Future technologies Debate 2	Power Related Technologies
4	Nikkei Article	Discussion part 1
5	Nikkei Article	Discussion part 2
6	Artificial Intelligence	Exploring how this will impact future jobs
7	Trade Show Design Features	Preparing for and showing products at trade shows
8	Trade show design features 2	Preparing for and showing products at trade shows
9	Nikkei Article 2	Discussion part 1
10	Nikkei Article 2	Discussion part 2
11	Negotiations	Developing the mindset and vocabulary for negotiations
12	Negotiations 2	Developing the mindset and vocabulary for negotiations
13	Review and Quiz	Review and class quiz
14	Final review and special one class project	Review the previous semesters and close with special one class project.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep a vocabulary notebook
Prepare for each class
Homework

【テキスト（教科書）】
No text book

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
40% - Participation - Overall attitude, effort, taking part in class discussions, coming to class prepared, homework.
35% - Quiz/Assignments - periodic quizzes and assignments will be given
25% - In class assignments.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Good dictionary
Paper and pencils

Business Communication Ⅰ A (2016年度以降入学生)
ビジネス英語初級 A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

グレン・ファーン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
3	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
4	Making Conversation	Socializing at business events.
5	Making Conversation	Socializing at business events.
6	Arranging Meetings and Schedules	Making requests and giving suggestions.
7	Arranging Meetings and Schedules	Talking on the telephone.
8	Getting Ahead	Cover letters and resumes.
9	Getting Ahead	Common job interview questions.
10	Turning a Company Around	Identifying the problem. A case study.
11	Turning a Company Around	Identifying a solution.
12	Describing Processes	An introduction to describing a process.
13	Describing Processes	Describing the process of solving a problem.
14	Review	Summary and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

Business Communication Ⅰ B (2016年度以降入学生)
ビジネス英語初級 B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

グレン・ファーン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
3	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
4	Making Conversation	Socializing at business events.
5	Making Conversation	Socializing at business events.
6	Arranging Meetings and Schedules	Making requests and giving suggestions.
7	Arranging Meetings and Schedules	Talking on the telephone.
8	Getting Ahead	Cover letters and resumes.
9	Getting Ahead	Common job interview questions.
10	Turning a Company Around	Identifying the problem. A case study.
11	Turning a Company Around	Identifying a solution.
12	Describing Processes	An introduction to describing a process.
13	Describing Processes	Describing the process of solving a problem.
14	Review	Summary and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

経済データ分析 A

明城　聡

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学・計量経済学を応用した経済データの分析

【到達目標】
統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で Excel を使った経済データの分析をします。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いてレポートとして提出するものとします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の計量化 ・ローレンツ曲線
6	関係の記述	・散布図 ・偏相関、時差相関、自己相関
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定	・仮説検定と有意水準 ・母平均・母分散に関する検定・推定 ・2 群比較
10	平均に関する群間比較	・分散分析 ・1 元配置法と 2 元配置法
11	外れ値の処理	・外れ値の検出 ・外れ値の処理
12	クロス集計と関連分析	・クロス集計表 ・独立性の検定
13	単回帰分析	・回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・線形重回帰分析 ・ダミー変数

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】
統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会
EXCEL の使い方やデータ分析については
・滝川好夫・前田洋樹「経済学のための Excel 入門」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを利用します。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

経済データ分析 B

明城　聡

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析

【到達目標】
秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】
R の操作やデータ分析については
・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店
・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店
計量経済学については
・山本拓「計量経済学」新世社
統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使います。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

経済地理

近藤　章夫

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、それぞれの経済事象にみられる空間的規則性に関して基礎的な知識を習得したうえで、立地と地域をつなぐアクターとして経済主体（政府、企業、家計）の地理的行動に焦点をあて、理論と実際の両面から具体的な「経済産業地図」を読み解くことがテーマとなる。

【到達目標】
経済地理学的な思考方法や分析枠組の習得を目標とし、現代経済への実践的な理解（具体的な経済動向、政策背景など）を目指す。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	立地論の基礎①	立地論の概念と接近法
第 3 回	立地論の基礎②	産業立地の類型と実際
第 4 回	立地論の基礎③	土地利用と都市形成
第 5 回	地域からみる経済地図①	世界経済の地理
第 6 回	地域からみる経済地図②	世界地理の発展史
第 7 回	地域からみる経済地図③	世界と日本、アジアと日本
第 8 回	グローバル化とローカル化①	企業戦略、立地と分業
第 9 回	グローバル化とローカル化②	産業発展のダイナミズム
第 10 回	グローバル化とローカル化③	日本経済の地理
第 11 回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第 12 回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
富田和暁（2006）『地域と産業―経済地理学の基礎―』原書房
山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートの評価（70%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（20%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

産業集積論

近藤　章夫

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における集積の実態を概説する。

【到達目標】
現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料と板書を基本とする。予習は必要としない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第 3 回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第 4 回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第 5 回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第 6 回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第 7 回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第 8 回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第 9 回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第 10 回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第 11 回	電子立国興亡史①	シリコンバレーモデルと産学連携
第 12 回	電子立国興亡史②	知識経済とイノベーション
第 13 回	知識経済化とグローカル・マーケティング時代	ネットワークとイノベーション
第 14 回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートの評価（70%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（20%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

会計学入門A（2016年度以降入学生）
会計学入門Ⅰ（財務会計）A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

丸岡　恵梨子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、会計学の基礎を学ぶことによって、企業が公表している財務諸表を理解することにあります。そのためには、会計制度、会計基準、会計をめぐる動向等を理解する必要があります。講義では、理解を深めるため、事例も取り入れながら学習を進めていきます。

【到達目標】
・財務諸表の基礎を理解する。
・財務分析の方法を理解する。
これらの理解を通じて、財務諸表を読み解く知識の習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
レジュメを用いて、わかりやすく講義していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質	会計のタイプと機能/企業会計のプロセスと目的/企業会計の 3 つの機能
3	会計制度の論理と体系 (1)	会計の基礎前提/会計制度の法体系/企業会計原則と一般原則
4	会計制度の論理と体系 (2)	会計基準の意義/会計基準の国際的統合化
5	企業のディスクロージャー (1)	ディスクロージャー制度の革新/会社法・金融商品取引法にもとづくディスクロージャー
6	企業のディスクロージャー (2)	自発的ディスクロージャーと IR/決算短信と業績予想
7	損益計算書のパラダイム (1)	損益計算書の役割と基本フォーム/収益の認識と測定
8	損益計算書のパラダイム (2)	費用の認識・測定基準/費用の期間配分/費用と収益のマッチング
9	経営パフォーマンスの測定と表示 (1)	損益計算書によるパフォーマンス評価
10	経営パフォーマンスの測定と表示 (2)	キャッシュ・フロー計算書によるパフォーマンス評価
11	貸借対照表のパラダイム (1)	貸借対照表の基本フォーム/資産の概念と分類/資産の評価基準
12	貸借対照表のパラダイム (2)	負債の評価基準/純資産の部
13	資産の会計 (1)	当座資産の会計/有価証券の会計
14	春学期期末試験	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用します。

【参考書】
伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社　※最新版
その他、授業中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50%
レポート課題の提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
会計の事例等を用いながら，講義を進めていきます。

【その他の重要事項】
会計学入門Ｂも合わせて受講することを推奨します。

会計学入門 B（2016年度以降入学生）
会計学入門Ⅰ（財務会計）B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

丸岡　恵梨子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、会計学の基礎を学ぶことによって、企業が公表している財務諸表を理解することにあります。そのためには、会計制度、会計基準、会計をめぐる動向等を理解する必要があります。講義では、理解を深めるため、事例も取り入れながら学習を進めていきます。

【到達目標】
・財務諸表の基礎を理解する。
・財務分析の方法を理解する。
これらの理解を通じて、財務諸表を読み解く知識の習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
レジュメを用いて、わかりやすく講義をしていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資産の会計 (1)	棚卸資産の会計
	資産の会計 (2)	有形固定資産の会計
2	資産の会計 (3)	無形固定資産の会計/投資等の会計/繰延資産の会計
3	資産の会計 (4)	研究開発費等の会計/リースの会計
4	持分の会計 (1)	金銭債務の会計/社債の会計
5	持分の会計 (2)	引当金の会計
6	持分の会計 (3)	純資産の部の会計/株主資本等変動計算書
7	連結グループの会計	連結会計ダイナミズム/連結の範囲/セグメント情報
8	分析のフレームワークと手法 (1)	ファンダメンタル分析の基本的タイプ/財務分析ピラミッド
9	分析のフレームワークと手法 (2)	安全性分析と倒産予測力
10	分析のフレームワークと手法 (3)	資産活用の効率性と生産性の分析
11	分析のフレームワークと手法 (4)	収益性分析
12	分析のフレームワークと手法 (5)	成長性分析
13	分析のフレームワークと手法 (6)	総合評価
14	秋学期期末試験	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用します。

【参考書】
伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社　※最新版
その他、必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50%
レポート課題の提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
会計の事例等を用いながら、講義を進めていきます。

【その他の重要事項】
会計学入門Ａを履修したうえで、受講することを推奨します。

原価計算Ａ（2016年度以降入学生）
会計学入門Ⅱ（原価計算）Ａ（2010年度以降～2015年度以前入学生）

福島　一矩

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算の目的は，大きく，財務会計目的，経営管理目的の 2 つに分けられます。財務会計目的とは，貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成するために原価情報を提供することを指します。一方で，経営管理目的とは，経営計画策定や原価管理を行うために原価情報を利用することを指します。この授業では，財務会計目的を中心とした原価計算の手続きや方法について学びます。

【到達目標】
本科目では，原価計算の手続き・方法を理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	原価計算の基礎	原価計算の目的
第 2 回	費目別計算（1）	材料費の計算
第 3 回	費目別計算（2）	労務費の計算
第 4 回	費目別計算（3）	経費の計算
第 5 回	個別原価計算（1）	個別原価計算の概要
第 6 回	個別原価計算（2）	製造間接費の計算
第 7 回	部門別計算（1）	部門別計算の概要
第 8 回	部門別計算（2）	製造部門費の配賦
第 9 回	総合原価計算（1）	総合原価計算の概要
第 10 回	総合原価計算（2）	度外視法による正常仕損・減損の処理
第 11 回	総合原価計算（3）	非度外視法による正常仕損・減損の処理
第 12 回	総合原価計算（4）	異常仕損・減損の処理
第 13 回	総合原価計算（5）	累加法による工程別総合原価計算
第 14 回	総合原価計算（6）	非累加法による工程別総合原価計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原価計算は積み重ねの内容が多いため，毎回の内容をしっかりと理解していくことが重要です。授業では，時間の関係上，基本的な内容の説明と若干の問題演習しかできません。受講生は，必ず各自で参考書などを用いて復習，問題演習をしっかり行い，ひとつひとつ確実に理解できるようにすることが心がけてください。

【テキスト（教科書）】
加登豊・山本浩二『原価計算の知識（第２版）』日本経済新聞社

【参考書】
1．鈴木隆文『簿記の教科書　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（1）：費目別計算・個別原価計算編』TAC 出版
2．鈴木隆文『簿記の教科書　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（2）：総合原価計算・標準原価計算編』TAC 出版
3．鈴木隆文『簿記の問題集　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（1）：費目別計算・個別原価計算編』TAC 出版
4．鈴木隆文『簿記の問題集　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（2）：総合原価計算・標準原価計算編』TAC 出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

原価計算 Ｂ（2016年度以降入学生）
会計学入門Ⅱ（原価計算）Ｂ（2010年度以降～2015年度以前入学生）

福島　一矩

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算の目的は，大きく，財務会計目的，経営管理目的の 2 つに分けられます。財務会計目的とは，貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成するために原価情報を提供することを指します。一方で，経営管理目的とは，経営計画策定や原価管理を行うために原価情報を利用することを指します。この授業では，経営管理目的のための原価情報の利用方法について学習していきます。

【到達目標】
本科目では，原価情報を用いた経営管理，マネジメントの方法を理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総合原価計算（7）	組別・総合原価計算
第 2 回	連産品の原価計算	連産品の原価計算
第 3 回	標準原価計算（1）	標準原価計算の概要
第 4 回	標準原価計算（2）	原価差異の分析
第 5 回	標準原価計算（3）	標準原価計算の現代的意義
第 6 回	戦略的原価計算（1）	原価管理の概要
第 7 回	戦略的原価計算（2）	原価改善，原価企画，品質コストマネジメント
第 8 回	短期利益計画のための原価計算（1）	直接原価計算の概要
第 9 回	短期利益計画のための原価計算（2）	CVP 分析
第 10 回	短期利益計画のための原価計算（3）	直接原価計算情報の利用
第 11 回	業務的意思決定	差額原価収益分析
第 12 回	投資プロジェクト案の意思決定（1）	投資プロジェクト案の意思決定の概要
第 13 回	投資プロジェクト案の意思決定（2）	投資プロジェクト案の評価手法
第 14 回	投資プロジェクト案の意思決定（3）	投資プロジェクト案の選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原価計算は積み重ねの内容が多いため，毎回の内容をしっかりと理解していくことが重要です。授業では，時間の関係上，基本的な内容の説明と若干の問題演習しかできません。受講生は，必ず各自で参考書などを用いて復習，問題演習をしっかり行い，ひとつひとつ確実に理解できるようにすることが心がけてください。

【テキスト（教科書）】
加登豊・山本浩二『原価計算の知識（第２版）』日本経済新聞社

【参考書】
1．鈴木隆文『簿記の教科書　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（2）：総合原価計算・標準原価計算編』TAC 出版
2．鈴木隆文『簿記の教科書　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（3）：直接原価計算・意思決定会計編』TAC 出版
3．鈴木隆文『簿記の問題集　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（2）：総合原価計算・標準原価計算編』TAC 出版
4．鈴木隆文『簿記の問題集　日商簿記１級　工業簿記・原価計算（3）：直接原価計算・意思決定会計編』TAC 出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

コーポレートガバナンス論 A

胥　鵬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、株主代表訴訟、企業評価、敵対的買収および敵対的買収防衛策、TOB（公開買付）に関する制度を理解し、株式市場によるガバナンスである。

【到達目標】
コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会、議決権行使、株主代表訴訟、企業評価、敵対的買収および敵対的買収防衛策、TOB（公開買付）に関する制度を理解し、議決権行使、株主提案と敵対的買収などの株式市場によるガバナンスを理解することである。

【授業の進め方と方法】
インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	所有構造と議決権行使結果	議決権行使のデータや賛成比率の低い議案を中心に所有構造と議決権行使との関連を理解する
第 9 回	株主提案	事例紹介を通じて制度と実態を理解する
第 10 回	モノ言う株主と敵対的買収	近年の日本事例を紹介する
第 11 回	敵対的買収防衛策	事例を交えながら説明する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造について説明する
第 14 回	グループ課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

【テキスト（教科書）】
テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本の M&A 』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊

【成績評価の方法と基準】
平常点とグループ期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析

コーポレートガバナンス論 B

胥　鵬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと負債によるガバナンスなどである。

【到達目標】
コーポレート・ガバナンス論 B の学習目標は、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【授業の進め方と方法】
インターネットや豊富なデータベースを利用して、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役の義務	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第 11 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 12 回	議決権行使助言会社、機関投資家とコーポレート・ガバナンス・コード	議決権行使助言会社の推奨、機関投資家の議決権行使指針に対するコーポレート・ガバナンス・コードの影響
第 13 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本の M&A 』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】
平常点と期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。最初の 1 回目や 2 回目で受講者をグループ分けする。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

企業実務研究 A

武田　浩一

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最新の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。自らのビジネス体験に基づいて講義していく。
本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。
そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】
本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようにすること。

【授業の進め方と方法】
毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設けるので、積極的に発言しなければならない。その上で、質疑応答と小レポートも毎回提出しなければならない。実務研究という科目の性格上、積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、私語や授業態度の悪い学生は論外である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（出席必須）	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	中国のビジネス事情	「中国の合弁事情」
第 3 回	ブラジルのビジネス事情	「ブラジルの物流事情」
第 4 回	インドのビジネス事情	インドのビジネス事業に関する講義
第 5 回	アメリカのビジネス事情	「アメリカの IT ベンチャーと事業投資」
第 6 回	中東のビジネス事情	「中東ビジネスの特異性」
第 7 回	ヨーロッパのビジネス事情	「欧州通貨統合と金融市場」
第 8 回	ロシアのビジネス事情	「中国ビジネスとの比較など」
第 9 回	アセアンのビジネス事情	「アセアン経済共同体（AEC）と事業投資」
第 10 回	その他	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講師が用意した資料を「授業支援システム」上で事前にアップロードするので、各自予習してくること。

【テキスト（教科書）】
各講師が用意するレジュメ

【参考書】
各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（100%）。
私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可とする。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にすることを心がける。

【その他の重要事項】
履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

企業実務研究 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】
インターンシップの経験をより具体的によりわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【授業の進め方と方法】
サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。
参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第 2 回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第 3 回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 4 回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第 5 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 6 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 7 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 8 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 9 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 10 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 11 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 12 回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第 13 回	受講者による報告、討論⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第 14 回	受講者による報告、討論⑬	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
『理論と実践で自己決定力を伸ばす　キャリアデザイン講座』日経 BP 社、2009 年

【成績評価の方法と基準】
①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない。）（25%）
派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。未手続き者は不可とする。
また、当然ながら、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可とする。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
同一企業のインターンシップ参加者がかなり多数の場合の各自のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】
履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

現代経済学応用 A

島澤　諭

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級レベルのミクロ経済学（消費者行動、企業行動、市場均衡）について解説する。また現実の経済問題をいくつか取り上げ、講義で学習したモデルを用いて分析する。また、講義では、講義内容の理解を確認し、また深めるために練習問題（経済学検定試験、公務員試験）を解く。

【到達目標】
・ミクロ経済学の分析対象と分析方法を理解し、数式・記号・グラフ等を用いて説明できる。
・消費者行動の理論に基づいて消費者の経済問題を理解し説明できる。
・企業行動の理論に基づいて企業の経済問題を理解し説明できる。
・市場均衡の特性について理解し説明できる。

【授業の進め方と方法】
主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新の日本経済の情勢を踏まえながら、日本経済が直面しているミクロ経済学的な課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロ経済学の目的と方法	ガイダンス
第 2 回	消費者行動の理論 1	選好、効用関数、無差別曲線、最適消費
第 3 回	消費者行動の理論 2	限界分析、最適消費の性質
第 4 回	消費者行動の理論 3	補償需要関数、支出関数
第 5 回	消費者行動の理論 4	所得効果と代替効果、スルツキー方程式
第 6 回	消費者行動の理論 5	価格弾力性、ラムゼイ・ルール
第 7 回	企業行動の理論 1	生産関数、利潤最大化、費用関数、短期供給関数
第 8 回	企業行動の理論 2	規模に対する収穫、生産要素間の代替、技術的限界代替率
第 9 回	企業行動の理論 3	利潤最大化、長期供給関数、長期費用関数
第 10 回	企業行動の理論 4	所得分配、所得格差
第 11 回	市場均衡 1	部分均衡分析
第 12 回	市場均衡 2	部分均衡分析の応用： TPP、コメの輸入自由化
第 13 回	市場均衡 3	一般均衡分析
第 14 回	総復習	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年
八田達夫『ミクロ経済学 I』、東洋経済新報社、2008 年
西村和雄『ミクロ経済学』、東洋経済新報社、1990 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
数式の展開を丁寧に行う。理論モデルと現実経済の結びつきの紹介に時間を割く。

現代経済学応用 B

島澤　諭

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級レベルのミクロ経済学（市場の失敗、独占、厚生経済学、情報の経済学）について解説する。また現実の経済問題をいくつか取り上げ、講義で学習したモデルを用いて分析する。また、講義では、講義内容の理解を確認し、また深めるために練習問題（経済学検定試験、公務員試験）を解く。

【到達目標】
・ミクロ経済学の分析対象と分析方法を理解し、数式・記号・グラフ等を用いて説明できる。
・市場の失敗について理解し説明できる。
・独占について理解し説明できる。
・厚生経済学の基本定理について理解し説明できる。
・社会的厚生関数について理解し説明できる。
・情報の経済学（モラル・ハザード、逆淘汰、シグナリング）について理解し説明できる。
・日本政府の経済政策について、ミクロ経済学の観点から理解する。

【授業の進め方と方法】
主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新の日本経済の情勢を踏まえながら、日本経済が直面しているミクロ経済学的な課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	厚生経済学の基本定理	厚生経済学の第一基本定理、厚生経済学の第二基本定理
第 2 回	市場の失敗 1	外部性
第 3 回	市場の失敗 2	ピグー税、ピグー補助金
第 4 回	市場の失敗 3	コースの定理
第 5 回	市場の失敗 4	公共財、リンダール均衡
第 6 回	独占 1	独占企業の行動
第 7 回	独占 2	自然独占と価格規制
第 8 回	社会的厚生関数	功利主義、マックスミン原理
第 9 回	効率化政策	効用フロンティア
第 10 回	格差是正政策	所得再分配、生活保護
第 11 回	情報の非対称性 1	保険、モラル・ハザード
第 12 回	情報の非対称性 2	逆淘汰
第 13 回	情報の非対称性 3	シグナリング
第 14 回	総復習	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年
八田達夫『ミクロ経済学 II』、東洋経済新報社、2009 年
西村和雄『ミクロ経済学』、東洋経済新報社、1990 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
数式の展開を丁寧に行う。理論モデルと現実経済の結びつきの紹介に時間を割く。

日本経済史 A

長原　豊

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1)　明治維新（1868 年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成− 成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。
(2)　単なる「史実」の〝羅列〟ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する 3 つの「商品」————資本・労働・土地————とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)　日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大摑みにできるようになること。
(2)　又その際、具体的「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【授業の進め方と方法】
　1 大テーマ毎に「レジュメ」を配布する。
　2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
　3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済史と経済理論 (1)	経済史理解に最低限必要な経済理論を講義する。
第 2 回	経済史と経済理論 (2)	経済史概念と理論的概念の「照合」を行う。
第 3 回	明治維新の「政治経済学」(1)	「地租改正」の政治経済史意義について
第 4 回	明治維新の「政治経済学」(2)	「秩禄処分」の政治経済史意義について
第 5 回	明治維新の「政治経済学」(3)	「殖産興業」の政治経済史意義について
第 6 回	明治維新の「政治経済学」(4)	「大熊財政」と「松方財政」：これまでの「小括」
第 7 回	日本における産業革命 (1)	日本における「産業革命」の特殊性：軽工業分門 (1)
第 8 回	日本における産業革命 (2)	日本における「産業革命」の特殊性：重工業部門 (2)
第 9 回	日本における産業革命 (3)	日本における再生産構造の特殊性
第 10 回	産業資本の社会経済構造 (1)	1890 年恐慌の意味
第 11 回	産業資本の社会経済構造 (2)	財閥と地主制
第 12 回	産業資本の社会経済構造 (3)	二重構造
第 13 回	日本資本主義と「戦間期」：日本経済史 B のために	第一次世界大戦の意味
第 14 回	総括と質問日	日本経済史 A の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布するレジュメ

【参考書】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』[第 2 版]、東京大学出版会、2002 年
中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】
記述式の定期試験によって成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は担当していないので該当する事項はない。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

日本経済史 B

長原　豊

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1)　「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。
(2)　単なる「史実」の〝羅列〟ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。
(3)　戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)　日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。
(2)　またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【授業の進め方と方法】
(1)　大テーマ毎に「レジュメ」を配布する。
(2)　レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
(3)　最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (1)	パクス・ブリタニカの黄昏と日本経済
第 2 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (2)	金本位体制の「変質」の「世界経済史」的意味
第 3 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (3)	市場と国家− 制度の変容を比較史的に総括する。
第 4 回	戦間期における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。
第 5 回	戦間期における日本経済の新展開	日本経済の「成長」とそれに付随する社会問題の展開を跡づける。
第 6 回	戦間期における経済政策 (1)	戦間期における「政策」の一覧表を呈示し、その意味を整理する。
第 7 回	戦間期における経済政策 (2)	第 6 回講義の続き（産業政策）。
第 8 回	戦間期における経済政策 (3)	第 7 回講義の続き（社会政策と農業政策）。
第 9 回	昭和恐慌	(1) 金融恐慌 →(2) 井上財政と金解禁 →(3) 昭和恐慌を一連の過程として説明する。
第 10 回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 11 回	「高橋財政」の政策体系 (2)	第 10 回講義のつづき。
第 12 回	戦時経済の今日的意味	「高橋財政」と「戦時統制経済」との連続性と非連続性
第 13 回	戦後日本経済を理解するために	1945 年体制と 1955 年体制
第 14 回	日本経済史 B の総括と質問日	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布するレジュメ

【参考書】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』[第 2 版]、東京大学出版会、2002 年
中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】
記述式の定期試験によって成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は当該講義を担当していない。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

社会経済思想史 A

後藤　浩子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパにおける重商主義の形成」
本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状況を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式になります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A ／ B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界： 16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第２サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とペティへの影響
第 7 回	W・ペティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ペティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ペティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第３サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、指定のＢ５用紙に講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序： 18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

社会経済思想史 B

後藤　浩子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「重商主義批判の流れと経済学の形成」
戦費調達の必要に迫られ、17 世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17 世紀来のコルベール的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18 世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17 世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18 世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義形式となります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A ／ B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、指定のＢ５用紙に講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序： 18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
ジャン=フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

農業経済論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や耕作放棄地の増加、農産物の市場開放などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、日本の農業の今後のあり方を考えるために、経済学の手法を用いつつ、分析と考察をする。

【到達目標】

①日本農業の現状を理解する。
②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	食の安全	GP、HACCP、トレーサビリティ
第 5 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 6 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 7 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 8 回	農業の生産組織	農業経営体、法人化、集落営農
第 9 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術、誘発型技術進歩仮説
第 10 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 11 回	世界の食料問題	マルサスの命題、人口転換、フード・セキュリティ
第 12 回	農産物の価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
痔 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

農業・農村に関心をもってもらいたい。新聞・雑誌・書籍等から、農業・農村に関する情報を積極的に集め、農業・農村とその政策の動向を把握すること。

授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために参考書を読むことが望ましい。参考書の欄の冒頭に示した本を通読すること。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘 (2015)『農業経済学 第 4 版』岩波書店
生源寺眞一（2013）『農業と人間』岩波書店
農林水産省『食料・農業・農村白書』各年版
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。
いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

農業経済論 B

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的な手法を用いて理解する。

【到達目標】

①日本の農山村に関わる問題について理解する。
②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
③資源の管理に関わる経済学的な分析手法を身につける。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第 2 回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閑/中耕農業
第 3 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 4 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	森林整備、多面的機能
第 8 回	森林と林政の展開	森林・林業基本法
第 9 回	森林管理の課題	持続可能な森林経営、森林吸収源対策
第 10 回	木材の貿易	熱帯林の減少、森林認証
第 11 回	日本の水産資源と水産業	日本の水産業の現状と課題
第 12 回	日本の水産業の展開過程	漁業法、水産基本法
第 13 回	日本の漁業政策	漁業権、漁業協同組合、漁業経営安定対策
第 14 回	水産資源の管理	TAC、ITQ、IUU、地域漁業管理機関

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために参考書の欄に掲げた資料を読んでおくこと。農林水産省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

農林水産省『食料・農業・農村白書』各年版
林野庁『森林・林業白書』各年版
水産庁『水産白書』各年版
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。
いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

社会政策論 A

菅原　琢磨

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、それへの制度対応、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
・社会政策論で扱われる対象を理解し、社会政策の歴史的経緯の概要を説明できる。
・現代日本の雇用問題、労働政策の概要を理解し説明できる。
・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
・わが国の社会福祉制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【授業の進め方と方法】
「社会政策」が包摂する領域は広がりをみせているが、人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策を総称したものと捉えられる。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生起した社会的背景、原因についても概説する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求め、各回の講義の冒頭、前回のリアクションペーパーに対する応答をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会政策とは	社会政策の意義、対象領域
2	社会政策の歴史	社会政策の歴史的経過、概略史
3	雇用・労働にかかる保険制度	雇用保険制度と労働者災害保険
4	雇用・労働政策と社会変化	若年・女性労働市場の現状と対応
5	医療制度の歴史	医療保険制度の概要と歴史的経緯
6	医療制度の概要	医療費、診療報酬、医療提供体制
7	貧困・不平等と社会政策	貧困概念と社会的不平等
8	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
9	介護の歴史的展開	制度発足の歴史的経緯と理念
10	介護保険制度の現状と課題	制度と動向、今後の対応
11	年金制度の歴史的展開	年金制度の概要と歴史的経緯
12	年金制度の現状と課題	年金制度改革と今後の対応
13	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革
14	これからの日本と社会保障制度改革（全体総括）	少子高齢化、グローバル社会と今後の社会保障制度のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う内容はきわめて幅広い。講義内でも時事問題の背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて講義内容を十分復習すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。講義資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
以下で示す以外にも、講義中に参考となる文献は適宜紹介する。
OECD 編著『図表でみる世界の社会問題 2　OECD 社会政策指標　貧困・不平等・社会的排除の国際比較』明石書店、2008 年
国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革　日本と諸外国の選択』東京大学出版会、2005 年
駒村康平『最低所得保障』岩波書店、2010 年
駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 14 版）』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（50 %）、平常点（30 %）、課題レポート（20 %）による。定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について基礎的理解が出来ているかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】
講義の冒頭におけるリアクションペーパーに対するコメント、新聞記事を用いた時事問題、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

社会政策論 B

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。単に知識の修得を目指すのではなく、現実の社会問題を「材料」として受講者自身の頭で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

【到達目標】
わが国が直面する主要な社会政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではこれらのトピックスを進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。これらの「材料」を踏まえ、各々の問題の本質をどのように捉え、改善策を考えていくか、受講生自身の思考を促す講義としたい。
毎回、リアクションペーパーの提出を求め、各回の講義の冒頭、前回のリアクションペーパーに対する応答をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義概要と課題	社会政策の意義、対象領域の復習
2	雇用・労働政策の今日的課題	労働基準、最低賃金、雇用形態、若年労働、女性労働、外国人労働
3	児童・高齢者・障害者の福祉	待機児童、成年後見、障害者自立支援
4	貧困・格差・不平等	現代日本の貧困・格差・不平等
5	生活保護の課題	制度の方向性（自立支援、就労支援）
6	医療提供体制と医療政策	医療提供制度、医師・看護師不足
7	医療財政と医療政策	医療財政と負担のあり方
8	医療の国際比較	医療制度、政策の国際比較
9	介護問題と介護提供体制	介護提供体制にかかる諸問題
10	介護の財政問題	介護財政にかかる諸問題
11	介護の国際比較	介護制度、政策の国際比較
12	年金問題の概要	年金問題の論点整理
13	年金制度改革	持続可能な年金制度と制度改革
14	これからの日本社会と社会政策（全体総括）	少子高齢化社会への対応、財政規律と制度の持続可能性、グローバル化への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会政策論Aで扱った内容の理解を前提として講義を実施する。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて十分講義内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】
講義で必要な資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
駒村康平『最低所得保障』岩波書店、2010 年
駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
大竹文雄『格差と希望－誰が損をしているか？』筑摩書房、2008 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（50 %）、平常点（30 %）、課題レポート（20 %）による。定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスについて正確な基礎知識をベースに論理的に自分の考えを展開できるかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】
例年、講義の冒頭におけるリアクションペーパーに対するコメント、新聞記事を用いた時事問題、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

社会保障論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

社会保障論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

金融各論ＩＡ

高橋　秀朋

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】
本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【授業の進め方と方法】
本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	価格の金利感応度
4	債券運用	イミュニゼーション
5	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
6	リスク資産評価 2	複数期間モデル
7	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	現実のデータを用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ポータブル・アルファ戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】
齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）
手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによって 80%の評価をする。また、授業中に毎回課題を出し、この分の合計 40%を期末レポートに加点し、100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

金融各論ＩＢ

高橋　秀朋

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身についている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】
本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【授業の進め方と方法】
本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】
Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
R・ブリーリー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、 藤井 眞理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス　第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによって 80%の評価をする。また、授業中に毎回課題を出し、この分の合計 40%を期末レポートに加点し、100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

政治過程論

岡﨑　加奈子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】
本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【授業の進め方と方法】
本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。
講義では学生は、毎回、質問や意見を提出し、次回の講義でその内容について全体で共有する。また授業内におけるレポート作成を複数回予定している。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	序章	政治過程論とは何か
第２回	現代社会と政治過程	現代社会の特徴と政策の果たす役割について
第３回	権力とは何か	権力と政治について
第４回	近代議会政治とは何か	近代議会政治の形成と現代議会との対比
第５回	国会審議はどうあるべきか①	国会の制度と理論的背景について
第６回	国会審議はどうあるべきか②	常任委員会の形成と委員会中心主義について
第７回	政策決定過程	閣法・議員立法の形成過程について
第８回	官僚制と利益団体	政策決定過程における官僚と利益団体
第９回	政党とは何か	近代以降の政党の変化について
第 10 回	政党制	政策決定過程における政党・利益団体の関わり
第 11 回	戦後の政党政治	55 年体制の形成と定着
第 12 回	政党政治の現状	政治改革以降の政党の情勢について
第 13 回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第 14 回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回のレジュメおよびノートをもとに復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (65%) および平常点 (35%) により、総合的に評価をおこなう。平常点は授業内レポートおよび平素の授業内の取り組みにより構成される。

【学生の意見等からの気づき】
政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

国際政治論

曹　海石

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【授業の進め方と方法】
　この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化
第２回	東西冷戦と朝鮮戦争	国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第３回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、一人っ子政策、改革開放政策
第４回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、ＯＤＡ、尖閣諸島問題
第５回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム
第６回	中国の少数民族問題	チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第７回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、太陽政策
第８回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム
第９回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制
第１０回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第１１回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壌宣言
第１２回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第１３回	日本と東南アジア諸国	ＯＤＡ、アセアン・プラス３、ＦＴＡ、南シナ海問題
第１４回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生諸君には常に新聞、テレビ、インターネットなどを通じて最近の国際ニュースを把握することを期待する。また、テキスト、参考書を読むことを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない

【参考書】
１、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996 年。
２、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004 年。
３、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度４０%、期末テスト６０%

【学生の意見等からの気づき】
日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

経済統計論 A

菅　幹雄

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済統計論Aでは産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】
経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式である。また統計表に関する計算のワークシートを配布する。それに学生が計算・記入してもらうことにより、着実に内容を理解してもらう。また経済センサスの調査方法に関するレポート、レオンチェフに関するレポートを実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業分類と生産物分類	産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス- 基礎調査	経済のサービス化、調査方法
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（1）	企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（2）	調査結果の分析事例の紹介
7	ビジネスサーベイ（1）	工業統計調査
8	ビジネスサーベイ（2）	商業統計調査
9	ビジネスサーベイ（3）	サービス産業の統計調査
10	産業連関表（1）	レオンチェフ
11	産業連関表（2）	ケネーの経済表、相互依存関係
12	産業連関表（3）	産業連関分析
13	産業連関表（4）	供給・使用表への展開
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明する各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館　3564 円

【参考書】
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会　1620 円

【成績評価の方法と基準】
ワークシート 20 %、経済センサスの調査方法に関するレポート 10 %、レオンチェフに関するレポート 10 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく見やすく書くようにする。

経済統計論 B

菅　幹雄

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済統計論Bでは世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】
経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式である。また統計表に関する計算のワークシートを配布する。それに学生が計算・記入してもらうことにより、着実に内容を理解してもらう。国勢調査の調査方法に関するレポートと家計簿アプリの利用結果に関する発表を実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）	人口
3	国勢調査（2）	就業状態、産業と職業
4	国勢調査（3）	昼夜間人口、人口移動
5	人口推計	人口学的方程式、中間年、将来予測
6	標本調査	標本抽出法、単純無作為抽出、層化三段抽出、標本誤差
7	家計調査（1）	家計簿
8	家計調査（2）	エンゲルの法則
9	家計調査（3）	ローレンツ曲線とジニ係数
10	家計調査（4）	家計簿アプリを使って実際に自分の家計簿を作成した結果を各自発表
11	消費者物価指数（1）	指数算式、指数のテスト
12	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、品質調整
13	消費者物価指数（3）	家計消費状況調査、家計消費単身モニター調査、消費動向指数
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明する各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館　3564 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
ワークシート 20 %、国勢調査の調査方法に関するレポート 10 %、家計簿アプリの利用結果に関する発表 10 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく濃く書く。

情報経済論 A

鈴木　豊

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方も学ぶ。

【到達目標】
経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』 に沿って、数値例、図解、最適化(最適化条件の導出) というアクセスしやすい分析手法を使って授業を進める。教室では黒板を使っての講義形式となり、教員の説明を聞きながら学生がノートをとり、理解するというスタイルとなる。１００分授業となるため、理解度確認のための演習の時間を設けるなど、受講生を助ける工夫は出来るだけする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第 2 回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第 3 回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第 4 回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第 5 回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第 6 回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第 7 回	時間を通じたゲーム③	応用例②　経済政策ゲーム：ルールか裁量か
第 8 回	くり返しゲーム①	基礎理論　協調均衡達成のメカニズム
第 9 回	くり返しゲーム②	応用例①　共有資源の管理における協調行動
第 10 回	くり返しゲーム③	応用例②　グローバルガバナンスと国際協調
第 11 回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果　公正さの考慮
第 12 回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第 13 回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第 14 回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016　および　授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】
① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
③ マクミラン 『経営戦略のゲーム理論』(伊藤・林田訳)（有斐閣）
④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、授業内で提示した課題（レポート 2 回）30 %

【学生の意見等からの気づき】
１００分授業となるため、授業中の理解度確認演習をできる限り確保する。

情報経済論 B

鈴木　豊

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
（Ⅰ）不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
（Ⅱ）プリンシパル＝エージェントの理論:モラルハザード
（Ⅲ）プリンシパル＝エージェントの理論:アドバース・セレクション
（Ⅳ）不完備契約の理論

【到達目標】
春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』 に沿って、数値例、図解、最適化(最適化条件の導出) というアクセスしやすい分析手法を使って授業を進める。教室では黒板を使っての講義形式となり、教員の説明を聞きながら学生がノートをとり、理解するというスタイルとなる。１００分授業となるため、理解度確認のための演習の時間を設けるなど、受講生を助ける工夫は出来るだけする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第 2 回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第 3 回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第 4 回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第 5 回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）
第 6 回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第 7 回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第 8 回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第 9 回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第 10 回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第 11 回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在
第 12 回	不完備契約③	「資産所有 (財産権)」アプローチ①基本モデル　残余コントロール権
第 13 回	不完備契約④	「資産所有（財産権)」アプローチ②企業の境界の決定
第 14 回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016　および　授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】
① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
③ オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、授業内で提示した課題（レポート 2 回）30 %

【学生の意見等からの気づき】
１００分授業となるため、授業中の理解度確認演習をできる限り確保する。

西洋経済史 A（2015年度以前入学生）
世界経済史 A（2016年度以降入学生）

工藤　裕子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21 世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、欧米地域の経済発展を軸に検証する。

【到達目標】
・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加の変化について概要を学び、比較できるようにする。
・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。

【授業の進め方と方法】
・毎回、授業に即したレジュメを配布する。
・図・表・絵画などのビジュアル資料を使用し、背景理解につとめる。
・ほぼ一講義完結方式で、授業毎にテーマの中心となる問題を設定し、授業後それについて議論できる素地を持つことを目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済史とその方法論	経済学との違いと繋がり。方法論として発展段階説、世界システム論を紹介。
第 2 回	世界の人口、所得、格差の推移	マディソンの推計をもとに、世界の人口、所得、生活水準の長期的推移を概観。
第 3 回	環境史からみた中世経済	環境史からみた、農業への移行、工業への移行、都市化のインパクト。
第 4 回	封建システムの動揺と共同体、市場、国家	封建システムから市場経済システムに移行する中の、共同体・市場・国家の変容。
第 5 回	大航海時代とアジア・アフリカの商館・植民地経営	ポルトガル・スペイン・オランダ・イギリスのアジア・アフリカ交易圏との接触。 金銀の流通拡大による、ヨーロッパおよび世界経済への影響。
第 6 回	「最初の工業化」の条件	オランダとイギリスの工業化の共通性と差異を見る。
第 7 回	綿織物業の導入と産業革命（1）中近世の織物産業の変遷	綿花栽培から衣服までの織物業の工程を概観。毛織物業、麻織物業に対し綿織物導入がまきおこしたブームと、輸入反対運動をみて産業革命前夜のプロセスを理解する。
第 8 回	綿織物業の導入と産業革命（2）機械化のプロセスとその帰結	産業革命の綿織物業での技術革新を、紡績と織布の相互作用の中でみる。
第 9 回	消費者の誕生　―生活革命、世界商品の誕生、リサイクル―	大量生産・消費時代の前の消費者のあり方。茶・コーヒーなどの世界商品を取り入れる様子と、階層間のリサイクルの仕組みを、古着の流通構造から述べる。
第 10 回	環大西洋経済圏の成立と大西洋の人口移動	1600 ― 1850 年に大西洋を渡りヨーロッパからアメリカ大陸へ移動した移民の背景を探る。
第 11 回	奴隷売買と奴隷制度	大西洋経済圏の成立とともに本格化した奴隷売買と奴隷制度を、開始から廃止まで見る。
第 12 回	グローバル経済の誕生	世界的な生産・流通組織の編成をみる。
第 13 回	第二次産業革命と交通・通信制度の発達	第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第 14 回	19 世紀中の生活水準論争と都市の公衆衛生・廃棄システム	産業革命後の生活水準は向上したのか。都市生活の実態から明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回に一回小課題を課す。
授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。

【テキスト（教科書）】
K. ポメランツ、S. トピック『グローバル経済の誕生：貿易が作り変えたこの世界』
筑摩書房、2013 年 他。授業で指示する。

【参考書】
馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
問題設定に関心が高かったので、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

西洋経済史 B（2015年度以前入学生）
世界経済史 B（2016年度以降入学生）

進藤　理香子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１８世紀イギリス産業革命を発端に１９世紀大陸ヨーロッパで進行した工業化とは単に技術革新と生産の拡大という物的側面においてのみ議論しうるものではなく、むしろ多分に政治的、社会的近代化のながれにおいて理解されるべき事象であった。講義では１８世紀半ばから第二次世界大戦までの経済、政治、社会に関しイギリス、ドイツ、フランス、ロシア、アメリカの動向を中心に概説する。

【到達目標】
・封建制から資本主義への移行を理解する。
・市民革命、政治システム、経済発展の関係について考える。
・二度の世界大戦へ至るヨーロッパの勃興と凋落、アメリカの台頭をみる。

【授業の進め方と方法】
・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	１８世紀後半から２０世紀前半におけるヨーロッパの経済と社会	概観、理論、論点の整理を行う。
第 2 回	資本主義の前提条件（封建社会、市民革命、資本・土地・賃労働）	社会、政治、経済（農業、手工業、商業）における変化をみる。
第 3 回	イギリス産業革命	蒸気機関をはじめとする技術革新、生産諸関係、労働編成の変化。
第 4 回	１９世紀パックス・ブリタニカの形成	工業から金融へ、植民地の拡大、いわゆるジェントルマン資本主義の議論を検討する。
第 5 回	１８世紀大陸ヨーロッパの立ち遅れ：絶対王政と重商主義	フランス、オーストリア、プロイセンの動向について。
第 6 回	フランス革命、ナポレオン戦争、ウィーン体制	大陸ヨーロッパ近代化への転機に関し国際政治から概観する。
第 7 回	１９世紀初頭プロイセンの諸改革	シュタイン＝ハルデンベルク改革（農奴開放、営業の自由、税制・行政改革）について。
第 8 回	プロイセンの工業化	技術革新と工業振興政策、鉄道建設、通商政策、ドイツ関税同盟。
第 9 回	１８４８年革命と大陸ヨーロッパ	フランス、プロイセンをはじめ欧州各国へ拡大した民衆の自由主義的改革要求。工場労働者の発生と社会問題の先鋭化についてみる。
第 10 回	１９世紀後半ドイツ帝国統一と強国への道	重化学工業をはじめとするドイツの大企業（独占）体制、金融、利権団体、社会政策、通商政策、軍拡と植民地政策。
第 11 回	ヨーロッパ列強の植民地獲得競争	植民地帝国イギリス、フランス、遅れたドイツ、軍拡と経済の関係をアジア・アフリカを含めた世界史的観点から学ぶ。
第 12 回	第一次世界大戦とヨーロッパ	総力戦（国民、資源、あらゆる生産力投入）による国家の疲弊。ヨーロッパの凋落についてみる。
第 13 回	第一次大戦後の世界：ベルサイユ体制と戦間期の社会と経済	ロシア革命、ヴェルサイユ条約、アメリカの経済覇権、大量生産と大衆消費社会について学ぶ。
第 14 回	第二次世界大戦、ナチス・ドイツとヨーロッパ	ドイツによる欧州諸国への軍事侵攻、その経済的・社会的帰結。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・数回に一回、レポートの提出を求める。
・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、近現代ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。必要に応じて講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】
アシュトン著、中川敬一郎訳『産業革命』岩波書店、１９７３年。
飯田隆著『図説西洋経済史』日本経済評論社、２００５年。
君塚直隆著『近代ヨーロッパ国際政治史』有斐閣、２０１０年。
木村靖二編『ドイツ史』山川出版社、２００１年。
塩川伸明『民族とネイション：ナショナリズムという難問』岩波書店、２００８年。

【成績評価の方法と基準】
試験５０%、レポート５０%。

【学生の意見等からの気づき】
なし

地方財政論 A

小林　克也

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の地方財政制度とその問題点の解説および、内外を問わず今まで蓄積されてきた地方財政に関連する基礎理論のうち重要なものを解説する。日本では、90 年代後半以降の恒常的な財政赤字により、多額の債務が積み上がってしまった。これを踏まえ、国だけでなく、国から多額の補助金を受けている地方自治体も財政の効率化が必須である。2000 年代に、地方分権が進められてきたが、分権によって発生する経済上の問題について省みられることはあまりなかった。この講義では、こうした内容を概説する。

【到達目標】
この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、わが国の地方財政の問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。地方財政に関連する問題を、論理的に考えるための諸概念を理解し、統計資料などを見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。地方財政論 A では、地方財政の理論や捉え方を中心に講義をする。適宜、統計などの資料を配布し、また理論の解説をするので、試験前には講義で学んだことをきちんと復習をし、内容を理解しておくこと。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場	政府の抱える問題の把握。特に地方自治体と分権化の問題について。
第 2 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私的財、公共財の最適供給について。
第 3 回	統計資料 (1)	地方自治体の財政データの見方。歳入と歳出の分類。財政指標の見方。
第 4 回	統計資料 (2)	各自治体の決算カードの見方、社会保障と自治体、自治体の破綻制度。
第 5 回	財政の役割	財政の 3 つの役割。国と地方の役割分担の考え方。
第 6 回	所得再分配機能	所得再分配は国と地方のどちらが担うべきか。社会保障との関わり。
第 7 回	経済安定化機能	経済安定化は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 8 回	資源配分機能	経済安定化機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 9 回	オーツの分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理とは何か。
第 10 回	オーツの分権化定理 (2)	オーツの分権化定理と地方公共財の便益のスピルオーバーについて。
第 11 回	コースの定理	便益のスピルオーバーが生じる場合におけるコースの定理の考え方。
第 12 回	再考：公共財	費用負担の問題とリンダール均衡。
第 13 回	投票の理論	民主的な社会における意思決定。中位投票者の定理。
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な概念を使うので、財政学、旧カリの学生は現代経済学入門または企業と経済・基礎も履修していることが望ましい。ミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済論も勧める。これらの授業で扱われる概念について、適宜、復習をすると地方財政の内容も理解しやすい。財政の現状も扱うので、毎日、日経新聞に目を通すことを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
地方財政の考え方を独習したい場合、
　佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社
　林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社
　総務省編『地方財政白書』各年度版
を参考にすると良い。適宜、統計資料などを配布しながら講義する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 100%の評価をする。また、授業中に 3 回練習問題を出し、この分の合計 15%を期末試験に加点する。100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
板書 (プロジェクターに映す情報) が多すぎるとの指摘がいつもあるが、必要最小限の情報しか書いていないので、うまくメモをとって欲しい。

地方財政論 B

小林　克也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
B では、A での内容を踏まえて、わが国の地方財政の制度を中心に講義をする。特に地方税制はしばしば変更されている。変化を捉えながら仕組みと基本的な考え方を経済学の考え方に基づいて概説する。地方税や地方債、補助金の精度は、経済学の考え方が十分反映されているとは言いがたい。現行制度の望ましい点、望ましくない点など経済学の考え方を用いて解説をする。

【到達目標】
B では、A の中で扱った理論を下敷きにして、わが国の地方財政制度について理解することが目標である。特に地方税が私たちの生活の中でどのように課税されているのかを把握することが目標である。さらに統計や資料などを見ながら、地方債や補助金のあり方を経済学に基づいて主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。適宜、統計などの資料や理論の解説などを追加する。試験前には講義ノートの復習をきちんとし、内容を理解しておくこと。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税と地方税固有の原則	税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税の仕組み。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税 (均等割と所得割) について。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、住民税課税の仕組みと法人住民税について。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税の仕組みについて。都道府県のばらつきはどれくらいか。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税と課税の仕組みについて。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税の仕組み。
第 8 回	固定資産税 (2)	地価の仕組み。公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債の仕組みと経済学上の意義と現実の問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率の解説。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金の仕組み。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税の仕組み。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制について。
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、地方財政論 A と財政学、旧カリの学生は現代経済学入門または企業と経済・基礎の履修が望ましい。またミクロ経済学、マクロ経済学公共経済論も履修して欲しい。これらの授業で扱われる概念について、適宜、復習をすると地方財政の内容も理解しやすい。財政の現状も扱うので、毎日、日経新聞に目を通すことを強く勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
参考書は春学期と同様、
　佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社
　林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社
　総務省編『地方財政白書』各年度版
を参考にすると良い。適宜、統計資料などを配布しながら講義する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 100%の評価をする。また、授業中に 3 回練習問題を出し、この分の合計 15%を期末試験に加点する。100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
板書 (プロジェクターに映す情報) が多すぎるとの指摘がいつもあるが、必要最小限の情報しか書いていないので、うまくメモをとって欲しい。

産業組織論 A

河村　真

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】
完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れをを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【授業の進め方と方法】
完全競争モデルの理解に必要な生産者の理論から解説する。完全競争下の企業の生産量の決定、さらに、供給曲線の導出から、市場での均衡価格および数量の決定が主な内容となる。完全競争を仮定した際の現実の市場での価格、数量の決定がいかなる要因により変化するかも応用問題として考える。講義のスタイルは、図解を中心とした板書とその解説を通じて行う。そのため、受講者には、ノートを丹念にとることが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることにより求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第 13 回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）
第 14 回	比較静学による完全競争モデルの現実への応用例	完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じたた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、講義において板書による図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、講義中にノートにとった図解を講義後、何度か自分で再現し、説明の順序に従い並べてみて、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
基本的に指定しない。

【参考書】
学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】
完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数のみにより行う。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
図などの板書が見づらいという指摘を受けた。大きめに図を板書することで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

産業組織論 B

河村　真

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】
産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【授業の進め方と方法】
　完全競争モデルとの比較を通じて、独占モデルおよびクールノの複占モデルの図による解説を行う。さらに、完全競争と比較し、企業の数が少なくなることによる均衡価格と均衡数量の変化に着目する。さらに、独占モデルおよびクールノ複占モデルを用いて具体的な産業が直面する課題の解釈の仕方を紹介する。講義は、板書による図を用いた説明を多用するため、受講者には、丹念なノートテイクが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論 A の期末試験の解答の解説	完全競争モデルにおける比較静学の応用例に重点を置く。
第 2 回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第 3 回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数（又は限界収入関数）の説明
第 4 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第 5 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第 6 回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の料金規制に関する議論
第 7 回	クールノ複占モデル	企業 2 社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第 8 回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第 9 回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第 10 回	独占，寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第 11 回	市場集中度と利潤率の相関（実証研究の紹介）	市場集中度と利潤率の間に正の相関があるか統計学的検定を行った計測結果の紹介
第 12 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅰ）	ネットワーク外部性が存在する市場での規格標準化のメリット（事例研究）
第 13 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅰ）	12 回の事例研究の結果をクールノ複占モデルを用いて解釈
第 14 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅱ）	製造業で川下（製品製造）、川上（原材料製造）の企業の垂直統合（合併）の経済学的合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、講義中の図による説明の板書をノートテイクしていただければ、理解できるように準備をするつもりである。しかし、多くの図と煩雑な操作による図の合成を行うので、講義中だけでは理解しきれない面もあると思われる。従って、講義後、自分で、講義中の説明に用いた図の再現とどういう手順で図を合成していったかを各自で復習してほしい。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しない。

【参考書】
学生から要請あれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中に行われる試験の点数により行う。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
板書に関して、図が見えづらいという指摘があり、板書の書き方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

金融各論Ⅱ A

武田　浩一

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融取引とリスク①	リスクとは何か
第 2 回	金融取引とリスク②	リスクの測り方
第 3 回	金融取引とリスク③	ポートフォリオとリスク
第 4 回	金融取引とリスク④	リスクと不確実性
第 5 回	非対称情報下での金融取引①	モディリアーニ＝ミラーの命題とは
第 6 回	非対称情報下での金融取引②	逆選択とモラルハザード
第 7 回	非対称情報下での金融取引③	エージェンシー・コストについて
第 8 回	非対称情報下での金融取引④	情報的観点から見た金融取引手法の意義
第 9 回	金融の証券化と市場型間接金融①	証券化とは
第 10 回	金融の証券化と市場型間接金融②	証券化の現状と課題
第 11 回	金融の証券化と市場型間接金融③	市場型間接金融とは
第 12 回	金融の証券化と市場型間接金融④	シンジケート・ローンとは
第 13 回	不良債権と企業再生①	不良債権問題の構図
第 14 回	不良債権と企業再生②	不良債権問題の原因と対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，堀江康熙・有岡律子『テキスト金融論』（新世社，2012 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

金融各論Ⅱ B

武田　浩一

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定
第 2 回	資産価格と金融危機②	金融危機とは
第 3 回	資産価格と金融危機③	通貨危機と銀行危機
第 4 回	資産価格と金融危機④	金融危機のメカニズムについて
第 5 回	金融規制と金融機関行動①	競争制限的規制と金融機関行動
第 6 回	金融規制と金融機関行動②	自己資本比率規制と金融機関行動
第 7 回	金融規制と金融機関行動③	セーフティーネットと金融機関行動
第 8 回	金融規制と金融機関行動④	預金者・投資家の行動と金融規制
第 9 回	金融市場と投資家心理①	投資家心理
第 10 回	金融市場と投資家心理②	投資家のリスクに対する態度
第 11 回	金融市場と投資家心理③	投資家行動と市場価格の変動
第 12 回	金融市場と投資家心理④	投資家行動モデル
第 13 回	複雑系と金融市場①	複雑系とは
第 14 回	複雑系と金融市場②	金融市場とカオス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，堀江康熙・有岡律子『テキスト金融論』（新世社，2012 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

金融ビジネス論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融取引とリスク①	リスクとは何か
第 2 回	金融取引とリスク②	リスクの測り方
第 3 回	金融取引とリスク③	ポートフォリオとリスク
第 4 回	金融取引とリスク④	リスクと不確実性
第 5 回	非対称情報下での金融取引①	モディリアーニ＝ミラーの命題とは
第 6 回	非対称情報下での金融取引②	逆選択とモラルハザード
第 7 回	非対称情報下での金融取引③	エージェンシー・コストについて
第 8 回	非対称情報下での金融取引④	情報的観点から見た金融取引手法の意義
第 9 回	金融の証券化と市場型間接金融①	証券化とは
第 10 回	金融の証券化と市場型間接金融②	証券化の現状と課題
第 11 回	金融の証券化と市場型間接金融③	市場型間接金融とは
第 12 回	金融の証券化と市場型間接金融④	シンジケート・ローンとは
第 13 回	不良債権と企業再生①	不良債権問題の構図
第 14 回	不良債権と企業再生②	不良債権問題の原因と対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，堀江康熙・有岡律子『テキスト金融論』（新世社，2012 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

金融ビジネス論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定
第 2 回	資産価格と金融危機②	金融危機とは
第 3 回	資産価格と金融危機③	通貨危機と銀行危機
第 4 回	資産価格と金融危機④	金融危機のメカニズムについて
第 5 回	金融規制と金融機関行動①	競争制限的規制と金融機関行動
第 6 回	金融規制と金融機関行動②	自己資本比率規制と金融機関行動
第 7 回	金融規制と金融機関行動③	セーフティーネットと金融機関行動
第 8 回	金融規制と金融機関行動④	預金者・投資家の行動と金融規制
第 9 回	金融市場と投資家心理①	投資家心理
第 10 回	金融市場と投資家心理②	投資家のリスクに対する態度
第 11 回	金融市場と投資家心理③	投資家行動と市場価格の変動
第 12 回	金融市場と投資家心理④	投資家行動モデル
第 13 回	複雑系と金融市場①	複雑系とは
第 14 回	複雑系と金融市場②	金融市場とカオス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，堀江康熙・有岡律子『テキスト金融論』（新世社，2012 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

企業金融論 A

胥　鵬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、負債による資金調達の制度と実務の解説および、内外を問わず今まで蓄積されてきたデット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを解説する。日本では、80 年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90 年代末にゼロ金利政策から現在のマイナス金利政策が実施されてきた。長期にわたる低金利政策の企業の資金調達や投資に対する影響について検証されることは少なかった。この講義では、こうした内容を概説する。

【到達目標】
この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【授業の進め方と方法】
パソコン、とりわけ、エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して金利と債券の価格，金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第 4 回	リボ払い	手数料 (金利) と返済額の計算
第 5 回	銀行ローンの返済方法	元金均等返済と元利均等返済について
第 6 回	住宅ローンの返済方法	ボーナス併用について
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組
第 9 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価格や設備投資の評価が変動する仕組
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	ゼロクーポン債	スポット・レートとイールドカーブ
第 13 回	金利政策	短期金利操作からイールドカーブ操作へ
第 14 回	グループ課題	今までの内容を確かめるために、グループ課題として償還期限、格付けと利回りのデータをダウンロードしてグラフを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターするように。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

【成績評価の方法と基準】
出席と期末グループ課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価対象にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆくっり話すように。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参するように。

【その他の重要事項】
教職、ＦＰなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ，株式持合，役員報酬，中小企業金融，コミットメント・ライン，銀行ガバナンスと銀行リスク，会社法の経済分析，来日観光客の決定要因等々

企業金融論 B

胥　鵬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
B では、A での債券価格形成理論と比較しながら、期待株式投資収益率，株式投資収益率の標準偏差，二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に講義をする。続いて、投資収益率の相関と分散投資の基本的な考え方をファイナンス理論の考え方に基づいて概説する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせをわかりやすく解説し、資本市場線と証券市場線の考え方を用いて株式のリスクとリターンの関係を説明する。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法も解説する。

【到達目標】
B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【授業の進め方と方法】
パソコン、とりわけ、エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などをわかりやすく説明する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配当割引モデル	成熟企業ｖｓ成長企業
第 2 回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第 3 回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第 4 回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第 5 回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第 6 回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第 7 回	ＣＡＰＭ	資本市場線、証券市場線とベータ
第 8 回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第 9 回	資金調達の統計資料	借入、転換社債と新株発行などの企業金融について
第 10 回	資金調達方法と株価	資金調達の新聞報道で株価は変動する
第 11 回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第 12 回	新規上場	株式上場の仕組みについて
第 13 回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて
第 14 回	グループ課題	株価データをダウンロードして企業金融関連の新聞報道の株価に対する効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

【成績評価の方法と基準】
出席と期末グループ課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価対象にはグループ課題参加は必須。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】
履修生はノートパソコンを持参するように。

【その他の重要事項】
教職、ＦＰなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ，株式持合，役員報酬，中小企業金融，コミットメント・ライン，銀行ガバナンスと銀行リスク，会社法の経済分析，来日観光客の決定要因等々

国際金融論 A

ブー・トウン・カイ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年.

【参考書】
1.『入門国際金融』第 4 版、高木信二、日本評論社 2011 年.
2.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 (2014/7/3).

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回授業の最後の 10 分で小テストを行い、その回で学んだ内容に対する理解度を確認する。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

国際金融論 B

ブー・トウン・カイ

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機（1）	通貨危機の歴史
10	通貨危機（2）	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.

【参考書】
1.『入門国際金融』第 4 版、高木信二、日本評論社 2011 年.
2.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 (2014/7/3).

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回授業の最後の 10 分で小テストを行い、その回で学んだ内容に対する理解度を確認する。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

計量経済学 A

宮﨑　憲治

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 古典的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課す. 授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2 つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布 2 つ以上の事柄の確率変数
6	計量経済学のための確率論	連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学を受講していることが望ましい.

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
山本 拓・竹内 明香 (2013)「入門計量経済学― Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社
鹿野繁樹 (2015)「新しい計量経済学」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

計量経済学 B

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 現代的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, R をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2 つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の計量経済学 A を受講していることが望ましい.

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
星野匡郎, 田中久稔 (2016)「R による実証分析 ―回帰分析から因果分析へ」オーム社
鹿野繁樹 (2015)「新しい計量経済学」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている R を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

数理統計学 A

宮脇　典彦

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義の目的は，データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し，実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら，身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。
　既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん，将来何らかの形で実証的な分析を行いたいと考えている皆さんに是非履修してもらいたいと希望しています。
　「数理統計学A」では，Excel の基本操作を説明した後，統計学の基礎となる確率について学びます。

【到達目標】
確率の基礎的な考え方を，Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
確率を基礎から勉強し，Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説，記述統計（1）	確率と統計の考え方についての入門的説明，データの中心，広がり，偏り，さまざまな平均値
第 2 回	記述統計（2）	度数分布とヒストグラム，ローレンツ曲線とジニ係数，2 変数データの整理
第 3 回	Excel による解析（1）	Excel の基本，分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析（2）	Excel でつくる度数分布表，2 変数の関係
第 5 回	確率（1）	標本空間と確率
第 6 回	確率（2）	等確率の世界，条件つき確率と独立性
第 7 回	確率（3）	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布（1）	離散型確率変数と確率関数
第 9 回	確率変数と分布（2）	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布（3）	連続型確率変数と密度関数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散，標準偏差（Excel による実習）
第 12 回	基本的な分布（1）	主な離散分布（Excel による実習）
第 13 回	基本的な分布（2）	主な連続分布（Excel による実習）
第 14 回	基本的な分布（3）	正規分布（Excel による実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での理解を深めるため次回の講義内容を予習し，Excel による実習などを通じて毎回の講義内容をしっかり復習します。

【テキスト（教科書）】
森棟公男他著「統計学（改訂版）」，有斐閣（2015 年）

【参考書】
大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」，新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門　経済のための統計学［第 3 版］」，日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析〔第 2 版〕」，サイエンス社（2009 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学［第 2 版］」，新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学〔第 3 版〕」，東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」，東京図書（2013 年）
藤本壱著「Excel でできるらくらく統計解析」，自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）・・・就職活動のため授業に参加できない学生には別途配慮します
レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
Excel での実習を交えながら，数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう，確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）

数理統計学 B

宮脇　典彦

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義の目的は，データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し，実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら，身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。
　「数理統計学B」では，「数理統計学A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学び，時間が許せば回帰分析の考え方に触れます。

【到達目標】
統計学の基礎的な考え方を，Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し，Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。必要に応じて，Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布（1）	標本と標本平均
第 2 回	標本分布（2）	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布（3）	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布（4）	中心極限定理と正規分布による近似（Excel による実習）
第 5 回	正規分布から派生する分布（1）	カイ 2 乗分布，t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布（2）	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布（3）	カイ 2 乗分布，t 分布，F 分布（Excel による実習）
第 8 回	推定（1）	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定（2）	正規母集団と二項母集団の推定（Excel による実習）
第 10 回	推定（3）	点推定の規範・さまざまな推定法
第 11 回	検定（1）	検定の考え方
第 12 回	検定（2）	検定における検出力
第 13 回	検定（3）	正規母集団に関する検定（Excel による実習）
第 14 回	検定（4）	二項母集団に関する検定（Excel による実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での理解を深めるため次回の講義内容を予習し，Excel による実習などを通じて毎回の講義内容をしっかり復習します。

【テキスト（教科書）】
森棟公男他著「統計学（改訂版）」，有斐閣（2015 年）

【参考書】
大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」，新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門　経済のための統計学［第 3 版］」，日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析〔第 2 版〕」，サイエンス社（2009 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学［第 2 版］」，新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学〔第 3 版〕」，東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」，東京図書（2013 年）
藤本壱著「Excel でできるらくらく統計解析」，自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）
レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
Excel での実習を交えながら，数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう，統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）

コンピューター科学 A (2016 年度以降入学生)
コンピュータ科学(ネットワークを中心に) A (2015 年度以前入学生)

小沢　和浩

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターとネットワークの発展の歴史を背景に、デジタル演算や信号処理の仕組みを理解することを目標とする。さらにコンピューターによるデータの処理からネットワーク上でのデータの通信法などその基本原理を学ぶ。

【到達目標】
コンピューターとネットワークの発展の歴史を理解する。さらに、デジタル演算や信号処理の仕組みの理解を目標とする。さらに、コンピューターによるデータの処理からネットワークでの情報通信の仕組みを理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義は PC を使うため情報演習教室にて行う。テキストを指定するが講義はあらかじめ用意した資料に基づいて行う。また、講義内容の確認として演習問題を解くこともある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの歴史	計算機の原理を簡単に説明し、コンピューターの発展の歴史を分かりやすく紹介する。
第 2 回	情報量とコンピューターによる情報の表現	情報量の定義と二値論理を紹介し、コンピューターによる情報の表現を実例を通して理解する。
第 3 回	情報のコード化と補数による演算	コンピューター上で用いられる情報のコード化と補数による減算の方法を演習を通して習得する。
第 4 回	論理演算とディジタル回路	データの入出力関係を記述するブール代数を簡単に説明する。
第 5 回	ディジタル回路の基礎	コンピューターを構成する基本素子について解説し論理演算を実現する回路の構成法について学習する。
第 6 回	コンピューターの種類と構成要素	コンピューターの種類についての解説を行う。さらに、コンピュータシステムの基本構成要素について解説を加える。
第 7 回	アルゴリズムとソフトウエア開発	プログラムの実例をいくつか挙げてアルゴリズムの解説を行う。また、簡単なプログラミング実習をする。
第 8 回	プログラミング	簡単なプログラミング実習をする。
第 9 回	ネットワークの基本技術	簡単なプログラミング実習をする。
第 10 回	インターネットの最近の動向	インターネットの歴史と現在のネットワーク機器。
第 11 回	ネットワークの構成	代表的なコマンドを利用してネットワーク構成を確認する。
第 12 回	ネットワークセキュリティキー	暗号と認証の仕組みや様々な脅威について。
第 13 回	システム構築とデータベース	コンピューターシステムの構築法とデータベース。
第 14 回	復習	今までの講義の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容を理解するために十分な復習が必要。

【テキスト（教科書）】
講義の始め (ガイダンス時) に指示する。

【参考書】
必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 100%の評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習教室の PC およびノート PC（講義中のみ貸し出す）を用いることがある。

コンピューター科学 B (2016 年度以降入学生)
コンピュータ科学(ネットワークを中心に) B (2015 年度以前入学生)

小沢　和浩

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上で配布されているオープンソースのソフトウエアを利用して、少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得する。また、コンピューターでの処理手続きのアルゴリズムを理解するために、データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、外部手続きとしてそのプログラム化を試みる。

【到達目標】
少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得することを目標とする。データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、アプリケーションソフトの外部手続きとしてプログラム化を試み、コンピューターで処理される手続きのアルゴリズムを理解する。

【授業の進め方と方法】
ネットワーク利用を前提としたコンピュータシステムの利用法の習得を目指し、実習による演習を交えて行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オープンソースウェアの利用 (1)	Office 系ソフトの利用法 (1)
第 2 回	オープンソースウェアの利用 (2)	Office 系ソフトの利用法 (2)
第 3 回	オープンソースウェアの利用 (3)	Office 系ソフトの利用法 (3)
第 4 回	マクロプログラム	簡単なマクロプログラム作成法を理解する。
第 5 回	関数の作成	マクロプログラムによるユーザ定義関数の作成法を理解する。
第 6 回	様々なツールによる回帰分析	内部関数やアドインプログラムの利用法を理解する。
第 7 回	反復計算のアルゴリズム	循環参照による反復計算やソルバーによる解の探索を行う。
第 8 回	マクロとユーザ定義関数の応用	相関係数や最小二乗法のアルゴリズムを作成する。
第 9 回	モンテカルロシミュレーション	確率分布に従う乱数の発生とシミュレーションを行う。
第 10 回	線形計画法による最適化問題	簡単な最適化問題を線形計画法により解く。
第 11 回	統計解析ソフトの利用	統計解析ソフトの利用法を理解する。
第 12 回	数式処理ソフトの利用法	代数計算なども可能な数式処理ソフトを利用する。
第 13 回	地理情報システムの利用法	GIS ソフトを用いて簡単な地理情報の分析を行う。
第 14 回	自動制御のアルゴリズム	PID 制御について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では実習も取り入れて行う。各自できることは予習復習を行うことを推奨する。また、演習の課題も期日までに必ず提出すること。

【テキスト（教科書）】
講義の中で紹介する。

【参考書】
必要であれば講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の演習 (50%) と課題の提出 (50%) を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
内容が理解できるように演習を多く取り入れる。

【その他の重要事項】
注）ネットワーク関連の題材は大部分が「コンピューター科学 A」に移りました。

現代社会と情報A

坂本　憲昭

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し，どのようなビジネスにおいても，それらを活用することが必須であり，IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略，マーケティング，法務，情報セキュリティなどの知識を学びます。具体的には，これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポート試験の内容を活用します。

【到達目標】
職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得，現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し，情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に，(1) 情報システムを業務に活用し，情報システムの投資対効果，要求定義から発注，検品・検証までの一連の流れを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために，業務の把握，データ収集・分析・解析，解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識と活用方法を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティや法などの知識，情報モラルや情報倫理などを習得します。

【授業の進め方と方法】
授業内容は，国家資格，情報処理技術者試験，ＩＴパスポートのストラテジ系，マネジメント系（IT 管理）の一部，情報システムに必要なインダストリ，情報倫理です。講義内容は大きく３本柱になります。それぞれにおいて，「講義と演習問題＞試験」のサイクルで授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第 2 回	ストラテジ系（企業活動）	企業活動，企業の組織，最高情報責任者 CIO，コンプライアンス，OR や IE など
第 3 回	ストラテジ系（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール，情報ツール
第 4 回	ストラテジ系（業務分析ツツール）	問題解決のための業務解析，業務分析のためのツールと活用事例
第 5 回	ストラテジ系試験	ストラテジ系の確認となる中間試験，振り返りと問題解説
第 6 回	ストラテジ系（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第 7 回	ストラテジ系（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第 8 回	ストラテジ系（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介，アローダイアグラムなど
第 9 回	ストラテジ系（ビジネスインダストリ技術）	規格，標準化，電子商取引社会などの情報システム，ビジネスインダストリ
第 10 回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介
第 11 回	マネジメント系試験	マネジメント系の確認となる中間試験，振り返りと問題解説
第 12 回	情報倫理（ネットワーク倫理，情報化社会）	情報セキュリティ，情報社会における法と企業または個人の責任，情報倫理
第 13 回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について
第 14 回	情報倫理試験	情報倫理および情報産業に関する試験，振り返りと問題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業時間内に演習問題を行うので，間違えた問題は授業外に復習します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに，教員による自作資料および演習問題を配布します。

【参考書】
情報処理技術者試験「IT パスポート」の参考書および問題集が参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3 回の試験結果で評価します。各試験を 100 点満点とし，3 回の試験結果の合計が 100 点満点になるように換算し，60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
準備したスライドを提示した際に，早くなることがあるので，確認しながら進めるようにします。マイクの持ち方に失敗して聞き取りにくいことがあり，注意します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
ガイダンスには必ず出席してください。やむを得ず欠席した場合は，授業支援システムにある配布資料「ガイダンス」を必ず参照してください。試験欠席に対して追試や課題はありません。公欠には対応します。評価の方法や公欠の対応などもすべて授業支援システムにある「ガイダンス」に記載しています。 質問等は授業終了直後の昼休み時間を利用してください。

現代社会と情報B

菅　幹雄

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、ミクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】
個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、ミクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行なう。試験を１回実施する。レポートを３回、PC 演習を１回行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、アルビン・トフラー『第三の波』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、デビッド・ハルバースタム『ベスト＆ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業	マイクロプロセッサーの開発、DVD『シリコン・バレーの百年』視聴
4	パーソナルコンピュータの登場	Apple II、DVD『スティーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』視聴
5	ネット社会の到来	西垣通『IT 革命―ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル― Google 既存のビジネスを破壊する』、DVD『グーグル革命』視聴
7	ビッグデータとデータマイニング	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』
8	ジョージ・オーウェルの『１９８４』	ジョージ・オーウェル『１９８４』
9	個人情報保護（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、
10	個人情報保護（2）	年金記録問題、監視社会
11	個人情報保護（2）	マイナンバー
12	統計法と個体情報の保護	統計法、匿名データ、オーダーメード集計、一般用ミクロデータ
13	一般用ミクロデータの分析を体験	一般用ミクロデータの分析を体験する。
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容の欄に示した参照する文献を読んでみること。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint の出力を授業支援システムにアップする。

【参考書】
各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】
試験 60 %、レポート・PC 演習 40 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく見やすく書くようにする。

比較経済システム論 A

マーサ　チャイクリン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will examine the growth of capitalism as an intellectual and social phenomenon.

【到達目標】
1. To understand the historical trends that formed the modern economy
2. To identify the major economic institutions that operate in different economic systems.
3. To understand the main theoretical explanations of economic transformation.
4. To develop professional skills in reading, writing, discussion and oral presentation.

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and Basic concepts	Course content and expectations
第 2 回	The Age of Discovery	How European expansion radically changed the economic landscape of the world.
第 3 回	Grotius	The concept of mare liberum
第 4 回	The Dutch East India Company	The formation of the joint stock company
第 5 回	Dutch East India Company II	The impact of Dutch trade upon the world
第 6 回	Dutch East India Company in Japan	The economic impact of the Dutch East India Company and its special relationship to Japan
第 7 回	The Enlightenment	The impact of the Enlightenment on economic thought
第 8 回	The English East India Company	The first joint stock company, the impact, and the EIC in Japan
第 9 回	English East India Company II	The colonial economy to imperialism
第 10 回	Adam Smith I	Who was Adam Smith and what was the importance of The Theory of Moral Sentiments
第 11 回	Adam Smith II	The Wealth of Nations
第 12 回	Labor and Wages in Economic thought	The industrial revolution and changes to wages and labor.
第 13 回	David Ricardo	David Ricardo's on labor and wages in the past and present.
第 14 回	Oral Presentations	Graded presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used. provided digitally

【参考書】
To be supplied later

【成績評価の方法と基準】
Quizzes 30%
Presentation 30%
In class activities 40%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

比較経済システム論 B

マーサ　チャイクリン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will examine the growth of capitalism as an intellectual and social phenomenon.

【到達目標】
1. To understand the historical trends that formed the modern economy
2. To identify the major economic institutions that operate in different economic systems.
3. To understand the main theoretical explanations of economic transformation.
4. To develop professional skills in reading, writing, discussion and oral presentation.

【授業の進め方と方法】
Lecture, group activities, presentation, in-class writing

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course overview and expectations
第 2 回	The eighteenth century	Adam Smith, monopolies, and economic thought in the 18th century
第 3 回	The French Revolution	The economic impact of the French Revolution
第 4 回	Rousseau	Rousseau and naturalist thinking
第 5 回	The Industrial revolution and Ricardo revisited	The Industrial revolution and change
第 6 回	Liberal economics	Examination of liberalism and the economic thought behind it.
第 7 回	John Stuart Mill	John Stuart Mill in Europe and Japan
第 8 回	Marxism	The lasting impact of Karl Marx
第 9 回	Socialism and Anarchy	Other socialist thought in the economy
第 10 回	Metropolis	Watch the film in the context of industrial development
第 11 回	John Maynard Keynes	The economic theory of Keynes
第１２回	Takahashi Korekiyo	Often called the Keynes of Japan. How accurate is this comparison?
第１３回	Modern Times	Film critique and review
第１４回	Presentations	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation

【テキスト（教科書）】
Digitally provided

【参考書】
To be supplied later

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

Business Research Seminar A (2016年度以降入学生)
時事英語セミナー A (2015年度以前入学生)

中谷　安男

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and sidcussion skills.

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Generating Ideas Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Coherence Chanel	Transitions & Connectors
6	Audience Christian Dior	Audience Analysis
7	Research Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Causes Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	Business case 4 JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review.　Active participation is preferable.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker.　Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC DVD

Business Research Seminar B (2016年度以降入学生)
時事英語セミナー B (2015年度以前入学生)

中谷　安男

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and sidcussion skills.

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido Chaina 1	Good Speakers
2	Shiseido Chaina 1	Preparation
3	Toshiba Vietnum 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnum 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Gloabal MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review.　Active participation is preferable.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker.　Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC DVD

日本思想史

菅原　正子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本思想の基層にある伝統思想、国際的な背景といえる中国の思想、日本の貴族思想、宗教思想としての神仏習合思想などについて、重要なトピックを取り上げて考察する。そして、中世の武士の思想・信仰については室町・戦国時代を中心に検討する。これらの思想史に関するいくつかのテーマを通して、歴史的な見方や考え方を獲得する。

【到達目標】
現代にも影響を及ぼしている日本の基層にある倫理・宗教・政治思想などを学ぶ。各時代の国際環境の中で影響を持った外来思想の意味も考える。また、日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想について理解を深める。そしてこれらのテーマが近代にもつながっていることを認識する。

【授業の進め方と方法】
毎回授業で配付するプリント教材を参照しつつ、要点を板書する。史料を読み、史料から思想などを読み取ることを知る。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際環境としての思想	日本史の教育における本授業の意味、東アジアの国際的環境、外来思想、日本古来の思想、思想史の史料
2	日本の貴族思想	神祇思想、仏教文化、罪とケガレの意識、中国文化と徳治思想
3	神仏習合思想	神道と仏教、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	儒教の道徳思想	四書・五経、孔子と『論語』、『孝経』の思想、
5	陰陽道と日常生活	陰陽・五行、安倍晴明の活躍、呪術・祈祷、方違え、占い
6	歴史思想	『愚管抄』と慈円、歴史の「道理」、『平家物語』の世界
7	鎌倉幕府の成立	『吾妻鏡』を読む、源氏と武士たち、御恩と奉公、承久の乱とその後
8	幕府の法典『御成敗式目』	北条泰時の「道理」、51 ヵ条の内容、後世への影響
9	蒙古襲来と神国思想	『八幡愚童訓』、宇佐八幡宮と石清水八幡宮、文永・弘安の役、神国思想
10	軍記物と武士 1	『梅松論』を読む、後醍醐天皇と足利尊氏、室町幕府の成立
11	軍記物と武士 2	『永享記』と『鎌倉大草紙』、鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏、永享の乱、享徳の乱
12	戦国武将と宗教 1	禅宗の普及、菩提寺と建立した寺、武田信玄と臨済宗
13	戦国武将と宗教 2	北斗七星信仰、千葉氏と妙見菩薩、上杉謙信と毘沙門天、大友宗麟とキリスト教
14	復習	授業内容についての復習、質問への返答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に授業内容について復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを毎回配付する。

【参考書】
佐藤弘夫編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房）。このほか逐次プリントに提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない学生は採点対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

日本文化史

菅原　正子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日本的な生活文化が形成された室町時代から織豊（安土桃山）時代を中心に考察する。伝統的な公家文化の和歌・雅楽等、庶民文化の猿楽（能）・風流等、そして政治権力を掌握した武家の政治と諸文化について学び、これらのいくつかのテーマを通して歴史的な見方や考え方を獲得する。

【到達目標】
日本の生活文化の形成について知る。室町時代に武家の統一政権による武家文化が生まれ、その後、応仁の乱を経て地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国がつくられ、地域文化の基盤が形成される。さらに織豊統一政権による文化が形成される。これらについて知見を深める。

【授業の進め方と方法】
配付したプリント教材を参照しつつ、要点を板書する。諸史料から文化史を学んでいく。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	伝統的な公家文化	日本史の教育における本授業の意味、時代区分、和歌、公家装束、雅楽、蹴鞠
2	武家文化の形成	武芸と武家故実、北山文化、東山文化、寝殿造から書院造の邸宅へ
3	庶民文化	猿楽（能）、風流と祇園祭、小袖の下剋上、お伽草子
4	応仁の乱	東軍と西軍、日野富子、足軽の活躍、公家の地方下向、京都文化の地方伝播
5	東国の戦国時代の開始	享徳の乱、太田道灌と江戸城、北条早雲の登場
6	後北条氏の領国支配	小田原城の奪取、早雲寺殿 21 箇条、『小田原城所領役帳』と税制
7	西国の戦国と文化	西国の歴史、大内氏と尼子氏、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
8	毛利氏の領国支配と文化	毛利元就、厳島の戦い、石見銀山の開発、尼子氏の滅亡
9	戦国大名武田氏と文化	甲斐国の特徴、武田晴信（信玄）、法典と家訓、甲州金、治水と信玄堤
10	戦国大名上杉謙信の思想	長尾氏から上杉氏へ、毘沙門天と旗、川中島の合戦、謙信と宗教
11	織田氏の領国支配	織田信秀、若き織田信長、信長の尾張統一、楽市楽座
12	織田信長の天下布武	室町幕府の滅亡、比叡山の焼き討ち、安土城と文化
13	織田信長と南蛮文化	木綿と鉄砲、イエズス会士との交流、南蛮寺、信長の夢、本能寺の変
14	復習	授業内容の復習、質問への返答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを毎回配付する。

【参考書】
日本史研究会編『講座日本文化史』第 3 巻・第 4 巻（三一書房）、永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない場合は採点対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
1 コマの内容が多すぎるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

日本文化論

浜崎　洋介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本文化」の中でも、最も私たちの時代に近い「戦後文化史」を学ぶ。なかでも、メインカルチャーを担い続けてきた「戦後文学」を通史として見ることによって、私たちが、今現在生きている「文化」の在り方、そしてその問題の様相が見えてくるだろう。果たして、私たちは、私たちの〈文化＝生き方〉をどのように振り返ればいいのか。グローバル化による混乱、葛藤、不安の激しい現在だからこそ、自分達の最も近い足元を見定めておく必要があると考える。

【到達目標】
中学、高校で最も教えられない「戦後」。しかし、それこそが私たちの足元を成している時代空間であり、時代の条件であるとしたら、「戦後」を問うことなしに私たちの「文化」を問うこともあり得ないだろう。本講義は、主に「戦後文学」を主題としながら、「戦後史」の推移を確認し、その時々で問題となったトピックを取り上げながら、それらを貫く「日本文化」のあり様を描き出したいと考えている。必要なのは、歴史的偏見を括弧に入れて、なお今、現在を問おうとする勇気と胆力である。

【授業の進め方と方法】
「テキスト」は用いず、講義の回毎にプリントを配布し、「戦後」が生成してくる論理＝必然を、主に「板書」用いてして整理する。そのため、ある程度ノートを書くこことを心づもりしておいてもらいたい。が、何より大事なのは、かつてあった歴史＝文学史が他人事ではないと思える感性だろう。まずは「ヒストリー」を、一つの問題をめぐる「ストーリー」として感受できる姿勢を養ってもらいたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「近代」から「現代」へ
第 2 回	戦後日本における「アメリカの影」	ポツダム体制と、サンフランシスコ体制
第 3 回	「理想の時代」のプロブレマティーク	戦後文学論争と野間宏『暗い絵』
第 4 回	「無頼派」という起点	太宰治と坂口安吾の差異
第 5 回	「戦争体験」の文学	梅崎春生―大岡昇平―武田泰淳を繋ぐもの
第 6 回	戦後日本と復興	「第三の新人」と「自然」の崩壊
第 7 回	「夢の時代」のプロブレマティーク	倉橋由美子と安倍公房の時代
第 8 回	戦後批評の展開	吉本隆明と江藤淳―二人の先行者
第 9 回	三島由紀夫と「文化」	「戦後的日常」の否定
第 10 回	大江健三郎と「祈り」	「監禁」と「暴力」、そして「鎮魂」へ
第 11 回	「虚構の時代」のプロブレマティーク	古井由吉と開高健、そして富岡多恵子へ
第 12 回	「アメリカの影」再論	村上龍と村上春樹、そして田中康夫へ
第 13 回	中上健次と「路地」	近代日本文学が終わった日
第 14 回	柄谷行人と「批評」の運命	ポストモダン以後の「日本」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱った作家や作品の中から一つを選び、それを読むこと（短編でも良い）。また、なぜ、その作家がその時代に登場し、その作品がその時代に書かれなければならなかったのか、あるいは、なぜその作家や作品が受容され得たのかを考えること。馴染みのない戦後史を扱うので（しかも文学を主軸にして）、分からない箇所については復習しつつ必ず質問すること。

【テキスト（教科書）】
「テキスト」は使わず、適時プリントを配布する。

【参考書】
磯田光一『戦後史の空間』（新潮文庫・絶版）、桶谷秀昭『昭和精神史 戦後篇』(文春文庫)、小熊英二『〈民主〉と〈愛国〉―戦後日本のナショナリズムと公共性』（新曜社）、川村湊『戦後文学を問う―その体験と理念』（岩波新書・絶版）、久野収、鶴見俊輔『現代日本の思想―その五つの渦』（岩波新書）、鶴見俊輔『戦後日本の大衆文化史― 1945 - 1980 年』(岩波現代文庫)、テツオ・ナジタ、前田愛、神島二郎編『戦後日本の精神史：その再検討』（岩波モダンクラシック）など

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）
期末レポート（60 %）
全講義終了後に提出してもらう期末レポート（1500 字以上）を元に評価。課題については授業内で発表。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

地球環境論 A

山﨑　友紀

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。

【到達目標】
諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
地球を取り巻く大気環境、地球の構造、環境の変遷に伴う生物・人類進化・国際社会の現状に至るまでを学習する。地球の成り立ち、生物から見た環境要素との関係（エコロジー）、地球環境の歴史的変化と生物との関係などについて触れる。授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	ＶＴＲと演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は授業支援システムで配布する。

【テキスト（教科書）】
1『地球環境学入門　第２版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】
1『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2『エネルギー・環境・生命－ケミカルサイエンスと人間社会－』鈴木啓三（化学同人）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、授業への取組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】
授業支援システムで課題をダウンロードできる環境を整えてください。

地球環境論 B

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
公害の歴史や化学史を参照しながら、地球規模での人間と環境との関わりについて学習する。また環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1)『地球環境学入門　第２版』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】
1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『生態系と地球環境のしくみ』大石 正道（日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】
授業内でレポートや小試験 (40%) を行い、期末筆記試験 (60%) を行う。合計の 60 %以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見等からの気づき】
試験前に課題解説を行う。

【その他の重要事項】
授業支援システムで課題を配信します。

環境政策論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】
①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【授業の進め方と方法】
　主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。くわえて、環境経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス＆環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	地球温暖化の現状と予測、気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	温室効果ガス排出とエネルギー需給、日本のエネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、直接規制、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、ボーモル・オーツ税、汚染者負担原則、二重の配当
第 11 回	排出取引	仕組み、税との比較、EU の排出取引制度
第 12 回	環境補助金・デポジット制度	助成金、特別償却、長期の効率性、課税と補助金の組み合わせ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために参考書を読むことが望ましい。下記に示した参考書のどちらか 1 冊を通読すること。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
　栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ 第 3 版』有斐閣
　前田章 (2010)『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞出版社
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
　私語で授業に集中できないという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】
　スマートフォンの使用は控えること。

環境政策論 B

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】
①日本の環境政策の実態について理解する。
②環境政策の形成過程を理解する。
③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
　主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組み	環境基本法、環境基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、濃度規制と総量規制、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法、交通需要マネジメント
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域、水循環
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法、スーパーファンド法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR、REACH
第 8 回	自然環境保全 ①生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全 ②自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程、政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	環境税の政策過程、政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント、環境報告書
第 14 回	企業と環境問題②	環境会計、環境金融

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために『環境白書』を読んでおくこと。環境省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】
　環境省『環境白書 各年版』
　北村喜宣 (2015)『環境法』有斐閣
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
　私語で授業に集中できないという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】
　スマートフォンの使用は控えること。

スポーツ経済論（2016年度以降入学生）
人間とスポーツ（2015年度以前入学生）

杉本　龍勇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】
スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネス」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
具体的な事例を参考に取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について説明をする。そしてスポーツの現状について多面的に考えていきたい。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツと経済の関わり	スポーツと経済の関連について説明する
第 2 回	現代社会とスポーツ	スポーツの社会的役割について
第 3 回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第 4 回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第 5 回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第 6 回	スポーツの経済的発展	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第 7 回	スポーツの経済効果	スポーツによる経済効果の概要とマクロ経済との関わりについて
第 8 回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第 9 回	スポーツ産業の構造 1	スポーツ産業全般の仕組みについて
第 10 回	スポーツ産業の構造 2	スポーツ産業の各分野について
第 11 回	スポーツの需要 1	スポーツの需要（消費者行動）の特徴について
第 12 回	スポーツの需要 2	スポーツの需要（消費者行動）の特徴について
第 13 回	スポーツのマーケティング 1	ビジネスとしてのスポーツの経営方法について
第 14 回	スポーツのマーケティング 2	スポーツビジネスにおけるブランディングについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「スポーツの経済学」　池田勝・守能信次編　杏林書院
「スポーツ産業論入門」　原田宗彦編著　杏林書院
「スポーツマネジメント　スポーツビジネスの理論と実際」
　ボニー L・パークハウス編著　日本スポーツ産業学会監訳
　大修館書店
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
　スポーツマネジメント研究会　編訳
「生涯スポーツの社会経済学」　池田勝編著　杏林書院

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%
試験（論述）：50%

【学生の意見等からの気づき】
スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使って講義を行う。

【その他の重要事項】
授業支援システムを用いて資料を配付するので、講義前にプリントアウトし持参すること。また資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。

国際貿易論 A

近藤　恵介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
なぜ貿易が生じるのか、貿易を行うことの利益は何か、どのような貿易パターンが国家間で生じるのかについて、国際貿易論における理論・実証をバランスよく学ぶ。また、貿易の利益の分配上の対立についても学ぶ。

【到達目標】
伝統的な比較優位の概念を正しく理解できる。貿易理論をもとに貿易利益を説明できる。貿易利益を分配する上での対立を理解できる。伝統的貿易理論から新貿易理論までの歴史的背景を理解できる。貿易データをダウンロードし、貿易の現状を把握できる。

【授業の進め方と方法】
国際経済学で著名な学者によるテキストにほぼ沿いながら、スライドを用いて講義する。テキストの内容をより掘り下げながら解説するとともに、テキストで扱われていないテーマも一部補完しながら講義する。貿易データベースの使い方を説明し、各自で貿易の現状を把握する。授業内容の理解を深めるため、複数回課題を出すとともに、授業内でできる限り、質疑応答を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際貿易論の概要
2)	貿易の歴史と現状	貿易データによる現状把握
3)	比較優位と技術①	リカードモデルの基礎
4)	比較優位と技術②	リカードモデルの応用
5)	比較優位と要素比率①	ヘクシャー・オリーンモデルの基礎
6)	比較優位と要素比率②	ヘクシャー・オリーンモデルの応用
7)	貿易利益の計測	貿易利益の事例
8)	貿易利益と分配	分配上の対立
9)	貿易利益と補償	敗者への補償
10)	規模の経済と貿易	外部経済による規模の経済
11)	独占的競争と貿易	企業レベルの規模の経済
12)	新貿易理論と貿易利益	貿易利益の再整理
13)	重力方程式の枠組み	貿易理論の実証モデル
14)	重力方程式による実証	貿易データによる実証分析の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を深く理解するため、事前にテキストの指定する個所を読んでくる。複数回課題を出すので、期日までに提出する。各自でデータをダウンロードして、貿易の現状を把握する。

【テキスト（教科書）】
Elhanan Helpman, *Understanding Global Trade*, Belknap Press, 2011.
（邦訳：ヘルプマン著、本多・井尻・前野・羽田訳、『グローバル貿易の針路をよむ』、文眞堂、2012 年）
原著（英語）か邦訳版のどちらか読みやすいほうを各自で選択してください（どちらを選択しても授業上不利になることはありません）。

【参考書】
Krugman, Obstfeld, and Melitz, *International Economics: Theory and Policy*, 10th edition, Global Edition, Pearson, 2014.
（邦訳：クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著、山形・守岡訳、『クルーグマン国際経済学：理論と政策』、上：貿易編、原書第 10 版、丸善出版、2017 年）
その他、必要に応じて、講義内で提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）
小課題の提出 3 回（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
国際貿易論 B（秋学期開講）を合わせて受講することを勧める。

国際貿易論 B

近藤　恵介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新新貿易理論として知られる企業の異質性に着目した理論・実証研究を中心に、海外直接投資、アウトソーシング、サービス貿易等の近年の話題まで幅広く学ぶ。

【到達目標】
新新貿易理論における企業の異質性と輸出の関係を理解できる。伝統的貿易理論から企業の異質性に着目した新新貿易理論までの歴史的背景を理解できる。企業における貿易・海外直接投資・アウトソーシングの間の選択を理論に基づいて理解できる。サービス貿易の概念を理解できる。

【授業の進め方と方法】
国際経済学で著名な学者によるテキストにほぼ沿いながら、スライドを用いて講義する。テキストの内容をより掘り下げながら解説するとともに、テキストで扱われていないテーマも一部補完しながら講義する。授業内容の理解を深めるため、複数回課題を出すとともに、授業内でできる限り、質疑応答を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近年の貿易・海外直接投資の特徴
2)	新新貿易理論の概要	企業の異質性と輸出
3)	新新貿易理論の応用	貿易利益の再整理
4)	輸出対非輸出企業	企業データに基づく実証分析の紹介
5)	貿易と失業	貿易自由化と労働市場の摩擦的失業
6)	貿易と不平等	貿易自由化と賃金不平等
7)	オフショアリング	オフショアリングの概説
8)	直接投資の伝統的理論	ダニングの折衷理論
9)	海外直接投資の類型	水平的・垂直的・複合型直接投資
10)	海外直接投資の理論	海外直接投資の理論的説明
11)	海外直接投資の実証	海外直接投資に関する実証分析紹介
12)	内部化の意思決定	海外直接投資か海外生産委託か
13)	企業組織と貿易	企業データに基づく実証分析の紹介
14)	サービス貿易	サービス貿易の類型と現状把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を深く理解するため、事前にテキストの指定する個所を読んでくる。複数回課題を出すので、期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】
Elhanan Helpman, *Understanding Global Trade, Belknap Press*, 2011.
（邦訳：ヘルプマン著、本多・井尻・前野・羽田訳、『グローバル貿易の針路をよむ』、文眞堂、2012 年）
原著（英語）か邦訳版のどちらか読みやすいほうを各自で選択してください（どちらを選択しても授業上不利になることはありません）。

【参考書】
[1] 清田耕造、『拡大する直接投資と日本企業』、NTT 出版、2015 年
[2] 経済産業省、『通商白書』、経済産業省、各年
[3] 田中鮎夢、『新々貿易理論とは何か：企業の異質性と 21 世紀の国際経済』、ミネルヴァ書房、2015 年
[4] 冨浦英一、『アウトソーシングの国際経済学』、日本評論社、2014 年
その他、必要に応じて、講義内で提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）
小課題の提出 3 回（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
国際貿易論 A（春学期開講）を合わせて受講することを勧める。

企業経済論 A

砂田　充

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に，ミクロ経済学分析の基礎概念，独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また，企業行動と政府規制の関係についても学習し，資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】
企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また，企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果，独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分
3	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	価格差別①	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別②	価格差別の手段と効果
10	価格差別③	市場分割
11	価格差別④	バンドル
12	自然独占と政府規制①	二部料金
13	自然独占と政府規制②	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣，2008 年）.
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社，2013 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017）.
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合があります。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

企業経済論 B

砂田　充

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に，ゲーム理論の基礎，寡占市場，市場構造指標と市場支配力，カルテル，合併及び垂直的取引関係について学習し，わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し，政府規制の役割についても学ぶ。

【到達目標】
企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また，企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し，企業と政府規制の関係について理解を深める。

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	寡占市場③	シュタッケルベルグ競争
6	寡占市場④	製品差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣，2008 年）.
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社，2013 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017）.
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合があります。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

Principles of Economics A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter13、Chapter14、Chapter19、Chapter20、Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Economic Growth	The History of Growth and Technology

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストやスライドを勉強して復習を行う。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

Principles of Economics B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason の Chapter23、Chapter24、Chapter25、Chapter26 を取り上げます。講義を英語で行われる。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment; Equilibrium in the Labor Market
2	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?; Job Search and Frictional Unemployment
3	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
4	Credit Markets	What Is the Credit Market?
5	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation: Putting Supply and Demand Together
6	Credit Markets	What Banks Do
7	Credit Markets	What Banks Do
8	The Monetary System	Money, Prices and GDP
9	The Monetary System	Money, Prices and GDP
10	The Monetary System	Inflation
11	The Monetary System	The Federal Reserve
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Macroeconomic Equilibrium and Economic Fluctuations
14	Short-Run Fluctuations	Modeling Expansions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストやスライドを勉強して復習を行う。

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

International Economics A

倪　彬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第２版、有斐閣、2013 年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012 年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】
(1)participation 20%
(2)homework 20%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the first time for me to teach this course.

International Economics B

倪　彬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world.

【到達目標】
Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:
* To understand the balance of payment;
* To understand how a foreign exchange market operates
* To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
* To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possiblity
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【参考書】
高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
(1)participation 20%
(2)homework 20%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the first time for me to teach this class.

Area Studies A

マーサ　チャイクリン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Japan's relations with the West have never been equal, but the West has not always been in a superior position. How have these changes affected Japan from within and without? This course covers from the 16th to the 19th century.

【到達目標】
1) Identify the historical landmarks the comprise Japanese relations with the west
2) Analyze how these historical landmarks have affected Japanese history
3) Identify how Japan has affected the West
4) Identify how the West affected Japan
5) Identify and understand the vocabulary of this discussion

【授業の進め方と方法】
Lecture presentation, quizzes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations
2	Arrival of Westerners	Japan's "discovery" by the West. What was the contest
3	Christian persecution	Why were Christians persecuted and how did this impact relationships with the West
4	Sakoku I	The politics behind sakoku
5.	Sakoku II	Communication in isolation
6	Bakumatsu	The politics of decline, the negotiation of imperialism
7	Treaty Ports	What is a treaty port, what did they mean in world history, what did they mean in Japan
8	Field Trip	Yokohama kaikan
9	Orientalism	Learn the history of this term and its meaning within Japanese history
10	Japonisme	The Western love affair with Japanese art
11	Japonisme II	World's Fairs
12	Japan's Response to the West	Modernization
13	Japan's Response to the West II	Imperialism
14	Presentations	Oral presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Assigned readings, presentations,

【テキスト（教科書）】
To be provided digitally

【参考書】
To be provided later

【成績評価の方法と基準】
Quizzes 30%
Presentation 30%
In-class assignments 40%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

Area Studies B

マーサ　チャイクリン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will examine one aspect of Japan's relations with the outside world, relations with the West. Japan's relations with the West have never been equal, but the West has not always been in a superior position. How have these changes affected Japan from within and without from the Meiji period through WWII?

【到達目標】
1) Identify the historical landmarks the comprise Japanese relations with the west
2) Analyze how these historical landmarks have affected Japanese history
3) Identify how Japan has affected the West
4) Identify how the West affected Japan
5) Identify and understand the vocabulary of this discussion

【授業の進め方と方法】
Lecture, in class discussion, reading, quizzes, presentation

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outline course content and expectations
2	Meiji as a reaction	How the Meiji period was shaped by Western Imperialsm
3	What is Imperialism	An examination of the history of this "ism" to clarify its use in this course
4	Growing Imperialism in Japan and the Sino-Japanese War	Examining the transition from isolation to imperialism
5	The Russo-Japanese War and WWI	How these military actions affected foreign relations
6	Emigration I	Japanese emigration to Hawaii
7	Emigration II	The US West Coast and legalized racism
8	The Interwar years	The depression and foreign relations
9	WWII	Why we fight
10	Propaganda I	What is propaganda and how does it impact us?
11	Propaganda II	WII propaganda and its lasting effects
12	Occupation	Japan under occupation
13	Retrospectives	A modern view of historical change
14	Presentations	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading, presentations

【テキスト（教科書）】
To be supplied digitally

【参考書】
To be supplied later

【成績評価の方法と基準】
Quizzes 30%
Presentations 30%
In-class activities and assignments 60&

【学生の意見等からの気づき】
n/a

地域経済論 A

川邊　安彦

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済においてリージョン毎に大きな歴史的な関係や影響が存在する。地域経済論Ａでは、ラテン国の代表のメキシコ・スペインを自動車産業を軸に地域比較を行い、１９８０年代から２０１７年を比較し地域経済の根底にあるものを理解する。また、将来への変化点になるポイントを掴む能力を開発する。
地域経済論Ａでは、最近伸びているメキシコを中心に学ぶ。
地域経済論Ｂでは、スペインを中心に欧州における自動車部品産業を理解する。

【到達目標】
自動車産業において部品の国産化や輸入は、個々のリージョン・国々にとって非常に重要な課題と産業の進展に繋がる。経済にとって過去の事実と現状の比較を行うことは、未来を創り込む材料となる。そこで講義の中では、ＦＴＡで重要な意味を持つＨＳコードからのデータを読み取り、過去の事実からの経済進展を論理的に整理することを行う。

【授業の進め方と方法】
授業形態は、前半講義が中心で後半はデータ作成からデータ分析を行う。
1．前半は、メキシコの自動車産業の発展の経緯を説明する。
2．後半は、メキシコの自動車部品の輸出輸入のデータ（ＨＳコード）から
特徴点を見つけ出し、今後の方向性を推定する。推定した根拠を基に授業内での発表を行い意見交換を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1) ガイダンス	地域経済論Ａ、メキシコ・地域経済論Ｂ、スペインとは？	講義全体のイメージを掴む。Ａのメキシコとスペインを学ぶことでグローバルな視点を理解する
(2) ものづくりの変革	自動車産業を中心に海外の自動車部品産業を学ぶ	自動車産業の発展を日産自動車のメキシコの実績ベースに説明
(3) メキシコとは？	メキシコが経済的に北米で伸びた理由を学ぶ	アメリカの支配下のような時代から学んだメキシコ経済の産業強化策の説明
(4) メキシコ人とは？	メキシコ人から学ぶ中南米文化の強み	中南米の雄としてのメキシコが存在する中南米の国々の存在
(5) メキシコの自動車産業	北部と首都中心及びバヒオ高原での自動車産業の発展	北部から始まった米系の自動車産業と首都中心から始まった欧州系の自動車産業及びバヒオ高原で発展した日系自動車産業
(6) 米系自動車産業	１９８０年代からの発展	米系自動車メーカーが求めたもの
(7) 欧州系自動車産業	１９９０年代の発展	欧州系自動車メーカーが求めたもの
(8) 日本系自動車産業	２０００年代の発展	日本が求めたメキシコとは？ バヒオ高原（ゴールデン・トライアングルの特徴）
(9) メキシコと日本	メキシコと日本の関係	メキシコ人から見た日本とは？ 何故、ここまで日本がメキシコに尽くしたのか？
(10) 現在のメキシコ	対アメリカとの関係	アメリカの社会におけるメキシコ人
(11) ＨＳコードとは？	ＨＳコードの説明、メキシコの輸出、輸入のＨＳデータ	グローバルに商品群毎にＨＳコードが設定、これによる経済性の読み解く方法
(12) 自動車部品のＨＳコード	メキシコの輸出、輸入のＨＳデータを基に学生の自論説明、事前検討資料を講義修了後提出	学生の自論を考察・分析し講義内で共有、データ分析・考察が優れている内容について加点評価。
(13) ＨＳコードの発展性	自動車部品原価低減や企業収益性アップ	実例を基に具体的な説明（税率、発注方法等）
(14) メキシコに関する全体像	従来のメキシコとは異なる理解から自分なりに考えた内容を質疑応答による質問会・簡単なレポート（自分の考えをまとめ提出）	オープンな形での質疑から講義全体でのメキシコへの理解度を高める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１～１０回までは、対話式のメキシコの理解度向上の講義、第１１回目は、ＨＳコードを用いた経済的な効果分析法の説明、第１２～１３回目は、ＨＳコードを読み取る方法から分析まで。第１４回目は、メキシコの理解度の深堀。

【テキスト（教科書）】
特に、教科書はありません。
理由：日本においてメキシコの自動車産業の部品を他国との分析した書籍は発行されていません。

【参考書】
興味のある学生は、HS 商品インデックス 日本関税協会

【成績評価の方法と基準】
第２回～第１１回までの講義内容をレポートとして箇条書きにまとめる。
配分６０%、各回６%と考える。
第１２回の講義時に回収するレポートは、２０%とする。
第１３回～第１４回までの講義内容をレポートとして箇条書きにまとめる。
第１３回は、１０% 当日提出。
第１４回は、残り１０%の配分（全体の理解度の確認）当日提出、合計１００%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

地域経済論 B

川邊　安彦

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済においてリージョン毎に大きな歴史的な関係や影響が存在する。地域経済論Ｂでは、スペインを中心に欧州における自動車部品産業を理解する。地域経済論Ａのメキシコに対して約１０年前に自動車産業が伸びたスペインを学ぶことによりメキシコとの差から自動車業界の変遷を読み取ることができる。
また、現在のカタローニャ州の基本的な考え方とスペインという国との関係の理解。

【到達目標】
日本から視た自動車産業は、太平洋やインド洋、アセアン、中国が存在する。今回のスペインから視たメキシコは、大西洋から視た自動車産業が主なポイントになり、大西洋を中心に考えた書籍は、たぶん存在しない。
視点を変えることで物事の見え方が変化することを理解する。

【授業の進め方と方法】
授業形態は、全体的に講義が主なものだが講義内での質疑から問題を全体共有する形式の講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1) ガイダンス	スペインの国の現状及び他民族国家の説明、自動車産業が根付きにくい地域の理解	各州毎の特性を確認しながら、理解度を深める
(2) スペイン人とは、	スペインという国は、存在するがスペイン人は存在しないという理解	各州の生い立ち、及び協調性の難しさの理解（貧困、気候など）
(3) カタローニャとは、	カタローニャ州は、スペインなのだろうか？	過去に遡り、フランスのニームからタラコまでの地域の理解とイタリアの関係
(4) 欧州通貨統合	ペセタというスペイン通貨の特性から視たスペイン経済の弱さ	ユーロ通貨統合による過去の経験と反省
(5) スペイン人というラテン人とは？	スペイン人の特性について	世界で一番のスペイン人とは？ 現在の価値観との差を視る
(6) スペイン国家とは？	スペインで投資した場合の優遇措置から視たスペイン国家	投資によるグランツ（投資の還付）の考え方
(7) ユーロの中のスペインとは？	ユーロの国々の中でのスペインの位置付け	産業から視た欧州域内のスペイン
(8) 自動車部品から視たスペイン１	欧州域内の部品輸出入の現在と過去１０年	ＨＳコード表の自動車関連部品の評価
(9) 自動車部品から視たスペイン２	前回の課題からの考察	資料提出
(10) 自動車部品での強み・弱み	本当にスペインは、自動車産業に適した国なのか？	データからの評価
(11) 完成車メーカの変遷	１９８０年～２０１７年までの実績	総合的な評価
(12) メキシコとスペインの差	自動車から視た２国の差	データと実績の比較からの確認
(13) ラテン２大国家の差	今後の展望	産業実績から視た分析
(14) 大西洋に存在するラテン国	今後の推定	ブラジル、アルゼンチンを考慮した場合の状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１～１１回までのメキシコの過去から現在までの状況確認。
第１２～１３回までは、メキシコ・スペインの比較
第１４回は、大西洋のラテン国の自動車産業状況
以上の復習からの理解度を高める

【テキスト（教科書）】
特に、教科書はありません。
理由、日本においてスペインやメキシコの自動車産業に関する書籍は発行されていません。

【参考書】
理由、日本においてスペインの自動車産業に関する書籍は発行されていません。
スペイン語は、存在します。ＳＥＡＴ関連の書籍。

【成績評価の方法と基準】
第２回～第８回までの講義内容をレポートとして箇条書きにまとめ次回講義時に提出。
配分５０%
第９回は、第８回までの講義の内容を講義時間内にまとめて提出する。配分１０%
第１０回～第１４回までの講義内容をレポートとして箇条書きにまとめて当日提出。
配分は、４０%、合計１００%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

簿記Ⅱ A

岸　牧人

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とします。
(1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
(2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
(3) 上記の (1)，(2) を前提とした決算書の作成について学習します。
(4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	商品売買取引	分記法，売上原価対立法，三分法による会計処理と決算整理，値引・返品・割戻・割引の会計処理
第２回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第３回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法，銀行勘定調整表の作成方法
第４回	債権・債務取引	手形の不渡りと更改，クレジット売掛金，電子記録債権債務，債務の保証
第５回	有価証券取引（１）	有価証券の種類と購入時における会計処理
第６回	有価証券取引（２）	有価証券の売却時の会計処理，期末評価
第７回	中間試験	第１回～第６回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第８回	有形固定資産取引（１）	有形固定資産の取得，減価償却，売却に関する会計処理
第９回	有形固定資産取引（２）	有形固定資産の割賦購入，建設仮勘定，改良と修繕，除却と廃棄，買い換えに関する会計処理
第１０回	リース取引	ファイナンス・リース取引，オペレーティング・リース取引の会計処理
第１１回	無形固定資産取引	特許権，商標権，研究開発費の会計処理
第１２回	引当金	貸倒引当金，修繕引当金，退職給付引当金，商品保証引当金，賞与引当金，役員賞与引当金，売上割戻引当金，返品調整引当金の会計処理
第１３回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算，外貨建取引および為替予約の会計処理
第１４回	企業会計における税金	企業会計に関する税金の種類，法人税の申告と納税，消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
基本的には中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度新設科目につき，該当事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁），プリントを綴じるファイル

簿記Ⅱ B

岸　牧人

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とします。
(1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
(2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
(3) 上記の (1)，(2) を前提とした決算書の作成について学習します。
(4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	株式の発行	株式会社における純資産の構成，株式の発行時における会計処理
第２回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続､利益準備金の積立，株主資本等変動計算書の作成
第３回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上，サービス業における役務収益と役務原価の計上
第４回	製造業の決算処理	製造原価報告書の作成，製造原価と売上原価の関連性および会計処理
第５回	税効果会計（１）	課税所得の算定方法，一時差異と永久差異，税効果会計の基礎
第６回	税効果会計（２）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上，法人税等調整額の計上方法
第７回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併，パーチェス法による合併の会計処理，事業譲渡の会計処理
第８回	中間テスト	第１回～第７回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第９回	本支店会計（１）	本支店会計の意義，本支店間取引，支店間取引に関する会計処理
第１０回	本支店会計（２）	本支店会計における決算手続，本支店合併財務諸表の作成方法
第１１回	連結会計（１）	連結財務諸表の意義と特徴，連結会計における連結修正仕訳の意義，支配獲得日の連結（資本連結）
第１２回	連結会計（２）	資本と投資の相殺消去，支配獲得後の連結修正仕訳，開始仕訳と期中仕訳の意義，連結精算表の作成方法
第１３回	連結会計（３）	成果連結と連結修正仕訳，内部取引と債権債務の相殺消去，未実現利益の消去（ダウンストリーム，アップストリーム）
第１４回	連結会計（４）	連結精算表と連結財務諸表の作成に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
基本的には中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度新設科目につき，該当事項はありません。

【その他の重要事項】
この講義は簿記Ⅱ A で学習した内容を前提として展開します。

財務諸表論 A（2016年度以降入学生）
会計学応用Ⅰ（財務会計）A（2015年度以前入学生）

竹口　圭輔

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。
具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】
財務諸表論 A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性と制度開示
5	連結グループの会計 (1)	連結財務諸表と企業行動
6	連結グループの会計 (2)	セグメント情報の開示
7	金融商品の会計 (1)	有価証券、リース取引の会計
8	金融商品の会計 (2) / 従業員給付の会計 (1)	デリバティブ、ヘッジ会計、ストック・オプション会計
9	従業員給付の会計 (2)	退職給付会計
10	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
11	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
12	包括利益の表示	包括利益と業績報告
13	会計基準の国際化	IFRS との比較
14	期末テスト	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 2 版> 』日本経済新聞社、2016 年

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価基準点の内訳＞
・毎講義時の小テスト（50 %）
　※半数以上未受験の場合は無条件に不可とします。
・定期試験（50 %）
＜成績評価基準＞
　A+　90 点以上
　A　　80 点以上
　B　　70 点以上
　C　　60 点以上

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、自己登録（科目コード： K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】
簿記や財務諸表に対する基礎的理解があることを前提に講義を進めていくため、「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

財務諸表論 B（2016年度以降入学生）
会計学応用Ⅰ（財務会計）B（2015年度以前入学生）

竹口　圭輔

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。
この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】
財務諸表論 B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2014 年

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価基準点の内訳＞
・毎講義時の小テスト（50 %）
　※半数以上未受験の場合は無条件に不可とします。
・期末レポート（50 %）
＜成績評価基準＞
　A+　90 点以上
　A　　80 点以上
　B　　70 点以上
　C　　60 点以上

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、自己登録（科目コード： K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】
簿記や財務諸表に対する基礎的理解があることを前提に講義を進めていくため、基本的な内容については授業内でフォローしません。そのため「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

管理会計 A（2016年度以降入学生）
会計学応用Ⅱ（管理会計）A（2015年度以前入学生）

福島　一矩

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では「組織のための管理会計」としてマネジメント・コントロールを中心に学びます。マネジメント・コントロールは，PDCA サイクルを回すことで戦略実施を図るプロセスです。PDCA サイクルには，長期経営計画，利益計画，予算管理という階層性があります。そこで，この PDCA サイクルの階層性に沿って，それぞれの内容と利用される手法について理解することを目標とします。

【到達目標】
本授業では管理会計に関する基本的な知識を習得し，企業経営において管理会計が果たす役割を理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，必要に応じて問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	管理会計の基礎	管理会計の役割と意義
第 2 回	経営管理プロセス	PDCA サイクル
第 3 回	マネジメント・コントロール	マネジメント・コントロールの概要
第 4 回	長期経営計画（1）	計画の役割と意義
第 5 回	長期経営計画（2）	計画の編成
第 6 回	投資の経済性評価（1）	設備投資の種類
第 7 回	投資の経済性評価（2）	貨幣の時間価値，資本コストの概念
第 8 回	投資の経済性評価（3）	設備投資の経済性評価手法
第 9 回	利益計画と意思決定（1）	コストビヘイビアの概念
第 10 回	利益計画と意思決定（2）	CVP 分析の考え方
第 11 回	利益計画と意思決定（3）	セールズミックスの意思決定
第 12 回	予算管理（1）	予算の役割
第 13 回	予算管理（2）	予算管理の方法
第 14 回	分権型組織の業績管理	事業部の業績管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後にはテキストの該当箇所や講義時間内で紹介する参考書等を読み，しっかりと復習をしておいてください。

【テキスト（教科書）】
加登豊・梶原武久『管理会計入門〔第 2 版〕』日本経済新聞社

【参考書】
1．小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一『スタンダード管理会計〔第 2 版〕』東洋経済新報社
2．谷武幸『エッセンシャル管理会計〔第 3 版〕』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

管理会計 B（2016年度以降入学生）
会計学応用Ⅱ（管理会計）B（2015年度以前入学生）

福島　一矩

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では「ものづくりのための管理会計」であるコストマネジメントについて学びます。コストマネジメントにはさまざまな手法があるが，いずれの手法も万能ではなく，状況に合わせて適切な手法を選択することが求められます。そこで，各手法がどのような背景のもとで誕生し，どのような状況で利用できるのか，どのような貢献と限界があるのかを理解することを目標とします。

【到達目標】
本授業では管理会計に関する基本的な知識を習得し，企業経営において管理会計が果たす役割を理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で説明を行ったうえで，必要に応じて問題演習を行うことで知識の定着を図っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	製造プロセスの管理	生産管理の基礎
第 2 回	原価計算の基礎（1）	原価の概念，原価計算の手続き，原価計算の種類
第 3 回	原価計算の基礎（2）	実際原価計算
第 4 回	標準原価管理（1）	標準原価計算の基礎
第 5 回	標準原価管理（2）	差異分析を用いた原価管理
第 6 回	原価改善	JIT 生産，TOC
第 7 回	原価企画	新製品開発，目標原価
第 8 回	品質コストマネジメント	予防コスト，評価コスト，失敗コスト
第 9 回	ABC/ABM（1）	活動基準原価計算（ABC）の基礎
第 10 回	ABC/ABM（2）	ABC のマネジメントへの応用
第 11 回	ライフサイクルコストマネジメント	ライフサイクルコスト
第 12 回	環境コストマネジメント	マテリアルフロー会計
第 13 回	ミニプロフィットセンター	ミニプロフィットセンター，アメーバ経営
第 14 回	日本企業の管理会計	日本的管理会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後にはテキストの該当箇所や講義時間内で紹介する参考書等を読み，しっかりと復習をしておいてください。

【テキスト（教科書）】
加登豊・梶原武久『管理会計入門〔第 2 版〕』日本経済新聞社

【参考書】
1．小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一『スタンダード管理会計〔第 2 版〕』東洋経済新報社
2．谷武幸『エッセンシャル管理会計〔第 3 版〕』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

Business Communication Ⅱ A (2016年度以降入学生)
ビジネス英語中級 A (2015年度以前入学生)

ジュリア・ヨング

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. Their preparation entails not only improving workplace communication skills. It also means that students should become more "business literate" (knowing the basics of business) and "global minded" (being able to express their opinions in English to anyone on Japanese companies, business leaders, markets, and the general state of the economy).

【到達目標】
To help students to communicate with confidence in English about issues related to business and the economy.

【授業の進め方と方法】
By reading and discussing articles mainly from the Nikkei Newspaper on Japanese business, students will become familiar with basic business concepts and terminology that they can use in any workplace environment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class.
2	Business and Fashion	The fast fashion industry's business model and its impact on purchasing patterns and the environment
3	Business and Fashion: Japanese Strategies in Asia	Century-Old Japan Shirt Brand Reborn in Vietnam, Nikkei May 16, 2016.
4	Business and Fashion: Failed Strategies	Uniqlo chief admits defeat on higher pricing strategy, Nikkei Interview with Tadashi Yanai, April 13, 2016
5	Business and Fashion: Fast Fashion Supply Chains	Ethical Issues for the Global Fast Fashion Industry; Movie: The Devil Wears Prada
6	Business and Fashion: Sustainability and Environmental Issues	The power of buying less by buying better, The Atlantic, Feb 16, 2016; writing assignment
7	The Fast (and slow) Fashion Industry Business Model	Debate and in-class writing assignment corrections
8	Business and Health: Diseases of affluence	Effects of poor health on economic development in Asia
9	Business and Health: Economic Impacts of Diseases of Affluence in Asia	Interpreting and presenting statistical information; Tipping the scales Philippine obesity rate doubles in two decades, Nikkei MJ May 5, 2015
10	Assessment 1	Quiz
11	New Health Industry Businesses	Weight Loss For Pets Becoming Big Business, Nikkei August 24, 2013; Movie: Supersize Me
12	New Health Industry Technologies	Deceiving the mind for a better diet, without sacrifices, Nikkei Asian Review, April 9, 2015; writing assignment
13	Activity: Telephone manners	Learning how to make/receive a polite workplace telephone call
14	Review	Review; Writing assignment corrections

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Taking business courses offered at Hosei; reading and learning about recent Japanese business news
(2) Preparing for the quiz

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the library database.

【参考書】
Nikkei Newspaper (in Japanese or English)
The Economist
The Atlantic
The Japan Times

【成績評価の方法と基準】
(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Quiz and short group presentations(60%): Students must score at least 60% on the quiz in order to pass the course.
The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】
None. Students are welcome to make requests and voice complaints at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【その他の重要事項】
THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.
Students are strongly encouraged to complete Business Communication I before enrolling in this course.

Business Communication Ⅱ B (2016年度以降入学生)
ビジネス英語中級 B (2015年度以前入学生)

ロバート　デレザ

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. Their preparation entails not only improving workplace communication skills. It also means that students should become more "business literate" (knowing the basics of business) and "global minded" (being able to express their opinions to anyone on Japanese companies, business leaders, markets, and the general state of the economy).

【到達目標】
To help students to communicate with confidence in English about issues related to business and the economy.

【授業の進め方と方法】
By reading and discussing articles mainly from the Nikkei Newspaper on Japanese business, students should become familiar with basic business concepts and terminology that they can use in any workplace environment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Marketing Japanese culture	Experiences, not brands, seen drawing Asians to Japan, Nikkei April 26, 2016
2	Business and Culture	The Japanese tourism industry; cultural capital
3	Business and Culture	The 'sento' gets a new look, Nikkei Asian Review, Sept 3, 2015
4	Business and Culture	Foreign tourists and students in Japan: trends since the 1980s
5	Business/academic presentation skills	Thinking critically about statistical information; presenting data
6	Business and Culture	Attracted by culture: Japan's vocational schools welcoming influx of foreign Students, Nikkei, Sept 11, 2015; writing assignment
7	The Sharing Economy and Niche businesses	Uber brings sharing economy to Japan's dining rooms, Nikkei, Sept 29, 2016
8	The Sharing Economy and Niche businesses	Used 'mamachari' popular in London Cheap, no-frills bikes find niche as replacement for theft victims, Japan Times, Nov 15, 2013
9	Assessment 1	Quiz
10	Business and Innovation	Age is not a barrier: Tech Designer, 91, lands her dream job in Silicon Valley, CNN, Feb 27, 2015
11	Business and Innovation	Giving a "sales pitch" for some unusual Japanese inventions
12	Business and Innovation	Discussing innovation and age; Movie: The Intern
13	Business and Innovation	Entrepreneurs in Japan: How to Rev up Japanese Startups, The Economist, Nov 5, 2016
14	Business letter and email writing	Writing assignment; Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Taking business courses offered at Hosei; reading about recent Japanese business news
(2) Preparing for the quiz

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the library database.

【参考書】
Nikkei Newspaper (in Japanese or English)
The Economist
The Atlantic
The Japan Times

【成績評価の方法と基準】
(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Quiz (60%): Students must score at least 60% on the quiz in order to pass the course.
The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】
None. Students are welcome to make requests or voice complaints at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

【その他の重要事項】
THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.
Students are strongly encouraged to complete Business Communication I before enrolling in this course.

Business Communication Ⅱ A (2016年度以降入学生)
ビジネス英語中級 A (2015年度以前入学生)

グレン・ファーン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Case Study #1	Coco Channel
3	Group work	Develop a presentation and student consultations
4	Student presentations	Communication practice
5	Case Study #2	Thomas Edison
6	Group work	Develop a presentation and student consultations
7	Student presentations	Communication practice
8	Case Study #3	Walter E. Disney
9	Group work	Develop a presentation and student consultations
10	Student presentations	Communication practice
11	Case Study #4	Steve Jobs
12	Group work	Develop a presentation and student consultations
13	Student presentations	Communication practice
14	Summary	Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· Keep a vocabulary notebook
· Read assigned materials

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
1.Participation in class discussion and activities . 40%
2.Reports 20%
3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】
Not applicable

Business Communication Ⅱ B (2016年度以降入学生)
ビジネス英語中級 B (2015年度以前入学生)

グレン・ファーン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Case Study #1	Corporate culture and ethics
3	Group work	Develop a presentation and student consultations
4	Student presentations	Communication practice
5	Case Study #2	Crowd funding a project
6	Group work	Develop a presentation and student consultations
7	Student presentations	Communication practice
8	Case Study #3	Big data and AI
9	Group work	Develop a presentation and student consultations
10	Student presentations	Communication practice
11	Case Study #4	Social media in business
12	Group work	Develop a presentation and student consultations
13	Student presentations	Communication practice
14	Summary	Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· Keep a vocabulary notebook
· Read assigned materials

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
1.Participation in class discussion and activities . 40%
2.Reports 20%
3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】
Not applicable

監査論 A

岸　牧人

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
監査の基本的な枠組みと，金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか，またいかなる行為であるかについて理解するとともに，監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は次の4点に集約される。①監査という行為の本質について理解する。②会社法に基づく監査役等による監査の意義について理解する。③金融商品取引法に基づく公認会計士による監査の意義について理解する。④監査基準の意義と体系について理解する。具体的には，①では，一般的，あるいは抽象的なイメージとしての「監査」と，企業単位の経済活動において展開される「監査」との相違点を見出すこと，②では，コーポレート・ガバナンスの一環として位置づけられる監査役等による監査の全体像について理解すること，③では，上場企業等が発行する財務諸表の信頼性を確保するために実施される公認会計士監査の意義と役割について理解すること，④では，監査基準における財務諸表監査の目的と一般基準について理解することである。

【授業の進め方と方法】
講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に，翌講義に向けて予習すべき論点を提示し，予習を前提として講義を進める。また，講義内レポートの提出を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと，経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第2回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し，二つの系列の監査との関係について理解する。
第3回	監査の種類	会計監査と業務監査，外部監査と内部監査，法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第4回	監査の史的展開	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について，特に19世紀以降の監査形態の変化について理解する。
第5回	商法監査の成立	商法における監査役監査の意義と役割について学習する。特に，監査役の権限と機能について学習する。
第6回	会社法監査の成立	商法特例法，委員会等設置会社の導入を経て，現在の会社法監査に至る過程と時代的背景について学習する。
第7回	証券取引法監査の成立	証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立過程について学習する。
第8回	金融商品取引法監査の成立	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で，財務諸表監査の役割について学習する。
第9回	公認会計士法における公認会計士の業務と責任	公認会計士法の概要と，公認会計士の業務について学習する。特に，「1項業務」と「2項業務」の関係について理解する。
第10回	監査法人制度	監査法人制度の意義と概要について，特に社員の権限と責任，指定社員，特定社員，ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第11回	公認会計士監査における職業倫理	日本公認会計士協会による倫理規則の意義と体系について学習する。
第12回	監査基準の設定と改訂	監査基準の設定過程と，累次の改訂過程について，改訂に対する時代的要請とともに学習する。
第13回	監査基準一般基準の内容と意義	監査基準の一般基準における監査人の適格性，独立性，正当な注意の諸概念とその他の一般基準項目について学習する。
第14回	監査の品質と品質管理基準	監査の品質に関する考え方と品質管理基準の意義について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で講義内レポートの提出を求める。また講義の最後に，翌講義までに予習する論点を提示する。論点に関する資料や文献を各自で検索し，自己の見解をまとめる。

【テキスト（教科書）】
長吉眞一，岸牧人ほか著『監査論入門』(第3版)，中央経済社, 2016年, 2,800円（税抜）

【参考書】
石田三郎，林隆敏，岸牧人編著『監査論の基礎』(第3版)，東京経済情報出版，2012年

【成績評価の方法と基準】
講義内レポート（56%），予習状況（28%），平常点（16%）

【学生の意見等からの気づき】
監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

監査論 B

岸　牧人

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに，証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか，また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】
「期末商品（原価1,000）の時価が800であったので評価替えを行う」,「期末売掛金残高に対して2% の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は，簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して，「期末商品の評価額は本当に800なのか？」,「貸倒引当金の設定率は2% でいいのか？」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では，「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって，財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で，その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で，実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか，また果たすべきかについて，論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。講義の最後に，翌講義に向けて予習すべき論点を提示し，提示した論点に関する予習を前提として講義を進める。また，講義内レポートの提出を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の基礎理論を学習するために必要な理論的枠組みを提示する。
第2回	財務諸表監査の基本的プロセス	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点，及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第3回	監査意見形成の基本構造	監査意見の形成過程について，伝統的アプローチ，戦略的アプローチ，リスク・アプローチの変遷過程から学習する。
第4回	内部統制の評価と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し，内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置付けられるかについて理解する。
第5回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本的な考え方	リスク評価手続及び運用評価手続の具体的な内容と意義について学習する。
第6回	監査計画と監査上の重要性	監査計画の基本的な内容と，監査上の重要性概念について学習する。
第7回	実証手続の意義と効用	分析的実証手続と詳細テストに関して，その具体的な内容と意義について，特に監査証拠との関係を理解する。
第8回	監査報告書の意義と構造	標準監査報告書の様式と記載事項，及び財務諸表の適正性の要件と監査人の実質判断について，実例を用いて学習する。
第9回	除外事項の意義と特質	除外事項の種類と発生原因，及び除外事項付意見との関係について，実例を用いて学習する。
第10回	追記情報の意義と種類	強調事項とその他の記載事項の意義について，実例を用いて学習する。
第11回	財務諸表監査における継続企業の前提に関する検討	いわゆる「ゴーイング・コンサーン注記」の意義と財務諸表監査における位置づけについて，実例を用いて学習する。
第12回	内部統制報告制度と内部統制監査	内部統制監査の意義と概要について，特に財務諸表監査との関係について学習する。
第13回	四半期報告制度と四半期レビュー	四半期報告制度の意義，及び四半期レビューの特質について学習する。
第14回	「監査における不正リスク対応基準」の意義	監査と企業不正との関係について，特に職業的懐疑心の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の最後に，翌講義までに予習する論点を提示する。論点に関する資料や文献を各自で検索し，自己の見解をまとめる。

【テキスト（教科書）】
長吉眞一，岸牧人ほか著『監査論入門』(第3版)，中央経済社, 2016年, 2,800円（税抜）

【参考書】
石田三郎，林隆敏，岸牧人『監査論の基礎』(第3版)，東京経済情報出版，2012年

【成績評価の方法と基準】
講義内レポート（56%），予習状況（28%），平常点（16%）

【学生の意見等からの気づき】
監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

リスク・マネジメントA

湯前　祥二

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，リスク管理の考え方と手法を身につけ，実際に活用できることを目標とします．

【到達目標】
リスク測度について理解し，値を計算で求めることができる．

【授業の進め方と方法】
家計でもビジネスでも，リスクを全く取らなければリターンも低いままです．一方，過剰なリスクは破綻につながります．リスク管理は，負担可能なリスクの限度を見極めて，要求される利回りを実現することに役立ちます．
現代ファイナンス入門の講義で，現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に，講義します．
春学期は，現在価値，リスクを中心に扱います．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第 3 回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第 4 回	採択ルール	正味現在価値
第 5 回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第 6 回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第 7 回	三角裁定	為替とクロスレート
第 8 回	リスク	リスク回避とリスク測度
第 9 回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第 10 回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第 11 回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第 12 回	確率分布	正規分布
第 13 回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第 14 回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ボディ，マートン，クリートン（2011），『現代ファイナンス論　原著第 2 版　意思決定のための理論と実践』，ピアソン桐原．
ルーエンバーガー（2015），『金融工学入門第 2 版』，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

リスク・マネジメントB

湯前　祥二

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，リスク管理の考え方と手法を身につけ，実際に活用できることを目標とします．

【到達目標】
金融派生商品について理解し，理論価格を計算で求めることができる．

【授業の進め方と方法】
家計でもビジネスでも，リスクを全く取らなければリターンも低いままです．一方，過剰なリスクは破綻につながります．リスク管理は，負担可能なリスクの限度を見極めて，要求される利回りを実現することに役立ちます．
現代ファイナンス入門の講義で，現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に，講義します．
秋学期は，ポートフォリオ理論，金融派生商品を扱います．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約，先物契約	先渡し価格，債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
ボディ，マートン，クリートン（2011），『現代ファイナンス論　原著第 2 版　意思決定のための理論と実践』，ピアソン桐原．
ルーエンバーガー（2015），『金融工学入門第 2 版』，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

企業経営史 A

飯塚　陽介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。具体的には、19 世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】
（1）現代企業が出現した経緯を説明できる。
（2）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（3）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（4）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
（5）収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業となります。講義は主に板書にて実施します。各自で個別企業・産業について調査をしてもらいます。その関連で研究計画書と成果である期末レポートを提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	規模の経済の発見	産業革命期の英国において「規模の経済」はいかに発見されたのか？
2	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動はあくまで「市場」による調整を前提としていた。
3	産業革命期の在来産業	産業革命期に在来産業において生じた革新とは？
4	産業革命と金融ビジネス	産業革命は金融ビジネスに支えられていた。
5	大量生産体制への途	アメリカでの大量生産への模索
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマを調整します。また、調査法についての簡単なレクチャーも行います。
7	市場的調整から管理的調整へ　及び　中間テスト	19 世紀アメリカにおいて市場的調整を代替する大企業はなぜ出現したのか？
8	専門経営者と経営階層組織	19 世紀アメリカにおいて経営階層組織はどのように、そしてなぜ発達したのか？
9	経営者企業の成立と経営階層組織の発達	さらに発達を遂げるアメリカ大企業の経営階層組織。
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	19 世紀末、ヨーロッパにおいても「大企業」が出現した。
11	ヨーロッパ大企業の諸特徴	ただし、ヨーロッパ大企業はその組織においてアメリカの大企業とは異なる特徴を備えていた。
12	日本における大企業の登場	欧米に対して後発国である日本に大企業が出現した理由は？
13	日本の企業と財閥	日本の大企業の特徴とは？
14	講義の総括　及び　期末テスト	半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）学期を通じて、持ち込み不可の 2 回のテストに備え、復習する。
（2）学期最初の数週間は研究計画書を作成する。
（3）学期後半は各自のテーマに沿って長文のレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いません。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。
その他、参考書は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価項目（1）中間テストと期末テスト（30 %）（到達目標（1）（2）と関連します。15 点満点のテスト（持ち込み不可）を 2 度実施します。）
評価項目（2）研究計画書（10 %）（到達目標（3）と関連します。）
評価項目（3）期末レポート（60 %）（到達目標（4）と（5）と関連します。原則として、1 冊以上の文献資料を明示することを要求します。）

【学生の意見等からの気づき】
レポートの作成について困惑する学生が多く見られた。レポートの作成についての指導・サポートも充実させていきたい。

【その他の重要事項】
経営戦略・経営組織に関する基礎的な知識があることが望ましい。

企業経営史 B

飯塚　陽介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。具体的には、19 世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】
（1）現代企業が出現した経緯を説明できる。
（2）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（3）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（4）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
（5）収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業となります。講義は主に板書にて実施しますが。各自で個別企業・産業について調査をしてもらいます。その関連で研究計画書と成果である期末レポートを提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アメリカの大企業体制	戦後アメリカでは、大企業と労働組合、そして「大きな政府」の関係性の中で豊かで安定した社会が現出した。
2	戦後アメリカと新産業の誕生：豊かな社会と政府	豊かな社会と政府の関与を背景として、新産業が誕生した。
3	戦後ヨーロッパ大企業	戦後には、ヨーロッパでも大企業が出現した。その要因と特徴とは？
4	金融センターの興亡	ロンドン・シティ、ウォール街、興亡を繰り返す金融センターの姿。
5	マーシャルの産業地域論と地域の興亡	マーシャルが論じる産業地域のメリットは永続的なのか？
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と研究指導。
7	日本の大企業（1）：戦後改革とその影響　及び　中間テスト	アメリカ主導の戦後改革は日本企業の「アメリカ化」をもたらしたのか？
8	日本の大企業（2）：ジャパン・アズ・ナンバーワンの源流	戦後日本企業の競争力の源泉たる「日本的経営」と「日本的生産システム」の源流を論じます。
9	「日本株式会社」論を越えて	日本の政府・民間関係は異質なのか？
10	消費の大衆化と企業：松下・ダイエー・吉野家	消費の大衆化は新しい経営手法の導入を企業に求めた。
11	日本の大企業の戦略と組織	日本の大企業の戦略と組織における特徴と課題とは？
12	ポスト大企業体制の時代	1970 年代以降のアメリカを題材として、大企業体制の動揺を描く。
13	アジア企業の勃興と経営者資本主義論の相対化	経営者企業へと至る「企業経営の進化」は必然なのか？ アジア企業の姿から考える。
14	講義の総括　及び　期末テスト	半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）学期を通じて、持ち込み不可の 2 回のテストに備え、復習する。
（2）学期最初の数週間は研究計画書を作成する。
（3）学期後半は各自のテーマに沿って長文のレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いません。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。
その他、参考書は適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
評価項目（1）中間テストと期末テスト（30 %）（到達目標（1）（2）と関連します。15 点満点のテスト（持ち込み不可）を 2 度実施します。）
評価項目（2）研究計画書（10 %）（到達目標（3）と関連します。）
評価項目（3）期末レポート（60 %）（到達目標（4）と（5）と関連します。原則として、1 冊以上の文献資料を明示することを要求します。）

【学生の意見等からの気づき】
レポート作成時の資料収集について、より具体的な指導・助言をはかり、学生がより効果的な調査が実施できるように支援していきたい。

【その他の重要事項】
経営戦略・経営組織に関する基礎的な知識があることが望ましい。
春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

国際会計制度 A

丸岡　恵梨子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは、国際会計の特徴や潮流を題材とした、会計と企業活動の密接な結びつきの理解である。
会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の 1 つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。本講義はこのうち日本基準、米国会計基準、IFRS を比較しながら、①会計制度間の差異、②それらが会計情報の作成に与える影響、③各人の目的に沿った会計情報の利用方法、の 3 点の理解を目指す。

【到達目標】
国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で日本企業の分析、あるいは日本企業と海外企業の比較分析を実施できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
本講義は、国際会計制度 B と合わせて 3 部構成になっている。まず、講義の冒頭部分を用いて、財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施するので、財務会計の初学者であっても積極的に受講してもらいたい。
次に、国際会計制度の差異、各基準の背景にある基礎概念（原則主義と細則主義、収益費用観と資産負債観など）を学ぶ。その後に個別の会計基準間の差異を取り上げる（国際会計制度 A では、収益認識、包括利益、有形固定資産、棚卸資産、金融商品を扱う）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	企業分析手法の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	国際会計制度の歴史	資本市場のグローバル化と IFRS 登場の背景。
8	IFRS の基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
9	IFRS の基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
10	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
11	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
12	有形固定資産会計、棚卸資産の会計	公正価値測定手法、原価モデルと再評価モデル　棚卸資産の評価基準。
13	金融商品会計	当初認識・測定と認識の中止、再測定等。持ち合い株式が与える影響。
14	期末テスト	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義を聞いて、その内容を理解する。また、日頃から経済ニュースへの関心を持ち、例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】
『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄　日本経済新聞出版社　2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎 第 4 版』平松一夫　中央経済社　2015 年
『エッセンシャル IFRS（第 5 版）』秋葉賢一　中央経済社　2016 年
『国際会計論』森川八洲男　白桃書房　2015 年　ほか

【成績評価の方法と基準】
講義時に配布する質問票（20%）
期末テスト（80%）

【学生の意見等からの気づき】
講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】
国際会計制度 B と合わせて受講することを強く推奨する。
出席票の自由筆記欄を活用し、意見や関心を聞かせてほしい。講義中疑問に感じる箇所があれば、積極的に質問して欲しい。

国際会計制度 B

丸岡　恵梨子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは、国際会計の特徴や潮流を題材とした、会計と企業活動の密接な結びつきの理解である。国際会計制度 A の内容を前提として講義を行う。

【到達目標】
国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で日本企業の分析、あるいは日本企業と海外企業の比較分析を実施できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
国際会計制度 A で学んだことを踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。
具体的には、引当金会計、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合会計、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。その後、財務諸表の分析におけるポイントを、実例を用いて学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンシャル・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計 外貨換算会計	退職給付会計、株式報酬取引。 外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
5	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
6	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
7	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
8	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化
9	IFRS 財務諸表分析（1）	包括利益とマーケットリスク
10	IFRS 財務諸表分析（2）	資産の認識と測定
11	IFRS 財務諸表分析（3）	企業間比較、経年比較分析例
12	各国の会計制度（1）	欧州圏の会計制度
13	各国の会計制度（2）	アジア圏の会計制度
14	最新トピック紹介 レポート課題提出	最終レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義を聞いて、その内容を理解する。また、日頃から経済ニュースへの関心を持ち、例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】
『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄　日本経済新聞出版社　2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎（第 4 版）』平松一夫　中央経済社　2015 年
『エッセンシャル IFRS（第 5 版）』秋葉賢一　中央経済社　2016 年
『国際会計論』森川八洲男　白桃書房　2015 年　ほか

【成績評価の方法と基準】
講義時に配布する質問票（20%）
中間レポート（30%）
期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】
講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】
国際会計制度 A と合わせて受講することを推奨する。
出席票の自由筆記欄を活用し、意見や関心を聞かせてほしい。講義中疑問に感じる箇所があれば、積極的に質問して欲しい。

企業経営論Ａ

永岡　文庫

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◎企業事例（ケーススタディ）を通じて、経営（マネジメント）の本質を学ぶ。
◎マネジメントの本質は「人を活用して、組織の目的を達成すること」。
Ａでは、現実の経営は教科書通りには行かないが、企業の成長のための経営戦略論に重点を置きます。

【到達目標】
◎ SWOT 分析、PPM 分析、ファイブフォース分析など問題解決に役立つフレームワーク（分析ツール）を使い経営活動を定量的に検証する。現代の企業活動をバランス良く理解し、学生がこれら経営ツールを使って具体的な企業、業界を分析できるのが到達目標。

【授業の進め方と方法】
◎教科書「経営入門　２８講」の応用編に従って進めます。
◎毎回１人～2 人に課題を与え、次回に発表してもらいます。
◎講義中に意見や質問を求めます。出席表を兼ねたコミュニケーション・ペーパー（CP）を配布、提出させます。CP は意見や感想、疑問などを書きますが、その中身を ABC 評価します。教科書の予習、講義中の質疑、講義の集中が大事です。
パワーポイントを使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス「企業経営とはなにか」	大企業の生存年数は人間より短い。技術革新、政府規制、年金パワー。
②	「選択と集中」	米 GE のウエルチ会長の改革。世界のリストラ（事業改革）の教科書。
③	「経営戦略の３つの基本ツール」	オリエンタルランド、フジサンケイグループで分析。
④	「投資と撤退の原則」	キヤノンを事例にＰＰＭの実習。
⑤	「業界魅力度分析」	ＮＴＴなど通信業界を事例にファイブフォース分析。
⑥	「マーケティングとは何か」	アサヒビールの事例にビール業界のマーケティング戦略。
⑦	「逆転の発想」	ヤマト運輸の「宅急便」を事例に、マーケティングの成功要因を。
⑧	「日本の製造業は強いか」	トヨタを中心に世界の自動車業界のポジショニングと将来を占う。
⑨	「サービス業の核心」	日本航空の破たんと格安航空（ＬＣＣ）の経営比較。
⑩	「多国籍企業と CSR（企業の社会的責任）」	ナイキの児童労働や日本の製紙会社の原生林破壊。
⑪	「消費者パワーと経営」	パナソニックとグリーンピースの 10 年戦争。
⑫	「競争優位の CSR 戦略」	住友化学のマラリア防止蚊帳。マイクロソフトの大学支援。
⑬	「CSR は危機管理の要」	独占禁止法とゼネコンの談合。
⑭	「環境対策と経営リスク」	原発事故後の温暖化対策。東京電力など電力が事例。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◎講義の全体の流れをつかむために、教科書の予習が不可欠。
◎わからない経営用語、技術用語があれば、ネットなど事前検索する。
◎新聞の一面、経済面を継続的に読む。

【テキスト（教科書）】
「経営入門　２８講」(永岡文庫著　俯瞰工学研究所)。
この教科書の後半の応用編がテキストです。「企業経営入門」を受講していない学生は入門編を読むこと。

【参考書】
◎日経業界地図 2018 年版（日経編、日本経済新聞出版社）。日経以外の業界地図でも可だが最新版を。
◎経済書、経営書の参考図書については随時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験　　８０％。
　◎春学期末に論文式試験。2 問から 1 問選択。1200 字以上。
②授業参加　　２０％。
　◎毎回、コミュニケーション・ペーパー（CP）を配布します。何回か課題を与えＣＰや課題論文を ABC 評価（5、3，2，1 点）、加点します。

【学生の意見等からの気づき】
◎パワーポイントの量が多い。情報量を少なくして、説明を多くした。
◎質疑応答を増やしてほしい。ＣＰの質問を次回の講義で回答する。

【その他の重要事項】
◎授業中の私語は厳禁。減点の上に退室処分。
◎コミュニケーションペーパーの不正提出や代返者は減点。

企業経営論Ｂ

永岡　文庫

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◎企業の事例研究（ケーススタディ）を通じて、経営（マネジメント）の本質を学ぶ。マネジメントの本質は「人を活用して、組織の目的を達成すること」。企業の成長のための経営戦略に重点を置きます。
◎ B では、A で学んだ基本的なツール（手法）を使い経営活動を分析する。企業買収や中小企業の事例を学びます。

【到達目標】
◎経営理論の合理的な考え方と、現実の経営や人間集団の非合理的な部分もバランスよく理解すること。学生の倫理観や考え方も重要で企業の倫理違反や非常識な行動は「おかしい」といえるだけの自信を持つのが到達目標だ。

【授業の進め方と方法】
◎教科書「経営入門　２８講」の応用編に従って進めます。
◎毎回、2 人に課題を与え次回の授業に発表してもらいます。
◎講義中に意見や質問を求めます。毎回、コミュニケーション・ペーパー（CP）を配布、提出させます。CP は意見や感想、疑問などを書きますが、その中身を ABC 評価します。教科書の予習、講義中の質疑、講義の集中が大事です。
パワーポイントを使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	「経営学と現実の経営の違い」	経営（マネジメント）の１００年の歴史と企業の盛衰。
②	「経営の原点は中小企業」	星野リゾートなど中小９社の独自な経営。
③	「浜松の三国志」	ホンダ、ヤマハの２輪車戦争を事例に産業集積論。中小企業の成長の壁。
④	「小売業は景気より元気」	セブンイレブンの品質管理や新製品開発手法。
⑤	「ネットと経営」の１	グーグルの成長と新聞・テレビなど旧メディアの凋落。
⑥	「ネットと経営」の２	スマートフォンの衝撃。
⑦	「企業買収」の１	世界で年間４００兆円の企業買収劇。日本企業も円高で海外企業を。
⑧	「企業買収」の２	事業家よりも投資家が主力の買収ブーム。世界１の投資家のＷ・バフェット氏を事例。
⑨	「企業買収」の３	ファンド、投資銀行に対し、批判が集中し政府の規制。
⑩	「企業買収」の４	海外企業買収の先駆者ブリヂストンの修羅場。グローバル経営の落とし穴。
⑪	「企業買収」の５	新日鉄が油断し、新興のインドの鉄鋼のアルセロールミタルから買収の標的に。
⑫	「従業員の活用」の１	「富士通の成果主義人事の失敗」。個人と組織。年功主義賃金の功罪。
⑬	「従業員の活用」の２	リクルートの成果主義。人材輩出企業従業員をやる気にさせるか。
⑭	「法令順守」の１	住友銀行と野村證券の闇。暴力団と大企業の癒着。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◎講義の全体の流れをつかむために、教科書の予習が不可欠。
◎わからない経営用語、技術用語があれば、ネット、参考書などで事前に調べる。

【テキスト（教科書）】
「経営入門　２８講」（永岡文庫著　俯瞰工学研究所）。この教科書の後半の応用編がテキストです。「企業経営入門」を受講していない学生は入門編を読むこと。

【参考書】
◎日経業界地図 2018 年版 (日経編、日本経済新聞出版社)。日経以外の業界地図でも可だが最新版を。
◎経済書、経営書の参考図書については随時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験　80 %。
　◎秋学期末に論文式試験。2 問から 1 問選択。１２００字以上。
②授業参加　20 %。
　◎毎回、コミュニケーション・ペーパー（CP）を配布します。質問や小論文や意見を ABC 評価（5、3，2，1 点）し、加点します。

【学生の意見等からの気づき】
◎授業スピードが速すぎる。パワーポイントの枚数を削減して改善した。
◎質疑応答を増やしてほしい。ＣＰの質問への回答を必ず行う。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント。

【その他の重要事項】
◎授業中の私語は厳禁。減点の上に退室処分。
◎コミュニケーションペーパーの不正提出や代返者はマイナス評価。

日本国憲法 A（2016年度以降入学生、2単位）
日本国憲法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

榎 透

開講時期：**春学期集中**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業のテーマは「憲法とは何のために存在するか」「日本国憲法に定められた国の仕組みとはどのようなものか」である。この授業では、まず、西欧の立憲主義思想や憲法規範の特徴を概観し、政治は憲法に基づき行われること、憲法は公権力を制限する法であることを講じる。ついで、日本国憲法の定める国民主権、民主政治の仕組み（国会、内閣、裁判所、地方自治等）、および平和主義について解説する。
　この授業は、制度の単なる解説にとどまらず、法的な思考に基づく日本国憲法の特徴を説明し、それとともに、憲法やそれに基づく民主政治を手がかりに現代社会を主体的に考察するための素材を提示する。本科目の学習によって、主権者に必要な資質を身につけることができるようになる。

【到達目標】
(1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
(2) 日本国憲法の定める統治機構の特徴を正確に理解できる。

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。講義内容の理解度を把握するために、リアクションペーパーの提出を求め、授業に貢献してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	憲法とは何か (1) 国家の役割、法律の役割、憲法の役割	国家の役割、法律の役割、憲法の役割について学ぶ。また、社会・公民の教育における本授業の意味にふれる。
第２回	憲法とは何か (2) 憲法の内容と特質	立憲主義に基づく憲法にはどのような内容が盛り込まれるのか、また、その憲法の特質はどのようなものかを学ぶ。
第３回	日本憲法史	大日本帝国憲法、および、日本国憲法の制定過程を学ぶ。
第４回	統治のメカニズム総論	国民主権、権力分立、国民の政治参加・選挙の仕組みについて学ぶ。
第５回	国会の地位と役割	国会の地位、組織、権限について学ぶ。
第６回	内閣の役割	内閣の組織と権能について学ぶ。また、内閣総理大臣の権能について学ぶ。
第７回	裁判所の役割	裁判所の組織について触れた後、司法権の概念と範囲、司法権の独立について学ぶ。
第８回	違憲審査制	違憲審査制の意義を理解し、その上で、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査について学ぶ。
第９回	財政と地方自治	財政と地方自治について学ぶ。
第 10 回	天皇制	憲法の定める天皇制度について学ぶ。
第 11 回	平和主義 (1) ９条の解釈	日本国憲法９条の解釈論を学ぶ。
第 12 回	平和主義 (2) 現状と課題	現実の日本の安全保障方式を学び、その上で憲法の定める平和主義との距離を検証する。
第 13 回	憲法改正の仕組み	憲法改正の手続きと限界について学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 配布レジュメを読んで予習・復習する。
2. 参考書や授業で紹介した文献を読む。
3. 日々のニュースに気を配り、その中に含まれる憲法的な論点を探して考える。

【テキスト（教科書）】
六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第 6 版）』（岩波書店、2015 年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第 6 版）』（有斐閣、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験を実施する（80 %）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・到達目標に対応して授業への貢献度を加味し（20%）、総合的に判断して最終的な評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

日本国憲法 B（2016年度以降入学生、2単位）
日本国憲法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

榎 透

開講時期：**春学期集中**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業のテーマは、「憲法の定める基本的人権とはどのようなものか」である。この授業では「憲法とはどのような法であるか」を常に意識しながら、日本国憲法の定める基本的人権について説明する。
　この授業は、人権の内容を解説するだけでなく、法的な思考に基づく日本国憲法の定める基本的人権の特徴を説明し、現代社会について幅広い視野に立って考察できるようになるための素材を提示する。本科目の学習によって、市民社会における公民として必要な資質を身につけることができる。

【到達目標】
(1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
(2) 日本国憲法の定める基本的人権について、その意義・内容を正確に理解できる。

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。講義内容の理解度を把握するために、リアクションペーパーの提出を求め、授業に貢献してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	人権総論 (1) 基本的人権とは何か	憲法の定める人権と、世間で流通する「人権」との違いを学ぶ。社会・公民の教育における本授業の意味にふれる。
第２回	人権総論 (2) 個人の尊重と基本的人権の概要	人権の根底にある「個人の尊重」という考え方を学ぶ。その上で、自由権と社会権について学ぶ。
第３回	人権総論 (3) 法律等による規制 vs. 人権、人権の限界	人権は法律等によりやむを得ず規制されることがある。反対に規制が人権を侵害したと評価されることもある。現実に生じる事例を学習し、「個人の尊重」の意味を理解する。
第４回	思想・良心の自由	思想および良心の自由について学ぶ。
第５回	信教の自由	信教の自由と政教分離について学ぶ。
第６回	表現の自由 (1) 表現の自由の意義・重要性、政治的言論、報道の自由	表現の自由の意義・重要性、特に民主主義社会における表現の重要性を学ぶ。
第７回	表現の自由 (2) わいせつ表現、名誉毀損的表現、ヘイトスピーチ	わいせつ表現、名誉毀損的表現、ヘイトスピーチを素材として、表現の自由を規制することの意味や問題点を学ぶ。
第８回	表現の自由 (3) 多様な表現方法と表現の自由	表現行為には、ネット、ビラ配布、集会・結社など多様な方法がある。それらが表現の自由によって保障される意味を学ぶ。
第９回	経済的自由 (1) 職業の自由	経済活動の自由の意義について学ぶ。また、経済活動に不可欠である、職業の自由について学ぶ。
第 10 回	経済的自由 (2) 財産権	経済活動に不可欠である、財産権について学ぶ。
第 11 回	社会権	社会権の意義、生存権、教育の自由、労働基本権について学ぶ。
第 12 回	参政権	参政権など、国民の政治参加と権利について学ぶ。
第 13 回	法の下の平等	平等の理論・歴史と現代的課題にふれつつ、法の下の平等について学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 配布レジュメを読んで予習・復習する。
2. 参考書や授業で紹介した文献を読む。
3. 日々のニュースに気を配り、その中に含まれる憲法的な論点を探して考える。

【テキスト（教科書）】
六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第 6 版）』（岩波書店、2015 年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第 6 版）』（有斐閣、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験を実施する（80 %）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・到達目標に対応して授業への貢献度を加味し（20%）、総合的に判断して最終的な評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

民法一部 A（2016年度以降入学生、2単位）
民法一部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

権　敬殷

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法総則を中心に学習する。我ら人間は、常に様々な契約関係を結びながら毎日を生きている。契約は、意思表示の合致により成立し、契約をすることによって契約の当事者には権利· 義務が発生するが、その意思表示に問題があった場合や、いったい誰が権利· 義務の主体となれるのか、などについての法的ルールを民法総則を通して確認する。これにより、社会で起こっている様々な問題を法律的な観点から眺めるリーガルマインドを育てる。

【到達目標】
民法総則について、基本的な知識と理解及び法律用語を習得することで、社会の様々な現象を法律的な観点から眺めるというリーガルマインドを形成することが目標である。

【授業の進め方と方法】
民法総則について、教科書の流れにしたがって、レジュメを元に解説が進められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法総論	民法とは何か
第 2 回	総則①	契約の成立
第 3 回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第 4 回	総則③	意思表示（2）錯誤
第 5 回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第 6 回	総則⑤	権利の主体～権利能力、意思能力、行為能力
第 7 回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第 8 回	総則⑦	代理（2）無権代理
第 9 回	総則⑧	代理（3）表見代理
第 10 回	総則⑨	法人
第 11 回	総則⑩	契約の有効性
第 12 回	総則⑪	契約の効力発生時期、時効
第 13 回	総則⑫	時効
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
内田貴『民法Ⅰ【第4版】』（東京大学出版会）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】
満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】
「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

民法一部 B（2016年度以降入学生、2単位）
民法一部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

権　敬殷

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物権法 (特に、所有権) を中心に学習する。物に対する権利一般の客体についてのルールを所有権を中心に学習する。これにより、社会で起こっている様々な問題を法律的な観点から眺めるリーガルマインドを育てる。

【到達目標】
物権について、基本的な知識と理解及び法律用語を習得することで、社会の様々な現象を法律的な観点から眺めるというリーガルマインドを形成することが目標である。

【授業の進め方と方法】
物権法について、教科書の流れにしたがって、レジュメを元に解説が進められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	物権法序説	「物」の概念
第 2 回	物権①	所有権（1）所有権の内容、効力
第 3 回	物権②	所有権（2）所有権の取得
第 4 回	物権③	所有権（3）共同所有関係
第 5 回	物権④	占有権
第 6 回	物権⑤	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第 7 回	物権⑥	物権変動（2）対抗要件主義
第 8 回	物権⑦	物権変動（3）登記
第 9 回	物権⑧	物権変動（4）契約による動産の物権変動
第 10 回	物権⑨	物権変動（5）公信の原則物権変動Ⅰ
第 11 回	物権⑩	制限物権
第 12 回	物権⑪	物権と債権の区別
第 13 回	物権⑫	私権についての一般原理
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
内田貴『民法Ⅰ【第4版】』（東京大学出版会）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】
満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】
「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

民法二部 A（2016年度以降入学生、2単位）
民法二部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

権　敬殷

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
債権法 (特に、契約法) を中心に学習する。授業は、大きく分けて、①契約法総論、②契約法各論の２部から構成されている。人と人との関係を規律する債権法や当事者の合意によって債権· 債務を発生させる契約について学ぶ。

【到達目標】
契約法全般について、基本的な知識や理解を習得する。取引生活を営む中で、我らは様々な契約関係の当事者になるが、契約関係の仕組みやそれにトラブルが発生したときの解決方法などについて全体像をつかむ。

【授業の進め方と方法】
契約法について、教科書の流れにしたがって、レジュメを元に解説が進められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	契約法総論①	契約法とは何か (契約の成立から消滅まで)
第２回	契約法総論②	契約の成立
第３回	契約法総論③	契約の効力
第４回	契約法総論④	契約の解除①要件
第５回	契約法総論⑤	契約の解除②効果
第６回	契約法各論①	権利移転型契約① 贈与· 交換
第７回	契約法各論②	権利移転型契約② 売買契約の成立
第８回	契約法各論③	権利移転型契約③ 売買契約の効果
第９回	契約法各論④	権利移転型契約④ 担保責任
第 10 回	契約法各論⑤	貸借型契約① 消費貸借· 使用貸借
第 11 回	契約法各論⑥	貸借型契約② 賃貸者 (意義、期間)
第 12 回	契約法各論⑦	貸借型契約③ 賃貸者 (効力、終了)
第 13 回	契約法各論⑧	労務提供型契約· その他の典型契約
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
池田真朗『スタートライン債権法【第 6 版】（日本評論社）』
六法全書 (いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】
内田貴『民法Ⅱ【第 3 版】』、『民法Ⅲ【第 3 版】』 (東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用に心掛ける。

民法二部 B（2016年度以降入学生、2単位）
民法二部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

権　敬殷

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
債権法を中心に学習する。授業は、大きく分けて、①不当行為、②不法行為、③債権総論の３部から構成されている。法定債権の内容や種類、債権の効力等について学ぶ。

【到達目標】
債権法について、基本的な知識や理解を習得する。取引生活を営む中で、我らは様々な債権· 債務関係の当事者になるが、債権· 債務関係の仕組みやそれにトラブルが発生したときの解決方法などについて全体像をつかむ。

【授業の進め方と方法】
債権法について、教科書の流れにしたがって、レジュメを元に解説が進められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	契約法各論⑨	不当利得
第２回	契約法各論⑩	不法行為① 不法行為法序説
第３回	契約法各論⑪	不法行為② 成立要件
第４回	契約法各論⑫	不法行為③ 効果
第５回	契約法各論⑬	不法行為④ 特殊な不法行為
第６回	契約法各論⑭	不法行為⑤ 共同不法行為、不法行為の特別法
第７回	債権総論①	債権総論序説· 債権の目的
第８回	債権総論②	債権の効力① 強制履行· 債務不履行
第９回	債権総論③	債権の効力② 損害賠償
第 10 回	債権総論④	債権の効力③ 受領遅滞· 弁済の提供
第 11 回	債権総論⑤	責任財産の保全① 債権者代位権
第 12 回	債権総論⑥	責任財産の保全② 詐害行為取消権
第 13 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係 (連帯債務· 保証債務)
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
池田真朗『スタートライン債権法【第 6 版】』(日本評論社)
六法全書 (いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】
内田貴『民法Ⅱ【第 3 版】』、『民法Ⅲ【第 3 版】』 (東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用に心がける。

商法一部 A（2016年度以降入学生、2単位）
商法一部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

笹久保　徹

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本授業は商法の会社法に関する講義である。
　受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
　なお、本授業の受講生は、是非とも、秋学期の「商法一部B（会社法）」も受講してもらいたい。秋学期の授業も受講することで会社法の全体を理解することができる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の機関　総論	機関総論に関する解説
第 3 回	株式会社の機関　株主総会 1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第 4 回	株式会社の機関　株主総会 2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第 5 回	株式会社の機関　株主総会 3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第 6 回	株式会社の機関　取締役 1	取締役の権限等に関する解説
第 7 回	株式会社の機関　取締役 2	取締役会の招集・決議等に関する解説
第 8 回	株式会社の機関　取締役 3	代表取締役・表見代表取締役に関する解説
第 9 回	株式会社の機関　取締役 4	取締役の義務及び責任に関する解説
第 10 回	株式会社の機関　取締役 5	取締役に対する責任追及（株主代表訴訟等）に関する解説
第 11 回	株式会社の機関　監査役、会計監査人、会計参与	監査役・会計監査人・会計参与に関する解説
第 12 回	株式会社の機関　その他	指名委員会等設置会社及び監査等委員会設置会社に関する解説
第 13 回	株式会社の設立 1	株式会社の設立手続に関する解説
第 14 回	株式会社の設立 2	株式会社の設立の瑕疵、発起人の責任等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
　復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
　柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
　期末試験の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
　資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
　受講生は最新の六法を持参すること。
　六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

商法一部 B（2016年度以降入学生、2単位）
商法一部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

笹久保　徹

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本授業は商法の会社法に関する講義である。
　受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
　本授業の受講生は、できれば春学期の「商法一部A（会社法）」を受講しておいて頂きたい（もちろん秋学期の授業から受講してもかまわない。）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識、用語等の解説
第 2 回	組織再編 1	組織再編の概要に関する解説
第 3 回	組織再編 2	合併の概要に関する解説
第 4 回	組織再編 3	合併の手続きに関する解説
第 5 回	組織再編 4	合併の瑕疵に関する解説
第 6 回	組織再編 5	会社分割に関する解説
第 7 回	組織再編 6	株式交換・株式移転に関する解説
第 8 回	株式 1	株式の概要・内容・種類等に関する解説
第 9 回	株式 2	株主の権利、株式譲渡に関する解説
第 10 回	募集株式 1	募集株式の概論・発行手続に関する解説
第 11 回	募集株式 2	募集株式の発行等の瑕疵等に関する解説
第 12 回	新株予約権 1	新株予約権に関する解説
第 13 回	新株予約権 2	新株予約権の発行等の瑕疵等に関する解説
第 14 回	企業買収等	買収および買収防衛措置等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
　復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
　柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
　期末試験の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
　資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
　受講生は最新の六法を持参すること。
　六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

商法二部 A（2016年度以降入学生、2単位）
商法二部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

笹久保　徹

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。
商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】
・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、現実社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。
なお、本授業の受講生は、是非とも、秋学期の「商法二部Ｂ」も受講してもらいたい。秋学期の授業も受講することで商法総則・商行為法の全体を理解することができる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 商法の意義と法源（1）	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第 2 回	商法の意義と法源（2）	商法の法源について解説する。
第 3 回	商人と商行為（1）	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為（2）	商行為について解説する。
第 5 回	商号（1）	商号の意義等について解説する。
第 6 回	商号（2）	商号と名板貸について解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記について解説する。
第 8 回	商業帳簿	商業帳簿について解説する。
第 9 回	商業使用人（1）	支配人について解説する。
第 10 回	商業使用人（2）	支配人以外の商業使用人について解説する。
第 11 回	代理商	代理商について解説する。
第 12 回	営業（1）	営業の意義について解説する。
第 13 回	営業（2）	営業譲渡について解説する。
第 14 回	商法総則　事例研究	商法総則に関する各回の講義で詳しく触れることができなかった重要判例を取り上げて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は各自ができる範囲でやること（気楽な気持ちでテキストを眺めるだけでもよい。）。復習に力を注いでもらいたい。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法〔第 6 版〕』(有斐閣法律学叢書)（有斐閣、2013）本体価格 2800 円

【参考書】
江頭憲治郎＝山下友信編「商法 (総則・商行為) 判例百選〔第 5 版〕」(別冊ジュリスト No.194)（有斐閣、2008 年）本体価格 2400 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は商法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は、最新の六法を持参すること。
六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。
なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履行済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

商法二部 B（2016年度以降入学生、2単位）
商法二部（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

笹久保　徹

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。
商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】
・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、現実社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。
なお、本授業の受講生は、春学期の「商法二部Ａ」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 商行為法　総則（1）	ガイダンス及び契約の成立等について解説する。
第 2 回	商行為法　総則（2）	商行為の代理等について解説する。
第 3 回	売買（1）	商事売買について解説する。
第 4 回	売買（2）	消費者売買について解説する。
第 5 回	匿名組合	匿名組合について解説する。
第 6 回	仲介営業（1）	仲立営業について解説する。
第 7 回	仲介営業（2）	問屋営業について解説する。
第 8 回	運送営業（1）	物品運送について解説する。
第 9 回	運送営業（2）	旅客運送について解説する。
第 10 回	運送取扱営業	運送取扱営業について解説する。
第 11 回	寄託	場屋営業等について解説する。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業について解説する。
第 13 回	交互計算	交互計算について解説する。
第 14 回	商行為法　事例研究	商行為法に関する各回の講義で詳しく触れることができなかった重要判例を取り上げて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は各自ができる範囲でやること（気楽な気持ちでテキストを眺めるだけでもよい。）。復習に力を注いでもらいたい。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法〔第 6 版〕』(有斐閣法律学叢書)（有斐閣、2013）本体価格 2800 円

【参考書】
江頭憲治郎＝山下友信編「商法 (総則・商行為) 判例百選〔第 5 版〕」(別冊ジュリスト No.194)（有斐閣、2008 年）本体価格 2400 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は商法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は、最新の六法を持参すること。
六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。
なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履行済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

経済法 A（2016年度以降入学生、2単位）
経済法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

山浦　康明

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済の現状を知るために、企業活動をめぐる法制度、とりわけ独占禁止法を中心とする経済法の仕組みを理解できるようにします。トランプ米国大統領の経済政策・通商政策と日本の景気、英国の EU 離脱の影響、働き改革がもたらす企業のあり方、カジノ法など直近の状況も視野にいれます。

【到達目標】
自分で日本経済新聞を読むことができるようになる。時事問題に強くなれる。

【授業の進め方と方法】
上記の目標を達成するため、受講者に積極的に授業に参加してもらい、時事問題、具体的な競争政策を理解してもらいます。授業ではレジュメ、新聞雑誌などのコピーを利用して、具体的なイメージがわくように努めます。なるべく続けて出席し自分で考えるくせをつけるようにしよう。授業でもちいた資料はファイルしておくとよい。パワーポイント、ビデオなどを利用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス	受講上の注意、経済法とは何か
2）	世界と連動する日本経済の現状	国内外の景気動向
3）	独占禁止法（独禁法）の歴史と目的	独禁法の制定過程とその後の改訂の歴史
4）	私的独占の禁止	合併・株式保有の規制
5）	企業の再編	合併の歴史と現状
6）	M&A をめぐる攻防	国内外の M&A の現状
7）	カルテルの規制①	不当な取引制限の禁止、事業者団体の活動規制
8）	カルテルの規制②	課徴金、カルテルの適用除外、価格の同調的引上げの理由報告
9）	結合・集中の規制	企業結合の規制
10）	知的財産と独禁法	特許権・著作権などと独禁法の関係
11）	政府規制と独禁法	自然独占と事業法、規制改革、電力会社のあり方
12）	国際取引と独禁法	独禁法の域外適用、競争政策の国際協力、輸入総代理店など
13）	民法と消費者契約法	消費者契約法の機能と必要性
14）	製造物責任法（PL 法）	民法の不法行為を補完する PL 法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのニュースにふれ、経済と法の関係を常に考える。新聞を読む習慣をつける。授業で用いたレジュメ、参考資料などはファイルし、読み直そう。授業で対象にしたテキストの箇所をよく読んで授業の復習をしよう。

【テキスト（教科書）】
『ベーシック経済法ー独占禁止法入門』川濱昇他共著　有斐閣アルマ

【参考書】
『経済法ー独占禁止法と競争政策』岸井大太郎他　共著　有斐閣アルマ
『法律とは何かー法と現代社会』山浦康明著　日本女子大学通信教育事務部
『TPP と農林業・国民生活』田代洋一編著　筑波書房
『法と社会へのアプローチ』和田仁考他　編著　日本評論社
『TPP・FTA と公共政策の変質』岡田知弘　編著　自治体研究社
『六法全書』

【成績評価の方法と基準】
春学期試験（50 %）
小リポート（20 %）
平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメ・資料はみなさんからの要望もあり、今年度も配布。出席を重視し、受講者から意見を聞く機会も増やす。

【その他の重要事項】
私語、遅刻、早退厳禁。ただし、就職活動は配慮します。授業で用いた資料はファイルしておこう。

経済法 B（2016年度以降入学生、2単位）
経済法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

山浦　康明

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済の現状を知るために、企業活動をめぐる法制度、とりわけ独占禁止法を中心とする経済法の仕組みを理解できるようにします。トランプ米国大統領の経済政策・通商政策と日本の景気、英国の EU 離脱の影響、働き方改革がもたらす企業のあり方、カジノ法など直近の状況も視野にいれます。

【到達目標】
自分で日本経済新聞を読むことができるようになる。時事問題に強くなれる。

【授業の進め方と方法】
上記の目標を達成するため、受講者に積極的に授業に参加してもらい、時事問題、具体的な競争政策を理解してもらいます。授業ではレジュメ、新聞、雑誌などのコピーを利用して、具体的なイメージがわくように努めます。なるべく続けて出席し自分で考えるくせをつけるようにしよう。授業でもちいた資料はファイルしておくとよい。パワーポイント、ビデオなどを利用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス、不公正な取引方法の規制①	取引拒絶・差別的取扱い、不当対価
2）	不公正な取引方法の規制②	事業活動の不当拘束
3）	不公正な取引方法の規制③	不当な顧客誘因・取引の強制、取引上の地位の不当利用、競争者の事業活動の不当妨害
4）	世界貿易機関（WTO）	WTO 協議の現状
5）	自由貿易協定（FTA/EPA/TPP）	TPP の行方、日欧 EPA の影響
6）	消費者基本法と消費者庁・消費者委員会	消費者庁と消費者委員会の活動、食品表示ルール、健康食品の販売ルール
7）	消費者運動	戦後の消費者運動の歴史と現在の状況
8）	食料・農業・農村基本法と基本計画、農業政策	農業政策・予算の分析、評価
9）	食品安全基本法と食品安全委員会	内閣府食品安全委員会の機能
10）	新規食品	トクホ、機能性表示食品、遺伝子組換えの表示、
11）	環境問題と法	公害、地球環境と法
12）	土地問題と法	土地法、農地法、開発と法
13）	株式会社と法	株式会社の意義
14）	企業再建と法	企業の清算と再建

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのニュースにふれ、経済と法の関係を常に考える。新聞を読む習慣をつける。授業で用いたレジュメ、参考資料などはファイルし、読み直そう。授業で対象にしたテキストの箇所をよく読んで授業の復習をしよう。

【テキスト（教科書）】
『ベーシック経済法ー独占禁止法入門』川濱昇他共著　有斐閣アルマ

【参考書】
『経済法ー独占禁止法と競争政策』岸井大太郎他　共著　有斐閣アルマ
『法律とは何かー法と現代社会』山浦康明　著　日本女子大通信教育事務部
『TPP と農林業・国民生活』田代洋一編著　筑波書房
『法と社会へのアプローチ』和田仁考他　編著　自治体研究社
『六法全所』

【成績評価の方法と基準】
秋学期試験（50 %）
小リポート（20 %）
平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメ、資料はみなさんからの要望もあり、今学期も配布。出席を重視し、受講者から意見を聞く機会を増やす。

【その他の重要事項】
私語、遅刻、早退厳禁。ただし、就職活動は配慮します。

労働法 A（2016年度以降入学生、2単位）
労働法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

藤本　茂

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用社会 (労働関係) のトラブルを法的に解決する法領域が労働法である。労働法は労働契約関係での個別的労働関係法，労働組合と使用者の関係を規整する集団的労使関係法そして雇用保障に関する雇用保障法の分野に分かれる。
労働法 A では，まず総論として，労働法の理念から，紛争解決制度までを学ぶ。次いで採用から解雇まで労働契約関係の形成から終了までを取扱う。
雇用社会のあり様と労働法とは密接にかかわっている。内々定や解雇の金銭解決など今日的議論に触れるのは当然である。

【到達目標】
授業の到達目標は，労働法の基礎的知識を学び，将来，社会人となって経験するであろう労働問題について法的に考える眼を養う。労働法の基礎的知識を修得して，自分なりに法的に考えられる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でレジュメを配布し進める。テキストの該当箇所も示しておく。
テーマの「胆」を理解してもらえるよう時事的なことや裁判例を挙げる。
パワーポイントを原則使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要や評価基準，労働法分野の説明
第 2 回	労働法の理念-労働法の生成から考える-	労働法という法分野が生まれた社会的背景について考える。
第 3 回	わが国労働法のよって立つ雇用社会	日本型雇用システムの内容とそこで形成・定着した労働法理。その変容と労働法理の見直しについて考える。
第 4 回	労働関係の主体	労働者（従業員），使用者（会社），労働組合
第 5 回	労働基本権と労働組合	憲法 28 条の意義とその権利を具体化する労働組合の意義について学ぶ。
第 6 回	働き方の決定	労働条件の決定は労働契約にある。労働契約法に触れながら，労働契約関係を権利義務や原則を学ぶ。
第 7 回	処遇格差問題	非正規労働者の多くは有期労働契約。不安定雇用をどう是正するか。賃金などの処遇格差問題をどう解決するか。
第 8 回	就業規則（社内規程集）の機能と法的役割	就業規則は労働条件決定に決定的な影響をもっている。使用者が作成する労働条件になぜ労働者は縛られるのか。
第 9 回	労働紛争解決制度	裁判以外の，労働審判や行政機関による公的紛争解決制度を学ぶ。 労働問題相談窓口についても知る。
第 10 回	採用・内定・試用	労働契約関係の生成-採用と採用の自由の限界，内定制度そして試用制度を学ぶ。
第 11 回	人事異動	配転-同一使用者の下での人事異動の法理を中心にあと出向・転籍を学ぶ。
第 12 回	解雇以外の雇用の終了	労働契約の終了。終了原因からみると解雇以外にいろいろあることを知る。
第 13 回	解雇の自由と法規制	解雇。解雇の法規制について学ぶ。解雇規制緩和の議論は妥当か。
第 14 回	労働法 A のまとめ	労働法 A で扱ったテーマに関して全体的にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】事前に配布されたプリント (レジュメ) と教科書の該当箇所に目を通しておく。
【復習】講義テーマのポイントについて、自分なりに整理する。

【テキスト（教科書）】
金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第４版]』エイデル研究所　2018
金子征史・藤本茂・大場敏彦他『基礎から学ぶ労働法Ⅱ[第２版]』エイデル研究所　2016

【参考書】
参考文献は開講時にあるいは講義時に指示する。
六法はコンパクトなものでいいが，労働基準法施行規則などが掲載されているものが望ましい。具体的には，開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験（80 %）レポート課題（20%）とし，合計 100 %とする。期末試験は知識の習得を測る穴埋式と記述式を半分ずつ。レポート課題は学期なかばに出す。ホットイッシューを出す。論点を簡潔にまとめているかを重視する。特に意見を問うものではない。

【学生の意見等からの気づき】
声がよく通るようマイクを使う。

労働法 B（2016年度以降入学生、2単位）
労働法（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

藤本　茂

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働法 B は，労働法 A を踏まえ，以下の領域を扱う。
①労働組合法の集団的労使関係法を概観する。②労働基準法を中心に賃金や労働時間などの労働条件論を学ぶ。
現代雇用社会のあり様を見ると，労働組合の役割は益々重要である。また，今日的議論には成果主義賃金や高度プロフェッショナル制度など労働条件が多い。

【到達目標】
授業の到達目標は，労働法の基礎的知識を学ぶことによって，将来，社会人となって経験するであろう労働関係に対して自分なりに論点を把握でき法的に検討できる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でレジュメを配布しそれに従って進める。テキストとの関連がつかめるよう該当頁を示す。
テーマの「胆」を理解できるように，時事的な出来事や裁判例を挙げて講義する。
パワーポイントを使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の開始に際して	労働組合法と労働基準法について
第 2 回	労働組合，労働協約と法	労働組合が組合員の労働条件を使用者と交渉して決定するシステムを学ぶ。
第 3 回	不当労働行為	法は労働組合の活動の自由を保障するため，使用者の行為を規制する。それが不当労働行為。
第 4 回	労働基準法の特徴	労働の自主性確保の重要性を考える。次に最低労働条件を法定したことの意味を問う。
第 5 回	雇用差別の禁止	非正規雇用の処遇格差問題。 男女賃金差別問題。男女雇用差別の禁止。
第 6 回	賃金規制の意義と最低賃金	労基法の賃金規制を概観する。最低賃金や支払方法。
第 7 回	生活確保のための様々な賃金制度	休業手当，非常時払い，倒産して受け取れなくなった賃金が確保される方法など
第 8 回	法定労働時間の原則	労働時間規制の原点を考える。労働時間規制の意義。ブラック企業と長時間労働にも触れる。
第 9 回	労働時間の弾力化	変形制，フレックス制，みなし制。高度プロフェッショナル制度を取り上げる。
第 10 回	労働時間の例外－時間外休日労働	時間外・休日労働について考える。 サービス残業問題、固定残業手当。残業時間上限規制を学ぶ。
第 11 回	休憩・休日	休憩時間，休日確保に関する労基法の規制の考え方を知る。
第 12 回	休暇制度－年次有給休暇を中心に	年次有給休暇制度の概要，その利用。 年休日の決定方法あれこれ。その他の休暇制度
第 13 回	過労死・過労自殺	過労死認定ライン，過労自殺と労災認定，そして会社への損害賠償について
第 14 回	労働法 B のまとめ	労働法 B のテーマに関して整理してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】事前に配布されたプリント (レジュメ) と教科書の該当箇所に目を通す。
【復習】講義テーマのポイントについて、整理する。

【テキスト（教科書）】
金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第４版]』エイデル研究所　2018
金子征史・藤本茂・大場敏彦他『基礎から学ぶ労働法Ⅱ[第２版]』エイデル研究所　2016

【参考書】
参考文献は開講時にあるいは講義時に指示する。
六法はコンパクトなものでいいが，労働基準法施行規則などが掲載されているものが望ましい。具体的には，開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験（80 %）レポート課題（20%）とし，合計 100 %とする。期末試験は知識の習得を測る穴埋式と記述式を半分ずつ。レポート課題は学期なかばに出す。ホットイッシューを出す。論点を簡潔にまとめているかを重視する。特に意見を問うものではない。

【学生の意見等からの気づき】
声がよく通るようマイクを使う。

経営学 A（2016年度以降入学生、2単位）
経営学（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

砂田　充

開講時期：**春学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動のグローバル化に伴い，企業を取り巻く経営環境が複雑化し，企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学，特に経営戦略の基礎的な内容について，経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】
事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について，経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また，そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための数学基礎	関数，グラフ，微分
5	需要の特性	需要法則と価格弾力性
6	事業戦略の考え方	SWOT の分析
7	外部要因の分析①	業界構造分析
8	外部要因の分析②	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動の経営資源
10	費用の構造と規定要因	規模の経済，経験の経済，範囲の経済
11	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
12	コスト優位	コスト・ドライバーとコスト構造
13	差別化優位	差別化優位のドライバー
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社，2004 年）.
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣，2010 年）.
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社，2011 年）
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017 年）.
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合があります。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

経営学 B（2016年度以降入学生、2単位）
経営学（2015年度以前入学生、通年で履修　4単位）

砂田　充

開講時期：**秋学期**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動のグローバル化に伴い，企業を取り巻く経営環境が複雑化し，企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学，特に経営戦略の発展的な内容について，経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】
企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて，経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また，そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化	多角化の内的・外的要因
5	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
6	寡占の企業間競争①	同質財市場
7	寡占の企業間競争②	垂直的差別化
8	寡占の企業間競争③	水平的差別化
9	合併	合併の効果とシナジー
10	企業結合規制	効率性改善と競争制限のトレード・オフ
11	戦略的行動	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的投資	設備投資における戦略的コミットメント
13	略奪価格	低価格戦略の有効性
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社，2004 年）.
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣，2010 年）.
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社，2011 年）
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017 年）.
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合があります。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

特別講義（グローバル資本主義論Ⅰ）

マーサ　チャイクリン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course we will focus on the discourse in which social, economic, political, cultural ideas are expressed through the medium of clothing. I have selected two main factors to focus on. One is from the material culture/economic standpoint of technology. How did trade and technological development effect what people wore? The other is political: How did pressures from the top down effect clothing practices? How did response from the bottom up evoke change?

【到達目標】
To apply visual and material culture technics to historical study
To learn how clothes make the man or woman, and about the social forces that define what we wear.

【授業の進め方と方法】
Lecture, reading, field reports

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outline of course content and expectations
2	What is fashion?	Present a working definition of the class and provide an introduction to fashion theory
3	Methods workshop	Learn how to work with visual sources
4	Clothing before the Industrial Revolution	A historical look at fashion in the past.
5	The Industrial Revolution	The importance of the industrial revolution on dress
6	Asia and the Early Modern World	How trade affected dress
7	Colonialism and dress	How dress and power interact in Latin America
8	Colonialsm and dress II	How dress and power interact in Asia
9	Orientalism and Fashion	The power of perception and dress
10	The French Revolution I	Dress before the French Revolution
11	The French Revolution II	Dress during the French Revolution
12	The age of Iron and Silk	Cotton silk and dress
13	Fashion and Nationalism	What is nationalism and how does it effect what we wear?
14	Presentations	Student Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Presentation
Field reports

【テキスト（教科書）】
To be supplied digitally

【参考書】
To be supplied later

【成績評価の方法と基準】
Presentation 20%
Field Reports 30%
In-Class activities 50%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

特別講義（グローバル資本主義論Ⅱ）

マーサ　チャイクリン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course we will focus on the discourse in which social, economic, political, cultural ideas are expressed through the medium of clothing. I have selected two main factors to focus on. One is from the material culture/economic standpoint of technology. How did trade and technological development effect what people wore? The other is political: How did pressures from the top down effect clothing practices? How did response from the bottom up evoke change?

【到達目標】
To apply visual and material culture technics to historical study
To learn how clothes make the man or woman, and about the social forces that define what we wear.

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, field reports

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview and introduction
2	What is fashion?	Defining fashion for this course and an introduction to fashion theory
3	Visual Materials Workshop	Learn how to use visual materials in academic research
4	The French Revolution and modern dress	Why is the French Revolution the starting point for modern fashion?
5	Dandyism	What is dandyism and what does it say about society?
6	The Belle Epoch	Sociology and the study of fashion
7	Fashion as Industry	What is modern fashion?
8	Nazi Chic	Fashion in a totalitarian regime
9	Communism and fashion	Is there fashion in a socialist regime?
10	Labor and fashion	jeans, overalls, cowboys - is this fashion?
11	Youth culture	How does the rise of youth culture affect fashion
12	Music and fashion	Mods, punks - music and fashion
13	Kimono	Fashion or tradition?
14	Presentations	student oral presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Field reports, presentation

【テキスト（教科書）】
To be provided digitallly

【参考書】
To be provided later

【成績評価の方法と基準】
Presentation 30%
Field reports 30%
In class activities 40%

【学生の意見等からの気づき】
m/a

特別講義（グローバル資本主義論Ⅲ）

マーサ　チャイクリン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To examine samurai in their historical complexity as a part of Japanese history, a construct and a mythological figure in Western perception.

【到達目標】
To learn how to apply critical thinking and analytical thought to a historical topic.

【授業の進め方と方法】
Lecture, student-activity, presentation

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview and expectations
2	What is a samurai?	How do we define what samurai is? Why do we study them? What can we learn?
3	Origins of the samurai	Differing theories as to the origins. Why some scholars prefer one theory over another
4	The medieval Samurai	The specificity of the Medieval Samurai Men Who Tread on the Tigers Tail
5	The Tokugawa Samurai	In what way is the Tokugawa samurai different from his predecessors
6	Material Culture of the Samurai	What kinds of physical objects defined the samurai Nova video on Swords
7	Samurai women	What was the role of women in a male dominated culture?
8	Sexuality	Was there anything unique? Why? Why do we study this?
9	Bushido I	Origins
10	Bushido II	Later Constructs
11	Western perceptions	How was Bushido perceived in the West?
12	Bushido in the Business world	Why is bushido applied to business? Does it accurate reflect the historical ideal?
13	The last samurai	Samurai in the 19th century. Gone but not forgotten?
14	Presentations	Oral

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class readings, presentation.

【テキスト（教科書）】
Supplied in digital format

【参考書】
To be provided later

【成績評価の方法と基準】
Participation and in-class assignments 40%
Film Reviews 30%
Presentations 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券株式会社

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③ M ＆ A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【授業の進め方と方法】
日本の金融システムは、政府管理下での「秩序優先システム」から、市場という公平な場で評価を受ける「市場型システム」へと、大きくその姿を変えた。
資金の調達・運用手法が高度化し、経営戦略としての **M&A** も目新しいものではない。また、投資対象の広がりとともに、多様な金融商品が開発され、そのリスク管理が問われている。
一方、金融商品取引法の施行にあるように、公正な「市場システム」の維持と投資家保護が金融に携わる者の大きな課題である。
本講義を通して、社会人予備軍でもある学生の皆様に、経済の根幹を支える金融システムとその重要性のみならず、経済を考えるヒントを伝えられれば幸いである。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M＆A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。講義で使用するレジュメと小テストを復習することにより、金融知識が身につくはずであり、新聞、ニュースを自分なりの視点から読み解くよう意識する。

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
予習復習をあまりしておらず、授業のみで完結しているという意見が多かったため、経済を読み解く上で参考となるような文献の案内を行っていきたい。

特別講義（Basic Economics A）

ジョン　カレンガ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】
To understand and explain the behavior of the economic agents in the whole economy.To describe the basic economic theories of consumers and producers.

【授業の進め方と方法】
Lecture, students-activity, and presentations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts.
3	Economic activity	Economic systems
4	Economic activity	Diagram of economic flows. Press release presentation 1
5	Introduction to Microeconomic analysis	Basics of Microeconomics, Group presentations 1
6	Introduction to Macroeconomic analysis	Basics of Macroeconomics. Group debate 1
7	Relationship between production and consumption	Notions of demand and supply. Group presentation 2
8	Who get to consume what is produced?	Demand of consumer. Press release presentation 2
9	How should companies combine their production factors?	Production possibilities of the firm. Group debate 2
10	Why wages do not increase?	Labor market and wages. Group presentations 3
11	Why the market is important?	The role of market. Group debate 3
12	Why the price is high or cheap?	How price of goods is determined? Press release presentation 3
13	Why money is important in economy?	Banking and money. Group debate 3
14	What are the world largest economies?	Future of global economy. Group presentations 4. Final report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Press release reading and presentations

【テキスト（教科書）】
小宮一義　世界一やさしい経済の教科書 1 年生　セ- テック社 2016 年 (In Japanese).

【参考書】
Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York: Routledge.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

特別講義（Basic Economics B）

ジョン　カレンガ

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】
To describe the basic economic theories of households and firms. To explain the rational behavior of consumers, producers, and government.

【授業の進め方と方法】
Lecture, student-activity, and presentations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts
3	Economic activity 1	Economic systems
4	Economic activity 2	Economic flow of goods and services. Press release presentation 1
5	Efficiency of production factors	Division of labor. Group presentations 1
6	Cost minimization	Notions of production cost. Group debate 1
7	Relationship between production and consumption	Notions of demand and supply. Group presentation 2
8	Revenue of the firm 1	Demand of the firm. Press release presentation 2
9	Revenue of the firm 2	Notions of total and average revenues of the firm. Group debate 2
10	Revenue of the firm 3	Marginal revenue of the firm. Group presentations 3
11	Why the market is important?	Market structure. Press release presentation 3
12	Types of market 1	Perfect competition. Group debate 3
13	Types of market 2	Imperfect competition. Group presentations 4
14	Final evaluation	Concluding remarks. Final report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Press release reading and presentations

【テキスト（教科書）】
小宮一義　世界一やさしい経済の教科書 1 年生　セ- テック社 2016 年 (In Japanese)

【参考書】
Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York, Routledge, 2014.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

財政学Ａ (市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③世代間格差是正、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論（主にミクロ経済理論）について踏まえた後、市場の限界に対する政府の役割、租税が経済に与える影響などについて学習する。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【授業の進め方と方法】
主に、講義形式で授業を進める。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学では何を学ぶか
第 2 回	政府の経済活動	政府の範囲、財政の基礎
第 3 回	日本の財政制度	財政法、経済財政諮問会議、財政制度等審議会
第 4 回	政府の大きさ１	大きな政府、小さな政府
第 5 回	政府の大きさ２	福祉レジーム論
第 6 回	政府介入の基礎理論１	市場の失敗、外部性
第 7 回	政府介入の基礎理論２	コースの定理、ピグー課税（補助金）
第 8 回	政府介入の基礎理論３	公共財
第 9 回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第 10 回	政党と政策	政党の行動、政党の数と大きさ
第 11 回	租税理論	租税原則、租税の公平性、税の帰着
第 12 回	労働所得税	労働供給に対する影響
第 13 回	消費税	転嫁、最適課税、ラムゼイルール
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメと参考資料を配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『公共経済学（第２版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済

【成績評価の方法と基準】
筆記テストによる期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解を最優先し、授業の内容を柔軟に考えていきます。

財政学Ｂ (市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。財政学Ⅰの内容の理解を前提とした上で、政府の経済活動のマクロ経済的な側面について概説する。主な内容としては、財政金融政策、所得再分配政策、世代間格差の是正である。

【到達目標】
本講義の到達目標は、①わが国財政に関するこれまでの歴史や現状、特徴や問題点について理解を深める、②税制、社会保障、地方財政に渡る包括的・体系的な視点を身につける、③わが国の財政を理解するための基本的な知識について学習することである。

【授業の進め方と方法】
主に、講義形式で授業を進める。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本財政の姿
第 2 回	日本財政の変化	規制緩和、行財政改革
第 3 回	財政政策の効果１	有効需要の原理、乗数効果
第 4 回	財政政策の効果２	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 5 回	財政政策の効果３	クラウディングアウト
第 6 回	所得再分配政策その１	功利主義、マックスミン原理
第 7 回	所得再分配政策その２	所得再分配、社会的厚生、医療、生活保護
第 8 回	公的年金	積立方式、賦課方式
第 9 回	公債の負担その１	建設公債、特例公債
第 10 回	公債の負担その２	新正統派、中立命題
第 11 回	公債発行と財政運営	財政破綻、公債管理政策
第 12 回	世代間不平等の政治経済学	世代会計と世代間格差
第 13 回	シルバー民主主義の政治経済学	確率的投票者モデル、シルバーファースト現象
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメと参考資料を配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『公共経済学（第２版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済
（5）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
筆記テストによる期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解を最優先し、授業の内容を柔軟に考えていきます。

経済政策論 A (市ヶ谷開講)

濱秋　純哉

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府は，ダムや道路の建設，教育サービスの提供，及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で，このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して，ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，ミクロ経済学の考え方に基づき，外部性の問題，望ましい公共財の供給，及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考えることの意味とは？
2	経済学の考え方	「機会費用」，「限界原理」，「インセンティブ」などの概念。
3	市場の働き	完全競争市場における需要曲線と供給曲線。
4	市場の働き	消費者余剰と生産者余剰の概念。社会的余剰と市場の効率性。
5	市場の働き	弾力性の概念。需要・供給の価格弾力性と所得弾力性。
6	企業行動と生産者余剰	企業の総収入と総費用。総費用，限界費用，平均費用。
7	企業行動と生産者余剰	企業の利潤最大化行動と供給曲線の関係。
8	企業行動と生産者余剰	総収入と可変費用の差としての生産者余剰。
9	外部性	外部性の概念。外部性の存在と市場の効率性。
10	外部性	税，排出権取引，及び交渉による外部性の問題の解決。
11	公共財	排除可能性と消費の競合性。公共財の供給とフリーライダー問題。
12	公共財	非競合財の価格設定。公共財の投資基準。共有地の悲劇の解決策。
13	税制の設計	課税の死荷重。売り手への課税と買い手への課税。
14	税制の設計	効率性と公平性から望ましい税制とは？ 税の帰着。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
八田達夫，2008，『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー，2013，『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】
小川光・西森晃，2015，『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

経済政策論 B (市ヶ谷開講)

濱秋　純哉

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また，GDP，物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター），失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活。
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法。
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法。
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法。
5	雇用問題	摩擦的失業への政策的対処。最低賃金引き上げの影響とは？
6	雇用問題	日本の失業の特徴。労働保蔵と求職意欲の喪失。
7	雇用問題	若年者の雇用問題。「世代効果」への政策的対処。
8	IS-LM モデルの構築	古典派とケインジアン。
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図。IS 曲線の導出。乗数効果。
10	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定。貨幣量のコントロール。LM 曲線の導出。
11	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果。クラウディング・アウト。
12	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果。
13	IS-LM モデルの応用	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果。
14	IS-LM モデルの応用	非伝統的金融政策。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また，授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー，2017，『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】
福田慎一・照山博司，2016，『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義，2015，『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

国際経済論 A (市ヶ谷開講)

坪田　建明

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の講義である国際経済論 A は国際貿易論の基本を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、政府が行う貿易政策や国同士が取り決める通商協定についてもその影響を分析する。
経済学の基礎知識は前提としないので、まず最初に基本的な経済学の考え方を紹介してから国際経済の問題を分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際経済学という分野の紹介
2	比較優位	比較優位と分業の利益、国際貿易の基礎
3	比較優位	貿易利益、比較優位の決定要因
4	資源と貿易	ヘクシャー＝オーリン・モデル
5	標準的貿易モデル（1）	相対的供給と相対的需要・貿易と福祉の条件・経済成長、輸入関税、輸出補助金の効果
6	標準的貿易モデル（2）	規模の外部経済と生産の国際立地
7	標準的貿易モデル（3）	グローバル経済の企業：輸出判断、アウトソーシング、多国籍企業
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	貿易政策 (1)	貿易政策のツール
10	貿易政策 (2)	貿易政策の政治経済
11	貿易政策 (3)	発展途上国の貿易政策
12	貿易政策 (4)	貿易政策をめぐる論争
13	地域統合	地域貿易協定の現状と制度、地域貿易協定の経済学
14	国際要素移動	多国籍企業と直接投資／労働の国際移動/環境問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する講義ノートを、講義前と講義後に一読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『クルーグマン国際経済学-理論と政策（上貿易編）』　原書第 10 版、P.R. クルーグマン、M. オブストフェルド、M.J. メリッツ著　丸善出版 4000 円。

【参考書】
石川 城太, 椋 寛, 菊地 徹 著、『国際経済学をつかむ』 第２版、有斐閣　2013 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験の結果に基づいて成績評価を行う。
宿題： 20%、中間試験： 30 %、学期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

国際経済論 B (市ヶ谷開講)

坪田　建明

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際金融の基本を学ぶことを通じて、ニュースや新聞で目にする世界で起きている様々な現象や問題を正しく理解し、分析する能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
国際金融論を学ぶことを通じて、世界経済の中でのお金の動きや、国際収支表の見方、為替市場の仕組みや、為替レートがどのように決定されるのか、などの仕組みを理解し、分析できる能力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
一般の講義形式で行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融とは
2	国際金融取引の基礎	グローバル化するもの・お金の動き、国際収支表の見方
3	外国為替の基礎（1）	為替レートと外国為替市場
4	外国為替の基礎（2）	貨幣、金利、為替レート
5	為替レートの決定（1）	物価水準と長期的な為替レート
6	為替レートの決定（2）	短期的な産出と為替レート
7	為替レートの決定（3）	固定為替レートと外国為替介入
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	国際マクロ経済政策 (1)	国際金融システム：歴史のおさらい
10	国際マクロ経済政策 (2)	マンデル=フレミング・モデル
11	国際マクロ経済政策 (3)	最適通貨圏とユーロ
12	通貨危機の考え方	通貨危機の歴史、発生メカニズム
13	国際通貨制度の考え方	国際通貨制度、国際通貨としての米ドル、円の国際化
14	通貨統合の考え方	ユーロの誕生、通貨統合の便益と費用、国際金融の新しい課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する資料を、事前に学習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『クルーグマン国際経済学-理論と政策（下金融編）』　原書第 10 版、P.R. クルーグマン、M. オブストフェルド、M.J. メリッツ著　丸善出版 5000 円。

【参考書】
『国際金融論をつかむ』橋本優子、小川英治、 熊本方雄著　有斐閣　2007 年　2,268 円。

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
平常点、宿題： 20%、中間試験： 30 %、学期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。また、日ごろから、新聞やニュースに目を通して、世界経済の動きを確認しておくこと。

専門教育科目
演習（選択科目）

各演習（ゼミナール）のシラバスは web 上で確認すること。

注意事項

1. 演習は２時限連続で行われる。2, 3 年次は 1 時限につき 4 単位（計 8 単位)、4 年次は２時限で 4 単位の授業となる。
2. 履修配当年次は２～４年次であるが、演習（ゼミナール）を履修するためには、「ゼミナール選抜」に合格しなければならない。選抜は、前年度の 10 月中旬～ 12 月にかけて、主に 1 年次生を対象に行われる。
3. 演習は、２～４年次にわたり連続して履修することが原則である。途中で所属ゼミナールを変更することは原則としてできない。
4. 4 年次の演習（4 単位）履修者は、卒業論文を提出しなければならない。卒業論文未提出者には単位は付与されない。
5. 卒業論文は、指定提出日にのみ受付ける。いかなる理由があろうとも、事前・事後の受付けはしない。

専門教育科目

社会学部
現代福祉学部 公開科目（自由科目）

市ヶ谷の公開科目のシラバスは
web 上で確認すること。

注意事項

公開科目（他学部聴講制度）とは市ヶ谷を含む他学部の公開科目を卒業までに 16 単位の範囲で履修できる制度である。

〔履修年次〕 3・4 年次

〔単位換算〕 修得した単位は自由科目の卒業所要単位としてカウントするが、16 単位を超えて履修することはできない。

〔登録方法〕 他の専門教育科目と同様に登録すること。但し、多摩の開講科目と市ヶ谷の開講科目を同じ曜日に登録し履修することはできない。

※公開科目の履修に関する注意事項

①社会学部、現代福祉学部以外の各講義は、市ヶ谷キャンパスで行う。また、各講義内容、試験時間割を含む連絡事項等は、公開している学部の「シラバス」や掲示板で確認すること。

② GIS 科目は全て 10 ～ 20 名の少人数制を採用しており、定員をオーバーした場合、第 1 回の授業で選抜を実施する可能性がある。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修ができない場合があるので、注意すること。詳細については、GIS の学部窓口まで確認すること。

③受講制限を設けている科目があるので、詳細については時間割で確認すること。

④ 4 年次生へ…上記他学部公開科目は、卒業再試験の対象外である。

社会学部

産業社会学Ⅰ

上林　千恵子

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「仕事とキャリアを考える」がテーマ。それぞれの人が、仕事を持ち、職業を得るということは、本人にとって、また社会にとってどのような意味をもつのかを考えるための授業。

【到達目標】
職業の意味と、その客観的な位置づけ、企業の性格と企業内で経験するキャリアと職場生活の問題を専門用語を学ぶ中で把握することが目標。また日本社会の雇用に関する数値について、大雑把でもつかんで、将来社会の動向を予測できるようにする。

【授業の進め方と方法】
講義、提出されたリアクションペーパーへの回答、テスト、ゲスト講師の講義、などで構成する。
就職ができない若年者や高齢者が存在する一方、人手を確保できない企業が存在するという両者のミスマッチの背景を、企業の必要とする能力、企業の人事システム、非正規雇用者の実態、の中から探っていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仕事とは何か？	仕事の役割と労働をめぐる思想
第 2 回	職業に貴賤はない？	職業と社会階層の問題
第 3 回	就業構造とは？	産業構造と職業構造との関係
第 4 回	職業能力とは？	企業が求める雇用されるための能力（employability）
第 5 回	学歴は今でも重要か？	学歴とキャリアの関係
第 6 回	会社を辞めたい	失業と転職 有効求人倍率、失業率の算出方法
第 7 回	中間テスト	1〜6 回の授業について産業社会学の専門用語、失業率の計算の方法などを出題
第 8 回	一生を同じ企業で過ごす？	人事管理と年功制度
第 9 回	働いている限りは勉強です	企業内教育訓練
第 10 回	偉くなってみたい	企業の昇進構造
第 11 回	お金が必要	賃金の種類とその配分メカニズム
第 12 回	非正社員も社員か？	非正社員の活用と人事管理
第 13 回	職場メンバーは家族と一緒？	職場コミュニティ
第 14 回	授業内試験	企業の人事管理を中心に試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
職場の変化に関するニュース、労使関係、非正規雇用者および高齢者にかんする法律の改正についての新聞記事をスクラップしておくこと。

【テキスト（教科書）】
上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】
教科書の各項目末に書かれた参考文献を参照すること。

【成績評価の方法と基準】
中間テストと期末テスト、各 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
受講者数にふさわしい教室を確保すること、後方の席からも板書がきちんと見えるように書くこと、などを要望されたので気をつけたい。

社会学部

産業社会学Ⅱ

上林　千恵子

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「周辺労働者と産業社会学の歴史」がテーマ。

【到達目標】
産業社会学は、社会の周辺部に存在する人を対象とした歴史を持つ。春学期で対象とした日本型雇用システムに包摂された人は、日本社会からみると少数者であり、人数の上では、その外にいる人、女性、非正規労働者、高齢者、外国人労働者などの方が多数である。この人たちの実態と政策を考えるのが、今期の目標。

【授業の進め方と方法】
企業と労働組合の役割を概観した後に、女性、高齢者、外国人労働者の各カテゴリーの実態を見る。併せて、そうした人たちへの生活保障と社会保障の内容、産業社会学を成立させている主要概念を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働時間	長時間労働の原因を考える
第 2 回	企業の社会的役割	企業の社会的責任と地域社会との関連を冠 g 萎える
第 3 回	労働組合と労使関係	労働組合の役割と労使関係の性質
第 4 回	女性の働き方	日本および世界の女性の労働力率の変化
第 5 回	ワーク・ライフ・バランスの意義	WLB とは何のために主張されるのか？
第 6 回	日本の高齢社会の及ぼす影響と働き方改革	日本の高齢化が働き方に与える影響
第 7 回	定年制の意義	日本の外国人労働者の実態
第 8 回	中間テスト	専門用語の理解
第 9 回	外国人労働者問題の中身	外国人労働者の人数とその役割
第 10 回	外国人労働者受け入れ政策の検討	日系ブラジル人と技能実習制度
第 11 回	社会保障制度の目的	生活上の安全網
第 12 回	企業の福利厚生と社会保障制度	生活保障に果たす企業の役割と公的社会保障制度との関連
第 13 回	産業社会学の歴史	二重労働市場論と内部労働市場論
第 14 回	授業内試験	秋学期後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
雇用に関する新聞記事をクリップすること、半年間継続すると、最初には分からなかった記事も、理解できるようになる。

【テキスト（教科書）】
上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】
教科書に掲載された参考文献を参照。

【成績評価の方法と基準】
中間テストと期末テストで各 50 %。中間テストの代わりに、読書レポート提出で代替することも考慮中。

【学生の意見等からの気づき】
授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにしています。

社会学部

社会保障法Ⅰ

長沼　建一郎

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の制度的骨格を理解したうえで、その法政策上の論点について検討することが、この講義の基本的なねらいです。

【到達目標】
基本的な制度内容を理解し、重要な論点について考察できること。

【授業の進め方と方法】
この講義では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みを理解することに、大きなウェイトを置きます。その上で、これらに関してどのような法政策上・法解釈上の問題があり、どのような対応が行われているのかを踏まえて、今後のあり方を検討します。春学期には、総論と年金を扱います。（医療保険・介護保険・労働保険・社会福祉については、秋学期で扱います。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	保険の基本的な仕組み
2	総論①	ライフサイクルと社会保障
3	総論②	社会保険の仕組み
4	総論③	民間保険（生命保険と損害保険）
5	総論④	社会保障の体系・機能
6	総論⑤	社会保障の財政・歴史
7	年金①	公的年金の体系
8	年金②	保険料と年金額
9	年金③	国民年金の給付
10	年金④	厚生年金の給付
11	年金⑤	障害年金・遺族年金・女性と年金
12	年金⑥	年金財政と財源
13	年金⑦	私的年金（企業年金・個人年金）
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末定期試験により評価します（100%）。
加えて、授業への積極的な参画（重要な論点に関する意見交換）についても勘案したいと思います（プラスアルファ要素として）。

【学生の意見等からの気づき】
テキスト使用により、板書の労苦を減らすようにしました。

【その他の重要事項】
※　授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
※　なるべく授業内における双方向性を志向したいと思います。

社会学部

社会保障法Ⅱ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の制度的骨格を理解したうえで、その法政策上の論点について検討することが、この講義の基本的なねらいです。

【到達目標】
基本的な制度内容を理解し、重要な論点について考察できること。

【授業の進め方と方法】
この講義では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みを理解することに、大きなウェイトを置きます。その上で、これらに関してどのような法政策上・法解釈上の問題があり、どのような対応が行われているのかを踏まえて、今後のあり方を検討します。秋学期には、医療保険・介護保険・労働保険・社会福祉を扱います。（総論と年金については、春学期に扱います。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会保険の当事者関係
2	医療保険①	医療保険の構造
3	医療保険②	被保険者と保険料
4	医療保険③	保険診療
5	医療保険④	高齢者医療・医療費
6	医療保険⑤	医療提供体制
7	介護保険①	介護保険給付
8	介護保険②	介護提供体制
9	労働保険①	雇用保険
10	労働保険②	労災保険
11	社会福祉①	生活保護
12	社会福祉②	児童福祉・障害者福祉
13	社会福祉③	児童手当・児童扶養手当等
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末定期試験により評価します（100%）。
加えて、授業への積極的な参画（重要な論点に関する意見交換）についても勘案したいと思います（プラスアルファ要素として）。

【学生の意見等からの気づき】
テキスト使用により、板書の労苦を減らすようにしました。

【その他の重要事項】
※　授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
※　なるべく授業内における双方向性を志向したいと思います。

社会学部

社会ネットワーク論Ⅰ

宇野　斉

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステム的な見方とともに、学ぶ。

【到達目標】
1社会現象のネットワーク的な見方の理解
2企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解
3スモールワールドの理解
4社会のシステム的な見方とネットワーの理解

【授業の進め方と方法】
1社会におけるネットワーク現象を理解する。
2企業や地域等のネットワーク現象と運営を考察する。
3実験を通じスモールワールド等の社会現象を考察する。
4システム概念を確認した上で、個人と社会のネットワーク的な関わりを考察する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認する。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介する。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察する。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示した後、ネットワーク上の主体の役割と相互関係を状況確認する。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度におけるネットワークを考察する。
06	企業のネットワーク (2)	企業内の制度外のネットワークを考察する。
07	地域のネットワーク (1)	地域を成立させているネットワークを考察する。
08	地域のネットワーク (2)	ネットワーク現象による地域変化を考察する。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学ぶ。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行う。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察する。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じる。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係をシステム的に考察する。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業時コメント 25%、レポート 25%、その他（顕著な貢献等）追加点を出すことがある。

【学生の意見等からの気づき】
「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘された。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。電子メールが到達する様に設定すること。

【その他の重要事項】
授業計画は、進行によって若干の変更がありえる。

社会学部

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野　斉

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学ぶ。

【到達目標】
1ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
2ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
3組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【授業の進め方と方法】
個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を交えて授業を進める。組織の中でのネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認する。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示する。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行う。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得る。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析する。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明する。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式的関係状況の分析を考察する。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察する。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察する。
10	組織内リンク追加の効果１	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察する。
11	組織内リンク追加の効果２	モデルでの関係追加の個人への効果を考察する。
12	組織内リンク追加の効果３	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察する。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	４つの段階の様相相互の関係を考察する。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業時コメント 25%、レポート 25%、その他（顕著な貢献等）追加点を出すことがある。

【学生の意見等からの気づき】
「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘された。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。電子メールが到達する様に設定すること。

【その他の重要事項】
授業計画は、進行によって若干の変更がありえる。
社会ネットワーク論Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。

社会学部

社会計画論Ⅰ［2017 年度以前入学者のみ開講］

湯浅　陽一

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**
備考：▽ **2017 年度以前入学者のみ履修可**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 地域問題、環境問題の領域におけるさまざまな社会問題の解決をめぐる成功事例と失敗事例について学び、問題解決の成否の意味と、成否を左右した要因連関について検討する。2. 社会制御の過程を把握する社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」論を学ぶ。

【到達目標】
1．社会計画が関与した社会問題の解決過程の事例についての知識を得る。
2．社会制御過程についての社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」を理解する。
3．社会計画についての規範理論的問題群について理解する。

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営システムと支配システムという視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと導入	受講上の注意と授業の導入
2	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析①	事例①：沼津市におけるゴミ問題
3	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-1	事例②-1 ：名古屋新幹線公害問題
4	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-2	事例②-2 ：名古屋新幹線公害問題（ビデオ）
5	地域問題・環境問題の解決過程③	事例③：東北・上越新幹線建設問題
6	地域問題・環境問題の解決過程④	事例④：静岡県コンビナート立地問題
7	地域問題・環境問題の解決過程⑤	事例⑤：東京ごみ戦争
8	地域問題・環境問題の解決過程⑥	事例⑥：高レベル放射性廃棄物問題
9	事例分析の整理と協働連関の両義性論	これまで取り上げてきた事例の整理を行い、協働連関の両義性論と結びつける
１０	協働連関の両義性論①―経営システムによる分析	社会制御システムの二重の意味での両義性と経営システム・経営問題について解説する
１１	協働連関の両義性論②―支配システムによる分析	支配システムと被格差・被排除・被支配問題について解説する
１２	協働連関の両義性論③―２つのシステムの正連動と逆連動	経営システムと支配システムの正連動と逆連動について解説する
１３	社会問題解決の成立条件と規範理論的検討	問題解決過程の基本サイクルと社会問題解決の基本的公準について解説する
１４	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】
舩橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

【参考書】
舩橋晴俊他編，1985，『新幹線公害− 高速文明の社会問題』有斐閣
舩橋晴俊他編，1988，『高速文明の地域問題− 東北新幹線の建設・紛争と社会的影響』有斐閣
舩橋晴俊，2010，『組織の存立構造論と両義性論− 社会学理論の重層的探究』東信堂
他の文献については開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
読書ノート (25 %) と、期末試験 (75 %) で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
事例と理論を組み合わせた講義内容により、深い理解を促すことができる。

社会学部

社会計画論Ⅱ［2017 年度以前入学者のみ開講］

湯浅　陽一

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**
備考：▽ **2017 年度以前入学者のみ履修可**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１．地域問題、環境問題、エネルギー問題の領域に関して、さまざまな社会問題や政策的課題の解決努力の成功や失敗を規定している要因を検討する。２．社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みに対する理解を深める。

【到達目標】
１．社会問題の解決過程について、事例の理解を通して知識を得る
２．社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みとしての社会制御システム論と公共圏の機能について理解する

【授業の進め方と方法】
本講義では、社会制御システムや公共圏の機能という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要と導入	本講義の進め方、主題と導入
2	鉄道政策の事例分析①-1	事例①-1 ：整備新幹線建設− 問題の概要
3	鉄道政策の事例分析①-2	事例①-2 ：並行在来線問題
4	鉄道政策の事例分析②	事例②：旧国鉄長期債務問題
5	鉄道政策の事例分析③	事例③：フランスの新幹線公害対策
6	エネルギー政策の事例分析①	事例①：日本の電力システム
7	エネルギー政策の事例分析②	事例②：原子力エネルギーと地域社会
8	エネルギー政策の事例分析③	事例③：再生可能エネルギーと地域社会
9	エネルギー政策の事例分析④	事例④：再生可能エネルギー導入の国際比較
10	エネルギー政策の事例分析⑤	事例⑤：核燃サイクル問題
11	事例の整理、社会制御システム論と公共圏の機能①	事例の整理を行い、社会制御システム論の視点から解説する
12	社会制御システム論と公共圏の機能②	公共圏の機能と枠組み条件について解説する
13	社会問題の制御に向けて	公共圏の機能と民主主義、社会問題の解決について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】
舩橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂
舩橋晴俊他編，2001，『政府の失敗の社会学』ハーベスト社

【参考書】
舩橋晴俊，2010，『組織の存立構造論と両義性論－社会学理論の重層的探究』東信堂
舩橋晴俊，2012，『核燃料サイクル施設の社会学ー青森県六ヶ所村』有斐閣
舩橋晴俊・壽福眞美編，2013，『公共圏と熟議民主主義ー現代社会の問題解決』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
読書ノート（25 %）、期末テスト (75%) による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
事例と関連づけることによる理論的説明は、理解を促進するので、その方法を基本とする。

【その他の重要事項】
この講義を単独で履修することも可能であるが、社会計画論Ⅰを受講していることが望ましい。

社会学部

地域研究（中国）

大﨑　雄二

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】
現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【授業の進め方と方法】
前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．　読書（参考図書の渉猟）
2．　関連する新聞やネットの記事のチェック
3．　グループ発表、討論の準備

【テキスト（教科書）】
特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】
現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評 15 %＋小論文 50 %＝ 65 %）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表＝ 35 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

社会学部

イスラム社会論［2018 年度以降入学者］

岡野内　正

サブタイトル：**地域研究 (イスラーム)［2017 年度以前入学者］**
開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【授業の進め方と方法】
中東・イスラーム世界研究の新著を受講生全員で検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21 世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト――民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ―新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	イスラエルの国家安全保障とパレスチナ問題の変遷	受講生報告と教員を交えた議論
14	ヨルダン–紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の 2 項目を含むこと。①各回のテキスト部分、授業での質疑応答と討論についての要約とコメント。②各回の議論に関連して、イスラーム社会の現状に関する最近のニュースなどに関連して考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。

【テキスト（教科書）】
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第 3 巻）』ミネルヴァ書房、2016 年

【参考書】
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016 年、1800 円プラス税。
岡野内　正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円プラス税。

【成績評価の方法と基準】
提出された授業日誌について、各項目 50%ずつ 100 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

社会学部

国際協力論［2018 年度以降入学者］

岡野内　正

サブタイトル：**南北問題［2017 年度以前入学者］**
開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】
①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【授業の進め方と方法】
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	問題提起―正義のために資本を使う	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換―コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦―サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編―ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発―ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理―ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
9	アラスカ・モデルの意義―遺産相続の論理と株式配当収益による無条件現金移転	受講生の報告と教員を交えた議論
10	全グローバル企業の90%を包摂する株式所有ネットワーク形成の意義	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカムの財源規模	受講生報告と教員を交えた議論
12	人類遺産相続基金の論理―全人類の相続回復による本源的蓄積暴力の匡正	受講生報告と教員を交えた議論
13	持ち分所有者全員による人類遺産の管理―透明性と熟議直接民主主義	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	持ち分所有者間紛争の非暴力的管理―歴史的正義回復審判所	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の２項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②自分自身の日常生活や国際協力の現状に関するニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2018 年（8 月刊行予定）。

【参考書】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】
提出された 13 回分の授業日誌の２項目ついて、50%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

社会学部

環境自治体論

田中　充

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
住民生活等の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止等を事例として環境行政施策の条例・計画、環境マネジメント、住民参加等を学びます。

【到達目標】
廃棄物問題、温暖化問題等の具体的な環境問題の原因・経過・対策の構造について、自治体環境行政に即して理解します。

【授業の進め方と方法】
講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、原則毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール 廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介します。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水俣市の資源循環型地域づくりを学びます。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	川崎市の公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、環境と産業の調和を目指すエコタウン構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題の原因と影響、その構造を学びます。
8	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例とその取り組みを学びます。
9	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとして飯田市のマネジメントの取り組みを学びます。
10	環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民参加の仕組みを学びます。
11	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策マトリックの概念を学びます。
12	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として風力発電を進める庄内町（旧立川町）を学びます。
13	気候変動への地域からの適応	気候変動の地域への影響に対する適応に取り組む先進地域の動向と課題を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題に関する新聞記事やテレビのニュースに多く接するようにします。授業に関連した指定文献を読むようにします。講義内容の理解を深めるため、２回の課題レポートを作成します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時にビデオ映像を使用します。

【参考書】
宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
・配分は、平常点（リアクションペーパー）30 %、課題レポート 20 %、期末試験 50 %とします。
・リアクションペーパーは１回につき 2 点、全回提出で満点 30 %とします。
・授業のまとめとして満点 50 %の試験を行います。
・リアクションペーパー提出回数が 8 回以下の者は成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【その他の重要事項】
授業中の私語と飲食は厳禁です。悪質な者は退席させます。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞環境政策論
＜研究テーマ＞自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

社会学部

金融システム論

田口　博雄

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組について理解するために必要な、理論および知識の修得を目指します。
また、日本銀行や国際機関などで勤務した際の経験なども、適宜、授業の中に織り込んでいきたいと思っています。

【到達目標】
現在、わが国および世界で生じている金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実際的な知識を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、金融の理論と金融政策運営の実務について、基礎から学んでいきます。
これを踏まえて、後半では、国際金融理論の基礎と国際通貨体制についての知識習得を目指します。
さらに、こうした体系的な学習とあわせて、その時々における、金融経済に関する時事的なトピックも極力とりあげて、解説していく予定です。このため、実際の講義内容は、このシラバスとは少し離れるかもしれません。
また、授業の合間に、世界およびわが国の貨幣の歴史を実際の貨幣のスライドを見ながら振り返り、これを通じて金融の意義を学びたいを思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	金融システム論の概要と日本銀行	教員の自己紹介 講義の流れの説明 日本銀行の役割と組織
②	金融調節の仕組み	短期金融市場の構造とオペレーションによる短期金利の誘導の仕組み
③	金融政策とその波及経路	短期金利の変動がどのように経済・物価に波及していくか
④	デフレ下の金融政策	デフレの下での金融政策の特徴
⑤	リーマンショック後の金融政策	リーマンショック後の金融政策の特徴
⑥	金融政策運営の現状	最近の金融政策運営とその考え方
⑦	最近の金融の特徴と課題	日米欧の最近の金融政策の特徴と今後の課題
⑧	日本の金融システムの特徴	直接金融・間接金融、 金融の自由化の進展
⑨	信用システムの安定装置	自己資本規制、預金保険制度、モニタリング、最後の貸し手
⑩	信用システムの安定政策	1990 年代後半から 2000 年代前半を中心とした信用システムの安定政策の運営状況
⑪	為替相場の決定	物価と為替相場の関係：購買力平価、 金利と為替相場の関係：金利裁定 国際金融のトリレンマ
⑫	国際通貨制度	為替相場制度の変遷、EU と最適通貨圏、カレンシーボード、ドラライゼーション
⑬	金融システム論のまとめ	講義のポイントを整理
⑭	授業内テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わが国および海外諸国の経済金融動向および金融システムをめぐる動きについて、フォローしておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いず、必要なプリントを配布します。

【参考書】
・入門金融論　池尾和人　ダイヤモンド社
・ 新しい日本銀行 (増補版) 日本銀行金融研究所　有斐閣
・入門国際金融第 3 版　高木信二　日本評論社
・日本銀行　翁邦夫　ちくま新書
・日本の金融制度　鹿野嘉昭

【成績評価の方法と基準】
基本的に、期末試験によります (100%) が、適宜、授業内でミニテストを実施し、その結果も加味することも考えています。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果の集計前のため、コメントなし。期末テストの感想欄における意見は、翌年度の参考にしていますので、授業の内容、方法などについて、自由に書き込んでください。

【その他の重要事項】
金融は、学生諸君にとって、最初はやや取り付きにくい分野かも知れませんがなるべく分かりやすく説明していくつもりです。教科書などを読むよりも、理解ははるかにやさしいはずですので、粘り強く受講してください。
ただ、積み重ねが重要なので、毎回、授業に出席することが大切です。

社会学部

メディアの歴史

小林　直毅

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】
政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えていきます。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めますが、２回のリアクションペーパーの提出があります。そのなかの特徴的なもの（優れたものではない！）について、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第２回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第３回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第４回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第５回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第６回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ（１）
第７回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第８回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第９回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第 10 回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ（２）
第 11 回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第 12 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その１）	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第 13 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その２）	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第 14 回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。
講義後に、参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー： 30 %、期末試験： 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料配布します。

社会学部

環境経済学Ⅰ

島本　美保子

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし，環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。

【到達目標】
始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行います。毎回リアクションペーパーで理解度やわからない点について指摘してもらい、次回にそれを共有し解決しながら進んでいきます。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係
2	最低限の経済学知識―需要と供給、余剰分析	環境経済学Ⅰで最低限必要な経済学の知識を習得
3	演習 1	演習問題をみんなで解く
4	環境問題と貿易の関係の実例―熱帯林破壊	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
5	なぜ貿易は推進されるのか（貿易論）	貿易はなぜ推進されるのか、を平易な貿易理論で解き明かす
6	環境問題と貿易の関係の実例―農業貿易（ビデオ）	地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係
7	農産物貿易と農村・アグリビジネスについて	食料自給率や食料貿易、米国などの巨大なアグリビジネスの農産物流通の特徴
8	アグリビジネスのレントシーキング	公共選択論のレントシーキングとアグリビジネス
9	環境と貿易の関係（比較静学）	生産段階で外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
10	貿易と持続可能性、分配	食料貿易と林産物貿易が持続可能な資源管理所得分配に与える影響
11	論争―持続可能性と貿易	農林産物と自由貿易との関係を考える
12	演習 2	環境と貿易の理論の演習問題
13	WTO、FTA、多国間環境条約	国際的な貿易システムの中での環境の扱いについて
14	まとめ	持続可能性と貿易を両立するにはどうすればよいのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、石油など鉱物資源の問題について幅広い知識を身につけておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回詳細なレジュメを配布して、これに基づいて、授業を進めます。

【参考書】
主な参考文献は島本美保子著『森林の持続可能性と国際貿易』，東京：岩波書店（2010）．その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
95%期末試験、5%平常点で評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見等からの気づき】
板書が好評なので、レジュメと板書のバランスを考えていきたいと思います。

社会学部

環境経済学Ⅱ

島本　美保子

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な環境問題として地球温暖化問題を対象領域とし、前半に環境と経済成長の関係について、後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）を学習します。

【到達目標】
前半では環境クズネッツ曲線で実証的な環境と経済成長の関係をみた後、その構造を二重経済発展モデルから学び、経済成長と環境の関係を経済学的に論じることができるようになることを目標とします。
後半は環境の経済的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、時に自分の考えをまとめ議論することも行います。また毎回授業の感想や質問などを記入するリアクションペーパーを利用し、難しい点や議論になる点などを明らかにし共有し解決しながら授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION、最低限の経済学知識ー経済成長	最低限授業に必要な経済学の基礎の学習
2	経済成長と環境―環境クズネッツ曲線	経済成長と環境の関係を示す環境クズネッツ曲線をめぐる議論を紹介
3	経済成長と二重経済発展モデル	そもそも経済成長とはどのように起こるものなのか、という仕組みを学習
4	論争：経済成長と環境	二重経済発展モデルと現実の途上国経済、その環境問題について
5	演習 1	経済成長と環境についての演習問題を解く
6	地球温暖化問題その 1	地球環境問題への導入として『不都合な真実』を観る
7	地球温暖化問題その 2 IPCC 報告書と温暖化懐疑論	地球温暖化問題についての科学的知見について学習
8	地球温暖化問題についての国際交渉	気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定など国際交渉の動向
9	グループディスカッション	地球温暖化問題についてのグループ討論
10	ピグー税の理論	環境税、排出権取引の理論ベースであるピグー税理論の復習
11	環境税	環境税の経済学的な説明、直接規制との関係、導入事例などを学ぶ
12	演習 2	環境税についての演習問題を解く
13	排出権取引	排出権取引の経済学的な説明、発展過程、地球温暖化問題への適用状況を紹介
14	地球温暖化問題と経済的政策手段	地球温暖化問題について経済的手法が経済、環境に与えるインパクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地球温暖化や廃棄物問題といった環境問題や公害問題について幅広い知識を習得しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】
主な参考書は、吉川洋『マクロ経済学』(岩波書店)、速水佑次郎『開発経済学』(創文社)、植田和弘・岡敏弘・新澤秀則『環境政策の経済学』(日本評論社)。その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
95 %期末の試験、5%はリアペなど平常点によって評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見等からの気づき】
パワポよりも板書のほうが分かりやすいという意見が多いので、レジュメ＋板書を充実させます。

社会学部

環境倫理［2017 年度以前入学者のみ開講］

島田　昭仁

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**
備考：▽ **2017 年度以前入学者のみ履修可**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：様々な環境問題を題材にして多角的学問分野からの分析を行い、解説する。そして哲学（倫理学）及び社会学としての考察と解説を適宜行う。
目的：様々な環境問題を通して受苦圏の「痛み」を間接経験し、その経験を通して、地球全体としての環境問題の質的問題について哲学的に深い洞察が行えるようになることを目的とする。

【到達目標】
「エネルギー問題」、「交通問題」、「軍事（基地）問題」、「住環境問題」など諸問題の真相を通して、「環境生物学」から「環境神学」まで幅広く分野を超えた多角的（複眼的）視点を身につけ、最終的にはそれらを止揚した哲学的態度に立てることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
身近な環境問題から昨今時事問題に取り上げられている沖縄・辺野古や豊洲市場の問題などをテーマに選んで、プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。人数によっては 10 班ほどに分けて対話型授業を行う場合もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	環境倫理とは何か。その原点としてのキリスト教の概論。
2	身近な環境と都市計画	高層マンションの環境に与える功罪について。
3	エネルギー政策と環境－ダム	Ｃｏ２削減とダム政策の関係
4	エネルギー政策と環境－原発	Ｃｏ２削減と原発政策の関係
5	エネルギー政策と環境－ドイツの選択	ドイツはなぜ原発廃止の選択を決意したか。
6	交通と騒音－新幹線公害	東京オリンピックの前に起きた新幹線公害問題の真相と、その環境社会学上の意味について解説する。
7	中間まとめ	これまでのおさらい
8	交通と土壌汚染－豊洲市場問題	豊洲市場移転の経緯と土壌汚染問題。
9	軍事－普天間基地問題	普天間基地返還の経緯とその環境問題の真相について解説する。
１０	軍事－辺野古移転問題	辺野古移転に関わる環境問題の真相と住民運動の実態。
１１	震災復興－防潮堤建設問題	震災復興の経緯と宮城県仙台市の防潮堤建設による環境問題。
１２	住環境－緑と環境	千葉県柏市の「牧場の緑と環境を考える会」の活動を通して。
１３	環境倫理学	ディープエコロジー、ガイア仮説、エコロジカルフェミニズムについて
１４	まとめ	キリスト教からエコロジーフェミニズムまで学術的な流れを解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のスライドで解説する際の言葉の一つ一つを集中力を以て聞くことが基本である。

【テキスト（教科書）】
本講義は比較的最近の時事諸問題の真相に深く迫ることが目的であり、市販の教科書ではそれに対応できないため、テキストは独自に作成する。

【参考書】
・『知の史的探究』, 壽福ほか,2016 年, 八千代出版
・「出エジプト記と会話分析」『社会志林』第 63 巻第 4 号, 島田,2017 年 3 月, 法政大学社会学部
・『科学論』, 戸坂潤,1989 年, 青木書店
・『なぜメルケルは「転向」したのか：ドイツ原子力四〇年戦争の真実』, 熊谷徹,2012 年, 日経ＢＰ社

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間のレポート提出による。
②レポート課題は、第 14 回講義内で示す。
＊講義で言及した主題から 10 項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する (30%)、自分の意見とその論拠を記述する (50%)、課題論文についての感想を記述する (20%) の 3 点である。
③評価基準は、主題把握の的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくりと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】
基本的に毎回の授業の終わりの 10 分程度は質疑応答の時間として活用するので、積極的な意見・質問の提示を行ってほしい。

社会学部

環境法［2017 年度以前入学者のみ開講］

井上　秀典

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**
備考：▽ **2017 年度以前入学者のみ履修可**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境と法

【到達目標】
環境に関する国内外の基本的な法制度の理解を目指すとともに、問題点を理解する。国内環境法と国際環境法の密接な関係を理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
最近、有害化学物質、土壌汚染、廃棄物・リサイクル、環境影響評価、気候変動,
遺伝子組換生物などの問題が話題となっている。講義では、このような環境問題に対する法が現在どのような状況にあるのか、さらに、法が問題解決のためにどのような役割を果たしているのかを考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講ガイダンス	受講にあたってのガイダンスを行う。
第 2 回	環境法の歴史	足尾鉱毒事件からから現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。
第 3 回	環境基本法と環境基本計画	環境基本法とそれに基づく環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。
第 4 回	大気汚染・水質汚濁	大気汚染および水質汚濁に関する国内法制度を検討する。
第 5 回	廃棄物問題と法	廃棄物問題に対し、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、各種リサイクル法について解説する。
第 6 回	有害廃棄物の越境移動	有害廃棄物の越境移動問題をめぐる国内法・国際法上の枠組みについて解説する。
第 7 回	環境影響評価	環境影響評価制度について説明し、その役割および問題点を探る。
第 8 回	土壌汚染・化学物質	土壌汚染対策法を中心に近年の土壌汚染問題を検討する。また、化学物質関連法にも触れる。
第 9 回	被害者救済制度、環境紛争の調停	被害者救済制度ならびに環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。
第 10 回	環境訴訟と法（1）	環境分野の民事訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解決する。
第 11 回	環境訴訟と法（2）	環境分野の行政訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解説する。
第 12 回	地球規模の環境問題と法（総論）	地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みおよび特徴を検討する。
第 13 回	気候変動 1	気候変動に関して条約および国内法について検討する。京都議定書採択までを扱う。
第 14 回	気候変動 2	京都議定書採択以降、パリ協定採択から現在までを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事やインターネットを通じて環境法に関連する事項の学習をすること。
環境法関連書籍を図書館等で学習すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は、井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版を使用し、さらに関連資料を配付する。

【参考書】
大塚直『環境法 Basic 』有斐閣、北村喜宣『環境法』弘文堂、『環境白書』（環境省）、『環境法辞典』（有斐閣）、『環境法判例百選』（有斐閣）、『ベーシック環境六法』（ぎょうせい）

【成績評価の方法と基準】
試験（80 %）および平常点 (20 %) によって成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
板書について改善工夫をする。

異文化心理学

奥山　今日子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】
この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【授業の進め方と方法】
講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「ほくはくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング（2）	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き)。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴　（解説付き)。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き)。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き)。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き)。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『こころの処方箋』　河合隼雄　新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

地域遺産マネジメント論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】
さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 4 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 5 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 7 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 8 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 9 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群、歴史的町並みの活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (4)	地域遺産としての近代の文化遺産の活用、食文化など
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点 – 文化遺産保護から伝統文化の継承へ –』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論 – 文化遺産保護の新たな展開に向けて –』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）30%、課題レポート 70 % により
評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

文化環境創造論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】
文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
文化環境とは何か、地域社会 (コミュニティ) の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用①
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	近代の文化遺産の保存・活用② 横浜村と都市ヨコハマの形成
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	自治体条例と文化環境創造事業
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み (7)	文化環境創造と文化財支援団体
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①出席確認：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
③試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
④評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）30%、課題レポート 70%により評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

福祉国家論 (2014 年度以降入学生)

畠中　亨

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、現代における労働や福祉制度の問題を「福祉国家」のキーワードから考えます。まず、現在の日本を含み先進国で起こっている、貧困、排除、雇用の不安定化、少子化、家族の変化といった社会問題の状況を幅広く学びます。その上で、先進国（主にイギリスと日本）が近代化の中で形成してきた福祉国家の姿とその変容を歴史の観点から学び、そこから現在の社会問題が起こる要因を考えます。

【到達目標】
「福祉国家」の概念を理解する。
先進諸国で起こっている社会問題に関する幅広い知識を身に着ける。
福祉国家の形成と発展の歴史を理解する。
現在の社会問題の発生要因を歴史の観点で考える。

【授業の進め方と方法】
講義が中心だが、学生参加の機会を持つ。必要に応じて現代の社会問題に関する映像資料やゲスト講師による講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の概要	「福祉国家」の概念 「福祉」の意味
第 2 回	現代先進国の社会問題①	社会問題とは何か 社会問題の拡大
第 3 回	現代先進国の社会問題②	少子化と家族の変化
第 4 回	現代先進国の社会問題③	失業とは何か 雇用の不安定化
第 5 回	現代先進国の社会問題④	格差と貧困問題 なぜ格差は問題なのか
第 6 回	現代先進国の社会問題⑤	社会保障の行き詰まり 社会福祉の目的の変化
第 7 回	福祉国家の理論	ベヴァリッジ・プランが目指したもの ケインズ理論
第 8 回	福祉国家の歴史①	社会福祉の起源 封建制の崩壊・近代化と人々の生活の変化
第 9 回	福祉国家の歴史②	社会保険の起源 労使関係の生成
第 10 回	福祉国家の歴史③	資本主義の発展と福祉 福祉国家の成立
第 11 回	福祉国家の歴史④	戦後福祉国家の発展 福祉国家の類型化
第 12 回	福祉国家の歴史⑤	福祉国家の危機 新自由主義の台頭
第 13 回	現代の社会問題の再考	社会保障の新たな可能性を探る 反新自由主義の社会運動
第 14 回	まとめ	講義の振り返り 理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと配布資料の予習をしておくこと。
講義の単元ごとに復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
清水教恵・朴光駿著『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房　2600 円＋税　2011 年

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０%）、期末試験（６０%）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに出された疑問や意見を大切にしたい。

地域経営論

松本　昭

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２１世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO 等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方につて考察する。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。
・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係、
・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【授業の進め方と方法】
授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということを常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して進めたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第２回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第３回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営　・参加型まちづくりから協働・協創（共創) 型地域経営へ
第４回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第５回	・まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係　・まちづくり条例の系譜と展望
第６回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態　・まちづくり紛争の予防と調整
第７回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性　・協議調整型まちづくりとは
第８回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第９回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI 制度等の民間活用の施設整備）
第 10 回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第 11 回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから　・マンション住宅地…管理組合と自治会
第 12 回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営
第 13 回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり　・リノベーションまちづくり
第 14 回	講義の総括	・レポートの提出と発表　・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー５０％
②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション５０％

【学生の意見等からの気づき】
新規担当によりなし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

国際支援論

佐野　竜平

サブタイトル：**国際福祉論 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバルな時代における現代福祉に関連した国際協力および開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉と国際協力・開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【授業の進め方と方法】
国連・政府・民間機関等の役割に触れつつ、広く現代福祉と国際協力・開発の関わりを考察する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介する
第 2 回	国際協力とは	主要課題から国際協力と現代福祉を考える
第 3 回	人間の安全保障とは	人間の安全保障と現代福祉に関する理解を深める
第 4 回	国際機関と国際協力	主に国連による国際協力と現代福祉を理解する
第 5 回	政府と国際協力	主に日本政府による国際協力と現代福祉を理解する
第 6 回	NGO と国際協力	主に日本の国際 NGO による国際協力と現代福祉を理解する
第 7 回	民間企業と国際協力	主に日本の民間企業による国際協力と現代福祉を理解する
第 8 回	国際協力と人権条約	現代福祉に関連する各国際人権条約のポイントを日本の比較の中で考える
第 9 回	諸外国の国際協力	世界の主要国・新興国による国際協力と現代福祉について理解する
第 10 回	国際協力と実際の仕事	国際協力と現代福祉に関わる具体的な仕事・職種を議論する
第 11 回	関心のある国際協力課題発表①	国際協力と現代福祉テーマ 1 に関するプレゼン発表・質疑
第 12 回	関心のある国際協力課題発表②	国際協力と現代福祉テーマ 2 に関するプレゼン発表・質疑
第 13 回	関心のある国際協力課題発表③	国際協力と現代福祉テーマ 3 に関するプレゼン発表・質疑
第 14 回	レビュー	本講義の主要事項を振り返り、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最新の国際情勢に関するニュース等を熟読。課題へのタイムリーな対応。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
外務省　開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30%、プレゼンテーション作成・発表： 40%、課題レポート： 30%

【学生の意見等からの気づき】
アジアを中心に最新の国際事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。

福祉の思想と歴史

白川　耕一

サブタイトル：**福祉の思想と歴史Ⅰ (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
題目「第 2 次世界大戦後のドイツ福祉国家―形成・展開・未来―」どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題である。現状を世界史的視野で考察し、将来への展望を切り開くために、ドイツの歩みを検討したい。
本講義では、主にドイツ連邦共和国（西ドイツ、現在のドイツ）の動向が中心的に扱われる。制度の歴史というより、時代の課題に福祉がどのように対応したのかに注目したい。

【到達目標】
・（西）ドイツを事例に、福祉国家の展開を知る。
・現在の日本の状況を、世界史的視野で考察し、位置づける。

【授業の進め方と方法】
講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	講義概要の説明
2.	福祉国家への道	社会保険の導入
3.	戦争と福祉国家 (1)	第 1 次大戦のインパクト
4.	戦争と福祉国家 (2)	ナチズムと福祉国家
5	戦後の再建	1940 年代の動向
6.	50 年代の改革	社会保険改革
7.	福祉国家の新しい任務	1970 年代の改革と停滞
8.	「新しい社会問題」の発見 (1)	社会的排除への意識
9.	「新しい社会問題」の発見 (2)	高齢者
10	家族政策	80 年代の改革
11.	グローバル化 (1)	外国人労働者問題
12	グローバル化 (2)	難民問題
13.	ドイツ統一と福祉国家	1990 年代
14.	家族の変容と改革	2000 年代の改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ペースに合わせて、文献を読むことが望ましい。
・山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書　2017 年）は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
川越修・辻英史編『社会国家を生きる』（法政大学出版局　2008 年）
川越修・辻英史編『歴史のなかの社会国家』（山川出版社　2016 年）
田中拓道『福祉政治史』（勁草書房　2017 年）
水島治郎『反転する福祉国家―オランダモデルの光と影』（岩波書店　2012 年）
宮本太郎他編『社会保障と福祉国家のゆくえ』（ナカニシヤ出版　2012 年）
山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書　2017 年）

【成績評価の方法と基準】
１．学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
２．筆記試験の得点（７割）、平常点（３割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
板書があまりシスティマテックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。

地域ツーリズム

南　賢二

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、人間の文化活動である余暇行動の中のツーリズムについて、我が国における歴史的な経緯を理解したうえで、人間にとってツーリズムとは何か、地域にとってツーリズムはどのような役割を担うものなのかについて基礎的な理解を進める。その上で、今後の社会において人々が心豊かな活を送り、また地域の振興を図るためのツーリズムの活用方策について、その特性と構造、市場環境の変化そして地域ツーリズムの実現化方策までを体系的に理解することを授業の目的とする。

【到達目標】
第１ステップでは、文化行動としてのわが国固有の地域ツーリズムの特徴や欧米等との相違点等を学び、第２ステップでは、地域ツーリズムを活用展開していくために理解すべき、その役割や仕組み、構造、特性等について理解を進める。第３ステップでは、国民が心豊かな生活を送り、地域が振興発展するための地域ツーリズムの展開手法について、既存観光地や農村、自然地域などの地域特性に応じた考え方や展開方策について学ぶ。

【授業の進め方と方法】
ツーリズムにかかわる基礎的な情報は多様かつ膨大であり、板書では対応しきれないため、原則として毎回資料を配布しその内容に関する解説を行う。地域やツーリズムの実態や地域ツーリズムの展開手法等に関しては、適宜画像や映像等を用いて理解を促す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ツーリズムの基礎的概念	授業の狙い。ツーリズムの概念と用語の用法等
	我が国におけるツーリズムの歴史（１）	江戸期以前における我が国のツーリズムとその政策
第 2 回	我が国におけるツーリズムの歴史（２）	明治から昭和初期にかけてのツーリズムとその政策
第 3 回	我が国におけるツーリズムの歴史（３）	戦後から現代までのツーリズムとその政策。我が国における地域ツーリズムの特性（総括）
第 4 回	ツーリズムの役割	ツーリズムが果たすべき、人や地域、国家に対する様々な役割
第 5 回	ツーリズムの全体構造	ツーリズムにおける発地と着地の特性や役割、およびツーリズムに関わる行政や事業者の役割
第 6 回	ツーリズムにかかわる人の行動タイプ分類	観光、レクリエーション、バカンス（リゾート）における行動パタンの相違
第 7 回	ツーリズム行動を誘発する資源の分類と特性	観光資源、レクリエーション資源、リゾート資源の特性と分析
第 8 回	ツーリズムを受け入れる着地側の対応手法	行動タイプに対応した着地側の受け入れ態勢の在り方やその相違点
第 9 回	ツーリズムのマーケット構造	市場の特性および変化とその将来予測
第 10 回	地域別対応手法（温泉地、温泉リゾート）	温泉地等の現状と課題及びその再生手法
第 11 回	地域別対応手法（海浜リゾートの整備手法）	島嶼や海浜地域における地域ツーリズムの展開手法
第 12 回	地域別対応手法（山岳高原リゾートの整備手法）	山岳高原地域における地域ツーリズムの展開手法
第 13 回	地域別対応手法（グリーンツーリズムの展開手法）	中山間地域等の農林業地域におけるグリーンツーリズムの展開手法
第 14 回	地域別対応手法（災害と観光）。総括	災害被災地におけるダークツーリズムの展開手法。講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的に新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を通じて触れることのできる旅行情報や、ツーリズムを活用した地域振興の動きを把握し、そこにおいて訪れる側は何を求め受け入れ地側は何を期待しているのかを考え、さらに想定される訪問者側の行動パタンやそれに対する受け入れ態勢等について自分なりに予想や分析を行い、効果的な地域ツーリズムの展開方法について考える。

【テキスト（教科書）】
各回ごとに講義資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
講義の情報量が多いため、期末試験（６０％）の前に中間テストを 2 回（計４０％）程度実施する。

【学生の意見等からの気づき】
20 歳前後の大学生では、まだ旅行経験は豊富とは言えないため、できる限り国内外の事例等を紹介して理解を促す。

地域文化政策論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】
文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支脈をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 2 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 3 回	文化振興プランと自治体	文化振興プランと自治体の取り組み
第 4 回	人間の行為と人権保障	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 5 回	文化関係法の概要	文化関係法の体系と内容
第 6 回	自治体の文化関係条例	東京都・神奈川県の事例、行政組織
第 7 回	エコミュージアムと遺産	エコミュージアムの機能と地域遺産保護
第 8 回	文化財と保護の歩み	文化財の類型と保護の歩み
第 9 回	文化財の保存と活用（1）	史跡の保存と活用の実態
第 10 回	文化財の保存と活用（2）	建造物の保存と活用の実態
第 11 回	文化財の保存と活用（3）	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第 12 回	近年の文化財政策の動向	近年の文化財概念の変遷と政策動向
第 13 回	新たな文化財政策の展開	新たな文化財政策の取組みと展開
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）30%、課題レポート 70 % により評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。なお、2018 年度新規担当のため、2017 年度はアンケートを実施しておりません。今後参考にします。

【その他の重要事項】
専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

現代福祉学部

都市住宅政策論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。
最後に、21 世紀において我が国がとるべき住宅政策のあり方を考察する。

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とシアトルの NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国の住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	海外の住宅政策③	ドイツ・スウェーデンの住宅政策と開発事例
第 14 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
授業支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2017 年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に授業支援システムに掲載する。

コミュニティアート

吉野　裕之

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】
本講義でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指す。こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第 2 回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第 3 回	ＮＰＯ・市民活動の意義	ＮＰＯ・市民活動の意義の説明。
第 4 回	市民主体のまちづくりの事例（1）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第 5 回	市民主体のまちづくりの事例（2）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 6 回	市民主体のまちづくりの事例（3）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 7 回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第 8 回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第 9 回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第 10 回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第 11 回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第 12 回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第 13 回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第 14 回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30 点　中間レポート： 20 点　期末レポート： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度と同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの回答が多かった。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

教育学

藤本　典裕

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】
1．教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2．人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3．近代教育の思想について理解し、現代における変質について考察できる。
4．現代社会における教育の問題点を指摘し、各自の見解を整理して発表できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする（学生の意見発表と討論も予定）。
学期末に試験を実施するが、学期中に小レポートの提出も求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	講義概要の説明など
第２回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第３回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第４回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第５回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第６回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第７回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第８回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第９回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 10 回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 11 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 12 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 13 回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それがもたらす教育機会の不平等について検討する。
第 14 回	あらためて教育について考える－講義のまとめ－	講義全体をふりかえり、あらためて教育の意義などについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の終わりに次回の内容を予告するので、その内容に従って準備すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】
堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989 年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997 年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990 年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994 年
橘木俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010 年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（70 点）、小レポート（30 点）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】
教育に関する基礎的な考え方を提供することを目的としているため、個々の事象についての検討が不十分な部分も見受けられる。参考文献の紹介などを通じて補足したい。

ソーシャルイノベーション論

土肥　将敦

サブタイトル：**社会起業論 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広まっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】
本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。
①グローバル/ローカルなソーシャル・エンタプライズの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】
社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・エンタプライズは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・エンタプライズを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・エンタープライズを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタープライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する（A 事例）。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する（B 事例）。
第 14 回	CSR について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する（C 事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトに目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。

【テキスト（教科書）】
講義中に指示します。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】
講義リアクションペーパーおよびミニレポート課題（30 %）、期末試験（70 %）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

ＮＰＯ論

松元　一明

サブタイトル：**非営利組織の運営 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では「NPO/非営利組織」の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源との関係について学びます。

【到達目標】
NPO/非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPO の事業を考え、事業のプレゼンテーションを行えるようにします。

【授業の進め方と方法】
前半は、NPO の概要ならびに他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業、助成財団など）との関係について、具体的事例を交えて講義を進めます。リアクションペーパーの提出あり。また後半は、テーマに沿ってグループワークを行い、最終的にグループによるプレゼンテーションを実施します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	講義の進め方の解説と、NPO についてのイメージの把握。
第 2 回	NPO の基礎知識	NPO に関する資料を利用し、NPO の基本的なことを理解する。
第 3 回	NPO の具体的事例	NPO の実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 4 回	NPO の社会的役割	テキスト第 2 章をもとに、NPO の定義や NPO のもつ社会的な役割について理解する。
第 5 回	ボランティア活動の理解	テキスト第 1 章をもとに、NPO や市民活動におけるボランティアの位置づけや、その意義について理解する。
第 6 回	NPO の組織と運営について	テキスト第 3,4 章をもとに、NPO の組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	NPO と行政との協働	テキスト第 5 章を参照し、NPO と行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	CSR の考え方と展開	テキスト第 6 章をもとに、企業の社会貢献の歴史や、NPO の発展へどのように寄与したのか理解をする。
第 9 回	NPO の中間支援組織	テキスト第 7 章をもとに、中間支援組織の役割について学び、NPO の発展にとって持つ意味について理解する。
第 10 回	市民活動や NPO の現在	市民活動や NPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介をおこなう。テキスト第 2 部も参照する。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、自由討論とグループワークにより NPO 理解を促進する。
第 12 回	グループワーク②	テーマに基づいたグループワークの実施
第 13 回	グループワーク③	グループワークのまとめ。アウトプットの完成。
第 14 回	グループワークプレゼンテーション/まとめ	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に必ず読んでおくこと。また自らが関心をもつ非営利組織の活動に参加することを推奨する。グループワークに関しては、テーマにそった準備学習が必須である。

【テキスト（教科書）】
社会福祉法人 大阪ボランティア協会 編 2011『テキスト市民活動論－ボランティア・NPO の実践から学ぶ－』（￥ 1,620）

【参考書】
テキストの巻末資料（関連文献）を参照。他に必要なものは随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワーク・プレゼンテーションへの積極的な参加や、リアクションペーパーを含む平常点（50 %）、期末試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
初学者にもわかりやすい講義に努める。出席に関する不正はもちろんのこと、グループワークやプレゼンテーションにおける無責任な行為（無断欠席など）には厳しく対処する。

【学生が準備すべき機器他】
講義形式でおこなうが、適宜パワーポイントや映像も使用する。

老年学

新名　正弥

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進める。各回の内容についてリアクションペーパーを提出を通じて、理解を深めてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第 2 回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第 3 回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第 4 回	老化の概念と学説（1）	老化の生物学説・心理学的加齢の考え方
第 5 回	老化の概念と学説（2）	老化の社会学説
第 6 回	高齢者の健康と生活の質（1）	高齢者の健康と疾病
第 7 回	高齢者の健康と生活の質（2）	精神的疾患、ＱＯＬ、予防活動・ヘルスプロモーション
第 8 回	高齢者の精神的・心理的特性	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ、老年的超越概念
第 9 回	高齢期と社会	高齢期の社会的特性と老年社会学のアプローチ
第 10 回	高齢期の社会関係と社会参加	高齢期における人間関係と家族、社会関係、社会活動やボランティアなどの社会参加、政治参加
第 11 回	高齢期の経済と所得保障	高齢者の経済状況と所得保障
第 12 回	定年と就労	定年制度と就労
第 13 回	高齢期の介護と終末期	高齢期におけるケア
第 14 回	高齢社会の構想	高齢化社会と政策対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健帛社

【参考書】
東京大学高齢社会総合研究機構編（2013）「東大がつくった、確かな未来視点を持つための高齢社会の教科書」ベネッセコーポレーション

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り（20 %）、中間レポート（20 %）、期末試験（60 %）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立しておらず、幅が広い学際的領域なので、都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

居住福祉論

大原　一興

サブタイトル：**居住福祉 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】
居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定３〜２級レベルの知識の習得。

【授業の進め方と方法】
毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。実例調査レポートの作成。
基本的に隔週、第２回目以降は２時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。
第１回　　：４月１０日　4 時限
第２・３回：４月２４日　4・5 時限
第４・５回：５月　８日　4・5 時限
第６・７回：５月２２日　4・5 時限
第８・９回：６月　５日　4・5 時限
第 10・11 回：６月１９日　4・5 時限
第 12・13 回：７月　３日　4・5 時限
第 14 回　　：７月１７日　4 時限

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第２回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第３回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第４回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第５回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた ICF の考え方
第６回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第７回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第８回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第９回	ハウスアダプテーション・住宅改造 福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第 10 回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第 11 回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第 12 回	コハウジング　共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第 13 回	コハウジング　共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第 14 回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料や参考資料の予習
常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】
基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】
野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定１，２，３級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】
平常点と小レポート（70 %）、レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
2 時間続きの授業のため、講義のみ続けて行うと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

社会学特講

左古　輝人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】
社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式。質問・感想は歓迎するが、専用の用紙を用いることが望ましい。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
2	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
3	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
4	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
5	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
6	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
7	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
8	消費化社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
9	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
10	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
11	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
12	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
13	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
14	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。

【テキスト（教科書）】
左古輝人『畏怖する近代』法大出版２００６年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書１９９２年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書１９９８年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房２０１１年。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、平常点３０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業運営の適切さを改めて確認できた。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設定していない。面談したい場合は必ず事前に電子メールで問い合わせること。

現代福祉学部

ソーシャルマネジメント論

樋口　邦史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に授業を行う予定である。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディ等を用いて紹介する。事前学習とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	授業の進め方について 授業で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントはなぜ必要か 企業/行政/研究/コミュニティの相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは	CSR 経営は何故必要なのか
4	企業と社会の関わり	社会における企業の機能と役割り
5	社会環境の変化への対応 ①　企業組織	企業組織について 企業におけるマネジメント
6	同上②　行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③　研究組織	研究組織の特色とマネジメント
8	同上④　コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色とマネジメント
9	ソーシャルマネジメント実践例	キリンの CSV
10	知識を集合化するコミュニケーション技術	コミュニケーションの機能と役割り
11	演習①	コミュニケーション技術を用いたグループワーク
12	演習②	産官学民の合意形成に関するグループワーク
13	演習③	法政大生が取り組む SDGs
14	まとめと展望	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では事前レポート（A4 1 枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。

【テキスト（教科書）】
遠野みらい創りカレッジ編著「学び合いの場が育てる地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %、事前レポート　50 %、グループ討議等での発表　20%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。

【学生が準備すべき機器他】
課題レポートの事前登録は、講義（授業）支援システムを利用して下さい。

現代福祉学部

ソーシャルファイナンス論

雨宮　寛

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本をはじめ、世界の国々は様々な社会・環境問題に直面しています。自然災害や気候変動、感染症等の公衆衛生問題、貧困問題等、国連や政府だけでは十分に対応できない課題が同時発生しています。これらの課題に十分に対応できない大きな理由は資金不足です。経済格差が進んでいる中、社会・環境問題に取り組むための資金は不足しています。金融（ファイナンス）が世界の豊かさを広く実現するために機能しているのではなく、資金を持っている人がより多くの資金を持てるように小さな世界でのみお金が還流している状況に陥っています。ソーシャルファイナンスは、課題解決に必要な資金の手当てを可能とする、本来の金融（ファイナンス）の役割を実行するための方法です。本授業では、基本的なファイナンスの知識として、従来の金融の取組みについて学び、そして、現在、多様な形で広がっているソーシャルファイナンスの取組みについて、日本の金融機関や投資家も積極的に推進している ESG（環境・社会・企業統治）や国連 SDGs（持続可能な開発目標）の現状などにも触れながら学びます。

【到達目標】
講義を通じてソーシャルファイナンスに関する情報収集と理解を深めるとともに、受講生が問題解決に向けて取り組みたい課題を考え、課題解決に必要な資金規模、資金調達方法、パートナーやステークホルダーについて分析することで、ソーシャルファイナンスの必要性・可能性について考察をする。

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、本授業のプロジェクトとして課題を提供し、授業内での発表等行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ソーシャルファイナンスとは	ソーシャルファイナンスの一般的な理解について解説
2	金融とは	ファイナンス（金融）の概要
3	社会的責任投資（SRI、ESG) について	投資リターンと社会的なリターンも追及する投資手法について解説
4	ソーシャルファイナンスに関連するガイドラインやインデックス	ソーシャルファイナンス普及に向けたガイドラインやインデックスについて解説
5	環境とファイナンス	ESG（環境・社会・ガバナンス）の環境における金融の役割
6	社会とファイナンス	ESG の社会における金融の役割
7	ガバナンスとファイナンス	ESG のガバナンス（企業統治）における金融の役割
8	インパクトインベストメントの潮流	マイクロファイナンス、再生可能エネルギー、農業ファンド、低所得層住居
9	成長するインパクト金融	クラウドファンディング
10	マルチステークホルダーによるインパクト金融（1）	ソーシャルインパクト債
11	同上（2）	ふるさと納税
12	担い手の事例	運用会社や事業会社事例
13	本講義のまとめおよび期末課題について	期末レポートの課題発表（予定）
14	本講義に関する Q&A および期末課題の提出	課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
金融に関する用語や時事に触れる機会を増やすため、新聞やネット等の情報をもとに気になった金融関連ニュースを簡潔に発表して頂きます。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、授業内プレゼンテーション（20 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
大学生はまだ金融市場や金融サービス業に馴染みがないと思われるので、分かり易く基礎も解説していきたい。クラウドファンディングや寄付など、大学生も主体となっている金融の分野があるので、その点も詳しく解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外で、紙・ネット媒体等、様々な情報源を用いて積極的に授業に参加して下さい。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも参考です。授業の進捗によっては内容は異なります。授業全体を通じて計画に記載している内容を網羅していきます。

現代福祉学部

日本人の心理特性と文化

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の童話 (「だれも知らない小さな国」佐藤さとる) を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】
童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【授業の進め方と方法】
毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	講義の概要と童話の概要説明	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
第 2 回目	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回目	第 2 章「小さな黒いかげ」1〜5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回	第 2 章「小さな黒いかげ」6〜10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回	第 3 章「矢印の先っぽ」1〜5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回	第 3 章「矢印の先っぽ」6〜10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回	第 4 章「わるいゆめ」1〜5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回	第 4 章「わるいゆめ」6〜10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回	童話全体のテーマとストーリー (1)	童話全体のテーマやストーリーにどんな風に日本的心理が表れているかを読み解いていく
第 12 回	童話全体のテーマとストーリー (2)	童話全体のテーマやストーリーにどんな風に日本的心理が表れているかを読み解いていく
第 13 回	日本人の心理行動特性について (1)	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般に対して解説する。
第 14 回	日本人の心理行動特性について (2)	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般に対して解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「だれも知らない小さな国ーコロボックル物語 1」佐藤さとる 著 (講談社 青い鳥文庫) 670 円

【参考書】
その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に 2 つの課題レポートを提出してもらいます。成績はレポート 2 つ分の合計点で評価（100 %）をします。平常点はレポート評価が D 評価（60 点未満）の場合にのみ、C 評価に変更する否かの参考に使います（この場合でも加点は 10〜20 %程度）。

【学生の意見等からの気づき】
日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト (童話)」を持参してくること。

災害支援論

大島　隆代

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が起きたことによって生じてくる生活課題への支援について総合的に学び、災害支援のあり方や防災・減災に向けて私たちは何ができるのかを考えていく。また、災害時後に限らず、人や地域を支えていくことの意味を問い直していきながら、災害大国ともいわれるわが国で生活を送る上で見つめるべきことを探っていく。

【到達目標】
・災害時および災害後に必要とされる支援体制や支援方法について知り、今までの実践事例から、具体的な支援のあり方の理解を深める。
・わが国および世界にも目を向けて支援の動向を知り、日々の生活でどのような予備的対応を整えていくべきかを考える。
・「支えるために近づくこと」や「地域とそこに生活する諸個人の関係性」などを考えることを通して、人や地域を支えていくことを問い直してみる。

【授業の進め方と方法】
講義の他にも、事例検討やグループワーク等を通して学生自身が課題解決に取り組む作業や、災害支援について理解を深めるために映像資料等を視聴する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーション	授業の概要や目的および進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。
2	さまざまな災害の様子を振り返る	わが国および世界で起きたさまざまな災害について文献や映像等で振り返る。
3	さまざまな災害への対応を振り返る	災害における対応の実態について振り返り、どのような支援が求められているのかを理解する。
4	災害支援と学問	災害支援に関する学問や研究の歴史を知り、近年の動向を概観する。
5	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと①	災害後の緊急救援時における対人援助の専門職による実践の様子を知り、何が求められるのかを考える。
6	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと②	避難所から仮設住宅での生活の変容を理解し、支援のあり方を考える。
7	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと③	生活再建や地域復興の意味を再考しながら、地域で生活する人を支えるために必要な視点や実践の方法を探る。
8	災害支援を事例を通して考える①	過去の災害における支援の事例を振り返り、私たちの考え方にどのように影響および変化を及ぼしたのかを知る。
9	災害支援を事例を通して考える②	東日本大震災後の原発問題と広域避難について構造的に理解し、どのように向き合うのか考える。
10	災害支援を事例を通して考える③	災害後に支援・援助にかかわる専門職の実践を確認し、どのような視点と方法を用いているかを理解する。
11	災害に備えることを考える①	自分たちが受けてきた防災教育等を振り返り、課題や今後のあり方を考える。
12	災害に備えることを考える②	さまざまな時期や事例を通した支援を振り返ってみて、いくつかの場を想定して、自分ならどのように災害に対応するかを考える。
13	「支援」「援助」の本質を探ってみる	さまざまな支援・援助論、あるいは贈与論などを知り、災害支援を探求するにあたっての応用性を考える。
14	授業のまとめ	半期の授業のまとめと振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は「○○学」といった既存に限ったものではないので、自身が災害が多発する国土に生活することを自覚しながら、どのように取り組んでいくべきかを主体的に考えていく。各回の授業内容を復習し、地域や社会への関心を持ちつつ、積極的に関連情報を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
指定しないが、授業時に参考資料等を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業内容の理解度と考察内容を測るための期末試験、複数回のリアクションペーパー（課題）の提出、平常点を総合的に評価する。評価基準は、期末試験 50%、リアクションペーパー 20%、平常点 30%。双方向型の講義および演習も行うので、継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が身近なこととして理解できるように、授業では文献資料や視聴覚映像を使用し自身で考えることができるような内容にするよう心がける。

政策評価論

牧瀬　稔

サブタイトル：**地域政策論 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の名称は「政策評価論」ですので、政策と評価に関する様々な論を紹介します。また本講義は 2013 年度以前入学生については「地域政策論」として実施していた経緯があります。そこで地域づくりの実状も紹介する予定です。政策の意味や評価手法、また地域づくりの現実を紹介することで、受講生の政策力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
政策づくりの視点や評価手法を身に着けるとともに、地域づくりの知見を深めることを目標とします。自治体職員やシンクタンク等の公的部門への進路を希望している受講生向きの講義となります。

【授業の進め方と方法】
政策力を身につけるため、次の３視点から授業を実施します。①政策と評価の基本的視点（理論）、②政策と評価の実際（事例紹介）、③政策づくりの手法、になります。また適宜、自治体職員を招き、講師と共同で授業を進めます。なお、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがあり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	本講義の進め方の紹介、講師の紹介などを進めます。
第２回	政策とは何か	政策の定義の明確化とともに、受講生の政策力を確認します。
第３回	評価とは何か	政策評価の背景や取り組みなどを紹介します。
第４回	自治体職員との共同講義	自治体職員を招いて共同で講義をします。
第５回	地方創生と人口減少	自治体が取り組んでいる実例を紹介します。
第６回	地域ブランドの現状	自治体が取り組んでいる実例を紹介します。
第７回	シティプロモーションの展開	自治体が取り組んでいる実例を紹介します。
第８回	行政活動の評価	行政（執行機関）の取り組みに関する評価を考えます。
第９回	自治体職員との共同講義	自治体職員を招いて共同で講義をします。
第 10 回	議会の役割と議会改革	議会に焦点を当て実例を紹介します。
第 11 回	条例の意味と役割	条例に焦点を当て実例を紹介します。
第 12 回	議会活動等の評価	議会等の取り組みに関する評価を考えます。
第 13 回	自治体職員との共同講義	自治体職員を招いて共同で講義をします。
第 14 回	本授業のまとめ	いままで学習した本授業の内容をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の関係している地方自治体の政策に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業は配付資料を用いて実施します。ただし、参考書をベースに講義を進めます。配付資料は、講師のホームページからダウンロードして授業に臨んでください。ホームページはガイダンス時にアナウンスします。

【参考書】
牧瀬稔（2017）『地域創生を成功させた 20 の方法』秀和システム

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、最終試験 50 %、討論参加 10 %、レポートは 40 %とする。レポートは３回程度を考えています（Ａ４用紙１枚程度）。

【学生の意見等からの気づき】
本授業の受講生で自治体職員（地方公務員）になる方が多いようです。

【その他の重要事項】
授業予定は、おおよそ、上記の流れを考えています。受講生と相談し、講義内容の変更も考えます。また、その時のトピックスとなっている事例を取り上げ、講義することも検討しています（その場合は、上記の流れが変更・修正されます）。

【担当教員の専門分野等】
民間シンクタンクに勤務した後、横須賀市役所で自治体職員をしました。その後、総務省、国交省の外郭団体（シンクタンク）を経て、2017 年４月より関東学院大学に勤務しています。2017 年度は、戸田市、春日部市、新宿区、東大和市、羽村市、甲斐市、寝屋川市、西条市、丸森町等の地方自治体でアドバイザーをしています。

ヘルスプロモーション

熊坂　隆行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。
本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL（Quality of Life）を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】
1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
2) 健康教育について理解し、説明できる。
3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
4) 健康増進法について理解し、説明できる。
5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【授業の進め方と方法】
ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行ないます。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成 1
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成 2
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 1
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 2
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開．株式会社保健同人社、東京、2006.
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論．株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

ホスピタリティ論

野口　洋平

サブタイトル：**ホスピタリティ学原論 (2013 年度以前入学生)**
科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】
ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【授業の進め方と方法】
教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
2	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
3	ホスピタリティとサービス（1）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
4	ホスピタリティとサービス（2）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
5	ホスピタリティとサービスの現代的意味（1）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
6	ホスピタリティとサービスの現代的意味（2）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
7	ホスピタリティとサービスのマーケティング（1）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
8	ホスピタリティとサービスのマーケティング（2）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
9	消費者にとってのホスピタリティとサービス（1）	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
10	消費者にとってのホスピタリティとサービス（2）	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
11	国際観光とホスピタリティとサービス（1）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
12	国際観光とホスピタリティとサービス（2）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
13	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
14	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施とまとめの解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートまたは調査課題　合計 40 点／期末テスト　60 点

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

総合教育科目

日本文学

浜崎　洋介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近代文学とは、外発的にもたらされた「文明開化」の論理と、内発的に生きられてきた日本人の「生き方」との間に兆したズレ＝葛藤の中に生成してくる精神の営みだった。その葛藤と生成の過程を、一つの「精神史」として系譜学的に問い直すこと。本授業が狙うのは、近代日本文学における歴史意識の奪還である。

【到達目標】
無からの創造があり得ない近代において、その創作過程は不可避的に反省意識を孕み込まざるを得ない。ということは、日本近代文学を学ぶ人間にとって、歴史意識＝文学史的反省は不可避だということでもある。本講義は「歴史のなかの文学」を意識しながら、作品が生み出されてくる歴史＝社会背景を描写し、その中から生い育ってくる文学史的課題に眼差しを向ける。その上で、「日本近代文学の宿命」を一つの精神史として把握し直していきたい。

【授業の進め方と方法】
「テキスト」は用いず、講義の回毎にプリントを配布し、文学史が生成してくる論理＝必然を、主に「板書」用いてして整理する。そのため、ある程度ノートを書くこことを心づもりしておいてもらいたい。が、何より大事なのは、かつてあった歴史＝文学史が他人事ではないと思える感性だろう。まずは「ヒストリー」を、一つの問題をめぐる「ストーリー」として感受できる姿勢を養ってもらいたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本―近代―精神史としての「文学」
第 2 回	物語と小説（Ⅰ）	近代文学事始め―前近代と近代
第 3 回	物語と小説（Ⅱ）	その形式をめぐって―人称と時制
第 4 回	明治文学の地平（Ⅰ）	生成する明治
第 5 回	明治文学の地平（Ⅱ）	「自然主義」から「時代閉塞」へ
第 6 回	大正文学の地平（Ⅰ）	「政治」から切り離される「文学」
第 7 回	大正文学の地平（Ⅱ）	「故郷喪失」から「ぼんやりとした不安」へ
第 8 回	昭和文学の地平（Ⅰ）	アヴァンギャルド受容と新感覚派
第 9 回	昭和文学の地平（Ⅱ）	個人の超克とプロレタリア文学
第 10 回	小林秀雄の批評（Ⅰ）	フランス象徴主義からの離陸
第 11 回	小林秀雄の批評（Ⅱ）	「様々なる意匠」と「文芸批評」の誕生
第 12 回	小林秀雄の批評（Ⅲ）	「宿命」と「伝統」をめぐって
第 13 回	戦争と文学	日本浪漫派への跳躍
第 14 回	「戦後」という時代	戦後史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱った作家や作品の中から一つを選び、それを読むこと（短編でも良い）。また、なぜ、その作家がその時代に登場し、その作品がその時代に書かれなければならなかったのか、あるいは、なぜその作家や作品が受容され得たのかを考え、できればそれをメモ書きでもいいのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義に沿った形で使用するテキストはないが、講義内容の一部は、『アフター・モダニティー―近代日本の思想と批評』（浜崎洋介・他著、北樹出版）と重なっている。

【参考書】
紹介する作家、作品はほぼ文庫で出ている。他に参考図書としては、中村光夫『日本の近代小説』（岩波新書）、柄谷行人編『近代日本の批評Ⅰ～Ⅲ』（講談社文芸文庫）などがある。また、本講義と内容が一部重なる『アフター・モダニティー―近代日本の思想と批評』（浜崎洋介・他著、北樹出版）に関しては、書店にない場合は、出版社に問い合わせればすぐに送ってくれます。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）
期末レポート（60 %）
全講義終了後に提出してもらう期末レポート（1500 字以上）を元に評価。課題については授業内で発表。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

芸術

坂口　周輔

開講時期：**春・秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れしたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」を一緒に考えていきましょう。

【到達目標】
「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。

【授業の進め方と方法】
毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めていきたいと思っています。毎回授業の最後にコメントを提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術論を読む	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェッリの〈春〉を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20 世紀の芸術	デュシャン、ニューマン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？21 世紀と芸術の関係。
14	学期末試験	授業で学んだことを確認するためのテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中での参加度（40 %）と学期末試験（60 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

世界の文学 A

石　碩

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国古典詩――漢詩は中国を代表する文学形式の一つであり、限定された文字数の中には様々な風景と、多くの人々の感情が詠み込まれてきました。この授業では、中国最古の詩集『詩経』から六朝期までの作品を読解し、中国古典詩を鑑賞するために必要となる知識を習得します。

【到達目標】
以下の２点を到達目標とします。
①中国古典詩を鑑賞するために必要となる基礎的な知識を修得すること
②中国古典詩の受容と展開の特徴について自分の言葉で説明できるようになること

【授業の進め方と方法】
講義の形式を取ります。授業の最後に、①印象に残った詩句とその理由、②授業を受けた感想、③疑問に思ったことについてコメントシートを記入し、提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方について ・参考文献について
第 2 回	『詩経』	・民草の声と漢詩の起源①
第 3 回	『楚辞』	・民草の声と漢詩の起源②
第 4 回	「古詩十九首」	・五言詩の発生と悲哀の形
第 5 回	三曹と建安七子	・何のために詩を詠じるのか
第 6 回	竹林の七賢	・中国の隠者とその文学①
第 7 回	陶淵明の文学	・中国の隠者とその文学②
第 8 回	謝霊運の文学	・山水へのまなざし
第 9 回	謝朓の文学	・政治に翻弄された山水詩人
第 10 回	『文心雕龍』と『詩品』	・中国の文学理論書
第 11 回	『世説新語』の世界	・貴族たちの逸話集
第 12 回	六朝の志怪小説	・怪奇への関心
第 13 回	教養としての歴史書	・中国の正史
第 14 回	まとめ	・中国古典詩の受容と展開について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に配布資料に目を通してください。授業後は、印象に残った詩句の訓読文・和訳文を朗読してください。また、疑問点を整理し、担当者に質問したり、参考文献（教場で紹介）などで詳しく調べたりして学習を深めてください。

【テキスト（教科書）】
教場で指示します。

【参考書】
松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎『教養のための中国古典文学史』研文出版
宇野直人『漢詩の歴史―古代歌謡から清末革命詩まで』東方書店　など
※詳細は教場で説明します。

【成績評価の方法と基準】
レポート： 60 %（学期末レポートをもとに評価します）
平常点： 40 %（授業内課題・コメントシートをもとに評価します）
なお、欠席回数が授業回数の三分の一以上になった場合、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため、特になし。

【その他の重要事項】
授業中の飲食・私語・携帯電話の使用は厳禁です。

世界の文学 B

石　碩

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中国古典詩の精髄とも言うべき唐代の作品を読解し、唐詩の時代背景や表現技巧について習得します。また、詩中に詠じられる言葉（詩語）のイメージを分析し、中国と日本の美意識の類似点・相違点についても触れる予定です。

【到達目標】
以下の 2 点を到達目標とします。
①唐詩の特徴とその魅力について説明できるようになること
②唐詩の語彙（詩語）のイメージを理解し、中国と日本の美意識の類似点・相違点について説明できるようになること

【授業の進め方と方法】
講義の形式を取ります。授業の最後に、①印象に残った詩句とその理由、②授業を受けた感想、③疑問に思ったことについてコメントシートを記入し、提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方について ・参考文献について
第 2 回	唐詩の形式	・唐詩のリズムとジャンル
第 3 回	初唐の詩①	・初唐の四傑
第 4 回	初唐の詩②	・陳子昂の文学
第 5 回	盛唐の詩①李白の文学	・李白が描く「時間」と「空間」
第 6 回	盛唐の詩②李白の文学	・李白の愛した「酒」と「月」
第 7 回	盛唐の詩③杜甫の文学	・杜甫と安史の乱
第 8 回	盛唐の詩④杜甫の文学	・杜甫が描く「老い」と「悲しみ」
第 9 回	盛唐の詩⑤王維の文学	・王維の自然詩について
第 10 回	中唐の詩①白居易の文学	・白居易と新楽府運動
第 11 回	中唐の詩②白居易の文学	・悲恋の歌「長恨歌」の世界
第 12 回	晩唐の詩①杜牧の文学	・小杜の文学について
第 13 回	晩唐の詩②李商隠の文学	・李商隠の艶情詩
第 14 回	まとめ	・唐詩の特徴とその魅力について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に配布資料に目を通してください。授業後は、印象に残った詩句の訓読文・和訳文を朗読してください。また、疑問点を整理し、担当者に質問したり、参考文献（教場で紹介）などで詳しく調べたりして学習を深めてください。

【テキスト（教科書）】
教場で指示します。

【参考書】
松浦友久『漢詩―美の在りか』岩波書店
松原朗『漢詩の流儀』大修館書店　など
※詳細は教場で説明します。

【成績評価の方法と基準】
レポート： 60 %（学期末レポートをもとに評価します）
平常点： 40 %（授業内課題・コメントシートをもとに評価します）
なお、欠席回数が授業回数の三分の一以上になった場合、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため、特になし。

【その他の重要事項】
授業中の飲食・私語・携帯電話の使用は厳禁です。

倫理学 A

松本　力

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学の基本的な考え方である功利主義と義務論を、それらの難点をも含めて学ぶことが第一の目的である。また、功利主義や義務論に代わる、さまざまな考え方（自由至上主義、ロールズの『正義論』、目的論的思考など）そのうえで、功利主義や義務論が、どのようなかたちで倫理的問題として私たちに突きつけられているのかを理解する。

【到達目標】
倫理学的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
配布資料を読み上げる講義形式での授業となる。また、毎回、授業内容確認アンケートを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とはどのような学問か？	授業の案内と概要
2	功利主義	最大多数の最大幸福、快楽計算について。
3	功利主義の問題点	個人の人権を無視。幸福の多様性。
4	義務論	カントの義務論（自由、自律、定言命法）について。
5	義務論の問題点	義務を守るだけで幸福になれるのか？
6	臓器移植の問題	臓器移植に対するさまざまな考えのなかに、功利主義と義務論を読み取る。
7	自由至上主義	社会と個人の関係について、無制限の自由が認められるかどうかを考える。
8	ロールズ『正義論』	社会的平等の実現可能性について。
9	目的論的思考	功利主義と義務論に代わるアリストテレスの目的論的思考を理解する。
10	プラトン『ゴルギアス』	プラトンの『ゴルギアス』から、目的論的思考についての理解を深める。
11	市場と道徳	徴兵制、代理母といった問題について考える。
12	忠誠のジレンマ	過去の戦争に対する責任の問題、道徳的中立性について考える。
13	正義と共通善	サンデルの正義についての考えを理解する。
14	試験	授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の配付資料の要点をまとめ、疑問点などを確認し、疑問が解消しない場合には、次回の授業内容確認アンケートで記入できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫、2011 年。）

【成績評価の方法と基準】
授業内容確認アンケート（30 %）と筆記試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

倫理学 B

松本　力

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学 A で学んだ内容をもとに、シンガーやフランクルによって提示された倫理的な生き方に対して、学生は、どのような立場を取るかを考え、表現できるようになる。

【到達目標】
倫理的に生きるとはどのようなことなのかを公正に判断し、自らの言葉で適切に表現できるようになることが目標となる。

【授業の進め方と方法】
配布資料を読み上げる講義形式での授業となる。また、毎回、授業内容確認アンケートを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	シンガー『私たちはどう生きるべきか』	シンガーの問題意識について。
2	究極の選択	私益優先の生き方か倫理優先の生き方か。
3	共同体の喪失	「万人の万人に対する戦争」。
4	世界を使い果たす	アダム・スミス対ジャン＝ジャック・ルソー。
5	日本人の生き方	集団のために生きることは可能か？
6	お返し戦術	憎しみ合う者同士の協力。
7	倫理的に生きる	英雄的行為だけが倫理的に生きることではない。
8	倫理の本性	他者におよぼす影響を無視して自分自身の利益だけを気にかけるのは倫理的ではない。
9	ある目的のために生きる	私たちの人生は、自分で自由に意味を与えることができるものなのか？
10	よい生き方	宇宙の視点をとる。
11	フランクル『それでも人生にイエスと言う』	生きる意味と価値。
12	自殺の問題	生きることは義務。
13	どんな状況でも人生にイエスと言う	苦悩に耐え抜くことにも意味がある。
14	試験	究極の選択に対する答えを表現できるか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の配付資料の要点をまとめ、疑問点などを確認し、疑問が解消しない場合には、次回の授業内容確認アンケートで記入できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】
ピーター・シンガー『私たちはどう生きるべきか』（山内友三郎監訳、ちくま学芸文庫、2013 年。）
V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』（山田邦男・松田美佳訳、春秋社、2016 年。）

【成績評価の方法と基準】
授業内容確認アンケート（30 %）と筆記試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

倫理学 A

齋藤　範

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自己と他者の関わり」を中心的なテーマとし、倫理学の基礎となる考え方や現代の倫理をめぐる諸問題について学びます。

【到達目標】
倫理学の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べることができるようになることを、本授業の目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業では、いわゆる規範倫理学の検討を通して、現代社会を生きる私たちの倫理を追究します。具体的には、主要学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の諸問題と突き合わせ、受講生自身に倫理的思考の実践を促します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	倫理学とは何か	倫理とモラルとマナーをめぐって
2	倫理学の基礎	課題と方法について
3	規範と根拠①	ケーススタディの実践
4	規範と根拠②	ケーススタディの分析
5	利己主義について	エゴイズムとは何か
6	利他主義について	利他的であるとはどういうことか
7	功利主義①	ベンサムと J.S. ミルについて
8	功利主義②	その可能性と問題点について
9	義務論①	カントの倫理学について
10	義務論②	カントとそれ以降の倫理学
11	正義論①	公正な分配とは
12	正義論②	自由と平等をめぐって
13	他者論	自己と他者をめぐって
14	応用倫理とまとめ	世界と環境と生命をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応えます。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業内容ごとに、進捗状況に応じて、適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）にて評価し、60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

倫理学 B

齋藤　範

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命と医療」を中心的なテーマとし、倫理学的思考や背景となる事実問題について学びます。

【到達目標】
生命倫理学と関連分野の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べることができるようになることを、本授業の目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業では、まずは生命倫理の基礎を概観し、そのうえで具体的な問題（脳死と臓器移植、安楽死、遺伝子操作、人工妊娠中絶など）を取り上げ、講義します。また、障害学、死生学、法学、哲学、現代思想といった関連分野にも触れ、そのつど問いを示しながら、人間と環境と生命をめぐる倫理をひろく学び、複雑なことがらの中にあっても主体的に自らのパースペクティブを見出すことができるよう促します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	生命倫理学の背景①	インフォームド・コンセント
2	生命倫理学の背景②	生と死の線引き問題
3	脳死と臓器移植①	定義と判断
4	脳死と臓器移植②	現状と問題
5	難病告知	生と死の現場
6	安楽死問題①	定義と判断
7	安楽死問題②	現状と問題
8	遺伝子をめぐる問題①	遺伝子診断・遺伝子治療
9	遺伝子をめぐる問題②	さまざまな技術と優生思想
10	人工妊娠中絶①	定義と判断
11	人工妊娠中絶②	現状と問題
12	人工妊娠中絶③	人格と生命
13	倫理学と障害学	個人と社会
14	生命倫理とまとめ	生命をめぐる現代社会の倫理の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応えます。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業内容ごとに、進捗状況に応じて、適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）にて評価し、60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

倫理学Ａ（教職）

齋藤　範

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【授業の進め方と方法】
この授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的な構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的な構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的な構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的な構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
小坂国継・岡部英男（2005）『倫理学概説』ミネルヴァ書房、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

倫理学Ｂ（教職）

齋藤　範

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理学的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【授業の進め方と方法】
この授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命をめぐる倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命をめぐる倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる現代社会の倫理①	現代の生と死をめぐって
5	死生観をめぐる現代社会の倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる現代社会の倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐって
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐって
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
今井道夫（2017）『生命倫理学入門［第４版］』産業図書、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

文章表現Ａ

浜崎　洋介

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文章表現 A・B 共通」
「文章表現」とは、それが描き出す「内容」と、それを描き出す「形式」の絡み合った、そのバランスとして実現する。ということは、「文章表現」には明示的なルールはないということでもある。退屈な美文、面白い悪文…文学の世界において、その幅は特に大きい。まずは、その事実に触れること。そこからが、私たち自身の「文章表現」が始まる場所である。

【到達目標】
「文章表現 A」では、具体的に近代日本の小説作品（主に短編）を読んでいく。その作者、その背景などにも気を配りながらも作品を分析し、どのような文章で何が描かれているのかを考える。また、その「物語」と「書き方」の組み合わせがもたらす効果についても考えていきたい。が、授業の主目的は、断片としてではなく、緊密に組み合わされた一つの作品として、多様な「文章」に触ることである。

【授業の進め方と方法】
毎回、文学作品（短編作品）を読み込んでいくが、その作品について具体的な読みどころを解説しながら、個々の作家の文章の「クセ」についても考えていきたい。言葉とは、一方で組み立てられる記号としてあるが、一方では組み立てるより前に生きられる流れとしてもある。その辺りに眼を付けながら、小説を「読む」とは一体、どのような作業なのかを一緒に考えていきたい。それにくわえ、本講義では、授業内・授業外を問わず、できるだけレポートを書いてもらいたいと考えている。それに対する講評などを踏まえて、文章表現の具体的なアドバイスもしていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「文章表現」について
第 2 回	夏目漱石「夢十夜」	「夢」の世界へ
第 3 回	森鷗外「高瀬舟」	「歴史」に従うこと
第 4 回	谷崎潤一郎「刺青」	「フェティシズム」への傾き
第 5 回	梶井基次郎「檸檬」	街場の「孤独」
第 6 回	芥川龍之介「地獄変」	「物語」と「小説」のあいだ
第 7 回	志賀直哉「焚火」「城の崎にて」	「小説」と「随筆」のあいだ
第 8 回	堀辰雄「ルーベンスの戯画」	「ロマンス」とは何か
第 9 回	太宰治「トカトントン」	「マイ・コメディアン」と虚無
第 10 回	坂口安吾「白痴」	「堕落」の世界
第 11 回	大岡昇平「俘虜記」	「理知」の限界
第 12 回	三島由紀夫「憂国」	不可能性としての「美」
第 13 回	大江健三郎「死者の奢り」	「監禁」と「暴力」
第 14 回	中上健次「千年の愉楽」	「語り」の威力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で扱った作家の文章について、手元に配ったプリントで改めて確認してもらいたい。その多様性、その自由、その固有性、その堅固さなど。そして、その手応えから離れずに、その文章によって作家は何を表現＝実現したかったのかを問うてもらいたい。その問いの深まりと、その問いを表現すること自体が、そのままにして、自分の「文章表現」を磨く機会にもなるだろう。本講義では授業内、授業外を問わず、機会を作って色々と書いてもらいと考えている。

【テキスト（教科書）】
「テキスト」は使わず、適時プリントを配布する。

【参考書】
なし。適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
課題の提出（20 %）
期末レポート（60 %）
できるだけ課題も書いてもらうが、成績に関しては、全講義最後に提出する作品（期末レポート）で評価したい。テーマやモチーフについては授業内で発表。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
受講希望者数が 300 人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

文章表現Ｂ

浜崎　洋介

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文章表現 A・B 共通」
「文章表現」とは、それが描き出す「内容」と、それを描き出す「形式」の絡み合った、そのバランスとして実現する。ということは、「文章表現」には明示的なルールはないということでもある。退屈な美文、面白い悪文…文学の世界において、その幅は特に大きい。まずは、その事実に触れること。そこからが、私たち自身の「文章表現」が始まる場所である。

【到達目標】
「文章表現 B」では、具体的に近代日本の評論作品を読んでいく。その作者、その背景などにも気を配りながらも作品を読解し、どのような文章で何が描かれているのかを考える。また、その「主題」と「表現」の組み合わせがもたらす効果についても考えていきたい。が、授業の主目的は、断片としてではなく、緊密に組み合わされた一つの作品として、多様な「評論」に触ることである。ただし、前期の「文章表現 A」と違って、後期は評論を扱うため、難易度はグッと上がることは覚悟しておいてほしい。

【授業の進め方と方法】
毎回、評論作品を読み込んでいくが、その作品について具体的な読みどころを解説しながら、個々の批評家たちの文章の「クセ」についても考えていきたい。言葉とは、一方で組み立てられる記号としてあるが、一方では組み立てるより前に生きられる流れとしてもある。その辺りに眼を付けながら、評論を「読む」とは一体、どのような作業なのかを一緒に考えていきたい。それにくわえ、本講義では、授業内・授業外を問わず、できるだけレポートを書いてもらいたいと考えている。それに対する講評などを踏まえて、文章表現の具体的なアドバイスもしていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	批評とは何か
第 2 回	小林秀雄「様々なる意匠」（Ⅰ）	「宿命」の自覚
第 3 回	小林秀雄「様々なる意匠」（Ⅱ）	「批評」の誕生
第 4 回	坂口安吾「文学のふるさと」	「突きはなす」ということ
第 5 回	坂口安吾「堕落論」	まず「堕ちる」こと
第 6 回	福田恆存「一匹と九十九匹と――一つの反時代的考察」	「政治」と「文学」の差
第 7 回	福田恆存「快楽と幸福」	「幸福」とは何か
第 8 回	吉本隆明「高村光太郎論」	父と子の「葛藤」
第 9 回	吉本隆明「転向論」	「自立」の在処
第 10 回	江藤淳「戦後と私」	「私情」の強度
第 11 回	江藤淳「南洲随想」	「滅び」の美学
第 12 回	秋山駿「ノートの声」	「属性」を拒絶すること
第 13 回	柄谷行人「人間的なもの」	「不透過性」の意識
第 14 回	作品提出	作品提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で扱った批評家の文章について、手元に配ったプリントで改めて確認してもらいたい。その多様性、その自由、その固有性、その堅固さなど。そして、その手応えから離れずに、その文章によって作家は何を表現＝実現したかったのかを問うてもらいたい。その問いの深まりと、その問いを表現すること自体が、そのままにして、自分の「文章表現」を磨く機会にもなるだろう。本講義では授業内、授業外を問わず、機会を作って色々と書いてもらいと考えている。

【テキスト（教科書）】
「テキスト」は使わず、適時プリントを配布する。

【参考書】
なし。適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20 %)
課題の提出（20 %）
期末レポート（60 %）
できるだけ課題も書いてもらうが、成績に関しては、全講義最後に提出する作品（期末レポート）で評価したい。テーマやモチーフについては授業内で発表。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
受講希望者数が 300 人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

言語学 A

寺内　正典

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語科学 (linguistic science) としての言語学、特に中心領域としての「理論言語学」(theoretical linguistics)、関連領域としての「応用言語学」(applied linguistics) の基礎を学ぶとともに、「言語学科学的な思考法」、「研究方法の基礎」を習得する。

【到達目標】
春学期には、主に言語学の中心領域としての「理論言語学」に関する知識や「言語科学的思考法」の基礎を習得し、「言語に関する諸問題」を考察し、「言語現象」を分析するための方法論や研究方法を習得する。「理論言語学」に関する専門用語や概念の基礎を理解し，説明できるようにする。言語データを分析・考察することを通じて日常の言語事象に内在する法則に関する基礎知識を理解する。

【授業の進め方と方法】
授業は、教員主体の講義形式と学生主体のプレゼン演習形式をバランスよく併用する。「理論言語学」の基礎的な知識や概念を要約し、概要をまとめ、問題点を考察し、プレゼンや研究発表などを通じて「言語科学的思考法の基礎」や言語現象を分析するための方法論や「研究方法の基礎」を習得する。また「言語に関する諸問題」を批判的に検討し、議論し、内容理解を深めながら、問題解決型学習などを用いて、改善点を考察する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	言語学の基礎 (1)	形態素、音素と発音、語彙、
2	言語学の基礎 (2)	句と節、統語、意味、語用
3	発音の仕組みを探る (1)	発音の仕組み、 音声知覚と発音の関係
4	発音の仕組みを探る (2)	発問に関する制約、語種制約、意味制約、枝分かれ制約
5	語の仕組みを探る (1)	語の生成、語のまとまり
6	語の仕組みを探る (2)	語の成り立ち、メンタル・レキシコン
7	文を作る仕組みを探る (1)	句構造、文構造、文構造と言語普遍性、談話構造、情報構造、
8	文を作る仕組みを探る (2)	文構造の曖昧性、文構造の複雑性
9	談話を作る仕組みを探る (1)	談話の構造、 談話標識の機能
10	談話を作る仕組みを探る (2)	情報構造 言語情報処理
11	言語科学の研究法 (1)	理論モデルの構築法、 反証可能性、再現性、
12	言語科学の研究法 (2)	生成文法に基づく研究法、認知言語学に基づく研究法
13	実証的研究法 (1)	リサーチデザインの立て方、言語研究における統計学的アプローチ
14	実証的研究法 (2)	データ収集法、データ分析法、記述統計、 推計統計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の予習として、事前に、テキストの指定箇所を読み、概要を理解し、専門用語などを、参考文献に挙げてある専門辞典などで調べておく。グループでプレゼン発表を行う指定箇所に関して、内容を精読し、要約・分析するとともに関連文献などを読み、問題点をまとめ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】
『はじめて学ぶ言語学』大津由紀雄他編著 (2009 年) (ミネルバア書房)

【参考書】
『言語科学の百科事典』鈴木良次 (編集委員長)、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 (編集委員)(丸善)(2006 年)

【成績評価の方法と基準】
研究発表 (50%) 研究課題レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】
講義形式だけでは、学生の言語科学に関する知識や言語科学的思考法を適切に習得することができないため、学生主体のプレゼン演習方式も併用し、発展的な理解を目指すことが重要である。

言語学 B

寺内　正典

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語科学 (linguistic science) としての言語学、特に中心領域としての「理論言語学」(theoretical linguistics)、関連領域としての「応用言語学」(applied linguistics) の基礎を学ぶとともに、「言語学科学的な思考法」、「研究方法の基礎」を習得する。

【到達目標】
秋学期には、主に言語学の中心的領域である「理論言語学」と関連づけながら、関連領域としての「応用言語学」に関する知識や「言語科学的思考法」の基礎を習得し、「言語に関する諸問題」を考察し、「言語現象」を分析するための方法論や研究方法を習得する。「応用言語学」に関する専門用語や概念の基礎を理解し，説明できるようにする。言語データを分析・考察することを通じて日常の言語事象に内在する法則を理解する。

【授業の進め方と方法】
授業は、教員主体の講義形式と学生主体のプレゼン演習形式をバランスよく併用する。「理論言語学」の基礎的な知識や概念を要約し、概要をまとめ、問題点を考察し、プレゼンや研究発表などを通じて「言語科学的思考法の基礎」や言語現象を分析するための方法論や「研究方法の基礎」を習得する。また「言語に関する諸問題」を批判的に検討し、議論し、内容理解を深めながら、問題解決型学習などを用いて、改善点を考察する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 2 言語習得のメカニズムを探る (1)	第 1 言語習得と第 2 言語習得、第 2 言語習得のメカニズム
2	第 2 言語習得のメカニズムを探る (2)	第 2 言語習得のプロセス、第 2 言語習得のストラテジー
3	発話解釈能力を探る (1)	言語能力と言語使用、発話解釈能力とコードモデル
4	発話解釈能力を探る (2)	言語能力と言語使用、発話解釈能力と推論モデル
5	コミュニケーション能力を探る (1)	コミュニケーション能力の仮説、コミュニケーション能力の機能
6	コミュニケーション能力を探る (2)	コミュニケーション と対人関係的気配り、コミュニケーションの情報伝達的側面
7	認知科学から見た言語を探る (1)	言語知識と言語処理、言語知識の種類
8	認知科学から見た言語を探る (2)	言語知識の習得と流暢さ、学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジー
9	ことばの理解のメカニズムを探る (1)	心理言語学的アプローチ、統語解析、英語の統語解析
10	ことばの理解のメカニズムを探る (2)	心理言語学的アプローチ、、日本語の統語解析、曖昧性と複雑性
11	発話のメカニズムを探る (1)	発話のメカニズム、発話研究の基礎
12	発話のメカニズムを探る (2)	発話モデルの組み立て、発話処理のプロセス
13	言語脳のメカニズムを探る (1)	脳内語彙処理、脳内統語処理、脳内意味処理
14	言語脳のメカニズムを探る (2)	人間の言語と構造依存性、言語機能と脳機能イメージング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の予習として、事前に、テキストの指定箇所を読み、概要を理解し、専門用語などを、参考文献に挙げてある専門辞典などで調べておく。グループでプレゼン発表を行う指定箇所に関して、内容を精読し、要約・分析するとともに関連文献などを読み、問題点をまとめ、プレゼン資料を作成する。英文法の難問に課題学習で取り組み、問題点を分析してレポートとして作成する。

【テキスト（教科書）】
『第二言語習得の研究の現在』小池生夫、寺内正典他編著 (2004 年) (大修館書店)
『英文法クイズ難問 500』(2016 年) (寺内正典編（秀和システム）

【参考書】
『言語科学の百科事典』鈴木良次 (編集委員長)、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 (編集委員)(丸善)(2006 年)
『応用言語学事典』小池生夫 (編集主幹) 寺内正典 (チーフ編集コーディネーター)
(研究社)〈2004 年)

【成績評価の方法と基準】
研究発表 (50%) 研究課題レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】
講義形式だけでは、学生の言語科学に関する知識や言語科学的思考法を適切に習得することができないため、学生主体のプレゼン演習方式も併用し、発展的な理解を目指すことが重要である。

現代社会と宗教 A

永井　美紀子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段、宗教とはかけ離れた生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。様々な宗教文化に関する知識を習得した上で、宗教を見つめる自分の視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を捉えなおす。

【到達目標】
主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎知識を身につけることができる。そして、それらの知識をもとに、現代社会にみられる多様な宗教現象を客観的に理解することができる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式。リアクションペーパーの提出を適宜求める。学期半ばには課題レポートを提出する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統１	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統２	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統３	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統４	現代におけるユダヤ教・キリスト教・イスラーム
6	仏教の展開と変容１	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	仏教の展開と変容２	仏教の大きな二つの流れ
8	仏教の展開と変容３	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況１	近代における神道の分解とその後
10	近代以降の日本の宗教状況２	社会変化と新宗教運動
11	近代以降の日本の宗教状況３	消費社会と儀礼
12	社会のなかの宗教１	世俗化論と宗教復興
13	社会のなかの宗教２	国際比較でみる日本人の宗教意識
14	社会のなかの宗教３	宗教のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り扱う宗教の基礎知識に関して、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておこう。授業時に配布される資料には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみよう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容 20 %、課題レポートの内容 20 %、学期末の筆記試験の成績を 60 %とする割合で総合的に判断・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
内容を検討し適宜改善に努めていきたいと思います。

【その他の重要事項】
授業計画は授業の展開によりテーマ内容の前後等、若干の変更があり得ます。

現代史 A

愼　蒼宇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　今年は「明治 150 年」の年です。2018 年度の現代史Ⅰでは、明治期日本の同時代のアジア・世界を運動史の視点から考察します。運動に参加した人々の、社会変革への多様な「問い」と「願望」を浮き彫りにし、「不可視」とされがちな人々からの、いわば「下から」の歴史を学ぶ方法をともに考えます。

【到達目標】
この講義の目標は、①日本社会において常識とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【授業の進め方と方法】
講義では最初に「明治 150 年」をめぐる歴史認識の特徴をおおまかに分析したうえで、明治期の日本・アジア・世界に「運動史」からアプローチする方法を学んでいきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「明治 150 年」をめぐる歴史認識
第 2 回	概論①	人々の「運動」から歴史を見る
第 3 回	19 世紀中盤の世界と東アジア	二重革命の時代の世界と東アジアについて概観する
第 4 回	ヨーロッパの運動①	1848 年革命とパリコミューンについて考える
第 5 回	アジア・アフリカの民衆運動①	インド大反乱とマフディー運動について学ぶ
第 6 回	日本の運動①	幕末・維新と世直し一揆
第 7 回	日本の運動②	自由民権運動と秩父事件を学ぶ。
第 8 回	東アジアの運動②	易姓革命と太平天国の乱について学ぶ。
第 9 回	盗賊・義賊（bandits）から見た近代世界	アウトローの世界史について学ぶ
第 10 回	帝国主義の世界と東アジア	帝国主義とは何かについて学ぶ
第 11 回	民族主義の火薬庫・東ヨーロッパ	バルカンの民族運動について学ぶ
第 12 回	東アジアの反帝国主義運動①	甲午農民戦争と義兵戦争について学ぶ
第 13 回	東アジアの反帝国主義運動②	義和団戦争について学ぶ
第 14 回	まとめ　「不可視」の「問い」に接近する	民族・階級・ジェンダー・宗教の視点から運動史を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時事問題にも触れながら授業を進めるので、各種のメディアや文献を通じて時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】
講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）+平常点（30 %）をもとに成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

現代史 B

愼　蒼宇

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今年は「明治 150 年」の年です。2018 年度の現代史Ⅱでは、民族自決・社会主義革命とファシズムの時代（二つの世界大戦期）のアジア・世界を運動史の視点から考察します。現代史Ⅰと同様、運動に参加した人々の、社会変革への多様な「問い」と「願望」を浮き彫りにし「下から」の歴史を学ぶ方法をともに考えます。

【到達目標】
講義の目標は、①日本社会において常識とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②現代世界、とりわけ東アジア情勢をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【授業の進め方と方法】
講義は現代史Ⅰの内容と歴史学の方法を確認した上で、二つの世界大戦と戦間期における日本・アジア・世界に「運動史」からアプローチする方法を学んでいきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	歴史学の現在について概観する
第 2 回	概論①　現代世界と民衆運動	現代世界のなかで「運動史」を考える意味を問う
第 3 回	民族自決と革命の時代	第一次世界大戦期の世界について概観する
第 4 回	ロシア革命への道	ロシア革命の歴史過程と発せられた「問い」を考える
第 5 回	メキシコ革命の歴史的意義	ラテンアメリカの革命とその特徴を考える
第 6 回	第一次世界大戦期の日本	「大正デモクラシー」と米騒動について考える
第 7 回	東アジアの運動①	辛亥革命と五・四運動について考える
第 8 回	東アジアの運動②	台湾の民族運動と朝鮮三・一独立運動
第 9 回	国際共産主義と民族運動	アジアの共産主義運動について考える
第 10 回	ファシズムの時代	1930 年代のファシズムの特徴を概観する
第 11 回	関東大震災以降の日本社会	日本におけるファシズムの形成と社会についての考察
第 12 回	ナチス・ドイツと社会	ドイツにおけるファシズムと抵抗の諸相についての考察
第 13 回	女性運動の高まりとそのゆくえ	日本と欧米諸国における女性運動とその「問い」を考える
第 14 回	まとめ　総力戦のなかで	戦争のなかの「静かな革命」についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
歴史・時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】
講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）+　平常点（30 %）から成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学びの充実感の獲得を重視する。

哲学 A

長谷川　悦宏

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の英米哲学の主流をなす分析哲学、功利主義、プラグマティズムについて、特に古典経験論との関係に留意しつつ、現代における展開およびそれらの社会的意義について概説する。分析哲学についてはそもそもそれが如何なるものなのかが、また功利主義、プラグマティズムについてはステレオタイプではない正確な理解が、普及しているとは言い難い現状があり、それらの思想上の位置および重要性に関して今日的関心をもって概説する。

【到達目標】
先ず現代の英米哲学・思想との関係において古典経験論が持つ重要性について明快に述べることができることを目指す。その上で分析哲学、功利主義、プラグマティズムについて、それらが各々、現代思想および市民社会論において持つ意義について、客観的な根拠をもって自身の見解を述べられるようになることが目標となる。

【授業の進め方と方法】
授業はテキスト（一之瀬正樹『英米哲学史講義』）に沿って講義形式で行う。期末テストとは別に、途中小テストを行う。またテキストとは別に、理解を深めるためにプリントの配布も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	現代市民社会論と経験論
2	ロック哲学における認識論	認識論と所有の関係
3	ロック哲学における自然法	自然法と労働所有論
4	バークリー、ヒューム	古典経験論の展開
5	ベンサムの思想	快楽計算と功利主義の敵対者たち
6	ミルの功利主義	グローバル経験論・他者危害原理・質的功利主義
7	前半のまとめ及び小テスト	前半の総括及び試験
8	言語論的転回	ウィーン学団から日常言語学派まで
9	ウィトゲンシュタイン	語りえないもの・言語ゲーム・規則のパラドックス
10	現代の功利主義	功利主義の展開及び現実への適用
11	プラグマティズムから正義論へ	アメリカにおける哲学の展開
12	帰納の謎	観察と帰納にまつわる問題
13	自然主義	科学と哲学の現代における関係
14	期末試験	後半の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、テキストを事前に読み、関心の持てた問題や、疑問点などをまとめておくこと。復習としては、講義を受けてみて改めて関心の持てた問題について、関連する文献を読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
一之瀬正樹『英米哲学史講義』（筑摩書房、2016、本体価格 1200 円+税）

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中の小テスト（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の板書を（可能な限り）大きく書き、見やすさに留意する。

哲学 B

長谷川　悦宏

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポパーとウィトゲンシュタインの思想、両者の対立をとうして、分析哲学および科学哲学の流れについて概説する。その際、各哲学者が社会に対してどのようなスタンスを取ったのか、それは彼らの思想と如何なる関係があったのかに関しても考察を加える。

【到達目標】
先ずポパーとウィトゲンシュタインの影響および相違点について明快に述べることができることを目指す。その上でナチス台頭という困難な時代を生きた二人の哲学者ポパーとウィトゲンシュタインの思想をとうして現代社会で哲学することの意味について、客観的な根拠を持って自身の見解を述べられるようになることが目標となる。

【授業の進め方と方法】
授業はテキスト（デイビット・エドモンズ、ジョン・エーディナウ『ポパーとウィトゲンシュタインとのあいだで交わされた世上名高い 10 分間の大激論の謎』）に沿って講義形式で行う。期末テストとは別に、途中小テストを行う。またテキストとは別に、理解を深めるためにプリントの配布も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	二人のユダヤ人哲学者について
2	「火かき棒事件」	事件をめぐる諸証言
3	ウィトゲンシュタインという人物の魅力	弟子たち
4	分析哲学の父バートランド・ラッセル	ケンブリッジ哲学科を彩る人々
5	世紀末ウィーン	オーストリアにおけるウィトゲンシュタイン家の位置
6	ポパー	ポパーにとってユダヤ人であることの意味
7	前半のまとめおよび小テスト	前半の総括およびテスト
8	ウィトゲンシュタイン	ウィトゲンシュタインにとってユダヤ人であることの意味
9	論理実証主義運動	運動の中心シュリックの死の意味
10	ポパーと論理実証主義	ポパーとウィーン学団の関係
11	ポパーとウィトゲンシュタイン	対立の背景
12	H3 号室で問題となったこと	ポパーとウィトゲンシュタインの哲学観
13	「火かき棒事件」の真相	ポパーとウィトゲンシュタインに対する評価
14	期末試験	後半のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、テキストを事前に読み、関心の持てた問題や、疑問点などをまとめておくこと。復習としては、講義を受けてみて改めて関心の持てた問題について、関連する文献を読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
デイビット・エドモンズ、ジョン・エーディナウ『ポパーとウィトゲンシュタインとのあいだで交わされた世上名高い 10 分間の大激論の謎』（二木麻里訳、筑摩書房、2016、本体価格 1600 円+税）

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中の小テスト（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の板書を（可能な限り）大きく書き、見やすさに留意する。

哲学 A

栗原　史郎

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代ギリシア哲学を、ソクラテスとプラトンを中心に講義します。

【到達目標】
受講生がソクラテス、プラトンについて説明できる。

【授業の進め方と方法】
まずソクラテス以前の哲学者であるタレスから始めてソフィストまで紹介し、次にソクラテスとプラトンについて講義します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミレトス派	元のもの
2	ピタゴラス派	万物は数から成る
3	パルメニデス	二つの道
4	パルメニデス以後の人びと	多元論
5	ソフィスト	徳の教師
6	ソクラテス (1)	『ソクラテスの弁明』
7	ソクラテス (2)	『ラケス』(1) ラケスとソクラテス
8	ソクラテス (3)	『ラケス』(2) ニキアスとソクラテス
9	ソクラテス (4)	知の否認
10	ソクラテス (5)	倫理説
11	プラトン (1)	生涯と著作
12	プラトン (2)	イデア
13	プラトン (3)	善のイデア (1) 太陽の比喩
14	プラトン (4)	善のイデア (2) 線分の比喩、洞窟の比喩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は，以下に指定された教材を講義の前によく読んで予習した上で講義にのぞむこと。また，講義の後では，理解できたか確認するために，もう一度読み直すこと。さらに，参考書が指定されている場合には，講義の前に読んでおくこと。
第１回　教材「哲学の形成と確立 (1)」
第２回　教材「哲学の形成と確立 (2)」
第３回　教材「哲学の形成と確立 (3)」
第４回　教材「哲学の形成と確立 (4)」
第５回　教材「哲学の形成と確立 (5)」
第６回　教材「ソクラテス (1)」，プラトン『ソクラテスの弁明』
第７回　教材「ソクラテス (2)」
第８回　教材「ソクラテス (3)」
第９回　教材「ソクラテス (4)」，プラトン『ゴルギアス』
第 10 回　教材「ソクラテス (5)」
第 11 回　教材「プラトン (1)」，プラトン『国家』(第 1 巻)
第 12 回　教材「プラトン (2)」，プラトン『国家』(第 2 巻から第 4 巻まで)
第 13 回　教材「プラトン (3)」，プラトン『国家』(第 5 巻から第 7 巻まで)
第 14 回　教材「プラトン (4)」，プラトン『国家』(第 8 巻から第 10 巻まで)

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
プラトーン『ソークラテースの弁明・クリトーン・パイドーン』(田中美知太郎・池田美恵訳，新潮文庫)
プラトン『ラケス』(三嶋輝夫訳、講談社学術文庫)
プラトン『プロタゴラス』(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『ゴルギアス』(加来彰俊訳，岩波文庫)
プラトン『メノン』(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『饗宴』(森進一訳、新潮文庫)
プラトン『国家』(上)(下)(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『パイドロス』(藤沢令夫訳、岩波文庫)

【成績評価の方法と基準】
授業内の小テスト (講義の内容について書いてもらう感想・意見・批判)(50%)。授業を聞いているかどうか、また理解しているかどうか、それから自分の考えを述べているかどうかに基づいて評価します。期末試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書いたものを消すのが早い。(授業支援システムを利用して，板書事項よりも詳しい教材をアップロードすることにしました。)
授業内小テストの時間が短い。(短くても 20 分は取れるようにしました。原則として 30 分にします。)

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して，教材をアップロードするので，必ず印刷して読んでください。

【その他の重要事項】
できるだけ春学期・秋学期合わせて受講してください。

哲学 B

栗原　史郎

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西欧の近世哲学をカントを中心に講義します。

【到達目標】
受講生が西欧の近世哲学、特にカント哲学について説明することができる。

【授業の進め方と方法】
まず大陸の合理論の哲学を紹介し，次にイギリスの経験論について解説し，それからカントの哲学について講義します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	デカルト (1)	cogito ergo sum.
2	デカルト (2)	神の存在証明
3	スピノザ	『エチカ』
4	ライプニッツ	『単子論』
5	ロック (1)	観念
6	ロック (2)	知識
7	バークリ	esse is percipi.
8	ヒューム	因果性
9	カント (1)	生涯と著作
10	カント (2)	『純粋理性批判』(1) コペルニクス的転回
11	カント (3)	『純粋理性批判』(2) 空間と時間
12	カント (4)	『純粋理性批判』(3) カテゴリー
13	カント (5)	『純粋理性批判』(4) 弁証論
14	カント (6)	『実践理性批判』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は，以下に指定された教材を講義の前によく読んで予習した上で講義にのぞむこと。また，講義の後では，理解できたか確認するために，もう一度読み直すこと。さらに，参考書が指定されている場合には，講義の前に読んでおくこと。
第１回：教材「近世哲学史 (1)」，デカルト『方法序説』
第２回：教材「近世哲学史 (1)」，デカルト『省察』
第３回：教材「近世哲学史 (2)」
第４回：教材「近世哲学史 (3)」
第５回：教材「近世哲学史 (4)」
第６回：教材「近世哲学史 (4)」
第７回：教材「近世哲学史 (5)」
第８回：教材「近世哲学史 (6)」
第９回：教材「近世哲学史 (7)」
第 10 回：教材「近世哲学史 (8)」，カント『純粋理性批判』「第 1 版序文，第 2 版序文，諸言」
第 11 回：教材「近世哲学史 (9)」，カント『純粋理性批判』「先験的感性論」
第 12 回：教材「近世哲学史 (10)」
第 13 回：教材「近世哲学史 (11)」，カント『純粋理性批判』「純粋理性の理想」
第 14 回：教材「近世哲学史 (12)」，カント『道徳形而上学原論』

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
デカルト『方法序説』谷川多佳子 (訳) 岩波文庫
デカルト『省察』三木清 (訳) 岩波文庫
スピノザ『エチカ』畠中尚志 (訳) 岩波文庫
ライプニッツ『形而上学叙説』河野与一 (訳) 岩波文庫
ライプニッツ『単子論』河野与一 (訳) 岩波文庫
ロック『人間知性論』(一)〜(四)　大槻春彦 (訳) 岩波文庫
バークリ『人知原理論』大槻春彦 (訳) 岩波文庫
ヒューム『人性論』(一)〜(四)　大槻春彦 (訳) 岩波文庫
カント『純粋理性批判』(一)〜(三)　篠田英雄 (訳) 岩波文庫
カント『実践理性批判』波多野、宮本、篠田 (訳) 岩波文庫
カント『道徳形而上学原論』篠田英雄 (訳) 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】
授業内の小テスト (講義の内容について書いてもらう感想・意見・批判)(50%)。授業を聞いているかどうか、また理解しているかどうか、それから自分の考えを述べているかどうかに基づいて評価します。期末試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書いたものを消すのが早い。(授業支援システムを利用して，板書事項よりも詳しい教材をアップロードすることにしました。)
授業内小テストの時間が短い。(短くても 20 分は取れるようにしました。原則として 30 分にします。)

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して，教材をアップロードするので，必ず印刷して読んでください。

【その他の重要事項】
できるだけ春学期・秋学期合わせて受講してください。

哲学Ａ（教職）

齋藤　範

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【授業の進め方と方法】
この授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスらの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
内山勝利・中川純男（1996）『西洋哲学史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房
加藤信朗（1996）『ギリシア哲学史』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

哲学Ｂ（教職）

齋藤　範

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【授業の進め方と方法】
この授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
峰島旭雄（1989）『概説 西洋哲学史』ミネルヴァ書房
山本巍・宮本久雄（1993）『哲学 原典資料集』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

論理学 A

関塚　正嗣

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的思考を支えている原理（名辞の性質、定義の種類、論理法則等）を講義する。その理解によって、受講者が論理的思考力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
名辞の性質を理解し名辞の正しい定義ができるようにする。また、命題の種類を理解し正確な命題を作れるようにする。

【授業の進め方と方法】
論理学を構成する「名辞」「命題」「推理」の内、「名辞」と「命題」について伝統的論理学と現代論理学を比較しながら講義を行う。区切りのよいところで練習問題に取り組んで理解を深めるようにする。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	論理学とは何か？	事実にかかわる思考のしくみ
2	名辞と定義	定義の規則と誤った定義の批判
3	練習問題	定義についての問題を解く
4	命題の種類	定言命題、仮言命題、選言命題
5	命題の標準化	命題の標準化、名辞の周延と不周延
6	練習問題	名辞についての問題を解く
7	命題の性質	真理値と真理表、命題形式を学ぶ
8	命題の真理値	命題の恒真、恒偽、偶然的の違い
9	論理法則	論理法則と命題の記号化を学ぶ
10	真理値決定の方法	代入の方法とクワインの方法
11	練習問題（1）	命題の記号化についての問題を解く
12	練習問題（2）	代入の方法についての問題を解く
13	練習問題（3）	恒真、恒偽、偶然的の判定問題
14	練習問題（4）	追加問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の順序に従って講義を進めるので、予習をすること。特に、章末の練習問題を事前に解いてくること。また、毎回復習して理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『論理学入門』近藤洋逸・好並英次著、岩波全書（岩波書店）、2012 年、2,200 円＋税

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。期末の試験 100 %。
ただし、授業中に練習問題を担当した場合は加点する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね授業内容や進め方について評判がいいが、板書の字を大きくとの要望があるので心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせて受講することが望ましい。
注意：例年約３割の受講生が不合格となるので安易に履修しないこと。講義に欠席すると単位取得は非常に困難である。

論理学 B

関塚　正嗣

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的思考（推理）を支えている原理（基本的推理形式等）を講義する。その理解によって、受講者が論理的思考力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
演繹的推理の性質を理解し、様々な推理の証明ができるようにする。

【授業の進め方と方法】
論理学を構成する「名辞」「命題」「推理」の内、「推理」について伝統的論理学と現代論理学を比較しながら講義を行う。区切りのよいところで教科書の練習問題と追加の練習問題に取り組んで理解を深めるようにする。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	推理の種類	演繹推理と蓋然的推理
2	妥当性と恒真性（1）	推理の妥当性と命題の恒真性の関係
3	妥当性と恒真性（2）	推理の妥当性と命題の恒真性の関係
4	基本的推理形式（1）	基本的推理形式の妥当性を証明する
5	基本的推理形式（2）	基本的推理形式の妥当性を証明する
6	推理の妥当性の証明（1）	真理値の方法による帰謬法
7	推理の妥当性の証明（2）	演繹的方法による形式的証明
8	推理の妥当性の証明（3）	演繹的方法による帰謬法
9	伝統的推理論（1）	仮言三段論法と選言三段論法
10	伝統的推理論（2）	仮言三段論法と選言三段論法との関係
11	練習問題（1）	真理値の方法による帰謬法での証明
12	練習問題（2）	演繹的方法による形式的証明
13	練習問題（3）	演繹的方法による帰謬法での証明
14	練習問題（4）	追加問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の順序に従って講義を進めるので、予習をすること。特に、章末の練習問題を事前に解いてくること。また、毎回復習して理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『論理学入門』近藤洋逸・好並英次著、岩波全書（岩波書店）、2012 年、2,200 円＋税

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。期末の試験 100 %。
ただし、授業中に練習問題を担当した場合は加点する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね授業内容や進め方について評判がいいが、板書の字を大きくとの要望があるので心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせて受講することが望ましい。
注意：例年約３割の受講生が不合格となるので安易に履修しないこと。講義に欠席すると単位取得は非常に困難である。

民俗学 A

西村　敏也

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Aでは、民俗全般を取り扱う。

【到達目標】
民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを利用した講義形式。適宜視聴覚・メディア教材を利用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史ー柳田国男とその批判継承ー 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史ー柳田国男とその批判継承ー	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまいの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみること。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】
谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 年＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席状況・授業態度・リアクションペーパー）50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度、授業担当者変更により、フィードバックできない。質問に出来うる限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問は、講義終了後受け付ける。
私語など、他人への迷惑行為はしないこと。
民俗学Bと併せて履修することが望ましい。

民俗学 B

西村　敏也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Bでは、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

【到達目標】
民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを利用した講義形式。適宜視聴覚・メディア教材を利用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみること。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】
谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 年＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席状況・授業態度・リアクションペーパー）50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度、授業担当者変更のため、意見が集約されていないため、フィードバックできない。質問に出来うる限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問は、講義終了後受け付ける。
私語など、他人への迷惑行為はしないこと。
民俗学Aと併せて履修することが望ましい。

政治学 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国内政治過程を対象とし、政治に求められる役割、その中心的な主体となる国家の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の政治を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に着けることを目的とする。

【到達目標】
1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【授業の進め方と方法】
講義はテキストの内容を中心に、教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	政治のとらえ方	授業概要、市場の失敗、分析視角
第 2 回	政治権力と秩序	財の種類とフリーライダー、集合行為問題、政治の役割、政治の失敗
第 3 回	国家という枠組み	国家とは、国民とは。国家のある世界・ない世界、国家の役割
第 4 回	政治体制　I	政治体制の分類、民主化の波
第 5 回	政治体制　II	政治体制の移行とその要因、福祉国家
第 6 回	民主主義と選挙	選挙と選挙制度、投票行動
第 7 回	政党と政党システム	政党の役割（意見の表出と集約機能）、政党システム
第 8 回	執政とアカウンタビリティ	政権のタイプ、選挙制度と政権のタイプ
第 9 回	権力の分割	議院内閣制と大統領、立法における権力の分割、司法機関の独立
第 10 回	官僚制	官僚の役割、官僚制問題、日本の官僚制
第 11 回	利益団体	集合行為問題、ロビー活動とレント、政治家・官僚・利益団体
第 12 回	マスメディアと政治	世論、統計資料でみる内閣支持率と政治信頼、メディアと世論
第 13 回	国と地方の関係	単一国家と連邦国家、本人代理人関係、地方分権、日本の地方分権
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、授業前に指定されたテキ ストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

【参考書】
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝（2011）『政治学　補訂版』有斐閣。定価 3,672 円（本体 3,400 円）ISBN 978-4-641-05377-9

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は、授業支援システムを通して配布する。

政治学 B

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国家間関係を対象とし、戦争と平和をめぐる国際関係の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に着けることを目的とする。

【到達目標】
1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【授業の進め方と方法】
講義はテキストの内容を中心に、教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国内社会と国際社会	授業概要、国内社会と国際関係との比較：アナーキー
第 2 回	主権国家システムの拡大	封建的国際システム・主権国家システム、ナショナリズム
第 3 回	安全保障と平和	統計資料で見る戦争、アナーキーと国際関係、安全保障のジレンマ
第 4 回	伝統的国際政治の視点	リアリズム、勢力均衡論、リベラリズム、国際制度と国際協調
第 5 回	交渉の失敗としての戦争	情報の非対称性、コミットメント問題、価値の不可分性
第 6 回	国際政治経済	経済的相互依存の拡大、自由貿易、非対称的な相互依存
第 7 回	国際制度	調整の手段としての制度、制度の形成、覇権安定論・新自由主義制度論
第 8 回	対外政策決定過程	アリソン・モデル、二層ゲーム、非国家主体の影響
第 9 回	主権国家の相対化 I	国際関係の主体、制度と規範
第 10 回	主権国家の相対化 II	冷戦期と冷戦後の安全保障環境、安全保障概念の拡大
第 11 回	主権国家の相対化 III	内戦、テロ、統計資料で見る戦争
第 12 回	日本の安全保障 I	東アジアの安全保障環境
第 13 回	日本の安全保障 II	伝統的安全保障枠組みの遺産
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

【参考書】
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝（2011）『政治学　補訂版』有斐閣。定価 3,672 円（本体 3,400 円）ISBN 978-4-641-05377-9
上記の参考書のほか、講義内容に合わせて参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
講義の内容は「政治学 A」を履修していることを前提とします。前期に「政治学 A」を履修することが望ましいです。また、講義資料は、授業支援システムを通して配布します。

地理学 A

宋　苑瑞

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学講義が目指す最終目的は，日本および世界の形成の歴史的な過程や地域の特色を理解し，諸問題の解決に役立てられることである．地理学が対象とする様々な地域がどのように形成され，その地域はほかの地域とどのように相互関係を持って変化してきたのか，そこで生活・活動する人間・企業・諸組織は地域とどのようなかかわりを持っているのかを解明することでもある．講義を通じて，現代の日本・世界の生活・文化の地域的特色を理解し，世界で起きている様々な現象を認識し，理解する．

【到達目標】
授業の到達目標は，自然と人文環境を理解した上で，地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し，諸課題について理解することである．

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義と学生の授業内での発表，リアクションペーパー提出を求める．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学イントロダクション，自然環境－世界の地形（1）	地理学全般の説明と地殻変動を学習し，世界の地形の成り立ちや特徴について理解する．
2	自然環境－世界の地形（2）	河川による浸食と堆積作用を学習し，世界の地形の成り立ちや特徴を理解する．
3	自然環境－日本の地形	日本の地形の成り立ちや特徴について学ぶ．
4	自然環境－気候環境（1）	大気と水の大循環と気候区分について学ぶ．
5	自然環境－気候環境（2）	世界の気候別自然環境の違いについて学ぶ．
6	人文環境－観光	グローバル時代に求められる観光要素について学ぶ．
7	人文環境－農業・水産業・畜産業	各産業の発達と特色について学習する．
8	人文環境－工業	工業の発達と特色について学習する．
9	人文環境－交通と立地	交通の発達や産業別の立地条件について学習する．
10	人文環境－宗教と民族	宗教と民族の種類や分布などを学習し，文化の違いを理解する．
11	人文環境－都市と集落	都市と集落の発達について学習する．
12	地誌－中国	中国の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
13	地誌－韓国	韓国の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
14	まとめ	地理学で学習した内容を整理し，地理学の課題を学習する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地理に関連する社会問題について深く考え，授業中の議論に備えること．

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しないが，個別の文献は授業中で指示する．

【参考書】
上野和彦ほか編 (2015)『地理学概論 (第 2 版)』朝倉書店
松原彰子著 (2017)『自然地理学（第 5 版)』慶應義塾大学出版会
竹中克行著 (2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
レポート 2 回 (50%)，定期試験 (50%) などにより評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

地理学 B

宋　苑瑞

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学講義が目指す最終目的は，日本および世界の形成の歴史的な過程や地域の特色を理解し，諸問題の解決に役立てられることである．地理学が対象とする様々な地域がどのように形成され，その地域はほかの地域とどのように相互関係を持って変化してきたのか，そこで生活・活動する人間・企業・諸組織は地域とどのようなかかわりを持っているのかを解明することでもある．講義を通じて，現代の日本・世界の生活・文化の地域的特色を理解し，世界で起きている様々な現象を認識し，理解する．

【到達目標】
授業の到達目標は，自然と人文環境を理解した上で，地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し，諸課題について理解することである．

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義と学生の授業内での発表，リアクションペーパー提出を求める．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地誌－北米（1）	北米の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
2	地誌－北米（2）	北米の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
3	地誌－中南米	中南米諸国の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
4	地誌－ EU	EU 諸国の社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
5	地誌－ロシア	ロシアの社会，文化，自然，産業などについて広く学習する．
6	地誌－東南アジア	東南アジア諸国の社会，文化，自然，産業について広く学習する．
7	地誌－オセアニア	オセアニア諸国の社会と自然について広く学習する．
8	地誌－アフリカ	アフリカ諸国の社会と自然について広く学習する．
9	諸課題を考える－人口・食料	日本と世界の人口問題と食料問題について深く学習する．
10	諸課題を考える－水（1）	干ばつの影響や食水不足の現状と課題について学習する．
11	諸課題を考える－水（2）	干ばつの影響や食水不足の現状と課題について学習する．
12	諸課題を考える－環境汚染	日本と世界の環境汚染の現状と課題について学習する．
13	諸課題を考える－エネルギー	資源やエネルギー問題の現状と課題について学習する．
14	諸課題を考える－自然災害	地震，台風，洪水，地すべりなどの自然災害について学習し，防災意識を高める．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地理に関連する社会問題について深く考え，授業中の議論に備えること．

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しないが，個別の文献は授業中で指示する．

【参考書】
上野和彦ほか編 (2015)『地理学概論 (第 2 版)』朝倉書店
松原彰子著 (2017)『自然地理学（第 5 版)』慶應義塾大学出版会
竹中克行著 (2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
レポート 2 回 (50%)，定期試験 (50%) などにより評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

文化人類学 A

山本　真鳥

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。文化人類学 A は基礎・入門編。

【到達目標】
文化人類学の基礎的な考え方や方法を学び、理解する。異なる社会の異なる慣習を学ぶことで、自分をとりまく社会環境を相対化して見ることができるようになる。1) 文化人類学の基礎知識を身につける。2) 文化人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 文化人類学の基礎概念を用いて、社会現象を説明できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文化とは何か？	文化の概念と文化人類学の課題
第 2 回	文化の身体的条件	人類の進化と文化の実現
第 3 回	フィールドワークと民族誌	方法としてのフィールドワークと成果としての民族誌
第 4 回	文化人類学理論の展開	異文化理解を可能にする概念の数々
第 5 回	生態適応と暮らし	生態適応の諸類型とその文化
第 6 回	家族とジェンダー	結婚・家族・ジェンダー役割分担
第 7 回	コミュニティの生成	血縁・地縁・社縁
第 8 回	エスニシティとネーション	民族・人種・想像の共同体としてのネーション
第 9 回	アイヌ問題を考える	先住民運動とアイヌ問題への理解
第 10 回	言語と認識	言語構造と文化の相関
第 11 回	宗教と儀礼	宗教と社会生活、儀礼の作る時間
第 12 回	呪術と象徴的思考	呪術の論理、比喩的思考
第 13 回	祭とフェスティバル	祝祭空間の作り出す非日常性
第 14 回	文化人類学とは何か	全体的なまとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てる。中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店。その他授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間後）は 20%。随時行う授業内小テスト全部で 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は両方が含まれる。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。授業支援システムで配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参すること。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

文化人類学 B

山本　真鳥

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。応用編として文化人類学の立場から生と死をめぐる考察を行う。

【到達目標】
生と死をめぐる文化人類学の分析を紹介する授業を行う。生と死をめぐるさまざまな社会の慣習を学ぶことで、生と死に関して相対化した理解と考え方に到達する。1) とりあげられている知識を身につける。2) 用いられている概念を自分で説明できる。3) それらの概念をさらに周囲の社会現象に自分で当てはめて考察できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	妊娠と出産	妊娠と出産を巡る儀礼や慣習
第 2 回	父と子	社会的存在としての「父」
第 3 回	子どもの帰属	子どものアイデンティティ形成と親族
第 4 回	人間になる	儀礼を通して形成される人間存在
第 5 回	子どもの数と家族計画	異文化の家族計画と少子化問題
第 6 回	生殖医療と人間関係	生殖医療技術と生殖にまつわる慣習
第 7 回	死の儀礼	インドネシア・トラジャ族の葬礼
第 8 回	日本社会の葬礼と他界観	魂の行方と葬礼のかたちに見る他界の表象
第 9 回	日本社会の葬礼の変容	葬礼の変化と時代の移り変わり
第 10 回	トロブリアンド社会の葬礼と他界観	異文化の葬礼と他界観にみる多様性と普遍性
第 11 回	誕生と死の世界観	神話が語る生と死の哲学
第 12 回	お供えと憑依	霊界とのコミュニケーション
第 13 回	脳死と臓器移植	死の概念と臓器移植のあり方
第 14 回	人間にとっての生と死	全体的なまとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材の箇所）を読んで予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間後）は 20%。随時行う授業内小テスト全部で 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は両方が含まれる。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。このシステムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。おしゃべりは周囲の学生の授業を受ける権利を妨害していることに思い至っていただきたい。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

日本史 A

菅原　正子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず、古代に国際関係の中で律令国家が形成されて展開していったことの特色について理解し、その後、武士が台頭して対外関係の変化を背景に諸地域ごとに種々の独自性を持ったことを考察する。時代の転換によって生じる政治・思想・文化の変化について学ぶ。さらに、国際的環境が日本史を通して分散・統合の重要な要素であったことについて認識を深める。

【到達目標】
朝鮮半島における白村江の戦いの敗戦と侵略される恐れという軍事的緊張の中で成立した、日本の律令国家の特質について理解する。その古代国家が、緊張緩和という国際関係変化の中で、新しい体制であった王朝国家へと変化する。そして、戦乱をへて幕府という日本独自の武家の権力が生まれ、公武二元的政治構造が成立した。東アジアの中でこれらの日本独自の歴史を歩み始めた過程について知見を深める。

【授業の進め方と方法】
授業支援システムからダウンロードしたプリント教材を参照しつつ、要点を板書する。史料を読み、章ごとに設定された課題を考えながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得する。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本の伝統と文化の特色	日本史の教育における本授業の意味、時代区分、農業の開始、防壁なき日本の都市、軍事と外交、朝鮮半島
2	律令国家の形成	律令の制定、班田収授制、身分階級、戸籍、軍団制、蝦夷・隼人・東夷
3	律令国家から王朝国家へ	対外関係、弓馬の士と俘囚、郡司と受領、王朝文化の開花
4	武士の源流	群盗蜂起、最初の武士、弓馬と刀、地域文化の接触
5	承平・天慶の乱	東国の平将門、反逆の論理、西国の藤原純友
6	源氏と平氏	平忠常の乱、源頼信と関東武士、清和源氏、桓武平氏、荘園公領制
7	前九年合戦と後三年合戦	蝦夷支配の歴史、清原氏の内紛、源義家と藤原清衡、平泉文化
8	院政開始と源氏・平氏	河内源氏の没落、伊勢平氏の登場、院政という政治形態
9	保元の乱	武士と貴族、乱の勃発と経過、保元の乱の意義、武者の世へ
10	平治の乱	天皇親政と院政、平清盛と後白河上皇、平氏政権へ
11	平氏政権論	平清盛と厳島神社、日宋貿易、福原へ遷都
12	治承・寿永の内乱	以仁王の挙兵、源氏の挙兵、源義経、平家の滅亡
13	鎌倉幕府と中世国家	源頼朝と東国の武士、鎌倉幕府の成立、幕府と朝廷
14	日本史における分散と統合	東国と西国、幕府と朝廷、地域の文化、国際的環境と統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にプリントで内容のあらましを把握し、授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業プリントを授業支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】
竹内理三『武士の成立』中公文庫、2009 年改版第 2 刷

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に達しない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
内容が多すぎるとの指摘があるので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

日本史 B

菅原　正子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鎌倉時代の日本では鎌倉幕府と朝廷が相互に自立していたが、幕府の得宗専制という形で統合に向かい、反発した後醍醐天皇が統幕運動を起こして建武政権が生まれた。しかし政権は短期で崩壊して日本は動乱の時代に入る。そして、室町幕府将軍足利義満による統一を経た後、さらに分裂し再統合を経て近世社会を迎えた。これらの歴史過程への理解を深め、事実（史料）と時間的推移の中で事象を認識する歴史的見方や考え方を獲得する。

【到達目標】
日本史における地域の自立と統合について、中世国家の形成と展開を通して理解する。鎌倉時代中・末期から南北朝・室町時代は動乱・内乱の時代であった。日本の諸地域が対外的緊張から生まれた動乱と内乱で東北から九州まで大規模な人とモノの移動を経験し、さらに公家文化と武家文化が融合した時代であったことも学ぶ。また、庶民が台頭して日本の生活文化が生まれた時代でもあった。こうした時代の転換によって生じた政治・経済・思想・文化の変化について認識する。

【授業の進め方と方法】
授業支援システムからダウンロードしたプリント教材を参照しつつ、要点を板書する。史料を読み、章ごとに設定された課題を考えながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得したい。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本史における地域と統合	日本史の教育における本授業の意義、古代～近代の国際的環境と国内政治、地理的環境と文化
2	承久の乱と朝廷・幕府	後鳥羽上皇と北条義時・政子、北条泰時と『御成敗式目』
3	蒙古襲来	モンゴル帝国の拡大、牒状と国内政治、文永・弘安の役
4	後醍醐天皇の倒幕計画	両統迭立、宋学のモデル、倒幕の計画、天皇の御謀反
5	内乱の展開	楠木正成の伝説と実像、後醍醐天皇の隠岐島脱出
6	鎌倉幕府の滅亡	足利高氏（尊氏）の挙兵、六波羅探題滅亡、新田義貞、鎌倉幕府滅びる
7	建武の新政	足利尊氏と護良親王、天皇の専制、旧御家人らの動き
8	新政の崩壊	中先代の乱、足利尊氏の敗走と入京、新政の崩壊、講和
9	南北朝の動乱	南北朝の分裂，北畠顕家の長征と青野原の戦い、後醍醐の死と人物論
10	室町幕府の成立	室町幕府、全武士の組織、建武式目、足利直義の思想
11	乱世の人間像	高師直、『太平記』、悪党伝説，幕府執事としての師直、下剋上、バサラ文化
12	観応の擾乱	尊氏と直義、個人と党派、伝統と変革、尊氏の死
13	武家統一政権の形成	足利義満、康暦の政変、守護大名の反乱、義満と北山文化
14	近世社会への展望	応仁の乱とその後、戦国時代の分裂化と再統合、国際的情況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にプリントで内容のあらましを把握し、授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを授業支援システムから各自ダウンロード。

【参考書】
佐藤進一『南北朝の動乱』中公文庫、2009 年改版第 2 刷

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
内容が多すぎるとの指摘があったので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

日本史Ａ（教職）

岩橋　清美

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築する力を養う。

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、履修生の意見を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立
6	モンゴルの襲来	モンゴル帝国の世界への影響／幕府による統合／経緯と影響
7	南北朝の動乱	諸国の反乱／南北朝の分裂／後醍醐天皇の死と人物論
8	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
9	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
10	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
11	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
12	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
13	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
14	占領から国際社会への復帰	占領政策／サンフランシスコ平和条約／５５年体制／デタント期の政治と外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成。
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
試験・小レポート・授業への取り組みを総合して評価します。
試験（60 %）
レポート（30 %）
平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】
興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

日本史Ｂ（教職）

岩橋　清美

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。あわせて、歴史史的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特質をとらえられるようになる。

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。
授業は基本的には講義形式で行うが、適宜、史料等を提示して、履修生に意見を求める。文献・史料の調べ方・読み方を身につけるため、レポートを作成してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート・平常点を総合して評価します。
試験（60 %）レポート（30 %）平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】
興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導解説　地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

世界史 A

太田　啓子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：
高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。
授業の目的：
現在の「世界史」の問題点を認識した上で、世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究に触れる。この過程を通じて世界史を学ぶことの意義を考える。

【到達目標】
1. 現在の「世界史」が抱える問題点を具体的に指摘できる。
2. 世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究を理解し、それを自分の言葉で説明できる。

【授業の進め方と方法】
授業形態：
講義形式。講義後に提出するコメントペーパーに講義への感想、質問を記入する（記入は任意）。これに対して、次回の授業で教員より解説・補足説明を行う。
なお、授業はパワーポイントのみで行い、資料の配布は行わない。従ってノートを取る能力が必要とされる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	「世界史」の成立	現在の「世界史」が成立した経緯について概観する。
第 3 回	「世界史」の問題点	現在の「世界史」が抱える問題点について学ぶ。
第 4 回	新しい世界史/グローバル・ヒストリーとは何か	新しい世界観と歴史認識、グローバル・ヒストリーの特徴について学ぶ。
第 5 回	ヨーロッパとアジア	近世までのアジアの歴史的発展を検証し、ヨーロッパ中心の歴史観を批判した諸研究について学ぶ。
第 6 回	主観性を超えて：発展とは何か (1)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 7 回	主観性を超えて：発展とは何か (2)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 8 回	「新しい世界史」の視角	疫病、人口変動、環境など、従来の歴史研究ではほとんど分析対象とされることがなかった歴史学の新たな視角について学ぶ。
第 9 回	移動と交易	人・モノ・情報の移動が地域にもたらした歴史的変化、形成してきた地域間構造について考える。
第 10 回	モノの世界史	「モノ」に着目し、「モノ」を通じて世界史を概観した諸研究について学ぶ。
第 11 回	地域と世界システム	近代以前の世界システムについて考える。
第 12 回	世界市場をめぐる議論	世界市場の形成が、世界の発展のあり方にどのような影響を及ぼしたかを考察する。
第 13 回	思想のグローバル・ヒストリー	知識・思想・学問の形成・伝播が世界史に与えた影響について考える。
第 14 回	授業のまとめと到達目標の確認	春学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校時代に使用した世界史の教科書を事前に一読することが望ましい。また、テキスト、参考書にもあらかじめ目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
水島司『グローバル・ヒストリー入門（世界史リブレット 127）』、山川出版社、2010 年。

【参考書】
羽田正『新しい世界史へ：地球市民のための構想』、岩波書店、2011 年。
水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』、山川出版社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への参加度（コメントペーパーの提出で判断）： 40 %
2. 試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートにおける学生からの提案を授業に反映させる。

世界史 B

太田　啓子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：
高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。
授業の目的：
春学期の「世界史 A」に引き続き、新たな視点から世界史を捉え直し、その中に自分自身を位置づけることを試みる。秋学期は具体的な「モノ」に着目してテーマを設定し、そのテーマを通じて世界史を概観する。「世界史 A」を履修していなくても受講可能。

【到達目標】
1. 講義で取り上げる「モノ」を通じて世界史を概観し、自分の言葉で説明することが出来る。
2. 講義で出てきた地域、国、都市等の地理的情報についても理解する。

【授業の進め方と方法】
授業形態：
講義形式。講義後に提出するコメントペーパーに講義への感想、質問を記入する（記入は任意）。これに対して、次回の授業で教員より解説・補足説明を行う。
なお、授業はパワーポイントのみで行い、資料の配布は行わない。従ってノートを取る能力が必要とされる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	乳香と乳香をめぐる文化	乳香というファクターに着目し、「ヨーロッパ必需品の生産地としてのアジア」を考える。
第 3 回	香辛料が作る世界史	インド洋貿易で行われていた多様な商品取引の中で、なぜ香辛料が着目されたのかを考える。
第 4 回	ガラス器の展開	国際取引品としてのガラス器の歴史を概観し、ヨーロッパとアジアの関係について考える。
第 5 回	モスク建築の変遷	モスク建築の変遷の歴史を学び、建築と権力の関係について考える。
第 6 回	世界飲料としてのコーヒー	コーヒーの伝播の歴史を概観し、なぜコーヒーが世界飲料となり得たのかを考察する。
第 7 回	タバコの受容と伝播	タバコが嗜好品として世界に広がっていく経緯を概観し、なぜタバコが受容されていったのかについて考える。
第 8 回	砂糖と生活	砂糖の精製技術がアジアからヨーロッパ、新大陸へと広まっていった経緯について学び、砂糖が国際関係にもたらした影響について考察する。
第 9 回	お茶とイギリス帝国	世界飲料の 1 つである茶に着目し、その歴史的影響を考察する。
第 10 回	貨幣と交易	貨幣の発展の歴史について概観し、交易を支えるファクターとしての貨幣の機能を考える。
第 11 回	石油を支配する者	近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する。
第 12 回	紙	世界史において紙が果たしてきた役割を考える。
第 13 回	ワイン	世界飲料の 1 つであるワインに着目し、その歴史的影響を考察する。
第 14 回	講義のまとめと到達目標の確認	秋学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ノートのまとめなどを通じて授業の復習をしておくこと。講義内で出てきた地域、国、都市等についても地図中に落とし込めるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
シドニー・ミンツ『甘さと権力：砂糖が語る近代史』、平凡社、1988 年。
そのほか、各回の授業テーマに応じて適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への参加度（コメント・ペーパーの提出で判断）： 40 %
2. 試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートにおける学生からの提案を授業に反映させる。

世界史Ａ（教職）

鈴木　茂

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】　中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すかについて、受講者とともに考える。また、世界史教育における文字史料と映像の扱い方を考える。なお、この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。

【到達目標】
歴史への関心を引き出すことが第一の目標である。そのためには、われわれ一人一人が社会と結びついて生きていること、現在の社会が過去の積み重ねによって成り立っていること（歴史的に拘束されていること）を自覚できるようになることが必要である。

【授業の進め方と方法】
歴史学研究会編『世界史史料』１２巻から日本語に訳された史料を選び、歴史への関心を引き出す方法を考える。最初は、古代ローマと近代の南北アメリカの奴隷制度・強制労働を取り上げ、時代横断的、地球大的な世界史の捉え方について考え、後半でテキストを使いながら、世界の歴史の大きな流れを理解する。
DVD、ビデオのプレーヤー、大きめのスクリーンを使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第2回	「社会科世界史」の誕生	戦後学制改革と「社会科 世界史」の誕生。
第3回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法。
第4回	前近代の奴隷と農奴	地中海世界の成立と古代の奴隷制度。
第5回	古代ローマにおける奴隷と農奴１	共和政ローマにおける奴隷制社会と奴隷反乱。
第6回	古代ローマにおける奴隷と農奴２	映画「スパルタカス」(1960) 鑑賞。
第7回	大西洋世界の成立	世界システム論の観点から大航海時代の意味を考える。
第8回	南北アメリカの植民地化	ラテンアメリカ、カリブ海地域の植民地化。
第9回	南北アメリカの黒人奴隷制度	大西洋奴隷貿易の歴史的意味。
第10回	大西洋世界における北アメリカ	「南北戦争・再建」の時代。
第11回	「風と共に去りぬ」と「国民の創生」	マーガレット・ミッチェルと「南部史観」と映画「国民の創生」(1914) 鑑賞。
第12回	歴史における時間と記憶	南北戦争の記憶とアメリカ合衆国社会の人種差別。
第13回	アジアの奴隷制	イスラム世界の奴隷
第14回	奴隷制と人の移動	世界の中の日本人移民

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定する参考文献を読むこと。
高校時代に使用した「世界史」の教科書を通読しておくとよい。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史20講』岩波書店、2014年。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977年。
本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991年。
土井正興『新版 スパルタクスの蜂起』青木書店、1988年。
弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店、1977年。
弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977年。
本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991年。
青木冨貴子『「風とともに去りぬ」のアメリカ』岩波新書、1996年。
ナタリー・Z・デーヴィス（中條献訳)『歴史叙述としての映画』岩波書店、2007年。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010年。
桃木至朗『わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく 歴史学の学び方』大月書店、2016年。

【成績評価の方法と基準】
（1）学期末試験50%、（2）書評レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】
高校で「世界史」をきちんと勉強していない受講者にもできるだけ配慮して授業を進めます。

【その他の重要事項】
教育実習、介護実習、対外試合等でやむを得ず欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。
メールでの問い合わせは、以下のアドレスにお願いします。
shigeru.suzuki@tufs.ac.jp

世界史Ｂ（教職）

鈴木　茂

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】　中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すかについて、受講者とともに考える。また、世界史教育における文字史料と映像の扱い方を考える。なお、この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。

【到達目標】
歴史への関心を引き出すことが第一の目標である。そのためには、われわれ一人一人が社会と結びついて生きていること、現在の社会が過去の積み重ねによって成り立っていること（歴史的に拘束されていること）を自覚できるようになることが必要である。その過去は、近代の産物である「日本」という枠組みを超えて広がっていることが感じられれば、なぜ「世界史」を学ぶのかが理解できるだろう。

【授業の進め方と方法】
歴史学研究会編『世界史史料』１２巻から日本語に訳された史料を選び、歴史への関心を高める方法を考えるとともに、世界史の大きな流れを捉える。主要国の通史の寄せ集めに陥りがちな「世界史」学習の弊害を克服するため、交易や人の移動を通じた諸文明・諸地域のつながりを重視して「世界史」の成立を説明する。
ビデオプレーヤー、大きめのスクリーンをしようする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	高校「世界史」の視点と内容	高校「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の考え方の異同。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	新しい世界史の枠組み。
第 4 回	歴史としての 20 世紀１	「短い 20 世紀」と「長い 20 世紀」
第 5 回	歴史としての 20 世紀２	映画「ここで君たちを待っている」鑑賞。
第 6 回	ルネサンス・宗教改革・地理上の発見１	モア『ユートピア』から「地理上の発見」の影響を考える。
第 7 回	「ルネサンス・宗教改革・地理上の発見２	デフォー、スウィフトの旅から近代世界成立を考える。
第 8 回	産業革命と大西洋交易圏	スミス『国富論』の歴史的意味。
第 9 回	近代資本主義とカリブ海	カリブ海史の視点から、近代世界を捉え直す。
第 10 回	世界システムと日本	「世界システム」の中に日本を位置づける。
第 11 回	植民地主義の歴史をどう考えるか	フランツ・ファノン『黒い皮膚と白い仮面』。
第 12 回	映画「マルチニックの少年」（１）	映画「マルチニックの少年」（1983）前半鑑賞。
第 13 回	映画「マルチニックの少年」（２）	映画「マルチニックの少年」（1983）後半鑑賞。
第 14 回	一国史観と世界史	大塚久雄「横倒しの世界史」の問題点。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献・史料をあらかじめ一読しておいてください。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。
木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
村井章介『海から見た戦国時代』ちくま新書（1997 年）。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史　面白い歴史　役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく　歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
（1）学期末試験 50%（2）書評レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】
「世界史 A」を参照して下さい。

【その他の重要事項】
教育実習、介護実習、対外試合等でやむを得ず欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。
メールでの問い合わせは、次のアドレスにお願いします。
shigeru.suzuki@tufs.ac.jp

法学 A

菅　富美枝

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法律学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。

【到達目標】
良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は教科書に沿って進められるが、教科書の内容を補うため、講義の中で、関連する条文や事例が数多く紹介される。それらは黒板を用いて説明される。受講生はこれらを書き写すことを通して、法学の基礎知識を記憶、理解、修得していく。この他、講義では、六法全書が頻繁に用いられるため、条文を早く引けるよう、各人の日頃の努力（授業時間内の集中、課題への積極的取組）が求められる。また、授業支援システムを用いて、適宜、副教材が配布される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	法的三段論法の基礎、権力分立、法の支配
第 2 回	法学における議論の特徴①	法規の構造
第 3 回	法学における議論の特徴②	「法解釈」の必要性とその意味
第 4 回	法学における議論の特徴③	・「事実」とは ・事実認定のルール
第 5 回	法解釈の諸方法①	法令用語の練習 (1) ： ・推定する、みなす ・準用する、例による ・科する、課する
第 6 回	法解釈の諸方法②	法令用語の練習 (2) ： ・及び、並びに ・又は、若しくは ・者、物、もの ・時、とき、場合
第 7 回	法解釈の諸方法③	条文、条項の呼び方： ・条・項、号、柱書、ただし書、前段・後段
第 8 回	法解釈の諸方法④	解釈の仕方：「この橋、車馬通行止め」
第 9 回	法の体系と形式①	法の分類 (1) ： ・公法と私法 ・一般法と特別法 ・実体法と手続法 ・行為法と組織法
第 10 回	法の体系と形式②	法の分類 (2) ： ・民事と刑事 ・制定法のいろいろ ・判例の重要性、判決の検索、読み方
第 11 回	司法制度①	民事裁判
第 12 回	司法制度②	刑事裁判
第 13 回	司法制度③	違憲審査制度
第 14 回	総復習	半年間の講義のまとめと練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に書き写したノートの整理。毎回、かなりの板書量になるため、定期的な整理を怠らないこと。追加資料は「授業支援システム」を用いて配布されるため、各自ダウンロードして授業に臨み、また、復習に活用すること。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『プレップ　法学を学ぶ前に』（弘文堂）
六法全書

【参考書】
市川正人・酒巻匠・山本和彦『現代の裁判〔第７版〕』（有斐閣）
五十嵐清『法学入門〔新版〕』（悠々社）
星野英一『民法のすすめ』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績による (100%)。試験においては、単なる知識の暗記ではなく、思考力、理解力、論理構成力が求められる。

【学生の意見等からの気づき】
前年同様、黒板を有効的に用いる。

法学 B

菅　富美枝

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自由な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。

【到達目標】
自覚ある消費者市民として、消費者社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、わが国の契約法全般が見えてくるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は教科書に沿って進められるが、教科書の内容を補うため、講義の中で、関連する条文や事例が数多く紹介される。それらは黒板を用いて説明される。受講生はこれらを書き写すことを通して、法学の基礎知識を記憶、理解、修得していく。この他、講義では、六法全書が頻繁に用いられるため、条文を早く引けるよう、各人の日頃の努力（授業時間内の集中、課題への積極的取組）が求められる。また、授業支援システムを用いて、適宜、副教材が配布される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	契約法を学ぶ意義： 契約が必要になるとき
第 2 回	契約法総論①	・紛争解決と裁判所 ・契約自由の原則 ・民法が定める契約の種類
第 3 回	契約法総論②	・契約の成立とは ・申込みと承諾
第 4 回	契約法総論③	契約の成否と交渉破棄
第 5 回	契約当事者①	契約を結ぶ能力
第 6 回	契約当事者②	代理制度
第 7 回	契約の効力①	契約の有効性 (1) 心理留保、虚偽表示
第 8 回	契約の効力②	契約の有効性 (2) 錯誤、詐欺、強迫
第 9 回	契約の履行①	「弁済」とは
第 10 回	契約の履行②	履行過程におけるリスク
第 11 回	契約違反①	さまざまな契約違反
第 12 回	契約違反②	どのような救済手段があるか
第 13 回	契約違反③	損害賠償請求
第 14 回	契約の終了	解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に書き写したノートの整理。毎回、かなりの板書量になるため、定期的な整理を怠らないこと。追加資料は「授業支援システム」を用いて配布されるため、各自ダウンロードして授業に臨み、復習に活用すること。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書

【参考書】
大村敦志『生活民法入門――暮らしを支える法』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績による (100%)。試験においては、単なる知識の暗記ではなく、思考力、理解力、論理構成力が求められる。

【学生の意見等からの気づき】
前年同様、黒板の有効的な活用を心がける。

社会学 A

高橋　徹

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

【到達目標】
この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。学生は、各回の講義を受けた後に授業内作業を行い提出します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
2	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
3	社会を感じる　その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
4	コミュニケーション論入門	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
5	コミュニケーション論入門　その 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
6	コミュニケーション論入門　その 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
7	メディアの歴史　その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
8	メディアの歴史　その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
9	メディアの歴史　その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
10	メディアの歴史　その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
11	現代の社会について考える　その 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
12	現代の社会について考える　その 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
13	現代の社会について考える　その 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
14	現代の社会について考える　その 4	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 学生は図書館で社会学について調べます
2. 学生は自分にとって現実らしいものについて考えてみます
3. 学生はこれまでの自分の人生について、振り返って考えます
4. 学生は自分が社会について考えるための題材を決めます
5. 学生は自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
6. 学生は自分が題材とするものと、言葉との関係を考えます
7. 学生は自分が題材とするものにとって、文明化の意味を考えます
8. 学生は自分が題材とするものにとって、近代化の意味を考えます
9. 学生は自分が題材とするものと、映像メディアとの関係を考えます
10. 学生は自分が題材とするものと、電子メディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのか、考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのか、考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのか、考えます
14. 学生はここまでの授業をふりかえり、自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
授業内作業（50 %）と、期末試験または期末レポート（50 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体調の管理に気をつけたいと思います。

社会学 B

高橋　徹

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】
この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。学生は、各回の講義を受けた後に授業内作業を行い提出します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの問題点について考えます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会の課題（1）	環境問題とメディアの関係について考えます。
9	現代社会の課題（2）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（3）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（4）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（5）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（6）	現代社会における人と人とのかかわりについて考えます。
14	まとめ	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1〜4. 自分が「現在の社会」を感じるモノ・コトについて調べ、中間レポートを作成します
5〜7. テレビドラマ、ニュース報道、スポーツ中継などのメディア・テキストを、自分なりに分析する準備をします
8〜13. 自分が考えるテーマを決めて、参考資料を集め、授業を参考にして分析し、期末レポート／期末試験の準備を進めます
14. あらためて、現在の社会とは何なのか、考えます

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
授業内作業の内容評価（50 %）と、中間レポート（20 %）、及び期末試験または期末レポート（30 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体調の管理に気をつけたいと思います。

心理学 A

松野　響

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説を受け、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】
　現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う。

【授業の進め方と方法】
　動画や心理実験のデモンストレーションをまじえながら、講義形式で授業をおこなう。（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説しない。心のメカニズムに対する科学的なアプローチによる研究の紹介が中心になる）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学と認知科学	心理学を学ぶことの意義・現代の心理学研究の広がりについて
2	心理学の研究方法	「心」への科学的なアプローチの方法論について
3	感覚と知覚	感覚知覚の仕組みについて
4	色覚	色とは何か、色が見える仕組みについて
5	形態視	形の認識の仕組みおよび立体視について
6	注意	視覚的注意の仕組みについて
7	視覚以外の感覚および感覚間相互作用	聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、および感覚間の相互作用について
8	学習	学習の原理について
9	知覚学習	知覚学習の仕組みおよび日常生活における知覚学習について
10	短期記憶	短期記憶の仕組みについて
11	長期記憶	長期記憶の仕組みについて
12	思考	推論と創造性について
13	意思決定	意思決定と判断のバイアスについて
14	言語	ことばの起源と発達、思考と言語の相互作用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読み、授業で紹介するトピックについて事前に自分で考える。授業で学習したことを復習する。授業で興味を引かれた内容については、紹介する参考図書や引用されている文献に直接あたり、理解を深める。また心理実験を実際に体験し、実証的な心へのアプローチの方法論への理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書はもちいない。

【参考書】
トピックごとに授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績 (86%)、および授業時に課す課題 (授業トピックに関するレポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (14%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や授業に関する各種連絡、課題の提出のために授業支援システム等オンラインのシステムを使用する。

心理学 B

松野　響

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説を受け、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】
　現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う。

【授業の進め方と方法】
　動画や心理実験のデモンストレーションをまじえながら、講義形式で授業をおこなう。（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説しない。心のメカニズムに対する科学的なアプローチによる研究の紹介が中心になる）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	意識の科学	意識無意識の情報処理について
2	時間の認識	同時性の知覚、時間評価、過去・未来の認識について
3	感性情報処理の仕組み	選好の仕組みについて
4	嗜好・選好性	色・音楽・社会的刺激の嗜好・選好について
5	基本情動	情動に関する諸理論について
6	高次感情	複雑で複合的な感情について
7	自己身体の認識	身体感覚について
8	身体化された認知	心と身体の相互作用について
9	自己の知覚	自己身体と自己認識の関係について
10	自己概念	顕在的・潜在的な自己認識について
11	他者知覚	顔・身体による他者の識別について
12	他者の心の理解	社会と心（他者を見分ける）
13	他者の理解を支える情報処理	視線・意図の認識、社会的認知の障害について
14	社会と心	他者から受ける影響について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読み、授業で紹介するトピックについて事前に自分で考える。授業で学習したことを復習する。授業で興味を引かれた内容については、紹介する参考図書や引用されている文献に直接あたり、理解を深める。また心理実験を実際に体験し、実証的な心へのアプローチの方法論への理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書はもちいない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績 (86%)、および授業時に課す課題 (授業トピックに関するレポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (14%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や授業に関する各種連絡のため授業支援システムを使用する。

国際社会論

吉村　真子

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、国際社会とは何か、現代の国際社会の基本問題とは何かについて議論し、現代の国際社会についての基礎的な理解を得ることを課題とします。

【到達目標】
現代の国際社会におけるさまざまな社会問題について、基本的な知識を身につけて、構造的に議論する視角を学ぶことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
急速なグローバル化が進行するにともない、世界では新たなる形の問題が生じてきています。国境を越えたカネ、モノ、ヒト、サーヴィスの移動や、エスニシティ、ジェンダー、ナショナリズム、人権など、さまざまな問題を視野に入れて、国際社会を構造的に議論することを課題とします。その際には、よその国のことではなく、私たちに関わる問題として考え、行動することに繋がること、また問題を構造的に捉えることが重要です。そのために、歴史的な説明と理論的な分析の視点も示していきます。
なお、授業の内容は時事問題も含めるなど、適宜、変更もあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	国際社会とは何か
第 2 回	国民国家とナショナリズム	主権、国民、国民国家、植民地からの独立
第 3 回	先住民と歴史的不正義	先住民の権利とアイデンティティ
第 4 回	多民族国家としてのアメリカ	公民権運動とアファーマティブ・アクション
第 5 回	民族問題とエスニシティ	アパルトヘイトとネルソン・マンデラ
第 6 回	国際社会とイスラーム	9.11 以降のイスラーム、ヴェール論争
第 7 回	ヒトの移動	グローバル化とヒトの移動
第 8 回	地域統合と地域主義	EU、APEC、ASEAN
第 9 回	経済格差と貧困	貧困の構造
第 10 回	国際社会とジェンダー	グローバル化、開発、ジェンダー
第 11 回	食料問題	飢餓の構造
第 12 回	環境問題	国際的な議論
第 13 回	人間の安全保障とグローバル市民社会	問題の解決のために
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも、参考文献やそれ以外の文献などで、国際社会問題についての勉強を必要とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに指定しませんが、参考書は授業で適宜、紹介しますので、受講生はそれぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【参考書】
西崎文子・武内進一編著『紛争・対立・暴力：世界の地域から考える』岩波書店、2016 年。／梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005 年。／藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣、2011 年、など。授業で適宜、紹介しますので、それぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、①授業内のコメントおよびミニ・レポート（20 %）、②期末試験（80 %）として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
国際社会をめぐって、授業以外の問題につながるような議論の進め方をしたいと思っています。

数学 A

佐柄　信純

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
解析学は変化する量を扱う科学です．経済学は不断に変動する経済量を分析します．本講義では，経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します．A では 1 変数および多変数の微分法を，B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します．

【到達目標】
経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です．特に，ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力点を置きます．また，数学の奥深さを知ってもらうために，難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します．

【授業の進め方と方法】
教科書に基づき授業を進めます．100 分の授業のうち，80 分を講義にあて，残りの 20 分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます．毎回，それを提出し，次回の授業時に答え合わせをして返却します．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	数学と経済学 (1)	等式
第 2 回	数学と経済学 (2)	関数
第 3 回	数学と経済学 (3)	数学と経済学の関係
第 4 回	1 変数連続関数 (1)	関数の連続性
第 5 回	1 変数連続関数 (2)	連続関数の逆関数
第 6 回	1 変数連続関数 (3)	連続関数の合成関数
第 7 回	1 変数関数の微分法 (1)	微分の基礎，合成関数の微分法
第 8 回	1 変数関数の微分法 (2)	積と商の微分法，逆関数の微分法
第 9 回	1 変数関数の微分法 (3)	指数関数，対数関数
第 10 回	1 変数関数の微分法 (4)	需要の価格弾力性，接線と 1 次近似
第 11 回	1 変数関数の最適化 (1)	極値の 1 階の条件
第 12 回	1 変数関数の最適化 (2)	凸関数
第 13 回	1 変数関数の最適化 (3)	2 次近似と 2 階の条件
第 14 回	ビデオ教材の視聴	NHK スペシャル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』，東洋経済新報社，2015 年

【参考書】
高校レベルの数学の復習が必要な学生には，次のテキストを推奨します．
[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』，改訂版，日本評論社，2013 年
本講義のレベルを超えて，さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます．
[2] 武隈愼一・石村直之『基礎コース 経済数学』，新世社，2003 年
[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』，勁草書房，1994 年
[4] A.C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎 (第 4 版)』，シーエーピー出版，2010 年
数学に関する面白い読み物として，次のものを薦めます．
[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明— 100 万ドルを拒否した天才数学者』，文藝春秋，2009 年
[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』，新潮文庫，2006 年
[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』，岩波新書，2008 年
[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』，草思社，2000 年
[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』，シュプリンガー・フェアラーク東京，1994 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．試験は持ち込み不可で行います．振り替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

数学 B

佐柄　信純

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
解析学は変化する量を扱う科学です．経済学は不断に変動する経済量を分析します．本講義では，経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します．A では 1 変数および多変数の微分法を，B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します．

【到達目標】
経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です．特に，ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力点を置きます．また，数学の奥深さを知ってもらうために，難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します．

【授業の進め方と方法】
教科書に基づき授業を進めます．100 分の授業のうち，80 分を講義にあて，残りの 20 分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます．毎回，それを提出し，次回の授業時に答え合わせをして返却します．

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	2 変数関数の微分法 (1)	R^2 の世界
第 2 回	2 変数関数の微分法 (2)	2 変数関数，2 変数関数の連続性
第 3 回	2 変数関数の微分法 (3)	2 変数関数の微分可能性，偏微分
第 4 回	2 変数関数の微分法 (4)	接平面，合成関数の微分法
第 5 回	2 変数関数の最適化 (1)	制約なしの極値問題，等値線
第 6 回	2 変数関数の最適化 (2)	制約付き極値問題，陰関数（関係の中に隠れている関数）
第 7 回	2 変数関数の最適化 (3)	ラグランジュ未定乗数法と陰関数，消費者と需要関数
第 8 回	1 変数関数の積分法 (1)	定積分，不定積分
第 9 回	1 変数関数の積分法 (2)	置換積分法，部分積分法
第 10 回	1 変数関数の積分法 (3)	無限区間上の定積分と確率密度関数
第 11 回	2 変数関数の積分法 (1)	2 変数関数の積分
第 12 回	2 変数関数の積分法 (2)	1 次元正規分布の確率密度関数
第 13 回	2 変数関数の積分法 (3)	R^2 上の積分と 2 次元正規分布，確率密度関数の行列表示
第 14 回	ビデオ教材の視聴	NHK スペシャル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の講義箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』，東洋経済新報社，2015 年

【参考書】
高校レベルの数学の復習が必要な学生には，次のテキストを推奨します．
[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』，改訂版，日本評論社，2013 年
本講義のレベルを超えて，さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます．
[2] 武隈愼一・石村直之『基礎コース 経済数学』，新世社，2003 年
[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』，勁草書房，1994 年
[4] A.C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎 (第 4 版)』，シーエーピー出版，2010 年
数学に関する面白い読み物として，次のものを薦めます．
[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明— 100 万ドルを拒否した天才数学者』，文藝春秋，2009 年
[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』，新潮文庫，2006 年
[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』，岩波新書，2008 年
[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』，草思社，2000 年
[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』，シュプリンガー・フェアラーク東京，1994 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．試験は持ち込み不可で行います．振り替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

物理学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この世界とは宇宙という大きなスケールから、非常に小さな原子や分子の世界、さらに小さな素粒子の世界まで、極めて幅広いものです。この授業では、「もの」の起源はなにか、宇宙の観測とは何を見ているのかを理解し、現代の物理法則の基礎となっている相対性理論について学びます。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を物理学的に説明する力を身につけます。

【到達目標】
基本的な物理学の法則や宇宙論や素粒子論の考え方を知り、その法則がもたらす現象を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【授業の進め方と方法】
講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。授業中にオンラインによる課題提出を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものの起源を考える	ものの起源について、これまで人類がどのように向き合ってきたかを理解する
3	古代の哲学と物理	古代ギリシャの哲学者が「実在」をどう考えていたかを理解する
4	プラトンとアリストテレス	後世に大きな影響を及ぼした哲学者プラトンとアリストテレスの考え方を理解する
5	新しい観測ツール	ものごとの観測がどのように新しい世界を開いたかを理解する
6	ニュートンの物理学	ニュートンの発見した物理学について、その重要性と意味を理解する
7	相対性理論と時空	アインシュタインの相対性理論の基本的な内容について理解する
8	宇宙のはじまりと膨張	現在の段階でわかっている宇宙の歴史について理解する
9	今とは何か	物理学を理解する上で、時間の概念は不可欠であるが、「今」とはなにかを理解する
10	宇宙の地平線	私たちが宇宙を理解するには限界があることを理解する
11	無限の概念	無限の考え方について理解する
12	真空エネルギー	宇宙は真空から生じたが、真空とは何かを理解する
13	多宇宙の概念	宇宙は一つではない、と考えるのが現代物理学の主流であるが、その考え方を理解する
14	まとめ	これまでの講義内容をまとめ、理解をより深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

【テキスト（教科書）】
『物理学は世界をどこまで解明できるか』（マルセロ・グライサー）、白揚社、2017 年、2700 円（税抜）

【参考書】
・Nature ダイジェスト教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
期末試験（春学期末および秋学期末）を実施する【70%】。授業中のオンラインによる小課題を課す【30%】。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象について考えられるような授業を目指します。教科書に沿った内容の展開となるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

物理学 B

藤田　貢崇

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この世界とは宇宙という大きなスケールから、非常に小さな原子や分子の世界、さらに小さな素粒子の世界まで、極めて幅広いものです。この授業では、素粒子の世界を記述する新しい物理法則について学びます。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を物理学的に説明する力を身につけます。

【到達目標】
基本的な物理学の法則や宇宙論や素粒子論の考え方を知り、その法則がもたらす現象を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【授業の進め方と方法】
講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。授業中にオンラインによる課題提出を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	原子論のはじまり	ギリシャ時代の原子論について理解する
2	錬金術と科学	中世の錬金術について理解する
3	熱とは何か	科学的な概念としての熱とは何かを理解する
4	光とは何か	光の性質を理解する
5	量子力学の世界	量子力学とはどのような理論であるかを理解する
6	量子力学での測定の意味	量子力学での測定の意味について理解する
7	ボルンの量子論	マックス・ボルンが考えた量子力学の解釈を理解する
8	実在の意味	量子力学における実在とはどういうことかを理解する
9	量子力学とアインシュタイン	量子力学の考え方は多くの科学者を悩ませたが、なにが問題であったのかを理解する
10	ベルの量子力学の考え方	ベルの理論を理解する
11	量子と意識	量子力学の分野には、まだまだ解明されていないことが多いが、意識と量子力学について理解する
12	私たちの世界と量子の世界	私たちの世界と相容れないように見える、量子の世界の世界について、より深く考える糸口を探る
13	まとめ	これまでの講義内容をまとめ、理解をより深める
14	科学と私たちの社会	科学と社会のつながりについて理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

【テキスト（教科書）】
『物理学は世界をどこまで解明できるか』（マルセロ・グライサー）、白揚社、2017 年、2700 円（税抜）

【参考書】
・Nature ダイジェスト教材活用事例: http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
期末試験（春学期末および秋学期末）を実施する【70%】。授業中のオンラインによる小課題を課す【30%】。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象について考えられるような授業を目指します。教科書に沿った内容の展開となるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

地学 A

原　芳生

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では見られない自然も多く存在する北アメリカという地域を取り上げ、地球科学（地学）的を題材を中心に取り上げて、自然がいかに構成されているかを学んでいく。それに加えて、国立公園システムの創設など多様な環境保全に対する考え方があることを知り、現代人が自然との共生（環境問題や防災等）を考えるための知識や方法を学ぶ。地学Ａでは特に地形環境について取り扱う。

【到達目標】
日本ではあまり見られない自然環境があることを認識することができる。
いろいろな自然環境のシステムができていることで、自然の複雑さを意識できるようになる。
地域の違いによる環境問題や自然災害の状況の相違点を知ることができる。多様な自然と人間生活との関連を知ることにより、いかに自然を保全していかなければいけないことに気づくことができる。
いろいろな環境保全の考え方があることを確認できる。
地学Ａでは、特に多様な地形環境について知ることができる。

【授業の進め方と方法】
主として教員が講義をする。テキストは使用せず、配付プリントを材料として説明することが基本となる。図表の説明が多くなるので多色に彩色して記録できると分かり易い。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１講	地学・地球科学とは。	地球科学の学問体系とは。
第２講	自然環境の捉え方。	参考文献等の解説。 自然を如何にとらえるか。
第３講	地形の見方。	地形について科学的にとらえるにはどのような方法があるか。
第４講	北アメリカの地形区分。	地形区分の方法。 アメリカ大陸の形成。
第５講	東部の山地と海岸平野－１	アパラチア山脈と高原。 地形的障害。
第６講	東部の山地と海岸平野－２	ピードモントと海岸平野。
第７講	中央部の平原	中央低地。カナダ楯状地。グレートプレーンズ。
第８講	西部の山地－１	ロッキー山脈。コロラド高原。ベイズンアンドレンジ。
第９講	西部の山地－２	コロンビア高原。内陸山脈。海岸山脈。
第10講	氷河の影響を受けた地形－１	氷河時代。大陸氷床。
第11講	氷河の影響を受けた地形－２	山岳氷河。周氷河地形
第12講	環境問題－１	土壌侵食。
第13講	地形と人間生活。	地形の影響をうけた、北アメリカの人間生活。
第14講	春学期の講義内容のまとめ。	まとめ：どのような地形配列になっていたか。その生成の仕組みのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付されたプリントは事前によく読み、毎時間必ず持参する。前の授業の内容をよく復習して次の授業に望む。平易な用語等は紹介された辞書などの参考文献で、まず自分で確かめる。自分で進んで参考文献を読んでみる。自分で関連したことがらを調べてみる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義中に適時プリントを配布。

【参考書】
世界地誌シリーズ４『アメリカ』矢ヶ崎典隆編，朝倉書店
アメリカ大陸の自然誌１『アメリカ大陸の誕生』赤沢 威他編，岩波書店
『アメリカ環境史』小塩和人，上智大学出版
朝倉世界地理講座13『アメリカ・カナダ』小塩和人・岸上伸啓編，朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
春学期講義内容に関する期末試験の結果で100% 評価する。
講義内容がどれだけ正しく理解されているかを評価の基準とする。
北アメリカの地形の全体構造と、異なる地域の地形的特徴が正しく理解できているか。

【学生の意見等からの気づき】
本年度も、講義中に使用したプリントで配付できない写真や図は、ウェブシステムで閲覧できるようにしていく。
講義中に見せるパワーポイントのスライドのうち、前回の講義までにすでに示したスライドや簡単に自分で調べられる内容のスライドなどは、当然その提示時間は短くなる。

【その他の重要事項】
プリントに提示された資料（材料）は、授業中に説明をしっかりと聞いてノートテイクをしておかないと、それだけ（図表）を後で見ても意味は理解できないことが多い。
授業の展開や社会の出来事によっては、多少の授業計画の変更はあり得る。受講生が自分で簡単に調べられる内容については、講義中には詳細には説明しないので、自分で進んで学習する習慣を身につけてほしい。

地学 B

原　芳生

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では見られない自然も多く存在する北アメリカという地域を取り上げ、地球科学（地学）的を題材を中心に取り上げて、自然がいかに構成されているかを学んでいく。それに加えて、国立公園システムの創設など多様な環境保全に対する考え方があることを知り、現代人が自然との共生（環境問題や防災等）を考えるための知識や方法を学ぶ。地学Ｂでは特に気候環境と環境思想、環境問題などについて取り扱う。

【到達目標】
日本ではあまり見られない自然環境があることを認識することができる。
いろいろな自然環境のシステムができていることで、自然の複雑さを意識できるようになる。
地学Ｂでは、特に多様な気候環境について知ることができる。
地域の違いによる環境問題や自然災害の状況の相違点を知ることができる。
多様な自然と人間生活との関連を知ることにより、いかに自然を保全していかなければいけないことに気づくことができる。
いろいろな環境保全の考え方があることを確認できる。

【授業の進め方と方法】
主として教員が講義をする。テキストは使用せず、配付プリントを材料として説明することが基本となる。図表の説明が多くなるので多色に彩色して記録できると分かり易い。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１講	地学・地球科学とは。自然環境の捉え方。	地球科学の学問体系とは。自然を如何にとらえるか。参考文献等の解説。
第２講	気候のとらえ方。	見えない大気の現象をいかに捉えるか。地域や時間と関連づける気候学の見方。
第３講	北アメリカの気候区分と植生－１。	ケッペンの気候区分の方法。熱帯・温帯の気候と植生。
第４講	北アメリカの気候区分と植生－２。	冷帯・寒帯・乾燥帯・高山の気候と植生。
第５講	北アメリカの総観気候－１。	気団とは。気団の種類。極気団の現象。
第６講	北アメリカの総観気候－２。	寒帯気団、熱帯気団の現象。
第７講	北アメリカの代表的な気象現象と小気候。	竜巻。地方風。都市気候。
第８講	環境問題－２。	大気汚染。ロサンゼルス型とロンドン型スモッグ。
第９講	環境保護の思想－１。	国立公園制度。世界最初の国立公園。国立公園システムの確立。
第10講	環境保護の思想－２。	森林火災についての考え方。オオカミの再導入。
第11講	環境保護の思想－３。	グレーターエコシステムの導入。グリズリーやバイソンの保護。ダムの放棄。
第12講	自然災害－１。	火山災害。地震災害。
第13講	自然災害－２。	洪水災害。ハリケーン災害。
第14講	秋学期及び１年間の講義内容のまとめ。	まとめ：どのような気候がみられたか。北アメリカの自然の仕組みと人間の対処の仕方を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付されたプリントは事前によく読み、毎時間必ず持参する。前の授業の内容をよく復習して次の授業に望む。平易な用語等は紹介された辞書などの参考文献で、まず自分で確かめる。自分で進んで参考文献を読んでみる。自分で関連したことがらを調べてみる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義中に適時プリントを配布。

【参考書】
世界地誌シリーズ４『アメリカ』矢ヶ崎典隆編，朝倉書店
アメリカ大陸の自然誌１『アメリカ大陸の誕生』赤沢 威他編，岩波書店
『アメリカ環境史』小塩和人，上智大学出版
朝倉世界地理講座13『アメリカ・カナダ』小塩和人・岸上伸啓編，朝倉書店
『アメリカの環境保護運動』岡島成行，岩波書店
『アメリカの国立公園』上岡克己，築地書館

【成績評価の方法と基準】
秋学期講義内容に関する期末試験の結果で100% 評価する。
講義内容がどれだけ正しく理解されているかを評価の基準とする。
北アメリカの気候システムの全体構造と、環境に対する考え方や自然災害の特徴などが正しく理解できているか。

【学生の意見等からの気づき】
本年度も講義中に使用したプリントで配付できない写真や図は、ウェブシステムで閲覧できるようにしていく。
講義中に見せるパワーポイントのスライドのうち、前回の講義までにすでに示したスライドや簡単に自分で調べられる内容のスライドなどは、当然その提示時間は短くなる。

【その他の重要事項】
プリントに提示された資料（材料）は、授業中に説明をしっかりと聞いてノートテイクをしておかないと、それだけ（図表）を後で見ても意味は理解できないことが多い。
授業の展開や社会の出来事によっては、多少の授業計画の変更はあり得る。
受講生が自分で簡単に調べられる内容については、講義中には詳細には説明しないので、自分で進んで学習する習慣を身につけてほしい。

化学 A

山﨑　友紀

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。“物質” や “反応” によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて学びましょう。

【到達目標】
「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【授業の進め方と方法】
高校での化学や物理の履修有無を問わず、高校化学の補完をしながら、親しみあるトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。講義の中でデモ実験、ネットワーク学習（授業支援システム）、映像教材を取り入れ、授業内容の理解を促します。ほぼ毎回リアクションペーパーで理解度チェックを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第 2 回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第 3 回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第 4 回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質量とモル
第 5 回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第 6 回	『スケート靴、ポンポン船』	物質の状態変化
第 7 回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第 8 回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第 9 回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第 10 回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸と塩基 酸化と還元
第 11 回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第 12 回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第 13 回	『ステーキ、マスカラ、バイオプラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第 14 回	総合復習と試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。できるだけ、高校の化学の図録を入手しておいてください（出版社は問わない）。

【テキスト（教科書）】
1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。

【参考書】
1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010 年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。
3『三訂版　フォトサイエンス化学図録』(数研出版、2017 年)。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 60 %、課題の取組み等の平常点を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。演習や実験を多く取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム、スマートフォンを時々利用します。

【その他の重要事項】
授業支援システムの課題は必ずダウンロードしてください。

化学 B

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験や演習を多く取り入れ、身近な現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた内容を体験的に学ぶ。

【到達目標】
化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

【授業の進め方と方法】
基本的な知識内容に加え、演習、実験、映像教材などを通じて、より発展的な学習を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「元素の化学」	周期表、粒子の概念。
第 2 回	「元素発見の歴史」	映像などによる化学史の紹介。
第 3 回	「モルって何？」	物質量「モル」を実感する。
第 4 回	基礎実験 1	酸・アルカリの実験を通して実験器具の基本操作や環境化学を理解する。
第 5 回	基礎実験 2	酸化・還元反応に関する実験を行う。
第 6 回	生活の中の化学 1	家庭にある身近な化学を見つける。
第 7 回	生活の中の化学 2	家庭にある身近な化学を見つける。
第 8 回	基礎実験 3	光と色の実験：基本実験により、光と色に関する理解を深める。
第 9 回	調べ学習とプレゼン	自分のテーマについて調査した結果を報告する。
第 10 回	分析化学（実験）	中和滴定：実験を通して、水溶液の調整、濃度の測定等の基本操作を学びます。
第 11 回	環境を守る化学（実験）	環境浄化、環境保全に役立つ化学について学習する。
第 12 回	基礎実験 4	電気化学の基礎実験。
第 13 回	食品、医薬品、環境	食品、医薬品、環境に見る化学について学習する。
第 14 回	総復習	秋学期の授業全体について演習を行い理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には授業支援システムを利用する。毎回復習プリントを提出する。

【テキスト（教科書）】
1『三訂版 フォトサイエンス化学図録』(数研出版、2017 年)。

【参考書】
1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 60 %、課題や実験の取組みを 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生実験や演習課題を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解をした上で実験体験をできるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
・この授業では、実験・実習を行いますが、実験装置や器具、安全確保のために、受講人数の上限を定めます（40 名程度）。
・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
・初回授業の集合場所：研究・実験棟（12 号館）4 階 404 教室。
・履修確定者は、教科書を必ず購入してください。

生物学 A

岡部　雅史

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】
生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目標としています。

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 －生命現象をあらわすキーワード，2 － DNA とデジタルコピー，3 －遺伝情報から生体が組み立てられるメカニズム，4 －バイオテクノロジーの発展と，バイオビジネスの展開　以上の 4 つのサブテーマから構成され，生物学・生命現象の基礎概念の理解，バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方，バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	生物を構成する物質 1	無機物と有機物・ミュラーの実験・化学進化
3	生物を構成する物質 2	アミノ酸・タンパク質・ペプチド結合
4	生物を構成する物質 3	一次構造～四次構造・構造と機能
5	生物を構成する物質 4	生命の設計図　遺伝子・DNA・RNA の構造
6	セントラルドグマ 1	DNA の自己複製メカニズム・コピーミスと発ガン
7	セントラルドグマ 2	遺伝情報の流れ・転写と翻訳からタンパク質の合成
8	セントラルドグマ 3	環状 DNA と線状 DNA、テロメアの役割
9	セントラルドグマ 4	遺伝子の完全なコピー vs 遺伝子のシャッフル
10	バイオテクノロジー 1	古代の技術・納豆・酒・チーズ・ヨーグルト
11	バイオテクノロジー 2	現代の技術・遺伝子組み替えと遺伝子産物の利用
12	バイオテクノロジー 3	遺伝子組み替え作物・遺伝子診断と差別・生命倫理
13	バイオテクノロジー 4	遺伝子の個人差・移植用臓器の生産・クローン生物
14	バイオテクノロジー 5	幹細胞と再生医療・ES 細胞・iPS 細胞の作成と臓器への分化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される科学ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

生物学 B

岡部　雅史

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】
生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目的としています。

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 －生命現象をあらわすキーワード，2 －生命とエネルギー，3 －細胞の構築メカニズム，4 －バイオテクノロジーの発展とバイオビジネスの展開　以上の 4 つのサブテーマから構成され，生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方，バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生物を構成する物質 1	人間に必要な栄養素・基礎代謝
2	生物を構成する物質 2	炭水化物と各種の糖
3	生物を構成する物質 3	エネルギー貯蔵物質・脂質
4	生物を構成する物質 4	ビタミン・ミネラル・食物繊維の役割
5	エネルギー代謝 1	生物が利用することができるエネルギーは？
6	エネルギー代謝 2	糖からエネルギーを取り出す（呼吸 1）
7	エネルギー代謝 3	脂質からエネルギーを取り出す（呼吸 2）
8	エネルギー代謝 4	生命のエネルギー通貨 ATP
9	エネルギー代謝 5	効率的なエネルギー利用と酸素の役割・活性酸素とは何か？
10	細胞の構造 1	細胞内小器官とその役割
11	細胞の構造 2	体細胞分裂と減数分裂のメカニズムとその意義
12	細胞の構造 3	細胞の分化と遺伝子の役割
13	細胞の構造 4	生物の進化と性の役割・テロメアと細胞分裂回数の限界
14	生命とは何か？	生命の定義と環境応答 日本のノーベル賞研究 再生医療と iPS 細胞の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される科学ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

科学史 A

河野　俊哉

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災およびそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、本講義では、「科学」とは何かについて、歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。

【到達目標】
歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。アンケートを実施しますので、必ず出席して下さい。
第 2 回	「科学」の誕生	「歴史観」について説明します。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「世界観（宇宙論）」等について説明します。
第 4 回	「錬金術と絵画」	絵画や『ハリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観しましょう。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」について説明します。
第 6 回	「科学革命論」再考Ⅰ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明します。映画『薔薇の名前』の鑑賞。
第 7 回	「科学革命論」再考Ⅱ	「中国の科学」と「西洋中心主義」について説明します。「暦の誕生」
第 8 回	「科学革命論」再考Ⅲ	コペルニクス、ケプラーらの営為を通して、ルネサンスの意味を考えます。
第 9 回	「科学革命論」再考Ⅳ	パラケルススやデカルトらの営為を通して、「魔術的自然観」と「機械論的自然観」についての理解を深めましょう。
第 10 回	「科学革命論」再考Ⅴ：「化学革命の検討」	「化学革命」を近年の社会史研究の視点から再考しましょう。『においの歴史』、『パヒューム』
第 11 回	「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」について説明します。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命、百科事典と学問分類
第 12 回	科学技術社会論入門Ⅰ：BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）問題を事例に科学コミュニケーションについて説明します。
第 13 回	科学技術社会論入門Ⅱ：原発問題とリスク社会	「原発問題」を事例にしてリスク社会、科学リテラシーについて説明します。
第 14 回	本講義のまとめ	「大学の誕生（日本の場合）」、「教養教育の再構築」について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業の前に目を通してきて下さい。また、授業外レポートを通して、「調べて、書く」ための基本作法（場合によっては、就職活動や卒論執筆等にも必要な知識）もマスターしていきましょう。

【テキスト（教科書）】
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】
古川安『科学の社会史 [増訂版]』（南窓社、2000 年）。
小林信一等編『社会技術概論』（放送大学教育振興会、2007 年）。
藤垣裕子・廣野喜幸編『科学コミュニケーション論』（東京大学出版会、2008 年）。

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート 40 %　授業外レポート 30 %　試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】
携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム

科学史 B

河野　俊哉

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災およびそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、本講義では、「科学」とは何かについて、歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。

【到達目標】
歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
本講義では、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに「科学と英文学」、「科学と絵画」等のテーマを考察し、最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察することにします。講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィンと進化論	進化論の概要とその衝撃について説明します。アンケート実施。要出席。
第 2 回	社会ダーウィニズムと「日本における進化論の受容」	社会ダーウィニズムや「日本における進化論の受容」の概要とその問題点等について説明します。
第 3 回	「科学とイギリス文学」	「科学とイギリス文学」に関する研究を概観してみましょう。
第 4 回	「ダーウィニズムとウェルズ」	『タイムマシン』や『宇宙戦争』について考察します。
第 5 回	『フランケンシュタイン』の科学史的考察	『フランケンシュタイン』を科学史的に考察してみましょう。
第 6 回	「絵画と科学」	フェルメールの絵画等を例に考察してみましょう。
第 7 回	「戦争と科学」：フリッツ・ハーバー	「ハーバーの生涯と業績」や「毒ガス開発の歴史」を通して、「戦争と科学」について理解を深めましょう。
第 8 回	レイチェル・カーソン：科学・文学・環境	レイチェル・カーソンの事例を通して、DDT の功罪について考察します。
第 9 回	「日本人と近代科学Ⅰ」～『長州ファイブ』：山尾庸三、ダイアー	『長州ファイブ』を鑑賞し、山尾庸三、御雇外国人、工部大学校等について理解を深めましょう。
第 10 回	「日本人と近代科学Ⅱ」：病気の文化史	『JIN-仁』を鑑賞し、江戸における病気や医学を巡る状況等について理解を深めましょう。華岡青洲。
第 11 回	ジェンダーと科学：マリー・キュリー	マリー・キュリーを事例に「ジェンダーと科学」について理解を深めましょう。
第 12 回	科学技術社会論Ⅰ：科学コミュニケーション	GMO（遺伝子組換え作物）問題を事例にして科学コミュニケーションについて説明します
第 13 回	科学技術社会論Ⅱ：原発問題とリスク社会	「原発問題」を事例にしてリスク社会、科学リテラシーについて説明します。
第 14 回	本講義のまとめ：「教養教育」の再構築	講義を振り返り、教養教育の観点から本講義の意味を再確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業前に目を通してきて下さい。また、授業外レポートを通して、「調べて、書く」ための基本作法（場合によっては、就職活動や卒論執筆等にも必要な知識）もマスターしていきましょう。

【テキスト（教科書）】
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】
古川安『科学の社会史 [増訂版]』（南窓社、2000 年）。
小林信一等編『社会技術概論』（放送大学教育振興会、2007 年）。
藤垣裕子・廣野喜幸編『科学コミュニケーション論』（東京大学出版会、2008 年）。

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート 40 %　授業外レポート 30 %　試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】
携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム

自然科学特講

岡部　雅史、藤田　貢崇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、物理学（天文学）ならびに生物学的映像記録の実験を通して、実験・観察の方法や、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

【到達目標】
・さまざまな自然科学分野の現象を数値等によって具体化し、現象を論理的に説明できること。
・いろいろな実験装置の操作や実験を行う上での留意点を理解し、各実験の目的に沿って正しく操作できること。
・ネーチャーフォト撮影技法の入門編として技術を習得し、映像作品としてまとめることができること。

【授業の進め方と方法】
　本授業は、前半は物理学および天文学に関する内容、後半は生物学的ネーチャーフォト撮影に関する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、岡部雅史が担当する。授業では実際に実験装置やデータ整理のための PC やデジカメを操作し、レポート・映像作品を作成する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	物理学実験の基礎	物理学実験の基礎項目を学ぶ
2	データロガーの扱い方	物理学実験（温度測定など）に使われるセンサーを用いて、データ収集の扱い方を理解する
3	水の融点と沸点の計測	データロガーとセンサーを用いて、水の温度変化を調べる
4	環境中の二酸化炭素の測定	室内環境の二酸化炭素濃度を測定し、濃度変化の原因を探る
5	太陽の観測	天体望遠鏡を用いて太陽を観測する
6	天体写真を用いた距離の測定	天体写真を用いて、その天体までの距離を計測する
7	放射線測定	環境中の放射線を計測する
8	ネーチャーフォトの基礎	撮影法について学ぶ
9	テーマ１：露出	撮影時の適正な明るさを理解する
10	テーマ２：シャッタースピード	シャッタースピードの長短と映像に及ぼす影響を理解する
11	テーマ３：絞り	絞りによる被写界深度の変化を理解する
12	テーマ４：マクロ撮影	接写の技術を理解する
13	テーマ５：タイムラプス撮影	定点・長時間撮影の技法を理解する
14	テーマ６：キャプションの付与	映像作品に対する解説文の付与を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半（第 7 回まで：藤田担当回）は、毎回の実験課題への取り組みを通じ、実験の方法論、データ収集手法、解析方法、実験レポートの書き方を学ぶ。
・後半（第 8 回以降：岡部担当回）は、毎週課される課題に沿った写真を撮影し、翌週発表する形式をとる。そのため、テーマに沿った生物対象を探す努力をせよ。

【テキスト（教科書）】
　教科書は使用しない。

【参考書】
　必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・物理学実験への取り組みと実験レポートの評価 **(50%)** ：実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。
・ネーチャーフォト撮影への取り組みと発表作品の評価 **(50%)** ：実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

【学生の意見等からの気づき】
　多くの受講者が実験機器の扱いに慣れることができるよう、さらに工夫を重ねます（藤田貢崇分）。
　特にありません（岡部雅史）。

【学生が準備すべき機器他】
・本授業では、各自、充電済みの貸与ノート PC・および　デジカメまたはカメラ付き携帯・かスマートフォン　あるいは　デジタル一眼レフを持参すること。前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。

【その他の重要事項】
・この授業は、実験・実習を行う授業であり、実験装置等に限りがあることから、受講人数の上限を定めます。受講者を初回授業時に抽選しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。
・初回授業の集合場所は、研究・実験棟（12 号館）1 階 101 教室となる。2 回目以降の授業は、必要に応じて実施場所を変更する場合がある。

English Communication I A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ロバート　ストラウド

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences. Students will learn conversational English, impromptu speeches, media English, and group presentations.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a mid-beginner level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the conversational English and Media English sections will be determined by the teacher. The contents for the impromptu speeches and group presentations sections will be determined by the students in consultation with the teacher.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Introduction.	Lecture and introduction games.
Week#2	Conversational English (1).	Getting to know new people.
Week#3	Conversational English (2).	Discussing hobbies/likes/dislikes.
Week#4	Conversational English (3).	Explaining and questions about hometowns.
Week#5	Conversational English (4).	Showing precious items and follow-up questions.
Week#6	Guidelines for Impromptu Speeches.	Structuring, delivering and expanding upon speeches.
Week#7	Impromptu Speeches (1).	Content to be determined by students (1).
Week#8	Impromptu Speeches (2).	Content to be determined by students (2).
Week#9	Impromptu Speeches (3).	Content to be determined by students (3).
Week#10	Media English.	Students will watch and discuss news items.
Week#11	Guidelines for Group Presentations.	Practice how to structure, deliver and expand upon presentations.
Week#12	Group Presentations Practice (1).	Preparing and delivering presentations.
Week#13	Group Presentations Practice (2).	Preparing and delivering presentations.
Week#14	Group Presentations Test.	Groups deliver their presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the teacher for the conversational English and media English sections. Students will select their own topics for the impromptu speeches and group presentations sections, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentation test (50%).

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

English Communication I B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ロバート　ストラウド

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: informative speeches, media English, and discussion.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-beginner level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the informative speeches and discussion sections will be determined by the students in consultation with the teacher.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Outline / Guidelines for Informative Speeches.	Course content introduction and the structuring / assessment of informative speeches.
Week#2	Informative Speeches Practice (1).	Content to be determined by students (1).
Week#3	Informative Speeches Practice (2).	Content to be determined by students (2).
Week#4	Informative Speeches Practice (3).	Content to be determined by students (3).
Week#5	Informative Speeches (1).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#6	Informative Speeches (2).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#7	Informative Speeches (3).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#8	Informative Speeches (4).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#9	Media English.	Students watch and answer questions about recent news stories.
Week#10	Introduction to Discussions / Class Discussions (1).	Students are introduced to the common language and assessment of discussions.
Week#11	Class Discussions (2).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#12	Class Discussions (3).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#13	Class Discussions (4).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#14	Discussion Test.	Groups undertake discussion tests.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the teacher for the media English section. Students will select their own topics for the informative speeches and discussion sections, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by Class Participation (50%), informative Speeches (25%) and Discussion Tests (25%).

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

English Communication Ⅰ A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

アラン・バーグマン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of the course　will be on developing listening, speaking and presentation skills. Instruction will be in English.

【到達目標】
The course goal is to improve listening students skills for communicating effectively in English.

【授業の進め方と方法】
Class activities will include listening activities, vocabulary development, pair-work　activities, and speech making.

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation, Hobbies, interests, free-time activities	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 1
week 2	clothing, colors, patterns	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 2
week 3	health, happiness	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 3
week 4	directions	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 4
week 5	preparation self-introduction speech	handouts, homework: self-introduction speech
week 6	self-introduction speech	self-introduction speech
week 7	describing objects and materials	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 5
week 8	goals and dreams	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 6, homework: 10 interview questions
week 9	preparation for demonstration speech	handouts, homework: demonstration speech
week 10	demonstration speech	demonstration speech
week 11	Pair Interview Practice Day	Pair Interview Practice Day
week 12	pair interviews	pair interviews
week 13	pair interviews	pair interviews
week 14	Make-up Day	make-ups, ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to complete all homework assignments which will include textbook assignments, handouts, interview questions, and preparing speeches.

【テキスト（教科書）】
The required textbook is English Firsthand Success (5th edition) by M. Helgesen, J. Wiltshire, and S. Brown (Pearson). Additional materials will be supplied by the instructor.

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
Class participation, in-class activities and the completion of homework assignments (50%)
Classroom presentations (20%)
Pair Interviews (30%)
To pass, students must:
1) get the class textbook
2) complete all assignments
3) make a conscientious attempt to use English when speaking to the teacher and during in-class activities. Grades will be awarded based on the quality of coursework, and on effort demonstrated by classroom participation.
Students are expected to attend ALL classes.

【学生の意見等からの気づき】
Student comments are welcome.Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
dictionary

【その他の重要事項】
The syllabus is subject to change based on students's needs.

English Communication Ⅰ B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

アラン・バーグマン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of the course　will be on developing listening, speaking and presentation skills. Instruction will be in English.

【到達目標】
The course goal is to improve students skills for communicating effectively in English.

【授業の進め方と方法】
Class activities will include listening activities, vocabulary development, pair-work　activities, and speech making.

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	past experiences	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 7
week 2	describing nature	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 8
week 3	talking about abilities	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 9
week 4	discussing likes and dislikes	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 10
week 5	preparation for a layout speech	handouts, homework: layout speech
week 6	layout speech	layout speech
week 7	talking about rules	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 11
week 8	telling stories	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 12, homework: 10 interview questions
week 9	preparing for a show and tell speech	handouts, homework: a show and tell speech
week 10	show and tell speech	show and tell speech
week 11	Interview Practice Day	Interview Practice Day
week 12	pair interviews	pair interviews
week 13	pair interviews	pair interviews
week 14	Make-up Day	make-ups, ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to complete all homework assignments which will include textbook assignments, handouts, interview questions, and preparing speeches.

【テキスト（教科書）】
The required textbook is English Firsthand Success (Pearson Longman). Additional materials will be supplied by the instructor.

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
Class participation, in-class activities and the completion of homework assignments (50%)
Classroom presentations (20%)
Pair Interviews (30%)
To pass, students must:
1) get the class textbook
2) complete all assignments
3) make a conscientious attempt to use English when speaking to the teacher and during in-class activities. Grades will be awarded based on the quality of coursework, and on effort demonstrated by classroom participation.
Students are expected to attend all classes.

【学生の意見等からの気づき】
Student comments are welcome.Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
dictionary

【その他の重要事項】
The syllabus is subject to change based on students's needs.

English Communication I A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ステラ　山﨑

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in English. Each class will focus on a particular topic.

【到達目標】
Same as above.

【授業の進め方と方法】
In the first part of class we will listen to videos or tapes and answer questions. The second half of class we usually do speaking activities, such as asking and answering questions in small groups or playing games. I use many videos. Some are easier, some are harder, but the topics are usually interesting.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to course	song, rules, video model, mixer
2	Friends	video, discussion
3	Family	song, vocabulary, video, discussion
4	Directions	video, model directions, exercises
5	Hometown	song, questions, video, exercises, discussion
6	Post office	song, vocabulary, video, discussion
7	Health	dialog, vocabulary, reading, survey, discussion
8	Games	vocabulary, listening, pair activity, game
9	Telephone	song, videos, dialog, spelling, vocab
10	Music	song, lecture, survey, discussion
11	Movies	clips, exercise, dialog, vocabulary, discussion
12	Taxi	video, tip, vocabulary, role play
13	Surprise topic	song, video, vocabulary, questionnaire, discussion
14	Holidays	vocabulary, video, practice, discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly homework: 10 questions answered in three complete sentences per question (answer, detail, detail), some tests

【テキスト（教科書）】
Dictionary: Japanese to English and English to Japanese in equal parts. Electronic dictionaries are okay. Bring every time.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
No big examinations but weekly homework or quizzes. Homework must be completed on time. You must bring dictionaries every time. Grades will be awarded based on test and homework scores (50%) and on effort demonstrated by classroom participation (50%). The strict requirements for receiving participation points will be explained in class.

【学生の意見等からの気づき】
Students want newer popular songs.

【その他の重要事項】
Half of your grade is based on your attitude, half on your written work (homework and tests). There is no final test. You must produce good weekly work, bring dictionaries to class and participate actively to pass this course.

English Communication I B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ステラ　山﨑

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in English. Each class will focus on a particular topic.

【到達目標】
Same as above.

【授業の進め方と方法】
In the first part of class we will listen to videos or tapes and answer questions. The second half of class we usually do speaking activities, such as asking and answering questions in small groups or playing games. I use many videos. Some are easier, some are harder, but the topics are usually interesting.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer vacation	video, vocab, discussion, mixer
2	Sleep	vocabulary, video, dictation, discussion
3	Sports	grammar, dialog, video, vocabulary, discussion
4	Fashion	vocabulary, news video, discussion
5	School festivals	song, vocabulary, video, discussion, group project
6	Work	song, video, discussion
7	Halloween	song, vocabulary, video, discussion
8	Travel	song, vocabulary, video, game
9	Food	song, vocabulary, video, questionnaire, discussion
10	Driving	dialog, tape, survey, discussion
11	Shopping	survey, vocabulary, video, dictation, discussion
12	Blood type	survey, vocabulary, video, discussion
13	Christmas	song, vocabulary, reading, quiz, discussion
14	Surprise lesson	vocabulary, video, dictation, discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly homework: 10 discussion questions and three sentences each time (answer, detail, detail style)

【テキスト（教科書）】
Dictionary: Japanese to English and English to Japanese in equal parts. Electronic dictionaries are okay.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
No big examinations but weekly homework or quizzes. Homework must be completed on time. You must bring dictionaries every time. Grades will be awarded based on test and homework scores (50%) and on effort demonstrated by classroom participation (50%). The strict requirements for receiving participation points will be explained in class.

【学生の意見等からの気づき】
Students would like me to use popular songs.

【その他の重要事項】
Half of your grade is based on your attitude, half on your written work, (homework and tests).There is no final test. You must produce good weekly work, bring dictionaries to class and participate actively to pass this course.

English Communication I A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Kregg　Johnston

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop communicative competence in a variety of situations encountered in business

【到達目標】
This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business

【授業の進め方と方法】
This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with a business communication textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. There will also be short written assignments to develop communication in writing.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 1 Introductions	Nationalities To be Introducing yourself & others
Week 3	Unit 1 Introductions	Asking & answering Wh- questions Conversation & role play: Intros
Week 4	Unit 1 quz and case discussion	Unit 1 quiz U1 case:choose candidate to meet
Week 5	Unit 2 Work & leisure	Word partnerships Routines, leisure activities Days, months, dates
Week 6	Unit 2 Work & leisure	Simple present tense Adverbs and expressions of frequency
Week 7	Unit 2 quiz and case discussion	Unit 2 quiz U2 case: Decide 3 changes for company
Week 8	Unit 3 Problems	Problems at work too vs enough
Week 9	Unit 3 Problems	Phoning: Solving problems Present tense: Negatives & Q's
Week 10	Unit 3 quiz and case discussion	Unit 3 quiz U3 case:Discuss in groups Working/cultures 1/ Revision
Week 11	Unit 4 Travel	Talk about travel Can/Can't There is/There are
Week 12	Unit 4 Travel	Telephoning Checking arrangements
Week 13	Unit 4 quiz and case discussion	Unit 4 quiz U4 case Arranging a conference
Week 14	Unit 5 Food & entertaining	Food from different countries Countable/Uncountable nouns

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence

【テキスト（教科書）】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 978-1-4082-3705-2

【参考書】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 978-1-4082-3705-2

【成績評価の方法と基準】
Student grades will be calculated in the following way:
Quizes-55%
Homework-10%
Attendance & Participation 15%
Writing assignments:business corresponence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction on vocabulary development skills

【学生が準備すべき機器他】
The textbook

【その他の重要事項】
None

English Communication I B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション初級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Kregg　Johnston

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop communicative competence in a variety of situations encountered in business

【到達目標】
This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business

【授業の進め方と方法】
This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with a business communication textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. There will also be short written assignments to develop communication in writing.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 7 People	Describing People Past simple: negatives & questions Work
Week 3	Unit 7 People	Question forms Dealing with problems
Week 4	Unit 7 quiz and case discussion	Unit 7 quiz U7 case:Advice on work problems
Week 5	Unit 8 Advertising	Advertising quiz Advertising & markets
Week 6	Unit 8 Advertising	Much/ a lot/ a little bit Comparative/Superlative Participating in discussions
Week 7	Unit 8 quiz and case discussion	Unit 8 quiz U8 case:Discuss in groups
Week 8	Unit 9 Companies	Describing companies Reading Charts
Week 9	Unit 9 Companies	Present continuous/simple Company quiz
Week 10	Unit 9 quiz and case discussion	Unit 9 quiz U9 case:Discuss in groups International bus. 3/ Revision
Week 11	Unit 10 Communication	Communication quiz Internal communication Future forms
Week 12	Unit 10 Communication	Talking about future plans Making arrangements
Week 13	Unit 10 quiz and case discussion	Unit 10 quiz U10 case:Discuss in groups
Week 14	Unit 11 Cultures	Company cultures identifying problems Agreeing to action

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence

【テキスト（教科書）】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 978-1-4082-3705-2

【参考書】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 978-1-4082-3705-2

【成績評価の方法と基準】
Student grades will be calculated in the following way:
Quizes-55%
Homework-10%
Attendance & Participation 15%
Writing assignments:business corresponence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction on vocabulary development skills

【学生が準備すべき機器他】
The textbook

【その他の重要事項】
None

English Communication II A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション中級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Richard Evanoff

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: conversational English, media English, and demonstrative speeches.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-intermediate level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the conversational English and media English sections will be determined by the teacher. The contents for the demonstrative speeches sections will be determined by the students in consultation with the professor.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Lecture
Week 2:	Conversational English (1)	Prepared questions (QR-800 II.17-25, III.1) (1)
Week 3:	Conversational English (2)	Prepared questions (2)
Week 4:	Conversational English (3)	Prepared questions (3)
Week 5:	Conversational English (4)	Prepared questions (4)
Week 6:	Media English (1)	News video ["Foreigners in Japan"]
Week 7:	Media English (2)	Discussion of news video
Week 8:	Guidelines for demonstrative speeches	Handout, p. 1 (except Impromptu Speeches)
Week 9:	Preparation for demonstrative speeches	In-class preparation
Week 10:	Demonstrative speeches (1)	Hobbies / Japanese culture (1)
Week 11:	Demonstrative speeches (2)	Hobbies / Japanese culture (2)
Week 12:	Demonstrative speeches (3)	Hobbies / Japanese culture (3)
Week 13:	Demonstrative speeches (4)	Hobbies / Japanese culture (4)
Week 14:	Demonstrative speeches (5)	Hobbies / Japanese culture (5)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the conversational English and media English sections. Students will select their own topics for the demonstrative speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

English Communication II B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション中級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Richard Evanoff

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: research speeches and media English.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-intermediate level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the research speeches will be determined by the students in consultation with the professor.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Guidelines for preparing speeches	Handout, p. 2
Week 2:	Guidelines for research speeches	Handout, p. 3
Week 3:	Preparation for research speeches	In-class preparation
Week 4:	Outlines for research speeches	To be done at home and checked in class
Week 5:	Research speeches (1)	Content to be determined by students (1)
Week 6:	Research speeches (2)	Content to be determined by students (2)
Week 7:	Research speeches (3)	Content to be determined by students (3)
Week 8:	Research speeches (4)	Content to be determined by students (4)
Week 9:	Research speeches (5)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Research speeches (6)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Media English (1)	News video ["English as an International Language"]
Week 12:	Media English (2)	Presentation of news video
Week 13:	Media English (3)	Discussion of news video (1)
Week 14:	Media English (4)	Discussion of news video (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the research speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

English Communication II A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション中級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ロバート　ストラウド

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing.

【到達目標】
This course will give you the opportunity to improve and use your speaking and listening skills.

【授業の進め方と方法】
You will work in groups, in pairs and with the class using communicative situations from the real world in an enjoyable and communicative way.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Welcome and Course Introduction.	Students are introduced to the course and get to know the teacher.
Week#2	Questions and Answers.	Students ask each other and the teacher questions to review basic structures.
Week#3	Follow-up Questions (1).	Students ask each other questions and are introduced to asking key follow-up questions in conversation.
Week#4	Follow-up Questions (2).	Students practice various follow-up question activities.
Week#5	Situation Role-Play (1).	Students listen to, discuss and practice role-playing different common situations.
Week#6	Situation Role-Play (2).	Students listen to, discuss and practice role-playing different common situations.
Week#7	Class Role-Plays (1).	Students watch and give feedback on each other's role-play situations.
Week#8	Class Role-Plays (2).	Students watch and give feedback on each other's role-play situations.
Week#9	Personal Information Skills Introduction.	Students listen to, discuss and practice giving and asking questions about personal information.
Week#10	Personal Information Skills Practice (1).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#11	Personal Information Skills Practice (2).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#12	Personal Information Skills Practice (3).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#13	Personal Information Interview Practices.	Students practice interviewing each other and collecting personal information about their class members.
Week#14	Personal Information Interview Test.	Students are interviewed about their personal preferences by each other and their teacher.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You will work outside the class alone and in groups to prepare and practice role-plays and interviews.
Review all work covered in class.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
A good learner's dictionary will be helpful.

【成績評価の方法と基準】
Participation 50%, Class Role-Plays 25%, Personal Interview 25%

【学生の意見等からの気づき】
We will listen carefully to all student comments.

English Communication II B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション中級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

ロバート　ストラウド

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing.

【到達目標】
This course will help you improve your speaking and listening skills and give you opportunities to use the language.

【授業の進め方と方法】
We will use situations in the real world in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Outline and Introduction to Explaining Preferences.	Students study the course outline, as well as undertake review activities for asking questions and practice explaining preferences.
Week#2	Question and Answer Grammar Review.	Students review how to make and answer conversational questions with each other.
Week#3	Follow-up Questions Review.	Students review how to make and answer good follow-up questions with each other.
Week#4	Preference Role-Play Practice (1).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#5	Preference Role-Play Practice (2).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#6	Preference Role-Play Practice (3).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#7	Class Role-Plays (1).	Students watch, assess and give feedback on role-plays by each group.
Week#8	Class Role-Plays (2).	Students watch, assess and give feedback on role-plays by each group.
Week#9	Personal Preferences Practice (1).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#10	Personal Preferences Practice (2).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#11	Personal Preferences Practice (3).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#12	Personal Preferences Interview Practice.	Students practice interviewing each other and giving feedback on personal preferences.
Week#13	Personal Preferences Interviews.	Students are interviewed and given feedback by each other and the teacher.
Week#14	Personal Preferences Interview Test.	Students are interviewed and given feedback by each other and the teacher.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You will work in alone and in groups outside of class to prepare role-plays and interview skills.
All class work should be reviewed at home.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
A good learner's dictionary will be useful.

【成績評価の方法と基準】
Participation 50%, Preference Role-Play 25%, Preference Interview 25%

【学生の意見等からの気づき】
We will listen carefully to all student comments.

English Communication III A (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション上級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Richard Evanoff

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: persuasive speeches and media English.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at an advanced level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the persuasive speeches will be determined by the students in consultation with the professor.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Lecture
Week 2:	Guidelines for persuasive speeches	Handout, p. 4
Week 3:	Preparation for persuasive speeches	In-class preparation
Week 4:	Outlines for persuasive speeches	To be done at home and checked in class
Week 5:	Persuasive speeches (1)	Content to be determined by students (1)
Week 6:	Persuasive speeches (2)	Content to be determined by students (2)
Week 7:	Persuasive speeches (3)	Content to be determined by students (3)
Week 8:	Persuasive speeches (4)	Content to be determined by students (4)
Week 9:	Persuasive speeches (5)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Persuasive speeches (6)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Persuasive speeches (7)	Content to be determined by students (7)
Week 12:	Persuasive speeches (8)	Content to be determined by students (8)
Week 13:	Media English (1)	Film ["Gung Ho"]
Week 14:	Media English (2)	Presentation of the film

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the persuasive speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

English Communication III B (2016年度以降入学生)
英語コミュニケーション上級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

Richard Evanoff

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: debates, discussions, intercultural communication, and intercultural negotiations.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at an advanced level.

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents intercultural communication and intercultural negotiations sections will be determined by the teacher. The contents for the debates and discussions will be determined by the students in consultation with the professor.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Guidelines for debate	Handout
Week 2:	Preparation for debates	In-class preparation (1)
Week 3:	Debates (1)	Content to be determined by students (1)
Week 4:	Debates (2)	Content to be determined by students (2)
Week 5:	Debates (3)	Content to be determined by students (3)
Week 6:	Debates (4)	Content to be determined by students (4)
Week 7:	Guidelines for discussion	Lecture (1)
Week 8:	Preparation for discussion	In-class preparation (2)
Week 9:	Discussions (1)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Discussions (2)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Discussions (3)	Content to be determined by students (7)
Week 12:	Discussions (4)	Content to be determined by students (8)
Week 13:	Intercultural communication	Lecture (2)
Week 14:	Intercultural negotiations	In-class activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the intercultural communication and intercultural negotiations sections. Students will select their own topics for the debates and discussions, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

ドイツ語コミュニケーションⅠA（2016年度以降入学生）
ドイツ語コミュニケーション初級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

針貝　真理子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初学者を対象とした初級会話クラスです。
ドイツ語に初めて触れる１年生にも、すでにドイツ語を学んだ二年生以上の学生にも対応しています。
旅行や日常生活で使える基礎的な表現、および正しい発音を学習し、それを用いて実際にドイツ語で会話できるようになることがこの授業の目標です。会話を中心としながら、文法事項についても適宜説明を加えます。また、ドイツ各地の文化や社会について学ぶことにも重点を置きます。

【到達目標】
ドイツ語でコミュニケーションをとるために必要な基礎的な表現・正しい発音を学び、初歩的な会話であれば実際にドイツ語で会話できるようになること、また会話練習を通して、異なる文化的・歴史的背景を持った人々と共存するにはどうしたら良いのかを考えることがこの授業の目的です。

【授業の進め方と方法】
(1) 留学生の日常生活における具体的なシチュエーションを想定した教科書『どいちゅ』を用いて、ドイツ語圏の文化的歴史的風土にも触れながら、基礎文法、語彙、またはそれを組み込んだ会話表現を学びます。
(2) ペアワーク、グループワークによる、聞き取りの相互確認・発話練習・反復練習・対話練習を積極的に行います。
(3) 毎回授業の終わりには、新たに学んだことを参加者自らが整理し、記録して、各自の目的に合わせたドイツ旅行会話手帳を作成してもらいます。
(4) 会話の授業ですので、毎回の出席と授業への積極的な参加を重視して評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス アルファベート ドイツ語を話してみよう。	授業方針の説明。 辞書について。 受講生一人一人の学習目標を明確にする。 発音・あいさつ・授業中に使う表現
02	人と知り合う（1） ー教室で	動詞の人称変化、人称代名詞
03	人と知り合う（2） ー自己紹介	sein の人称変化、言語名
04	人と知り合う（3） ーキャンパスで	名詞の性、定冠詞、不定冠詞
05	人と知り合う（4） ー会話練習相手を探す ー学食で	不規則動詞の人称変化
06	人と知り合う（5） ー会話練習相手と話す	所有冠詞、否定冠詞、werden の人称変化
07	街を歩く（1） ー中心地で	建物の語彙 haben の人称変化
08	街を歩く（2） ー薬局	nehmen の人称変化、人称代名詞の４格
09	街を歩く（3） ーお店で	名詞の複数形、für ＋４格
10	街を歩く（4） ーブティックで	人称代名詞の３・４格
11	街を歩く（5） ーカフェで休憩	定冠詞・不定冠詞の３格、３・４格の語順
12	街を歩く（6） ー誕生日プレゼント	möchte ＋不定詞、前置詞＋３格
13	街を案内する（1） ーお茶に呼ぶ	分離動詞、位置を表す前置詞（３格）
14	まとめ・期末試験	試験 ノートチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を使いこなす練習をするために、教科書の会話文の単語を前もって調べてくることを宿題とします。宿題は、必ず授業前に済ませてきてください。

【テキスト（教科書）】
『どいちゅ』朝日出版社、2016 年（2500 円＋税）

【参考書】
推薦辞書は『アポロン独和辞典』と『クラウン独和辞典』です。
辞書は毎回必ず持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業内の課題達成度（30 %）、宿題（30 %）、期末試験（40 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
参加者とのコミュニケーションを大事にします。

【その他の重要事項】
履修者のレベルや興味関心によって内容を調整しますので、初回のガイダンスには必ず出席してください。

ドイツ語コミュニケーションⅠB（2016年度以降入学生）
ドイツ語コミュニケーション初級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

針貝　真理子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初学者を対象とした初級会話クラスです。
ドイツ語に初めて触れる１年生にも、すでにドイツ語を学んだ二年生以上の学生にも対応しています。
旅行や日常生活で使える基礎的な表現、および正しい発音を学習し、それを用いて実際にドイツ語で会話できるようになることがこの授業の目標です。会話を中心としながら、文法事項についても適宜説明を加えます。また、ドイツ各地の文化や社会について学ぶことにも重点を置きます。

【到達目標】
ドイツ語でコミュニケーションをとるために必要な基礎的な表現・正しい発音を学び、初歩的な会話であれば実際にドイツ語で会話できるようになること、また会話練習を通して、異なる文化的・歴史的背景を持った人々と共存するにはどうしたら良いのかを考えることがこの授業の目的です。

【授業の進め方と方法】
(1) 留学生の日常生活における具体的なシチュエーションを想定した教科書『どいちゅ』を用いて、ドイツ語圏の文化的歴史的風土にも触れながら、基礎文法、語彙、またはそれを組み込んだ会話表現を学びます。
(2) ペアワーク、グループワークによる、聞き取りの相互確認・発話練習・反復練習・対話練習を積極的に行います。
(3) 毎回授業の終わりには、新たに学んだことを参加者自らが整理し、記録して、各自の目的に合わせたドイツ旅行会話手帳を作成してもらいます。
(4) 会話の授業ですので、毎回の出席と授業への積極的な参加を重視して評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	街を案内する（2） ー「カフェ・バウム」	話法の助動詞 (können)
2	街を案内する（3） ー予定をたずねる ー待ち合わせる	再帰動詞
3	街を案内する（4） ー道をたずねる	Sie に対する命令形、位置を表す前置詞（４格）
4	街を案内する（5） ー開店時間	話法の助動詞 (wollen)
5	食事（1） ー注文する	話法の助動詞 (müssen) 接続法第２式
6	食事（2） ー台所で	定冠詞類
7	食事（3） ー四人で料理する	話法の助動詞 (sollen)、du/ihr に対する命令形
8	祝祭と伝統（1） ー伝統衣装の店で	比較級
9	祝祭と伝統（2） ーケルンのカーニヴァル	最上級、序数
10	旅行（1） ー E メールを受け取る ー旅行計画	非人称の es
11	旅行（2） ー興味のあること	再帰代名詞
12	旅行（3） ーハンブルクのカフェで	sein/haben の過去人称変化
13	旅行（4） ー旅行の後で ーベルリン最後の夜	現在完了形 ノート提出
14	まとめ・期末試験	試験 ノート返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を使いこなす練習をするために、教科書の会話文の単語を前もって調べてくることを宿題とします。宿題は、必ず授業前に済ませてきてください。

【テキスト（教科書）】
『どいちゅ』朝日出版社、2016 年（2500 円＋税）

【参考書】
推薦辞書は『アポロン独和辞典』と『クラウン独和辞典』です。
辞書は毎回必ず持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業内の課題達成度（30 %）、宿題（30 %）、期末試験（40 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
参加者とのコミュニケーションを大事にします。

【その他の重要事項】
履修者のレベルや興味関心によって内容を調整しますので、初回のガイダンスには必ず出席してください。

ドイツ語コミュニケーション II A（2016年度以降入学生）
ドイツ語コミュニケーション中級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

北岡　幸代

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語による基礎的かつ発展性のあるコミュニケーション能力を養います。同時に、ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人を対象としていますが、各テーマに必要な文法や発音など、基礎的なことを確認しつつ授業を勧めますので、コミュニケーションⅠを履修していない人も本科目の履修に問題はありません。
・また、ドイツ語の必修科目を終えて、さらに会話練習・ヒヤリング練習に興味のある3年生・4年生も歓迎です。

【到達目標】
1. 各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
2. 「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的にバランスよく身につける。
3. 今期は、分離動詞、完了形での過去表現を重点的に理解し、自らの発信として使えるようになる。

【授業の進め方と方法】
1. 特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学び、必要に応じてその表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
2. 映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。
3. 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4. 各テーマのごとに、ドイツの映画に描かれる関連場面を視聴し、文化風土を身近に捉えるための一助とする。
5. 各テーマの終わりに、小テストを実施する。
6. 授業の終わりには、毎回新たに学んだことを学習者自らが整理し、記録する。
7. 対話練習、グループ・ワーク、プレゼンテーション等授業への積極的な参加を重視し、評価の対象とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業の進め方について。 ・授業記録表の作成。 ・授業中に使用するドイツ語表現にいて。
02	交通手段と移動（1）	・交通機関の利用にかかわる語彙。 ・駅での行動を表現する。
03	交通手段と移動（2）	・出発、移動、到着をめぐる表現。 ・分離動詞の使い方。 ・数詞の復習
04	交通手段と移動（3）	・駅・空港の構内放送を理解する。 ・旅程を伝えることができる。 ・分離動詞を使う。
05	交通手段と移動（4）	・ルポルタージュ映像から出勤経路の情報を得る。 ・ドイツ映画より：鉄道利用をめぐる慣習
06	日常生活の活動（1）	・日々の活動を表現する語彙。 ・Anja のスケジュール帳を読む。 ・Anja の一日を説明する。 ・時を示す前置詞。
07	日常生活の活動（2）	・旅先からのメールを読む。 ・完了形を使う過去表現。
08	日常生活の活動（3）	・完了形・過去分詞を使って話す反復練習。 ・友人にメールを書く。
09	日常生活の活動（4）	・Martin のヴィデオ日記を理解する。 ・ドイツ映画より：ベルリンで過ごす一日。
10	ドイツ語圏の祝祭と行事（1）	・季節、時期、祝日、年間行事に関する語彙。 ・ドイツ語圏の代表的なお祭り、行事について記事を読む。
11	ドイツ語圏の祝祭と行事（2）	・開催日時を理解し伝える。 ・インタヴューを聴き、理解する。 ・時を示す前置詞。 ・sein 動詞を使う完了形の過去表現。
12	ドイツ語圏の祝祭と行事（3）	・sein 動詞の完了形を使って話す反復練習。 ・行事体験を友人に説明する。
13	ドイツ語圏の祝祭と行事（4）	・家族の行事に関するヴィデオ・メッセージを理解する。 ・季節の行事のポスターを作る。
14	プレゼンテーション 春学期の振り返り	・季節の行事をポスターを使ってプレゼンテーションする。 ・ドイツ映画より：ドイツ語圏の季節のお祭り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各テーマの始めに、そのテーマで使用する重要語彙の意味を調べるプリント課題を出します。
・授業内容の整理と復習のため、ほぼ毎回プリント課題を出します。
・それぞれ平常点の評価対象とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（40%）、授業内筆記テスト（30%）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（30%）を目安に総合的に判断し、全体の60%以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30%を超えた場合は成績評価対象外とします。
・遅刻は3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の妨げとなるような私語が、他の学習者の迷惑とならないよう留意します。

【その他の重要事項】
・初回のオリエンテーションでは、いくつかの作業を参加者の皆さんに行っていただきますので、必ず出席してください。
・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、なるべく授業を欠席しないようにしましょう。

ドイツ語コミュニケーション II B（2016年度以降入学生）
ドイツ語コミュニケーション中級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

北岡　幸代

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語による基礎的かつ発展性のあるコミュニケーション能力を養います。同時に、ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人を対象としていますが、各テーマに必要な文法や発音など、基礎的なことを確認しつつ授業を勧めますので、コミュニケーションⅠを履修していない人も本科目の履修に問題はありません。
・また、ドイツ語の必修科目を終えて、さらに会話練習・ヒヤリング練習に興味のある3年生・4年生も歓迎です。

【到達目標】
1. 各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
2. 「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的にバランスよく身につける。
3. 今期は、命令・要望表現、接続法 II 式を使った願望や丁寧な表現を理解し、使えるようになる。

【授業の進め方と方法】
1. 特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学び、必要に応じてその表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
2. 映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。
3. 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4. 各テーマのごとに、ドイツの映画に描かれる関連場面を視聴し、文化風土を身近に捉えるための一助とする。
5. 各テーマの終わりに、小テストを実施する。
6. 授業の終わりには、毎回新たに学んだことを学習者自らが整理し、記録する。
7. 対話練習、グループ・ワーク、プレゼンテーション等授業への積極的な参加を重視し、評価の対象とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業内容、進め方の再確認。 ・発音のブラッシュアップ。 ・授業内で使うドイツ語の再確認。
02	身体をめぐる表現（1）	・身体・病・治療をめぐる語彙。 ・身体の不具合を伝える会話とその表現。
03	身体をめぐる表現（2）	・治療のアドヴァイスを受ける会話とその表現。 ・話法の助動詞 sollen を使う表現。 ・敬称 Sie への命令的・要望的表現。
04	身体をめぐる表現（3）	・健康に関するコラムを読む。 ・健康に関するアドヴァイスをする。 ・身体部位を使った表現を理解する。
05	身体をめぐる表現（4）	・健康維持のための工夫について質問し、答える。 ・健康に関するルポルタージュ映像を理解する。 ・ドイツ映画より。
06	シェアハウス（1）	・家事の分担をめぐる語彙。 ・日記を読む。 ・親称 du, ihr に対する命令形。
07	シェアハウス（2）	・同居人に家事を頼むやり取り。 ・人称代名詞3格・4格の復習。
08	シェアハウス（3）	・家事の分担を決めるやり取り。 ・同居人を募集する広告記事を書く。 ・WG(Wohngemeinschaft) について。
09	シェアハウス（4）	・共同生活に関するルポルタージュを理解する。 ・ドイツ映画より：留学生の WG 生活
10	祝い事に招待される（1）	・祝い事、招待、訪問をめぐる語彙。 ・招待状を読む。
11	祝い事に招待される（2）	・私の好きなお祝い事は何か、を述べる。 ・日付と序数の復習。
12	祝い事に招待される（3）	・お祝いの挨拶の表現。 ・何がしたいか、望みを述べる。 ・接続法 II 式について。
13	祝い事に招待される（4）	・遊園地でのデートのヴィデオを理解する。 ・接続法 II 式を使った願望表現のためのプレゼンテーションの準備。
14	プレゼンテーション 秋学期のまとめ	・プレゼンテーション ・ドイツ映画より ・学期の振り返りとまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各テーマの始めに、そのテーマで使用する重要語彙の意味を調べるプリント課題を出します。
・授業内容の整理と復習のため、ほぼ毎回プリント課題を出します。
・それぞれ平常点の評価対象とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A1.2 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（40%）、授業内筆記テスト（30%）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（30%）を目安に総合的に判断し、全体の60%以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30%を超えた場合は成績評価対象外とします。
・遅刻は3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の妨げとなるような私語が、他の学習者の迷惑とならないよう留意します。

【その他の重要事項】
・初回のオリエンテーションでは、いくつかの作業を参加者の皆さんに行っていただきますので、必ず出席してください。
・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、なるべく授業を欠席しないようにしましょう。

フランス語コミュニケーションA（2016年度以降入学生）
フランス語コミュニケーション初級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

余語　毅憲

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、私たち日本人が最も苦手とする「聞く」能力を中心にしながら、コミュニケーション能力の向上に欠かせない「読む」「話す」といった能力も並行して訓練します。

【到達目標】
到達目標は以下の３つです。
1）ネイティヴ・スピーカーが話している内容が大まかに把握できるようになる。
2）簡単で短いフランス語の文章がなるべく正確に読むことができるようになる。
3）フランス語で書かれた文章の音読が正確にできるようになる。

【授業の進め方と方法】
1）講義の題材は、TV5monde の « Apprendre le français » にある A1 レヴェルの動画から、フランスの社会や日常生活に関するテーマを適宜にピックアップして使用します。
2）ペア／グループ・ワークも適宜に導入しながら授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、Cinéma	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
2	Communication	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
3	Éducation	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
4	Francophonie	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
5	Logement	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
6	Loisirs	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
7	Musique	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
8	Repas	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
9	Santé	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
10	Vêtements	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
11	Vie professionnelle	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
12	Vie quotidienne	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
13	予備日（これまでの復習や進度調整等に充てる）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）復習をするならば、音読による多読を中心に行うことを推奨します。
2）意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布します。

【参考書】
辞書類や、以前に使用した教科書など自由に持ち込んで結構です。
電子辞書も許可します。なお、真剣にフランス語を学ぶならば、Web 辞書の類はお勧めしません。

【成績評価の方法と基準】
1）期末テスト　70%
2）小テスト（毎回実施）の成績と授業の最後に行う「ミニッツ・ペーパー」の内容　30%

【学生の意見等からの気づき】
1）皆さんが均等に発言・発話できるような授業環境を作ります。
2）ペア／グループ・ワークを積極的に導入します。
3）コミュニケーション練習なども取り入れつつ、実践的な授業活動をしていきます。

フランス語コミュニケーションB（2016年度以降入学生）
フランス語コミュニケーション初級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

余語　毅憲

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、私たち日本人が最も苦手とする「聞く」能力を中心にしながら、コミュニケーション能力の向上に欠かせない「読む」「話す」といった能力も並行して訓練します。

【到達目標】
到達目標は以下の３つです。
1）ネイティヴ・スピーカーが話している内容が大まかに把握できるようになる。
2）簡単で短いフランス語の文章がなるべく正確に読むことができるようになる。
3）フランス語で書かれた文章の音読が正確にできるようになる。

【授業の進め方と方法】
1）講義の題材は、TV5monde の « Apprendre le français » にある A1 レヴェルの動画から、フランスの社会や日常生活に関するテーマを適宜にピックアップして使用します。
2）ペア／グループ・ワークも適宜に導入しながら授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Cinéma（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
2	Communication（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
3	Éducation（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
4	Francophonie（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
5	Logement（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
6	Loisirs（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
7	Musique（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
8	Repas（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
9	Santé（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
10	Vêtements（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
11	Vie professionnelle（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
12	Vie quotidienne（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
13	予備日（これまでの復習や進度調整等に充てる）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）復習をするならば、音読による多読を中心に行うことを推奨します。
2）意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布します。

【参考書】
辞書類や、以前に使用した教科書など自由に持ち込んで結構です。
電子辞書も許可します。なお、真剣にフランス語を学ぶならば、Web 辞書の類はお勧めしません。

【成績評価の方法と基準】
1）期末テスト　70%
2）小テスト（毎回実施）の成績と授業の最後に行う「ミニッツ・ペーパー」の内容　30%

【学生の意見等からの気づき】
1）皆さんが均等に発言・発話できるような授業環境を作ります。
2）ペア／グループ・ワークを積極的に導入します。
3）コミュニケーション練習なども取り入れつつ、実践的な授業活動をしていきます。

資格をめざすフランス語A（2016年度以降入学生）
フランス語コミュニケーション中級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

小室　廉太

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検 (フランス語技能検定試験) の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。
1 年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。
資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

【到達目標】
フランス語の初級文法が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。
仏検４級レベルに到達できる。

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検４級解説	仏検４級の出題解説
	発音規則	発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞	前置詞の用法
	数字の聞きとり	数字（1～100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントにある練習問題は毎回必ず予習しておいてください。授業中に確認します。
また、配布プリント単語集の中から、毎回 30～40 の単語や表現の暗記を宿題とし、小テストをします。小テストは次回の授業で返却しますので、できなかった問題は必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二、石上亜紀子著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年開講したばかりの授業ですが、目標の検定だけでなく、さらに上位の検定合格者を輩出できたことは、講師の私としても嬉しいです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

資格をめざすフランス語B（2016年度以降入学生）
フランス語コミュニケーション中級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

小室　廉太

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、仏検 (フランス語技能検定試験) の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。
1 年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。
資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

【到達目標】
フランス語の文法全般が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
一か月程度の短期留学で使う、簡単なフランス語会話ができる。
仏検３級レベルに到達できる。

【授業の進め方と方法】
前期に引き続き、１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題に取り組みます。仏検の観点から文法項目を学ぶことで、設問のポイントや解法のテクニックを理解します。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検３級の設問解説	仏検３級の出題解説
	前期授業の復習	前期授業の復習
2	動詞の活用１	不規則動詞、命令形の特殊形、使役動詞の活用と用法
3	動詞の活用２	複合過去と半過去、過去分詞の一致
4	動詞の活用３	条件法、接続法、現在分詞、ジェロンディフの用法
5	代名詞の復習	補語人称代名詞、中性代名詞などの語順
6	構文研究１	非人称構文の復習と不定代名詞の用法
7	構文研究２	関係代名詞の用法
8	前置詞	前置詞の穴埋め問題
9	小まとめ	文法問題の復習
10	単語配列１	強調構文、比較構文などの並べかえ
11	単語配列２	慣用表現を用いた構文の並べかえ
12	応答文	絵を用いた短文の聞きとりと、空欄の単語を埋める練習
13	仏検模擬試験	秋学期授業の復習
14	総まとめ	年間授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントにある練習問題は毎回必ず予習しておいてください。授業中に確認します。
また、配布プリント単語集の中から、毎回 30～40 の単語や表現の暗記を宿題とし、小テストをします。小テストは次回の授業で返却しますので、できなかった問題は必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
プリントを随時配布。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検３級スピード合格』（富田正二、石上亜紀子著、三修社）
『仏検準２級スピード合格』（富田正二、小室廉太著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年開講したばかりの授業ですが、目標の検定だけでなく、さらに上位の検定合格者を輩出できたことは、講師の私としても嬉しいです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

中国語コミュニケーションⅠA (2016年度以降入学生)
中国語コミュニケーション初級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

将邑　剣平

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の会話に必要な基本的な知識と実技を確実に身につけるための授業である。
現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字，語彙が配列されているので，音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは，中国語の習得に欠かせない前提である。４月と５月は，話したい内容が正確に伝えられるように，中国語の発音のスキルを常にチェックし，中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき，正しく発音することができるまで，発音の練習に多くの時間が割かれる。
文法，語彙については，それぞれ使用される教科書の配列に従って学ぶことになる。学習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように，常にその場で繰り返し練習し日常会話を身につける。

【到達目標】
中国語コミュニケーションⅠは初めて中国語を学ぶ人を対象にする。
必修中国語の他にもっと学びたい人も大歓迎。
目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な会話ができるようにすること。

【授業の進め方と方法】
中国語を使えるようにするには，かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので，毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション・発音Ⅰ	授業の進め方の紹介、声調
第２回	発音Ⅱ	母音
第３回	発音Ⅲ	子音
第４回	発音Ⅳ	鼻母音
第５回	発音Ⅴ	音節
第６回	第１課	自分と他者
第７回	第２課	家と家族
第８回	映画鑑賞	中国映画を見ます。（次回の授業迄に感想文を提出すること。）
第９回	第３課	日常の挨拶
第10回	第４課	大学生活
第11回	第５課	趣味娯楽
第12回	自己紹介文作成	自己紹介文作成及び練習
第13回	発表	自己紹介文練習・発表
第14回	発表	自己紹介文発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は中国語を美しく発音できることを目標にして行う。語学学習に予習・復習は欠かせない。授業は予習・復習がされていることを前提に行う。
教室外の学習方法：
声をしっかり出して，例文や本文などを暗記するほど繰り返し読むこと。毎回の小テストのテスト勉強と会話の暗記は必ずすること。授業にのぞむにあたって，予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておくこと。映画の回は簡単なレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】
『KOTOTOMO　ことばを友に』　趙秀敏 /張立波 /上野稔弘 /今野文子 / 三石大著（朝日出版社）

【参考書】
日中辞典及び中日辞典（電子版も可）
相原茂・石田知子・戸沼市子著，『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』，同学社
守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストまたは発表点　６０％　（欠席は一回５％マイナス）
自己紹介文発表点　　４０％
の合計６０点以上が合格。
授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は成績評価をうけられない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
実際の授業の状況に応じ、内容を変更することがある。
教材を持ってこない場合は欠席扱いとなる。
また無断退出も欠席扱いとなる。
中国語コミュニケーションⅠは初めて中国語を学ぶ人を対象にする。中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。

中国語コミュニケーションⅠB (2016年度以降入学生)
中国語コミュニケーション初級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

将邑　剣平

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今まで学んだ中国語の知識を基礎として，さらに表現の幅を広げながら，主に「聞く・話す」能力を強化していく。言葉の背景にある中国人のものの考え方にも触れながら，さまざまな表現を覚え，きれいな中国語を身につけよう。中国語を聞いて正確にリピートすることや記録することが確実にできる能力，辞書などを用いて中国語で簡単な自己紹介や簡易な会話ができる能力を養成する。

【到達目標】
中国語コミュニケーションⅠ A を終了した人を対象としますが、初級から中級への橋渡しとして、必修中国語を補いたい人も、また前やったことを復習したい人も対象とする。
中国へ行ったとき使えるフレーズを何回も練習し、簡単な会話をマスターする。

【授業の進め方と方法】
中国語を使えるようにするには，かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので，毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	発音チェック	基本の復習など
第２回	第６課	行事
第３回	第７課	意向と願望
第４回	第８課	健康
第５回	第９課	旅行とアクセス
第６回	第１０課	日常生活
第７回	第１１課	自然
第８回	映画鑑賞	中国映画を観賞する。（感想文を提出すること。）
第９回	第１２課	飲食
第10回	復習練習	復習練習
第11回	復習練習２	復習練習２
第12回	寸劇作成	寸劇作成
第13回	寸劇作成及び練習	寸劇作成及び練習
第14回	寸劇発表	寸劇発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は中国語を美しく発音できることを目標にして行う。語学学習に予習・復習は欠かせない。授業は予習・復習がされていることを前提に行う。
教室外の学習方法:
声をしっかり出して，例文や本文などを暗記するほど繰り返し読むこと。毎回の小テストのテスト勉強と会話の暗記は必ずすること。授業にのぞむにあたって，予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておくこと。映画の回は簡単なレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】
『KOTOTOMO　ことばを友に』　趙秀敏 /張立波 /上野稔弘 /今野文子 / 三石大著（朝日出版社）

【参考書】
日中辞典及び中日辞典（電子版も可）
相原茂・石田知子・戸沼市子著，『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』，同学社
守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストおよび発表点 ６０％ (欠席は一回５％マイナス)
寸劇発表点　　４０％
の合計 60 点以上が合格。
授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は成績評価をうけられない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
実際の授業の状況に応じ、内容を変更することがある。
教科書を持ってこない場合は欠席扱いとなる。
また無断退出も欠席扱いとなる。
中国語コミュニケーションⅠは初めて中国語を学ぶ人を対象にする。中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。

中国語コミュニケーション II A (2016年度以降入学生)
中国語コミュニケーション中級A (2010年度以降～2015年度以前入学生)

張　欣

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を１年以上受けた人を対象とします (中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 课 大学校园 (1)	読解、会話
第 2 回	第 1 课 大学校园 (2)	読解、会話、練習
第 3 回	第 2 课 南京路步行街 (1)	読解、会話
第 4 回	第 2 课 南京路步行街 (2)	読解、会話、練習
第 5 回	第 3 课 晨练 (1)	読解、会話
第 6 回	第 3 课 晨练 (2)	読解、会話、練習
第 7 回	第 4 课 豫园 (1)	読解、会話
第 8 回	第 4 课 豫园 (2)	読解、会話、練習
第 9 回	第 5 课 国宝大熊猫 (1)	読解、会話
第 10 回	第 5 课 国宝大熊猫 (2)	読解、会話、練習
第 11 回	第 6 课 世界遗产九寨沟 (1)	読解、会話
第 12 回	第 6 课 世界遗产九寨沟 (2)	読解、会話、練習
第 13 回	看电影	中国映画鑑賞
第 14 回	考试	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。

【テキスト（教科書）】
『チャイニーズアドベンチャー　ＤＶＤで学ぶ中国文化』洪潔清著
金星堂　2012 年　2700 円

【参考書】
『中日辞典』、『日中辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 50 %、授業内試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
言葉が持つ文化的背景についても折りに触れて説明します。

中国語コミュニケーション II B (2016年度以降入学生)
中国語コミュニケーション中級B (2010年度以降～2015年度以前入学生)

張　欣

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を１年以上受けた人を対象とします (中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 课 大学的社团活动 (1)	読解、会話
第 2 回	第 7 课 大学的社团活动 (2)	読解、会話、練習
第 3 回	第 8 课 故宫博物院 (1)	読解、会話
第 4 回	第 8 课 故宫博物院 (2)	読解、会話、練習
第 5 回	第 9 课 北京 798 艺术区 (1)	読解、会話
第 6 回	第 9 课 北京 798 艺术区 (2)	読解、会話、練習
第 7 回	第 10 课 秦始皇兵马俑 (1)	読解、会話
第 8 回	第 10 课 秦始皇兵马俑 (2)	読解、会話、練習
第 9 回	第 11 课 少数民族 (1)	読解、会話
第 10 回	第 11 课 少数民族 (2)	読解、会話、練習
第 11 回	第 12 课 丽江古城 (1)	読解、会話
第 12 回	第 12 课 丽江古城 (2)	読解、会話、練習
第 13 回	看电影	中国映画鑑賞
第 14 回	考试	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。

【テキスト（教科書）】
『チャイニーズアドベンチャー　ＤＶＤで学ぶ中国文化』洪潔清著
金星堂　2012 年　2700 円

【参考書】
『中日辞典』、『日中辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 50 %、授業内試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
言葉が持つ文化的背景についても折りに触れて説明します。

スペイン語コミュニケーションⅠA（2016年度以降入学生）
スペイン語コミュニケーション初級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

マリア・ドローレス

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】
日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【授業の進め方と方法】
日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めての口頭練習の両面で進行します。また、２週に一回の割合で日本語字幕付きの会話ビデオを視聴し、その内容や重要表現を教材として、対教師また生徒同士グループ内での実戦練習を行います。ボキャブラリーや表現、文章を覚えるため、時々ゲームを用います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	喫茶店での会話	教室で用いるボキャブラリーと表現。～はどう書きますか？ ラテンアメリカの国について。（発音、性数）
２	自己紹介と他人の紹介	君はどこの出身ですか？　私の名前は…です。私は学生で…。（ser 動詞、国籍、職業）
3	時刻と時間、基数（１～２０）	授業は何時？ 電話番号は…。
4	町や家について話す	成田空港はどこ？ 君の家はどこ？ 君の部屋には何がある？ ベッドはどこにある？（動詞 hay、動詞 estar、所有形容詞）
5	復習	様々な表現を覚えるためのゲーム
6	小テスト	テスト
7	身体と心の状態－１	私は疲れています。お腹が空いた。暑いです。心配しています。（tener 動詞－１、ser 動詞と estar 動詞の違い）
8	家族－１、身体と心の状態－２	私は３人兄弟です。私は２０歳です。私は車を持っています。（tener 動詞－２）
9	日常生活	君はどこで働いていますか？ 何を勉強していますか？ 何語を話しますか？（-ar 同士の規則活用、前置詞、疑問詞）
10	大学、家族－２、曜日	何曜日に授業があるの？ どこで食べるの？ どこに住んでいるの？（-er, -ir 動詞の規則活用）
11	観光－１	この町はきれい。この料理はおいしい。これは何ですか？（指示詞）
12	旅行、計画	君はどこに行きますか？ 君は土曜日に何をするつもり？（ir 動詞、ir a + 不定詞、hacer）
13	気候、直接目的語	今日はとても暑い。君は英語を話す？ はい、それを話す。
14	小テスト	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
スペイン語への道
出版社　第三書房
著者　エウヘニオ・デル・プラド、他
価格２４００円
ISBN　978 － 4 － 8086 － 3038 － 6

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
宿題、授業参加等授業内評価　３０％　　試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う。

スペイン語コミュニケーションⅠB（2016年度以降入学生）
スペイン語コミュニケーション初級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

マリア・ドローレス

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】
日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【授業の進め方と方法】
日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めての口頭練習の両面で進行します。また、２週に一回の割合で日本語字幕付きの会話ビデオを視聴し、その内容や重要表現を教材として、対教師また生徒同士グループ内での実戦練習を行います。ボキャブラリーや表現、文章を覚えるため、時々ゲームを用います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	趣味とお気に入り	シャキラを知っていますか？ 君は運転できますか？ 私は…のファンです。（所有形容詞、Conocer と Saber の違い）
２	買い物、色	緑の服と赤の服はどちらが高いですか？（比較級、最上級）
3	カレンダー、デート	試合は何日ですか？ 何時に始まりますか？ 待ち合わせはどこ？
4	誘う、可能性、禁止	窓を開けてもいいですか？ ちょっと来れますか?（poder、poder + 不定詞）
5	レストラン、食物、料理、序数	最初にサラダをください。２番目に魚を。私は３階に住んでいます。
6	復習	様々な表現を覚えるためのカードゲーム。
7	小テスト	テスト
8	お祝いパーティー	君にプレゼントします。それは私にですか？ 君の恋人をいつ紹介しますか？（不規則動詞 dar, decir, venir、間接目的格代名詞、前置詞の後の人称代名詞）
9	趣味と好み、	私は東京が好きです。私はきれいだと思います。（gustar 動詞、gustar 型動詞、思う、痛い、足りない・・・）
10	日課、お互いに…する。	君は何時に起きる？ 愛し合っていますか？
11	近い過去の話－１、過去の人生での経験	今日何時に起きた？ 外国に行ったことがある？
12	過去の出来事について話す	君は昨日彼女に会ったの？ 去年スペインに行ったの？ 旅行はいくらかかったの？（点過去、値段、数字１００～２００万）
13	過去の継続的出来事	子供のころ何処に住んでいたの？ いい子だったの？
14	小テスト	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
スペイン語への道
出版社　第三書房
著者　エウヘニオ・デル・プラド、他
価格２４００円
ISBN　978 － 4 － 8086 － 3038 － 6

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
宿題、授業参加等授業内評価　３０％　　試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う。

スペイン語コミュニケーションⅡA（2016年度以降入学生）
スペイン語コミュニケーション中級A（2010年度以降～2015年度以前入学生）

時任　まり子

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習文法を基に、日常生活に必要な基礎的なコミュニュケーション能力を養う。

【到達目標】
1．現在進行中の出来事を表現できる。
2．過去の出来事を、点過去と線過去を使い分けて表現ができる。
3．ニュースや文化についてスペイン語で受信・発信できる。

【授業の進め方と方法】
教科書の各課の「語彙」部分と「コミュニュケーション」部分を２回の授業で進めていきます。以下の順序で進めます。
1．既習文法事項を確認する。
2．表現練習に必要な語彙を習得する。
　随時、語彙テストを実施する。
3．習得した語を使ってコミュニュケーションの練習を行う。
4．練習に関連した映像や音楽も随時取り上げながら進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価等について。 ・既習事項の確認。
第 2 回	学校生活・趣味活動 (1)	＜語彙＞ 学生生活に関連する動詞、科目、生活習慣
第 3 回	学校生活・趣味活動 (2)	＜表現練習＞ ・名前を訊く。 ・同時進行の行為・行動の表現。
第 4 回	人の一生 (1)	＜語彙＞ 過去を表わす副詞句、位置関係語、親族語、人の一生に関わる動詞
第 5 回	人の一生 (2)	＜表現練習＞ ・休暇中の活動。 ・年表作成。 ・自分史を書く。
第 6 回	昔と今　(1)	＜語彙＞ mente 副詞、施設や店舗、品質形容詞
第 7 回	昔と今　(2)	＜表現練習＞ ・過去のある時期の活動や習慣などを表現する。
第 8 回	まとめ	第２回授業～第７回授業
第 9 回	習得確認	第２回～第８回授業
第 10 回	旅行報告 (1)	＜語彙＞ 活動動詞、携行品、天候
第 11 回	旅行報告 (2)	＜表現練習＞ ・旅行報告書を書く。 ・事件記事を読む、書く。
第 12 回	余暇活動 (1)	＜語彙＞ 余暇活動、勧誘表現、買い物、ファッション
第 13 回	余暇活動 (2)	＜表現練習＞ ・今を含む期間に行った行動、活動。 ・経験。
第 14 回	習得確認＆総括	習得確認 第 10 回～13 回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１．各課の「文法」部分の練習問題。
　　文法は既習事項なので、授業前にやっておくこと。
予習２．各課の「語彙」部分。
　　「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『Entre amigos 2 2a. edición』(総合スペイン語コース 中級 改訂版)
スペイン語教材研究会編、朝日出版社

【参考書】
『本気で学ぶスペイン語』菅原昭江著、同学社

【成績評価の方法と基準】
平常点　：３０％（授業内活動・課題・小テスト）
定期試験：７０％（定期試験）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

【その他の重要事項】
授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。
忘れないように。

スペイン語コミュニケーションⅡB（2016年度以降入学生）
スペイン語コミュニケーション中級B（2010年度以降～2015年度以前入学生）

時任　まり子

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習文法を基に、日常生活に必要なより高度なコミュニュケーション能力を養います。

【到達目標】
1．過去の推測、現在の推測、未来のことが表現できる。
2．指示や命令ができる。
3．意見を言う・アドバイスする・願望・依頼などの表現ができる。
4．単文の願望表現、事実と異なる条件下での仮定表現ができる。

【授業の進め方と方法】
教科書の各課の「語彙」部分と「コミュニュケーション」部分を２回の授業で進めていきます。以下の順序で進めます。
1．既習の文法事項を確認する。
2．表現練習に必要な語彙を習得する。各課ごとに語彙テストを随時実施する。
3．習得した語を使ってコミュニュケーションの練習を行う。
4．練習に関連した映像や音楽などを随時取り上げ表現枠を広げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価について。 ・春期の学習内容の確認
第2回	将来は...（1）	＜語彙＞ ・未来を表す副詞句 ・推測 ・確実性を表す表現
第3回	将来は...（2）	＜表現練習＞ ・25年後の自分は.. ・学長選挙公約と結果
第4回	時系列で過去を語る（1）	＜語彙＞ ・直説法動詞 ・家具と調度品
第5回	時系列で過去を語る（2）	＜表現練習＞ ・10年前の我が家と今 ・プロフィール ・窃盗事件の経緯
第6回	命令・指示する（1）	＜語彙＞ ・食品・その分類名 ・単位 ・体の動き
第7回	命令・指示する（2）	＜表現練習＞ ・運動のやり方を指示 ・アドバイスする
第8回	まとめ	第１回～８回授業
第9回	習得確認	第１回～８回授業
第10回	願望・依頼・命令表現（1）	＜語彙＞ ・大きな数字 ・地理 ・環境問題 ・対応策
第11回	願望・依頼・命令表現（2）	＜表現練習＞ ・意見交換する ・理想の国を述べる ・環境問題を考える
第12回	事実と異なる仮定表現（1）	＜語彙＞ ・接続法過去動詞活用 ・抽象名詞 ・事実と異なる仮定 ・願望表現
第13回	事実と異なる仮定表現（2）	＜表現練習＞ ・Ojalá ～願望表現 ・もし～なら
第14回	習得確認＆総括	習得確認 第10回～13回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１．各課の「文法」部分の復習。
　　文法は既習事項なので、授業には復習して臨むこと。
予習２．各課の「語彙」部分。
　　「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『Entre amigos 2 2a. edición』(総合スペイン語コース中級改訂版) スペイン語教材研究会編、朝日出版社

【参考書】
『スペイン語の接続法ドリル』菅原昭江著、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点　：３０％（授業内活動・課題・小テスト）
定期試験：７０％（定期試験）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

【その他の重要事項】
授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。
忘れないように。

総合講座Ⅰ

張　欣、芝田　幸一郎、ロバート　ストラウド、藤田　貢崇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「異文化コミニュケーション」に関する内容を取り上げる。一般に私たちは日本語を使って人々の間でコミュニケーションをとっているが、使用する言語が違えば文化的な側面も異なってくる。いくつかの文化圏を取り上げ、そのような文化と私たちがどのように関わりあうことができるかを探る。また、科学は特有の言語で伝えられることが多いが、私たちが科学を理解し、知識を共有する取り組みである「科学技術コミュニケーション」にも触れ、理解を深める。この授業は、芝田 幸一郎・ロバート ストラウド・張 欣・藤田 貢崇の 4 名がオムニバス形式で展開する。

【到達目標】
「異文化コミュニケーション」について、多様な分野の議論を知り、より深い考察ができるようになる。文化の違いを越え、それぞれの文化を尊重し、理解することができるようになる。

【授業の進め方と方法】
それぞれの回について、講義を主体に行う。講師によって、資料の与え方、参考図書の示し方が異なるので、それぞれの担当者の指示に従うこと。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（担当：藤田貢崇）	(1) 異文化コミュニケーションについて学ぶ必要性を知る　(2) 担当者別の授業スケジュールを提示する
2	ラテンアメリカでの生活（芝田）	ラテンアメリカと日本の生活はどのような点で異なるのか、担当教員のペルーでの生活経験や人類学者ホールの理論などを参照しながら理解する。
3	ラテンアメリカでの仕事（芝田）	ラテンアメリカでのフィールドワークをめぐる様々な問題事例とその解決策について考える。
4	空間・物とコミュニケーション（芝田）	古代ペルーの建築などを題材にして、空間・物とコミュニケーションの関係について考える。
5	English culture presentation skills（ストラウド）	Students will learn how to present themselves as influential people within an English speaking environment.
6	English workplace culture（ストラウド）	Students will learn how to become effective workers with an English-speaking company.
7	English debate/discussion culture（ストラウド）	Students will learn how to express their opinions and debate topics with English speakers within a western culture.
8	魯迅と日本	魯迅の日本留学時代を中心に
9	「カミング・マン」の世界	華人移民の歴史について
10	エイミ・タンと『ジョイ・ラック・クラブ』	華人文学について
11	科学技術と私たちの生活（担当：藤田貢崇）	科学技術が私たちの生活とどう関わっているかを理解する。
12	科学技術コミュニケーション（担当：藤田貢崇）	科学技術を誰もが理解するためにどのような施策があるのかを理解する。
13	科学技術の向かう方向（担当：藤田貢崇）	科学技術はどういう方向に進むべきなのか、私たちの意見をどのように反映させるべきかを考える。
14	まとめ（担当：藤田貢崇）	これまでの授業内容をまとめ、知識や理解の定着を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの担当者が資料や課題を用意するので、それぞれの指示に従うこと。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
それぞれの担当者から必要に応じて参考書等が示される。

【成績評価の方法と基準】
試験で 100%。試験は、各講師が作成する問題 4 題のうちから 2 題を選択して解答する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する可能性がある。

【その他の重要事項】
・上記に示されている授業計画のうち、担当者の順番については初回のオリエンテーションで提示する。
・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

総合講座Ⅱ

岡部　雅史、藤田　貢崇

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、物理学で扱う「もの」の本質について考え、基礎的な素粒子論を知ることと、生物学的映像記録の実験を通して、科学的なものの考え方や実験・観察の方法、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

【到達目標】
・「もの」とは何であるかを理論的に考え、いろいろなスケールでの「もの」の捉え方を説明できること。
・ネーチャーフォト撮影技法の初級編として技術を習得し、映像作品としてまとめることができること。

【授業の進め方と方法】
本授業は、前半は物理学に関する内容、後半は生物学的ネーチャーフォト撮影に関する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、岡部雅史が担当する。授業では基本的な素粒子理論について学び、後半は実際にデジカメを操作し、レポート・映像作品を作成する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「もの」とは何か	「もの」とはなにか、存在するとは何かを科学的に考える
2	「もの」を探求する歴史	「もの」の本質を探った古代ギリシャの哲学を学ぶ
3	「もの」を科学の目で捉える	近代科学でいう「実験」や「観測」の本質を学ぶ
4	「もの」の本質を探る	「もの」の本質である原子や分子について学ぶ
5	「もの」を分解する	原子内はどうなっているのかを学ぶ
6	「もの」の究極を知る	現代科学における「もの」の究極単位である素粒子について学ぶ
7	「もの」とはなんだったか	これまでのまとめを行い、「もの」とは何だったのかを考える
8	テーマ１：ネーチャーフォト概説	ネーチャーフォトのジャンル紹介
9	テーマ２：人間の撮影	ポートレート撮影技法の理解
10	テーマ３：空気の撮影	距離感・空気感をどのように撮影するか理解する
11	テーマ４：水の撮影	透明な物質の撮影法の理解
12	テーマ５：植物	生物の特性に合わせた撮影法の理解
13	テーマ６：昆虫	動く生物にフォーカスする技法の理解
14	テーマ７：多摩キャンパスの自然	作品の品評会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半 (第 8 回まで:藤田担当回) では、「もの」とは何かを理論的に探求する授業内容であるので、日頃から理論的にものごとを考えるようにしておく必要がある。
・後半 (第 9 回以降:岡部担当回) では、毎週課される課題に沿った写真を撮影し、翌週発表する。そのため、テーマに沿った撮影対象を探す努力が必要とされる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業での平常点（毎回の小課題提出を含む）の評価 (50%) ：毎回、授業時間内で回答できる小課題を提出すること。
・ネーチャーフォト撮影への取り組みと発表作品の評価 (50%) ：実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

【学生の意見等からの気づき】
・理論的な「もの」の捉え方だけでなく、実験も合わせて実施したことが前年度にも評価されたことから、今年度も実験を通じて理解を深められるような授業展開を行います。

【学生が準備すべき機器他】
・本授業では、各自、充電済みの貸与ノート PC・およびデジカメまたはカメラ付き携帯・かスマートフォンあるいはデジタル一眼レフを持参すること。前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。

キャリアデザイン論

加藤　寛之

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】
①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【授業の進め方と方法】
講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代１（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代２（斎藤）	自分をつかむ１可能性を拡げるために
3	職場で求められる力とは　１（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは　２（長谷川）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは　３（斎藤）	自分をつかむ２　関わり合いの中で
6	企業を知る１（坂本）	自分をつかむ　２　関わり合いの中で
7	企業を知る２（竹口）	企業情報を読み解く
8	企業を知る３（井上）	スポーツビジネスの実際について
9	職場社会で積極的に生きるために１（斎藤）	就活と採用を知る　新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために２（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために３（眞保）	ライフワークバランス，ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる１（図司）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる２（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる３（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則なし（ある場合は、適宜指示する。）

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験により評価する。（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】
資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】
毎回出席をとる。遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなす。

【受講上の注意】
1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

多摩地域形成論

図司　直也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第２回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・学風の形成と多摩キャンパスの歴史
第３回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第４回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第５回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第６回	多摩地域の近代史	自由民権運動と「絹の道」
第７回	多摩地域の現代史 (1)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第８回	多摩地域の現代史 (2)	多摩地域の住民運動の歴史
第９回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	これからの多摩地域の形成 (5)	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	まとめと今後に向けて	振り返りのワークショップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった」「地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。
○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

保健体育科目

スポーツ種目 A

市原　英

開講時期：**春学期**　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、5 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、5 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

スポーツ種目 B

市原　英

開講時期：**秋学期**　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する理論を学び、実践を通して各種技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①ラリーを継続するために必要な技術を習得する
②多様な技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、ゲームを数多く重ね、他者とのコミュニケーションや相互作用を体験的に学ぶことができるようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期授業の復習Ⅰ	身体づくりを行い、基礎技術の確認を行う。
第 2 回	春学期授業の復習Ⅱ・ミニゲーム	身体づくりを行い、基礎技術の確認を行う。授業後半ではミニゲームを行う。
第 3 回	攻撃の組み立て方法・ミニゲーム	コンビネーション攻撃の組み立て方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 4 回	ブロックシステム・ミニゲーム	ブロックのシステムについて学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 5 回	レシーブシステム・ミニゲーム	レシーブのシステムについて学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 6 回	レセプションアタック・ミニゲーム	サーブレシーブからの攻め方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 7 回	トランジションアタック・ミニゲーム	ブロック、アタックレシーブからの攻め方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 8 回	チーム編成・戦術ミーティング	チームを複数編成し、各チームの構成メンバーを決める。また、チームごとに、リーグ戦に向けてのミーティングを行う。
第 9 回	試合Ⅰ	リーグ戦第 1 ラウンドを行う。
第 10 回	試合Ⅱ	リーグ戦第 2 ラウンドを行う。
第 11 回	試合Ⅲ	リーグ戦第 3 ラウンドを行う。
第 12 回	ゲームメイク・ミーティング	ゲームメイクの方法について学ぶ。その後、各チームに分かれ、ファイナルラウンドに向けたミーティングを行う。
第 13 回	試合Ⅳ	セミファイナルラウンドを行う。
第 14 回	試合Ⅴ	ファイナルラウンドを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（80 %程度）、レポート課題（20 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定である。とりわけ、対戦相手・チームが偏ることのないよう配慮し、技術レベルに関係なく、受講者全員がバレーボールを楽しめる雰囲気づくりに努めたい。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

スポーツ種目 A

水野　浩幸

開講時期：**春学期**　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。履修人数によるが、多くの学生が履修すればフルコートの 11vs11 のゲームをリーグ戦形式で行う。

【到達目標】
①サッカーの基礎技術、戦術の習得
②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【授業の進め方と方法】
場所はピッチ状態の良いラグビー場（人工芝）またはホッケー場（人工芝）で行う。授業はゲームを中心に行い、ゲームを行う中で基礎的な技術や戦術を指導していく。サッカー経験の有無は問わない。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第 2 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第 4 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第 5 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム
第 6 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第 7 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第 8 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第 9 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3 人目の動き
第 10 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第 11 回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

スポーツ種目 B

水野　浩幸

開講時期：**秋学期**　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。履修人数によるが、多くの学生が履修すればフルコートの 11vs11 のゲームをリーグ戦形式で行う。

【到達目標】
①サッカーのポジションごとの役割を理解する
②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【授業の進め方と方法】
場所はピッチ状態の良いラグビー場（人工芝）またはホッケー場（人工芝）で行う。授業はゲームを中心に行い、ゲームを行う中で基礎的な技術や戦術を指導していく。サッカー経験の有無は問わない。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 2 回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第 4 回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第 5 回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第 6 回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第 7 回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第 8 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 9 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 10 回	チーム編成，チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第 11 回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

科目名索引

科目名	担当教員	ページ
あ		
アメリカ経済論 A・B	河村　哲二	59
イスラム社会論［2018年度以降入学者］	岡野内　正	140
異文化心理学	奥山　今日子	145
英語コミュニケーション上級 A・B	Richard Evanoff	196
英語コミュニケーション初級 A・B	アラン・バーグマン	191
	ステラ　山崎	192
	Kregg Johnston	193
	ロバート　ストラウド	190
英語コミュニケーション中級 A・B	Richard Evanoff	194
	ロバート　ストラウド	195
英語セミナー A・B	飯野　厚	41
	寺内　正典	42
	山崎　達朗	43
英語で学ぶ経済学入門 A・B	ジェス　ダイヤモンド	12
	森田　裕史	13
か		
会計学応用Ⅰ（財務会計）A・B	竹口　圭輔	110
会計学応用Ⅱ（管理会計）A・B	福島　一矩	111
会計学入門Ⅰ（財務会計）A・B	丸岡　恵梨子	71
会計学入門Ⅱ（原価計算）	福島　一矩	72
会計学入門 A・B	丸岡　恵梨子	71
開発経済入門 A・B	池上　宗信	54
開発経済論 A・B	池上　宗信	53
化学 A・B	山崎　友紀	186
科学史 A・B	河野　俊哉	188
環境科学 A・B	岡部　雅史	64
環境経済学Ⅰ・Ⅱ	島本　美保子	143
環境経済論 A・B	松波　淳也	35
環境自治体論	田中　充	141
環境政策論 A・B	西澤　栄一郎	101
環境法［2017年度以前入学者のみ開講］	井上　秀典	144
環境倫理［2017年度以前入学者のみ開講］	島田　昭仁	144
監査論 A・B	岸　牧人	114
管理会計 A・B	福島　一矩	111
企業金融論 A・B	胥　鵬	90
企業経営史 A・B	飯塚　陽介	116
企業経営入門	永岡　文庸	22
企業経営入門 A・B	永岡　文庸	22
企業経営論 A・B	永岡　文庸	118
企業経済論 A・B	砂田　充	104
企業実務研究 A・B	武田　浩一	74
企業と経済・応用 A・B	檜野　智子	23
企業と経済・基礎	河村　真	17
	砂田　充	17
企業と経済・基礎 A	河村　真	17
企業と経済・基礎 B	砂田　充	17

科目名	担当教員	ページ
キャリアデザイン論	加藤　寛之	206
教育学	藤本　典裕	150
居住福祉論	大原　一興	152
金融各論Ⅰ A・B	高橋　秀朋	81
金融各論Ⅱ A・B	武田　浩一	88
金融システム論	田口　博雄	142
金融ビジネス論 A・B	武田　浩一	89
金融論 A・B	高橋　秀朋	32
	武田　浩一	31
経営学	砂田　充	126
経営学 A・B	砂田　充	126
経済学史 A・B	平瀬　友樹	55
経済学入門 A・B	小林　克也	2
	酒井　正	2
	菅原　琢磨	2
経済学入門 A・B（補講）	菅原　琢磨	3
経済史	攝津　斉彦	7
	長原　豊	8
経済史 A・B	攝津　斉彦	7
	長原　豊	8
経済人類学 A・B	山本　真鳥	40
経済政策論 A・B	濱秋　純哉	50
経済政策論 A・B（市ヶ谷開講）	濱秋　純哉	131
経済地理	近藤　章夫	70
経済地理 A・B	近藤　章夫	56
経済データ分析 A・B	明城　聡	69
経済統計論 A・B	菅　幹雄	83
経済の数理 A・B	佐柄　信純	57
経済法	山浦　康明	124
経済法 A・B	山浦　康明	124
芸術	坂口　周輔	158
計量経済学 A・B	宮﨑　憲治	92
原価計算 A・B	福島　一矩	72
言語学 A・B	寺内　正典	164
現代アジア経済論 A・B	馬場　敏幸	61
現代経済学応用 A・B	島澤　諭	75
現代経済学基礎 A・B	竹田　茂夫	6
現代経済学入門	竹田　茂夫	6
現代史 A・B	愼　蒼宇	166
現代社会と宗教 A	永井　美紀子	165
現代社会と情報 A	坂本　憲昭	95
現代社会と情報 B	菅　幹雄	95
現代ファイナンス入門 A・B	湯前　祥二	66
公共経済論 A・B	篠原　隆介	51
コーポレートガバナンス論 A・B	胥　鵬	73
国際会計制度 A・B	丸岡　恵梨子	117
国際関係論 A・B	冨永　靖敬	39
国際協力論［2018年度以降入学者］	岡野内　正	141
国際金融論 A・B	ブー・トウン・カイ	91

科目名	担当教員	ページ
国際経済論 A・B	水田　岳志	33
	ブー・トウン・カイ	34
国際経済論 A･B（市ヶ谷開講）	坪田　建明	132
国際支援論	佐野　竜平	147
国際社会論	吉村　真子	182
国際政治論	曹　海石	82
国際ビジネス論 A・B	山本　功	65
国際貿易論 A・B	近藤　恵介	103
コミュニティアート	吉野　裕之	150
コンピューター科学 A・B	小沢　和浩	94
コンピューター入門	シラバスを参照	10
コンピューター入門 A・B	シラバスを参照	10
コンピュータ科学（ネットワークを中心に） A･B	小沢　和浩	94
コンピュータによるデータ解析 A･B	宮脇　典彦	58

さ

災害支援論	大島　隆代	155
財政学 A・B	小林　克也	29
	廣川　みどり	30
財政学 A・B（市ヶ谷開講）	島澤　諭	130
財務諸表論 A・B	竹口　圭輔	110
産業社会学 I ・ II	上林　千恵子	136
産業集積論	近藤　章夫	70
産業組織論 A・B	河村　真	87
資格をめざすフランス語 A･B	小室　廉太	200
時事英語セミナー A・B	中谷　安男	97
自然科学特講	岡部　雅史	189
	藤田　貢崇	189
社会学 A・B	高橋　徹	180
社会学特講	左古　輝人	153
社会計画論 I･II［2017年度以前入学者のみ開講］	湯浅　陽一	139
社会経済学応用 A・B	原　伸子	24
社会経済学基礎	大友　敏明	4
	佐藤　良一	5
社会経済学基礎 A・B	大友　敏明	4
	佐藤　良一	5
社会経済思想史 A・B	後藤　浩子	77
社会政策論 A・B	菅原　琢磨	79
社会ネットワーク論 I ・ II	宇野　斉	138
社会保障法 I ・ II	長沼　建一郎	137
社会保障論 A・B	小黒　一正	80
商法一部	笹久保　徹	122
商法一部 A・B	笹久保　徹	122
情報経済論 A・B	鈴木　豊	84
商法二部	笹久保　徹	123
商法二部 A・B	笹久保　徹	123
心理学 A・B	松野　響	181
数学 A・B	佐柄　信純	183
数理統計学 A・B	宮脇　典彦	93
スペイン語コミュニケーション I A･B	マリア・ドローレス	203

科目名	担当教員	ページ
スペイン語コミュニケーションII A･B	時任　まり子	204
スペイン語コミュニケーション初級 A･B	マリア・ドローレス	203
スペイン語コミュニケーション中級 A･B	時任　まり子	204
スペイン語セミナー A・B	芝田　幸一郎	48
スポーツ経済論	杉本　龍勇	102
スポーツ種目 A・B	市原　英	208
	水野　浩幸	209
政策評価論	牧瀬　稔	155
政治学 A・B	冨永　靖敬	172
政治過程論	岡﨑　加奈子	82
生物学 A・B	岡部　雅史	187
西洋経済史 A	工藤　裕子	85
西洋経済史 B	進藤　理香子	85
世界経済史 A	工藤　裕子	85
世界経済史 B	進藤　理香子	85
世界史 A・B	太田　啓子	177
世界史 A・B（教職）	鈴木　茂	178
世界の経済	馬場　敏幸	14
世界の文学 A・B	石　碩	159
世界の文化と思想 A・B	橋本　到	63
総合講座 I	芝田　幸一郎	205
	張　欣	205
	藤田　貢崇	205
	ロバート　ストラウド	205
総合講座 II	岡部　雅史	205
	藤田　貢崇	205
ソーシャルイノベーション論	土肥　将敦	151
ソーシャルファイナンス論	雨宮　寛	154
ソーシャルマネジメント論	樋口　邦史	153

た

多摩地域形成論	図司　直也	206
地域遺産マネジメント論	須田　英一	145
地域経営論	松本　昭	147
地域経済論 A・B	川邊　安彦	108
地域研究（中国）	大﨑　雄二	140
地域ツーリズム	南　賢二	148
地域文化政策論	須田　英一	149
地学 A・B	原　芳生	185
地球環境論 A・B	山﨑　友紀	100
地方財政論 A・B	小林　克也	86
中国経済論 A・B	菊池　道樹	62
中国語コミュニケーション I A･B	将邑　剣平	201
中国語コミュニケーション II A･B	張　欣	202
中国語コミュニケーション初級 A･B	将邑　剣平	201
中国語コミュニケーション中級 A･B	張　欣	202
中国語セミナー A・B	経済学部教員	47
地理学 A・B	宋　苑瑞	173
データ解析入門 A・B	宮脇　典彦	58
データで知る世界経済 A・B	馬場　敏幸	14

科目名	担当教員	ページ
哲学 A・B	栗原　史郎	168
	長谷川　悦宏	167
哲学 A・B（教職）	齋藤　範	169
ドイツ語コミュニケーション ⅠA・B	針貝　真理子	197
ドイツ語コミュニケーション ⅡA・B	北岡　幸代	198
ドイツ語コミュニケーション初級 A・B	針貝　真理子	197
ドイツ語コミュニケーション中級 A・B	北岡　幸代	198
ドイツ語セミナー A・B	新田　誠吾	44
統計学	菅　幹雄	9
	宮脇　典彦	9
統計学 A	菅　幹雄	9
統計学 B	宮脇　典彦	9
特別講義（Basic Economics A･B）	ジョン　カレンガ	129
特別講義（寄付講座　証券市場論）	大和証券株式会社	128
特別講義（グローバル資本主義論Ⅰ）	マーサ　チャイクリン	127
特別講義（グローバル資本主義論Ⅱ）	マーサ　チャイクリン	127
特別講義（グローバル資本主義論Ⅲ）	マーサ　チャイクリン	128
都市住宅政策論	水野　雅男	149

な

日本経済史 A・B	長原　豊	76
日本経済論 A・B	小黒　一正	36
	牧野　文夫	37
日本国憲法	榎 透	119
日本国憲法 A・B	榎 透	119
日本史 A・B	菅原　正子	175
日本史 A・B（教職）	岩橋　清美	176
日本思想史	菅原　正子	98
日本人の心理特性と文化	長山　恵一	154
日本文学	浜崎　洋介	158
日本文化史	菅原　正子	98
日本文化論	浜崎　洋介	99
人間とスポーツ	杉本　龍勇	102
農業経済論 A・B	西澤　栄一郎	78

は

比較経済システム論 A・B	マーサ　チャイクリン	96
ビジネス英語初級 A・B	グレン・ファーン	68
	スティーブン　ハリス	67
ビジネス英語中級 A	ジュリア・ヨング	113
ビジネス英語中級 B	ロバート　デレザ	112
ビジネス数学入門 A・B	廣川　みどり	11
ビジネスプログラミング入門 A・B	金子　聡	38
	坂本　憲昭	38
	高橋　朋一	38
	横川　壽彦	38
福祉国家論	畠中　亨	146
福祉の思想と歴史	白川　耕一	148
物理学 A・B	藤田　貢崇	184
フランス語コミュニケーション A・B	余語　毅憲	199
フランス語コミュニケーション初級 A・B	余語　毅憲	199
フランス語コミュニケーション中級 A・B	小室　廉太	200
フランス語セミナー A・B	橋本　到	45
文化環境創造論	須田　英一	146
文化人類学 A・B	山本　真鳥	174
文章表現 A・B	浜崎　洋介	163
ヘルスプロモーション	熊坂　隆行	156
法学 A・B	菅　富美枝	179
簿記Ⅰ A・B	岸　牧人	19
	福島　一矩	20
	丸岡　恵梨子	18
簿記Ⅰ A	田中　優希	21
簿記Ⅰ B	積　惟美	21
簿記Ⅱ A・B	岸　牧人	109
簿記入門	岸　牧人	19
	積　惟美	21
	田中　優希	21
	福島　一矩	20
	丸岡　恵梨子	18
ホスピタリティ論	野口　洋平	156

ま

マクロ経済学 A・B	檜野　智子	25
	森田　裕史	26
ミクロ経済学 A・B	篠原　隆介	27
	細矢　祐誉	28
民俗学 A・B	西村　敏也	171
民法一部	権　敬殷	120
民法一部 A・B	権　敬殷	120
民法二部	権　敬殷	121
民法二部 A・B	権　敬殷	121
メディアの歴史	小林　直毅	142

や

ヨーロッパ経済論 A・B	進藤　理香子	60

ら

リスク・マネジメント A・B	湯前　祥二	115
倫理学 A・B	齋藤　範	161
	松本　力	160
倫理学 A・B（教職）	齋藤　範	162
労働経済論 A・B	酒井　正	49
労働法	藤本　茂	125
労働法 A・B	藤本　茂	125
老年学	新名　正弥	152
ロシア語セミナー A・B	佐藤　裕子	46
論理学 A・B	関塚　正嗣	170

科目名	担当教員	ページ
A		
Academic Research Seminar A・B	飯野　厚	41
	寺内　正典	42
	山崎　達朗	43
Area Studies A・B	マーサ　チャイクリン	107
B		
Business Communication ⅠA・B	グレン・ファーン	68
	スティーブン　ハリス	67
Business Communication Ⅱ A	ジュリア・ヨング	112
Business Communication Ⅱ A・B	グレン・ファーン	113
Business Communication Ⅱ B	ロバート　デレザ	112
Business Research Seminar A・B	中谷　安男	97
D		
DemographyA・B	菅　幹雄	52
E		
English Communication I A・B	アラン・バーグマン	191
	ステラ　山崎	192
	Kregg Johnston	193
	ロバート　ストラウド	190
English Communication II A・B	Richard Evanoff	194
	ロバート　ストラウド	195
English Communication III A・B	Richard Evanoff	196
I		
International Economics A・B	倪　彬	106
J		
Japan and the Global Economy A・B	倪　彬	15
N		
NPO 論	松元　一明	151
P		
Practical Economics A・B	ジェス　ダイヤモンド	16
Principles of Economics A・B	ジェス　ダイヤモンド	105

MEMO

2018年度

経済学部

履修要綱
講義ガイド【シラバス】

2018年4月発行

発行者：法政大学経済学部教授会
印　刷：株式会社　エイチ・ユー

この冊子はソイインクを使用しています


法政大学
HOSEI University